令和元年度

# 建設工事積算基準

令和元年１０月１日以降適用

島根県農林水産部
島 根 県 土 木 部

## 適用範囲

本建設工事積算基準は、島根県農林水産部・土木部が発注する建設工事（建築工事は除く）における工事費の積算に適用する。

## 使用にあたっての注意事項

この建設工事積算基準では、下表のとおり工事区分毎に適用する編を定めていますので、使用にあたっては注意してください。

| 工事区分 | 適用する編 |
|---|---|
| 下記以外の建設工事 | 第 Ⅰ編　総則　～　第Ⅵ編　土木工事標準単価及び市場単価 |
| 電気通信設備工事 | 第 Ⅶ編　電気通信（積算）<br>第 Ⅷ編　電気通信（歩掛） |
| 土木機械設備の製作据付工事 | 第 Ⅸ編　機械設備 |
| 下水道工事 | 第 10 編　下水道 |
| 港湾及び港湾海岸工事<br>漁港漁場及び漁港海岸工事 | 第 11 編　港湾・漁港漁場整備 |
| 空港土木工事 | 第 12 編　空港 |
| 農業農村整備事業の建設工事 | 第 13 編　農業農村整備 |
| 森林整備工事 | 第 14 編　森林整備 |
| 全工事共通 | 第 15 編　単価 |

令和元年度建設工事積算基準

# 建設工事積算基準の見方･留意点について

## 1. 建設工事積算基準の主な見方･留意点

建設工事積算基準では、工種ごとに、「適用範囲」、「施工概要」、「施工パッケージ」、「施工歩掛」等で構成され、「施工パッケージ」を用いる場合と、「歩掛」を用いる場合を混在して掲載してある。

本資料では基準書の代表的な項目についての見方・留意点を記載する。

### （1）適用範囲

各工種において本基準書を適用出来る施工条件、構造物の形式、規格等の範囲を箇条書きで、「適用出来る範囲」、「出来ない範囲」別に掲載してあるので十分確認すること。

なお、工種によっては「適用出来る範囲」のみ掲載してある。

### （2）施工概要

各工種における標準施工フロー及び基準書の対応範囲が二重実線又は実線で表示してある。

基準書が対応している範囲をフロー図及び注意書きで十分確認すること。

### （3）条件区分

施工パッケージの場合は、積算の簡素化を目的として、積上積算方式における「実数入力」条件を過去の実績により区分設定をし、積算条件区分一覧として掲載してある。(施工パッケージ以外についてはそれぞれの項目で個別に記載)

なお、注意書きの内容には、「これにより難い場合は、別途考慮する」、「○○により別途計上する」等基準に含まれる範囲、含まれない範囲が記載してあるので十分確認すること。

### （4）代表機労材規格(施工パッケージの場合)

基準書に記載してある代表機労材規格一覧は標準単価に含まれる代表的なものを掲載している。なお、一覧に掲載されていなくても施工パッケージ型積算方式標準単価表においては、当該パッケージを構成する機労材の規格を掲載している。同表は国土技術政策総合研究所　社会資本システム研究室ＨＰで公表している。（「国総研　施工パッケージ」で検索して下さい）

### （5）各項目共通事項(上記以外の基準書掲載項目も含む)

①積算にあたっては、基準書の適用範囲と施工条件、構造物の形式、規格等が現場条件に整合しているか十分確認し、整合しない場合は見積り等により現場条件にあった積算とすること。

②基準書が対応している範囲に施工内容が含まれるか否か等十分確認し、必要な作業を計上すること。

③注意書き等に「これにより難い場合は、別途“考慮”する」と記載してある場合は、各工事の現場状況等に応じ計上の要否について判断する。計上の必要がある場合、当該施工パッケージや歩掛は適用せず、別途、見積り等により現場条件に整合した積算を行うこと。

④注意書き等に「○○により別途“計上”する」と掲載してある場合は当該施工パッケージや歩掛に加えて他工種の対応する歩掛等により計上すること。

## 2. その他留意事項

（1）現場において基準書に記載してある条件での施工が困難な場合は、基準書の適用が適切かどうか再度、現地条件等をよく確認すること。

（2）材料や機材が搬入・搬出可能か確認すること。

（3）施工にあたって障害物や夜間施工がないか確認すること。

（4）積算条件は設計図書（数量総括表等)、参考資料等において適宜条件明示を行うこと。

（5）特に着目すべき点について、次項以降に下線及び文字囲いを追記した事例を参考として掲載するので適宜確認すること。

事例１（施工パッケージ）

㉔－１ 函渠工 （1）

適用出来る範囲、出来ない範囲別に記載。

構造が異なる場合、施工効率が変わるため、当該施工パッケージは使用出来ない。

1．適 用 範 囲

本資料は，函渠工（現場打カルバート工）の施工に適用する。

１－１ 適用出来る範囲

１－１－１ 函渠工(以下のいずれかの条件に該当する場合)

（1）土被り範囲 9m 以下で 1 層の現場打ちボックスカルバート(アーチ・門型等形状は問わない)

（2）土被り範囲 9m 以下で 1 層 2 連の現場打ちボックスカルバート

（3）コンクリート打設機械からの圧送管延長距離が 340m 以下の場合

１－２ 適用出来ない範囲

（1）河川工事で施工する樋門・樋管，水路等

（2）アーチ型の場合で，支保にセントルを使用する場合

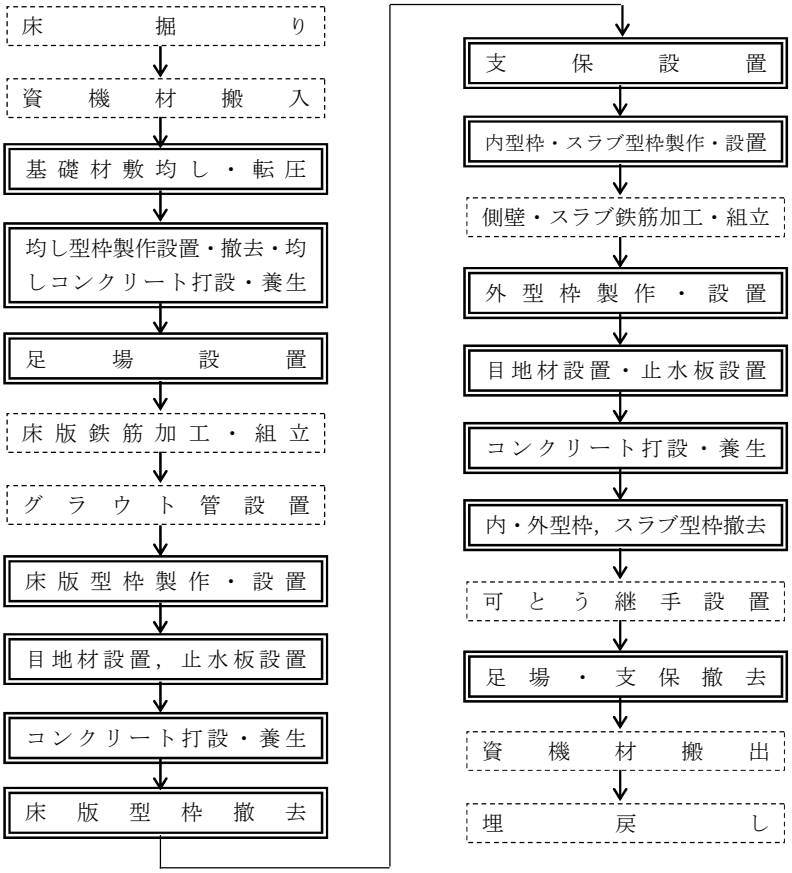
また，本項の適用を外れる現場打カルバート工については，函渠工（２）を適用する。

2．施 工 概 要

適用出来る範囲における、標準的な流れを示している。

２－１ 施工フロー

施工フローは，下記を標準とする。




（注）１．本施工パッケージで対応しているのは，二重実線部分のみである。

２．基礎材敷均し・転圧，均し型枠製作設置・撤去・均しコンクリート打設・養生，目地材設置，止水板設置は，必要に応じて計上する。

基準書が対応している範囲をフロー図及び注意書きより十分確認すること。

## 3. 施工パッケージ

### 3－1 函渠

（1）条件区分

条件区分は，次表を標準とする。

施工パッケージの積算条件区分と施工内容、積算単位が適合するか十分確認する。

表3．1 函渠 積算条件区分一覧

（積算単位：m3）

| ｺﾝｸﾘｰﾄ規格 | 内空寸法(幅×高さ)m | 養生工の種類 | 基礎砕石の有無 | 均しｺﾝｸﾘｰﾄの有無 | 目地・止水板の有無 | 圧送管延長距離区分 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| (表3．2) | (表3．3) | 一般養生・特殊養生(練炭・ｼﾞｪｯﾄ) | 有り | 有り | 有り | 延長無し |
| | | | | | | 110m 未満 |
| | | | | | | 110m 以上 220m 未満 |
| | | | | | | 220m 以上 340m 以下 |
| | | | | | 無し | 延長無し |
| | | | | | | 110m 未満 |
| | | | | | | 110m 以上 220m 未満 |
| | | | | | | 220m 以上 340m 以下 |
| | | | | 無し | 有り | 延長無し |
| | | | | | | 110m 未満 |
| | | | | | | 110m 以上 220m 未満 |
| | | | | | | 220m 以上 340m 以下 |
| | | | | | 無し | 延長無し |
| | | | | | | 110m 未満 |
| | | | | | | 110m 以上 220m 未満 |
| | | | | | | 220m 以上 340m 以下 |
| | | | 無し | 有り | 有り | 延長無し |
| | | | | | | 110m 未満 |
| | | | | | | 110m 以上 220m 未満 |
| | | | | | | 220m 以上 340m 以下 |
| | | | | | 無し | 延長無し |
| | | | | | | 110m 未満 |
| | | | | | | 110m 以上 220m 未満 |
| | | | | | | 220m 以上 340m 以下 |
| | | | | 無し | 有り | 延長無し |
| | | | | | | 110m 未満 |
| | | | | | | 110m 以上 220m 未満 |
| | | | | | | 220m 以上 340m 以下 |
| | | | | | 無し | 延長無し |
| | | | | | | 110m 未満 |
| | | | | | | 110m 以上 220m 未満 |
| | | | | | | 220m 以上 340m 以下 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| (表3．2) | (表3．3) | 特別な養生(仮囲い内ｼﾞｪｯﾄﾋｰﾀ) | 有り | 有り | 有り | 延長無し |
| | | | | | | 110m 未満 |
| | | | | | | 110m 以上 220m 未満 |
| | | | | | | 220m 以上 340m 以下 |
| | | | | | 無し | 延長無し |
| | | | | | | 110m 未満 |
| | | | | | | 110m 以上 220m 未満 |
| | | | | | | 220m 以上 340m 以下 |
| | | | | 無し | 有り | 延長無し |
| | | | | | | 110m 未満 |
| | | | | | | 110m 以上 220m 未満 |
| | | | | | | 220m 以上 340m 以下 |
| | | | | | 無し | 延長無し |
| | | | | | | 110m 未満 |
| | | | | | | 110m 以上 220m 未満 |
| | | | | | | 220m 以上 340m 以下 |
| | | | 無し | 有り | 有り | 延長無し |
| | | | | | | 110m 未満 |
| | | | | | | 110m 以上 220m 未満 |
| | | | | | | 220m 以上 340m 以下 |
| | | | | | 無し | 延長無し |
| | | | | | | 110m 未満 |
| | | | | | | 110m 以上 220m 未満 |
| | | | | | | 220m 以上 340m 以下 |
| | | | | | 有り | 延長無し |
| | | | | | | 110m 未満 |
| | | | | | | 110m 以上 220m 未満 |
| | | | | | | 220m 以上 340m 以下 |

**基準書が対応している範囲に施工内容が含まれるか否か等十分確認し、必要な作業を計上すること。**

**注意書き等に「これにより難い場合は，別途“考慮”する」と記載してある場合は、各工事の現場状況等に応じ計上の要否について判断する。計上の必要がある場合、当該施工パッケージや歩掛は適用せず、別途、見積り等により現場条件に整合した積算を行うこと。**

（注）１．上表は，現場打函渠(ボックスカルバートの１層２連まで，土被りが９m以下)の 打設，基礎砕石，手摺先行型枠組足場，支保，型枠（はく離剤塗布及びケレン作業含む），養生( 特殊養生(練炭)，特殊養生(ｼﾞｪｯﾄﾋｰﾀ)，仮囲い内ｼﾞｪｯﾄﾋｰﾀ養生)，圧送管の組立・撤去，目地材， その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。ただし，化粧型枠，冬期の施 寒仮囲い等の特別な足場は含まない。

２．設計数量は，ウイング，段落ち防止用枕を含む本体コンクリートの数量とする。

３．基礎形式は，直接基礎・杭基礎のいずれも適用出来る。

４．コンクリートの材料ロスを含む。（標準ロス率は，＋0.02）

５．「特別な養生(仮囲い内ｼﾞｪｯﾄﾋｰﾀ)」の場合には「手摺先行型枠組足場」費用は含んでいない。「Ⅱ編第５章仮設工⑮－２雪寒仮囲い工」により別途計上する。

６．基礎砕石の敷均し厚は，20 ㎝ 以下を標準としており，これにより難い場合は別途考慮する。

７．化粧型枠を使用する場合は，加算費用を，「第Ⅱ編第４章コンクリート工②－１型枠工３－２化粧型枠」により別途計上する。

８．基礎砕石，均しｺﾝｸﾘｰﾄ，目地・止水板の材料は，種類・規格にかかわらず適用出来る。ただし，目地・止水板についてはⅠ型を標準としており，Ⅰ型以外の形状の目地・止水板を使用する場合は，別途計上する。

９．可とう継手，取替式止水板及びグラウト管等を施工する場合は，別途計上する。

10．防水工・防水層保護工を施工する場合は，「第Ⅳ編第４章共同溝工①－２共同溝工(２)」により別途計上する。

11．手摺先行型枠組足場には，二段手摺及び幅木の機能を有している。

**注意書き等に「○○により別途“計上”する」と掲載してある場合は当該施工パッケージや歩掛に加えて他工種の対応する歩掛等により計上すること。**

12. 手摺先行型枠組足場には，二段手摺及び幅木の機能を有している。
13. 作業範囲(30m)を超えて圧送管を延長する場合は，超えた部分の延長距離を 110m 未満，110m 以上 220m 未満，220m 以上 340m 以下から該当する区分を選択する。

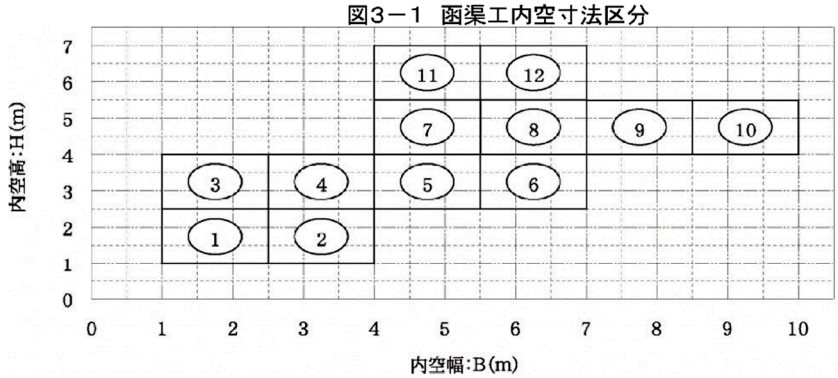
**表3．2 コンクリート規格**

| 積算条件 | 区分 | |
|---|---|---|
| コンクリート規格 | 21-8-25(20)(普通) | 24-12-25(20)(高炉) |
| | 21-12-25(20)(普通) | 21-8-40(高炉) |
| | 24-8-25(20)(普通) | 21-12-40(高炉) |
| | 24-12-25(20)(普通) | 24-8-40(高炉) |
| | 21-8-40(普通) | 24-12-40(高炉) |
| | 21-12-40(普通) | 21-8-25(早強) |
| | 24-8-40(普通) | 21-12-25(早強) |
| | 24-12-40(普通) | 24-8-25(早強) |
| | 21-8-25(20)(高炉) | 24-12-25(早強) |
| | 21-12-25(20)(高炉) | 各種 |
| | 24-8-25(20)(高炉) | |

**表3．3 内空寸法**

| 積算条件 | 区分 | |
|---|---|---|
| 内空寸法<br>(幅×高さ)<br>右記区分に該当しているか十分確認すること。 | ① | 幅：1.0以上2.5未満かつ高さ：1.0以上2.5未満 |
| | ② | 幅：2.5以上4.0以下かつ高さ：1.0以上2.5未満 |
| | ③ | 幅：1.0以上2.5未満かつ高さ：2.5以上4.0以下 |
| | ④ | 幅：2.5以上4.0未満かつ高さ：2.5以上4.0以下 |
| | ⑤ | 幅：4.0以上5.5未満かつ高さ：2.5以上4.0未満 |
| | ⑥ | 幅：5.5以上7.0以下かつ高さ：2.5以上4.0未満 |
| | ⑦ | 幅：4.0以上5.5未満かつ高さ：4.0以上5.5未満 |
| | ⑧ | 幅：5.5以上7.0未満かつ高さ：4.0以上5.5未満 |
| | ⑨ | 幅：7.0以上8.5未満かつ高さ：4.0以上5.5以下 |
| | ⑩ | 幅：8.5以上10.0以下かつ高さ：4.0以上5.5以下 |
| | ⑪ | 幅：4.0以上5.5未満かつ高さ：5.5以上7.0以下 |
| | ⑫ | 幅：5.5以上7.0以下かつ高さ：5.5以上7.0以下 |

**図3－1 函渠工内空寸法区分**




1層2連の場合の考え方は，下表のとおりである。

**表3．4 1層2連の場合**

| | 適用する積算条件区分 |
|---|---|
| 同一断面の場合 | 1連分のB，Hで決定 |
| 異形断面の場合 | 大きい断面のB，Hで決定 |

（２）代表機労材規格

下表機労材は，当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

**表3．５ 函渠 代表機労材規格一覧**

| 項目 | | 代表機労材規格 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 機械 | Ｋ１ | コンクリートポンプ車［トラック架装・ブーム式］<br>圧送能力 90～110m3/h | |
| | Ｋ２ | ジェットヒータ 126MJ/h（30,100kcal/h） | ・仮囲い内ジェットヒータの場合<br>・賃料 |
| | Ｋ３ | 発動発電機［ディーゼルエンジン駆動］<br>定格容量（50/60Hz） 2.7/3kVA | 仮囲い内ジェットヒータの場合 |
| 労務 | Ｒ１ | 型わく工 | |
| | Ｒ２ | 普通作業員 | |
| | Ｒ３ | 土木一般世話役 | |
| | Ｒ４ | とび工 | |
| 材料 | Ｚ１ | 生コンクリート 高炉 24－8－25(20) W/C 55% | |
| | Ｚ２ | 軽油 1.2号 パトロール給油 | |
| | Ｚ３ | 灯油 白灯油 業務用 ミニローリー | 仮囲い内ジェットヒータの場合 |
| | Ｚ４ | － | |
| 市場単価 | Ｓ | － | |

３－２ 鉄筋工

鉄筋工は，「第Ⅵ編第２章市場単価①鉄筋工」により別途計上する。

**ここに記載がなくても適用範囲、積算条件区分等適用条件を満たし、かつ「施工パッケージ型積算方式標準単価表」に記載している機種で現場施工が可能な場合は適用可能。**

事例２（施工パッケージ以外）

## ①－４ コンクリート法枠工

### 1．プレキャスト法枠工

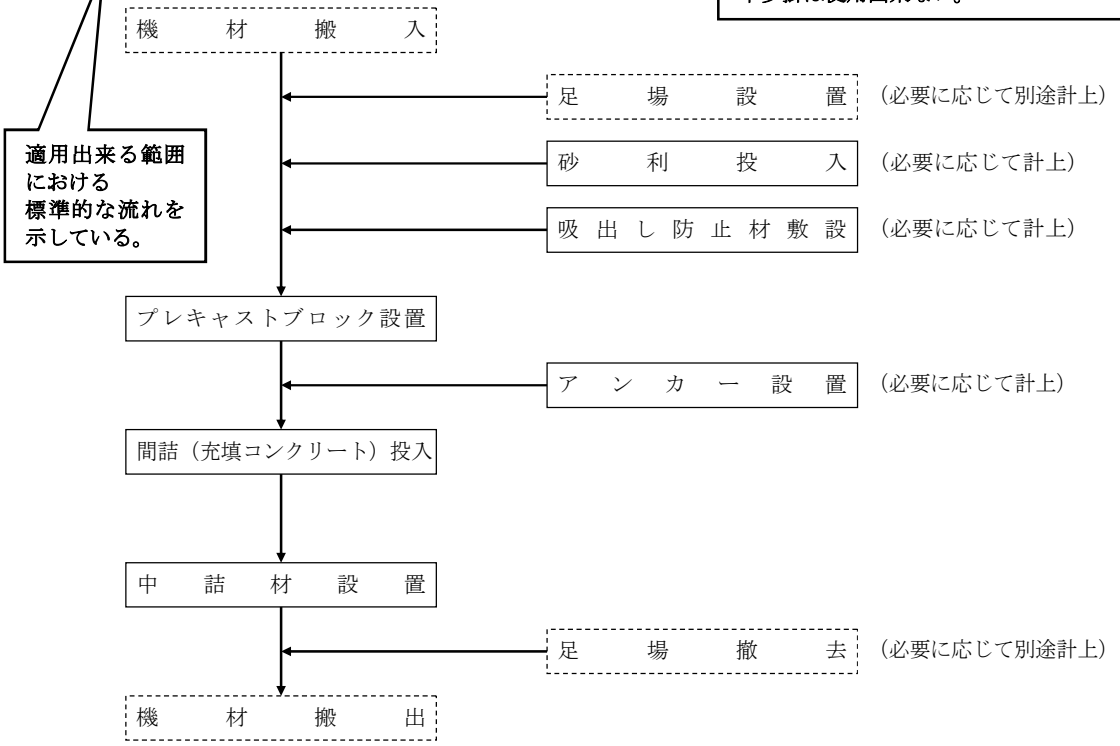
**1－1 適 用 範 囲**

本資料は，プレキャストブロック（質量1,400kg未満／個）による法枠工に適用する。

**質量等が異なる場合、施工効率が変わるため、本歩掛は使用出来ない。**

**1－2 施 工 概 要**

施工フローは，下記を標準とする。




**適用出来る範囲における標準的な流れを示している。**

（注） 本歩掛で対応しているのは，実線部分のみである。

**図1．1 施工フロー**

**基準書が対応している範囲をフロー図及び注意書きより十分確認すること。**

**1－3 機 種 の 選 定**

機械・規格は，次表を標準とする。

**表1．1 機種の選定**

| 作業種別 | 機械名 | 規格 | 単位 | 数量 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| プレキャストブロック設置<br>中詰材設置 | ラフテレーンクレーン | 油圧伸縮ジブ型・<br>排出ガス対策型(第1次基準値)<br>25t吊 | 台 | 1 | |
| 中詰材設置 | バックホウ<br>（クローラ型） | 標準型・<br>排出ガス対策型(第1次基準値)<br>山積0.8m³（平積0.6m³） | 〃 | 1 | |

（注）１．ラフテレーンクレーンは，賃料とする。
２．現場条件により上表により難い場合は，別途考慮する。

**機種の選定の（注）も十分確認すること。**

**この機械規格での施工が困難でないか、現場条件を十分確認すること。**

## 7. 片持架設工

### 7－1　作業車据付・解体工

作業車据付・解体歩掛は，次表を標準とする。

**表7．1　作業車据付･解体歩掛**　（1台1回当り）

| 名　称 | 単　位 | 数　量 |
|---|---|---|
| 橋りょう世話役 | 人 | 9.1 |
| 橋りょう特殊工 | 〃 | 61.7 |
| 普通作業員 | 〃 | 51.3 |
| ラフテレーンクレーン運転 | 日 | 13.2 |
| 諸雑費率 | % | 35 |

（注）1．上記労務及びラフテレーンクレーン歩掛は，据付け及び解体の合計であり，構成は据付け60%，解体40%である。

2．上記歩掛に付属設備等の据付・解体作業は含まれる。

3．作業車据付・解体所要日数は，17 日を標準とする。

4．２台同時据付を標準とする。

5．ラフテレーンクレーンは賃料とし，ラフテレーンクレーン規格は，油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第１次基準値）45 ｔ吊を標準とする。ただし，これにより難い場合は，現場条件に適した規格のラフテレーンクレーンを選定することが出来る。

6．諸雑費は，作業車付属設備（屋根材料費，床材料費，防護設備費，足場材料費）等の費用であり，労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

**吊り荷重の規格が違う場合でも標準歩掛は使用可能。また、現地条件によりラフテレーンクレーンが使用できない場合、違う規格のラフテレーンクレーンでも当該歩掛が使用可能という意味。**

### 7－2　作業車移動・据付工

作業車の移動・据付歩掛は，次表を標準とする。

**表7．2　作業車移動･据付歩掛**　（1台1回当り）

| 名　称 | 単　位 | 数　量 |
|---|---|---|
| 橋りょう世話役 | 人 | 0.5 |
| 橋りょう特殊工 | 〃 | 1.2 |
| 普通作業員 | 〃 | 1.5 |
| 諸雑費率 | % | 33 |

（注）　諸雑費は，木材，ＰＣ鋼棒，定着具等の費用であり，労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

### 7－3　作業車クライミング工

作業車クライミング工とは，作業車の下部構造を引上げる作業で，歩掛は次表を標準とする。

**表7．3　作業車クライミング工歩掛**　（1台1回当り）

| 名　称 | 単　位 | 数　量 |
|---|---|---|
| 橋りょう世話役 | 人 | 1.0 |
| 橋りょう特殊工 | 〃 | 5.5 |
| 普通作業員 | 〃 | 7.0 |

### 7－4　作業車引戻工

作業車引戻工は，作業車を解体位置まで引き戻す作業で，歩掛は次表を標準とする。

**表7．4　作業車引戻工歩掛**　（10m当り）

| 名　称 | 単　位 | 数　量 |
|---|---|---|
| 橋りょう世話役 | 人 | 0.5 |
| 橋りょう特殊工 | 〃 | 1.1 |
| 普通作業員 | 〃 | 1.1 |

# 建設工事積算基準体系


第Ⅰ編　総則

- 第１章　総則
- 第２章　工事費の積算
- 第３章　一般管理費等及び消費税等相当額
- 第４章　随意契約方式により工事を発注する場合の間接工事費等の調整について
- 第５章　数値基準等
- 第６章　建設機械運転労務等
- 第７章　土木請負工事の特許使用料の積算
- 第８章　時間的制約を受ける公共土木工事の積算
- 第９章　土木請負工事における現場環境改善費の積算
- 第１０章　工事の一時中止に伴う増加費用等の積算
- 第１１章　施工箇所が点在する工事の積算
- 第１２章　１日未満で完了する作業の積算
- 第１３章　設計変更
- 第１４章　その他
- 第１５章　請負工事機械経費積算要領
- 第１６章　積算上の統一事項等

第Ⅱ編　共通工

- 第１章　土工
- 第２章　共通工
- 第３章　基礎工
- 第４章　コンクリート工
- 第５章　仮設工

第Ⅵ編　土木工事標準単価及び市場単価

- 第１章　土木工事標準単価
- 第２章　市場単価

第Ⅲ編　河川

- 第１章　河川海岸
- 第２章　河川維持工
- 第３章　砂防工
- 第４章　地すべり防止工
- 第５章　急傾斜地崩壊防止工
- 第６章　ダム工

第Ⅳ編　道路

- 第１章　舗装工
- 第２章　付属施設
- 第３章　道路維持修繕工
- 第４章　共同溝工
- 第５章　トンネル工
- 第６章　道路除雪工（適用基準なし）
- 第７章　橋梁工

第Ⅴ編　公園

- 第１章　公園植栽工
- 第２章　基盤整備
- 第３章　施設整備

第Ⅶ編　電気通信（積算）

- 第１章　総則
- 第２章　工事費の積算
- 第３章　一般管理費等及び消費税相当額
- 第４章　その他

第Ⅷ編　電気通信（歩掛）

- 第１章　一般事項
- 第２章　共通設備
- 第３章　電気設備
- 第４章　通信設備
- 第５章　電子応用設備

第Ⅸ編　機械設備

| | |
|---|---|
| 第１章　一般共通 | 第１２章　車両重量計設備 |
| 第２章　水門設備 | 第１３章　車両計測設備 |
| 第３章　ゴム引布製起伏ゲート設備 | 第１４章　道路用昇降設備 |
| 第４章　揚排水ポンプ設備 | 第１５章　ダム管理設備 |
| 第５章　ダム施工機械設備 | 第１６章　遠方監視操作制御設備 |
| 第６章　トンネル換気設備 | 第１７章　河川浄化設備 |
| 第７章　トンネル非常用施設 | 第１８章　鋼製付属設備 |
| 第８章　消融雪設備 | 第１９章　塗装 |
| 第９章　道路排水設備 | 第２０章　機械設備点検・整備業務 |
| 第１０章　共同溝付帯設備 | 第２１章　機械設備設計業務委託業務 |
| 第１１章　駐車場設備 | |

第１０編　下水道

第１１編　港湾・漁港漁場整備

| | |
|---|---|
| 第１１－１編　港湾 | 第１１－３編　港湾・漁港漁場整備共通 |
| 第１１－２編　漁港漁場整備 | |

第１２編　空港

第１３編　農業農村整備

| | |
|---|---|
| 第１章　総則 | 第９章　道路工 |
| 第２章　土工 | 第１０章　ほ場整備工 |
| 第３章　共通工 | 第１１章　農地造成工 |
| 第４章　コンクリート工 | 第１２章　コンクリート補修工 |
| 第５章　基礎工 | 第１３章　復旧工 |
| 第６章　フリューム類据付工 | 第１４章　仮設工 |
| 第７章　河川・水路工 | 第１５章　共通仮設 |
| 第８章　管水路工 | 第１６章　施設機械及び電気通信設備 |

第１４編　森林整備

| | |
|---|---|
| 第１章　総則 | 第１２章　山地治山土工 |
| 第２章　土工 | 第１３章　治山ダム工 |
| 第３章　運搬工 | 第１４章　山腹工 |
| 第４章　コンクリート工 | 第１５章　地すべり防止工 |
| 第５章　共通工（１）溝渠工・法面工等 | 第１６章　森林整備 |
| 第６章　共通工（２）土留工・擁壁工等 | 第１７章　海岸林造成 |
| 第７章　基礎工 | 第１８章　舗装工 |
| 第８章　木材利用工 | 第１９章　道路付属施設 |
| 第９章　仮設工 | 第２０章　橋梁工 |
| 第１０章　市場単価 | 第２１章　道路維持修繕 |
| 第１１章　土木工事標準単価 | |

第１５編　単価

# 適用基準

島根県農林水産部及び土木部が発注する工事（建築工事除く）の積算にあたっては、本基準によること。
なお、本基準に記載している「適用基準」、「運用基準」及び「独自基準」の内容は以下のとおり。

［1］ 適用基準　　… 国等が定めた基準
［2］ 運用基準　　… 国等が定めた基準に県として必要な事項等を追記したもの
［3］ 独自基準　　… 国等の基準によらず県独自で定めた基準

【適用基準】

■ 国土交通省土木工事標準積算基準書（共通編） 平成31年度
■ 国土交通省土木工事標準積算基準書（河川・道路編） 平成31年度
■ 国土交通省土木工事標準積算基準書（電気通信編） 平成31年度
発行：一般財団法人　建設物価調査会　　監修：国土交通省大臣官房技術調査課
以下、「土木工事標準積算基準書（○○編）」という。

■ 国土交通省機械設備工事積算基準　平成31 年度版
発行：一般財団法人　建設物価調査会
以下、「機械設備工事積算基準」という。

■ ダム工事積算資料（平成31年4月）
国土交通省
以下、「ダム工事積算資料」という。

■ 公園緑地工事標準歩掛（令和元年5月）
国土交通省　都市局　公園緑地・景観課　（国土交通省都市局ホームページ掲載）
以下、「公園緑地工事標準歩掛」という。

■ 下水道用設計標準歩掛表　令和元年度　－第1巻　管路－
■ 下水道用設計標準歩掛表　令和元年度　－第2巻　ポンプ場・処理場－
発行：公益社団法人　日本下水道協会
以下、「下水道用設計標準歩掛表」という。

■ 平成31年度改訂版　港湾土木請負工事積算基準
発行：公益財団法人　日本港湾協会　　監修：国土交通省港湾局
以下、「港湾土木請負工事積算基準」という。

■ 漁港漁場関係工事積算基準　令和元年度版
発行：公益社団法人　全国漁港漁場協会
以下、「漁港漁場関係工事積算基準」という。

■ 平成31年度版　空港請負工事積算基準
発行：一般財団法人　港湾空港総合技術センター　　監修：国土交通省　航空局
以下、「空港土木工事積算基準」という。

令和元年度建設工事積算基準

■ **土地改良工事積算基準(土木工事) 平成31年度**
■ **土地改良工事積算基準(施設機械) 平成31年度**
■ **土地改良工事積算基準(機械経費) 平成31年度**

発行：一般社団法人　農業農村整備情報総合センター　　監修：農林水産省農村振興局整備部設計課
以下、「土地改良工事積算基準（〇〇)」という。

■ **情報化施工技術の活用ガイドライン 平成31年3月**

農林水産省農村振興局整備部設計課
以下、「情報課施工技術の活用ガイドライン」という。

■ **令和元年版 治山林道必携 積算･施工編**

発行：社団法人日本治山治水協会・日本林道協会　　監修：農林水産省　林野庁森林整備部計画課
以下、「治山林道必携」という。

**下表の3基準については、業界関係者(発注者以外)は市販本対応としています。発注者は下表の別冊(PDF配付)を利用してください。**

| 発注者以外 | 発注者 |
|---|---|
| 基準名（市販本） | 別冊（ＰＤＦ配付） |
| 国土交通省 土木工事標準積算基準書（共通編）<br>平成 31 年度 | ［別冊］平成 31 年度 建設工事積算基準（共通編） |
| 国土交通省 土木工事標準積算基準書（河川・道路編）<br>平成 31 年度 | ［別冊］平成 31 年度 建設工事積算基準（河川編）<br>［別冊］平成 31 年度 建設工事積算基準（道路編） |
| 土地改良工事積算基準（土木工事）<br>平成 31 年度 | ［別冊］平成 31 年度 建設工事積算基準（農業農村整備編） |

**【県基準に適用する国の運用】**

■ **国土交通省土木工事標準積算基準書(電気通信編)等の運用(平成31年3月)**

国土交通省　大臣官房　技術調査課　電気通信室（国土交通省ホームページ掲載）
https://www.mlit.go.jp/tec/it/denki/densekisankijun/densekisankijuntouunyoH3103.pdf
なお、本運用の第１編積算基準　３．機器単体費及び鋼構造製作物の設計単価の取扱いは適用しない。

## ■土木工事標準積算基準書

本基準の適用にあたっては、以下のとおり読替を行う

| 原　文 | 読　替 | 該当箇所 |
|---|---|---|
| 土木工事共通仕様書 | 島根県公共工事共通仕様書 | 第Ⅱ編第１章①土量変化率等<br>第Ⅲ編第３章①土工 |
| 土木工事標準積算基準書 | 建設工事積算基準（島根県農林水産部・土木部） | 第Ⅱ編第１章②土工<br>第Ⅵ編第１章④構造物とりこわし工<br>第Ⅵ編第１章⑤コンクリートブロック積工<br>第Ⅵ編第１章⑥排水構造物工<br>第Ⅵ編第２章①鉄筋工<br>第Ⅵ編第２章③防護柵設置工<br>第Ⅵ編第２章④法面工<br>第Ⅵ編第２章⑧道路標識設置工<br>第Ⅵ編第２章⑪軟弱地盤処理工<br>第Ⅲ編第３章①土工<br>第Ⅶ編第１章②請負工事の工事費構成<br>第Ⅶ編第１章③請負工事費の費目<br>第Ⅶ編第２章④直接工事費<br>第Ⅶ編第２章⑤間接工事費<br>第Ⅶ編第３章一般管理費等及び消費税相当額<br>第Ⅶ編第４章その他<br>第Ⅷ編第２章⑤ハンドホール設置工<br>第Ⅷ編第２章⑨支柱設置工 |
| 第Ⅰ編総則第 12 章その他②賃料入力基準表（１）発動発電機（各種） | 機－１６　タイプ機械運転（発動発電機） | 第Ⅱ編第５章⑱仮設電力設備工 |
| 土木工事標準歩掛 | 建設工事積算基準（島根県農林水産部・土木部） | 第Ⅷ編第２章第１節①配管・配線工<br>第Ⅷ編第２章第１節⑦分電盤設置工<br>第Ⅷ編第２章第１節⑨支柱設置工<br>第Ⅷ編第２章第１節⑩通信線柱設置工<br>第Ⅷ編第３章第１節⑤受変電設備基礎工<br>第Ⅷ編第３章第５節①配電線設備設置工<br>第Ⅷ編第３章第６節①道路照明設備設置工<br>第Ⅷ編第３章第６節④照明灯基礎設置工<br>第Ⅷ編第３章第６節⑥視線誘導灯基礎設置工<br>第Ⅷ編第３章第７節⑤雑工（電気）<br>第Ⅷ編第３章第 11 節⑤道路消融雪ポンプ設備基礎工 |

令和元年度建設工事積算基準

| 原　文 | 読　替 | 該当箇所 |
|---|---|---|
| 土木工事標準歩掛 | 建設工事積算基準（島根県農林水産部・土木部） | 第Ⅷ編第３章第 12 節②道路照明修繕工<br>第Ⅷ編第４章第 17 節④交通遮断装置基礎工<br>第Ⅷ編第４章第 19 節①通信用鉄塔設置工<br>第Ⅷ編第４章第 19 節②反射板設置工<br>第Ⅷ編第４章第 19 節③鉄塔基礎工<br>第Ⅷ編第４章第 19 節④反射板基礎工 |
| 国土交通省直轄の土木事業 | 島根県土木部 | 第Ⅶ編第１章①適用範囲等<br>第Ⅷ編第１章①一般事項 |
| 賃金実態調査単価 | 建設工事積算基準（島根県農林水産部・土木部）第１５編単価 | 第Ⅶ編第２章④直接工事費 |
| 公共工事設計労務単価 | 建設工事積算基準（島根県農林水産部・土木部）第１５編単価 | 第Ⅶ編第２章④直接工事費<br>第Ⅸ編第１章⑤請負工事の積算 |
| 原則として、入札時における市場価格 | 原則として、積算時における市場価格 | 第Ⅶ編第２章②機器単体費<br>第Ⅶ編第２章④直接工事費 |
| 設計時の類似品価格とする | 積算時の類似品価格とする | 第Ⅶ編第２章②機器単体費<br>第Ⅶ編第２章④直接工事費<br>第Ⅸ編第１章［基準の解説］ |

## ■機械設備工事積算基準

本基準の適用にあたっては、以下のとおり読替を行う

| 原　文 | 読　替 | 該当ページ |
|---|---|---|
| 公共工事設計労務単価 | 建設工事積算基準（島根県農林水産部・土木部）第１５編単価 | 第２編第１章⑤請負工事費の積算 |
| 各地方整備局及び北海道開発局所管の直轄工事 | 島根県土木部 | 第２編第１章②適用範囲 |
| 公共事業企画調整課長が別に定めるもの | 建設工事積算基準（島根県農林水産部・土木部）第１５編単価 | 第２編第１章⑤請負工事費の積算 |

## ■公園緑地工事標準歩掛

本基準の適用にあたっては、以下のとおり読替を行う

| 原　文 | 読　替 | 該当ページ |
|---|---|---|
| 平成 31 年度国土交通省土木工事積算基準 | 建設工事積算基準（島根県農林水産部・土木部） | １８，２４，２９，３０，３４<br>４４，４５ |

## ■港湾土木請負工事積算基準

本基準の適用にあたっては、以下のとおり読替を行う

| 原　文 | 読　替 | 該当ページ |
|---|---|---|
| 国土交通省直轄 | 島根県土木部 | １－１－１ |
| 国土交通省日額旅費支給規則 | 職員の旅費に関する条例施行規則 | ３－４．１－４４<br>３－４．１－４５<br>５－１－８<br>５－１－１２<br>５－１－１７ |
| 国土交通省所管旅費取扱規則 | 職員の旅費に関する条例施行規則 | ５－１－１２ |

## ■漁港漁場関係工事積算基準

本基準の適用にあたっては、以下のとおり読替を行う

| 原　文 | 読　替 | 該当ページ |
|---|---|---|
| 農林水産省日額旅費支給規則 | 職員の旅費に関する条例施行規則 | ３－４．１－４４<br>５－１－８<br>５－１－１７ |

## ■土地改良工事積算基準(土木工事)

本基準の適用にあたっては、以下のとおり読替を行う

| 原　文 | 読　替 | 該当箇所 |
|---|---|---|
| 平成31年9月30日までの入札に適用する標準歩掛 | 令和元年9月30日までに起案する発注工事または変更指示する工事に適用する標準歩掛 | 目次<br>１．土工（P.535）<br>２．共通工（P.536）<br>３．コンクリート工（P.537）<br>５．フリューム類据付工（P.539）<br>６．河川・水路工（P.540）<br>７．管水路工（P.541）<br>８．道路工（P.542）<br>９．ほ場整備工（P.543）<br>10．農地造成工（P.544）<br>13．コンクリート補修工（P.547）<br>14．復旧工（P.548）<br>15．仮設工（P.549）<br>16．共通仮設（P.550） |
| 平成31年9月30日までの入札に適用する参考歩掛 | 令和元年9月30日までに起案する発注工事または変更指示する工事に適用する参考歩掛 | 目次<br>１．土工（P.795）<br>２．共通工（P.796）<br>３．コンクリート工（P.797）<br>４．基礎工（P.798）<br>５．河川・水路工（P.799）<br>６．管水路工（P.800）<br>７．道路工（P.801）<br>８．ほ場整備工（P.802）<br>９．農地造成工（P.803）<br>12．仮設工（P.806） |
| 施工パッケージ型積算基準<br>平成31年9月30日までの入札に適用する | 施工パッケージ型積算基準<br>令和元年9月30日までに起案する発注工事または変更指示する工事に適用する | 目次<br>３．コンクリート工（P.1057） |
| 平成31年10月1日からの入札に適用する標準歩掛 | 令和元年10月1日以降に起案する発注工事または変更指示する工事に適用する標準歩掛 | 目次 |
| 平成31年10月1日からの入札に適用する参考歩掛 | 令和元年10月1日以降に起案する発注工事または変更指示する工事に適用する参考歩掛 | 目次 |
| 施工パッケージ型積算基準<br>平成31年10月1日からの入札に適用する | 施工パッケージ型積算基準<br>令和元年10月1日以降に起案する発注工事または変更指示する工事に適用する | 目次 |

## ■国土交通省土木工事標準積算基準書(電気通信編)等の運用

本運用は、以下のとおり読替を行う

| 原　文 | 読　替 | 該当ページ |
|---|---|---|
| 土木工事標準積算基準書 | 建設工事積算基準（島根県農林水産部・土木部） | 第１編　積算基準<br>1.　電気通信関係技術者等の職種区分と職務区分<br>4.　積算歩掛の取扱い<br>5.　間接工事費の算定方法<br>8.　道路照明維持修繕工事積算の運用<br>第２編　よくある質問とその回答<br>1.　機器・材料等の区分の運用<br>3.　機器管理費の定義及び経費範囲<br>4.　工事派遣技術者に対する「旅費交通費・宿泊費」の取扱<br>6.　仮設電気設備積算基準の運用 |
| 官庁営繕に関する工事 | 建築工事 | 第１編　積算基準<br>1.　電気通信関係技術者等の職種区分と職務区分 |
| 一般国道直轄管理区間内 | 県管理道路内 | 第１編　積算基準<br>8.　道路照明維持修繕工事積算の運用 |

令和元年度建設工事積算基準

# 目　次

第Ⅰ編　総則

第１章　総則----------Ⅰ-1-①-1
① 基準の適用等
② 請負工事の工事費構成

第２章　工事費の積算----------Ⅰ-2-①-1
① 直接工事費
② 間接工事費
③ 現場発生品及び支給品運搬

第３章　一般管理費等及び消費税相当額----------Ⅰ-3-①-1
① 一般管理費等
② 消費税相当額

第４章　随意契約方式により工事を発注する場合の間接工事費等の調整について-Ⅰ-4-①-1
① 随意契約方式により工事を発注する場合の共通仮設費、現場管理費及び一般管理費等の調整について
② 旧基準で積算した工事に改正基準で積算した工事を追加する場合等の共通仮設費、現場管理費及び一般管理費等の調整について

第５章　数値基準等----------Ⅰ-5-①-1
① 数値基準
② 工事数量総括表への条件明示

第６章　建設機械運転労務費等----------Ⅰ-6-①-1
① 建設機械運転労務
② 原動機燃料消費量
③ 機械運転単価表
④ 一般事項

第７章　土木請負工事の特許使用料の積算----------Ⅰ-7-①-1
① 土木請負工事の特許使用料の積算について

第８章　時間的制約を受ける公共土木工事の積算----------Ⅰ-8-①-1
① 時間的制約を受ける公共土木工事の積算について

第９章　土木請負工事における現場環境改善費の積算----------Ⅰ-9-①-1
① 土木請負工事における現場環境改善費の積算

第10章　工事の一時中止に伴う増加費用等の積算----------Ⅰ-10-①-1
① 工事の一時中止に伴う増加費用等の積算について

第11章　施工箇所が点在する工事の積算----------Ⅰ-11-①-1
① 施工箇所が点在する工事の積算について

第12章　１日未満で完了する作業の積算----------Ⅰ-12-①-1
① １日未満で完了する作業の積算

第13章　設計変更----------Ⅰ-13-①-1
1　一般事項
2　設計変更における材料単価の取扱いについて
3　設計変更の計算例

第14章　その他----------Ⅰ-14-①-1
①　作業日当り標準作業量
②　市場単価の１目当り標準施工量
③　工期日数及び水替日数

第15章　請負工事機械経費積算要領----------Ⅰ-15-①-1
①　請負工事機械経費積算要領
②　建設用仮設材損料算定基準
③　ダム施工機械等損料算定基準
④　建設機械等賃料積算基準
⑤　建設用仮設材賃料積算基準
⑥　橋梁架設用仮設備機械等損料

第16章　積算上の統一事項等----------Ⅰ-16-①-1
①　積算上の統一事項
②　労働者職種別定義・作業内容

第Ⅱ編　共通工
第１章　土工----------Ⅱ-1
①　土量変化率等
②　土工
③　作業土工
④　人力運搬工
⑤　安定処理工
⑥　土砂運搬工(不整地運搬車による運搬)

第２章　共通工----------Ⅱ-5
①　法面工
②　基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工
③　コンクリートブロック積(張)工
④　石積(張)工
⑤　場所打擁壁工
⑥　プレキャスト擁壁工
⑦　補強土壁工(帯鋼補強土壁、アンカー補強土壁)
⑧　ジオテキスタイル工
⑨　連続地中壁工(柱列式)
⑩　排水構造物工
⑪　軟弱地盤処理工
⑫　薬液注入工
⑬　アンカー工(ロータリーパーカッション式)
⑭　構造物とりこわし工
⑮　コンクリート削孔工
⑯　ガス切断工
⑰　吸出し防止材設置工

⑱　目地・止水板設置工
⑲　旧橋撤去工
⑳　かご工
㉑　発泡スチロールを用いた超軽量盛土工
㉒　現場取卸費
㉓　骨材再生工(自走式)
㉔　函渠工
㉕　殻運搬

第３章　基礎工----------Ⅱ-9
①　鋼管・既製コンクリート杭打工
②　場所打杭工
③　深礎工
④　ニューマチックケーソン工
⑤　基礎工(鋼管矢板基礎工)
⑥　ドロップハンマ杭打工
⑦　木杭及び矢板打工(人力、ドロップハンマ工)
⑧　泥水運搬工

第４章　コンクリート工----------Ⅱ-11
①　コンクリート工
②　型枠工
③　溶接金網設置工
④　張りコンクリート工

第５章　仮設工----------Ⅱ-13
①　仮設工
②　鋼矢板(H形鋼)工
③　矢板工(アースオーガ併用圧入工)
④　鋼矢板(H形鋼)工(クレーン引抜工)
⑤　鋼矢板施工法選定表(参考)
⑥　仮設材設置撤去工
⑦　足場支保工
⑧　締切排水工
⑨　ウエルポイント工
⑩　土のう工
⑪　仮橋・仮桟橋工
⑫　汚濁防止フェンス工
⑬　仮囲い設置・撤去工
⑭　仮設防護柵工（切土及び発破防護柵工）
⑮　濁水処理工(一般土木工事)
⑯　敷鉄板設置・撤去工
⑰　防塵処理工
⑱　仮設電力設備工
⑲　グラフによる標準的な仮設電力設備の積算
⑳　法面工(仮設用モルタル吹付工)
㉑　交通誘導警備員
㉒　工事用道路（敷砂利）工

第Ⅵ編　土木工事標準単価及び市場単価
第１章　土木工事標準単価----------Ⅵ-1

第２章　市場単価----------Ⅵ-5
① 鉄筋工
② インターロッキングブロック工
③ 防護柵設置工
④ 法面工
⑤ 道路植栽工
⑥ 橋梁付属物工
⑦ 薄層カラー舗装工
⑧ 道路標識設置工
⑨ 道路付属物設置工
⑩ 公園植栽工
⑪ 軟弱地盤処理工
⑫ 橋面防水工
⑬ グルービング工
⑭ 鉄筋挿入工(ロックボルト工)
⑮ コンクリート表面処理工(ウォータージェット工)
⑯ 法面工（島根県独自）

第Ⅲ編　河川
第１章　河川海岸----------Ⅲ-1
① 消波根固めブロック工
② 捨石工
③ 消波工
④ 浚渫工
⑤ 軟弱地盤上における柔構造樋門・樋管工

第２章　河川維持工----------Ⅲ-3
① 堤防除草工
② 堤防天端補修工
③ 堤防芝養生工
④ 伐木除根工
⑤ 塵芥処理工
⑥ ボーリンググラウト工
⑦ 粗朶沈床工
⑧ 機械土工(河床等掘削)
⑨ 多自然護岸工
⑩ 護岸基礎ブロック工
⑪ かごマット工
⑫ ブロックマット工
⑬ 野芝種子吹付工
⑭ 袋詰玉石工
⑮ 笠コンクリートブロック据付工
⑯ グラウトホール工
⑰ 連節ブロックの水中吊落し工
⑱ 光ケーブル配管工

第３章　砂防工----------Ⅲ-5
①　土工
②　コンクリート工
③　仮設備工
④　養生工(練炭)
⑤　石材等採取工(割石、雑割石、野面採取)
⑥　ケーブルクレーンによる資材等の運搬
⑦　銘板工
⑧　仮締切工
⑨　鋼製砂防工
⑩　砂防ソイルセメント工

第４章　地すべり防止工----------Ⅲ-7
①　地すべり防止工

第５章　急傾斜地崩壊防止工----------Ⅲ-9
①　急傾斜地崩壊防止工

第６章　ダム工----------Ⅲ-21

第Ⅳ編　道路
第１章　舗装工----------Ⅳ-1
①　路盤工
②　アスファルト舗装工
③　排水性舗装工
④　グースアスファルト舗装工
⑤　コンクリート舗装工
⑥　踏掛版
⑦　雑工

第２章　付属施設----------Ⅳ-3
①　防護柵設置工
②　しゃ音壁設置工
③　路側工
④　特殊ブロック設置工
⑤　組立歩道工
⑥　橋梁付属施設設置工
⑦　トンネル内装板設置工
⑧　道路付属物設置工
⑨　スノーポール設置・撤去工

第３章　道路維持修繕工----------Ⅳ-5
①　路面切削工
②　舗装版破砕工
③　舗装版切断工
④　道路打換え工
⑤　路上路盤再生工
⑥　アスファルト注入工
⑦　舗装版クラック補修工
⑧　道路付属構造物塗替工

⑨　張紙塗装防止工
⑩　床版補強工
⑪　橋梁補強工
⑫　橋梁補修工
⑬　落橋防止装置工
⑭　道路除草工
⑮　道路清掃工
⑯　排水構造物清掃工
⑰　トンネル清掃工
⑱　トンネル照明器具清掃工
⑲　トンネル漏水対策工
⑳　沓座拡幅工
㉑　桁連結工
㉒　欠損部補修工
㉓　路肩整正(人力による土はね)
㉔　コンクリート接着工
㉕　防護柵復旧工
㉖　アスファルト舗装版削孔工
㉗　道路付属物のコンクリート面塗装工
㉘　横断歩道橋補修工

第４章　共同溝工----------Ⅳ-7
①　共同溝工
②　電線共同溝工(Ｃ・Ｃ・ＢＯＸ)
③　情報ボックス工

第５章　トンネル工----------Ⅳ-9
①　トンネル工(ＮＡＴＭ)
②　小断面トンネル工(ＮＡＴＭ)
③　トンネル裏込注入工

第６章　道路除雪工----------Ⅳ-11
（適用基準なし）

第７章　橋梁工----------Ⅳ-13
①　鋼橋製作工
②　橋梁塗装工(工場塗装及び塗装前処理)
③　鋼橋架設工
④　プレビーム桁製作及び架設工
⑤　鋼橋床版工
⑥　グレーチング床版架設工及び足場工
⑦　ポストテンション桁製作工
⑧　プレキャストセグメント主桁組立工
⑨　ＰＣ橋架設工
⑩　ＰＣ橋片持架設工
⑪　ポストテンション場所打ホロースラブ橋工
⑫　ポストテンション場所打箱桁橋工
⑬　ＲＣ場所打ホロースラブ橋工
⑭　架設支保工
⑮　伸縮装置工(鋼製)

⑯　橋梁排水管設置工
⑰　歩道橋(側道橋)架設工
⑱　鋼製橋脚設置工
⑲　橋台・橋脚工

第Ⅴ編　公園
第１章　公園植栽工----------Ⅴ-1
①　公園植栽工
②　公園除草工
③　公園工（適用基準なし）

第２章　基盤整備----------Ⅴ-3
①　敷地造成工
②　擁壁工

第３章　施設整備----------Ⅴ-5
①　給水設備工
②　雨水排水設備工
③　汚水排水設備工
④　園路広場整備工
⑤　修景施設整備工
⑥　サービス施設整備工
⑦　管理施設整備工
⑧　施設仕上げ工

第Ⅶ編　電気通信（積算）----------Ⅶ-1
第１章　総則
①　適用範囲等
②　請負工事の工事費構成
③　請負工事費の費目

第２章　工事費の積算----------Ⅶ-1
①　機器・材料等の区分
②　機器単体費
③　鋼構造製作物
④　直接工事費
⑤　間接工事費

第３章　一般管理費等及び消費税相当額----------Ⅶ-1

第４章　その他----------Ⅶ-1
①　市場単価方式による価格の算定
②　工事の一時中止に伴う増加費用等の積算上の取扱い

第Ⅷ編　電気通信（歩掛）
第１章　一般事項----------Ⅷ-1
第１節　一般事項
①　一般事項

第２章　共通設備----------Ⅷ-3
第１節　共通設備工
①　配管・配線工
②　配線器具設置工
③　通信配線工
④　光ケーブル敷設工
⑤　ハンドホール設置工
⑥　プルボックス設置工
⑦　分電盤設置工
⑧　引込柱設置工
⑨　支柱設置工
⑩　通信線柱設置工
⑪　避雷設備工
⑫　接地設置工
⑬　耐震施工（あと施工アンカーボルト引張試験）

第２節　工場製品輸送工
①　輸送工

第３章　電気設備----------Ⅷ-5
第１節　受変電設備工
①　特別高圧受変電設備設置工
②　高圧受変電設備設置工
③　低圧受変電設備設置工
④　受変電用監視制御設備設置工
⑤　受変電設備基礎工
第２節　電源設備工
①　発電設備設置工
②　無停電電源設備設置工
③　直流電源設備設置工
④　管理用水力発電設備設置工
⑤　新エネルギー電源設備設置工
第３節　揚排水機場電気設備工
①　高圧受変電設備設置工
②　低圧受変電設備設置工
③　発電設備設置工
④　無停電電源設備設置工
⑤　直流電源設備設置工
⑥　操作制御装置設置工
⑦　水閘門電気設備設置工
第４節　地下駐車場電気設備工
①　高圧受変電設備設置工
②　低圧受変電設備設置工
③　発電設備設置工
④　無停電電源設備設置工
⑤　直流電源設備設置工
⑥　電灯設備設置工
⑦　動力設備設置工
⑧　電話設備設置工
⑨　放送設備設置工

⑩　ラジオ再放送設備設置工
⑪　無線通信補助設備設置工
⑫　インターホン設備設置工
⑬　テレビ共聴設備設置工
⑭　身体障害者警報設備設置工
⑮　自動火災報知設備設置工
⑯　CCTV 装置設置工
⑰　中央監視設備設置工
⑱　駐車場管制設備設置工
⑲　遠方監視設備設置工

第５節　配電線設備工
①　配電線設備設置工

第６節　道路照明設備工
①　道路照明設備設置工
②　サービスエリア照明設備設置工
③　歩道（橋）照明設備設置工
④　照明灯基礎設置工
⑤　視線誘導灯設置工
⑥　視線誘導灯基礎設置工

第７節　トンネル照明設備工
①　トンネル照明設備設置工
②　アンダーパス照明設備設置工
③　地下道照明設備設置工
④　照明灯基礎設置工
⑤　雑工（電気）

第８節　施設照明設備工
①　ダム照明設備設置工
②　河川照明設備設置工
③　公園照明設備設置工

第９節　共同溝付帯設備工
①　共同溝引込設備設置工
②　共同溝照明設備設置工
③　共同溝排水設備設置工
④　共同溝換気設備設置工
⑤　共同溝監視制御設備設置工
⑥　共同溝標識設備設置工

第10節　電気応用設備工
①　水処理設備設置工

第11節　道路融雪設備工
①　高圧受変電設備設置工
②　受変電設備基礎工
③　道路ヒーティング設備設置工
④　道路消融雪ポンプ設備設置工
⑤　道路消融雪ポンプ設備基礎工

第12節　道路照明維持補修工
①　道路照明維持工
②　道路照明修繕工

第４章　通信設備----------Ⅷ-7
第１節　多重無線設備工
①　多重無線装置設置工
②　空中線装置設置工
③　ディジタル端局装置設置工
④　画像伝送路切替制御装置設置工
⑤　画像伝送路切替装置設置工
⑥　監視制御装置設置工
第２節　テレメータ設備工
①　テレメータ監視局装置設置工
②　テレメータ中継局装置設置工
③　テレメータ観測局装置設置工
第３節　放流警報設備工
①　放流警報制御監視局装置設置工
②　放流警報中継局装置設置工
③　放流警報警報局装置設置工
第４節　移動体通信設備工
①　移動体通信装置設置工
第５節　衛星通信設備工
①　固定型衛星通信用地球局設備設置工
②　移動型衛星通信用地球局設備設置工
③　衛星小型（制御地球局）画像伝送装置設置工
④　衛星小型（固定局）画像伝送装置設置工
⑤　衛星小型（可搬局）画像伝送装置設置工
⑥　衛星地球局基礎工
第６節　ヘリ画像受信設備工
①　ヘリ画像受信基地局装置設置工
②　ヘリ画像受信携帯局装置設置工
第７節　電話交換設備工
①　自動電話交換装置設置工
第８節　有線通信設備工
①　ディジタル端局装置（SDH）設置工
②　管理施設用小容量光伝送装置設置工
③　光ファイバ線路監視装置設置工
第９節　道路情報表示設備工
①　道路情報表示制御装置設置工
②　道路情報表示装置設置工
第10節　河川情報表示設備工
①　河川情報表示制御装置設置工
第11節　放流警報表示設備工
①　放流警報表示制御装置設置工
第12節　トンネル防災設備工
①　トンネル監視制御装置設置工
②　付属設備操作制御装置設置工
第13節　非常警報設備工
①　非常警報装置設置工
第14節　ラジオ再放送設備工
①　ラジオ再放送装置設置工
②　緊急放送装置設置工
第15節　トンネル無線補助設備工

①　トンネル無線補助設備設置工
第16節　路側通信設備工
①　路側通信制御装置設置工
第17節　道路防災設備工
①　交通遮断装置設置工
②　交通流車両観測装置設置工
③　路車間通信装置設置工
④　交通遮断装置基礎工
第18節　施設計測・監視制御設備工
①　路面凍結検知装置設置工
②　積雪深計測装置設置工
③　気象観測装置設置工
④　地震データ集配信制御設備設置工
⑤　地震データ通信制御設備設置工
⑥　強震計測装置設置工
⑦　土石流監視制御装置設置工
⑧　路面冠水検知装置設置工
第19節　通信鉄塔・反射板設備工
①　通信用鉄塔設置工
②　反射板設置工
③　鉄塔基礎工
④　反射板基礎工

第５章　電子応用設備----------Ⅷ-9
第１節　共通設備工
①　各種情報設備設置工
②　ＩＰネットワーク設備設置工
第２節　ダム・堰諸量設備工
①　ダム・堰諸量装置設置工
②　ダム・堰放流設備制御装置設置工
第３節　レーダ雨（雪）量計設備工
①　レーダ中央処理局装置設置工
②　レーダ処理局装置設置工
③　レーダ基地局装置設置工
④　レーダ雨（雪）量計端末装置設置工
第４節　河川情報設備工
①　河川情報中枢局装置設置工
②　河川情報集中局装置設置工
③　河川情報端末局装置設置工
第５節　道路交通情報設備工
①　道路情報中枢局装置設置工
②　道路情報集中局装置設置工
③　道路情報端末局装置設置工
第６節　CCTV 設備工
①　CCTV 監視制御装置設置工
②　CCTV 装置設置工
第７節　水質自動監視設備工
①　水質自動監視装置設置工
②　水質自動観測装置設置工
第８節　電話応答通報設備工

① 電話応答（通報）装置設置工
第９節 システム・インテグレーション
① システム・インテグレーション

第Ⅸ編 機械設備
第１章 一般共通----------Ⅸ-1
① 目的
② 適用範囲
③ 請負工事費の構成
④ 請負工事費の費目
⑤ 請負工事費の積算

第２章 水門設備----------Ⅸ-1
① 河川用水門設備
② ダム用水門設備

第３章 ゴム引布製起伏ゲート設備----------Ⅸ-1

第４章 揚排水ポンプ設備----------Ⅸ-1
① 揚排水ポンプ設備
② コラム形水中ポンプ設備
③ 除塵設備

第５章 ダム施工機械設備----------Ⅸ-1

第６章 トンネル換気設備----------Ⅸ-1
① ジェットファン設備
② 送風機設備

第７章 トンネル非常用設備----------Ⅸ-1

第８章 消融雪設備----------Ⅸ-1

第９章 道路排水設備----------Ⅸ-1

第10章 共同溝付帯設備----------Ⅸ-1

第11章 駐車場設備----------Ⅸ-1
① 自走式駐車場設備
② 機械式駐車場設備

第12章 車両重量計設備----------Ⅸ-1

第13章 車両計測設備----------Ⅸ-1

第14章 道路用昇降設備----------Ⅸ-1
① エレベーター設備
② エスカレーター設備

第15章 ダム管理設備----------Ⅸ-1

第16章　遠方監視操作制御設備----------IX-1

第17章　河川浄化設備----------IX-1

第18章　鋼製付属設備----------IX-1

第19章　塗装----------IX-1

第20章　機械設備点検・整備業務----------IX-5

第21章　機械設備設計業務委託----------IX-7

第10編　下水道

第11編　港湾・漁港漁場整備
第11-1編　港湾----------11-1

第11-2編　漁港漁場整備----------11-3

第11-3編　港湾・漁港漁場整備共通----------11-5

第12編　空港

第13編　農業農村整備
第１章　総則----------13-1
①　総則
②　工事費の積算
③　一般管理費等及び消費税等相当額
④　随意契約方式により工事を発注する場合の間接工事費等の調整について
⑤　数値基準等
⑥　建設機械運転労務等
⑦　土木請負工事の特許使用料の積算
⑧　時間的制約を受ける公共土木工事の積算
⑨　土木請負工事における現場環境改善費の積算
⑩　工事の一時中止に伴う増加費用等の積算
⑪　施工箇所が点在する工事の積算
⑫　1日未満で完了する作業の積算
⑬　設計変更
⑭　その他
⑮　請負工事機械経費積算要領
⑯　積算上の統一事項等

第２章　土工----------13-25
①　人力土工（盛土・埋戻）
②　不整地運搬
③　人力荒仕上げ
④　管水路基礎岩盤整形工（基面）
⑤　ダンプトラック運搬（標準以外）
⑥　管水路基礎岩盤整形工（法面）

第３章　共通工----------13-27
①　ネットフェンス工（本体）・（扉）
②　機械（不整地運搬車）小運搬
③　擁壁工（アンカー式自然石空積工）
④　石積類とりこわし（機械）
⑤　柵工
⑥　ガス切断・開先加工
⑦　溶接（電気）
⑧　ネットフェンス撤去工

第４章　コンクリート工----------13-31
①　ダウエルバー取付
②　コンクリート打設足場工
③　モルタル工
④　コンクリートはつり（人力）
⑤　収縮継目ペイント塗装

第５章　基礎工----------13-33
①　木杭打込み（機械）

第６章　フリューム類据付工----------13-35
①　鉄筋コンクリート柵渠人力据付
②　鉄筋コンクリート柵渠機械据付
③　鉄筋コンクリート大型水路機械据付
④　水路用鉄筋コンクリートＬ形ブロック機械据付
⑤　二次製品用阻水壁
⑥　ボックス
⑦　ボックス蓋

第７章　河川・水路工----------13-43
①　ウィープホール取付
②　サイド・アンダードレーン工
③　ブロックマット設置工
④　合成ゴムシート布設工

第８章　管水路工----------13-45
①　パイプライン基礎
②　硬質ポリ塩化ビニル管人力布設
③　硬質ポリ塩化ビニル管機械布設
④　強化プラスチック複合管機械布設
⑤　ダクタイル鋳鉄管機械布設
⑥　鋼管機械布設
⑦　鋳鉄管切断
⑧　ＦＲＰＭ管切断
⑨　制水弁据付工（人力）
⑩　制水弁据付工（機械）
⑪　空気弁据付工（人力）
⑫　小バルブ類取付工（人力）
⑬　ダクタイル鋳鉄管人力布設

⑭　炭素鋼鋼管人力布設
⑮　強化プラスチック複合管機械布設（たて込み簡易土留）
⑯　ダクタイル鋳鉄管機械布設（たて込み簡易土留）
⑰　鋼管機械布設（小口径）
⑱　高密度ポリエチレン管機械布設
⑲　管水路浅埋設工（ジオグリッド）

第９章　道路工----------13-51
①　砂利舗装工
②　ガードレール設置・撤去（橋梁建込）

第１０章　ほ場整備工----------13-53
①　ほ場整備工（表土扱い）、（基盤造成・畦畔築立）
②　水田整地工（ブルドーザ）
③　暗渠排水工（掘削工）、（排水管・被覆材）、（埋戻工）、（小運搬）
④　自動埋設暗渠工
⑤　雑物除去（水田ほ場整備工）
⑥　畦畔ブロック（人力）
⑦　弾丸暗渠工
⑧　落水口
⑨　止杭一本胴木
⑩　コンクリート等床版機械設置
⑪　床版進入路

第１１章　農地造成工----------13-61
①　人力刈払
②　レーキドーザ抜根
③　レーキドーザ排根
④　リッパドーザ岩掘削
⑤　アングルドーザ（階段工）
⑥　リッパドーザ（耕起・深耕）
⑦　レーキドーザ及びブルドーザ（しわよせ工法）
⑧　土壌改良資材散布（ライムソワー）
⑨　有機質資材散布（マニアスプレッダ）
⑩　ロータリ（直装式）耕起砕土
⑪　石礫除去工（人力）
⑫　石礫除去工（機械）
⑬　ケンブリッジローラ鎮圧
⑭　雑物除去（農用地造成工用）
⑮　畑面植生
⑯　農地造成工（スクレープドーザ掘削）
⑰　農地造成工（被けん引式スクレーパ掘削）
⑱　人力刈払後の集積
⑲　ブラッシュブレーカ耕起
⑳　プラウイングハロー耕起
㉑　ディスクハロー砕土
㉒　ブルドーザ畑面整地工

第１２章　コンクリート補修工----------13-63
①　ひび割れ補修工
②　開水路目地補修工（成型ゴム挿入工）
③　開水路目地補修工（充填工）
④　既設水路断面修復・表面被覆工

第１３章　復旧工----------13-65
①　畦畔復旧工
②　耕地表土掘削・埋戻（機械）
③　耕地復旧（耕起）

第１４章　仮設工----------13-67
①　水替工（小口径）
②　釜場設置撤去工
③　たて込み簡易土留工
④　土工用マット（シート類）敷設・撤去
⑤　道路補修
⑥　索道
⑦　地盤改良工（仮設道路基礎）

第１５章　共通仮設----------13-69
①　パイプライン継目試験
②　現場溶接部Ｘ線検査（鋼管類）

第１６章　施設機械及び電気通信設備----------13-71
①　施設機械及び電気通信設備

第14編　森林整備
第 1 章　総則----------14-1
第 2 章　土工----------14-17
第 3 章　運搬工----------14-21
第 4 章　コンクリート工----------14-25
第 5 章　共通工（１）溝渠工・法面工等----------14-27
第 6 章　共通工（２）土留工・擁壁工等----------14-33
第 7 章　基礎工----------14-37
第 8 章　木材利用工----------14-39
第 9 章　仮設工----------14-47
第 10 章　市場単価----------14-51
第 11 章　土木工事標準単価----------14-53
第 12 章　山地治山土工----------14-55
第 13 章　治山ダム工----------14-57
第 14 章　山腹工----------14-61
第 15 章　地すべり防止工----------14-63
第 16 章　森林整備----------14-65
第 17 章　海岸林造成----------14-75
第 18 章　舗装工----------14-77
第 19 章　道路付属施設----------14-79
第 20 章　橋梁工----------14-83
第 21 章　道路維持修繕----------14-85

# 第Ⅰ編　総　　則

## ［1］ 適用基準

なし

（土木工事標準積算基準書（共通編）第Ⅰ編　総則　は適用しない。）

## ［2］ 運用基準

なし

## ［3］ 独自基準


第　1章　総　　則 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅰ－1－①－1
第　2章　工事費の積算 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅰ－2－①－1
第　3章　一般管理費等及び消費税相当額 ・・・・・・・・・・・・・・　Ⅰ－3－①－1
第　4章　随意契約方式により工事を発注する
　　場合の間接工事費等の調整について・・・・・　Ⅰ－4－①－1
第　5章　数値基準等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅰ－5－①－1
第　6章　建設機械運転労務等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅰ－6－①－1
第　7章　土木請負工事の特許使用料の積算 ・・・・・・・・・・・・・　Ⅰ－7－①－1
第　8章　時間的制約を受ける公共土木工事の積算・　Ⅰ－8－①－1
第　9章　土木請負工事における現場環境改善
　　費の積算 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅰ－9－①－1
第 10 章　工事の一時中止に伴う増加費用等の積算・　Ⅰ－10－①－1
第 11 章　施工箇所が点在する工事の積算・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅰ－11－①－1
第 12 章　１日未満で完了する作業の積算・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅰ－12－①－1
第 13 章　設計変更 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅰ－13－①－1
第 14 章　その他 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅰ－14－①－1
第 15 章　請負工事機械経費積算要領・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅰ－15－①－1
第 16 章　積算上の統一事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅰ－16－①－1

令和元年度建設工事積算基準

# 第１章　総　　則


①　基準の適用等‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　Ⅰ-1-①- 1
　1　基準の適用‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　Ⅰ-1-①- 1
　2　設計書の作成‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　Ⅰ-1-①- 1
②　請負工事の工事費構成‥‥‥‥‥‥‥‥　Ⅰ-1-②- 1
　1　工事費の基本構成‥‥‥‥‥‥‥‥‥　Ⅰ-1-②- 1

令和元年度建設工事積算基準

# 第１章　総　　則

## ①　基準の適用等

### １ 基 準 の 適 用

工事費の積算における基準は，原則として，起工時における最新の基準を適用する。

### ２ 設 計 書 の 作 成

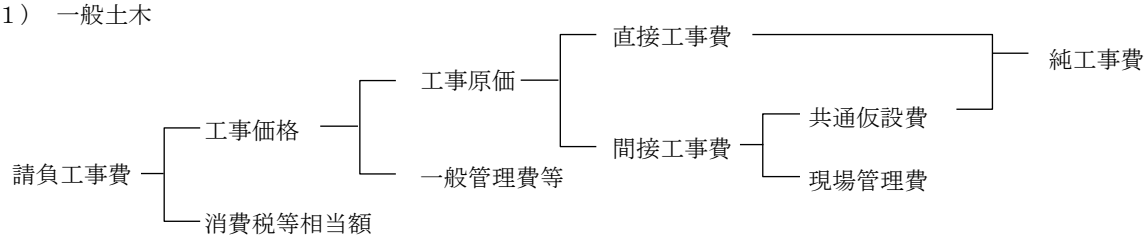
設計書の作成にあたっては，目的とする工事を最も合理的に施工及び監督できるよう施工条件，施工管理，安全施工等に十分留意し，工法歩掛及び単価などについて調査研究をおこない，明確に作成しなければならない。

## ② 請負工事の工事費構成

### 1 工事費の基本構成

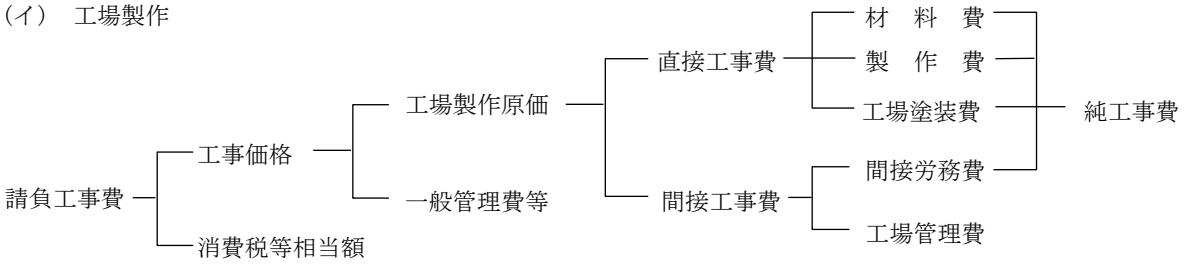
1－1　請負工事費の構成は，次のとおりとする。

（1） 一般土木

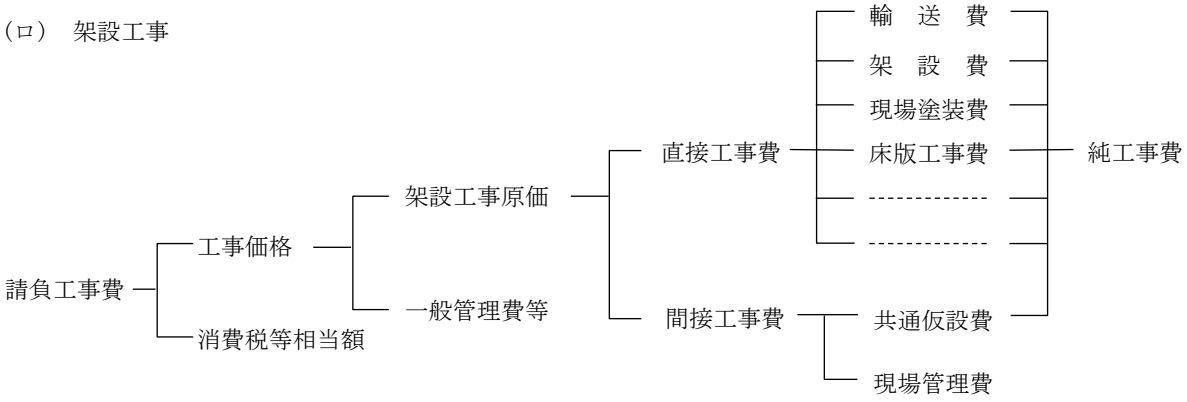



（2） 鋼橋製作

（イ） 工場製作

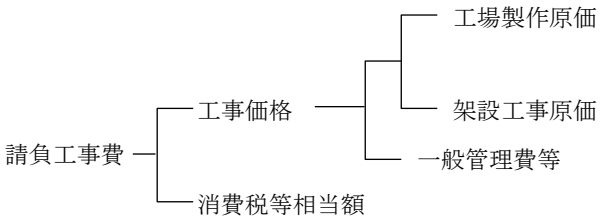



（ロ） 架設工事



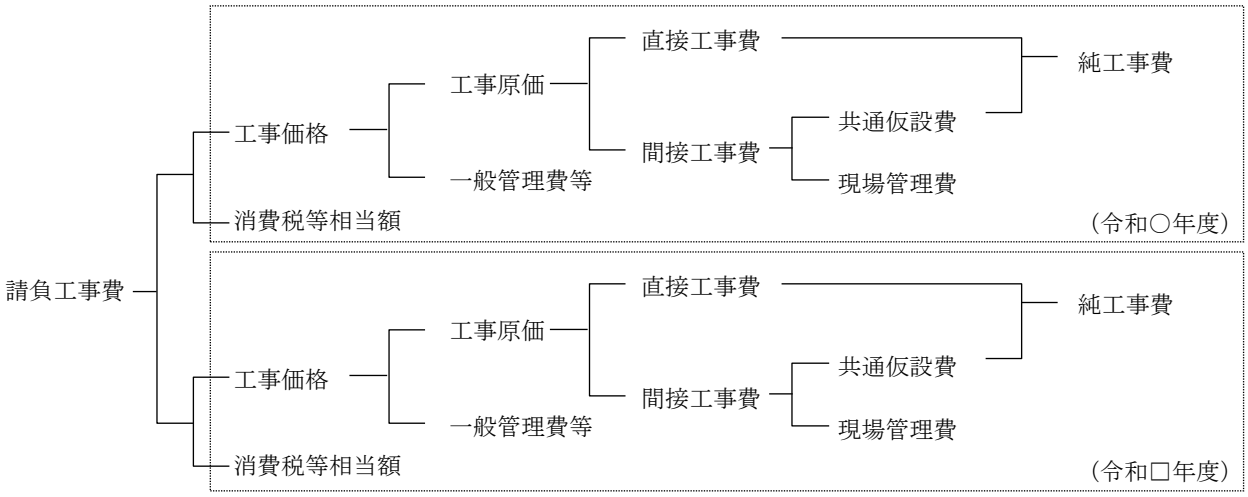

（ハ） 一括請負の場合

工場製作から現場架設まで，一括請負とする場合には次のとおりとする。



（３） 維持工事（複数年度の債務工事）

工種区分が道路維持工事又は河川維持工事のうち，管理を目的とした維持的工事を複数年度に渡って工期を設定し，発注する場合は，次のとおり年度毎に分けて積算するものとする。（２カ年債務の例）




１－２ 請負工事費の費目は，次の各号に掲げるものとする。

（１） 直接工事費

直接工事費は，箇所又は工事種類により各工事部門を工種，種別，細別及び名称に区分し，それぞれの区分ごとに材料費，労務費及び直接経費の３要素について積算するものとし，「第２章 工事費の積算」の「① 直接工事費」による。

（２） 間接工事費

１） 間接工事費は，各工事部門共通の前号以外の工事費及び経費とし，共通仮設費及び現場管理費に分類し，それぞれの構成する費目について積算するものとする。

２） 共通仮設費は，工事施工にあたって，工事目的物の施工に間接的に係る費用とし，「第２章 工事費の積算」の「② 間接工事費 2 共通仮設費」による。

(イ) 運 搬 費
(ロ) 準 備 費
(ハ) 事業損失防止施設費
(ニ) 安 全 費
(ホ) 役 務 費
(ヘ) 技術管理費
(ト) 営 繕 費

３） 現場管理費は，工事施工にあたって，工事を管理するために必要な共通仮設費以外の経費とし，「第２章 工事費の積算」の「③ 間接工事費 3 現場管理費」による。

$$\text{現場管理費率} = \frac{\text{現場管理費}}{\text{純 工 事 費}}$$

ただし，純工事費＝直接工事費＋共通仮設費

（３） 一般管理費等

一般管理費等は，工事施工にあたる企業の継続運営に必要な費用をいい，一般管理費及び付加利益からなり，次の一般管理費等率を用いて積算するものとし，「第３章 一般管理費等及び消費税等相当額」の「① 一般管理費等」による。

$$\text{一般管理費等率} = \frac{\text{一般管理費等}}{\text{工 事 原 価}}$$

（４） 消費税等相当額

消費税等相当額は，消費税及び地方消費税相当分を積算するものとし，「第３章　一般管理費等及び消費税等相当額」の「②　消費税等相当額」による。

# 第２章　工事費の積算


①　直接工事費‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-2-①- 1
　1　材 料 費‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-2-①- 1
　2　歩　　掛‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-2-①- 5
　3　労 務 費‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-2-①- 5
　4　直接経費‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-2-①- 6
　5　諸雑費及び端数処理‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-2-①- 7
　6　注意事項‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-2-①- 7
②　間接工事費‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-2-②- 1
　1　総 則‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-2-②- 1
　2　共通仮設費‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-2-②- 1
　　2-1　共通仮設費の率分‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-2-②- 7
　　2-2　運搬費‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-2-②-11
　　2-3　準備費‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-2-②-26
　　2-4　事業損失防止施設費‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-2-②-27
　　2-5　安全費‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-2-②-28
　　2-6　役務費‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-2-②-29
　　2-7　技術管理費‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-2-②-30
　　2-8　営繕費‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-2-②-32
　3　現場管理費‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-2-②-34
③　現場発生品及び支給品運搬‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-2-③- 1
　1　適用範囲‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-2-③- 1
　2　施工パッケージ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-2-③- 1

平成 30 年度建設工事積算基準

# 第２章　工事費の積算

## ① 直接工事費

### １ 材　　料　　費

材料費は，工事を施工するために必要な材料の費用とし，その算定は次の(1)～(3)によるものとする。

（１） 数　量

数量は，標準使用量に運搬，貯蔵及び施工中の損失量を実状に即して加算するものとする。

（２） 価　格

１） 価格は，原則として，積算時における市場価格とし，消費税相当分は含まないものとする。設計書に計上する材料の単位あたりの価格を設計単価といい，設計単価は，物価資料等を参考とし，買入価格，買い入れに要する費用及び購入場所から現場までの運賃の合計額とするものとする。

当初の支給品の価格決定については，県が購入した資材を支給する場合，現場発生資材を県が保管し再使用品として支給する場合とも，積算時における市場価格または類似品価格とする。

２） 設計単価は，原則として下記のとおりとする。

（イ） 県設定単価による場合

県設定単価は，「建設工事積算基準第１５編（単価）」として通知する単価である。

県設定単価がある場合は，これを積算に用いる単価とする。

（ロ） 物価資料による場合

(イ)に定めていない単価を使用する場合は，単価の決定は，物価資料（「Web 建設物価」と「積算資料電子版」）に掲載している価格の平均値を採用する。ただし，一方の物価資料のみに掲載されているもの，及び掲載条件が著しく異なる場合は，一方の物価資料の価格を採用する。

なお，物価資料は，積算時における最新号を適用する。

注）１．物価資料の掲載価格には，卸売価格～小口価格があるが，原則として卸売価格，又は大口需要者価格を採用するものとする。

２.公表価格として掲載している資材価格はメーカー等が一般に公表している販売希望価格であり，実勢価格と異なるため，積算に用いる単価としない。

ただし，公表価格で割引率（額）の表示がある資材は，その割引率（額）を乗じた（減じた）価格を積算に用いる単価とする。

① 材料単価の端数処理方法について

ａ．材料単価端数処理方法

・材料単価の有効桁数は，物価資料に掲載されている価格の有効桁の大きい方とし，有効桁数以外の端数は切り捨てとする。

・但し桁数の大きい方が２桁以下の場合には最小有効桁数は３桁とする。

・なお，上記方法により算出した単価に小数点以下が存在する場合の単価は，１円までとし，１円未満は切り捨てる。

ｂ．端数処理の例

ＥＸ．１（両物価資料で価格がある場合）

建設物価　５６．５円／Ｌ
積算資料　５７．０円／Ｌ
（有効桁数は３桁）　（平均額）５６．７５円／Ｌ　（４桁目は切捨）　（決定額）５６．７円／Ｌ→５６円／Ｌ（小数点以下を切捨）

建設物価　５６０円／ｋｇ
積算資料　５７０円／ｋｇ
（有効桁数は２桁）　（平均額）５６５円／ｋｇ　（最小有効桁数を３桁とし４桁目切捨）　（決定額）５６５円／ｋｇ

ＥＸ．２（一方の物価資料のみ価格がある場合）

建設物価　５４０円／ｔ　（平均額）　（決定額）
積算資料　掲載無し　５４０円／ｔ→５４０円／ｔ
（有効桁数は２桁）　（最小有効桁数を３桁とし４桁目切捨）

建設物価　掲載無し　（平均額）　（決定額）
積算資料　５７．５円／Ｌ　５７．５円／Ｌ→５７円／Ｌ
（有効桁数は３桁）　（４桁目を切捨）（小数点以下を切捨）

ＥＸ．３

建設物価　１５，９００円／ｔ　（平均額）　（決定額）
積算資料　１５，９９０円／ｔ　１５，９４５円／ｔ→１５，９４０円／ｔ
（有効桁数は４桁）　（最小有効桁数を４桁とし５桁目切捨）

ＥＸ．４

建設物価　３３，８００円／ｔ　（平均額）　（決定額）
積算資料　３４，９００円／ｔ　３４，３５０円／ｔ→３４，３００円／ｔ
（有効桁数は３桁）　（有効桁数３桁で４桁目切捨）

建設物価　３４，０００円／ｔ
積算資料　３５，０００円／ｔ　３４，５００円／ｔ→３４，５００円／ｔ
（有効桁数は２桁）　（最小有効桁数を３桁とし４桁目切捨）

② 掲載価格の採用地区について

ａ．採用地区の優先順位は次のとおりとする。
「工事箇所が所在する都市」→「最寄りの県内都市」→「中国」→「全国」

ｂ．上記採用地区以外（「広島」「岡山」「近畿」「四国」等）の都市別及びブロック別価格は採用しないこと。

③ 隠岐地区の単価決定について

ａ．物価資料により算出した価格に，海上輸送費を加算すること。

ｂ．加算方法については，次式による。
「隠岐地区単価」＝「物価資料算出価格」＋「資材質量」×「単位質量当たりの海上輸送費」

ｃ．「単位質量当たりの海上輸送費」は，「建設工事積算基準第１５編（単価）」に掲載のある資材（当該資材の掲載が無い場合は，類似資材とする。）の単位質量当たりの海上輸送費により決定する。

ｄ．「隠岐地区単価」の有効桁数は「物価資料算出価格」と同じとし，有効桁数以外の端数は切り捨てとする。

（ハ） 上記(イ)，(ロ)により定めることができない場合

上記(イ)，(ロ)により定めることができない単価については，以下による。

① 以下に該当する資材は，特別資材調査により単価決定する。

ａ．超大口取引数量以上に使用する材料（超大口の定義は，物価資料の取引数量欄を参照）

ｂ．ゴム製の支承

ｃ．ＰＣ桁

② ①以外の材料については，見積を徴収する。見積徴収の結果，

ａ．１工事における見積単価×使用数量の総額が１００万円未満の場合は，見積単価を採用する。なお，見積による単価決定は下記による。

（ア）見積は，事務所長名で文書により依頼し，見積有効期限，形状寸法，品質，規格，数量，納入時期，消費税分が含まれるか否か，実勢取引価格による報告及び荷渡し場所・条件（例：現場持ち込み価格，工場渡し価格等）等の具体的条件を明示するものとする。

（イ）原則として，見積りは３社以上から徴収し単価の決定は異常値（徴収した見積り全ての平均値の±３０％を超えるもの）を除いた平均値とする。また，単価の有効桁は３桁（４桁以降切り捨て）とする。ただし，単価は１円までとし，１円未満は切り捨てる。

（ウ）加工を要する材料の場合は，原則加工を含んだ単価とする。

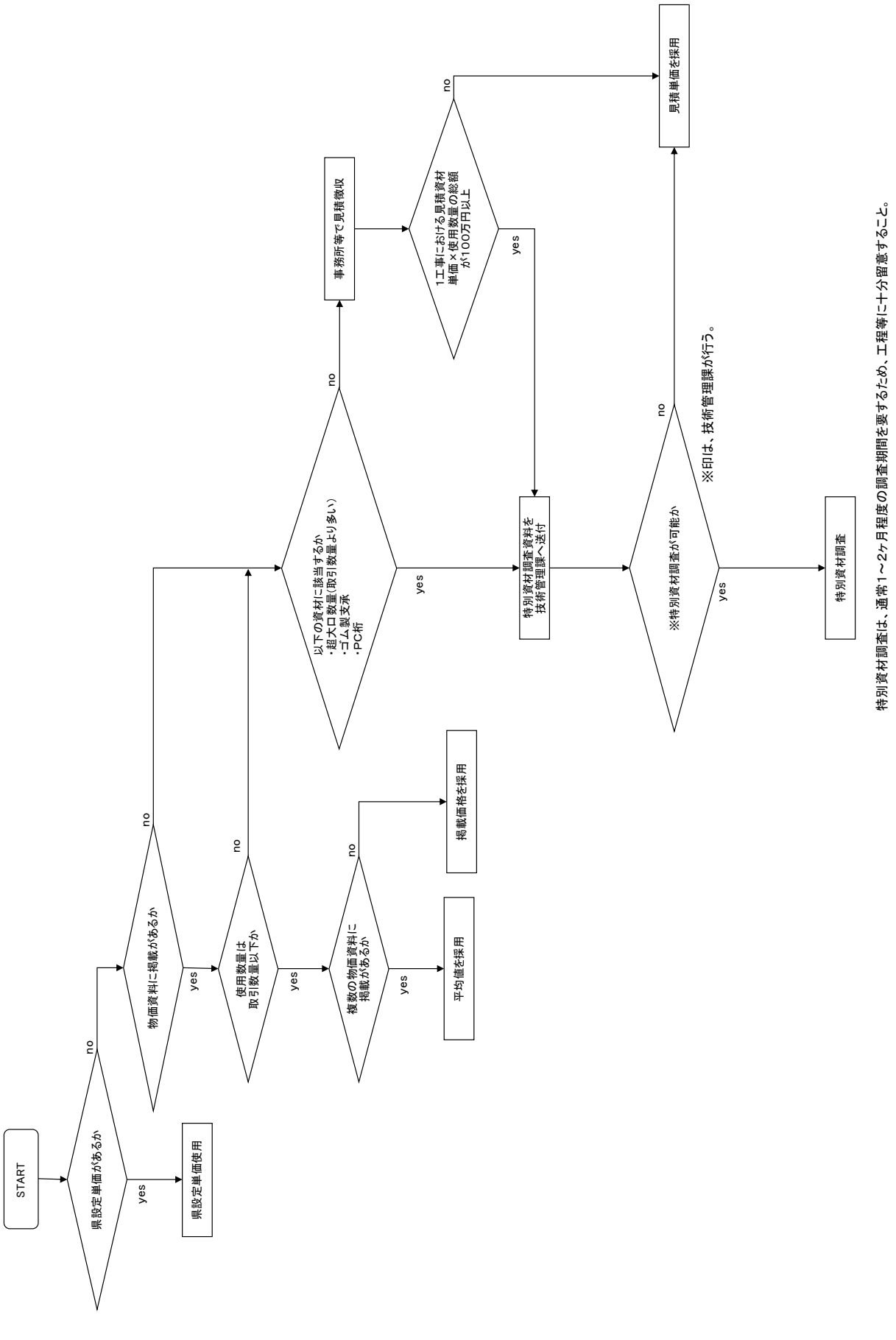
ｂ．１工事における見積単価×使用数量の総額が１００万円以上の場合は，見積徴収した全ての資材について特別資材調査により単価決定するものとする。なお，他工事の実績や物価資料の類似品目の材料単価から類推可能な場合は，見積を省略し，特別資材調査することができる。

（ニ） 変更設計のため,新たな材料単価が必要となった場合は,変更指示時点単価により積算するものとする。

変更指示時点単価とは，変更指示をした時点における最新の「建設工事積算基準第１５編（単価）」及び物価資料の各月号の単価を指す。なお，物価資料は毎月２０日に翌月号が発刊されるが，物価資料の単価を採用する場合は，変更指示をした時点の月と同月号の単価を採用する。

（例：１０月２５日変更指示　→　物価資料１０月号の単価を採用）

（県発注工事の場合）




特別資材調査は、通常1～2ヶ月程度の調査期間を要するため、工程等に十分留意すること。

## 2 歩　　掛

歩掛は，工事を施工するために必要な機械・労務・材料に係る費用とし，その算定は建設工事積算基準及び物価資料によるものとする。

建設工事積算基準にない歩掛や物価資料にない単価については，特別調査又は見積りの取得により歩掛の構成を決定する。

## 3 労　務　費

労務費は，工事を施工するに必要な労務の費用とし，その算定は次の(1)及び(2)によるものとする。

（1） 所要人員

所要人員は，標準的な歩掛（「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工～第１４編森林整備」）によることを原則とする。

（2） 労務賃金

労務賃金は，労働者に支払われる賃金であって，直接作業に従事した時間の労務費の基本給をいい，基本給は，「公共工事設計労務単価」（「建設工事積算基準第１５編（単価）」）等を使用するものとする。

基準作業時間外の作業及び特殊条件により作業に従事して支払われる賃金を割増賃金といい，割増賃金は，従事した時間及び条件によって加算するものとする。

（3） 夜間工事の労務単価

次に掲げる場合は，以下の通り労務単価の割増しを行うものとする。

1） 通常勤務すべき時間帯（８ｈ～17ｈ）を超えて，作業を計画する場合は以下とする。

（イ） 深夜時間（22ｈ～５ｈ）については，深夜時間外割増し（基準額×割増対象賃金比×1.50）とする。

（ロ） 上記(イ)以外の通常勤務すべき時間帯（８ｈ～17ｈ）を超えた時間帯は，時間外割増し（基準額×割増対象賃金比×1.25）とする。

なお，休憩は超過勤務４時間を超えるごとに 30 分の休憩を与えるものとする。

2） ２交替，３交替を計画する場合，所定労働時間（実働時間８ｈ＋休息時間１ｈ）内は，基準額とする。その内，深夜部分（22ｈ～５ｈ）にかかる時間帯は，深夜割増し（基準額×割増対象賃金比×0.25）を加算するものとする。

ただし，２交替の場合にあって，所定労働時間を超える場合は，時間外割増し(基準額×割増対象賃金比×1.25)，及び深夜時間外割増し(基準額×割増対象賃金比×1.50)を加算する。〔例－１〕，〔例－２〕

3） 現場条件により，やむを得ず，通常勤務すべき時間帯（８ｈ～17ｈ）をはずして作業を計画する場合は，次による。〔例－３〕

（イ） 所定労働時間内で 17ｈ～20ｈ及び，６ｈ～８ｈにかかる時間帯は，基準額とする。

（ロ） 所定労働時間内で 20ｈ～６ｈにかかる時間帯は基準額に 1.5 を乗ずる。

ただし，作業開始から所定労働時間内までとし，所定労働時間を超えた時間帯については，前の１)項による。

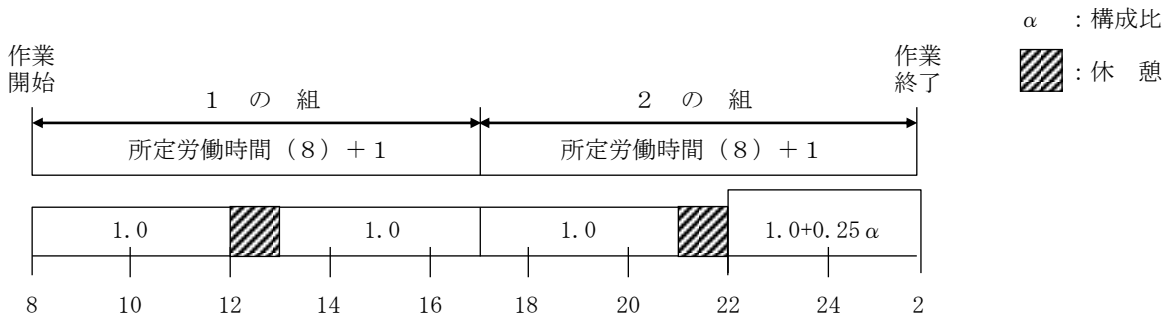
(令和２年５月１日以降適用)

（4） 休日作業の労務単価

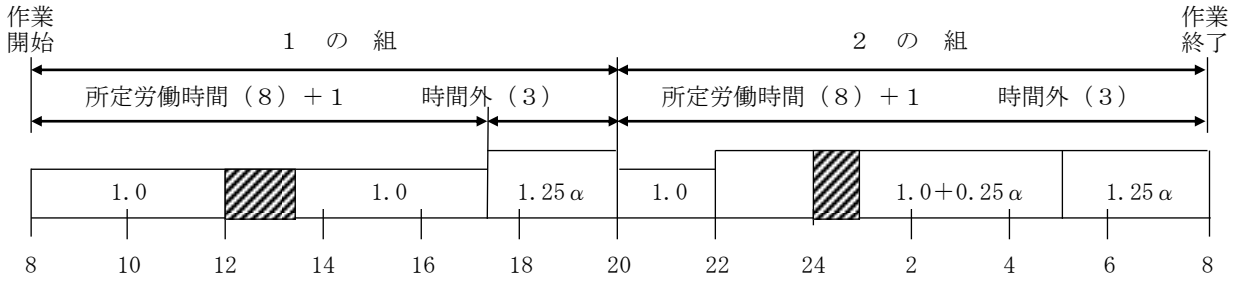
災害対応などの緊急時等，やむを得ず法定休日に作業を行う場合には，休日割増(基準額×割増対象賃金比×1.35)を計上するものとする。

法定休日とは，使用者の定める週一回以上，もしくは４週間のうちに４日以上の休日とする。

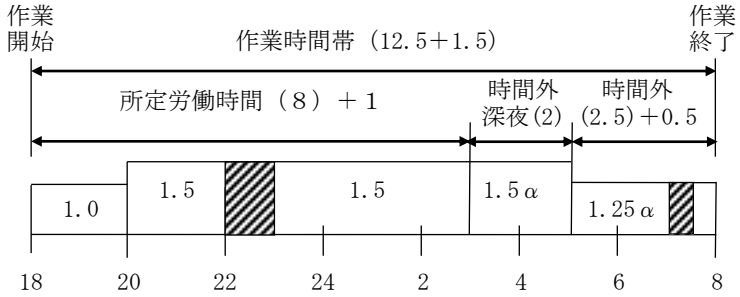
〔例－１〕



〔例－２〕




〔例－３〕




**４ 直 接 経 費**

直接経費は，工事を施工するために直接必要とする経費とし，その算定は次の(1)から(3)までによるものとする。

（１） 特許使用料

特許使用料は，契約に基づき使用する特許の使用料及び派出する技術者等に要する費用の合計額とするものとする。

（２） 水道光熱電力料

１） 水道光熱電力料は，工事を施工するために必要な電力，電灯使用料，用水使用料及び投棄料等とするものとする。

２） 電力料金は，一般と夏季（７，８，９月）の２種類になるので下記により積算する。

（イ） 一般工事・・・一般料金で積算

（ロ） 特別工事・・・電力の使用期間によって，一般と夏季料金別で積算

注） 特別工事とは，電力を多く使用する，ダム・トンネル等の工事とする。

（３） 機械経費

機械経費は，工事を施工するために必要な機械の使用に要する経費(材料費，労務費を除く。）で，その算定は「第１５章請負工事機械経費積算要領」に基づいて積算するものとする。

## ５ 諸雑費及び端数処理

（１） 諸雑費

１） 諸雑費の定義

当該作業で必要な労務，機械損料及び材料等でその金額が全体の費用に比べて著しく小さい場合に，積算の合理化及び端数処理を兼ねて一括計上する。

２） 単価表

（イ） 単価表(歩掛表に諸雑費率があるもの)

単位数量当りの単価表の合計金額が，有効数字４桁になるように原則として所定の諸雑費率以内で端数を計上する。

（ロ） 単価表(歩掛表に諸雑費率がなく，端数処理のみの場合)

単位数量当りの単価表の合計金額が，有効数字４桁になるように原則として端数を計上する。

（ハ） 金額は「諸雑費」の名称で計上する。

３） 内訳書

諸雑費は計上しない。

（２） 端数処理

１） 単価表及び内訳書の各構成要素の数量×単価＝金額は１円までとし，１円未満は切り捨てる。ただし，施工パッケージの施工内訳表単位当り積算単価は，有効数字４桁とし５桁目以降切り上げる。

２） 歩掛における計算結果の端数処理については，各々に定めのある場合を除き，小数第３位までとし，４位以下を四捨五入する。

３） 共通仮設費の率計上の金額は1，000円単位とし，1，000円未満は切り捨てる。

４） 現場管理費の金額は，1，000円単位とし，1，000円未満は切り捨てる。

５） 工事価格は，1，000円単位とする。工事価格の1，000円単位での調整は，一般管理費等で行うものとし，「第Ⅰ編第３章　一般管理費等及び消費税等相当額」で算出された一般管理費等の計算額より，端数処理前の工事価格の1，000円未満の金額を除いた額を計上する。

## ６ 注 意 事 項

（１） 歩掛の中で率計上となっている諸雑費について

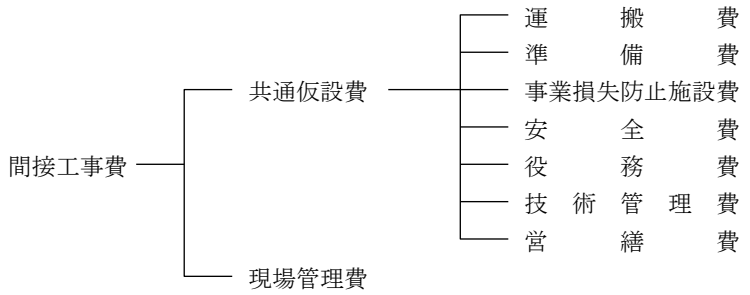
諸雑費は，雑材料，小器材の費用等について，積算の繁雑さを避けるため率計上するとともに，単価表作成にあたっての端数処理を兼ねたものである。

計上にあたっては，所定の諸雑費率の上限とし，当該金額を超えない範囲で端数処理を行うものである。

# ② 間接工事費

## 1. 総　　則

この算定基準は，間接工事費の算定に係る必要な事項を定めたものである。間接工事費の構成は，下記のとおりとする。




## 2. 共 通 仮 設 費

（1） 工種区分

共通仮設費は，表－１に掲げる区分ごとに算定するものとする。

1） 工種区分は，工事名にとらわれることなく，工種内容によって適切に選定するものとする。

2） ２種以上の工種内容からなる工事については，その主たる工種区分を適用するものとする。なお，主たる工種とは，(2)の1)に定める対象額の大きい方の工種をいう。ただし，対象額で判断しがたい場合は直接工事費で判断してよい。

3） 変更設計時に数量の増減等により主たる工種が変わっても当初設計の工種とする。

（2） 算定方法

共通仮設費の算定は，別表第１の工種区分にしたがって所定の率計算による額と積上げ計算による額とを加算しておこなうものとする。

1） 率計算による部分

下記に定める対象額ごとに求めた率に，当該対象額を乗じて得た額の範囲内とする。

対象額（P）

＝ 直接工事費＋(支給品費＋無償貸付機械等評価額)＋事業損失防止施設費＋準備費に含まれる処分費

(イ) 下記に掲げる費用は対象額に含めない。

a．簡易組立式橋梁，プレキャストＰＣ桁，プレキャストＰＣ床版，グレーチング床版，合成床版製品費，ポンプ，大型遊具(設計製作品)，光ケーブルの購入費

b．上記ａを支給する場合の支給品費

c．鋼桁，門扉等の工場製作に係る費用のうちの工場原価（工場製作品を含む。）

d．工場製作関係工種のうち材料費（製作費含む）として積算する項目の費用（別表参照）。なお，これら費用は現場管理費についても率計算の対象額に含めない。

(ロ) 支給品費及び無償貸付機械等評価額は「直接工事費＋事業損失防止施設費」に含まれるものに限るものとする。

電力を支給する場合は，支給電力料金（使用電力料金）を対象とする。ただし，コンクリートダム工事・フィルダム工事については，支給電力料を対象額に含めないものとする。

また，別途製作工事等で製作し，架設及び据付工事等を分離して発注する場合は，当該製作費は対象額に含めない。

(ハ) 無償貸付機械等評価額の算定は次式によりおこなうものとする。

$$\left(\begin{array}{l}\text{無償貸付機械等}\\\text{評価額}\end{array}\right)=\left(\begin{array}{l}\text{無償貸付機械と同機種、同}\\\text{型式の建設機械等損料額}\end{array}\right)-\left(\begin{array}{l}\text{当該建設機械等の設計書に}\\\text{計上された経費}\end{array}\right)$$

（貸付にかかる損料額）　　（業者持込の損料額）　　（無償貸付機械等損料額）

（ニ） 鋼橋桁等の輸送に係る間接費(対象額に対する率計算の場合)の積算は，発注形態別に次表によるものとする。

| 工種 / 形態 | 共通仮設費 | 現場管理費 | 一般管理費等 |
|---|---|---|---|
| 製　作＋輸　送＋架設等 | ○ | ○ | ○ |
| 製　作＋輸　送 | × | ○ | ○ |
| 輸　送＋架設等 | ○ | ○ | ○ |
| 輸　　送 | × | ○ | ○ |
| 架　設　等 | ○ | ○ | ○ |

○対象とする ×対象としない

（注） 購入桁については，製作を購入と読み替える。

2） 積上げ計算による部分

現場条件等を適確に把握することにより必要額を適正に積上げるものとする。

3） 条件明示

安全対策上，重要な仮設物等については設計図書に条件明示し，極力指定仮設とするものとする。

4） 適用除外

この算定基準によることが困難又は不適当であると認められるものについては，適用除外とすることが出来る。

5） 間接工事費等の項目別対象表

| 間接工事費等 | | 共通仮設費 | 現場管理費 | 一般管理費等 |
|---|---|---|---|---|
| 対象額 / 項目 | | 対象額 | 直接工事費＋共通仮設費＝純工事費 | 純工事費＋現場管理費＝工事原価 |
| 桁等購入費 | | × | ○ | ○ |
| 処分費等 | | 処分費等(投棄料・上下水道料金・有料道路利用料の取扱いは，（注）（ト）参照) | | |
| 支給品費等 | 桁等購入費 | × | ○ | × |
| | 一般材料費 | ○ | ○ | × |
| | 別途製作の製作費 | × | × | × |
| | 電力 | ○ | ○ | × |
| 無償貸付機械評価額 | | ○ | ○ | × |
| 鋼橋門扉等工場原価 | | × | × | ○ |
| 現場発生品 | | × | × | × |
| ダム工事 | 支給電力料(基本料金含む) | × | × | × |
| | 無償貸付機械評価額 | ○ | × | × |
| 橋梁ゴム沓価格 | 鋼橋 | × | × | ○ |
| | コンクリート橋 | ○ | ○ | ○ |

○対象とする ×対象としない

（注）（イ） 共通仮設費対象額とは，直接工事費＋支給品費＋無償貸付機械等評価額＋事業損失防止施設費＋準備費に含まれる処分費である。

（ロ） 桁等購入費とは，簡易組立式橋梁，プレキャストＰＣ桁，プレキャストＰＣ床版，グレーチング床版，合成床版製品費，ポンプ，大型遊具（設計製作品），光ケーブルの購入費をいう。

（ハ） 無償貸付機械等評価額とは，無償貸付機械と同機種同型式の建設機械等損料額から当該建設機械等の設計書に計上された額を控除した額をいう。

（ニ） 別途製作する標識柱〔オーバーハング式（Ｆ型，Ｔ型，逆Ｌ型，ＷＦ型），オーバーヘッド式〕，しゃ音壁支柱，鋼製砂防堰堤，鋼製スリット堰堤，鋼橋製作工の支承や排水装置等，工場製作品単価の場合の扱いは，鋼橋・門扉等工場原価の取扱いに準ずるものとする。（ｔ当り製作単価として取扱う場合）

（ホ） 現場発生品とは，同一現場で発生した資材を物品管理法で規定する処理を行わず再使用する場合をいう。

（ヘ） 別途製作したものを一度現場に設置した後に発生品となり再度支給する場合の扱いは，別途製作の製作費（材料費含む）と同じ扱いとする。

（ト） 「処分費等」の取扱い

「処分費等」とは，下記のものとし，「処分費等」を含む工事の積算は，当該処分費等を直接工事費に計上し，間接工事費等の積算は，表のとおりとする。

1） 処分費（再資源化施設の受入費を含む）

2） 上下水道料金

3） 有料道路利用料

| 区　分 | 処分費等が「共通仮設費対象額(Ｐ)」の３％以下でかつ処分費等が３千万円以下の場合 | 処分費等が「共通仮設費対象額(Ｐ)」の３％を超える場合又は処分費等が３千万円を超える場合 |
|---|---|---|
| 共通仮設費 | 処分費等は全額を率計算の対象とする。 | 処分費等は「共通仮設費対象額(Ｐ)」の３％の金額を率計算の対象とし，３％を超える金額は率計算の対象としない。<br>ただし，対象とする金額は３千万円を上限とする。 |
| 現場管理費 | 処分費等は全額を率計算の対象とする。 | 処分費等は「共通仮設費対象額(Ｐ)」の３％の金額を率計算の対象とし，３％を超える金額は率計算の対象としない。<br>ただし，対象とする金額は３千万円を上限とする。 |
| 一般管理費等 | 処分費等は全額を率計算の対象とする。 | 処分費等は「共通仮設費対象額(Ｐ)」の３％の金額を率計算の対象とし，３％を超える金額は率計算の対象としない。<br>ただし，対象とする金額は３千万円を上限とする。 |

（注）１．上表の処分費等は，準備費に含まれる処分費を含む。
なお，準備費に含まれる処分費は伐開，除根等に伴うものである。

２．処分費を計上する場合は，「２．共通仮設費　２－３準備費」による。

３．上表により難い場合は別途考慮するものとする。

別表　本建設工事積算基準に記載のある工場製作関係工種のうち，材料費（製作費含む）として積算する項目

| 工場製作関係工種 | 項目 |
|---|---|
| 道路標識設置工 | 大型標識柱製作〔オーバーハング式(Ｆ型，Ｔ型，逆Ｌ型，ＷＦ型)オーバーヘッド式〕 |
| ニューマチックケーソン工 | 刃口金物製作 |
| 床版補強工（鋼板接着工法） | 鋼板製作 |
| 床版補強工（増桁架設工法） | 桁製作 |
| 遮音壁設置工 | 支柱製作 |
| ＰＣ橋片持架設工 | 鋼製型枠製作 |
| 鋼管矢板基礎工 | コネクター，導枠製作 |
| 鋼板巻立工（エポキシ樹脂構造） | 鋼板製作 |
| 鋼板巻立工（無収縮モルタル構造） | 鋼板製作 |
| 鋼橋製作工 | 支承，排水装置製作 |
| 桁連結工 | 桁連結装置製作 |
| 鋼製砂防工 | 鋼製砂防堰堤製作<br>鋼製スリット堰堤製作 |

（注）１．上記項目の費用は，共通仮設費及び現場管理費の率計算の対象額に含めない。
２．上記以外の工場製作関係工種の項目について，共通仮設費及び現場管理費の率計算の対象額に含めるか否かについては，見積や特別資材調査の結果を参考に判断すること。
３．落橋防止装置工の項目（鋼製ブラケット製作等）については「平成２９年８月２８日付技第３１１号落橋防止装置工の積算について」によること。

**表－1 工 種 区 分**

| 工種区分 | 工　種　内　容 |
|---|---|
| 河川工事 | 河川工事にあって，次に掲げる工事<br>築堤工，掘削工，浚渫工，護岸工，特殊堤工，根固工，水制工，水路工，河床高水敷整正工，堤防地盤処理工，河川構造物グラウト工，光ケーブル配管工等の補修及びこれらに類する工事<br>ただし，河川高潮対策区間の河川工事については「海岸工事」とする |
| 河川・道路<br>構造物工事 | 河川における構造物工事及び道路における構造物工事にあって，次に掲げる工事<br>1. 樋門(管)工，水(閘)門工，サイフォン工，床止(固)工，堰，揚排水機場，ロックシェッド(ＲＣ構造)，スノーシェッド(ＲＣ構造)，防音(吸音・遮音)壁工，コンクリート橋，簡易組立橋梁，仮橋・仮桟橋，ＰＣ橋(プレキャストセグメントを除く工場製作桁の場合)等の工事及びこれらの下部・基礎のみの工事<br>ただし，河川高潮対策区間における樋門(管)工，水(閘)門工については「海岸工事」とする<br>2. 橋梁下部工（ＲＣ構造），床版工（ＲＣ構造及びプレキャストＰＣ構造）<br>3. ゴム伸縮継手，落橋防止工(ＲＣ構造)，コンクリート橋の支承，高欄設置工(コンクリート，石材等)，旧橋撤去工(コンクリート橋上下部)，トンネル内装工(新設トンネル)<br>4. １・２及び３に類する工事<br>ただし，工種区分の橋梁保全工事に該当するものは除く。また，門扉等の工場製作及び揚排水機場の上屋は除く |
| 海岸工事 | 海岸工事にあって，次に掲げる工事<br>堤防工，突堤工，離岸堤工，消波根固工，海岸擁壁工，護岸工，樋門(管)工，河口浚渫，水(閘)門工，養浜工，堤防地盤処理工及びこれらに類する工事<br>河川高潮対策区間の河川工事にあって，次に掲げる工事<br>築堤工，掘削工，浚渫工，護岸工，特殊堤工，根固工，水制工，水路工，河床高水敷整正工，堤防地盤処理工，河川構造物グラウト工，樋門(管)工，水(閘)門工，光ケーブル配管工，護岸工等の補修及びこれらに類する工事 |
| 道路改良工事 | 道路改良工事にあって，次に掲げる工事<br>土工，擁壁工，函(管)渠工，側溝工，山止工，法面工，落石防止柵工，雪崩防止柵工，道路地盤処理工，標識工，防護柵工及びこれらに類する工事 |
| 鋼橋架設工事 | 鋼橋等の運搬架設に関する工事にあって，次に掲げる工事<br>1. 鋼橋架設工，鋼橋塗装工，鋼橋塗替工，橋梁検査路設置工，高欄設置工(鋼製・アルミ等)，スノーシェッド(鋼構造)，ロックシェッド(鋼構造)，道路付属物を除く鋼構造物塗替工(水門，樋門，樋管，排水機場等)，床版工（ＲＣ構造及びプレキャストＰＣ構造を除く），橋梁下部工(鋼製)<br>2. 簡易組立橋の塗装工事及びこれらに類する工事<br>3. 鋼橋撤去工（鋼橋に伴う床版撤去含む）<br>ただし，工種区分の橋梁保全工事に該当するものは除く。 |
| ＰＣ橋工事 | ＰＣ橋に関する工事にあって，次に揚げる工事<br>1. 工事現場におけるＰＣ桁の製作(工場製作桁は除く)，架設及び製作架設に関する工事<br>2. プレキャストセグメント構造のＰＣ橋工事 |
| 橋梁保全工事 | 橋梁（上部工，下部工）に関するすべての保全，補修，補強工事及び既設橋梁の橋梁付属物工の修繕工事（塗装，舗装打ち替え等は除く） |

| 工種区分 | | 工　種　内　容 |
|---|---|---|
| 舗装工事 | | 舗装の新設，修繕工事にあって，次に掲げる工事<br>セメントコンクリート舗装工，アスファルト舗装工，セメント安定処理路盤工，アスファルト安定処理路盤工，砕石路盤工，凍上抑制層工，コンクリートブロック舗装工，路上再生処理工，切削オーバーレイ工及びこれらに類する工事<br>ただし，小規模(パッチング等)な工事で施工箇所が点在する工事は除く |
| 共同溝等工事 | (1) | 共同溝及び地下立体交差工事(地下駐車場，地下横断歩道等)にあって，次に掲げる工事<br>施工方法がシールド工法又は作業員が内部で作業する推進工法による工事 |
| | (2) | 共同溝及び地下立体交差工事(地下駐車場，地下横断歩道等)にあって，次に掲げる工事<br>施工方法が開削工法による工事 |
| トンネル工事 | | トンネルに関する工事にあって，次に掲げる工事<br>1.トンネル工事<br>2.施工方法がシールド工法又は作業員が内部で作業する推進工法による工事<br>ただし，本体工を完成後別件で照明設備，舗装，側溝等を発注する場合，又は供用開始後の照明設備，吹付け，舗装，修繕工事等は除く |
| 砂防・地すべり等工事 | | 砂防，地すべり工事及び急傾斜地崩壊防止施設工事にあって，次に掲げる工事<br>堰堤工，流路工，山腹工，抑制工，抑止工，床固工，落石なだれ防止工，集水井工，集排水井ボーリング工，排水トンネル工及びこれらに類する工事 |
| 道路維持工事 | | 道路にあって，次に掲げる工事<br>1.管理を目的とした維持的工事<br>2.道路附属物塗替工，防雪柵設置撤去工※1，トンネル漏水防止工，トンネル内装工(供用トンネル)，路面切削工，路面工，法面工等の維持・補修※2に関する工事<br>3.道路標識※1，道路情報施設，電気通信設備，防護柵※1，樹木等及び区画線等の設置<br>4.除草，除雪，清掃及び植栽等の緑地管理に関する作業<br>5.１，２，３及び４に類する工事<br>※１：局部的新設，復旧・更新を主とする場合に適用<br>※２：法面工の補修については局部的な場合に適用 |
| 河川維持工事 | | 河川維持工事(河川高潮対策区間の工事を含む)にあって，次に掲げる工事<br>1.管理を目的とした維持的工事<br>2.堤防天端・法面等の補修工事<br>3.標識，境界杭，防護柵及び駒止め等の設置<br>4.道路における電気通信設備以外の当該設備工事<br>5.河川の伐開，除草，清掃，芝養生，水面清掃等の作業<br>6.１，２，３，４及び５に類する工事 |
| 下水道工事 | （1） | 下水道に関する工事にあって，次に掲げる工事<br>施工方法がシールド工法又は作業員が内部で作業する推進工法による管渠工事 |
| | （2） | 下水道に関する工事にあって，次に掲げる工事<br>施工方法が開削工法又は小口径の推進工法による管渠工事 |
| | （3） | 下水道に関する工事にあって，次に掲げる工事<br>ポンプ場工事，処理場工事及びこれらに類する土木工事（機械設備，電気設備，建築・建築設備は除く） |
| 公園工事 | | 公園及び緑地の造成整備に関する工事にあって，次に掲げる工事<br>敷地造成工，園路広場工，植樹工，除草工，芝付工，花壇工，日陰棚工，ベンチ工，池工，遊戯施設工，運動施設工，標識工及びこれらに類する工事 |
| コンクリートダム工事 | | コンクリートダム本体を主体とする工事 |
| フィルダム工事 | | フィルタイプでダム本体を主体とする工事 |
| 電線共同溝工事 | | 電線共同溝に関する工事 |
| 情報ボックス工事 | | 情報ボックスに関する工事(耐火防護も含む) |

２－１　共通仮設費の率分

（１）　共通仮設費の率分の積算

１）　共通仮設費の率分の算定は，別表第１(第１表～第５表)の工種区分に従って対象額ごとに求めた共通仮設費率を，当該対象額に乗じて得た額の範囲内とする。

２）　対象額の算定にあたっては，「２．共通仮設費（２）算定方法 1)率計算による部分」及び「２．共通仮設費（２）算定方法 5)間接工事費等の項目別対象表」を参照のこと。

（２）　共通仮設費率の補正

１）　施工地域を考慮した共通仮設費率の補正及び計算

イ）　表－２の適用条件に該当する場合，別表第１（第１表～第４表）の共通仮設費率に補正係数を乗じるものとする。

表－２　地域補正の適用（令和２年３月３１日まで適用）

| 適用条件 | | | 補正係数 | 適用優先 |
|---|---|---|---|---|
| 施工地域区分 | 工種区分 | 対象 | | |
| 市街地（DID 補正）（１） | 鋼橋架設工事<br>電線共同溝工事<br>道路維持工事<br>舗装工事<br>橋梁保全工事 | 市街地部が施工箇所に含まれる場合。 | 1.3 | 1 |
| 一般交通影響有り（１） | 全ての工種（※） | ２車線以上（片側１車線以上）かつ交通量（上下合計）が 5,000 台/日以上の車道において，車線変更を促す規制を行う場合。ただし，常時全面通行止めの場合は対象外とする。 | 1.3 | 2 |
| 一般交通影響有り（２） | 全ての工種（※） | 一般交通影響有り（１）以外の車道において，車線変更を促す規制を伴う場合。(常時全面通行止めの場合を含む。) | 1.2 | 3 |
| 市街地（DID 補正）（２） | 市街地（DID 補正）（１）以外（※） | 市街地（DID 補正）（１）で適用となる工種区分以外で，市街地部が施工箇所に含まれる場合。 | 1.2 | 4 |
| 離　　島 | 全ての工種（※） | | 1.3 | 5 |

※コンクリートダム及びフィルダム工事は適用しない。

（注）１．市街地とは，施工地域が人口集中地区（ＤＩＤ地区）及びこれに準ずる地区をいう。

なお，ＤＩＤ地区とは，総務省統計局国勢調査による地域別人口密度が4，000人／㎢2以上でその全体が5，000人以上となっている地域をいう。(松江市，出雲市，益田市，浜田市，安来市の一部)

これに準ずる地区とは，総務省が規定する「準人口集中地区」をいう。

２．適用条件の複数に該当する場合は，適用優先順に従い決定するものとする。

表－２　地域補正の適用（令和２年４月１日以降適用）

| 適用条件 | | | 補正係数 | 適用優先 |
|---|---|---|---|---|
| 施工地域区分 | 工種区分 | 対象 | | |
| 市街地（DID 補正）（１）－１ | 電線共同溝工事<br>道路維持工事<br>舗装工事<br>橋梁保全工事 | 市街地部が施工箇所に含まれる場合。 | 1.4 | 1 |
| 一般交通影響有り（１）－１ | 電線共同溝工事<br>道路維持工事<br>舗装工事<br>橋梁保全工事 | ２車線以上（片側１車線以上）かつ交通量（上下合計）が 5,000 台/日以上の車道において，車線変更を促す規制を行う場合。ただし，常時全面通行止めの場合は対象外とする。 | | |
| 一般交通影響有り（２）－１ | 電線共同溝工事<br>道路維持工事<br>舗装工事<br>橋梁保全工事 | 一般交通影響有り（１）以外の車道において，車線変更を促す規制を伴う場合。（常時全面通行止めの場合を含む。） | | |
| 市街地（DID 補正）（１）－２ | 鋼橋架設工事 | 市街地部が施工箇所に含まれる場合。 | 1.3 | 2 |
| 一般交通影響有り（１）－２ | 電線共同溝工事、道路維持工事、舗装工事、橋梁保全工事以外の工種（※） | ２車線以上（片側１車線以上）かつ交通量（上下合計）が 5,000 台/日以上の車道において，車線変更を促す規制を行う場合。ただし，常時全面通行止めの場合は対象外とする。 | 1.3 | 3 |
| 一般交通影響有り（２）－２ | 電線共同溝工事、道路維持工事、舗装工事、橋梁保全工事以外の工種（※） | 一般交通影響有り（１）以外の車道において，車線変更を促す規制を伴う場合。（常時全面通行止めの場合を含む。） | 1.2 | 4 |
| 市街地（DID 補正）（１）－３ | 鋼橋架設工事、電線共同溝工事、道路維持工事、舗装工事、橋梁保全工事以外の工種（※） | 市街地部が施工箇所に含まれる場合。 | 1.2 | 5 |
| 離　　島 | 全ての工種（※） | | 1.3 | 6 |

※コンクリートダム及びフィルダム工事は適用しない。

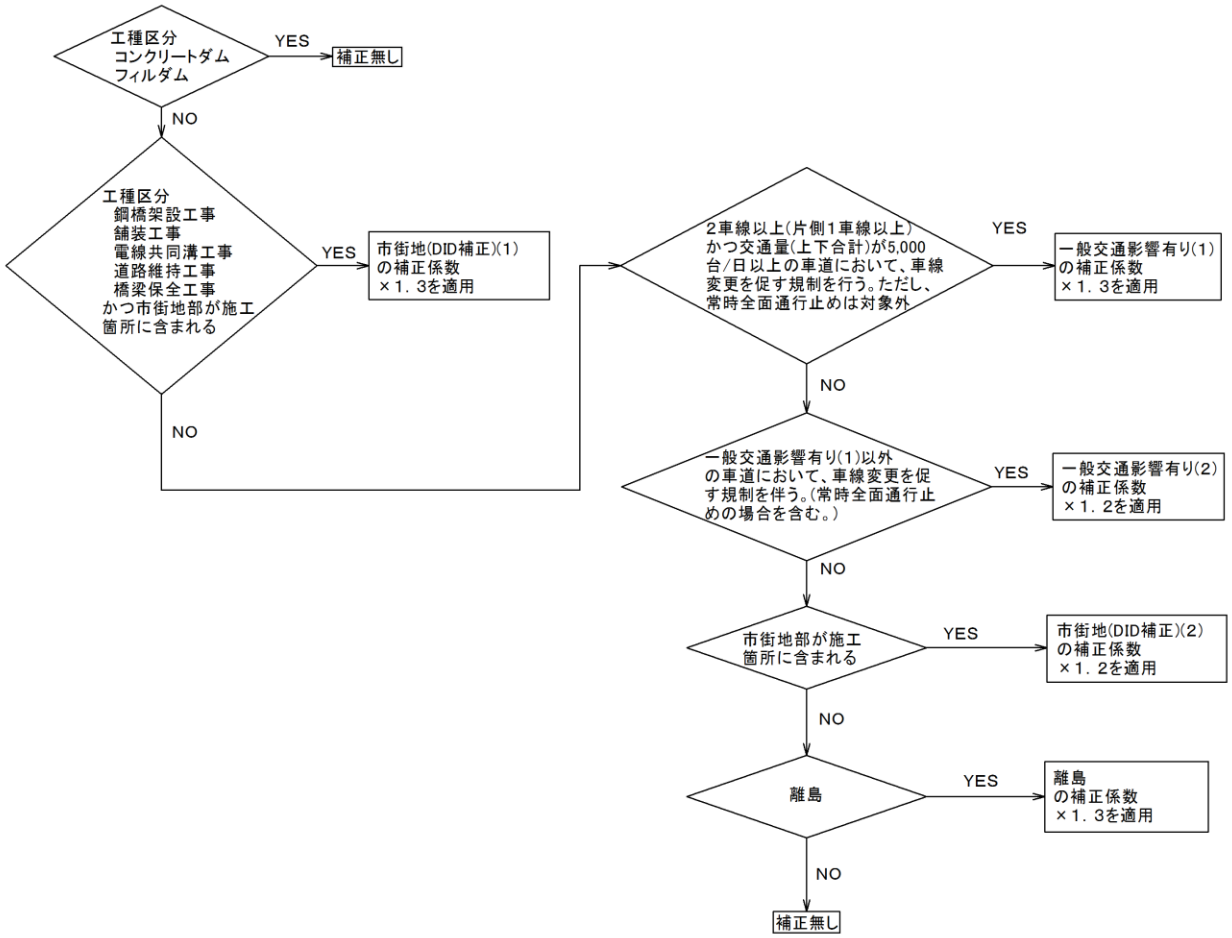
（注）１．市街地とは，施工地域が人口集中地区（ＤＩＤ地区）及びこれに準ずる地区をいう。

なお，ＤＩＤ地区とは，総務省統計局国勢調査による地域別人口密度が4，000人／㎢2以上でその全体が5，000人以上となっている地域をいう。（松江市，出雲市，益田市，浜田市，安来市の一部）

これに準ずる地区とは，総務省が規定する「準人口集中地区」をいう。

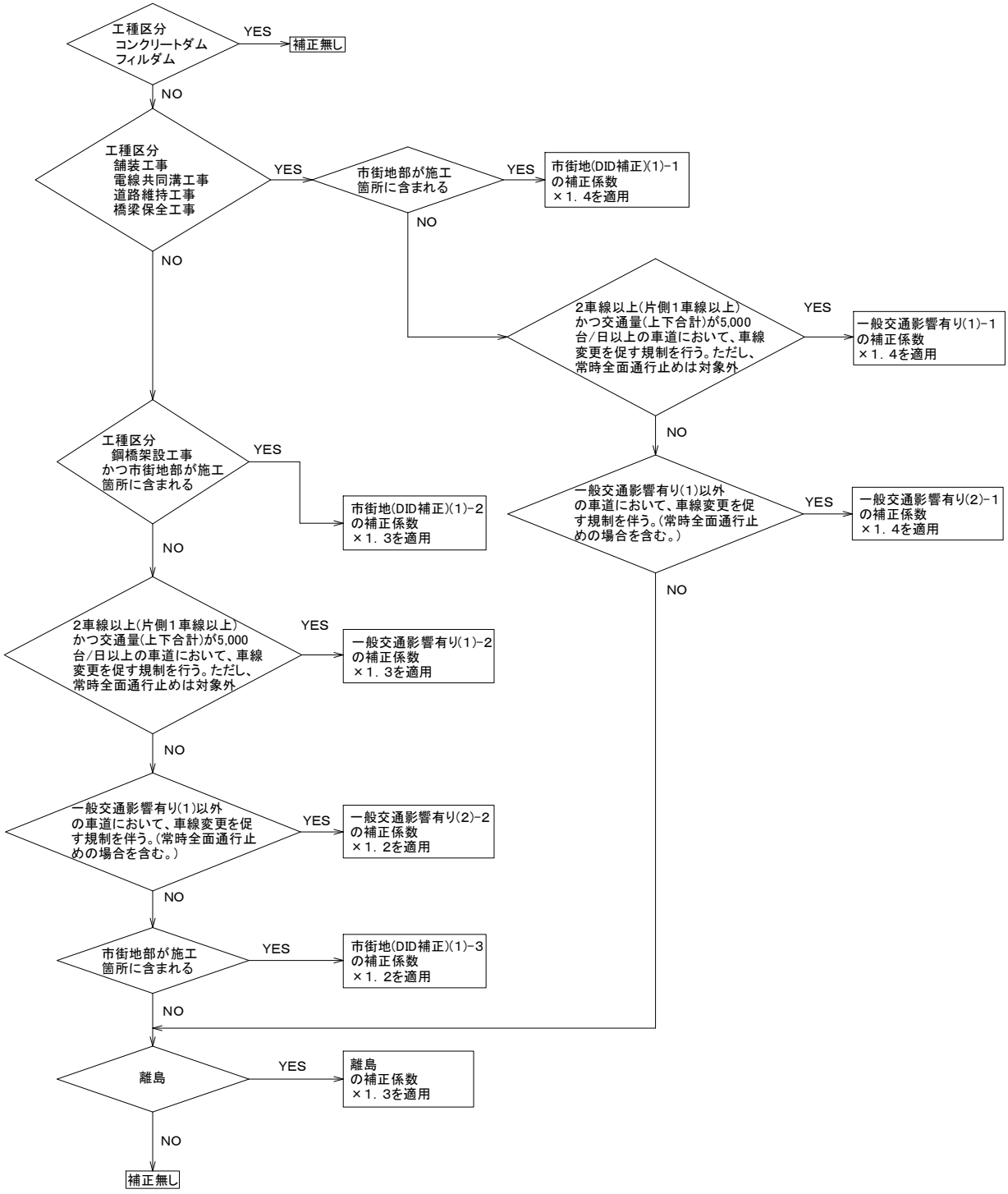
２．適用条件の複数に該当する場合は，適用優先順に従い決定するものとする。

（令和２年３月３１日まで適用）




図－１　地域補正の適用フロー

（令和２年４月１日以降適用）




図－１　地域補正の適用フロー

ロ） 共通仮設費（率分）の計算

共通仮設費(率分)＝対象額(Ｐ)×共通仮設費率(Ｋｒ)×施工地域を考慮した補正係数

ただし，共通仮設費率は別表第１（第１表～第４表）による。

なお，補正係数を乗じる場合は，Ｋｒの端数処理後に係数を乗じて，小数点以下第３位を四捨五入して２位止めとする。

２）その他

イ） 災害の発生等により，本基準において想定している状況と実態が乖離している場合などについては，上記１）のほか，必要に応じて実態等を踏まえた補正係数を設定することができるものとする。

ロ） 設計変更時における共通仮設費率の補正については，工事区間の延長等により当初計上した補正値に増減が生じた場合，あるいは当初計上していなかったが，上記条件の変更により補正出来ることとなった場合は設計変更の対象として処理するものとする。

**別表第1**

共通仮設費率

**第1表**

| 対象額／適用区分／工種区分 | 600万円<br>以　下 | 600万円を超え10億円<br>以　　下 | | 10億円を<br>超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の<br>率<br>とする | (2)の算定式により算出された率とする。ただし，変数値は下記による | | 下記の<br>率<br>とする |
| | | A | b | |
| 河　川　工　事 | 12.53 | 238.6 | －0.1888 | 4.77 |
| 河川・道路構造物工事 | 20.77 | 1，228.3 | －0.2614 | 5.45 |
| 海　岸　工　事 | 13.08 | 407.9 | －0.2204 | 4.24 |
| 道路改良工事 | 12.78 | 57.0 | －0.0958 | 7.83 |
| 鋼橋架設工事 | 38.36 | 10，668.4 | －0.3606 | 6.06 |
| Ｐ　Ｃ　橋　工　事 | 27.04 | 1，636.8 | －0.2629 | 7.05 |
| 舗　装　工　事 | 17.09 | 435.1 | －0.2074 | 5.92 |
| 砂防・地すべり等工事 | 15.19 | 624.5 | －0.2381 | 4.49 |
| 公　園　工　事 | 10.80 | 48.0 | －0.0956 | 6.62 |
| 電線共同溝工事 | 9.96 | 40.0 | －0.0891 | 6.31 |
| 情報ボックス工事 | 18.93 | 494.9 | －0.2091 | 6.50 |

**第2表**

| 対象額／適用区分／工種区分 | 600万円<br>以　下 | 600万円を超え３億円<br>以　　下 | | ３億円を<br>超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の<br>率<br>とする | (2)の算定式により算出された率とする。ただし，変数値は下記による | | 下記の<br>率<br>とする |
| | | A | b | |
| 橋梁保全工事 | 27.32 | 7，050.2 | －0.3558 | 6.79 |

**第3表**

| 対象額／適用区分／工種区分 | 200万円<br>以　下 | 200万円を超え１億円<br>以　　下 | | １億円を<br>超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の<br>率<br>とする | (2)の算定式により算出された率とする。ただし，変数値は下記による | | 下記の<br>率<br>とする |
| | | A | b | |
| 道路維持工事 | 23.94 | 4，118.1 | －0.3548 | 5.97 |
| 河川維持工事 | 9.05 | 26.8 | －0.0748 | 6.76 |

**第4表**

| 対象額／適用区分／工種区分 | | 1，000万円以　下 | 1，000万円を超え20億円以　　下 | | 20億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 下記の率とする | (2)の算定式により算出された率とする。ただし，変数値は下記による | | 下記の率とする |
| | | | A | b | |
| 共同溝等工事 | (1) | 8.86 | 68.3 | −0.1267 | 4.53 |
| | (2) | 13.79 | 92.5 | −0.1181 | 7.37 |
| トンネル工事 | | 28.71 | 4，164.9 | −0.3088 | 5.59 |
| 下水道工事 | (1) | 12.85 | 422.4 | −0.2167 | 4.08 |
| | (2) | 13.32 | 485.4 | −0.2231 | 4.08 |
| | (3) | 7.64 | 13.5 | −0.0353 | 6.34 |

**第5表**

| 対象額／適用区分／工種区分 | ３億円以　下 | ３億円を超え50億円以　　下 | | 50億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする | (2)の算定式により算出された率とする。ただし，変数値は下記による | | 下記の率とする |
| | | A | b | |
| コンクリートダム | 12.29 | 105.2 | −0.1100 | 9.02 |
| フィルダム | 7.57 | 43.7 | −0.0898 | 5.88 |

（３） 算定式

$K_r = A \cdot P^b$

ただし$K_r$ ：共通仮設費率(%)

P：対象額(円)

A・b：変数値

注）１．$K_r$ の値は，小数点以下第３位を四捨五入して２位止めとする。

２．対象額の算定にあたっては，「２．共通仮設費（２）算定方法 1)率計算による部分」及び「２．共通仮設費（２）算定方法 5)間接工事費等の項目別対象表」を参照のこと。

## ２－２　運搬費

### （１）　運搬費の積算

運搬費として積算する内容は次のとおりとする。

１）　建設機械器具の運搬等に要する費用

（イ）　質量20ｔ以上の建設機械の貨物自動車等による運搬

（ロ）　仮設材等（鋼矢板，H形鋼，覆工板，敷鉄板等）の運搬

（ハ）　重建設機械の分解・組立及び輸送に要する費用

（ニ）　質量20ｔ未満の建設機械の搬入，搬出及び現場内小運搬

（ホ）　器材等の搬入，搬出及び現場内小運搬

ただし，支給品及び現場発生品については，積上げ積算し，直接工事費に計上するものとする。

（ヘ）　建設機械の自走による運搬

（ト）　建設機械等の日々回送（分解・組立，輸送）に要する費用

（チ）　質量20ｔ以上の建設機械の現場内小運搬

２）　鋼桁，門扉等工場製作品の運搬（直接工事費に計上）

３）　1)～2)に掲げるもののほか，工事施工上必要な建設機械器具の運搬等に要する費用

４）　建設機械等の運搬基地

運搬基地は，建設機械等の所在場所等を勘案のうえ決定するものとする。

### （２）　積算方法

１）　共通仮設費に計上される運搬費

（イ）　共通仮設費率に含まれる運搬費

ａ．質量20ｔ未満の建設機械の搬入，搬出及び現場内小運搬（分解・組立を含む）

ｂ．器材等(型枠材，支保材，足場材，仮囲い，敷鉄板（敷鉄板設置撤去工で積上げた分は除く），作業車（ＰＣ橋片持ち架設工），橋梁ベント，橋梁架設用タワー，橋梁用架設桁設備，排砂管，トレミー管，トンネル用スライドセントル等)の搬入，搬出及び現場内小運搬

ｃ．建設機械の自走による運搬（トラッククレーン油圧伸縮ジブ型80ｔ以上は，積上げるものとする。）

ｄ．建設機械等（重建設機械を含む）の日々回送（分解・組立，輸送）に要する費用

ｅ．質量20ｔ以上の建設機械の現場内小運搬

ただし，特殊な現場条件等により分解・組立を必要とする場合は別途加算出来るものとする。

ｆ．上記(1)，1)，(ハ)の中で，トラッククレーン（油圧伸縮ジブ型20～50ｔ吊）・ラフテレーンクレーン（油圧伸縮ジブ型20～70ｔ吊）の分解・組立及び輸送に要する費用

（ロ）　積上げ項目による運搬費

ａ．質量20ｔ以上の建設機械の貨物自動車等による運搬

なお，運搬される建設機械の運搬中の賃料又は損料についても積上げるものとする。

建設機械の日々回送の場合は，共通仮設費率に含む。

ｂ．仮設材等（鋼矢板，H形鋼，覆工板，敷鉄板等）の運搬

ただし，敷鉄板については敷鉄板設置・撤去工で積上げた敷鉄板を対象とする。

ｃ．重建設機械の分解・組立及び輸送に要する費用

（運搬中の本体賃料・損料および分解・組立時の本体賃料を含む。）

ｄ．上記（イ）及び（ロ）ａ～ｃにおける自動車航送船使用料に要する費用

（運搬中の本体賃料・損料を含む。）

２）　直接工事費に計上される運搬費

ａ．鋼桁，門扉，工場製作品の運搬

ｂ．支給品及び現場発生品の運搬

（３） 質量20ｔ以上の建設機械の貨物自動車等による運搬

質量20ｔ以上の建設機械器具の搬入，又は搬出の積算は運搬車両１台ごとに次式により行うものとする。

$U_k$＝〔Ａ１・(１＋$C_1$＋$C_4$)＋Ａ２・$C_2$＋Ａ３・$C_3$＋Ｂ〕・Ｄ＋Ｍ＋Ｋ（又はＫ’）

ただし $U_k$：貨物自動車による運搬費

Ａ１：基本運賃料金

各運輸局が公示した「一般貨物運送事業の貸切り運賃」によるものとする。

なお，車扱運賃料金の適用は原則として「距離制運賃料金」によるものとし，運搬距離は運搬基地より現場までの距離とする。発地・着地で運輸局が異なる場合は，発注機関の存在する運輸局を適用する。

また，基本運賃料金の10％の範囲での増減運用は一般の場合は適用しない。

Ａ２：悪路割増区間基本運賃料金

各運輸局が公示した「一般貨物運送事業の貸切り運賃」によるものとする。

なお，車扱運賃料金の適用は原則として「距離制運賃料金」によるものとし，運搬距離は運搬基地より現場までの距離のうち，悪路区間の距離とする。

Ａ３：冬期割増区間基本運賃料金

各運輸局が公示した「一般貨物運送事業の貸切り運賃」によるものとする。

なお，車扱運賃料金の適用は原則として「距離制運賃料金」によるものとし，運搬距離は運搬基地より現場までの距離のうち，冬期割増区間の距離とする。

Ｂ：諸料金

ａ．地区割増料……適用する。

貨物の発地又は着地が，東京都（特別区に限る）又は，住民基本台帳に基づく人口が50万人以上の都市の場合には，各運輸局が公示した「一般貨物運送事業の貸し切り運賃」の地区割増料を加算する。

ただし，貨物の発地及び着地が同一都市内又は隣接都市間の場合は，発地又は着地のいずれか一方についてのみ加算する。

ｂ．車両割増料……適用しない。

$C_1$～$C_4$：運賃割増率（表3.1）

$C_1$：特大品割増

$C_2$：悪路割増

$C_3$：冬期割増

$C_4$：深夜早朝割増

その他の割増率は適用しない。

Ｄ：運搬車両の台数

１を代入する。

Ｍ：その他の諸料金

１） 組立，解体に要する費用

重建設機械の組立，解体に要する費用は別途加算する。

２） その他下記事項の料金を必要により計上する。

ａ 荷役機械使用料

ｂ 自動車航送船使用料

ｃ 有料道路利用料

ｄ その他

Ｋ：運搬される建設機械の運搬中の賃料（円）

Ｋ’： 運搬される建設機械の運搬中の損料（円）

運搬される建設機械(被運搬建設機械)の運搬中の賃料又は損料を計上する。

積算方法は，「1）運搬される建設機械の運搬中の賃料および損料」による。

＊建設機械運搬方法等は表3.2による。

＊端数処理

輸送費（基本運賃料金×運賃割増率）及び諸料金（Ｂ）は，各々端数処理計算し，その金額が10，000円未満の場合は100円未満を100円に，10，000円以上の場合は500円未満を500円に，500円を超え，1，000円未満の端数は，1，000円にそれぞれ切上げる。

**表3.１ 運 賃 割 増 率**

| 割 増 項 目 | 適 用 範 囲 | | | 割増率 |
|---|---|---|---|---|
| 特大品割増（$C_1$） | 建設機械類 | 使用車両積載トン数15ｔ未満 | | ６割増 |
| | | 〃 15ｔ以上 | | ７ 〃 |
| | 鋼橋，水閘門等 (注)3 | 単体の長(m) | 単体の質量(ｔ) | － |
| | | 12≦Ｌ＜15 | 1≦Ｇ＜15 | ８ 〃 |
| | | 15≦Ｌ＜20 | － | 10 〃 |
| | | 20≦Ｌ | 15≦Ｇ | 12 〃 |
| 悪路割増（$C_2$） | 悪路割増区間の運送距離に対応する基本運賃×割増率<br>道路法による道路及びその他の一般交通の用に供する場所並びに自動車道以外の場所に限る。 | | | ３ 〃 |

| 冬期割増（$C_3$） | 冬期割増区間の運送距離に対応する基本運賃×割増率 | | 割増率 |
|---|---|---|---|
| | 地 域 | 期 間 | |
| | 島根県全域 | 自12月１日 至３月31日 | ２割増 |

| 深夜早朝割増（$C_4$） | 運搬時間を「22～５時」に指定する場合。 | ３割増 |
|---|---|---|

(注)１．鋼橋の輸送については「建設工事積算基準第Ⅳ編第７章①鋼橋製作工」，水閘門については「建設工事積算基準第Ⅸ編機械設備」により別途計上するものとし，その他については上記運搬費で計上するものとする。
２．誘導車，誘導員の費用は特大品割増に含む。
３．特大品割増（$C_1$）で単体の長さ質量ともに該当する場合は，いずれか大きい方の率とする。
４．橋梁ベント，橋梁架設用タワーは率に含まれるため適用しない。

１） 運搬される建設機械の運搬中の賃料（K）及び損料（K’）

運搬される建設機械の片道分の運搬中の賃料及び損料は次式により計上する。

運搬中の賃料＝運搬される機械の供用１日当り賃料（円）×運搬に要する日数（日）
K＝運搬される建設機械の運搬中の供用１日当り賃料（円）×Ｌ／（輸送速度×８）
運搬中の損料＝運搬される機械の供用１日当り損料（円）×運搬に要する日数（日）
K’＝運搬される建設機械の運搬中の供用１日当り損料（円）×Ｌ／（輸送速度×８）
Ｌ：運搬距離（㎞）基地から現場までの片道距離とする。
輸送速度：(30 ㎞／ｈ)

(注)１．運搬に要する日数の端数処理は小数第２位を四捨五入し，小数第１位止めとする。
２．運搬に要する日数は運搬状況を勘案して決定する。なお，トラックによる輸送は，時速 30 ㎞／ｈを標準とする。
３．分解・組立を要する重建設機械の積算にあたっては，重建設機械分解組立（S8115 及び S8117）により積算すること。
なお，重建設機械分解組立輸送（S8115）については，運搬中の賃料（K）が考慮されている。

**表3．2 建設機械運搬方法**

| 機械名 | 規格 | 自走 | | 車載 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 速度（km／h） | 労務 | 車種 | 機械質量（t） | |
| 路面切削機（ホイール式・廃材積込装置付） | 2.0m | | | R | 29.00 | |
| 除雪ドーザ（クローラ型）（普通） | 21ｔ | | | R | 21.90 | |
| スタビライザ（路床改良用） | 深1.2m 幅2.0m | | | R | 23.50 | |
| 自走式破砕機 | クラッシャー寸法<br>開 450㎜<br>幅 925㎜ | | | R | 30.00 | |
| 油圧式杭圧入引抜機（硬質地盤専用） | 鋼矢板Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型用 | | | R | 29.70 | |
| 油圧式杭圧入引抜機（硬質地盤専用） | 鋼矢板$V_L$・$VI_L$・$II_w$・$III_w$・$IV_w$型用 | | | R | 37.90 | |
| コンクリート吹付機（湿式吹付・吹付ロボット一体・エアコンプレッサ搭載） | 吹付範囲半径 7m 級・吐出量 8～22$m^3$級 | | | R | 22.00 | |

（注）1．貨物自動車による運搬は，S1000003 で計上する。
2．車載のRはトレーラである。
3．本表に掲載のある建設機械については，分解組立の必要はない。

単価表
貨物自動車運搬費１回当たり単価表

| 施工歩掛コード | S1000003 |
|---|---|

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 距離制運賃料金 | | 式 | 1 | |
| 特大品割増（C1） | | 式 | 1 | |
| 悪路割増（C2） | | 式 | 1 | |
| 冬期割増（C3） | | 式 | 1 | |
| 深夜早朝割増（C4） | | 式 | 1 | |
| 地区割増料 | | 式 | 1 | |
| 運搬される建設機械の運搬中の損料 | | 式 | 1 | |
| 往復 | | | | |
| その他諸料金 | | 式 | 1 | |
| 計（1回当たり） | | | | |

1．表３．２建設機械運搬方法に記載のある建設機械の貨物運搬に適用する。
2．重建設機械分解組立（S8117）を使用するものについては，適用しない。
3．その他諸料金は荷役機械使用料，有料道路利用料，自動車航送船利用料等である。
4．その他の諸料金を計上する場合は，消費税相当額を控除し，端数については，小数点以下切捨し整数止めとする。

（4） 仮設材等の運搬

1） 仮設材等(鋼矢板，H形鋼，覆工板，敷鉄板等)の運搬費用

仮設材の運搬は次式により行うものとする。

U＝［E・(1＋F1＋F2)］・G＋H

ただし U：仮設材の運搬費

E：基本運賃（円／t）

下表によるものとする。

なお，運搬距離は運搬基地より現場までの距離とする。

また，運賃は下表に掲げてある基本運賃に，必要に応じ冬期割増及び深夜早朝割増を行うものとし，車両留置料，長大品割増，休日割増，特別割引は適用しない。

**基 本 運 賃 表**　　（単位：円／t）

| 製品長 ＼ 距離 | 12m以内 | | 12m超～15m以内 | | 15m超 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 10kmまで | 4，350 | ( 3，410) | 4，800 | ( 4，030) | 7，010 | ( 5，180) |
| 20 〃 | 4，660 | ( 3，570) | 5，170 | ( 4，240) | 7，470 | ( 5，510) |
| 30 〃 | 5，000 | ( 3，850) | 5，480 | ( 4，510) | 7，990 | ( 5，860) |
| 40 〃 | 5，380 | ( 4，070) | 5，900 | ( 4，760) | 8，490 | ( 6，190) |
| 50 〃 | 5，750 | ( 4，420) | 6，310 | ( 5，140) | 9，040 | ( 6，630) |
| 60 〃 | 6，120 | ( 4，700) | 6，760 | ( 5，490) | 9，590 | ( 7，060) |
| 70 〃 | 6，540 | ( 5，070) | 7，180 | ( 5，890) | 10，100 | ( 7，520) |
| 80 〃 | 6，900 | ( 5，330) | 7，570 | ( 6，190) | 10，600 | ( 7，900) |
| 90 〃 | 7，220 | ( 5，610) | 7，940 | ( 6，520) | 11，100 | ( 8，310) |
| 100 〃 | 7，620 | ( 5，900) | 8，380 | ( 6，840) | 11，700 | ( 8，750) |
| 110 〃 | 7，960 | ( 6，250) | 8，730 | ( 7，200) | 12，200 | ( 9，180) |
| 120 〃 | 8，300 | ( 6，490) | 9，080 | ( 7，470) | 12，700 | ( 9，550) |
| 130 〃 | 8，700 | ( 6，780) | 9，510 | ( 7，790) | 13，300 | ( 9，940) |
| 140 〃 | 9，040 | ( 7，020) | 9，850 | ( 8，060) | 13，800 | (10，300) |
| 150 〃 | 9，370 | ( 7，290) | 10，200 | ( 8，360) | 14，400 | (10，700) |
| 160 〃 | 9，820 | ( 7，530) | 10，600 | ( 8，630) | 14，900 | (11，000) |
| 170 〃 | 10，000 | ( 7，790) | 10，900 | ( 8，910) | 15，400 | (11，400) |
| 180 〃 | 10，300 | ( 8，020) | 11，200 | ( 9，180) | 15，800 | (11，700) |
| 190 〃 | 10，700 | ( 8，290) | 11，800 | ( 9，470) | 16，800 | (12，100) |
| 200 〃 | 11，100 | ( 8，560) | 12，100 | ( 9，780) | 17，300 | (12，500) |
| 200kmを超え 20kmまでを増すごとに | 677 | ( 447) | 802 | ( 558) | 1，080 | ( 738) |

(注)1．（ ）内の運賃を適用する。

2．敷鉄板については敷鉄板設置撤去工で積上げた敷鉄板を対象とする。

3．誘導車，誘導員が必要な場合については別途計上する。

Ｆ１～Ｆ２：運賃割増率

Ｆ１：冬期割増

| 地 域 | 期 間 | 割増率 |
|---|---|---|
| 島根県全域 | 自12月１日　至３月31日 | ２割増 |

Ｆ２：深夜早朝割増

| | |
|---|---|
| 運搬時間を「22～５時」に指定する場合。 | ３割増 |

Ｇ：運搬質量（ｔ）

Ｈ：その他の諸料金（円）

その他，下記事項の料金を必要により計上する。

ａ．有料道路使用料

ｂ．自動車航送船利用料

ｃ．その他

＊　端数の処理

運賃及び料金は当該輸送トン数ごとに計算し，当該運賃又は料金の円未満の金額については切捨てる。

２）　仮設材等（鋼矢板，Ｈ形鋼，覆工板，敷鉄板等）の積込み，取卸しに要する費用

仮設材等（鋼矢板，Ｈ形鋼，覆工板，敷鉄板等）の積込み・取卸し費

| 場　所 | 作　業 | 費　用　（円／ｔ） | | |
|---|---|---|---|---|
| 基　地 | 積　込　み | 750 | 1，500 | 3，000 |
| 現　場 | 取　卸　し | 750 | | |
| | 積　込　み | 750 | 1，500 | |
| 基　地 | 取　卸　し | 750 | | |

（注）１．橋梁ベント，橋梁架設用タワーは率に含まれるため適用しない。

２．敷鉄板については敷鉄板設置撤去工で積上げた敷鉄板を対象とする。

３．本歩掛は，施工機種や作業半径等の条件にかかわらず適用できる。
ただし，深夜早朝作業の場合については別途考慮する。

単価表

仮設材運搬費（鋼矢板，Ｈ形鋼，覆工板，敷鉄板等）１式当たり単価表

| 施工歩掛コード | S1000007 |
|---|---|

| 名称 | 規格 | 単位 | 数量 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|
| 基　本　運　賃 | | 式 | 1 | |
| 冬　期　割　増 | | 式 | 1 | |
| 深　夜　早　朝　割　増 | | 式 | 1 | |
| そ　の　他　諸　料　金 | | 式 | 1 | |
| 往　　復 | | | | 条件L「01」選択時 |
| 積込み，取卸しに要する費用 | | 式 | 1 | |
| 計（１式当たり） | | | | |

１．その他諸料金は有料道路利用料，自動車航送船利用料等である。

２．積込み・取卸し費は本コードに含まれている。

３．敷鉄板については敷鉄板設置撤去工で積上げた敷鉄板を対象とする。

４．その他の諸料金を計上する場合は，消費税相当額を控除し，端数については，小数点以下切捨し整数止めとする。

（5） 重建設機械分解・組立

1） 適用範囲

本資料は，工事現場に搬入搬出する標準的な重建設機械の分解・組立及び輸送に適用し，適用する建設機械は次表を標準とする。

**表5.1 適用建設機械**

| 機械区分 | 適用建設機械 |
|---|---|
| ブルドーザ | ブルドーザ（リッパ装置付を含む）<br>普通　21ｔ級以上～63ｔ級以下<br>湿地　20ｔ級以上～28ｔ級以下 |
| バックホウ系 | バックホウ（超ロングアーム型は除く）<br>山積 1.0 ㎥以上～2.1 ㎥以下<br>（平積 0.7 ㎥以上～1.5 ㎥以下）<br>油圧クラムシェル・テレスコピック<br>平積 0.4 ㎥以上～0.6 ㎥以下 |
| クローラクレーン系 | クローラクレーン　〔油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・機械駆動式ウインチ・ラチスジブ型〕<br>吊り能力　16ｔ以上～300ｔ以下<br>クラムシェル　〔油圧ロープ式・機械ロープ式〕<br>平積 0.6 ㎥以上～3.0 ㎥以下<br>バイブロハンマ<br>〔クローラクレーン・油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・50～55ｔ吊〕 |
| トラッククレーン系 | トラッククレーン〔油圧伸縮ジブ型〕<br>オールテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型〕<br>吊り能力　80ｔ以上～550ｔ以下 |
| クローラ式杭打機 | ディーゼルハンマ<br>油圧ハンマ<br>アースオーガ　（二軸同軸式を含む）<br>ディーゼルハンマ・アースオーガ併用<br>モンケン・アースオーガ併用<br>鋼管ソイルセメント杭打機<br>アースオーガ併用圧入杭打機<br>アースオーガ中掘式<br>機械質量　20ｔ以上～150ｔ以下 |
| オールケーシング掘削機 | オールケーシング掘削機　〔クローラ式〕<br>掘削径　2，000㎜以下<br>オールケーシング掘削機　〔スキッド式〕<br>掘削径　2，000㎜以下 |
| 地盤改良機械 | 中層混合処理機<br>機械質量 20t 以上～120t 以下 |
| | サンドパイル打機<br>粉体噴射攪拌機（付属機器除く）<br>深層混合処理機<br>ペーパードレーン打機<br>機械質量　20ｔ以上～180ｔ以下 |
| トンネル用機械 | 自由断面トンネル掘削機<br>ドリルジャンボ<br>コンクリート吹付機<br>機械質量　20ｔ以上～60ｔ以下 |
| 連続地中壁用機械 | 地下連続壁施工機〔回転水平多軸・クローラ式〕<br>壁厚　1，200～2，400㎜<br>壁厚　650～1，500㎜ |

2） 施工歩掛

（イ） 使用機械の規格選定

分解・組立に使用するクレーンは，次表を標準とする。

**表5．2 クレーンの規格選定**

| 機械区分 | | 規格 | 分解組立用クレーン | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 機械名 | 規格 |
| バックホウ系オールケーシング掘削機（クローラ式）トンネル用機械 | | 表5.1参照 | ラフテレーンクレーン［油圧伸縮ジブ型排出ガス対策型（第2次基準値）］ | 25ｔ吊 |
| ブルドーザ | | 21t級以下 | ラフテレーンクレーン［油圧伸縮ジブ型排出ガス対策型（第2次基準値）］ | 25t吊 |
| | | 44t級以下 | | |
| | | 63t級以下 | | 50ｔ吊 |
| 地盤改良機械 | 中層混合処理機 | 質量60t以下 | ラフテレーンクレーン［油圧伸縮ジブ型排出ガス対策型（第2次基準値）］ | 25t吊 |
| | | 質量120t以下 | | 50t吊 |
| | サンドパイル打機<br>粉体噴射撹拌機<br>深層混合処理機<br>ペーパードレーン打機 | 質量60t以下 | | |
| | | 質量120t以下 | | |
| | | 質量180t以下 | | |
| クローラクレーン系 | | 35ｔ吊以下（クラムシェル平積0.6㎥含む） | ラフテレーンクレーン［油圧伸縮ジブ型排出ガス対策型（第2次基準値）］ | 25ｔ吊 |
| | | 80ｔ吊以下（クラムシェル平積2.0㎥以下含む） | | |
| | | 150ｔ吊以下（クラムシェル平積3.0㎥以下含む） | | 50ｔ吊 |
| | | 300ｔ吊以下 | | |
| トラッククレーン系 | | 表5.1参照 | ラフテレーンクレーン［油圧伸縮ジブ型排出ガス対策型（第2次基準値）］ | 50ｔ吊 |
| クローラ式杭打機 | | 質量60ｔ以下 | ラフテレーンクレーン［油圧伸縮ジブ型排出ガス対策型（第2次基準値）］ | 50ｔ吊 |
| | | 質量100ｔ以下 | | |
| | | 質量150ｔ以下 | | |
| オールケーシング掘削機〔スキッド式〕 | | 表5.1参照 | クローラクレーン［油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型排出ガス対策型（第1次基準値）］ | 60～65ｔ吊 |
| | | 表5.1 参照（本体工事でクローラクレーン［油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型排出ガス対策型（第3次基準値）］70t吊を使用する場合） | クローラクレーン［油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型排出ガス対策型（第3次基準値）］ | 70t吊 |
| | | 表5.1 参照（本体工事でクローラクレーン［油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型排出ガス対策型（第3次基準値）］100t吊を使用する場合） | クローラクレーン［油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型排出ガス対策型（第3次基準値）］ | 100t吊 |
| | | 表5.1 参照（本体工事でクローラクレーン［油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型排出ガス対策型（2011年規制）］100t吊を使用する場合） | クローラクレーン［油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型排出ガス対策型（2011年規制）］ | |

表５．２　クレーンの規格選定

| 機　械　区　分 | 規　　格 | 分解組立用クレーン | |
|---|---|---|---|
| | | 機　械　名 | 規　　格 |
| 連 続 地 中 壁 用 機 械<br>〔地下連続壁施工機〕 | 表5.1参照 | ラフテレーンクレーン<br>［油圧伸縮ジブ型］ | 45ｔ吊 |

（注）１．ラフテレーンクレーン，クローラクレーンは賃料とする。
ただし，オールケーシング掘削機〔スキッド式〕の分解組立用クローラクレーンは損料とする。
２．現場条件により上表により難い場合は，別途考慮する。

（ロ）　歩掛
分解・組立１台１回当り歩掛は，次表を標準とする。

**表5．３　分解･組立1台1回当り歩掛**

| 機　械　区　分 | 規　　格 | 機械質量区分 | 労務歩掛特殊作業員（人）〔分解+組立〕 | クレーン運転歩掛（日）〔分解+組立〕 | 運搬費等率（%） | 諸雑費率（%） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ブ　ル　ド　ー　ザ | 21ｔ級以下 | － | 2.8 | 2.1 | 134 | 21 |
| | 44ｔ級以下 | － | 4.6 | 3.4 | 132 | 21 |
| | 63ｔ級以下 | － | 8.4 | 6.2 | 90 | 14 |
| バ　ッ　ク　ホ　ウ　系 | 山積1.4㎥以下<br>（油圧クラムシェル・テレスコピック 0.4㎥以上 0.6㎥以下含む） | － | 2.7 | 1.4 | 216 | 24 |
| | 山積2.1㎥以下 | － | 4.5 | 2.3 | 221 | 25 |
| クローラクレーン系 | 35ｔ吊以下<br>（クラムシェル 平積0.6㎥含む） | － | 3.0 | 0.8 | 384 | 22 |
| | 80ｔ吊以下<br>（クラムシェル 平積2.0㎥以下含む） | － | 5.5 | 1.5 | 375 | 21 |
| | 150ｔ吊以下<br>（クラムシェル 平積3.0㎥以下含む） | － | 11.3 | 3.1 | 287 | 16 |
| | 300ｔ吊以下 | － | 20.5 | 5.7 | 286 | 16 |
| トラッククレーン系 | 120ｔ吊以下 | － | 4.3 | 1.5 | 439 | 97 |
| | 160ｔ吊以下 | － | 5.7 | 1.9 | 454 | 100 |
| | 360ｔ吊以下 | － | 11.7 | 4.0 | 443 | 97 |
| | 550ｔ吊以下 | － | 20.9 | 7.1 | 446 | 98 |
| クローラ式杭打機 | － | 60ｔ以下 | 8.6 | 2.1 | 148 | 2 |
| | － | 100ｔ以下 | 15.5 | 3.7 | 149 | 2 |
| | － | 150ｔ以下 | 23.5 | 5.6 | 148 | 2 |
| オールケーシング掘削機〔クローラ式〕 | － | － | 3.9 | 3.4 | 515 | 5 |

表５．３　分解・組立１台１回当り歩掛

| 機械区分 | | 規格 | 機械質量区分 | 労務歩掛 特殊作業員（人）〔分解+組立〕 | クレーン運転歩掛（日）〔分解+組立〕 | 運搬費等率（%） | 諸雑費率（%） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| オールケーシング掘削機〔スキッド式〕 | | － | － | 4.9 | 11.9（h） | 483 | 4 |
| | | 本体工事でクローラクレーン［油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型排出ガス対策型（第3次基準値）］70t吊を使用する場合 | － | 4.9 | 11.9（h） | 424 | 4 |
| | | 本体工事でクローラクレーン［油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型排出ガス対策型（第3次基準値）］100t吊を使用する場合 | － | 4.9 | 11.9（h） | 320 | 3 |
| | | 本体工事でクローラクレーン［油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型排出ガス対策型（2011年規制）］100t吊を使用する場合 | － | 4.9 | 11.9（h） | 312 | 3 |
| 地盤改良機械 | 中層混合処理機 | － | 60ｔ以下 | 16.0 | 2.4 | 229 | 4 |
| | | － | 120ｔ以下 | 41.2 | 6.3 | 190 | 3 |
| | サンドパイル打機<br>粉体噴射攪拌機 | － | 60ｔ以下 | 16.0 | 2.4 | 191 | 3 |
| | 深層混合処理機 | － | 120t以下 | 41.2 | 6.3 | 190 | 3 |
| | ペーパードレーン打機 | － | 180t以下 | 64.6 | 9.9 | 189 | 3 |
| トンネル用機械 | | － | － | 5.4 | 2.0 | 503 | 8 |
| 連続地中壁用機械〔地下連続壁施工機〕 | | － | － | 54.4 | 9.5 | 144 | 4 |

（注）１．分解・組立の合計であり，内訳は分解 50%，組立 50%である。
２．標準的作業に必要な装備品・専用部品が含まれている。
３．運搬費等には下記①～⑤の費用が含まれており，労務費・クレーン運転費の合計額に上表の率を乗じて計上する。
①トラック及びトレーラによる運搬費［往復］（誘導車，交通誘導警備員含む）
②自走による本体賃料・損料
③運搬中の本体賃料・損料
④分解・組立時の本体賃料
⑤ウエス，洗浄油，グリス，油圧作動油等の費用
４．諸雑費は分解・組立のみを計上する際に適用し，下記①～②の費用が含まれており，労務費・クレーン運転費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
①分解・組立時の本体賃料
②ウエス，洗浄油，グリス，油圧作動油等の費用

３） その他
（イ）深層混合処理機（二軸式 90kW×2）は，地盤改良機械（機械質量 180t 以下）を適用する。
（ロ）粉体噴射攪拌機（単軸式 19.6kN・m×1）は，地盤改良機械（機械質量 60t 以下）を適用する。
（ハ）粉体噴射攪拌機（二軸式 55kW×2）は，地盤改良機械（機械質量 120t 以下）を適用する。
（ニ）粉体噴射攪拌機（二軸式 90kW×2）は，地盤改良機械（機械質量 120t 以下）を適用する。

4） 単 価 表

（1） 重建設機械分解組立輸送１回当り単価表

| 施工歩掛コード | S8115 |
|---|---|

| 名　　称 | 規　　格 | 単　位 | 数　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 特　殊　作　業　員 | | 人 | | 表 5.3 |
| 分解組立用クレーン | | 日（h） | | 表 5.2，5.3 |
| 運　搬　費　等 | | 式 | 1 | 表 5.3 |
| 諸　　雑　　費 | | 〃 | 1 | |
| 計 | | | | |

１．分解組立される建設機械が賃料適用及び損料適用にかかわらず適用出来る。

２．運搬割増（特大品，悪路，冬期，深夜早朝，地区等）及び他諸料金（有料道路利用料等）の有無にかかわらず適用出来る。ただし，陸上輸送以外が必要な場合は，これに要する費用を別途計上すること。

３．クローラクレーン系については，中間ブームの有無にかかわらず適用出来る。

４．オールケーシング掘削機（スキッド式）の分解組立用クレーン（油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型70t吊）と本体工事で使用するクローラクレーン（油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型70ｔ吊）は兼用するものとし，分解組立輸送費を1回計上すること。

５．オールケーシング掘削機（スキッド式）の分解組立用クレーン（油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型100t吊）と本体工事で使用するクローラクレーン（油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型100ｔ吊）は兼用するものとし，クローラクレーン（油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型100ｔ吊）の分解組立輸送費の計上は1回とすること。ただし，排出ガス対策型区分は本体工事で使用するクローラクレーンに合わせて選択すること。

６．輸送を伴わないものについては，S8117 にて積算すること。

７．コンクリート吹付機（湿式吹付・吹付ロボット一体・エアコンプレッサ搭載）［吹付範囲半径7m級・吐出量8～22m$^3$級］については分解組立を要しないことから，輸送費はS1000003にて積算すること

（2） 重建設機械分解組立１回当り単価表

| 施工歩掛コード | S8117 |
|---|---|

| 名　　称 | 規　　格 | 単　位 | 数　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 特　殊　作　業　員 | | 人 | | 表 5.3 |
| 分解組立用クレーン | | 日（h） | | 表 5.2，5.3 |
| 諸　　雑　　費 | | 式 | 1 | 表 5.3 |
| 計 | | | | |

１．分解組立される建設機械が賃料適用及び損料適用にかかわらず適用出来る。

２．クローラクレーン系については，中間ブームの有無にかかわらず適用出来る。

３．オールケーシング掘削機（スキッド式）の分解組立用クレーン（油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型70t吊）と本体工事で使用するクローラクレーン（油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型70ｔ吊）は兼用するものとし，分解組立輸送費を1回計上すること。

４．オールケーシング掘削機（スキッド式）の分解組立用クレーン（油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型100t吊）と本体工事で使用するクローラクレーン（油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型100ｔ吊）は兼用するものとし，クローラクレーン（油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型100ｔ吊）の分解組立費の計上は1回とすること。ただし，排出ガス対策型区分は本体工事で使用するクローラクレーンに合わせて選択すること。

（6） 輸送に要する費用

1） 建設機械の運搬に要する費用のうち，貨物自動車により積算するものは，各運輸局が公示した「一般貨物運送事業の貸し切り運賃」の距離制運賃による。

2） 運搬にあたって，分解・組立の必要があるものについては，その費用を計上するものとする。

3） 海上輸送の必要があるものについては，海上輸送費を計上するものとする。

（7） 重建設機械分解・組立

1） 表５．３の歩掛には，分解組立費用の外に，トラック及びトレーラによる運搬費（往復），賃料・損料費（自走による本体の賃料・損料，賃料適用機械の運搬中本体賃料，賃料適用機械の分解・組立時本体賃料）の全てを含んでいるので，運搬基地から現場までの輸送費を別途計上する必要はない。

2） 歩掛の規格を外れる機械の分解・組立及び輸送費は，別途見積により対応すること。

（8） 建設機械の運搬基地

1） 輸送距離の算出を要する建設機械の運搬基地は，その建設機械の所在場所等を勘案の上，決定するものとする。

2） 本土から隠岐地区に建設機械を輸送する場合は，片道当たりで重建設機械の海上輸送費，運搬車両の自動車航送船利用料（必要台数×片道料金×往復）を適正に積み上げること。

ただし，本土からの海上輸送の起点港は七類港とし，輸送方法に特別の事情がある場合には，別途考慮すること。

運搬費（片道）＝重建設機械の片道運搬費（陸上＋海上）
＋運搬車両の自動車航送船利用料（台数×片道料金×往復または台数×往復料金）

（9） 杭打機械等の積算

同一現場内で径の異なる２種類以上の杭を打設する場合の杭打機械の輸送費は，いずれか大きい方の１機械のみ計上する。

ただし,直接工事費の積算にあたっては,それぞれの径にあった歩掛により積上げ計上することとする。

なお，鋼管杭等の杭打機及び軟弱地盤処理工の攪拌機の運搬において，試験杭（施工）を実施する場合は，工程・作業手順を考慮の上，試験杭打（施工）時と本施工時の２回計上することができる。

(10) 仮設材の運搬基地

1） 鋼矢板，軽量鋼矢板，H形鋼，覆工板，鋼製山留材及び敷鉄板については，リース業者等基地（別表）から工事現場までの距離により積算する。この場合，基地から現場までの距離が短い方を採用する。

なお，鋼製マットについては，実態を調査の上，運搬基地を決定すること。

2） 副部材Ａの運搬基地は主部材に合わすものとする。

なお，副部材Ｂについての運搬費は計上しないものとする。

3） 仮設材の隠岐地区への海上輸送の起点港は松江港とする。

（別表）リース業者等基地

| 基地名<br>（会社名・市役所名） | 工場名等 | 基地所在地 | 仮設材基地（○） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 鋼矢板 | H形鋼 | 覆工板 | 鋼製山留材 | 軽量鋼矢板 | 敷鉄板（50ｔ未満） | 敷鉄板（50ｔ以上） |
| ジェコス（株） | 中国工場 | 広島県三次市三和町羽出庭431-11 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 太洋ヒロセ（株） | 八本松工場 | 広島県東広島市八本松西7-3-2 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 西条工場 | 広島県東広島市西条吉行東2-4-61 吉行工業団地 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| （株）エムオーテック | 広島工場 | 広島県山県郡北広島町新氏神26 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| （株）伸興サンライズ | | 松江市宍道町西来待2564-7 | | | | | ○(※) | | |
| 松江市 | 本庁舎 | 松江市末次町86 | | | | | | ○ | |
| 安来市 | 本庁舎 | 安来市安来町878-2 | | | | | | ○ | |
| 雲南市 | 本庁舎 | 雲南市木次町里方521-1 | | | | | | ○ | |
| 出雲市 | 本庁舎 | 出雲市今市町70 | | | | | | ○ | |
| 大田市 | 本庁舎 | 大田市大田町大田ロ1111 | | | | | | ○ | |
| 江津市 | 本庁舎 | 江津市江津町1525番地 | | | | | | ○ | |
| 浜田市 | 本庁舎 | 浜田市殿町1 | | | | | | ○ | |
| 益田市 | 本庁舎 | 益田市常盤町1-1 | | | | | | ○ | |

(※) 軽量鋼矢板（１，２，３型）について保有。採用にあたっては，在庫状況を確認すること。

(※) 敷鉄板のリース業者等基地は、１工事の敷鉄板使用量で判断すること。

## ［1］車扱運賃料金

### 1．距離制運賃率表

この金額には、消費税は含まれておりません。　（単位：円）

| キロ程＼車種別 | 1トン車まで | 2トン車まで | 3トン車まで | 4トン車まで | 5トン車まで | 6トン車まで | 8トン車まで | 10トン車まで | 12トン車まで | 14トン車まで | 14トン車を超え2トンを増す車種までごとに |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 km まで | 4,820 | 6,790 | 8,170 | 9,360 | 10,480 | 11,490 | | | | | |
| 20 km 〃 | 7,960 | 10,110 | 10,940 | 11,680 | 12,770 | 13,860 | 15,530 | 17,600 | 18,450 | 20,450 | 2,000 |
| 30 km 〃 | 10,300 | 11,950 | 12,710 | 13,910 | 15,070 | 16,250 | 17,990 | 20,310 | 21,430 | 23,620 | 2,190 |
| 40 km 〃 | 12,400 | 13,620 | 14,450 | 15,860 | 17,410 | 18,650 | 20,520 | 23,000 | 24,410 | 26,760 | 2,350 |
| 50 km 〃 | 13,900 | 15,280 | 16,240 | 17,820 | 19,660 | 21,090 | 23,100 | 25,740 | 27,400 | 29,930 | 2,530 |
| 60 km 〃 | 15,410 | 16,940 | 18,000 | 19,760 | 21,790 | 23,330 | 25,470 | 28,300 | 30,360 | 33,070 | 2,710 |
| 70 km 〃 | 16,940 | 18,600 | 19,760 | 21,700 | 23,920 | 25,580 | 27,900 | 30,940 | 33,340 | 36,230 | 2,890 |
| 80 km 〃 | 18,450 | 20,260 | 21,540 | 23,650 | 26,070 | 27,850 | 30,360 | 33,600 | 36,330 | 39,400 | 3,070 |
| 90 km 〃 | 19,940 | 21,940 | 23,300 | 25,600 | 28,210 | 30,150 | 32,840 | 36,260 | 39,290 | 42,530 | 3,240 |
| 100 km 〃 | 21,560 | 23,630 | 25,060 | 27,560 | 30,340 | 32,470 | 35,320 | 38,950 | 42,170 | 45,610 | 3,440 |
| 110 km 〃 | 22,530 | 24,670 | 26,180 | 28,800 | 31,680 | 34,030 | 37,150 | 41,000 | 44,080 | 47,730 | 3,650 |
| 120 km 〃 | 23,490 | 25,730 | 27,310 | 30,040 | 33,020 | 35,590 | 39,010 | 43,060 | 45,990 | 49,830 | 3,840 |
| 130 km 〃 | 24,460 | 26,790 | 28,430 | 31,280 | 34,370 | 37,180 | 40,860 | 45,110 | 47,890 | 51,940 | 4,050 |
| 140 km 〃 | 25,420 | 27,840 | 29,550 | 32,520 | 35,730 | 38,710 | 42,680 | 47,190 | 49,800 | 54,030 | 4,230 |
| 150 km 〃 | 26,390 | 28,880 | 30,680 | 33,750 | 37,090 | 40,170 | 44,550 | 49,250 | 51,720 | 56,200 | 4,480 |
| 160 km 〃 | 27,340 | 29,940 | 31,800 | 35,000 | 38,420 | 41,700 | 46,400 | 51,300 | 53,630 | 58,300 | 4,670 |
| 170 km 〃 | 28,310 | 31,000 | 32,920 | 36,230 | 39,770 | 43,230 | 48,240 | 53,350 | 55,540 | 60,400 | 4,860 |
| 180 km 〃 | 29,280 | 32,050 | 34,040 | 37,480 | 41,120 | 44,770 | 50,070 | 55,400 | 57,450 | 62,510 | 5,060 |
| 190 km 〃 | 30,240 | 33,110 | 35,170 | 38,710 | 42,460 | 46,300 | 51,930 | 57,470 | 59,360 | 64,630 | 5,270 |
| 200 km 〃 | 31,220 | 34,150 | 36,260 | 39,950 | 43,800 | 47,840 | 53,770 | 59,520 | 61,270 | 66,740 | 5,470 |
| 200kmを超え500kmまで20kmまでを増すごとに | 1,670 | 1,850 | 1,940 | 2,140 | 2,350 | 2,580 | 2,920 | 3,210 | 3,350 | 3,760 | 410 |
| 500kmを超え50kmまでを増すごとに | 4,200 | 4,590 | 4,880 | 5,340 | 5,900 | 6,450 | 7,320 | 8,020 | 8,370 | 9,390 | 1,020 |

## 2．時間制運賃率表

この金額には、消費税は含まれておりません。　（単位：円）

| 種別＼車種別 | | | 1トン車まで | 2トン車まで | 3トン車まで | 4トン車まで | 5トン車まで | 6トン車まで | 8トン車まで | 10トン車まで | 12トン車まで | 14トン車まで | 14トン車を超え2トンを増す車種までごとに |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎額 | 8時間制 | 基礎走行キロ<br>3トン車まで80km<br>3トン車を超えるもの100km | 18,900 | 21,260 | 23,280 | 26,660 | 29,010 | 31,380 | 36,430 | 40,830 | 42,490 | 46,150 | 3,660 |
| 基礎額 | 4時間制 | 基礎走行キロ<br>3トン車まで40km<br>3トン車を超えるもの50km | 10,800 | 12,480 | 13,500 | 15,520 | 16,860 | 18,220 | 21,260 | 23,610 | 25,500 | 27,450 | 1,950 |
| 加算額 | 基礎走行キロを超える場合は、10kmまでを増すごとに | | 320 | 360 | 370 | 410 | 450 | 500 | 580 | 590 | 620 | 660 | 40 |
| 加算額 | 基礎作業時間を超える場合は、1時間までを増すごとに（4時間制の場合であって、午前から午後にわたる場合は、正午から起算した時間により加算額を計算します。 | | 1,920 | 2,170 | 2,410 | 2,630 | 2,900 | 3,190 | 3,600 | 4,000 | 4,150 | 4,530 | 380 |

## ［2］地区割増料

この金額には、消費税は含まれておりません。　（単位：円）

| 地域＼車種別 | 1トン車まで | 2トン車まで | 3トン車まで | 4トン車まで | 5トン車まで | 6トン車まで | 8トン車まで | 10トン車まで | 12トン車まで | 14トン車まで | 14トン車を超え2トンを増す車種までごとに |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 東京都特別区・大阪市 | 830 | 930 | 930 | 990 | 1,090 | 1,180 | 1,270 | 1,380 | 1,460 | 1,600 | 140 |
| 札幌市・仙台市・千葉市・船橋市・川崎市・横浜市・相模原市・浜松市・名古屋市・京都市・東大阪市・堺市・尼崎市・神戸市・岡山市・広島市・北九州市・福岡市・熊本市・鹿児島市 | 540 | 540 | 540 | 650 | 650 | 740 | 830 | 830 | 930 | 1,040 | 100 |

２－３　準備費（令和２年３月３１日まで適用）

（１）　準備費の積算

準備費として積算する内容は次のとおりとする。

１）　準備及び後片付けに要する費用

イ　着手時の準備費用

ロ　施工期間中における準備，後片付け費用

ハ　完成時の後片付け費用

２）　調査・測量，丁張等に要する費用

イ　工事着手前の基準測量等の費用

ロ　縦，横断面図の照査等の費用

ハ　用地幅杭等の仮移設等の費用

ニ　丁張の設置等の費用

３）　準備として行う以下に要する費用

イ　ブルドーザ，レーキドーザ，バックホウ等による雑木や小さな樹木，竹などを除去する伐開に要する費用（樹木をチェーンソー等により切り倒す伐採作業は含まない。）

ロ　除根，除草，整地，段切り，すりつけ等に要する費用

なお，伐開，除根及び除草は，現場内の集積・積込み作業を含む。

４）　1)から3)に掲げるもののほか，伐開，除根，除草等に伴い発生する建設副産物等を工事現場外に搬出する費用，及び当該建設副産物等の処理費用等，工事の施工上必要な準備に要する費用。

５）　準備に伴い発生する交通誘導警備員の費用については，直接工事費に積上げ計上する。

（２）　積算方法

準備費として積算する内容で共通仮設費率に含まれる部分は，前記(1)の 1)，2)，3)とし，積上げ計上する項目は前記(1)の 4)に要する費用とし，現場条件を適確に把握することにより必要額を適正に積上げるものとする。

（３）　伐開，伐採の定義について

伐開とは，胸高直径５ｃｍ未満の雑木や小さな樹木・竹などの除去で，ブルドーザ・レーキドーザあるいはバックホウ等で作業を行うものとし，共通仮設費率に含む。

伐採とは，胸高直径５ｃｍ以上の樹木をチェーンソー等により切り倒す作業で，準備費として別途費用を計上すること。また，伐採に伴い発生する建設廃棄物等の工事現場外に搬出する運搬及び処分に要する費用についても，準備費として別途計上すること。

| | 伐開 | 伐採 |
|---|---|---|
| 伐開・伐採 | 率分 | 積上（小割含む） |
| 除根 | 率分 | |
| 除草 | 率分 | |
| 集積・積込み | 率分（現場内小運搬含む） | |
| 運搬・処分費 | 積上 | |

## ２－３　準備費（令和２年４月１日以降適用）

（１）　準備費の積算

準備費として積算する内容は次のとおりとする。

１）　準備及び後片付けに要する費用

イ　着手時の準備費用

ロ　施工期間中における準備，後片付け費用

ハ　完成時の後片付け費用

２）　調査・測量，丁張等に要する費用

イ　工事着手前の基準測量等の費用

ロ　縦，横断面図の照査等の費用

ハ　用地幅杭等の仮移設等の費用

ニ　丁張の設置等の費用

３）　準備として行う以下に要する費用

イ　ブルドーザ，レーキドーザ，バックホウ等による雑木や小さな樹木，竹等などを除去する伐開に要する費用（樹木をチェーンソー等により切り倒す伐採作業は含まない。）

ロ　除根，除草，整地，段切り，すりつけ等に要する費用

なお，伐開，除根及び除草は，現場内の集積・積込み作業を含む。（伐採作業に伴う現場内の集積・積込作業は含まない。）

４）　1)から３)に掲げるもののほか，伐開，除根，除草等に伴い発生する建設副産物等を工事現場外に搬出する費用，及び当該建設副産物等の処理費用等，工事の施工上必要な準備に要する費用。

５）　準備に伴い発生する交通誘導警備員の費用については，直接工事費に積上げ計上する。

（２）　積算方法

準備費として積算する内容で共通仮設費率に含まれる部分は，前記(1)の 1)，2)，3)とし，積上げ計上する項目は前記(1)の 4)に要する費用とし，現場条件を適確に把握することにより必要額を適正に積上げるものとする。

なお，伐採作業，伐採に伴う集積・積込，伐採により発生する建設廃棄物等の工事現場外に搬出する運搬及び処分に要する費用は，準備費として別途計上すること。

伐採作業等の項目別対象表

| 項目 | 作業費 | 集積・積込<br>（現場内小運搬含む） | 運搬費 | 処分費 |
|---|---|---|---|---|
| 伐開 | ○ | ○ | ● | ● |
| 伐採 | ● | ● | ● | ● |
| 除根 | ○ | ○ | ● | ● |
| 除草 | ○ | ○ | ● | ● |

○：率分

●：積上

（３）　伐開，伐採の定義について

伐開とは，胸高直径５ｃｍ未満の雑木や小さな樹木・竹などの除去で，ブルドーザ・レーキドーザあるいはバックホウ等で作業を行うものをいう。

伐採とは，胸高直径５ｃｍ以上の樹木をチェーンソー等により切り倒す作業をいう。

## ２－４　事業損失防止施設費

（１）　事業損失防止施設費の積算

事業損失防止施設費として積算する内容は次のとおりとする。

１）　工事施工に伴って発生する騒音，振動，地盤沈下，地下水の断絶等に起因する事業損失を未然に防止するための仮施設の設置費，撤去費，及び当該仮施設の維持管理等に要する費用

２）　事業損失を未然に防止するために必要な調査等に要する費用

（２）　積算方法

事業損失防止施設費の積算は，現場条件を適確に把握することにより必要額を適正に積上げるものとする。

（３）　工事施工に係る損害調査について

損害調査費を計上する場合は，特記仕様書に明記するものとし，次のとおり積算する。

なお，損害調査費等に係る間接費については業務委託積算基準に準じて計上するものとし，共通仮設費（率分）・現場管理費・一般管理費等の対象としない。【積算システムでは「#0048」配下に積み上げる】

（４）　家屋調査及び費用負担の積算について

１）家屋調査仕様書について

「用地調査等業務共通仕様書」「地盤変動影響調査算定要領（案）」を使用する。

２）家屋調査費及び費用負担の積算費について

「業務委託積算基準第６編用地調査等業務第15地盤変動影響調査等」による。

## ２－５　安全費

### （１）　安全費の積算

安全費として積算する内容は次のとおりとする。

１）　安全施設等に要する費用
２）　安全管理等に要する費用
３）　１)～２)に掲げるもののほか，工事施工上必要な安全対策等に要する費用

### （２）　積算方法

安全費として積算する内容で共通仮設費率に含まれる部分は，下記の項目とする。

①　工事地域内全般の安全管理上の監視，あるいは連絡等に要する費用
②　不稼働日の保安要員等の費用
③　標示板，標識，保安燈，防護柵，バリケード，架空線等事故防止対策簡易ゲート，照明等の安全施設類の設置，撤去，補修に要する費用及び使用期間中の損料
④　夜間工事その他，照明が必要な作業を行う場合における照明に要する費用（大規模な照明設備を必要とする広範な工事（ダム・トンネル本体工事，トンネル内舗装等工事）は除く）
⑤　河川，海岸工事における救命艇に要する費用
⑥　長大トンネルにおける防火安全対策に要する費用（工事用連絡設備含む）
⑦　酸素欠乏症の予防に要する費用
⑧　粉塵作業の予防に要する費用（ただし，「ずい道等建設工事における粉塵対策に関するガイドライン」によるトンネル工事の粉塵発生源に係る措置の各設備，「鉛等有害物を含有する塗料のかき落とし作業における労働者の健康障害防止について」に伴う各ばく露防止対策は，仮設工に計上する）
⑨　安全用品等の費用
⑩　安全委員会等に要する費用
⑪　「山岳トンネル工事の切羽における肌落ち災害防止対策に係るガイドライン」における設備的防護対策に要する費用

上記以外で積上げ計上する項目は，次の各項に要する費用とする。

①　鉄道，空港関係施設等に近接した工事現場における出入り口等に配置する安全管理員等に要する費用
②　バリケード，転落防止柵，工事標識，照明等のイメージアップに要する費用（積算方法は，第９章「土木請負工事における現場環境改善費の積算」による）
③　高圧作業の予防に要する費用
④　河川及び海岸の工事区域に隣接して，航路がある場合の安全標識・警戒船運転に要する費用
⑤　ダム工事における岩石掘削時に必要な発破・監視のための費用
⑥　トンネル工事における呼吸用保護具（電動ファン付粉塵用呼吸用保護具等）に要する費用
⑦　成形板等の飛散しにくい建材の解体作業における保護具の装着，湿潤を保つ措置を行う費用
⑧　鉛等有害物を含有する塗装のかき落とし作業における呼吸用防護具(電動ファン付粉塵用呼吸要保護具等)に要する費用
⑨　「山岳トンネル工事の切羽における肌落ち災害防止対策に係るガイドライン」における切羽変位計測に要する費用（トンネル（ＮＡＴＭ）の計測Ａに要する費用については除く）
⑩　その他，現場条件等により積み上げを要する費用

１）　トンネル工事における呼吸用保護具の積算

トンネル建設工事における掘削及び支保工に使用する呼吸用保護具（電動ファン付粉塵用保護具等）の費用として，１工事当り次式「呼吸用保護具等費用」を別途計上するものとする。

呼吸用保護具等費用 ＝ 1,490,000 ＋ 総労務費×0.5%（円）

（令和２年３月３１日まで適用）

なお，総労務費とは，１工事当りのトンネル世話役，トンネル特殊工，トンネル作業員の労務費合計額とする。

（令和２年４月１日以降適用）

なお，総労務費とは，１工事当りのトンネル世話役，トンネル特殊工，トンネル作業員の労務費（鏡吹付施工労務費を含む）合計額とする。

## ２－６　役務費

（１）　役務費の積算

役務費として積算する内容は次のとおりとする。

１）　土地の借上げ等に要する費用

２）　電力，用水等の基本料

３）　電力設備用工事負担金

（２）　役務費の積算

役務費の積算は，現場条件を的確に把握し，必要額を適正に積み上げるものとする。

１）　借地料

土地の借上げを必要とする場合に計上するものとし，借地単価は，「島根県農林水産部及び土木部の公共事業の施行に伴う損失補償基準第 24 条及び同運用方針第 11」に基づき積算する。

（イ）　宅地・宅地見込地及び農地　　地価の６％（１年間当たり）

（ロ）　林地及びその他の土地　　地価の５％（１年間当たり）

２）　電力基本料金

（イ）　工事用電力の電力基本料金は，中国電力株式会社の「電気供給約款」により積算するものとする。（電力料金は直接工事費に計上する。）

（ロ）　電力基本料金の算定

電力基本料金＝基本料金(円/kW/月)×契約最大電力(kW)×使用月数

（注）　使用月数は少数点以下第２位を四捨五入し，少数点以下第１位まで計上する。

３）　電力設備用工事負担金

電力設備用工事負担金とは，臨時電力（１年未満の契約の契約期間の場合に適用）の臨時工事費及び高圧電力Ａ等（１年以上の契約期間で１年間までは負荷を増減しない場合に適用）の，工事費負担金を総称するものである。

工事費負担金は，使用する設備容量，電気供給契約種別，電力会社が施設する配電線路の延長等によって異なるので設備容量，使用期間，使用場所等を定めて負担金を計上する。

## ２－７　技術管理費

（１）　技術管理費の積算

技術管理費として積算する内容は次のとおりとする。

１）　品質管理のための試験等に要する費用
２）　出来形管理のための測量等に要する費用
３）　工程管理のための資料の作成等に要する費用
４）　１)～３)に掲げるもののほか，技術管理上必要な資料の作成に要する費用

（２）　積算方法

技術管理費として積算する内容で共通仮設費率に含まれる部分は，前記(1)の 1)，2)，3)のうち下記項目とする。

① 品質管理基準に記載されている試験項目（必須・その他）に要する費用
② 出来形管理のための測量，図面作成，写真管理に要する費用
③ 工程管理のための資料の作成等に要する費用
④ 完成図，マイクロフィルムの作成及び電子納品等に要する費用
⑤ 建設材料の品質記録保存に要する費用
⑥ コンクリート中の塩化物総量規制に伴う試験に要する費用
⑦ コンクリートの単位水量測定，ひび割れ調査，テストハンマーによる強度推定調査に要する費用
⑧ 非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定に要する費用
⑨ 微破壊・非破壊試験によるコンクリート構造物の強度測定に要する費用
⑩ ＰＣ上部工，アンカー工等の緊張管理，グラウト配合試験等に要する費用
⑪ トンネル工（ＮＡＴＭ）の計測Ａに要する費用
⑫ 塗装膜厚施工管理に要する費用
⑬ 溶接工の品質管理のための試験等に要する費用（現場溶接部の検査費用を含む）
⑭ 施工管理で使用するＯＡ機器の費用（情報共有システムに係る費用（登録料及び利用料）を含む）
⑮ 品質証明に係る費用（品質証明費）
⑯ 建設発生土情報交換システム及び建設副産物情報交換システムの操作に要する費用

上記以外で積上げする項目は，次の各項に要する費用とする。

（イ）　特殊な品質管理に要する費用

・土質等試験：品質管理基準に記載されている項目以外の試験
・地質調査　：平板載荷試験，ボーリング，サウンディング，その他原位置試験

なお，測量・調査・試験等の費用を計上する場合は，その業務の内容に応じた諸経費等を計上し，現場管理費及び一般管理費等の対象としない。【積算システムでは「#0046」配下に積み上げる】

（ロ）　現場条件等により積上げを要する費用

・軟弱地盤等における計器の設置・撤去及び測定・とりまとめに要する費用
・試験盛土等の工事に要する費用，トンネル（ＮＡＴＭ）の計測Ｂに要する費用
・下水道工事において目視による出来形の確認が困難な場合に用いる特別な機器に要する費用
・施工前に既設構造物の配筋状況の確認を目的とした特別な機器（鉄筋探査等）を用いた調査に要する費用
・防護柵の出来形管理のための非破壊試験に要する費用

（ハ）　施工合理化調査，施工形態動向調査及び諸経費動向調査に要する費用

・調査に要する費用とし，その費用については，間接工事費，一般管理費等の対象とする。

（ニ）　法令・施設台帳等の作成に要する費用

・現場管理費及び一般管理費等の対象としない。【積算システムでは「#0046」配下に積み上げる】

（ホ）　成形板等の飛散しにくい建材への石綿の使用の有無を分析によって調査する費用

（ヘ）　ＩＣＴ建設機械に要する以下の費用

・保守点検
・システム初期費
・３次元起工測量，３次元設計データの作成費用

なお，システム初期費については一工事あたり使用機械毎に一式計上とする（施工箇所が点在する工事の場合は，箇所ごとに計上するのではなく，一工事あたり使用機種毎に一式計上とする）。

（ト）　その他，前記イ，ロ，ハ，ニ，ホ，ヘに含まれない項目で，特に技術的判断に必要な資料の作成に要する費用

（３） 技術管理費で積上げ計上する各種試験費について

共通仕様書の品質管理基準に規定している試験区分「必須」及び「その他」の各種試験費用は，技術管理費として，共通仮設費率に含まれている。よって，品質管理基準に記載されていない試験及び基準に規定する回数以上の試験を仕様書等で指示する場合は，試験費を積上げ計上する。

例－１：六価クロム溶出試験費→共通仕様書での試験項目ではないため，試験費を積上げ計上する。

例－２：固結工の一軸圧縮試験を行うためのボーリング費用

→固結工においては，一軸圧縮試験を行うこととなっているが，この供試体採取のためには，ボーリングによる試料採取が必要となる。このような場合のボーリング費用は共通仮設費率に含むものとする。

## ２－８　営繕費

（１）　営繕費として積算する内容は次のとおりとする。

１）　現場事務所，試験室等の営繕（設置・撤去，維持・修繕）に要する費用

２）　労働者宿舎の営繕（設置・撤去，維持・修繕）に要する費用

３）　倉庫及び材料保管場の営繕（設置・撤去，維持・修繕）に要する費用

４）　労働者の輸送に要する費用

５）　上記 1)，2)，3)に係る土地・建物の借上げに要する費用

６）　監督員詰所及び火薬庫の営繕（設置・撤去，維持・補修）に要する費用

７）　１)～６)に掲げるもののほか工事施工上必要な営繕等に要する費用

（２）　積算方法

営繕費として積算する内容で共通仮設費率に含まれる部分は，前記(1)の 1)，2)，3)，4)，5)及び 6）の内以下の項目とする。

・コンクリートダム，フィルダム工事では，監督員詰所及び火薬庫等の設置・撤去，維持・補修に要する費用を含む。

上記以外で積上げする項目は，次の各項に要する費用とする。

１）　監督員詰所及び火薬庫等の営繕に要する費用

監督員詰所及び火薬庫等の設置は工事期間，工事場所，施工時期，工事規模，監督体制等を考慮して必要な費用を積上げるものとする。

イ．監督員詰所

・設置撤去する場合　Ｅｋ＝Ａ（500・Ｍ＋14，150）＋ｔ・Ｍ

・設置のみの場合　　Ｅｋ＝Ａ（500・Ｍ＋10，600）＋ｔ・Ｍ

・撤去のみの場合　　Ｅｋ＝Ａ（500・Ｍ＋3，550）＋ｔ・Ｍ

・損料のみの場合　　Ｅｋ＝Ａ（500・Ｍ）＋ｔ・Ｍ

ただし，Ｅｋ：監督員詰所に係る営繕費

（Ｅｋには，建物の設置・撤去・損料に要する費用，電気・水道・ガス設備の設置・撤去に要する費用，下記ｔの費用が含まれる。）

Ａ：建物面積（㎡）

（建物面積は人員２名までは 25 ㎡を標準とする。ただし，現場条件及び夜間作業を伴い宿泊施設を要する場合等により，詰所の規模は別途考慮することが出来る。）

Ｍ：月数（必要日数を 30 日で除し，小数第２位を四捨五入し，小数１位止めとする。）

ｔ：次の項目に要する費用

ａ．備品(机，いす，黒板，温度計，書箱，時計，エアコン，消火器，湯沸器，ロッカー，応接セット）に要する費用

備品は損料として 13，800 円／月を計上する。

ｂ．その他，現場条件等により積上げを要する費用。

(注) １．備品及び車庫を計上する場合は，特約事項又は特記仕様書に明示するものとする。

２．上記のＥｋについては，電気，水道，ガスに係る基本料及び使用料は含まれていない。

３．電気，水道，ガスに係る既設の供給管（線）と監督員詰所が離れている場合は，別途考慮することが出来る。

４．監督員詰所の設置にあたり土地等の借上げが必要な場合は，別途考慮することが出来る。

ロ．火薬庫類

（イ） 火薬庫類の計上区分

（ａ） 大規模工事（１工事の火薬使用量が，20ｔ以上の工事）

**表2．1 火薬庫類等の計上区分及び規格**

| 火薬庫類等 | 規　　格 |
|---|---|
| 火　薬　庫 | ２級火薬庫<br>鋼製移動式　２ｔ庫　5.0㎡ |
| 火工品庫 | 鋼製移動式　１ｔ　3.2㎡ |
| 取　扱　所 | 鋼製移動式　3.2㎡ |
| 火　工　所 | 組立テント式　1.9㎡ |

（注） 条例，現場条件等により現場に火薬庫を設置することが不適当と判断される場合は小規模工事に準ずる。

（ｂ）小規模工事（大規模以外の工事）

**表2．2 火薬庫類等の計上区分及び規格**

| 火薬庫類等 | 規　　格 | 適　　用 |
|---|---|---|
| 取　扱　所 | 鋼製移動式 3.2㎡ | １日の使用量が 25kg 以下の場合は計上しない。 |
| 火　工　所 | 組立テント式 1.9㎡ | |

（注） 交通不便な箇所において火薬庫を設置して火薬類を保管する必要があると判断される場合，又は条例，その他別途定められている場合においては必要に応じて火薬庫を計上するものとする。

（ロ） 火薬庫類の営繕損料

**表2．3 1現場当り火薬庫類損料**

| 火薬庫類等 | 規　　格 | 損料（２年以下一律）（円） |
|---|---|---|
| 火　薬　庫 | ２級火薬庫<br>鋼製移動式　２ｔ庫　5.0㎡ | 620，000 |
| 火工品庫 | 鋼製移動式　１ｔ　3.2㎡ | 523，000 |
| 取　扱　所 | 鋼製移動式　3.2㎡ | 459，000 |
| 火　工　所 | 組立テント式　1.9㎡ | 54，000 |

（注）１．１現場当りの使用期間が２年を超える場合は下記のとおりとする。

ａ．２～４年の場合は，上表損料の 40%増とする。

ｂ．４年を超える場合は，火薬庫類の耐用年数を考慮して別途積算する。

２．火薬庫類損料には，火薬庫類の設置・撤去，立入防止柵，警報装置等の費用を含む。

（ハ） 保安管理費

火薬庫，火工品庫を設置する工事にあたっては，火薬類盗難防止の万全を期するため，必要に応じて夜間巡回等の見張人を安全費に計上するものとする。ただし，上記の場合は特記仕様書にその旨を記載するものとし，次式により算定する。

保安管理費＝火薬庫類設置期間（月）×30 日／月×普通作業員単価（昼間単価）

（注） 火薬庫類設置期間は火薬を使用する工種の設計工程から求めるものとし，0.5 ヶ月単位（２捨３入）とする。

（ニ） 火薬庫類の設置にあたり土地の借上げが必要な場合は別途計上することが出来る。

２） 現場事務所，監督員詰所等の美装化，シャワーの設置，トイレの水洗化等に要する費用とし，積算方法は「第９章土木請負工事における現場環境改善費の積算」による。

３） その他，現場条件等により積上げを要する費用。

## 3. 現 場 管 理 費

（1） 現場管理費の項目及び内容

1） 労務管理費

現場労働者に係る次の費用とする。

イ．募集及び解散に要する費用（赴任旅費及び解散手当を含む。）

ロ．慰安，娯楽及び厚生に要する費用

ハ．直接工事費及び共通仮設費に含まれない作業用具及び作業用被服の費用

ニ．賃金以外の食事，通勤等に要する費用

ホ．労災保険法等による給付以外に災害時には事業主が負担する費用

2） 安全訓練等に要する費用

現場労働者の安全・衛生に要する費用及び研修訓練等に要する費用

3） 租税公課

固定資産税，自動車税，軽自動車税等の租税公課。ただし，機械経費の機械器具等損料に計上された租税公課は除く。

4） 保険料

自動車保険（機械器具等損料に計上された保険料は除く。）工事保険，組立保険，法定外の労災保険，火災保険，その他の損害保険の保険料

5） 従業員給料手当

現場従業員の給料，諸手当（危険手当，通勤手当，火薬手当等）及び賞与

ただし，本店及び支店で経理される派遣会社役員等の報酬及び運転者，世話役等で純工事費に含まれる現場従業員の給料等は除く。

6） 退職金

現場従業員に係る退職金及び退職給与引当金繰入額

7） 法定福利費

現場従業員及び現場労働者に関する労災保険料，雇用保険料，健康保険料及び厚生年金保険料の法定の事業主負担額並びに建設業退職金共済制度に基づく事業主負担額

8） 福利厚生費

現場従業員に係る慰安娯楽，貸与被服，医療，慶弔見舞等福利厚生，文化活動等に要する費用

9） 事務用品費

事務用消耗品，新聞，参考図書等の購入費

10） 通信交通費

通信費，交通費及び旅費

11） 交際費

現場への来客等の応対に要する費用

12） 補償費

工事施工に伴って通常発生する物件等の毀損の補修費及び騒音，振動，濁水，交通騒音等による事業損失に係る補償費

ただし，臨時にして巨額なものは除く。

13） 外注経費

工事施工を専門工事業者等に外注する場合に必要となる経費

14） 工事登録等に要する費用

工事実績等の登録に要する費用

15） 動力・用水光熱費

現場事務所，試験室，労働者宿舎，倉庫及び材料保管庫で使用する電力，用水，ガス等の費用（基本料金を含む。）

16） 公共事業労務費調査に要する費用

17） 雑費

1）から 16）までに属さない諸費用

（2） 現場管理費の算定

1） 現場管理費は別表第２（第１表～第５表）の工種区分に従って純工事費ごとに求めた現場管理費率を，当該純工事費に乗じて得た額の範囲内とする。

なお，現場管理費の算定上，対象とする純工事費については，「２．共通仮設費（２）算定方法 1)率計算による部分 の（ニ)」及び「２．共通仮設費（２）算定方法 5)間接工事費等の項目別対象表」を参照のこと。

2） ２種以上の工種からなる工事については，その主たる工種の現場管理費率を適用するものとし，また，工事条件によっては，工事名にとらわれることなく工種を選定するものとする。

3） 設計変更で数量の増減等により主たる工種が変わっても当初設計の工種とする。

（3） 現場管理費率の補正

1） 施工地域を考慮した現場管理費率の補正及び計算

イ） 表－３の適用条件に該当する場合，別表第２（第１表～第４表）の現場管理費率に下表の補正係数を乗じるものとする。

表－３ 地域補正の適用（令和２年３月３１日まで適用）

| 適用条件 | | | 補正係数 | 適用優先 |
|---|---|---|---|---|
| 施工地域区分 | 工種区分 | 対象 | | |
| 市街地（DID 補正）（１） | 鋼橋架設工事 | 市街地部が施工箇所に含まれる場合。 | 1.1 | 1 |
| | 電線共同溝工事 | | | |
| | 道路維持工事 | | | |
| | 舗装工事 | | | |
| | 橋梁保全工事 | | | |
| 一般交通影響有り（１） | 全ての工種（※） | ２車線以上（片側１車線以上）かつ交通量（上下合計）が 5,000 台/日以上の車道において，車線変更を促す規制を行う場合。ただし，常時全面通行止めの場合は対象外とする。 | 1.1 | 2 |
| 一般交通影響有り（２） | 全ての工種（※） | 一般交通影響有り（１）以外の車道において，車線変更を促す規制を伴う場合。（常時全面通行止めの場合を含む。） | 1.1 | 3 |
| 市街地（DID 補正）（２） | 市街地（DID 補正）（１）以外（※） | 市街地（DID 補正）（１）で適用となる工種区分以外で，市街地部が施工箇所に含まれる場合。 | 1.1 | 4 |
| 離　　島 | 全ての工種（※） | | 1.0 | 5 |

※コンクリートダム及びフィルダム工事は適用しない。

（注）１．市街地とは，施工地域が人口集中地区（ＤＩＤ地区）及びこれに準ずる地区をいう。

なお，ＤＩＤ地区とは，総務省統計局国勢調査による地域別人口密度が 4，000 人／km2 以上でその全体が 5，000 人以上となっている地域をいう。（松江市，出雲市，益田市，浜田市，安来市の一部）

これに準ずる地区とは，総務省が規定する「準人口集中地区」をいう。

２．適用条件の複数に該当する場合は，適用優先によるが，共通仮設費で決定した施工地域区分と同じものを適用すること

表－３　地域補正の適用（令和２年４月１日以降適用）

| 適用条件 | | | 補正係数 | 適用優先 |
|---|---|---|---|---|
| 施工地域区分 | 工種区分 | 対象 | | |
| 市街地（DID 補正）（１）－１ | 電線共同溝工事 | 市街地部が施工箇所に含まれる場合。 | 1.2 | 1 |
| | 道路維持工事 | | | |
| | 舗装工事 | | | |
| | 橋梁保全工事 | | | |
| 一般交通影響有り（１）－１ | 電線共同溝工事 | ２車線以上（片側１車線以上）かつ交通量（上下合計）が 5,000 台/日以上の車道において，車線変更を促す規制を行う場合。ただし，常時全面通行止めの場合は対象外とする。 | | |
| | 道路維持工事 | | | |
| | 舗装工事 | | | |
| | 橋梁保全工事 | | | |
| 一般交通影響有り（２）－１ | 電線共同溝工事 | 一般交通影響有り（１）以外の車道において，車線変更を促す規制を伴う場合。（常時全面通行止めの場合を含む。） | | |
| | 道路維持工事 | | | |
| | 舗装工事 | | | |
| | 橋梁保全工事 | | | |
| 市街地（DID 補正）（１）－２ | 電線共同溝工事、道路維持工事、舗装工事、橋梁保全工事以外の工種（※） | 市街地部が施工箇所に含まれる場合。 | 1.1 | 2 |
| 一般交通影響有り（１）－２ | 電線共同溝工事、道路維持工事、舗装工事、橋梁保全工事以外の工種（※） | ２車線以上（片側１車線以上）かつ交通量（上下合計）が 5,000 台/日以上の車道において，車線変更を促す規制を行う場合。ただし，常時全面通行止めの場合は対象外とする。 | 1.1 | 3 |
| 一般交通影響有り（２）－２ | 電線共同溝工事、道路維持工事、舗装工事、橋梁保全工事以外の工種（※） | 一般交通影響有り（１）以外の車道において，車線変更を促す規制を伴う場合。（常時全面通行止めの場合を含む。） | 1.1 | 4 |
| 離　　島 | 全ての工種（※） | | 1.0 | 5 |

※コンクリートダム及びフィルダム工事は適用しない。

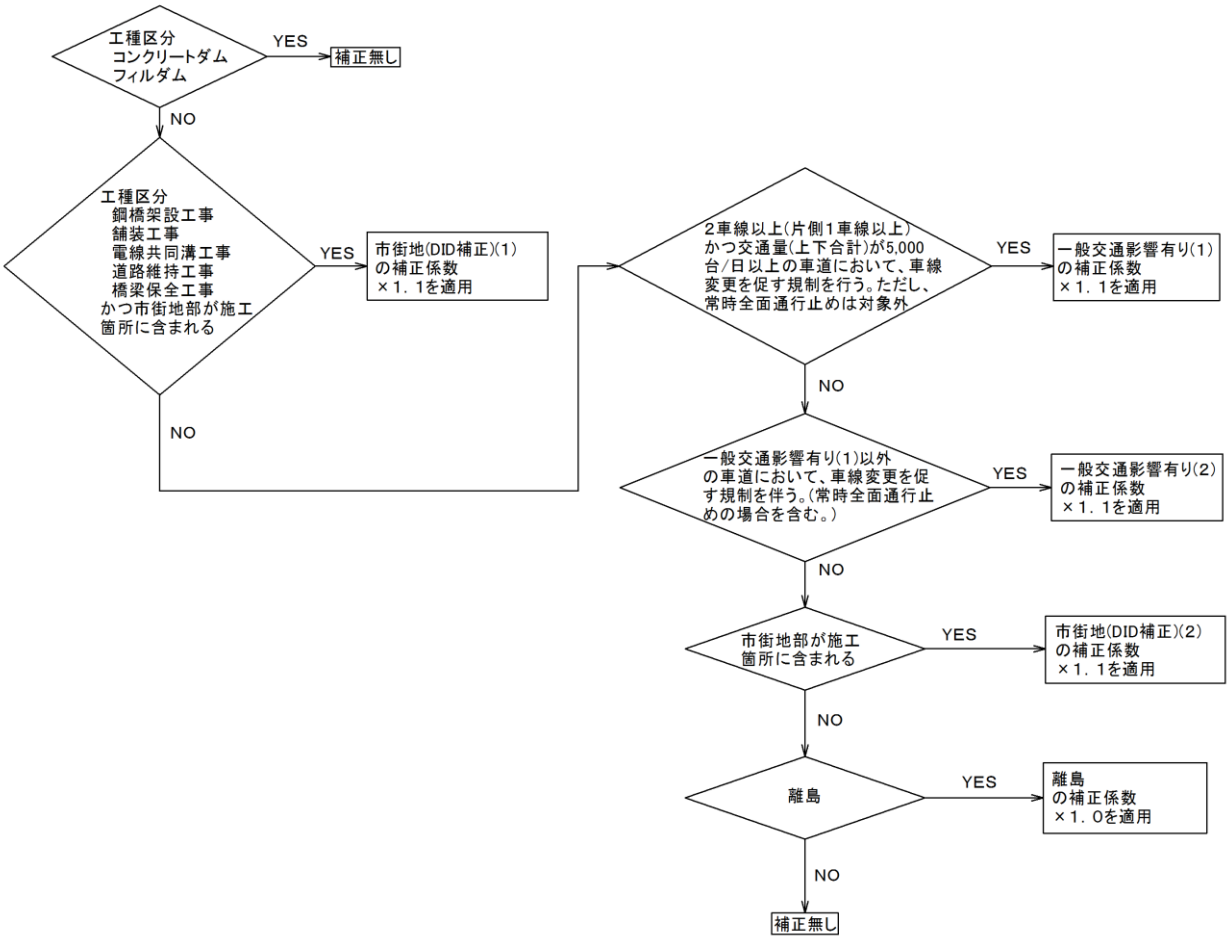
（注）１．市街地とは，施工地域が人口集中地区（ＤＩＤ地区）及びこれに準ずる地区をいう。

なお，ＤＩＤ地区とは，総務省統計局国勢調査による地域別人口密度が 4，000 人／km2 以上でその全体が 5，000 人以上となっている地域をいう。（松江市，出雲市，益田市，浜田市，安来市の一部）

これに準ずる地区とは，総務省が規定する「準人口集中地区」をいう。

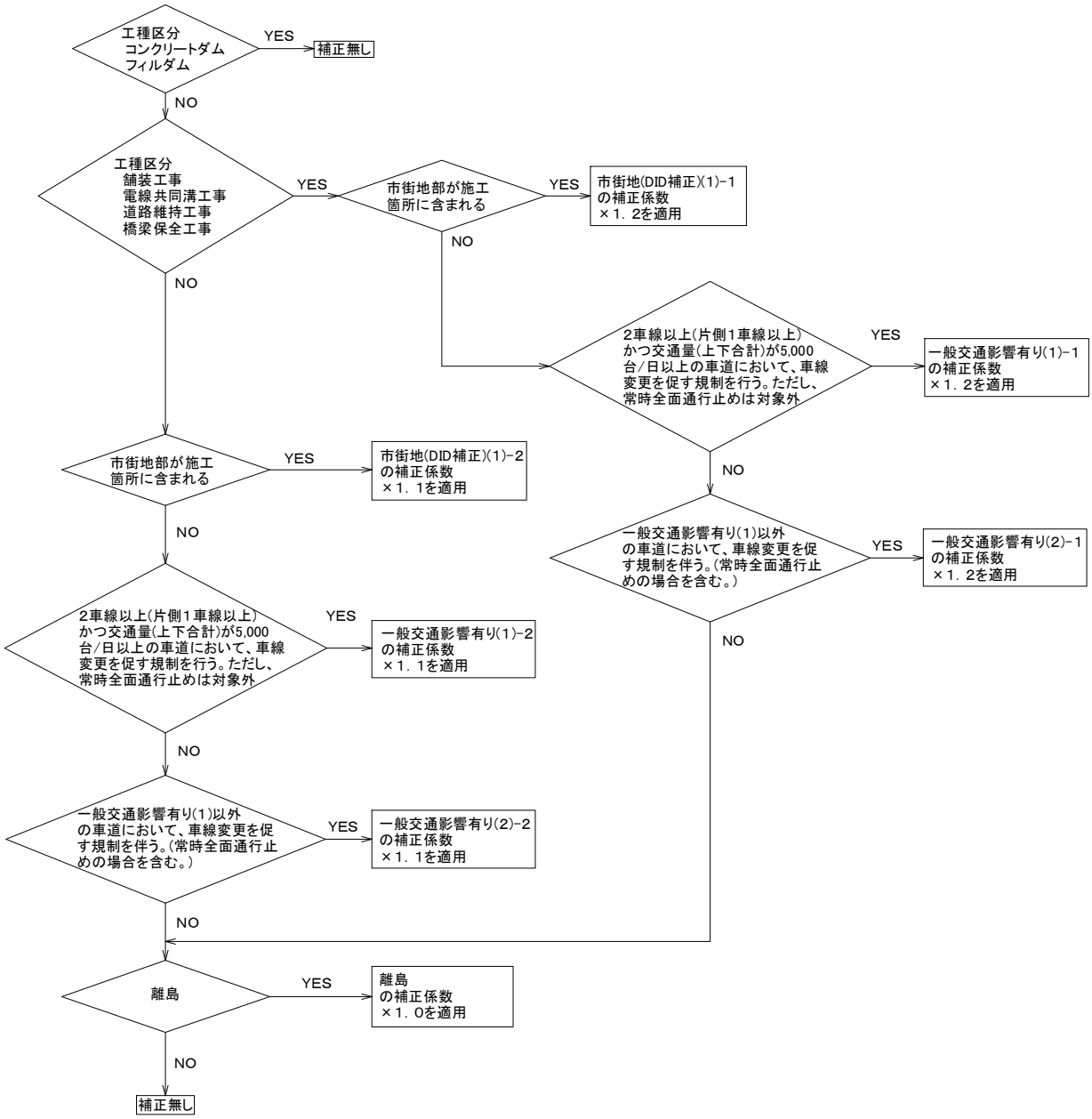
２．適用条件の複数に該当する場合は，適用優先によるが，共通仮設費で決定した施工地域区分と同じものを適用すること。

（令和２年３月３１日まで適用）




図－１　現場管理費補正のフロー

（令和２年４月１日以降適用）




図－１　現場管理費補正のフロー

２） その他

イ） 災害の発生等により，本基準において想定している状況と実態が乖離している場合などについては，上記１）のほか，必要に応じて実態等を踏まえた補正係数を設定することができるものとする。

ロ） 設計変更時における現場管理費率の補正については，工事区間の延長，工期の延長短縮等により当初計上した補正値に増減が生じた場合，あるいは当初計上していなかったが，上記条件の変更により補正出来ることとなった場合は設計変更の対象として処理するものとする。

（４） 支給品の取扱い

１） 資材等を支給するときは，当該支給品費を純工事費に加算した額を現場管理費算定の対象となる純工事費とする。

（５） 現場管理費の積算において支給品，貸付機械がある場合は，次により積算する。

１） 別途製作工事で製作し，架設（据付）のみを分離して発注する場合は，当該製作費は積算の対象とする純工事費には含めない。

２） 当初の支給品の価格決定については，県が購入した資材を支給する場合，現場発生資材を県が保管し再使用品として支給する場合とも，積算時における市場価格又は類似品価格とする。

３） コンクリートダム工事，フィルダム工事については，無償貸付機械等評価額及び支給電力料（基本料金含む）は，積算の対象となる純工事費には含めない。

（６） 石綿等が使用されている建築物又は工作物の解体等の作業に係る業務に関する衛生のための特別の教育の実施費用を要する場合は，積上げ計上のこと。

（7） 「処分費等」の取扱い

「処分費等」とは，下記のものとし，「処分費等」を含む工事の積算は，当該処分費等を直接工事費に計上し，間接工事費等の積算は，表のとおりとする。

1） 処分費（再資源化施設の受入費を含む）

2） 上下水道料金

3） 有料道路利用料

| 区　分 | 処分費等が「共通仮設費対象額(P)」の３％以下でかつ処分費等が３千万円以下の場合 | 処分費等が「共通仮設費対象額(P)」の３％を超える場合又は処分費等が３千万円を超える場合 |
|---|---|---|
| 共通仮設費 | 処分費等は全額を率計算の対象とする。 | 処分費等は「共通仮設費対象額(P)」の３％の金額を率計算の対象とし，３％を超える金額は率計算の対象としない。<br>ただし，対象とする金額は３千万円を上限とする。 |
| 現場管理費 | 処分費等は全額を率計算の対象とする。 | 処分費等は「共通仮設費対象額(P)」の３％の金額を率計算の対象とし，３％を超える金額は率計算の対象としない。<br>ただし，対象とする金額は３千万円を上限とする。 |
| 一般管理費等 | 処分費等は全額を率計算の対象とする。 | 処分費等は「共通仮設費対象額(P)」の３％の金額を率計算の対象とし，３％を超える金額は率計算の対象としない。<br>ただし，対象とする金額は３千万円を上限とする。 |

（注）１．上表の処分費等は，準備費に含まれる処分費を含む。
なお，準備費に含まれる処分費は伐開，除根等に伴うものである。
２．処分費を計上する場合は，「２．共通仮設費　２－３準備費」による。
３．上表により難い場合は別途考慮するものとする。

（8） 現場管理費の計算

現場管理費＝対象純工事費×(現場管理費率×補正係数)

対象純工事費：純工事費＋支給品費＋無償貸付機械等評価額

ただし，現場管理費率は，別表第２（第１表～第４表）による。

補正係数は，（3）1）施工地域を考慮した現場管理費率の補正による。

なお，補正係数を乗じる場合は，現場管理費率Ｊｏの端数処理後に係数を乗じて，小数点以下第３位を四捨五入して２位止めとする。

**別表第2　　現場管理費率　（令和2年3月31日まで適用）**

**第1表**

| 対象額／適用区分／工種区分 | 700万円<br>以　下 | 700万円を超え10億円<br>以　　下 | | 10億円を<br>超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の<br>率<br>とする | (2)の算定式により算出された率とする。<br>ただし，変数値は下記による。 | | 下記の<br>率<br>とする |
| | | A | b | |
| 河　川　工　事 | 43.20 | 1,270.0 | －0.2145 | 14.90 |
| 河川・道路構造物工事 | 42.50 | 457.7 | －0.1508 | 20.11 |
| 海　岸　工　事 | 27.72 | 113.6 | －0.0895 | 17.78 |
| 道路改良工事 | 33.65 | 86.9 | －0.0602 | 24.96 |
| 鋼橋架設工事 | 48.12 | 302.3 | －0.1166 | 26.98 |
| P　C　橋　工　事 | 30.73 | 120.5 | －0.0867 | 19.98 |
| 舗　装　工　事 | 40.32 | 667.7 | －0.1781 | 16.66 |
| 砂防・地すべり等工事 | 45.49 | 1,362.7 | －0.2157 | 15.60 |
| 公　園　工　事 | 42.43 | 385.5 | －0.1400 | 21.18 |
| 電線共同溝工事 | 60.30 | 2,406.6 | －0.2339 | 18.89 |
| 情報ボックス工事 | 53.99 | 1,690.4 | －0.2185 | 18.26 |

（注）　基礎地盤から堤頂までの高さが20m以上の砂防堰堤は，砂防・地すべり等工事に２％加算する。

**第2表**

| 対象額／適用区分／工種区分 | 700万円<br>以　下 | 700万円を超え３億円<br>以　　下 | | ３億円を<br>超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の<br>率<br>とする | (2)の算定式により算出された率とする。<br>ただし，変数値は下記による。 | | 下記の<br>率<br>とする |
| | | A | b | |
| 橋梁保全工事 | 64.94 | 1,622.9 | －0.2042 | 30.15 |

**第3表**

| 対象額／適用区分／工種区分 | 200万円<br>以　下 | 200万円を超え１億円<br>以　　下 | | １億円を<br>超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の<br>率<br>とする | (2)の算定式により算出された率とする。<br>ただし，変数値は下記による。 | | 下記の<br>率<br>とする |
| | | A | b | |
| 道路維持工事 | 59.78 | 628.9 | －0.1622 | 31.69 |
| 河川維持工事 | 41.92 | 171.5 | －0.0971 | 28.67 |

**第4表**

| 対象額／適用区分／工種区分 | | 1，000万円以　下 | 1，000万円を超え20億円以　　下 | | 20億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 下記の率とする | (2)の算定式により算出された率とする。ただし，変数値は下記による。 | | 下記の率とする |
| | | | A | b | |
| 共同溝等工事 | (1) | 49.99 | 397.3 | －0.1286 | 25.29 |
| | (2) | 38.33 | 119.6 | －0.0706 | 26.37 |
| トンネル工事 | | 44.93 | 219.8 | －0.0985 | 26.66 |
| 下水道工事 | (1) | 34.44 | 56.4 | －0.0306 | 29.29 |
| | (2) | 37.59 | 228.2 | －0.1119 | 20.77 |
| | (3) | 32.26 | 52.4 | －0.0301 | 27.50 |

**第5表**

| 対象額／適用区分／工種区分 | 3億円以　下 | 3億円を超え50億円以　　下 | | 50億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする | (2)の算定式により算出された率とする。ただし，変数値は下記による。 | | 下記の率とする |
| | | A | b | |
| コンクリートダム | 22.90 | 332.0 | －0.1370 | 15.57 |
| フィルダム | 33.52 | 184.6 | －0.0874 | 26.21 |

（2） 算定式

$Jo = A \cdot Np^{b}$　　ただし，Ｊｏ：現場管理費率（%）

Ｎｐ：純工事費（円）

Ａ，ｂ：変数値

（注）１．Ｊｏの値は，小数点以下第３位を四捨五入して２位止めとする

２．対象とする純工事費については，「２．共通仮設費（２）算定方法 1)率計算による部分 の（ニ）」及び「２．共通仮設費（２）算定方法 5)間接工事費等の項目別対象表」を参照のこと。

**別表第2　　現場管理費率　（令和2年4月1日以降適用）**

**第1表**

| 対象額／適用区分／工種区分 | 700万円<br>以　下 | 700万円を超え10億円<br>以　　下 | | 10億円を<br>超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の<br>率<br>とする | (2)の算定式により算出された率とする。<br>ただし，変数値は下記による。 | | 下記の<br>率<br>とする |
| | | A | b | |
| 河　川　工　事 | 43.43 | 1,276.7 | －0.2145 | 14.98 |
| 河川・道路構造物工事 | 42.54 | 458.2 | －0.1508 | 20.13 |
| 海　岸　工　事 | 27.79 | 113.9 | －0.0895 | 17.82 |
| 道路改良工事 | 33.69 | 87.0 | －0.0602 | 24.99 |
| 鋼橋架設工事 | 48.24 | 303.1 | －0.1166 | 27.05 |
| P　C　橋　工　事 | 30.78 | 120.9 | －0.0868 | 20.01 |
| 舗　装　工　事 | 40.38 | 668.7 | －0.1781 | 16.69 |
| 砂防・地すべり等工事 | 45.75 | 1,370.6 | －0.2157 | 15.69 |
| 公　園　工　事 | 42.63 | 387.3 | －0.1400 | 21.28 |
| 電線共同溝工事 | 60.36 | 2,408.8 | －0.2339 | 18.91 |
| 情報ボックス工事 | 54.04 | 1,692.0 | －0.2185 | 18.28 |

（注）　基礎地盤から堤頂までの高さが20m以上の砂防堰堤は，砂防・地すべり等工事に２％加算する。

**第2表**

| 対象額／適用区分／工種区分 | 700万円<br>以　下 | 700万円を超え３億円<br>以　　下 | | ３億円を<br>超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の<br>率<br>とする | (2)の算定式により算出された率とする。<br>ただし，変数値は下記による。 | | 下記の<br>率<br>とする |
| | | A | b | |
| 橋梁保全工事 | 64.97 | 1,623.7 | －0.2042 | 30.16 |

**第3表**

| 対象額／適用区分／工種区分 | 200万円<br>以　下 | 200万円を超え１億円<br>以　　下 | | １億円を<br>超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の<br>率<br>とする | (2)の算定式により算出された率とする。<br>ただし，変数値は下記による。 | | 下記の<br>率<br>とする |
| | | A | b | |
| 道路維持工事 | 60.00 | 631.2 | －0.1622 | 31.81 |
| 河川維持工事 | 42.12 | 172.3 | －0.0971 | 28.81 |

**第4表**

| 対象額／適用区分／工種区分 | | 1，000万円以　下 | 1，000万円を超え20億円以　　下 | | 20億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 下記の率とする | (2)の算定式により算出された率とする。ただし，変数値は下記による。 | | 下記の率とする |
| | | | A | b | |
| 共同溝等工事 | (1) | 50.01 | 397.4 | －0.1286 | 25.30 |
| | (2) | 38.33 | 119.6 | －0.0706 | 26.37 |
| トンネル工事 | | 44.97 | 220.0 | －0.0985 | 26.69 |
| 下水道工事 | (1) | 34.56 | 56.6 | －0.0306 | 29.39 |
| | (2) | 37.79 | 229.8 | －0.1120 | 20.88 |
| | (3) | 32.44 | 52.7 | －0.0301 | 27.66 |

**第5表**

| 対象額／適用区分／工種区分 | 3億円以　下 | 3億円を超え50億円以　　下 | | 50億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする | (2)の算定式により算出された率とする。ただし，変数値は下記による。 | | 下記の率とする |
| | | A | b | |
| コンクリートダム | 22.92 | 333.0 | －0.1371 | 15.59 |
| フィルダム | 33.56 | 184.8 | －0.0874 | 26.24 |

（2） 算定式

$Jo = A \cdot Np^{b}$　　ただし，Ｊｏ：現場管理費率（%）

Ｎｐ：純工事費（円）

Ａ，ｂ：変数値

（注）１．Ｊｏの値は，小数点以下第３位を四捨五入して２位止めとする

２．対象とする純工事費については，「２．共通仮設費（２）算定方法 1)率計算による部分 の（ニ）」及び「２．共通仮設費（２）算定方法 5)間接工事費等の項目別対象表」を参照のこと。

# ③ 現場発生品及び支給品運搬

## 1. 適　用　範　囲

本資料は，現場発生品・支給品運搬に適用する。

１－１　適用出来る範囲

（１）防護柵，コンクリート二次製品等の現場発生品又は支給品の積込み，荷卸し及び指定箇所までの運搬

１－２　適用出来ない範囲は，以下のいずれかの条件に該当する場合

（１）4t 積車を超える車種を使用する場合

（２）現場発生品又は支給品以外の積込み，運搬

（３）自動車専用道路を利用する場合

（４）「第Ⅱ編第２章共通工⑲旧橋撤去工」により発生した高欄の運搬の場合

## 2. 施工パッケージ

２－１　現場発生品・支給品運搬

（１）条件区分

条件区分は，次表を標準とする。

**表2．1　現場発生品･支給品運搬　積算条件区分一覧**

（積算単位：回）

| トラック機種 | 片道運搬距離 | 1回当り平均積載質量 |
|---|---|---|
| クレーン装置付<br>ベーストラック 2t 級，吊能力 2t<br>（参考）荷台長 L=3.0m 荷台幅 W=1.6m | （表２．２） | 0.1t 以下 |
| | | 0.1t 超 0.2t 以下 |
| | | 0.2t 超 0.3t 以下 |
| | | 0.3t 超 0.5t 以下 |
| | | 0.5t 超 0.8t 以下 |
| | | 0.8t 超 1.1t 以下 |
| | | 1.1t 超 1.5t 以下 |
| | | 1.5t 超 2.0t 以下 |
| クレーン装置付<br>ベーストラック 4t 級，吊能力 2.9t<br>（参考）荷台長 L=3.4m 荷台幅 W=2.0m | （表２．２） | 0.1t 以下 |
| | | 0.1t 超 0.2t 以下 |
| | | 0.2t 超 0.3t 以下 |
| | | 0.3t 超 0.5t 以下 |
| | | 0.5t 超 0.8t 以下 |
| | | 0.8t 超 1.1t 以下 |
| | | 1.1t 超 1.5t 以下 |
| | | 1.5t 超 2.0t 以下 |
| | | 2.0t 超 2.6t 以下 |
| | | 2.6t 超 2.95t 以下 |

（注）１．上表は，構造物等撤去に伴う現場発生材や防護柵，コンクリート二次製品等の現場発生品又は支給品の積込み，指定箇所までの運搬，取卸し等，その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。

２．運搬費は発生(又は支給)する工種毎に直接工事費として計上する。

**表2．2 片道運搬距離**

| 積算条件 | 区　　分 |
|---|---|
| 片道運搬距離 | 2.0km 以下 |
| | 5.0km 以下 |
| | 9.0km 以下 |
| | 14.0km 以下 |
| | 20.0km 以下 |
| | 27.0km 以下 |
| | 35.0km 以下 |
| | 46.0km 以下 |
| | 60.0km 以下 |

（注）運搬距離が 60km を超える場合は別途考慮する。

（2）代表機労材規格

下表機労材は，当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

**表2．3 現場発生品･支給品運搬 代表機労材規格一覧**

| 項目 | | 代表機労材規格 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 機械 | K１ | トラック クレーン装置付 ベーストラック 2t 級，吊能力 2t | |
| | | トラック クレーン装置付 ベーストラック 4t 級，吊能力 2.9t | |
| | K２ | － | |
| | K３ | － | |
| 労務 | R１ | 特殊運転手 | |
| | R２ | 普通作業員 | |
| | R３ | － | |
| | R４ | － | |
| 材料 | Z１ | 軽油　１．２号　パトロール給油 | |
| | Z２ | － | |
| | Z３ | － | |
| | Z４ | － | |
| 市場単価 | S | － | |

令和元年度建設工事積算基準

# 第３章　一般管理費等及び消費税等相当額

①　一般管理費等‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-3-①- 1
1　一般管理費の項目及び内容‥‥‥‥‥ Ⅰ-3-①- 1
2　付加利益‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-3-①- 2
3　一般管理費等の算定‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-3-①- 2
4　一般管理費等率の補正‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-3-①- 2
5　一般管理費等率の補正に用いる前払金
支出割合の数値の取扱いについて‥‥‥ Ⅰ-3-①- 3
②　消費税等相当額‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-3-②- 1

令和元年度建設工事積算基準

# 第３章　一般管理費等及び消費税等相当額

## ①　一般管理費等

### １　一般管理費の項目及び内容

（１）　役員報酬
　　取締役及び監査役に対する報酬及び役員賞与（損金算入分）

（２）　従業員給料手当
　　本店及び支店の従業員に対する給料，諸手当及び賞与

（３）　退職金
　　退職給与引当金繰入額並びに退職給与引当金の対象とならない役員及び従業員に対する退職金

（４）　法定福利費
　　本店及び支店の従業員に関する労災保険料，雇用保険料，健康保険料及び厚生年金保険料の法定の事業主負担額

（５）　福利厚生費
　　本店及び支店の従業員に係る慰安娯楽，貸与被服，医療，慶弔見舞等，福利厚生等，文化活動等に要する費用

（６）　修繕維持費
　　建物，機械，装置等の修繕維持費，倉庫物品の管理費等

（７）　事務用品費
　　事務用消耗品費，固定資産に計上しない事務用備品費，新聞，参考図書等の購入費

（８）　通信交通費
　　通信費，交通費及び旅費

（９）　動力，用水光熱費
　　電力，水道，ガス，薪炭等の費用

(10)　調査研究費
　　技術研究，開発等の費用

(11)　広告宣伝費
　　広告，公告，宣伝に要する費用

(12)　交際費
　　本店及び支店などへの来客等の対応に要する費用

(13)　寄付金

(14)　地代家賃
　　事務所，寮，社宅等の借地借家料

(15)　減価償却費
　　建物，車両，機械装置，事務用備品等の減価償却額

(16)　試験研究費償却
　　新製品又は新技術の研究のため特別に支出した費用の償却額

(17)　開発費償却
　　新技術又は新経営組織の採用，資源の開発，市場の開拓のため特別に支出した費用の償却額

(18)　租税公課
　　不動産取得税，固定資産税等の租税及び道路占用料，その他の公課

(19)　保険料
　　火災保険及びその他の損害保険料

(20)　契約保証費
　　契約の保証に必要な費用

(21)　雑費
　　電算等経費，社内打ち合せ等の費用，学会及び協会活動等諸団体会費等の費用

## ２ 付 加 利 益

（１） 法人税，都道府県民税，市町村民税等
（２） 株主配当金
（３） 役員賞与金（損金算入分を除く）
（４） 内部留保金
（５） 支払利息及び割引料，支払保証料その他の営業外費用

## ３ 一般管理費等の算定

一般管理費等は，１及び２の額の合計額とし，別表第１の工事原価ごとに求めた一般管理費等率を当該工事原価に乗じて得た額の範囲内とする。

なお，一般管理費等の算定上，対象とする工事原価については，「第２章 ②間接工事費 ２．共通仮設費（２）算定方法 1)率計算による部分 の（ニ)」及び「第２章 ②間接工事費 ２．共通仮設費（２）算定方法 5)間接工事費等の項目別対象表」を参照のこと。

## ４ 一般管理費等率の補正

（１） 前払金の保証がある工事において，以下の事項に該当する場合に補正を行う。なお、前払金の保証がない工事は、一般管理費等の補正の対象外である。

１） 前払金支出割合の相違による取扱い

前払金支出割合が 35%以下の場合の一般管理費等率は，別表第２の前払金支出割合区分ごとに定める補正係数を３で算定した一般管理費等率に乗じて得た率とする。

２） 契約の保証に必要な費用の取扱い

前払金支出割合の相違による補正までを行った値に，別表第３の補正値を加算したものを一般管理費等とする。

（２） 支給品等の取扱い

資材等を支給するときは，当該支給品費は一般管理費等算定の基礎となる工事原価に含めないものとする。

（３） 自社製品の取扱い（プレテン桁，組立式橋梁，規格ゲート，標識等を製作専門メーカーに発注する場合）について

自社製品であっても，他社製品と同様に一般管理費等の対象とする。

**別表第1　　一 般 管 理 費 等 率**

（１） 前払金支出割合が 35%を超え 40%以下の場合

| 工 事 原 価 | 500 万円以下 | 500 万円を超え 30 億円以下 | 30 億円を超えるもの |
|---|---|---|---|
| 一般管理費等率 | 22.72% | 一般管理費等率算定式により算出された率 | 7.47% |

（２） 算定式

［一般管理費等率算定式］

Ｇｐ＝-5.48972×LOG(Ｃｐ)＋59.4977（%）

ただし，Ｇｐ：一般管理費等率（%）

Ｃｐ：工事原価（単位円）

（注）１．Ｇｐの値は，小数点以下第３位を四捨五入して２位止めとする。

２．対象とする工事原価については，「第２章 ②間接工事費 ２．共通仮設費（２）算定方法 1)率計算による部分 の（ニ)」及び「第２章 ②間接工事費 ２．共通仮設費（２）算定方法 5)間接工事費等の項目別対象表」を参照のこと。

**別表第2　　一 般 管 理 費 等 率 の 補 正**

| 前払金支出割合区分 | 0%から 5%以下 | 5%を超え 15%以下 | 15%を超え 25%以下 | 25%を超え 35%以下 |
|---|---|---|---|---|
| 補　正　係　数 | 1.05 | 1.04 | 1.03 | 1.01 |

（注） 別表第１で求めた一般管理費等率に当該補正係数を乗じて得た率は，小数点以下第３位を四捨五入して２位止めとする。

**別表第3　　契約保証に係る一般管理費等率の補正**

| 保　証　の　方　法 | 補正値(%) |
|---|---|
| ケース１：発注者が金銭的保証を必要とする場合（工事請負契約書第４条を採用する場合)。 | 0.04 |
| ケース２：発注者が役務的保証を必要とする場合。 | 0.09 |
| ケース３：ケース１及び２以外の場合。 | 補正しない |

（注）１．ケース３の具体例は以下のとおり。

①島根県会計規則第 69 条の２第６項の規定により契約保証金を納めさせないことができる工事請負契約である場合

②前払金支出割合の相違による一般管理費等の補正まで行った後の請負対象額が 500 万円未満の場合

③契約保証を必要とするケースと必要としないケースが混在する混合入札の場合，契約保証費は積算では計上しないものとする。

２．契約保証費を計上する場合は，原則として当初契約の積算に見込むものとする。また，請負額の増減による変更は行わない。

**５　一般管理費等率の補正に用いる前払金支出割合の数値の取扱いについて**

（１）　（ａ）式により算出される前払率（％）は，小数点以下の数値をすべて切り上げて，整数にまるめる。

$$\text{前払率（\%）} = \frac{\text{前払金額}}{\text{請負代金額（又は請負対象額）}} \times 100 \quad \cdots\cdots\cdots\text{（a）}$$

例：イ．（ａ）式により算出した前払率が 25.0001･･･････の場合　26％

ロ．（ａ）式により算出した前払率が 34.9999･･･････の場合　35％

（２）　電子計算機による工事費積算における前払率の入力は，上記（１）によりまるめた整数値とする。

## ② 消費税等相当額

消費税等相当額の積算は次のとおりとする。

消費税等相当額は，工事価格に消費税及び地方消費税の税率を乗じて得た額とする。

# 第４章　随意契約方式により工事を発注する場合の間接工事費等の調整について

①　随意契約方式により工事を発注する場合の共通仮設費，現場管理費及び一般管理費等の調整について‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-4-①- 1
1　随意契約方式により工事を発注する場合の調整について‥‥‥‥‥ Ⅰ-4-①- 1
2　共通仮設費の調整計算について‥‥‥ Ⅰ-4-①- 2
3　現場管理費の調整計算の方法‥‥‥‥ Ⅰ-4-①- 4
4　一般管理費等の調整計算の方法‥‥‥ Ⅰ-4-①- 5
②　旧基準で積算した工事に改正基準で積算した工事を追加する場合等の共通仮設費，現場管理費及び一般管理費等の調整について‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-4-②- 1
1　現場管理費の調整計算の一般式‥‥‥ Ⅰ-4-②- 1
2　一般管理費等の調整計算の一般式‥‥ Ⅰ-4-②- 1
3　設計変更について‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-4-②- 1
4　共通仮設費‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-4-②- 1

令和元年度建設工事積算基準

# 第４章　随意契約方式により工事を発注する場合の間接工事費等の調整について

## ①　随意契約方式により工事を発注する場合の共通仮設費，現場管理費及び一般管理費等の調整について

### １　随意契約方式により工事を発注する場合の調整について

随意契約方式により工事を発注する場合の調整については次のとおりとする。

（１）　調整対象となる工事

１）　現工事の施工業者と随意契約方式にて発注する工事とする。

２）　繰越，債務工事の取扱い

現工事が繰越又は債務で調整対象となる場合は全体工事を対象として調整する。

（２）　調整の対象となる現工事の設計金額は当該追加工事が発注される時点のものとし，その後現工事の設計金額に設計変更が生じた場合でも調整対象現工事の設計金額の変更は行わない額で調整するものとする。

（３）　前記（１）に該当する工事のうち次に示す異種の工事の取扱いは下記のとおりとする。

１）　異種の工事とは下表のＡ～Ｉに区分される工事種別の異なる工事をいう。

| 工事種別 | 建設業有資格者名簿による種別 |
|---|---|
| A | 一般土木工事，舗装工事，港湾工事，法面処理工事，グラウト工事 |
| B | 鋼橋上部工事，機械設備工事 |
| C | プレストレストコンクリート構造物工事 |
| D | 電気工事，通信設備工事 |
| E | 一般建築工事 |
| F | 維持修繕工事，塗装工事 |
| G | 造園工事 |
| H | さく井工事 |
| I | 冷暖房衛生設備工事，管工事 |

２）　積算体系が同一（一般管理費等率が同じもの）の異種の工事は次により調整する。

（イ）　現場管理費については調整しない。

（ロ）　一般管理費等については調整する。

３）　積算体系が異なる異種の工事は調整しない

## 2 共通仮設費の調整計算の方法

（1） 積上げ計算部分

1） 運　搬　費

実態に合わせ調整する。

2） 事業損失防止施設費

実態に合わせ調整する。

3） 安　全　費

実態に合わせ調整する。

4） 技術管理費

実態に合わせ調整する。

5） 営　繕　費

実態に合わせ調整する。

6） その他の共通仮設費

実態に合わせ調整する。

（2） 率計算部分

1） 工種の適用

現工事と当該追加工事で工種が異なる場合は現工事と追加工事の共通仮設費対象額の合計額に対するその主たる工種の共通仮設費率を適用する。

（3） 調整計算の方法

現工事と当該追加工事の共通仮設費対象額を合算したもので率を算出し，各々の共通仮設費を求め，現工事の共通仮設費を控除したものの範囲内とする。

調整の一般式は次のとおりとする。

1） 調整の一般式は次のとおりとする。

$$A \leqq (D \times \gamma 1) - B \times \gamma 2$$

A：当該追加工事の共通仮設費

B：現工事の共通仮設費対象額

D：合算工事の共通仮設費対象額

$\gamma 1$：Dに相当する主たる工種の共通仮設費率

$\gamma 2$：Bに相当する現工事の工種の共通仮設費率

ただし，前記計算の場合にあってAが負数になる場合は零額とみなし，追加工事に関する共通仮設費は計上しない。

また，Aが当該追加工事単独で積算された所要額よりも大きい場合は当該所要額とする。

2） 施工地域を考慮した補正係数が適用されている場合の一般式は次のとおりとする。

$$A \leqq (D \times \beta 1) - B \times \beta 2$$

A：当該追加工事の共通仮設費

B：現工事の対象額

C：当該追加工事の対象額

D：合算工事の対象額

$\beta 1 = \beta ① \cdot Sr①$：Dに相当する主たる工種の補正後の共通仮設費率（%）

なお，補正後の共通仮設費率の値は小数点以下第３位を四捨五入して２位止めとする。

$\beta ①$：Dに相当する主たる工種の補正前の共通仮設費率

ただし,現工事と追加工事の補正係数が異なる場合はBとCの加重平均による補正係数とする。

$$Sr① = \frac{B \times Sr② + C \times Sr③}{B + C}$$

Sr①：（B＋C）に相当する主たる工種の補正係数

Sr②：Bに相当する現工事の工種の補正係数

Sr③：Cに相当する当該追加工事の工種の補正係数

なお，加重平均した補正係数値は小数点以下第３位を四捨五入して２位止めとする。

$\beta 2 = \beta ② \cdot Sr ②$：Ｂに相当する現工事の工種の補正後の共通仮設費率（％）

なお，補正後の共通仮設費率の値は小数点以下第３位を四捨五入して２位止めとする。

$\beta ②$：Ｂに相当する現工事の工種の補正前の共通仮設費率

ただし，前記計算の場合にあってＡが負数になる場合は零額とみなし，追加工事に関する共通仮設費は計上しない。

また，Ａが当該追加工事単独で積算された所要額よりも大きい場合は当該所要額とする。

（４） 現場環境改善費（仮設関係，安全関係，営繕関係）

１） 積上げ計算部分

実態に合わせ調整する。

２） 調整計算の方法（率計算部分）

（イ） 現工事及び追加工事とも現場環境改善費の場合

$A \leqq D \times \gamma 1 - B \times \gamma 2$

Ａ：当該追加工事の現場環境改善費

Ｂ：現工事の対象額

Ｄ：合算工事の対象額

$\gamma 1$：Ｄに相当する現場環境改善費率

$\gamma 2$：Ｂに相当する現工事の現場環境改善費率

ただし，前記計算の場合にあってＡが負数になる場合は零額とみなし，追加工事に関する現場環境改善費は計上しない。

また，Ａが当該追加工事単独で積算された所要額よりも大きい場合は当該所要額とする。

（ロ） 追加工事のみが現場環境改善費の対象工事の場合

追加工事の単独計算

### 3 現場管理費の調整計算の方法

（1） 工種の適用

現工事と当該追加工事で工種が異なる場合は，現工事と当該追加工事の純工事費の合計額に対するその主たる工種（それぞれ純工事費の大きい方の工種）の現場管理費率を適用する。

（2） 調整計算の方法

現工事と当該追加工事の純工事費を合算したもので率を算出し，各々の現場管理費を求め，現工事の現場管理費を控除したものの範囲内とする。

1） 調整の一般式は次のとおりとする。

$$A \leqq (D \times \beta 1) - B \times \beta 2$$

A：当該追加工事の現場管理費

B：現工事の純工事費

D：合算工事の対象額

$\beta 1$：Dに相当する「主たる工種」の現場管理費率

$\beta 2$：Bに相当する現工事の工種の現場管理費率

ただし，前記計算の場合にあって，Aが負数になる場合は零額とみなし，当該追加工事に関する現場管理費は計上しない。

また，Aが当該追加工事単独で積算された所要額よりも大きい場合は当該所要額とする。

2） 施工地域を考慮した補正係数が適用されている場合の一般式は次のとおりとする。

$$A \leqq (D \times \beta 1 + C \times \delta 1) - B \times \beta 2$$

A：当該追加工事の現場管理費

B：現工事の純工事費

C：当該追加工事の調整後の純工事費

D：合算工事の対象額

$\beta 1 = \beta ① \cdot Sr ①$：Dに相当する主たる工種の補正後の現場管理費率（%）

なお，補正後の現場管理費率の値は小数点以下第３位を四捨五入して２位止めとする。

$\beta ①$：Dに相当する主たる工種の補正前の現場管理費率

ただし，現工事と追加工事の補正係数が異なる場合はBとCの加重平均による補正係数とする。

$$Sr ① = \frac{B \times Sr ② + C \times Sr ③}{B + C}$$

$Sr ①$：（B＋C）に相当する主たる工種の補正係数

$Sr ②$：Bに相当する現工事の工種の補正係数

$Sr ③$：Cに相当する当該追加工事の工種の補正係数

なお，加重平均した補正係数値は小数点以下第３位を四捨五入して２位止めとする。

$\beta 2 = \beta ② \cdot Sr ②$：Bに相当する現工事の工種の補正後の現場管理費率（%）

なお,補正後の現場管理費率の値は小数点以下第３位を四捨五入して２位止めとする。

$\beta ②$：Bに相当する現工事の工種の補正前の現場管理費率

$\delta 1$：当該追加工事の現場管理費補正率（補正率が無い場合は０％とする。）

ただし，前記計算の場合にあってAが負数になる場合は零額とみなし，追加工事に関する現場管理費は計上しない。

また，Aが当該追加工事単独で積算された所要額よりも大きい場合は当該所要額とする。

**4 一般管理費等の調整計算の方法**

（1） 調整計算の方法

現工事と当該追加工事の工事原価を合算したもので率を算出し，各々の一般管理費を求め，現工事の一般管理費等を控除したものの範囲内とする。

$$A \leqq (D \times \alpha 1 \times \delta 1) - B \times \alpha 2 \times \delta 2 + C \times \beta$$

A：当該追加工事の一般管理費等

B：現工事の工事原価（中止期間中の現場維持等の費用を含む）

C：当該追加工事の調整後の工事原価

D：合算工事の工事原価

$\alpha 1$：Dに相当する一般管理費等率

$\alpha 2$：Bに相当する現工事の一般管理費等率

$\beta$：当該追加工事の契約保証に係る一般管理費等の補正値

$\delta 1$：前払金支出割合による補正係数

現工事と当該追加工事の前払金支出割合が異なる場合は，BとCの加重平均による前払金支出割合から求めた補正係数

$\delta 2$：現工事の前払金支出割合による補正係数

一般管理費等率に当該補正係数を乗じて得た率は，小数点以下第３位を四捨五入して２位止めとする。

# ② 旧基準で積算した工事に改正基準で積算した工事を追加する場合等の共通仮設費，現場管理費及び一般管理費等の調整について

## 1 現場管理費の調整計算の一般式

$$A \leqq (D \times \beta 1) - B \times \beta 2$$

Ａ：当該追加工事の現場管理費

Ｂ：現工事の純工事費

Ｄ：合算工事の純工事費

$\beta 1$：Ｄに相当する「主たる工種」の改正基準による現場管理費率

$\beta 2$：Ｂに相当する現工事の工種の改正基準による現場管理費率

なお，現場管理費率の補正係数が適用されている工事においては，「①随意契約方式により工事を発注する場合の共通仮設費，現場管理費及び一般管理費等の調整について　３現場管理費の調整計算の方法」に準拠して計算するものとする。

## 2 一般管理費等の調整計算の一般式

$$A \leqq (D \times \alpha 1 \times \delta 1) - B \times \alpha 2 \times \delta 2 + C \times \beta$$

Ａ：当該追加工事の一般管理費等

Ｂ：現工事の工事原価（中止期間中の現場維持等の費用を含む）

Ｃ：当該追加工事の調整後の工事原価

Ｄ：合算工事の工事原価

$\alpha 1$：Ｄに相当する改正基準による一般管理費等率

$\alpha 2$：Ｂに相当する改正基準による一般管理費等率

$\beta$：追加工事の契約保証に係る一般管理費等の補正値

$\delta 1$：当該追加工事の前払金支出割合による補正係数

$\delta 2$：現工事の前払金支出割合による補正係数

一般管理費等率に当該補正係数を乗じて得た率は，小数点以下第３位を四捨五入して２位止めとする。

## 3 設計変更について

旧基準により積算した工事の設計変更は，旧基準により積算するものとする。

## 4 共 通 仮 設 費

共通仮設費の積算にあたっても上記現場管理費の取扱いと同様とする。

# 第５章　数値基準等

① 数値基準‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-5-①- 1
② 数量総括表への条件明示‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-5-②- 1

令和元年度建設工事積算基準

# 第５章　数値基準等

## ① 数　値　基　準

設計書の表示単位及び数位は原則として次のとおりとする。

（１） 設計表示単位及び数位は，別表に示すとおりとする。

（２） 設計数量が設計表示数位に満たない場合及び，工事規模，工事内容等により，設計表示数位が不適当と判断される場合は（小規模工事等）有効数位第１位の数量を設計表示数位とする。

（３） 数値基準以外の項目について，設計表示単位及び数位を定める必要が生じたときは工事規模，工事内容及び数値基準等を勘案して適正に定めるものとする。

（４） 設計計上数量は，「土木工事数量算出要領（案）」により算出された数量を，設計表示数位に四捨五入して求めるものとする。

（５） 設計表示単位及び数位の適用は各細別毎を原則とし，工種・種別は１式を原則とする。

（６） 契約数量は設計計上数量とする。ただし工事目的物以外で，指定仮設等数量明示が必要な種目以外は１式計上する。

（７） 設計表示単位及び数位は設計図書に添付するものとする。（土質調査，測量業務関係等は除く）

（８） 設計表示数位に満たない設計変更は契約変更の対象としないものとする。

（９） 単価契約には設計表示単位及び数位は適用しない。

## ② 数 量 総 括 表 へ の 条 件 明 示

数量総括表に記載する条件明示内容は原則として次のとおりとする。

（1） 数量総括表に記載する条件明示は，別表に示すとおりとする。

（2） 別表記載内容に加え，必要に応じて特記仕様書，図面等に補足内容を記載し，契約条件として必要な条件明示を行う。

（3） 別表は標準工法を想定しているため，該当する項目を適宜判断したうえで記載するものとする。

（4） 別表以外の項目について，条件明示の必要が生じたときは下表を参考に工事内容等を勘案して適正に定めるものとし，任意施工に関するものについては適宜修正削除を行うこと。

| 記載すべき内容 | 記載すべきでない内容 |
|---|---|
| 工事目的物に属する材質，規格等<br>工事目的物の寸法等<br>作業条件に関わる物（時間制約　等） | 受注者の任意施工に関わる部分<br>（施工方法，仮設方法）<br>検収不可能な物 |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 土工 | 掘削工 | 掘削 | 土質<br>施工方法<br>押土の有無<br>障害の有無<br>施工数量 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満及び岩の場合は10㎥ |
| 土工 | | 掘削（砂防） | 土質<br>押土の有無<br>障害の有無<br>火薬使用 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満及び岩の場合は10㎥ |
| 土工 | | 河床等掘削 | | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 土工 | | 掘削（光ケーブル配管） | 土質<br>施工方法<br>押土の有無<br>障害の有無<br>施工数量 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 土工 | | 整地 | 作業区分 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 土工 | | 押土（ルーズ） | 土質 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 土工 | | 押土（ルーズ）砂防 | 土質 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 土工 | | 積込（ルーズ） | 土質<br>作業内容 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 土工 | | 積込（ルーズ）砂防 | 土質<br>作業内容 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 土工 | | 土砂等運搬 | 土質 | ㎥ | 10 | |
| 土工 | | 土砂等運搬（砂防） | 土質 | ㎥ | 10 | |
| 土工 | 掘削工（ＩＣＴ） | 掘削（ＩＣＴ） | 土質<br>施工方法<br>障害の有無<br>施工数量 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満及び岩の場合は10㎥ |
| 土工 | （路体・路床）盛土工 | 路体（築堤）盛土 | 施工幅員 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 土工 | | 路床盛土 | 施工幅員 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 土工 | | 整地 | 作業区分 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 土工 | | 押土（ルーズ） | 土質 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 土工 | | 押土（ルーズ）砂防 | 土質 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 土工 | | 積込（ルーズ） | 土質<br>作業内容 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 土工 | | 積込（ルーズ）砂防 | 土質<br>作業内容 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 土工 | | 土砂等運搬 | 土質 | ㎥ | 10 | |
| 土工 | | 土砂等運搬（砂防） | 土質 | ㎥ | 10 | |
| 土工 | （路体・路床）盛土工（ＩＣＴ） | 路体（築堤）盛土（ＩＣＴ） | 施工幅員 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 土工 | | 路床盛土（ＩＣＴ） | 施工幅員 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 土工 | | 土材料 | | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 土工 | 法面整形工 | 法面整形 | 現場制約の有無<br>（盛土部：）法面締固めの有無<br>（切土部：）土質 | ㎡ | 10 | |
| 土工 | 法面整形工（ＩＣＴ） | 法面整形（ＩＣＴ） | （盛土部：）法面締固めの有無<br>（切土部：）土質 | ㎡ | 10 | |
| 土工 | 盛土補強工 | 安定シート・ネット | シート種類 | ㎡ | 1 | |
| 土工 | | ジオテキスタイル補強土壁 | 壁面材の種類 | ㎡ | 1 | |
| 土工 | 残土処理工 | 整地 | 作業区分 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 土工 | | 土砂等運搬 | 土質 | ㎥ | 10 | |
| 土工 | | 残土等処分 | | ㎥ | 10 | |
| 土工 | 作業土工 | 床堀 | 土質 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満及び岩の場合は10㎥ |
| 土工 | | 埋戻し | 土質区分<br>土質 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥，岩類は10㎥ |
| 土工 | 堤防天端工 | 天端敷砂利 | 砕石規格<br>敷厚 | ㎡ | 10 | |
| 共通的工種 | 矢板工 | 鋼矢板 | 鋼矢板型式<br>鋼矢板平均長さ<br>鋼矢板打込長<br>［鋼矢板平均引抜長］ | 枚 | 1 | |
| 共通的工種 | | 可とう鋼矢板 | 可とう種別<br>鋼矢板型式<br>鋼矢板長さ | 枚 | 1 | |
| 共通的工種 | | 軽量鋼矢板 | 軽量鋼矢板型式<br>軽量鋼矢板平均長さ<br>矢板根入長 | 枚 | 1 | |
| 共通的工種 | | 広幅鋼矢板 | 広幅鋼矢板<br>型式<br>広幅鋼矢板平均長さ<br>鋼矢板打込長<br>［鋼矢板平均引抜長］ | 枚 | 1 | |
| 共通的工種 | | タイロッド | タイロッド材質<br>タイロッド径 | 組 | 1 | |
| 共通的工種 | | 腹起し | 溝形鋼規格 | t | 0.1 | |
| 共通的工種 | | 控え版 | コンクリート規格<br>幅<br>高さ | m | 1 | |
| 共通的工種 | | 中詰砂 | 砂規格 | ㎥ | 10 | ただし100㎥未満の場合は1㎥ |
| 共通的工種 | 法枠工 | 法枠(現場打，プレキャスト，吹付) | 法枠規格<br>中詰材種類 | ㎡ | 1 | |
| 共通的工種 | 吹付工 | 吹付(モルタル，コンクリート) | セメント種類<br>吹付厚 | ㎡ | 1 | |
| 共通的工種 | 法面施肥工 | 法面施肥 | 施工区分 | ㎡ | 1 | |
| 共通的工種 | 植生工 | 種子散布 | 種子規格<br>肥料の有無<br>施工規模 | ㎡ | 10 | |
| 共通的工種 | | 芝(各種) | 芝種類<br>施工規模 | ㎡ | 10 | |
| 共通的工種 | | 客土吹付 | 吹付厚<br>工種区分<br>施工規模 | ㎡ | 10 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 共通的工種 | | 植生基材吹付 | 吹付厚<br>工種区分<br>施工規模 | ㎡ | 10 | |
| 共通的工種 | | 植生マット | 工種区分<br>施工規模 | ㎡ | 10 | |
| 共通的工種 | | 植生シート | 工種区分<br>施工規模 | ㎡ | 10 | |
| 共通的工種 | | 植生筋 | 工種区分<br>施工規模 | ㎡ | 10 | |
| 共通的工種 | | 植生穴 | 削孔数 | ㎡ | 10 | |
| 共通的工種 | | 養生（散水養生） | | ㎡ | 10 | |
| 共通的工種 | かご工 | じゃかご・ふとんかご・かご枠 | 幅<br>高さ<br>（じゃかご：）径<br>（ふとんかご：）種別<br>（ふとんかご：）規格<br>詰石種類<br>詰石規格 | m | 1 | |
| 共通的工種 | | 止杭 | 止杭規格 | 本 | 1 | |
| 共通的工種 | | かごマット(スロープ型) | かご厚さ<br>かご本体材質<br>詰石種類<br>詰石規格 | ㎡ | 1 | |
| 共通的工種 | | かごマット（多段積型） | かご本体材質<br>詰石種類<br>詰石規格 | ㎡ | 1 | |
| 共通的工種 | 補強土壁工 | 補強土壁基礎 | コンクリート規格 | m | 1 | |
| 共通的工種 | | 帯鋼補強土壁･アンカー補強土壁 | 土質 | ㎡ | 1 | |
| 共通的工種 | | ジオテキスタイル補強土壁 | 壁面材の種類 | ㎡ | 1 | |
| 共通的工種 | 軽量盛土工 | 軽量盛土 | | ㎥ | 1 | |
| 共通的工種 | | コンクリート床版 | コンクリート規格<br>厚さ | ㎡ | 1 | |
| 共通的工種 | | 基礎コンクリート | コンクリート規格 | m | 1 | |
| 共通的工種 | | 壁体工 | 支柱仕様・規格<br>壁面材仕様・規格 | ㎡ | 1 | |
| 共通的工種 | | 裏込砕石 | 砕石規格 | ㎥ | 1 | |
| 共通的工種 | 吸出し防止工 | 吸出し防止材 | 材質<br>種類<br>厚さ | ㎡ | 10 | ただし100㎡未満の場合は1㎡ |
| 共通的工種 | 泥水処理工 | 泥水処理 | | ㎥ | 10 | |
| 共通的工種 | 仮水路工 | フィルター材敷設 | 管種別<br>管径<br>フィルター材の種類 | ㎥ | 1 | |
| 共通的工種 | 場所打擁壁工 | 処分費 | | ㎥ | 1 | |
| 共通的工種 | 仮橋･仮桟橋工 | 積込（コンクリート殻） | | ㎥ | 1 | |
| 共通的工種 | 骨材再生工 | 骨材再生 | 投入殻寸法 | ㎥ | 1 | |
| 共通的工種 | 土留･仮締切工 | ボーリングマシン移設（アンカー） | | 回 | 1 | |
| 共通的工種 | 土留･仮締切工 | アンカー工材料費 | アンカー工材数量 | 式 | 1 | |
| 共通的工種 | 土留･仮締切工 | 削孔（アンカー） | 削孔長<br>方式<br>呼び径<br>土質区分 | m | 1 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 共通的工種 | 土留･仮締切工 | グラウト注入(アンカー) | 注入材規格<br>圧縮強度 | ㎥ | 1 | |
| 共通的工種 | ｱﾝｶｰ工(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ板) | ＰＣコンクリート板据付 | フレームタイプ | 枚 | 1 | |
| 共通的工種 | ｱﾝｶｰ工(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ板) | ジョイント処理 | | 箇所 | 1 | |
| 基礎工 | 既製杭工 | 既製コンクリート杭 | 杭種別<br>杭径<br>杭長<br>杭打込長（掘削長） | 本 | 1 | ただし1本当りの場合は1m |
| 基礎工 | | 鋼管杭 | 鋼管径（杭径）<br>鋼管長さ（杭長） | 本 | 1 | ただし1本当りの場合は0.5m |
| 基礎工 | | H鋼杭 | H鋼形式<br>H鋼長さ（杭長）<br>H型鋼平均打込長<br>［H型鋼平均引抜長］ | 本 | 1 | ただし1本当りの場合は0.5m |
| 基礎工 | | 掘削土処理 | 土質 | ㎥ | 10 | |
| 基礎工 | 場所打杭工 | 場所打杭 | 杭径<br>杭長（設計長） | 本 | 1 | ただし1本当りの場合は0.1m |
| 基礎工 | | 掘削土処理 | 土質 | ㎥ | 10 | |
| 基礎工 | 合成杭工 | 合成杭 | 杭種別<br>杭径<br>杭長 | 本 | 1 | ただし1本当りの場合は0.1m |
| 基礎工 | | 掘削土処理 | 土質 | ㎥ | 10 | |
| 基礎工 | ニューマチックケーソン基礎工 | ニューマチックケーソン設備 | | 式 | 1 | |
| 基礎工 | | 刃口金物据付 | | 基 | 1 | |
| 基礎工 | | 沈下掘削 | | ㎥ | 10 | |
| 基礎工 | | 沈下促進 | 水荷重形式<br>載荷材料形式（コンクリートブロック） | t | 0.1 | |
| 基礎工 | | 底スラブコンクリート | コンクリート規格 | ㎥ | 1 | |
| 基礎工 | | 中埋コンクリート | コンクリート規格 | ㎥ | 1 | |
| 基礎工 | | ブローパイプバルブ調整 | | 基 | 1 | |
| 基礎工 | | 中詰充填 | 中詰材規格 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 基礎工 | | 砂セントル | 材料規格 | ㎥ | 10 | ただし100㎥未満の場合は1㎥ |
| 基礎工 | | 天端コンクリート用型枠・支保 | | ㎡ | 10 | |
| 基礎工 | | 止水壁取壊し | 施工方法 | ㎥ | 1 | |
| 基礎工 | 深礎工・シャフト工 | 巻立コンクリート | 敷厚<br>構造物種別<br>コンクリート規格 | ㎡ | 1 | |
| 基礎工 | | 掘削土留 | 杭径<br>杭長 | 本 | 1 | |
| 基礎工 | | グラウト注入 | 注入材規格<br>圧縮強度 | ㎥ | 1 | |
| 基礎工 | 鋼管井筒基礎工 | 鋼管矢板 | 鋼管材質<br>鋼管径<br>鋼管長さ<br>打込工法 | 本 | 1 | |
| 基礎工 | | 井筒内掘削 | | ㎥ | 10 | |
| 基礎工 | | 継手処理 | | 本 | 1 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎工 | | 鋼管内掘削 | | ㎥ | 10 | |
| 基礎工 | | 中詰コンクリート | コンクリート規格 | ㎥ | 1 | |
| 基礎工 | | 敷砂 | 敷砂規格 | ㎥ | 10 | ただし100㎥未満の場合は1㎥ |
| 基礎工 | | 底版コンクリート | コンクリート規格 | ㎥ | 1 | |
| 基礎工 | | 杭切断 | 鋼管杭径 | 本 | 1 | |
| 基礎工 | | 鋼管矢板支保 | 支保型式 | t | 0.1 | |
| 基礎工 | | 間詰コンクリート | コンクリート規格 | ㎥ | 1 | |
| 基礎工 | | 間詰コンクリート撤去 | 構造物区分<br>工法<br>区分施工規模 | ㎥ | 1 | |
| 基礎工 | | 頂版結合（プレートブラケット） | | t | 0.1 | |
| 基礎工 | | 頂版結合(鉄筋スタッド) | | 段 | 1 | |
| 基礎工 | | 詰杭 | | m | 1 | |
| 石・ブロック積(張) | 石・ブロック積(張)工 | 石積(張)・コンクリートブロック基礎 | コンクリート規格<br>底幅<br>高さ | m | 1 | |
| 石・ブロック積(張) | | 各種石・ブロック積(張) | ブロック規格<br>ブロック質量 | ㎡ | 1 | |
| 石・ブロック積(張) | | 間知ブロック張 | ブロック規格<br>裏込材規格<br>胴込・裏込コンクリート規格<br>遮水シートの有無 | ㎡ | 1 | |
| 石・ブロック積(張) | | 目地板 | 目地板の種類 | ㎡ | 1 | |
| 石・ブロック積(張) | | ブロック植栽 | 樹木名 | 本 | 1 | |
| 石・ブロック積(張) | | 天端コンクリート | コンクリート規格 | ㎥ | 1 | |
| 石・ブロック積(張) | | 基礎砕石（基礎材） | 基礎材規格(砕石の場合等)<br>敷厚 | ㎡ | 10 | ただし100㎡未満の場合は1㎡ |
| 石・ブロック積(張) | | 小口止コンクリート | コンクリート規格 | ㎥ | 1 | |
| 石・ブロック積(張) | | 養生費 | 養生工の種類 | ㎥ | 1 | |
| 舗装工 | 舗装準備工 | 不陸整正 | 補足材有無<br>補足材種類・規格<br>補足材整正厚 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 舗装工 | | 調整コンクリート | コンクリート規格<br>敷厚 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 舗装工 | 舗装準備工（ＩＣＴ） | 不陸整正（ＩＣＴ） | 補足材有無<br>補足材種類・規格<br>補足材整正厚 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 舗装工 | 橋面防水工 | 橋面防水 | 防水工種類 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 舗装工 | 舗装工 | 下層路盤(車道・路肩部) | 路盤材種類<br>路盤材規格<br>仕上り厚 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 舗装工 | | 下層路盤（歩道部） | 路盤材種類<br>路盤材規格<br>仕上り厚 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 舗装工 | | 上層路盤（車道・路肩部） | 路盤材種類<br>路盤材規格<br>仕上り厚 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 舗装工 | | 上層路盤（歩道部） | 路盤材種類<br>路盤材規格<br>仕上り厚 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 舗装工 | | 路盤 | 路盤材種類<br>路盤材規格<br>仕上り厚 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 舗装工 | | フィルター層 | 材料種類<br>仕上り厚 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 舗装工 | | 基層（車道・路肩部） | 材料種類<br>材料規格<br>舗装厚<br>平均幅員 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 舗装工 | | 基層（歩道部） | 材料種類<br>材料規格<br>舗装厚<br>平均幅員 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 舗装工 | | 中間層（車道・路肩部） | 材料種類<br>材料規格<br>舗装厚<br>平均幅員 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 舗装工 | | 中間層（歩道部） | 材料種類<br>材料規格<br>舗装厚<br>平均幅員 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 舗装工 | | 表層（車道・路肩部） | 材料種類<br>材料規格<br>舗装厚<br>平均幅員 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 舗装工 | | 表層（歩道部） | 材料種類<br>材料規格<br>舗装厚<br>平均幅員 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 舗装工 | | 排水性舗装・表層（車道・路肩部） | | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 舗装工 | | セメントミルク浸透 | 施工厚 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 舗装工 | | アスファルト中間層 | 材料種類<br>材料規格<br>舗装厚<br>平均幅員 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 舗装工 | | コンクリート舗装 | コンクリート規格<br>舗装厚 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 舗装工 | | 転圧コンクリート舗装 | コンクリート規格<br>舗装厚 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 舗装工 | | 連続鉄筋コンクリート舗装 | コンクリート規格<br>舗装厚 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 舗装工 | | 縦目地 | 目地材種類・厚さ | m | 1 | |
| 舗装工 | | 横目地 | 目地形式 | m | 1 | |
| 舗装工 | | 薄層カラー舗装 | 舗装色<br>規格・使用 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 舗装工 | | インターロッキングブロック舗装 | ブロック規格<br>敷材種類<br>敷材厚<br>施工規模 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 舗装工 | | 特殊ブロック舗装 | 作業区分<br>ブロック規格 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 舗装工 | 舗装工（ＩＣＴ） | 下層路盤（車道・路肩部）（ＩＣＴ） | 路盤材種類<br>路盤材規格<br>仕上り厚 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 舗装工 | | 上層路盤（車道・路肩部）（ＩＣＴ） | 路盤材種類<br>路盤材規格<br>仕上り厚 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 舗装工 | 踏掛版工 | 踏掛版 | コンクリート規格<br>鉄筋材料規格・径 | ㎥ | 1 | |
| 舗装工 | 区画線工 | 区画線 | 施工方法区分<br>規格・仕様区分<br>厚さ<br>排水性舗装用の有無 | m | 10 | ただし100m未満の場合は1m |
| 舗装工 | | 区画線消去 | 施工方法区分 | m | 1 | |
| 地盤改良工 | 路床安定処理工 | 安定処理 | 混合深さ<br>固化材100m2あたり使用量<br>固化剤の種類 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 地盤改良工 | 自走式土質改良工 | 土質改良 | 改良土質<br>固化材1m3あたり使用量<br>固化剤の種類 | ㎥ | 100 | ただし1000㎥未満の場合は10㎥ |
| 地盤改良工 | 表層安定処理 | サンドマット | 砂材量費の有無 | ㎥ | 10 | |
| 地盤改良工 | | 安定シート・ネット | シート種類 | ㎡ | 10 | |
| 地盤改良工 | | 表層混合処理 | | ㎡ | 10 | |
| 地盤改良工 | | 置換 | 置換材量<br>施工数量 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 地盤改良工 | 置換工 | 置換 | 置換材量<br>施工数量 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 地盤改良工 | サンドマット工 | サンドマット | 砂材量費の有無 | ㎥ | 10 | |
| 地盤改良工 | | 安定シート・ネット | シート種類 | ㎡ | 10 | |
| 地盤改良工 | パイルネット工 | 既製コンクリート杭 | 杭種別<br>杭径<br>杭長<br>杭打込長（掘削長） | 本 | 1 | |
| 地盤改良工 | | 木杭 | 杭材質<br>杭長<br>杭末口 | 本 | 1 | |
| 地盤改良工 | | 連結鉄筋 | 鉄筋材料規格・径 | t | 0.1 | ただし1ｔ未満の場合は0.01ｔ |
| 地盤改良工 | | 安定シート | シート種類 | ㎡ | 10 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地盤改良工 | バーチカルドレーン工 | サンドドレーン | 径<br>ＳＤ打設長<br>ＳＤ杭径<br>ＳＣＰ径<br>ＳＣＰ打設長<br>ＳＣＰ杭径 | 本 | 1 | |
| 地盤改良工 | | ペーパードレーン | 材料規格<br>長さ（打設長） | 本 | 1 | |
| 地盤改良工 | 締固め改良工 | サンドコンパクションパイル | 径<br>ＳＤ打設長<br>ＳＤ杭径<br>ＳＣＰ径<br>ＳＣＰ打設長<br>ＳＣＰ杭径 | 本 | 1 | |
| 地盤改良工 | 固結工 | 粉体噴射撹拌 | 改良材種類<br>杭径<br>長さ（打設長）<br>長さ（杭長） | 本 | 1 | |
| 地盤改良工 | | 粉体噴射撹拌（先掘・移設・軸間変更） | 改良材種類<br>杭径<br>長さ（打設長）<br>長さ（杭長） | 式 | 1 | |
| 地盤改良工 | | 高圧噴射撹拌 | 工法<br>注入材種類<br>長さ（注入長）<br>長さ（土被長） | 本 | 1 | |
| 地盤改良工 | | スラリー攪拌 | 改良材種類<br>杭径<br>長さ（打設長）<br>長さ（杭長） | 本 | 1 | |
| 地盤改良工 | | 中層混合処理 | 改良深度<br>施工規模 | ㎥ | 1 | |
| 地盤改良工 | | 薬液注入 | 注入材料 | 本 | 1 | |
| 構造物撤去工 | 構造物取壊し工 | コンクリート構造物取壊し | 構造物区分<br>工法区分<br>施工規模 | ㎥ | 1 | |
| 構造物撤去工 | | 舗装版切断 | 舗装版種別<br>舗装厚 | m | 10 | ただし100m未満の場合は1m |
| 構造物撤去工 | | 舗装版破砕 | 舗装版種別 | ㎡ | 10 | ただし100㎡未満の場合は1㎡ |
| 構造物撤去工 | | 石積取壊し | 形状 | ㎡ | 10 | ただし100㎡未満の場合は1㎡ |
| 構造物撤去工 | | コンクリートはつり | 平均はつり厚 | ㎡ | 1 | ただし10㎡未満の場合は0.1㎡ |
| 構造物撤去工 | | 吹付法面取壊し | 集積積込の有無<br>工法区分 | ㎡ | 10 | ただし100㎡未満の場合は1㎡ |
| 構造物撤去工 | | 鋼材切断 | 鋼材規格（種類他） | 箇所 | 1 | |
| 構造物撤去工 | | 鋼材切断 | 鋼材規格（種類他） | m | 1 | |
| 構造物撤去工 | | 鋼矢板引抜 | 鋼矢板型式<br>引抜長 | 枚 | 1 | |
| 構造物撤去工 | | H鋼杭引抜 | H鋼形式<br>引抜長 | 本 | 1 | |
| 構造物撤去工 | | 広幅鋼矢板引抜き | 鋼矢板型式<br>引抜長 | 枚 | 1 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 構造物撤去工 | | コンクリートブロック撤去 | | ㎡ | 10 | ただし100㎡未満の場合は1㎡ |
| 構造物撤去工 | | 覆工板設置・撤去 | | ㎡ | 10 | ただし100㎡未満の場合は1㎡ |
| 構造物撤去工 | | 根固めブロック撤去 | ブロック規格 | 個 | 1 | |
| 構造物撤去工 | | 殻運搬 | 殻種別 | ㎥ | 1 | |
| 構造物撤去工 | | 殻処分 | 殻種別 | ㎥ | 1 | |
| 構造物撤去工 | | 現場発生品運搬 | 発生材種類 | 回 | 1 | |
| 構造物撤去工 | 道路施設撤去工 | 側溝・街渠撤去 | 作業区分 | m | 1 | |
| 構造物撤去工 | | 集水桝・マンホール撤去 | 製品質量（kg/基） | 基 | 1 | |
| 構造物撤去工 | | 蓋版撤去 | | 枚 | 1 | |
| 構造物撤去工 | | 防護・防止柵撤去 | | m | 1 | |
| 構造物撤去工 | | 視線誘導標撤去 | 視線誘導標規格<br>施工区分<br>施工規模 | 本 | 1 | |
| 構造物撤去工 | | 境界杭撤去 | 施工規模 | 本 | 1 | |
| 構造物撤去工 | | 道路鋲撤去 | 施工区分<br>施工規模 | 個 | 1 | |
| 構造物撤去工 | | 車線分離標撤去 | 施工区分<br>施工規模 | 本 | 1 | |
| 構造物撤去工 | | 境界鋲撤去 | 施工規模 | 枚 | 1 | |
| 構造物撤去工 | | 距離標撤去 | 施工区分 | 本 | 1 | |
| 構造物撤去工 | | 横断歩道橋側板(裾隠・目隠)撤去 | 取外し部材規格 | ㎡ | 1 | |
| 構造物撤去工 | | 車止めポスト撤去 | 車止めポスト規格<br>作業区分 | 本 | 1 | |
| 構造物撤去工 | | 遮光フェンス撤去 | | m | 1 | |
| 構造物撤去工 | | 標識撤去 | | 基 | 1 | |
| 構造物撤去工 | | 境界ブロック撤去 | 再利用区分 | m | 1 | |
| 構造物撤去工 | | ケーブル配管撤去 | 管径<br>規格 | m | 1 | |
| 構造物撤去工 | | 照明柱撤去 | | 基 | 1 | |
| 構造物撤去工 | かご撤去工 | じやかご撤去 | じゃかご径 | m | 1 | |
| 構造物撤去工 | | ふとんかご撤去 | ふとんかご種別<br>ふとんかご規格 | m | 1 | |
| 構造物撤去工 | 落石雪害防止撤去工 | 落石防護柵撤去 | | m | 1 | |
| 構造物撤去工 | | 落石防止網(繊維網)撤去 | | ㎡ | 1 | |
| 構造物撤去工 | | コンクリート平板ブロック撤去 | ブロック規格 | ㎡ | 1 | |
| 構造物撤去工 | | ノンスリップ撤去 | | m | 1 | |
| 構造物撤去工 | 冬季安全施設撤去工 | 吹溜式防雪柵撤去 | 柵高 | m | 1 | |
| 構造物撤去工 | | 吹払式防雪柵撤去 | 柵高 | m | 1 | |
| 構造物撤去工 | | スノーポール撤去 | スノーポール規格 | 本 | 1 | |
| 構造物撤去工 | 旧橋撤去工 | 鋼製高欄撤去 | | m | 1 | |
| 構造物撤去工 | | 舗装版・床版破砕及び撤去 | 施工内容 | ㎥ | 1 | |
| 構造物撤去工 | | 桁材撤去 | 施工内容 | t | 1 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 構造物撤去工 | 構造物取壊し工 | コンクリート表面処理 | 施工規模<br>上向作業の有無 | ㎡ | 1 | |
| 仮設工 | 仮設工 | 覆工板・敷鉄板 | 鋼材規格<br>作業区分 | ㎡ | 1 | |
| 仮設工 | 仮設工 | 覆工板受桁 | 鋼材規格<br>作業区分 | t | 1 | |
| 仮設工 | | 鋼矢板 | 鋼矢板型式<br>平均鋼矢板長さ<br>鋼矢板打込長<br>［平均鋼矢板引抜長］ | 枚 | 1 | |
| 仮設工 | | H鋼杭 | H鋼形式<br>H鋼長さ（杭長）<br>H型鋼平均打込長<br>［H型鋼平均引抜長］ | 本 | 1 | |
| 仮設工 | | アンカー | アンカーボルト規格 | 本 | 1 | |
| 仮設工 | | タイロッド・腹起し | タイロッド材質<br>タイロッド径 | t | 0.1 | 数量契約の場合は0.1ｔ |
| 仮設工 | | 切梁・腹起し | | t | 0.1 | 数量契約の場合は0.1ｔ |
| 仮設工 | | 横矢板 | 横矢板材質<br>横矢板厚さ | ㎡ | 1 | |
| 仮設工 | 水替工 | ポンプ排水 | 排水量<br>排水方法 | 日 | 1 | |
| 仮設工 | 水替工 | 水替とい | | m | 1 | |
| 仮設工 | 地下水低下工 | ウエルポイント | ポンプ組数 | 日 | 1 | |
| 仮設工 | | デイープウェル | 径<br>深さ | 日 | 1 | |
| 仮設工 | 連続地中壁工 | 連続壁(柱列式) | 壁厚 | ㎡ | 1 | |
| 仮設工 | 連続地中壁工 | プラント設置撤去 | | 式 | 1 | |
| 仮設工 | 汚濁防止工 | 汚濁防止フェンス | 作業区分 | m | 1 | |
| 仮設工 | 汚濁防止工 | 濁水処理設備 | | 箇所 | 1 | |
| 仮設工 | 防護施設工 | 発破防護柵 | 作業区分 | ㎡ | 10 | |
| 仮設工 | | 基礎ブロック（立入防止柵） | 寸法<br>作業区分 | 個 | 1 | |
| 仮設工 | | 金網（フェンス）・支柱（立入防止柵） | 柵高<br>作業区分 | m | 1 | |
| 仮設工 | 防護施設工 | 仮囲い | 作業区分<br>基礎形式<br>高さ | m | 1 | |
| 仮設工 | 土のう工 | 大型土のう | | 袋 | 1 | |
| 仮設工 | 足場工 | 手摺先行型枠組足場 | 安全ネットの有無 | 掛㎡ | 10 | |
| 仮設工 | 土留･仮締切工 | 盛替梁 | 梁規格 | 箇所 | 1 | |
| 仮設工 | 土留･仮締切工 | アンカー工材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理 | アンカー鋼材数量 | 本 | 1 | |
| 仮設工 | 土留･仮締切工 | 軽量鋼矢板（電線共同溝） | 矢板型式 | 式 | 1 | |
| 仮設工 | 土留･仮締切工 | 溝掘り | | ㎥ | 1 | |
| 仮設工 | 土留･仮締切工 | 泥土処理 | 土質 | ㎥ | 1 | |
| 仮設工 | 砂防仮締切工 | 土砂締切 | | ㎥ | 1 | |
| 仮設工 | 砂防仮締切工 | 土砂土のう締切 | | ㎥ | 1 | |
| 仮設工 | 砂防仮締切工 | コンクリート締切 | | ㎥ | 1 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 仮設工 | 仮橋･仮桟橋工 | 橋脚 | | t | 1 | |
| 仮設工 | 仮橋･仮桟橋工 | 仮設高欄 | 形式区分<br>作業区分 | m | 1 | |
| 仮設工 | 仮橋･仮桟橋工 | 仮橋上部 | 作業区分 | t | 0.1 | 数量契約の場合は0.1ｔ |
| 仮設工 | 仮橋･仮桟橋工 | 仮橋コンクリート基礎 | コンクリート規格<br>幅<br>長さ<br>高さ | 箇所 | 1 | |
| 仮設工 | 仮橋･仮桟橋工 | 防舷材 | 材料規格 | 基 | 1 | |
| 仮設工 | 掘削工 | 転石破砕 | 火薬使用の有無 | ㎥ | 1 | |
| 仮設工 | 作業土工 | 掘削補助機械搬入搬出 | | 回 | 1 | |
| 仮設工 | 作業土工 | 人力運搬 | 換算距離 | ㎥ | 1 | |
| 仮設工 | 作業ﾔｰﾄﾞ整備工 | ヤード造成 | | ㎡ | 1 | |
| 仮設工 | 工事用道路工 | 工事用道路補修 | | 式 | 1 | |
| 仮設工 | 工事用道路工 | 仮設舗装 | | ㎡ | 1 | |
| 仮設工 | 工事用道路工 | 仮設アスカーブ | | m | 1 | |
| 仮設工 | 工事用道路工 | 土のう積 | | ㎡ | 1 | |
| 仮設工 | 法面吹付工 | 仮設用モルタル吹付 | セメント種類<br>ラス張施工規模<br>法面清掃工の有無 | ㎡ | 1 | |
| 仮設工 | 仮水路工 | 暗渠排水管 | 作業区分<br>管種別<br>管径 | m | 1 | |
| 仮設工 | 防塵対策工 | 散水 | | 式 | 1 | |
| 仮設工 | 防塵対策工 | タイヤ洗浄装置 | 装置規格 | 式 | 1 | |
| 仮設工 | 防塵対策工 | 路面清掃 | | 式 | 1 | |
| 仮設工 | 電力設備工 | 配電設備 | | m | 1 | |
| 仮設工 | 電力設備工 | 受電設備 | | 箇所 | 1 | |
| 仮設工 | ﾄﾝﾈﾙ仮設備工 | トンネル用水設備 | | 箇所 | 1 | |
| 仮設工 | ﾄﾝﾈﾙ仮設備工 | トンネル仮設備保守 | | 月 | 0.1 | |
| 仮設工 | ﾄﾝﾈﾙ仮設備工 | トンネル充電設備 | | 日 | 1 | |
| 仮設工 | ﾄﾝﾈﾙ仮設備工 | 吹付プラント組立解体 | | 基 | 1 | |
| 仮設工 | ﾄﾝﾈﾙ仮設備工 | スライドセントル組立解体 | | 基 | 1 | |
| 仮設工 | ﾄﾝﾈﾙ仮設備工 | 防水作業台社組立解体 | | 基 | 1 | |
| 仮設工 | ｺﾝｸﾘｰﾄ製造設備工 | コンクリートプラント設備 | | 基 | 1 | |
| 仮設工 | ｺﾝｸﾘｰﾄ製造設備工 | ケーブルクレーン設備 | | 基 | 1 | |
| 仮設工 | 除雪工 | 現場内除雪（機械） | 貸与区分 | 時間 | 1 | |
| 仮設工 | 除雪工 | 現場内除雪（人力） | | 人日 | 1 | |
| 仮設工 | 除雪工 | 仮囲い屋根部 | | ㎥ | 1 | |
| 仮設工 | 雪寒施設工 | 雪寒仮囲い | 仮囲い規格<br>設置・撤去 | ㎡ | 1 | |
| 仮設工 | 雪寒施設工 | ウェザーシェルター | | 基 | 1 | |
| コンクリート構造物 | | 基礎材 | 基礎材規格（砕石の場合等）<br>敷厚 | ㎥ | 10 | ただし100㎥未満の場合は1㎥ |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| コンクリート構造物 | | 均しコンクリート | コンクリート規格<br>敷厚 | ㎡ | 10 | ただし100㎡未満の場合は1㎡ |
| コンクリート構造物 | | コンクリート | コンクリート規格<br>養生費<br>コンクリート夜間割増の有無 | ㎥ | 1 | |
| コンクリート構造物 | | 二次コンクリート | 規格 | ㎥ | 1 | |
| コンクリート構造物 | | 鉄筋 | 鉄筋材料規格・径 | t | 0.01 | |
| コンクリート構造物 | | 目地材 | 目地材種類・厚さ | ㎡ | 1 | |
| コンクリート構造物 | | 止水板 | 止水板種類・寸法 | m | 1 | |
| コンクリート構造物 | | 型枠 | 型枠の種類 | ㎡ | 10 | ただし100㎡未満の場合は1㎡ |
| コンクリート構造物 | | 足場 | 安全ネットの有無 | 掛㎡ | 10 | |
| コンクリート構造物 | | 支保 | 支保耐力○○以上 | 空㎥ | 10 | |
| コンクリート構造物 | | 植石張り | 構造区分<br>石材径<br>胴込・裏込コンクリート規格<br>裏込材規格 | ㎡ | 1 | |
| コンクリート構造物 | | 水抜パイプ | 管径・管種類<br>フィルターの有無 | m | 1 | |
| コンクリート構造物 | | スリップバー | 鉄筋材料規格・径 | 箇所 | 1 | |
| コンクリート構造物 | | スリップバー | 鉄筋材料規格・径 | 組 | 1 | |
| コンクリート構造物 | | 防水モルタル | セメント種類<br>混合比 | ㎥ | 1 | |
| コンクリート構造物 | | アンカーボルト | アンカーボルト規格 | 本 | 1 | |
| コンクリート構造物 | | 有孔管 | 作業区分<br>工法区分<br>施工規模 | m | 1 | |
| コンクリート構造物 | | 可撓継手 | 内幅<br>内高 | 箇所 | 1 | |
| コンクリート構造物 | 橋台躯体工(構造物単位) | 逆T式橋台 | 高さ区分<br>打設量区分<br>コンクリート規格<br>化粧型枠の有無 | ㎥ | 1 | |
| コンクリート構造物 | 橋脚躯体工(構造物単位) | T型橋脚 | 高さ区分<br>打設量区分<br>コンクリート規格<br>化粧型枠の有無 | ㎥ | 1 | |
| コンクリート構造物 | 橋脚躯体工(構造物単位) | 壁式橋脚 | 高さ区分<br>打設量区分<br>コンクリート規格<br>化粧型枠の有無 | ㎥ | 1 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| コンクリート構造物 | 場所打擁壁工(構造物単位) | 逆T型擁壁 | | ㎥ | 1 | |
| コンクリート構造物 | 場所打擁壁工(構造物単位) | L型擁壁 | | ㎥ | 1 | |
| コンクリート構造物 | 場所打擁壁工(構造物単位) | 重力式擁壁 | | ㎥ | 1 | |
| コンクリート構造物 | 場所打擁壁工(構造物単位) | 小型擁壁 | 高さ<br>本体コンクリート規格<br>施工歩掛項目 | ㎥ | 1 | |
| コンクリート構造物 | 羽口工 | 連節ﾌﾞﾛｯｸ張(ｺﾝｸﾘｰﾄ) | | ㎥ | 1 | |
| コンクリート構造物 | 暗渠工 | プレキャストボックス | 内幅<br>内高 | m | 1 | |
| 構造物 | 帯状構造物(小規模)工 | | 幅<br>高さ<br>コンクリート規格 | m | 1 | 各種ブロック(既製品共)H＝2.0m未満の擁壁類 |
| 構造物 | 帯状構造物(大規模)工 | | コンクリート規格<br>幅<br>高さ | m | 0.1 | H＝2.0m以上の擁壁類 |
| 構造物 | 排水構造物工 | | 管規格 | m | 1 | ただし径1m以上の管渠類の場合は0.1m |
| 構造物 | 排水構造物工 | 現場打水路 | 内幅（複単不使用の場合）<br>内高（複単不使用の場合）<br>コンクリート規格 | m | 1 | |
| 構造物 | 排水構造物工 | 縦排水・小段排水 | U型側溝の種類<br>U型側溝の規格<br>内幅（各種の場合）<br>内高（各種の場合）<br>作業区分<br>コンクリート打設の有無<br>コンクリート規格<br>目地板の有無<br>目地板の種類<br>目地板の種類(各種の場合) | m | 1 | |
| 構造物 | 場所打函渠工(構造物単位) | 函渠 | 内幅<br>内高<br>コンクリート規格 | ㎥ | 1 | |
| 構造物 | 排水性舗装用路肩排水工 | 透水性樹脂コンクリート | | ㎥ | 1 | |
| 構造物 | 橋脚架設工 | 橋脚架設 | | t | 0.1 | |
| 工場製作工 | 製作工 | 製作加工 | 鋼材規格 | t | 0.1 | ただし1ｔ未満の場合は0.01ｔ |
| 工場製作工 | | ボルト・ナット | ボルト・ナット種類 | 組 | 1 | |
| 工場製作工 | | スタッドジベル | 径・長さ | 本 | 1 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 工場製作工 | | バックアップ | 材質 | ㎥ | 0.1 | |
| 工場製作工 | | 充填シール | 材質 | ㎥ | 0.1 | |
| 工場製作工 | | アンカーボルト | 材質・径・長さ<br>アンカー材規格 | 組 | 1 | |
| 工場製作工 | 鋳造費 | 金属支承 | 支承規格 | 個 | 1 | |
| 工場製作工 | | 大型ゴム支承 | 支承規格 | 個 | 1 | |
| 工場製作工 | | 排水桝 | 桝規格 | 個 | 1 | |
| 工場製作工 | | 橋名板 | 材質 | 枚 | 1 | |
| 工場製作工 | | 橋歴板 | | 枚 | 1 | |
| 工場製作工 | 工場塗装工 | 前処理 | 材料種類 | ㎡ | 10 | ただし100㎡未満の場合は1㎡ |
| 工場製作工 | | 塗装(下・中・上塗) | 塗装種別<br>塗装箇所<br>塗装回数 | ㎡ | 10 | ただし100㎡未満の場合は1㎡ |
| 工場製作工 | | メッキ | | t | 0.1 | |
| 工場製品輸送工 | 輸送工 | 輸送 | | t | 0.1 | ただし1ｔ未満の場合は0.01ｔ |
| 工場製品輸送工 | 輸送工 | 現場取卸（ＰＣ桁） | | 本 | 1 | |
| 工場製品輸送工 | | 工場取卸(鋼桁･鋼管杭) | | t | 0.1 | |
| 工場製品輸送工 | | 小運搬 | | t | 0.1 | ただし1ｔ未満の場合は0.01ｔ |
| 付属施設 | 縁石工 | 歩車道境界ブロック | ブロック規格 | m | 1 | |
| 付属施設 | | 地先境界ブロック | ブロック規格 | m | 1 | |
| | | | | | | |
| 付属施設 | | 植樹ブロック | ブロック規格 | m | 1 | |
| 付属施設 | 緑化ﾌﾞﾛｯｸ工 | 養生費 | 養生工の種類 | ㎡ | 1 | |
| 付属施設 | | アスカーブ | 材料種類<br>断面積 | m | 10 | |
| 付属施設 | 集水桝･街渠桝･マンホール工 | 集水桝 | 集水桝種類<br>現場打材種類<br>コンクリート規格<br>基礎コンクリート規格 | 箇所 | 1 | (プレキャスト含む) |
| 付属施設 | | 街渠枡 | 集水桝・街渠桝種類<br>基礎コンクリート規格<br>法面作業補正 | 箇所 | 1 | (プレキャスト含む) |
| 付属施設 | | マンホール | マンホール規格<br>コンクリート規格<br>蓋種類 | 箇所 | 1 | |
| 付属施設 | | 蓋 | 蓋種類 | 枚 | 1 | |
| 付属施設 | 路側防護柵工 | ガードレール | ガードレール規格<br>施工規模<br>曲線部補正の有無 | m | 1 | |
| 付属施設 | | ガードパイプ | ガードパイプ規格<br>施工規模<br>曲線部補正の有無 | m | 1 | |
| 付属施設 | | ガードケーブル | ガードケーブル規格<br>建込条件 | m | 1 | |
| 付属施設 | | ボックスビーム | ボックスビーム規格 | m | 1 | |
| 付属施設 | | 基礎ブロック（立入防止柵） | 寸法<br>作業区分 | 個 | 1 | |
| 付属施設 | | 金網（フェンス）・支柱（立入防止柵） | 柵高<br>作業区分 | m | 1 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 付属施設 | | 転落(横断)防止柵 | 柵高<br>作業区分 | m | 1 | |
| 付属施設 | | 車止めポスト | 車止めポスト径<br>車止めポスト長さ | 本 | 1 | |
| 付属施設 | 階段工 | 現場打階段 | コンクリート規格<br>砕石規格 | ㎡ | 1 | |
| 付属施設 | | プレキャスト階段 | ブロック規格 | ㎡ | 1 | |
| 付属施設 | 境界工 | 境界杭 | 境界杭規格<br>施工規模 | 本 | 1 | |
| 付属施設 | | 境界鋲 | 境界鋲規格<br>施工規模 | 枚 | 1 | |
| 付属施設 | | 境界(法留)壁 | 本体コンクリート規格 | m | 1 | |
| 付属施設 | 落石防護柵工 | ロープ・金網 | 柵高<br>規格・仕様厚<br>メッキの有無 | m | 1 | |
| 付属施設 | | 支柱 | 支柱形式<br>施工区分<br>規格・仕様 | 本 | 1 | |
| 付属施設 | | ステーロープ | | 本 | 1 | |
| 付属施設 | 防雪柵工 | 防雪柵 | 防雪防護柵種類<br>柵高 | m | 1 | |
| 付属施設 | 雪崩予防柵工 | 雪崩予防柵基礎 | 幅<br>高さ<br>長さ<br>コンクリート規格 | 基 | 1 | |
| 付属施設 | | 雪崩予防柵 | 柵高<br>柵長<br>柵種類 | 基 | 1 | |
| 付属施設 | | 雪崩予防柵アンカー | アンカー規格 | 本 | 1 | |
| 付属施設 | 落石防止網工 | ロックネット | 網規格（種別）<br>網規格（寸法）<br>アンカー規格・仕様<br>支柱規格・仕様 | ㎡ | 10 | ただし100㎡未満の場合は1㎡ |
| 付属施設 | | 繊維網 | 繊維網規格 | ㎡ | 10 | ただし100㎡未満の場合は1㎡ |
| 付属施設 | 遮音壁基礎工 | 支柱アンカーボルト | アンカー形式<br>アンカー支柱間隔<br>アンカー材料規格 | 本 | 1 | |
| 付属施設 | 遮音壁本体工 | 遮音壁 | 支柱タイプ・支柱間隔<br>しゃ音板形式・高さ | m | 1 | |
| 付属施設 | | 外装板 | 板規格 | ㎡ | 1 | |
| 付属施設 | ケーブル配管工 | ケーブル配管 | 管規格<br>土質区分<br>管径 | m | 1 | |
| 付属施設 | | ハンドホール | 寸法 | 箇所 | 1 | |
| 付属施設 | 道路付属物工 | 視線誘導標 | 視線誘導標規格<br>施工区分<br>施工規模 | 本 | 1 | |
| 付属施設 | | 車線分離標 | 車線分離標規格<br>施工区分<br>施工規模 | 本 | 1 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 付属施設 | | 距離標 | 作業区分<br>施工区分 | 本 | 1 | |
| 付属施設 | | 道路鋲 | 道路鋲規格<br>施工区分<br>施工規模 | 個 | 1 | |
| 付属施設 | | アンカーボルト | 材質・径・長さ<br>アンカー材規格 | 本 | 1 | |
| 付属施設 | 照明工 | 照明柱基礎 | 基礎型式 | 基 | 1 | |
| 付属施設 | | 照明柱 | 柱規格 | 基 | 1 | |
| 付属施設 | 銘板工 | 銘板 | 材質<br>寸法 | 枚 | 1 | |
| 付属施設 | | 表示板 | 表示板規格 | 枚 | 1 | |
| 付属施設 | 小型標識工 | 標識柱 | 柱規格<br>柱長さ<br>施工規模 | 基 | 1 | |
| 付属施設 | | 標識板 | 標識板規格 | 枚 | 1 | |
| 付属施設 | 大型標識工 | 標識基礎 | 形式<br>基礎規格 | 基 | 1 | |
| 付属施設 | | 片持標識柱 | 柱型式 | 基 | 1 | |
| 付属施設 | | 門型標識柱 | スパン長<br>型式 | 基 | 1 | |
| 付属施設 | | 標識板 | 標識板規格 | 枚 | 1 | |
| 付属施設 | | 着雪防止板 | 板規格 | 枚 | 1 | |
| 付属施設 | 道路植栽工 | 植樹帯盛土 | 土質 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 付属施設 | | 植樹 | 樹木規格 | 本 | 1 | |
| 付属施設 | | 地被類植付 | 種類 | ㎡ | 1 | |
| 付属施設 | | 樹名板 | 樹名板規格 | 枚 | 1 | |
| 付属施設 | アンカー工 | アンカー | アンカーボルト規格 | 本 | 1 | |
| 付属施設 | | アンカー(プレキャストコンクリート板) | 材質・径・長さ<br>アンカー材規格 | 本 | 1 | |
| 付属施設 | | アンカー足場 | | 空㎥ | 10 | |
| 付属施設 | | 鉄筋挿入 | 鉄筋規格<br>削孔長<br>現場条件<br>施工規模 | m | 1 | |
| 付属施設 | 点検施設工 | 梯子 | 寸法 | 本 | 1 | |
| 付属施設 | | ステップ | ステップ規格 | 本 | 1 | |
| 付属施設 | | 蓋 | 蓋種類 | 枚 | 1 | |
| 付属施設 | グラウトホール工 | グラウトホール | 径<br>長さ | 組 | 1 | |
| 付属施設 | 観測施設工 | 量水標 | 量水標規格 | 箇所 | 1 | |
| 付属施設 | | 水位計 | 水位計規格 | 箇所 | 1 | |
| 付属施設 | | 流量計 | 流量計規格 | 箇所 | 1 | |
| 付属施設 | 燃料貯油槽工 | 充填砂 | 砂種類 | ㎥ | 10 | |
| 付属施設 | 情報案内施設工 | スクリーン | 材質<br>形状 | 個 | 1 | |
| 付属施設 | 情報案内施設工 | 案内板 | 材質<br>形状 | 箇所 | 1 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 防護柵工 | 防止柵工 | 遮光フェンス | 種別<br>支柱間隔<br>作業条件 | m | 1 | |
| 河川構造物 | 土台基礎工 | 土台 | | m | 1 | |
| 河川構造物 | 笠コンクリート工 | 笠コンクリート | コンクリート規格<br>底幅<br>高さ | m | 1 | |
| 河川構造物 | | 笠コンクリートブロック | ブロック規格<br>底幅<br>高さ | m | 1 | |
| 河川構造物 | 護岸付属物工 | 横帯コンクリート | 幅<br>高さ<br>コンクリート規格 | m | 0.1 | |
| 河川構造物 | | 小口止 | コンクリート規格<br>幅<br>高さ | m | 0.1 | |
| 河川構造物 | | 小口止矢板 | 鋼矢板材質<br>鋼矢板型式<br>鋼矢板長さ | 枚 | 1 | |
| 河川構造物 | | 縦帯コンクリート | コンクリート規格<br>幅<br>高さ | m | 1 | |
| 河川構造物 | | 巻止コンクリート | コンクリート規格<br>幅<br>高さ | m | 1 | |
| 河川構造物 | | 平張コンクリート | コンクリート規格<br>底幅<br>天端幅<br>高さ | ㎡ | 1 | |
| 河川構造物 | 多自然型護岸工 | 木杭 | 杭材質<br>杭長<br>杭末口 | 本 | 1 | |
| 河川構造物 | | 巨石張(積) | 石材径<br>（練：）遮水シートの有無<br>（練：）止水シートの有無<br>（空：）吸出し防止材の有無 | ㎡ | 1 | |
| 河川構造物 | | 巨石据付 | 石材径 | ㎡ | 1 | |
| 河川構造物 | | 巨石採取 | | 個 | 1 | |
| 河川構造物 | 多自然型護岸工 | 巨石運搬 | | 式 | 1 | |
| 河川構造物 | | 雑割石張 | 空石規格 | ㎡ | 1 | |
| 河川構造物 | | かごマット | かご厚さ<br>かご本体材質<br>詰石種類<br>詰石規格 | ㎡ | 1 | |
| 河川構造物 | | ブロックマット | 法勾配 | ㎡ | 1 | |
| 河川構造物 | | 杭柵 | | m | 1 | |
| 河川構造物 | | 連柴柵 | | m | 1 | |
| 河川構造物 | | 粗朶法覆 | | ㎡ | 1 | |
| 河川構造物 | | 玉石柳枝 | | ㎡ | 1 | |
| 河川構造物 | | 栗石粗朶 | | ㎡ | 1 | |
| 河川構造物 | 覆土工 | 覆土 | | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 河川構造物 | 間詰工 | 間詰コンクリート | コンクリート規格 | ㎥ | 1 | |
| 河川構造物 | | 間詰石 | 石材規格 | ㎥ | 1 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 河川構造物 | 沈床工 | 沈床 | ○層建 | ㎡ | 1 | |
| 河川構造物 | | 粗朶単床 | | ㎡ | 1 | |
| 河川構造物 | | 粗朶柵 | | m | 1 | |
| 河川構造物 | 捨石工 | 捨石 | 石材規格 | ㎥ | 1 | |
| 河川構造物 | | 表面均し | | ㎡ | 10 | |
| 河川構造物 | 元付工 | 元付 | コンクリート規格 | 箇所 | 1 | |
| 河川構造物 | 牛・枠工 | 牛 | | 組 | 1 | |
| 河川構造物 | | 枠 | | 組 | 1 | |
| 河川構造物 | 杭出し水制工 | 杭出し水制 | | 基 | 1 | |
| 河川構造物 | 基礎工 | 現場打基礎 | コンクリート規格<br>底幅<br>高さ | m | 1 | |
| 河川構造物 | | プレキャスト基礎 | 底幅<br>高さ<br>プレキャスト材規格（型） | m | 1 | |
| 河川構造物 | 基礎工 | コンクリート生産・運搬・クレーン打設 | コンクリート規格 | ㎥ | 1 | |
| 河川構造物 | 根固めブロック工 | 根固めブロック製作 | ブロック種類（型式）<br>ブロック種類（実質量） | 個 | 1 | |
| 河川構造物 | | 根固めブロック据付 | ブロック種類（型式）<br>ブロック種類（実質量）<br>ブロック購入の有無 | 個 | 1 | |
| 河川構造物 | | 消波根固めブロック仮置 | ブロック種類（型式）<br>ブロック種類（実質量） | 個 | 1 | |
| 河川構造物 | | 消波根固めブロック運搬 | 消波根固めブロック運搬<br>作業区分<br>積載個数<br>距離 | 個 | 1 | |
| 河川構造物 | | 袋詰め玉石 | 袋材規格<br>中詰材規格 | 袋 | 1 | |
| 河川構造物 | ブロック床版工 | 場所打ブロック | ブロック型式<br>コンクリート規格<br>鉄筋規格 | ㎡ | 1 | |
| 河川構造物 | 函渠工 | ＰＣ函渠 | 内幅<br>内高<br>函渠質量 | m | 0.1 | |
| 河川構造物 | | 可撓継手 | 内幅<br>内高 | 箇所 | 1 | |
| 河川構造物 | | 取替式止水板 | 止水板種類・寸法 | 箇所 | 1 | |
| 河川構造物 | | 函渠接続 | アンカー種類 | 箇所 | 1 | |
| 河川構造物 | 側壁工 | 裏込石 | 基礎材規格（砕石の場合）<br>基礎材規格（栗石の場合）<br>基礎材規格（発生材流用の場合） | ㎥ | 1 | |
| 河川構造物 | ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ工(ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ積) | 遮水シート | 材質<br>種類<br>寸法 | ㎡ | 1 | |
| 河川構造物 | 羽口工 | 連節ブロック水中吊落し | | ㎡ | 1 | |
| 河川構造物 | 植生工 | 被覆シート張 | シート規格 | ㎡ | 1 | |
| 砂防 | 鋼製堰堤本体工 | 鋼製枠（格子･スリット） | 鋼製砂防形式<br>塗装種別（中塗）<br>塗装種別（上塗） | t | 1 | |
| 砂防 | コンクリート･鋼製堰堤本体・副堤工 | 堤冠コンクリート | セメント種類<br>コンクリート規格 | ㎥ | 1 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 砂防 | | 水抜暗渠 | 管径<br>管種類<br>管長さ | m | 0.1 | |
| 砂防 | | 鋼製枠 | 型式 | t | 0.1 | |
| 砂防 | | 枠内中詰 | 土質 | ㎥ | 1 | |
| 砂防 | | 足場 | 安全ネットの有無 | m | 1 | |
| 砂防 | | 隔壁コンクリート基礎 | コンクリート規格<br>幅<br>高さ | ㎥ | 1 | |
| 砂防 | | 均しコンクリート | コンクリート規格<br>敷厚 | ㎡ | 10 | ただし100㎡未満の場合は1㎡ |
| 砂防 | | 残存型枠 | 型枠の種類 | ㎡ | 10 | ただし100㎡未満の場合は1㎡ |
| 砂防 | 鋼製砂防工 | 本締め | | 本 | 1 | |
| 砂防 | | アンカー | アンカーボルト規格 | 本 | 1 | |
| 砂防 | | 現場塗装 | 塗装種別 | ㎡ | 1 | |
| 砂防 | コンクリート側壁工 | 均しコンクリート | コンクリート規格<br>敷厚 | ㎡ | 10 | ただし100㎡未満の場合は1㎡ |
| 砂防 | | 水抜暗渠 | 管径<br>管種類<br>管長さ | m | 0.1 | |
| 砂防 | 集排水ボーリング工 | ボーリング | 施工場所<br>土質区分<br>呼び径 | m | 0.1 | |
| 砂防 | | ボーリング洗浄 | | m | 0.1 | |
| 砂防 | | 保孔管 | 保孔管材質・種類<br>施工場所<br>ストレーナ加工の有無 | m | 1 | |
| 砂防 | | ボーリング仮設機材 | | 回 | 1 | |
| 砂防 | 集水井工 | 集水井掘削 | 杭径<br>土留材料 | m | 1 | |
| 砂防 | | 井戸中詰 | 土質 | ㎥ | 1 | |
| 砂防 | | プレキャスト井筒 | ブロック規格 | m | 1 | |
| 砂防 | | 固定基礎コンクリート | タイプ<br>コンクリート規格 | m | 1 | |
| 砂防 | | 底張コンクリート | 構造物種別<br>コンクリート規格 | ㎥ | 1 | |
| 砂防 | | 井戸蓋 | 蓋形式 | 枚 | 1 | |
| 砂防 | 山腹水路工 | 山腹暗渠 | 管材質<br>管径<br>管長さ | m | 1 | |
| 砂防 | | 現場打水路 | 内幅<br>内高<br>コンクリート規格 | m | 1 | |
| 砂防 | 仮締切工 | 中詰・締切盛土撤去 | | ㎥ | 10 | |
| 砂防 | 砂防ソイルセメント工 | 砂防ソイルセメント | 粒径処理率<br>セメント100㎥当り使用量 | ㎥ | 1 | |
| 海岸 | 海岸コンクリート(根固・消波)ブロック工 | 海岸コンクリート(根固・消波)ブロック製作 | ブロック種類（型式）<br>ブロック種類（実質量） | 個 | 1 | |
| 海岸 | | 海岸コンクリート(根固・消波)ブロック据付 | ブロック種類（型式）<br>ブロック種類（実質量）<br>ブロック購入の有無 | 個 | 1 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 海岸 | 護岸工 | 裏込(砕)石 | 砕石規格 | ㎥ | 1 | |
| 海岸 | | 石材 | 石材規格 | ㎥ | 1 | |
| 海岸 | コンクリート被覆工 | コンクリート | コンクリート規格<br>養生費<br>コンクリート夜間割増の有無 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 海岸 | 捨石工 | 中詰石 | 石材規格 | ㎥ | 1 | |
| 海岸 | | 捨石 | 石材規格 | ㎥ | 1 | |
| 海岸 | | 捨石均し | 均し区分 | ㎡ | 10 | |
| 海岸 | | 表面均し | | ㎡ | 10 | |
| 海岸 | 被覆石工 | 被覆石据付 | 石材規格 | ㎥ | 1 | |
| 海岸 | | 被覆石均し | 均し区分 | ㎡ | 10 | |
| 海岸 | 被覆ブロック工 | 被覆ブロック据付 | ブロック種類（型式）<br>ブロック種類（実質量）<br>ブロック購入の有無 | 個 | 1 | |
| 海岸 | 矢板工 | 鋼矢板防食 | 防食規格 | ㎡ | 1 | |
| 海岸 | 詰杭工 | 既製コンクリート杭 | 杭種別<br>杭径<br>杭長<br>杭打込長（掘削長） | 本 | 1 | |
| 海岸 | | コンクリートパネル | パネル規格<br>ブロック規格 | 枚 | 1 | |
| 海岸 | | 中詰石 | 石材規格 | ㎥ | 1 | |
| 海岸 | | 表面均し | | ㎡ | 10 | |
| 海岸 | 石枠工 | コンクリート枠製作 | コンクリート規格 | 個 | 1 | |
| 海岸 | | コンクリート枠据付 | ブロック規格 | 個 | 1 | |
| 海岸 | | 中詰石 | 石材規格 | ㎥ | 1 | |
| 海岸 | | 捨石均し | 均し区分 | ㎡ | 10 | |
| 海岸 | ケーソン･セルラー工 | ケーソン等運搬・据付 | | 個 | 1 | |
| 海岸 | | 中詰砂・石 | 石材規格 | ㎥ | 1 | |
| 海岸 | | 表面均し | | ㎡ | 10 | |
| 浚渫工 | 浚渫船運転工(ポンプ浚渫船) | 浚渫船運転 | 浚渫船区分<br>貸与区分 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 浚渫工 | | 排砂管(設備) | 排砂管径<br>設置高さ | 本 | 1 | |
| 浚渫工 | | 浚渫船機械管理費（官船） | 貸与船船種・船級<br>フロータ長<br>フロータ径<br>排砂管径<br>排砂管本数<br>フロータ数<br>ゴムジョイント数 | 日 | 1 | |
| 浚渫工 | | 排砂管保守 | | 日 | 1 | |
| 浚渫工 | 作業船及び機械運転工(ポンプ浚渫船) | 中継ポンプ運転 | | 台 | 1 | |
| 浚渫工 | | 揚錨船運転 | | 日 | 1 | |
| 浚渫工 | | 交通船運転 | | 日 | 1 | |
| 浚渫工 | | 警戒船運転 | | 日 | 1 | |
| 浚渫工 | 浚渫船運転工(グラブ浚渫船) | 浚渫船運転 | 浚渫船区分<br>貸与区分 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 浚渫工 | | 浚渫船等機械管理費 | 浚渫船規格<br>汚濁防止枠の有無 | 日 | 1 | |
| 浚渫工 | 作業船及び機械運転工(グラブ浚渫船) | 揚錨船運転 | | 日 | 1 | |
| 浚渫工 | | 交通船運転 | | 日 | 1 | |
| 浚渫工 | | 土運搬船運転 | | 日 | 1 | |
| 浚渫工 | | 曳船運転 | | 日 | 1 | |
| 浚渫工 | | 警戒船運転 | | 日 | 1 | |
| 浚渫工 | バックホウ浚渫船 | バックホウ浚渫船運転 | 浚渫船区分<br>貸与区分 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 浚渫工 | | 繋船運転 | | 日 | 1 | |
| 浚渫工 | | 土運船運転 | | 日 | 1 | |
| 浚渫工 | | 浚渫土揚土 | | 日 | 1 | |
| 浚渫工 | 配土工 | 配土 | | 日 | 1 | |
| 浚渫工 | 浚渫土処理工 | 浚渫土処理 | | ㎥ | 10 | |
| 鋼橋上部工 | 地組工 | 地組 | | t | 0.1 | ただし1ｔ未満の場合は0.01ｔ |
| 鋼橋上部工 | 床版工 | 床版架設 | | ㎡ | 1 | |
| 鋼橋上部工 | 架設工 | 各種設備 | | 式 | 1 | |
| 鋼橋上部工 | | 桁架設 | 規格<br>桁種類 | t | 0.1 | ただし1ｔ未満の場合は0.01ｔ |
| 鋼橋上部工 | 現場継手工 | 本締めボルト | | 本 | 1 | |
| 鋼橋上部工 | | 鋼床板現場溶接 | | m | 1 | |
| 鋼橋上部工 | | 鋼床板Uリブ現場溶接 | | 個 | 1 | |
| 鋼橋上部工 | 支承工 | 金属支承設置 | 支承規格 | 個 | 1 | |
| 鋼橋上部工 | | 大型ゴム支承設置 | 支承規格 | 個 | 1 | |
| 鋼橋上部工 | 伸縮装置工 | 鋼・ゴム製伸縮装置 | 伸縮装置規格 | m | 0.1 | |
| 鋼橋上部工 | | 鋼製伸縮装置 | 伸縮装置規格<br>工種 | t | 0.1 | |
| 鋼橋上部工 | | 埋設ジョイント | ジョイント規格<br>工種 | m | 1 | |
| 鋼橋上部工 | 落橋防止装置工 | 落橋防止装置 | 材質規格（寸法等） | 箇所 | 1 | |
| 鋼橋上部工 | 排水装置工 | 排水桝 | 桝規格 | 箇所 | 1 | |
| 鋼橋上部工 | | 排水管 | 管規格 | m | 1 | |
| 鋼橋上部工 | 地覆工 | 場所打地覆 | 形状寸法 | m | 1 | |
| 鋼橋上部工 | | プレキャスト地覆 | ブロック規格<br>底幅<br>高さ | m | 1 | |
| 鋼橋上部工 | 橋梁用防護柵工 | 橋梁用防護柵 | | m | 1 | |
| 鋼橋上部工 | 橋梁用高欄工 | 橋梁用高欄 | 材質<br>作業区分<br>高欄形式 | m | 1 | |
| 鋼橋上部工 | 検査路工 | 検査路 | | t | 0.1 | |
| 鋼橋上部工 | 銘板工 | 橋名板 | 材質 | 枚 | 1 | |
| 鋼橋上部工 | | 橋歴板 | | 枚 | 1 | |
| 鋼橋上部工 | 架設工 | シェッド架設 | | t | 0.1 | |
| 鋼橋上部工 | 屋根ｺﾝｸﾘｰﾄ工 | 溶接金網 | 線径<br>網目 | ㎡ | 1 | |
| 歩道橋本体工 | 橋脚フーチング工 | アンカーフレーム架設 | | 基 | 1 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 歩道橋本体工 | | アンカーフレーム注入モルタル | | 基 | 1 | |
| 歩道橋本体工 | 歩道橋架設工 | 歩道橋架設 | | t | 0.1 | |
| 歩道橋本体工 | 歩道橋架設工 | 側道橋架設 | | t | 0.1 | |
| 歩道橋本体工 | | 橋面舗装 | コンクリート規格 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 歩道橋本体工 | | 手摺 | 高さ | m | 1 | |
| 歩道橋本体工 | | 高欄 | | m | 1 | |
| 歩道橋本体工 | | 足場 | 安全ネットの有無 | 箇所 | 1 | |
| 歩道橋本体工 | | 防護 | | ㎡ | 10 | |
| 鋼橋足場等設置工 | 橋梁足場工 | 架設足場 | 橋梁の種類 | ㎡ | 10 | |
| 鋼橋足場等設置工 | | 床版足場 | 橋梁の種類 | ㎡ | 10 | |
| 鋼橋足場等設置工 | | 塗装足場 | 橋梁の種類 | ㎡ | 10 | |
| 鋼橋足場等設置工 | | 側面塗装足場 | | ㎡ | 10 | |
| 鋼橋足場等設置工 | | 支承設置用足場 | | m | 1 | |
| 鋼橋足場等設置工 | 橋梁防護工 | 板張防護 | | ㎡ | 10 | |
| 鋼橋足場等設置工 | | シート張防護 | | ㎡ | 10 | |
| 鋼橋足場等設置工 | | ワイヤーブリッジ防護 | | ㎡ | 10 | |
| 鋼橋足場等設置工 | 昇降用設備工 | 登り桟橋 | | 箇所 | 1 | |
| 鋼橋足場等設置工 | | 工事用エレベーター | | 基 | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | 桁製作工・床版・横組工 | プレテンション桁製作 | | 本 | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | | ポストテンション桁製作 | 鉄筋規格<br>コンクリート規格<br>ＰＣケーブルの種類 | 本 | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | | プレキャストセグメント製作 | 桁規格 | 本 | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | | プレキャストセグメント主桁組立 | ＰＣケーブル規格 | 本 | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | | プレビーム桁製作 | 桁規格 | 本 | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | | 機械器具損料 | | 式 | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | | ＰＣケーブル | ＰＣケーブル種類 | m | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | | ＰＣケーブル | ＰＣケーブル種類 | t | 0.1 | ただし1ｔ未満の場合は0.01ｔ |
| コンクリート橋上部工 | | ＰＣケーブル・緊張 | 緊張区分<br>ＰＣ規格<br>ＰＣ鋼棒規格 | ケーブル | 1 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| コンクリート橋 上部工 | | 緊張 | ＰＣケーブル種類<br>定着装置 | ケーブル | 1 | |
| コンクリート橋 上部工 | | ＰＣ鋼棒 | 鋼棒径・種別<br>継手種別 | m | 1 | |
| コンクリート橋 上部工 | | ＰＣ緊張 | 緊張区分<br>ＰＣケーブル種類 | 箇所 | 1 | |
| コンクリート橋 上部工 | | ＰＣ固定 | 電源区分<br>緊張区分<br>ＰＣケーブル種類 | 箇所 | 1 | |
| コンクリート橋 上部工 | | ＰＣ継手 | 電源区分<br>緊張区分<br>ＰＣケーブル種類 | 箇所 | 1 | |
| コンクリート橋 上部工 | | 横締めケーブル | 電源区分<br>緊張区分<br>ＰＣケーブル種類 | m | 1 | |
| コンクリート橋 上部工 | | 鉛直締めケーブル | 電源区分<br>ＰＣケーブル種類 | m | 1 | |
| コンクリート橋 上部工 | | 横締め緊張 | | 箇所 | 1 | |
| コンクリート橋 上部工 | | 鉛直締め緊張 | 電源区分<br>ＰＣケーブル種類 | 箇所 | 1 | |
| コンクリート橋 上部工 | | 取付桁結合解放 | | 回 | 1 | |
| コンクリート橋 上部工 | 架設工(押出し架設) | 仮支柱 | | 基 | 1 | |
| コンクリート橋 上部工 | | プレフレクション | | 回 | 1 | |
| コンクリート橋 上部工 | | リリース | | 回 | 1 | |
| コンクリート橋 上部工 | | 主桁解体 | | 主桁本 | 1 | |
| コンクリート橋 上部工 | | 桁組立 | | 主桁本 | 1 | |
| コンクリート橋 上部工 | | 横桁取付 | | 箇所 | 1 | |
| コンクリート橋 上部工 | | 部分プレストレス | | 径間 | 1 | |
| コンクリート橋 上部工 | | 移動型枠 | | ㎡ | 1 | |
| コンクリート橋 上部工 | | 円筒型枠 | | m | 1 | |
| コンクリート橋 上部工 | | 主桁製作設備 | | 式 | 1 | |
| コンクリート橋 上部工 | 架設工 | 桁小運搬 | | 本 | 1 | |
| コンクリート橋 上部工 | | 桁架設 | 規格<br>桁種類 | 本 | 1 | |
| コンクリート橋 上部工 | | 柱頭部仮支承 | | ㎡ | 1 | |
| コンクリート橋 上部工 | | 桁架設(片持架設) | 規格<br>桁種類 | 基 | 1 | |
| コンクリート橋 上部工 | | ベント・鉄塔基礎 | | 式 | 1 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| コンクリート橋上部工 | | 押出装置 | | 基 | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | | 滑り装置 | | 基 | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | | 手延べ桁 | | 基 | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | | 桁架設(押出架設) | 規格<br>桁種類 | 回 | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | 落橋防止装置工 | 落橋防止装置 | 材質規格（寸法等） | 組 | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | 架設支保工 | 支保工基礎 | | ㎥ | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | | 支保 | 支保耐力○○以上 | 空㎥ | 10 | |
| コンクリート橋上部工 | 支承工 | ゴム支承 | 橋種<br>反力<br>寸法 | 個 | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | | 金属支承設置 | 支承規格 | 個 | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | | 変位制限装置 | | 組 | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | | ジョイントプロテクター | | 組 | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | 橋梁付属物工 | 鋼・ゴム製伸縮装置 | 伸縮装置規格 | m | 0.1 | |
| コンクリート橋上部工 | | 鋼製伸縮装置 | 伸縮装置規格 | t | 0.1 | |
| コンクリート橋上部工 | | 埋設ジョイント | ジョイント規格 | m | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | | 排水桝 | 桝規格 | 箇所 | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | | 排水管 | 管規格 | m | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | | 場所打地覆 | 形状寸法 | m | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | | プレキャスト地覆 | ブロック規格<br>底幅<br>高さ | m | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | | 橋梁用防護柵 | | m | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | | 橋梁用高欄 | 材質<br>作業区分<br>高欄形式 | m | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | | 検査路 | | t | 0.1 | |
| コンクリート橋上部工 | | 銘板 | 材質<br>寸法 | 枚 | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | 橋梁防護工 | ＰＣ防護 | | ㎡ | 1 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| コンクリート橋上部工 | 輸送工 | 現場取卸（鋼桁） | | t | 0.1 | |
| コンクリート橋上部工 | ｼｪｯﾄﾞ購入工 | シェッド部材材料費 | 材質規格（寸法等） | 本 | 1 | |
| コンクリート橋上部工 | 躯体工 | 排水マット | 材質規格 | m | 1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | トンネル掘削工･支保工 | 掘削・支保 | 掘削区分（岩） | m | 0.1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | 支保工 | 吹付 | 材料規格<br>吹付厚 | m | 0.1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | 鋼製支保 | 掘削区分（岩） | m | 0.1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | 金網 | | m | 0.1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | 覆工・防水工 | 覆工コンクリート・防水 | 掘削区分（岩） | m | 0.1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | 覆工コンクリート(妻部) | 掘削区分<br>巻厚<br>コンクリート規格 | 箇所 | 1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | 側壁コンクリート | 掘削区分<br>巻厚<br>コンクリート規格 | m | 0.1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | 床版コンクリート | 巻厚<br>コンクリート規格 | m | 0.1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | インバート工 | インバート掘削 | | m | 0.1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | インバート | 掘削区分（岩）<br>巻厚<br>コンクリート規格 | m | 0.1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | 坑内付帯工 | 箱抜 | 掘削区分（岩）<br>コンクリート規格 | 箇所 | 1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | 裏面排水 | 材料規格 | m | 1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | 湧水処理 | 材料規格<br>削孔の有無<br>削孔長 | 箇所 | 1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | 中央排水 | 管種<br>管径 | m | 1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | 横断排水 | 管種<br>管径 | 箇所 | 1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | 集水桝 | 集水桝種類<br>現場打材種類<br>コンクリート規格<br>基礎コンクリート規格 | 箇所 | 1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | 坑門工 | 斜面ボルト | 材料規格<br>長さ | 本 | 1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | 坑口処理 | | 箇所 | 1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | 型枠(セントル) | | ㎡ | 10 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| トンネル(ＮＡＴＭ) | 掘削補助工A | フォアパイリング | 掘削区分<br>材料規格<br>長さ | 本 | 1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | 先受け矢板 | 材料規格<br>長さ | 枚 | 1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | 岩盤固結 | 材料規格 | ㎥ | 10 | ただし100㎥未満の場合は1㎥ |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | 増し吹付 | 材料規格<br>吹付厚<br>補強材有無・規格 | ㎡ | 1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | 増しロックボルト | 材料規格<br>長さ | 本 | 1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | 鏡吹付 | 材料規格<br>吹付厚 | ㎡ | 1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | 鏡ロックボルト | 材料規格<br>長さ | 本 | 1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | 仮インバート | 材料規格<br>巻厚<br>補強材有無・規格 | ㎡ | 1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | ミニパイプルーフ | 材料規格<br>径<br>長さ | 本 | 1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | 掘削補助工B | 水抜きボーリング | 材料規格<br>径<br>長さ | 本 | 1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | 垂直縫地 | 材料規格<br>径<br>長さ | 本 | 1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | パイプルーフ | 材料規格<br>径<br>長さ | 本 | 1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | 押え盛土 | 材料規格<br>改良材添加量 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | 薬液注入 | 注入材料 | ㎥ | 10 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | デイープウェル | 径<br>深さ | 日 | 1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | ウエルポイント | ポンプ組数 | 日 | 1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | トンネル仮巻きコンクリート | コンクリート規格<br>巻厚 | m | 1 | |
| トンネル(ＮＡＴＭ) | | 各種設備 | | 式 | 1 | |
| トンネル(矢板) | 掘削工 | 掘削 | 掘削区分（岩） | m | 0.1 | |
| トンネル(矢板) | 支保工 | 鋼製支保 | 掘削区分（岩） | 基 | 1 | |
| トンネル(矢板) | 覆工・防水工 | 覆工コンクリート・防水 | 掘削区分（岩） | m | 0.1 | |
| トンネル(矢板) | | 止水板 | 止水板種類・寸法 | m | 1 | |
| トンネル(矢板) | | 床版コンクリート | 巻厚<br>コンクリート規格 | m | 1 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| トンネル(矢板) | | 裏込注入 | 注入材種類<br>配合<br>トンネル種別<br>トンネル平均距離<br>足場の有無 | ㎥ | 1 | |
| トンネル(矢板) | インバート工 | インバート掘削 | | m | 0.1 | |
| トンネル(矢板) | | インバート | 掘削区分（岩）<br>巻厚<br>コンクリート規格 | m | 0.1 | |
| トンネル(矢板) | 坑内付帯坑 | 箱抜 | 掘削区分（岩）<br>コンクリート規格 | 箇所 | 1 | |
| トンネル(矢板) | | 裏面排水 | 材料規格 | m | 1 | |
| トンネル(矢板) | | 湧水処理 | 材料規格<br>削孔の有無<br>削孔長 | 箇所 | 1 | |
| トンネル(矢板) | | 中央排水 | 管種<br>管径 | m | 1 | |
| トンネル(矢板) | | 横断排水 | 管種<br>管径 | 箇所 | 1 | |
| トンネル(矢板) | | 集水桝 | 集水桝種類<br>現場打材種類<br>コンクリート規格<br>基礎コンクリート規格 | 箇所 | 1 | |
| 共同溝 | 掘削工 | 掘削 | 土留方式 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 共同溝 | 埋戻し工 | 埋戻し | 土質区分<br>土質 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 共同溝 | 現場打構築工 | 防水 | 施工種別<br>材質 | ㎡ | 10 | ただし100㎡未満の場合は1㎡ |
| 共同溝 | | 防水保護 | 施工種別<br>モルタル規格 | ㎡ | 10 | ただし100㎡未満の場合は1㎡ |
| 共同溝 | | 防水壁 | コンクリート規格 | 箇所 | 1 | |
| 共同溝 | | 目地材 | 目地材種類・厚さ | ㎡ | 1 | |
| 共同溝 | | 止水板 | 止水板種類・寸法 | m | 1 | |
| 共同溝 | プレキャスト構築工 | プレキャスト躯体 | 種類<br>形状・寸法 | 個 | 1 | |
| 共同溝 | | ＰＣ鋼材 | 材質<br>種類 | m | 1 | |
| 共同溝 | | 縦・横締め緊張 | 電源区分<br>緊張区分<br>ＰＣケーブル種類 | 箇所 | 1 | |
| 共同溝 | | 可とう継手 | 内幅<br>内高 | 箇所 | 1 | |
| 共同溝 | | コーキング | 材質<br>種類 | m | 1 | |
| 共同溝 | | シール | | m | 1 | |
| 共同溝 | 付帯設備工 | グレーチング | 蓋種類 | 組 | 1 | |
| 共同溝 | | 蓋 | 蓋種類 | 組 | 1 | |
| 共同溝 | | 排水管 | 管規格 | m | 1 | |
| 共同溝 | | ルーフドレーン | 材質<br>管径 | 個 | 1 | |
| 共同溝 | | 換気防護柵 | 高さ | 箇所 | 1 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 共同溝 | | 梯子 | 寸法 | 本 | 1 | |
| 共同溝 | | ステップ | ステップ規格 | 本 | 1 | |
| 共同溝 | | タラップ | 寸法 | 本 | 1 | |
| 共同溝 | | 手摺 | 高さ | m | 1 | |
| 共同溝 | | 銘板 | 材質<br>寸法 | 枚 | 1 | |
| 共同溝 | 現場打躯体工(構造物単位) | 共同溝 | コンクリート規格<br>規格<br>土被り<br>内幅<br>内高 | ㎥ | 1 | |
| 共同溝 | 管路工(管路部) | 埋設表示シート | シート規格 | m | 1 | |
| 電線共同溝 | 掘削工 | 開削掘削 | 土質 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 電線共同溝 | 埋戻し工 | 埋戻し | 土質区分<br>土質 | ㎥ | 100 | ただし1，000㎥未満の場合は10㎥ |
| 電線共同溝 | 電線共同溝工 | 管路 | 材質<br>径 | m | 1 | |
| 電線共同溝 | | プレキャストボックス | 作業区分<br>内幅<br>内高<br>基礎材種別 | 個 | 1 | |
| 電線共同溝 | | 蓋 | 蓋種類 | 組 | 1 | |
| 電線共同溝 | 付帯設備工 | ハンドホール | 寸法 | 箇所 | 1 | |
| 電線共同溝 | 管路工(管路部) | 埋設表示シート | シート規格 | m | 1 | |
| 電線共同溝 | 管路工(管路部) | スリーブ | | 個 | 1 | |
| 電線共同溝 | 管路工(管路部) | 伸縮継手 | | 個 | 1 | |
| 植栽維持工 | 樹木・芝生管理工 | 樹木せん定 | 樹種<br>樹高 | 本 | 1 | |
| 植栽維持工 | | 寄植せん定 | 樹種<br>樹高 | ㎡ | 10 | |
| 植栽維持工 | | 補植 | 樹木規格<br>土壌改良材の有無<br>植樹割増しの有無 | 本 | 1 | |
| 植栽維持工 | | 移植 | 施工内容（移植）<br>施工規模（移植）<br>施工内容（植樹） | 本 | 1 | |
| 植栽維持工 | | 支柱 | 支柱形式<br>施工区分<br>規格・仕様 | 本 | 1 | |
| 植栽維持工 | | 抜根除草 | 施工内容<br>施工規模<br>施工場所別補正 | ㎡ | 10 | |
| 植栽維持工 | | 樹木施肥 | 肥料種類 | 本 | 1 | |
| 植栽維持工 | | 寄植・芝施肥 | 肥料種類<br>施工内容<br>施工規模<br>施工場所別補正 | ㎡ | 10 | |
| 植栽維持工 | | 灌水 | 潅水時期 | ㎡ | 10 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 植栽維持工 | | 防除 | 薬剤種類<br>施工内容<br>施工規模<br>時間制約補正<br>夜間作業補正<br>施工場所別補正 | 本 | 1 | |
| 植栽維持工 | | 寄植・芝薬剤散布 | 薬剤種類<br>施工内容<br>施工規模<br>施工場所別補正 | ㎡ | 10 | |
| 植栽維持工 | | 芝刈 | 芝種類 | ㎡ | 1,000 | ただし100，000㎡未満の場合は100㎡ |
| 河川維持 | 河川巡視工 | 緊急巡視 | | 回 | 1 | |
| 河川維持 | 堤防除草工 | 除草 | | ㎡ | 1,000 | ただし100，000㎡未満の場合は100㎡ |
| 河川維持 | 芝養生工 | 施肥 | 肥料種類<br>肥料使用量 | ㎡ | 1,000 | ただし100，000㎡未満の場合は100㎡ |
| 河川維持 | | 抜根 | 抜根工作区分<br>タイヤ損耗費 | ㎡ | 1,000 | ただし100，000㎡未満の場合は100㎡ |
| 河川維持 | 伐木除根工 | 伐木除根 | 樹木・竹の区分　樹木密集度 | ㎡ | 1,000 | ただし100，000㎡未満の場合は100㎡ |
| 河川維持 | 塵芥処理工 | 散在塵芥収集 | | ㎡ | 1,000 | ただし100，000㎡未満の場合は100㎡ |
| 河川維持 | | 堆積塵芥収集 | | ㎥ | 10 | ただし100㎥未満の場合は1㎥ |
| 河川維持 | 水面清掃工 | 水面清掃 | | 日 | 1 | |
| 河川維持 | 応急処理作業 | 応急作業 | 作業形態 | 日 | 1 | |
| 河川維持 | ｸﾗｯｸ補修工 | はつり | 平均はつり厚 | ㎡ | 1 | |
| 河川維持 | ｸﾗｯｸ補修工 | 鉄筋防錆処理 | 塗布材料規格 | m | 1 | |
| 河川維持 | ｸﾗｯｸ補修工 | ひび割れ注入 | 注入材料規格<br>注入方式 | m | 1 | |
| 河川維持 | ｸﾗｯｸ補修工 | ひび割れ充填 | 充填材料規格<br>カット方式 | ㎥ | 1 | |
| 河川維持 | ｸﾗｯｸ補修工 | 断面修復 | 使用材料規格<br>材料種類 | ㎡ | 1 | |
| 河川維持 | ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞｸﾞﾗｳﾄ工 | 注入 | 注入材料規格<br>注入日数<br>注入量 | ㎥ | 1 | |
| 河川維持 | ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞｸﾞﾗｳﾄ工 | 注入設備据付解体 | | 回 | 1 | |
| 河川維持 | 欠損部補修工 | 欠損部取壊し | | ㎥ | 1 | |
| 河川維持 | 欠損部補修工 | 欠損部補修 | 補修工法 | ㎥ | 1 | |
| 河川維持 | 不陸整正工 | 不陸整正・締固め | 補足材の有無<br>補修材の種類<br>補修材の厚さ | ㎡ | 1 | |
| 河川維持 | 付属物復旧工 | 調整ポスト | 支柱間隔 | 個 | 1 | |
| 河川維持 | 付属物設置工 | 標識 | | 基 | 1 | |
| 河川維持 | 塵芥処理工 | 処分費 | | t | 1 | |
| 河川維持 | 樹木･芝生管理工 | 捕植 | 樹種<br>樹高 | 本 | 1 | |
| 道路修繕 | 路面切削工 | 路面切削 | 施工区分・平均切削深さ<br>段差すりつけ撤去作業の有無 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 道路修繕 | 舗装打換え工 | 舗装版切断 | 舗装版種別<br>舗装厚 | m | 10 | ただし100m未満の場合は1m |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 道路修繕 | | 舗装版破砕 | 舗装版種別 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 道路修繕 | 切削オーバーレイ工 | 切削オーバーレイ | 全面切削深さ<br>舗設層数<br>段差すりつけ区分<br>アスファルト材料種類 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 道路修繕 | 舗装打換え工･オーバーレイ工 | 中間層 | 材料種類<br>材料規格<br>舗装厚<br>平均幅員 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 道路修繕 | 路上路盤再生工 | 路上路盤再生 | 混合深さ<br>混合用乳剤の有無<br>養生工の有無<br>砂散布の有無 | ㎡ | 10 | ただし1，000㎡未満の場合は1㎡ |
| 道路修繕 | 床版補強工(鋼板接着・増桁架設工法) | 鋼板接着 | | ㎡ | 1 | |
| 道路修繕 | | クラック処理 | 使用材料の種類 | m | 1 | |
| 道路修繕 | | 足場 | 安全ネットの有無 | ㎡ | 10 | |
| 道路修繕 | | 防護 | | ㎡ | 10 | |
| 道路修繕 | | 増桁架設 | 障害の有無 | t | 0.1 | ただし1ｔ未満の場合は0.01ｔ |
| 道路修繕 | 床版増厚補強工 | 表面荒らし | | ㎡ | 1 | |
| 道路修繕 | 床版取替工 | 鋼製高欄取替 | 作業区分<br>高欄形式 | m | 1 | |
| 道路修繕 | | 床版運搬処理 | 処理費の有無<br>作業内容積込<br>工法区分 | ㎥ | 1 | |
| 道路修繕 | 鋼桁補強工 | 現場溶接鋼桁補強 | | m | 1 | |
| 道路修繕 | 伸縮継手工 | 鋼製伸縮継手補修 | 伸縮装置補修 | m | 0.1 | |
| 道路修繕 | | 埋設ジョイント補修 | ジョイント規格<br>伸縮装置断面積<br>工種<br>取付部位<br>工法区分<br>補修形式 | m | 0.1 | |
| 道路修繕 | 鋼橋・ＰＣ支承工 | 支承取替 | 支承形式<br>現場条件 | 基 | 1 | |
| 道路修繕 | 検査路工 | 検査路 | | t | 0.1 | |
| 道路修繕 | 沓座拡幅工 | チッピング | | ㎡ | 1 | ただし10㎡未満の場合は0.1㎡ |
| 道路修繕 | | 削孔 | 削孔工法<br>削孔土質 | 孔 | 1 | |
| 道路修繕 | | アンカーボルト挿入 | アンカーボルト種類<br>注入材材質 | 本 | 1 | |
| 道路修繕 | | 鋼製沓座設置 | 鋼製沓座種類<br>設置箇所数 | 箇所 | 1 | |
| 道路修繕 | 排水施設工 | 排水桝 | 桝規格 | 箇所 | 1 | |
| 道路修繕 | | 排水管 | 管規格 | m | 1 | |
| 道路修繕 | 横断歩道橋工 | 高欄・手摺 | | t | 0.1 | |
| 道路修繕 | | 側板 | 作業区分<br>側板規格 | t | 0.1 | |
| 道路修繕 | | ノンスリップ | ノンスリップの規格 | m | 1 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 道路修繕 | ＲＣ橋脚鋼板巻立て工 | 鋼板取付 | 注入材材質 | ㎡ | 1 | |
| 道路修繕 | | 現場溶接 | 平均板厚 | m | 1 | |
| 道路修繕 | | 定着用アンカー | 径<br>削孔長 | 箇所 | 1 | |
| 道路修繕 | | 円形基部補強版 | | 段 | 1 | |
| 道路修繕 | | 根巻きコンクリート | コンクリート規格 | ㎥ | 1 | |
| 道路修繕 | 橋脚コンクリート巻立て | コンクリート削孔 | 径<br>削孔長<br>アンカー材の有無<br>アンカー材長さ | 箇所 | 1 | |
| 道路修繕 | | コンクリート巻立て | 支柱区分<br>施工内容<br>コンクリート規格<br>養生費<br>コンクリート夜間割増の有無 | ㎥ | 1 | |
| 道路修繕 | | 下地処理 | | ㎡ | 1 | |
| 道路修繕 | 現場塗装工 | 素地調整 | 調整工種別 | ㎡ | 10 | ただし100㎡未満の場合は1㎡ |
| 道路修繕 | | 塗装(下・中・上塗) | 塗装種別<br>塗装箇所<br>塗装回数 | ㎡ | 10 | ただし100㎡未満の場合は1㎡ |
| 道路修繕 | | 張紙防止塗装 | 塗料種別 | ㎡ | 10 | ただし100㎡未満の場合は1㎡ |
| 道路修繕 | | コンクリート面・岩盤清掃 | | ㎡ | 1 | |
| 道路修繕 | トンネル工 | 内装板 | 内装板材質 | ㎡ | 1 | |
| 道路修繕 | | 裏込注入 | 注入材種類<br>配合<br>トンネル種別<br>トンネル平均距離<br>足場の有無 | ㎥ | 1 | |
| 道路修繕 | | 面導水 | 導水材種類 | ㎡ | 1 | |
| 道路修繕 | | 線導水 | 導水材種類 | m | 1 | |
| 道路修繕 | | 鋼板巻立て | 支柱区分<br>注入材材質 | ㎡ | 1 | |
| 道路修繕 | | グルービング | 溝寸法・溝間隔<br>施工規模<br>舗装面種類 | ㎡ | 1 | |
| 道路修繕 | | グルービング（路面排水用） | 溝寸法<br>舗装面種類 | m | 1 | |
| 道路修繕 | | 鋼・ゴム製伸縮装置補修 | 工種<br>伸縮装置本体形式<br>仕様<br>本体材料の計上の有無 | m | 1 | |
| 道路修繕 | 橋梁補修工 | 橋梁地覆補修 | コンクリート規格<br>鉄筋材料規格・径 | m | 1 | |
| 道路修繕 | | 充てん工法 | １橋当りの延べ施工量<br>材料種類 | 橋 | 1 | |
| 道路修繕 | | 低圧注入工法 | １橋当りの延べ施工量<br>材料種類 | 橋 | 1 | |
| 道路修繕 | | 左官工法 | １橋当りの延べ施工量<br>材料種類<br>鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無 | 橋 | 1 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 道路修繕 | | 下地処理 | １橋当りの延べ施工量 | 橋 | 1 | |
| 道路修繕 | | プライマー塗布 | １橋当りの延べ施工量<br>材料種類 | 橋 | 1 | |
| 道路修繕 | | 下塗り(パテ塗布) | １橋当りの延べ施工量<br>材料種類 | 橋 | 1 | |
| 道路修繕 | | 中塗り材塗布 | １橋当りの延べ施工量<br>材料種類 | 橋 | 1 | |
| 道路修繕 | | 上塗り材塗布 | １橋当りの延べ施工量<br>材料種類 | 橋 | 1 | |
| 道路維持 | 巡視・巡回工 | 通常巡回 | 巡回車種類<br>巡回時間帯 | 回 | 1 | |
| 道路維持 | | 緊急巡回 | 巡回車種類<br>巡回時間帯 | 回 | 1 | |
| 道路維持 | コンクリート舗装補修工 | アスファルト注入 | 材料種類<br>削孔数 | t | 0.1 | ただし1ｔ未満の場合は0.01ｔ |
| 道路維持 | | 舗装版目地補修 | 材料種類 | m | 1 | |
| 道路維持 | | クラック処理 | 使用材料の種類 | m | 1 | |
| 道路維持 | アスファルト舗装維持工 | わだち掘れ補修 | 材料種類 | ㎡ | 1 | |
| 道路維持 | | パッチング | 材料種類 | t | 0.1 | |
| 道路維持 | 付属物復旧工 | ガードレール復旧 | 作業区分<br>使用材料 | m | 1 | |
| 道路維持 | | ガードケーブル復旧 | ガードケーブル規格<br>材料費の有無<br>作業条件 | m | 1 | |
| 道路維持 | | ガードパイプ復旧 | 作業区分<br>使用材料 | m | 1 | |
| 道路維持 | | 転落(横断)防止柵復旧 | 防護柵種類<br>柵高<br>支柱間隔<br>根巻コンクリートの有無<br>施工区分<br>施工規模 | m | 1 | |
| 道路維持 | | 路側標識復旧 | 柱規格<br>柱長さ<br>塗装仕様<br>曲げ支柱有無<br>施工規模 | 基 | 1 | |
| 道路維持 | | 標識板復旧 | 標識板規格<br>添架形式<br>[標識設置箇所]<br>施工規模 | 枚 | 1 | |
| 道路維持 | | 視線誘導標復旧 | 視線誘導標<br>規格施工区分<br>施工規模 | 本 | 1 | |
| 道路維持 | | 距離標復旧 | 距離標規格<br>作業区分 | 本 | 1 | |
| 道路維持 | | 張紙防止シート復旧 | シート種類 | ㎡ | 1 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 道路維持 | 路面清掃工 | 路面清掃(機械) | 作業形態 | km | 0.1 | |
| 道路維持 | | 路面清掃(路肩部・人力) | 作業形態<br>塵芥量 | km | 0.1 | |
| 道路維持 | | 路面清掃(歩道・人力) | 作業形態<br>塵芥量 | ㎡ | 1 | |
| 道路維持 | | 路面清掃(歩道橋・地下道・人力) | 作業形態<br>塵芥量 | ㎡ | 1 | |
| 道路維持 | | 路面清掃(中央分離帯・人力) | 作業形態<br>塵芥量 | ㎡ | 1 | |
| 道路維持 | 路肩整正 | 路肩整正(機械) | 作業形態 | km | 0.1 | |
| 道路維持 | | 路肩整正(人力) | 作業形態<br>運搬距離 | ㎡ | 100 | |
| 道路維持 | 排水施設清掃工 | 側溝清掃(人力) | 作業形態<br>側溝蓋規格 | m | 10 | |
| 道路維持 | | 側溝清掃(機械) | 作業形態 | km | 0.01 | |
| 道路維持 | | 管渠清掃 | 作業形態<br>作業量区分<br>排水管清掃車使用区分<br>側溝清掃車使用区分<br>散水車の使用区分<br>散水車機種 | m | 10 | |
| 道路維持 | | 桝清掃 | 作業形態<br>機械使用区分<br>土砂厚 | 箇所 | 1 | |
| 道路維持 | 橋梁清掃工 | 伸縮継手清掃 | 作業形態 | m | 1 | |
| 道路維持 | | 排水管清掃 | 作業形態<br>高所作業車の機械使用条件 | m | 10 | |
| 道路維持 | 道路付属物清掃工 | ガードレール清掃 | 作業形態<br>支柱清掃の有無<br>ガードレール清掃車の使用区分<br>散水車の使用区分<br>散水車機種<br>ガードレール清掃車機種 | km | 0.1 | |
| 道路維持 | | ガードパイプ清掃 | 作業形態 | m | 1 | |
| 道路維持 | | トンネル照明器具清掃(機械) | 作業形態 | km | 0.1 | |
| 道路維持 | | トンネル照明器具清掃(人力) | 作業形態<br>高所作業車の機械使用条件 | 灯 | 1 | |
| 道路維持 | | 視線誘導標清掃 | 作業形態 | 本 | 1 | |
| 道路維持 | | トンネル壁面清掃 | 作業形態<br>散水車使用区分<br>ブラシ使用区分<br>（貸与の場合：）散水車機種 | ㎡ | 1 | |
| 道路維持 | 道路除草工 | 除草 | | ㎡ | 1,000 | ただし100，000㎡未満の場合は100㎡ |
| 道路維持 | 応急処理工 | 応急作業 | 作業形態 | 日 | 1 | |
| 道路維持 | 冬季安全施設工 | スノーポール設置・撤去 | スノーポール種類<br>作業区分<br>スノーポール材料の計上 | 本 | 1 | |
| 道路維持 | | 防雪柵 | 防雪防護柵種類<br>柵高 | m | 1 | |
| 道路維持 | | 落雪(せり出し)防護柵 | 防雪防護柵種類<br>柵高 | m | 1 | |

| | 種　　別 | 細　　別 | 規　　格 | 設計表示単位 | 数位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 道路維持 | | 防雪柵現地張出・収納 | 防雪柵種類<br>作業区分 | m | 1 | |
| 雪寒 | 一般・運搬・歩道除雪 | 各種. | 機種<br>作業種別<br>種別時間帯（昼間or夜間）<br>機械持込or貸与 | 時間 | 1 | |
| 雪寒 | 凍結防止工 | 各種 | 機種<br>時間帯（昼間or夜間）<br>機械持込or貸与<br>損耗品持込or貸与 | 時間 | 1 | |
| 雪寒 | | 凍結防止剤 | 薬剤種類<br>作業種別<br>支給品（表示有無を選択） | t | 1 | |
| 雪寒 | | 凍結防止剤 | 薬剤種類<br>作業種別<br>支給品（表示有無を選択） | ℓ | 1 | |
| 雪寒 | | 除雪補助 | | 時間 | 1 | |
| 雪寒 | | 積雪投棄 | 作業種別<br>時間帯（昼間or夜間） | 時間 | 1 | |
| 雪寒 | | ハンドガイド式除雪機 | 小型除雪車機種<br>作業種別<br>時間帯（昼間or夜間） | 時間 | 1 | |
| 雪寒 | | 小型除雪車 | 小型除雪車機種 | 時間 | 1 | |
| 雪寒 | 安全処理工 | 雪瑕庇処理 | 作業形態<br>作業種別 | 時間 | 1 | |
| 雪寒 | | つらら処理 | 作業形態 | 時間 | 1 | |
| 雪寒 | | 人工雪崩 | 作業形態 | 式 | 1 | |
| 雪寒 | 雪道巡回工 | 巡回 | 巡回車種類<br>作業種別<br>時間帯（昼間or夜間）<br>機械持込or貸与<br>損耗品持込or貸与 | 回 | 1 | |
| 雪寒 | 待機補償費 | 要員・連絡員 | 機械種類<br>待機体制 | 時間 | 1 | |
| 雪寒 | | 待機補償費 | 待機体制 | 式 | 1 | |
| 雪寒 | 保険費 | 除雪保険 | 保険種類 | 式 | 1 | |
| 雪寒 | 除雪機械修理工 | 除雪機械修理 | 修理内容 | 式 | 1 | |
| 電気通信 | | ケーブル | | m | 10 | ただし1，000m未満の場合は1m |
| 電気通信 | | 電線 | | m | 10 | ただし1，000m未満の場合は1m |
| 電気通信 | | 電線管 | | m | 10 | ただし1，000m未満の場合は1m |
| 機械 | | 鋼材類 | | t | 0.01 | ただし1ｔ未満の場合は0.001ｔ |

# 第６章　建設機械運転労務等


①　建設機械運転労務‥‥‥

令和元年度建設工事積算基準

# 第６章　建設機械運転労務等

## ①　建設機械運転労務

### １．適　用　職　種

建設機械の運転・操作にかかわる職種区分は，次表のとおりとする。

表1．1　適用職種

| 職　種 | 適 用 建 設 機 械 |
|---|---|
| 運転手（特殊） | 特殊免許，資格等を必要とする建設機械 |
| 運転手（一般） | 上記以外で，公道を走行する建設機械 |
| 特殊作業員 | 上記以外で，公道を走行できない建設機械 |

### ２．労　務　歩　掛

２－１　運転手の労務歩掛

機械運転１時間当り労務歩掛は，次式による。

$$歩掛 = \frac{1}{T}\ （人／h）\cdots\cdots 式2.1$$

（注）１．Ｔは運転日当り運転時間で請負工事機械経費積算要領第４第４項及び同第６の定めによる。
なお，Ｔは４～７時間について適用するものとし，Ｔが４時間未満の場合は４を，７時間を超える場合は７を使用する。

２．運転日当り運転時間（Ｔ）は，小数第２位を四捨五入して小数第１位止めとし，機械運転１時間当り労務歩掛は，小数第３位を四捨五入して小数第２位止めとする。

# ② 原動機燃料消費量

## 1. 適 用 範 囲

本資料は，建設工事に使用する建設機械等の燃料消費量の算出に適用する。

## 2. 燃 料 消 費 量

### ２－１　燃料消費量の算定

燃料消費量の算定は，請負工事機械経費積算要領による建設機械等損料算定表の種類，規格の機関出力と次に示す時間当り燃料消費率を乗じて求める。

時間当り燃料消費量＝機関出力×時間当り燃料消費率

（注）１．時間当り燃料消費量の数値は，有効数字の第３位を四捨五入し，有効数字２桁とする。
２．走行用エンジン及び作業用エンジンの双方を有する機械は，双方のエンジン出力を合計した機関出力とする。
３．ディーゼルパイルハンマの燃料消費率は，単位が（ ℓ ／ｈ－ｔ）（ｔ：ラム質量）なので，機関出力に替えてラム質量を乗ずる。

### ２－２　時間当り燃料消費率

時間当り燃料消費率（日常保守点検等に必要な油脂類及び消耗品等を含む）は，次表を標準とする。

## 表2．1　運転1時間当り燃料消費率

| No. | 機　　械　　名 | 規　　格 | 燃料消費率<br>(ℓ／ｋＷ－ｈ) | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ブルドーザ | | 0.153 | |
| 2 | リッパ装置付ブルドーザ | | | |
| 3 | 小型バックホウ | | | |
| 4 | バックホウ | | | |
| 5 | クラムシェル | | | |
| 6 | クローラローダ（トラクタショベル） | | | |
| 7 | ホイールローダ（トラクタショベル） | | 0.153 | |
| 8 | バックホウ（クローラ型） | ﾃﾞｨｰｾﾞﾙ／電気ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄ型 | 0.128 | |
| 9 | ダンプトラック | オフロード（建設用） | 0.085 | 15ｔ以上 |
| 10 | | オンロード | 0.043 | |
| 11 | トラック | | | クレーン装置付を含む |
| 12 | トレーラ | | 0.075 | |
| 13 | 不整地運搬車 | クローラ型 | 0.134 | |
| 14 | クローラクレーン | | 0.076 | |
| 15 | トラッククレーン | ラチスジブ型・油圧伸縮ジブ型 | 0.044 | オールテレーンクレーン含む |
| 16 | ラフテレーンクレーン | | 0.088 | |
| 17 | ディーゼルパイルハンマ | | 7.648ℓ／ｈ－ｔ | ｔはラム質量 |
| 18 | バイブロハンマ | 電動式 | E　0.305ｋＷｈ／ｋＷ | |
| | | 油圧式・可変式 | 0.308 | |
| 19 | 杭打機(ベースマシン) | | 0.085 | |
| 20 | 杭打用ウォータジェット | | 0.192<br>E　0.533ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 21 | 油圧ハンマ | | 0.181 | |
| 22 | 油圧式鋼管圧入引抜機(ジャッキ) | | E　0.305ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 23 | 油圧式杭圧入引抜機 | | | |
| | | | 0.145 | |
| 24 | アースオーガ | | E　0.436ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 25 | アースオーガ中掘式 | | 0.085 | ベースマシン |
| 26 | クローラ式アースオーガ | | E　0.436ｋＷｈ／ｋＷ | 装置 |
| 27 | 粉体噴射攪拌機 | 二軸式 | | |
| | | 単軸式 | E　0.305ｋＷｈ／ｋＷ | |
| | | 改良材供給機 | E　0.533ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 28 | オールケーシング掘削機 | 1エンジン(クローラ式) | 0.181 | |
| | | 2エンジン(クローラ式) | 0.093 | |
| | | スキッド式 | 0.104 | |
| 29 | マッドスクリーン | | E　0.305ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 30 | 泥排水処理装置 | フィルタプレス式 | E　0.560ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 31 | グラウトポンプ | | 0.207<br>E　0.613ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 32 | グラウトミキサ | | | |
| 33 | ボーリングマシン | | 0.151<br>E　0.429ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 34 | ドリルジャンボ | レール式 | 0.171<br>E　0.415ｋＷｈ／ｋＷ | |
| | | クローラ式 | | |
| | | ホイール式 | | |
| 35 | 自由断面トンネル掘削機 | | E　0.429ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 36 | ＮＡＴＭ機器集じん器 | | E　0.700ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 37 | コンクリート吹付機 | トンネル工事用 | E　0.466ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 38 | 急結剤供給装置 | | | |
| 39 | 吹付ロボット | | | |
| 40 | モータグレーダ | | 0.108 | ヒータプレーナ装置型を含む |
| 41 | スタビライザ | | 0.111<br>E　0.331ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 42 | ロードローラ | | 0.118 | |
| 43 | タイヤローラ | | 0.085 | |
| 44 | 振動ローラ（舗装用） | ハンドガイド | 0.231 | |
| | | 搭乗式 | 0.160 | |
| 45 | タンパ及びランマ | | G　0.346 | |

| No. | 機　　械　　名 | 規　　格 | 燃料消費率<br>(ℓ／ｋＷ－ｈ) | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 46 | 振動コンパクタ | | G　0.346 | |
| 47 | コンクリートプラント | | E　0.495ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 48 | モルタルプラント | | | |
| 49 | ベントナイトミキサ | | | |
| 50 | トラックミキサ | | 0.059 | |
| 51 | コンクリートポンプ車 | | 0.078 | |
| 52 | アスファルトフィニッシャ | | 0.147 | 加熱用燃料は含まない |
| 53 | ディストリビュータ | | 0.090 | |
| 54 | コンクリートスプレッダ | | 0.122 | |
| 55 | アグリゲートスプレッダ | | | |
| 56 | コンクリートフィニッシャ | | | |
| 57 | コンクリートレベラ | | | |
| 58 | フィニッシングスクリード | | | |
| 59 | コンクリートカッタ | | G　0.227 | |
| 60 | アスファルトエンジンスプレーヤ | | | |
| 61 | アスファルトカーバ | | G　0.227 | |
| 62 | 路面切削機 | | 0.144 | |
| 63 | 廃材積込機 | | 0.218 | |
| 64 | 路上表層再生機 | | 0.142 | |
| 65 | 路面安全溝切削機(グルーピング機械) | | | |
| 66 | 路面ヒータ(路上表層再生機組合せ用) | | 0.160 | |
| 67 | 路面清掃車 | | 0.063 | |
| 68 | ガードレール清掃車 | | | |
| 69 | トンネル清掃車 | | | |
| 70 | 側溝清掃車 | | 0.052 | |
| 71 | 排水管清掃車 | | 0.044 | |
| 72 | 散水車 | | | |
| 73 | 高所作業車 | | | |
| 74 | ガードレール支柱打込機 | | 0.051 | |
| 75 | 草刈車 | 路肩カッタ付 | 0.071 | |
| 76 | 空気圧縮機 | 定置式<br>可搬式 | 0.187 | トンネル工事は別途 |
| | | | E　0.595ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 77 | ブロア送風機(ファン) | | 0.156<br>E　0.681ｋＷｈ／ｋＷ | 軸流ファン「反転軸流式・可変風量型」は除く |
| 78 | 軸流ファン | 反転軸流式・可変風量型 | E　0.571ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 79 | ポンプ | | 0.323 | |
| 80 | 小型渦巻ポンプ | | G　0.495<br>E　0.900ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 81 | 工事用水中モータポンプ（潜水ポンプ） | | E　0.584ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 82 | サンドポンプ | | | |
| 83 | 発動発電機 | | 0.145<br>G　0.436 | |
| 84 | ウインチ | | 0.108<br>E　0.305ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 85 | 電気溶接機 | | 0.261<br>G　0.403 | 電気使用量はそれぞれの資料による |
| 86 | ベルトコンベヤ | | 0.293<br>G　0.512<br>E　0.560ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 87 | モルタル吹付機 | | 0.191 | |
| 88 | 作業車 | | 0.038 | |
| ~~89~~ | ライトバン | 二輪駆動 | 0.047<br>G　0.047 | |
| | | 四輪駆動 | | |
| 90 | 中小型トラック | | | |
| 91 | マイクロバス | | 0.064<br>G　0.071 | |
| 92 | 草刈機 | 肩掛式 | G　0.588 | |
| | | 遠隔操縦式 | 0.209 | |
| 93 | 集草機 | ハンドガイド式 | 0.178<br>G　0.354 | |

| No. | 機　　械　　名 | 規　　格 | 燃料消費率<br>(ℓ／ｋＷ－ｈ) | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 94 | 動力噴霧機 | | 0.261<br>G　0.266 | |
| 95 | コンクリートバイブレータ | | G　0.347<br>E　0.540ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 96 | 照明機 | 可搬式 | 0.638 | |
| 97 | トラクタ | ホイール式 | 0.120 | |
| 98 | ポンプ式浚渫船 | | 重油0.381 | |
| 99 | 引船 | | 重油0.252 | |
| 100 | 除雪ドーザ | ホイール | 0.153 | |
| 101 | 除雪グレーダ | | | |
| 102 | 除雪トラック | | 0.078 | |
| 103 | 小型除雪機 | ハンドガイド | 0.193<br>G　0.356 | |
| 104 | ロータリ除雪車 | 30～180ｋＷ級 | 0.137 | |
| | | 220～440ｋＷ級 | 0.114 | |
| 105 | 一車線積込除雪車 | ロータリ式 | 0.089 | |
| 106 | 凍結防止剤散布装置 | | 0.090 | |
| 107 | 凍結防止剤散布車 | | 0.058 | |
| 108 | レーキドーザ | | 0.175 | |
| 109 | トラクタ | クローラ式 | | |
| 110 | スクレープドーザ | | | |
| 111 | タイヤドーザ | | | |
| 112 | モータスクレーパ | | 0.163 | |
| 113 | 泥上掘削機 | | 0.175 | |
| 114 | トレンチャ | | 0.152 | |
| 115 | ダンプトラック | ガソリン | G　0.071 | |
| 116 | 不整地運搬車 | ホイール型 | 0.160 | |
| 117 | シャトルカー | | E　0.560ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 118 | タワークレーン | | 0.101<br>E　0.305ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 119 | ジブクレーン | | E　0.305ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 120 | 二本構リフト | モータウインチ | | |
| 121 | 一本構リフト | モータウインチ | | |
| 122 | 工事用エレベータ | | | |
| 123 | 門型クレーン | | | |
| 124 | 簡易ケーブルクレーン | | 0.108 | |
| 125 | フォークリフト | | 0.037 | |
| 126 | クローラ式サンドパイル打機 | | 0.085 | ベースマシン |
| | | | E　0.305ｋＷｈ／ｋＷ | 装置 |
| 127 | トラック式アースオーガ | | 0.053 | |
| 128 | ラフテレーンクレーン装着式アースオーガ | | 0.103 | |
| 129 | アースドリル掘削機 | | 0.093 | |
| 130 | リバースサーキュレーションドリル | | E　0.426ｋＷｈ／ｋＷ | フロント装置吊上げクレーンは杭打機(ベースマシン)を適用 |
| 131 | 杭打やぐら | | E　0.305ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 132 | サイクロン | | E　0.900ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 133 | サクションポンプ | | | |
| 134 | 圧送ポンプ | | | |
| 135 | 安定液ミキサ | | E　0.533ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 136 | 泥排水処理装置 | ベルトプレス式 | E　0.871ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 137 | 汚泥吸排車 | | 0.053 | |

| No. | 機械名 | 規格 | 燃料消費率<br>(ℓ／ｋＷ－ｈ) | 摘要 |
|---|---|---|---|---|
| 138 | ニューマチックケーソン施工機器<br>(潜函用ショベル) | | E　0.600ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 139 | クーリングタワー | | E　0.700ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 140 | シールド工事用機器 | パワーユニット | E　0.533ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 141 | 一次分離機 | | E　0.900ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 142 | 汚水槽 | | | |
| 143 | 粘土溶解槽 | | | |
| 144 | 高分子凝集剤溶解槽 | | | |
| 145 | スラリーポンプ | | | |
| 146 | インナバイブレータ | 自走式 | 0.122 | |
| 147 | コンクリートミキサ | | E　0.495ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 148 | コンクリートポンプ | | E　0.410ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 149 | 法面締固め機 | | 0.167 | |
| 150 | チップスプレッダ | | 0.127 | |
| 151 | アスファルトクッカ | | 0.164 | |
| 152 | コンクリート横取り機 | | 0.293 | |
| 153 | 振動目地切機 | | G　0.233 | |
| 154 | 区画線消去機 | ハンドガイド機 | | |
| 155 | ラインマーカ | ペイント・ハンドガイド | | |
| | | 溶融自走式<br>ペイント・自走式<br>ペイント・車載式 | 0.068 | |
| 156 | 溶解槽 | | | |
| 157 | 排水性舗装機能回復車 | | 0.063 | |
| 158 | しゃ光性遮音壁清掃車 | | 0.040 | |
| 159 | 歩道清掃車 | | | |
| 160 | 排水管清掃車 | CNG | C　0.043㎥／ｋＷ-ｈ | |
| 161 | 小型多段遠心ポンプ | | E　0.900ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 162 | 真空ポンプ | | | |
| 163 | 電動ホイスト | | E　0.305ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 164 | チェーンブロック(電動式) | | | |
| 165 | 土砂排出機 | | | |
| 166 | 簡易やぐら | | | |
| 167 | 両端固定式ケーブルクレーン | | E　0.305ｋＷｈ／ｋＷ<br>0.108 | |
| 168 | ムカデコンベヤ | | E　0.560ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 169 | 油圧ジャッキ | | E　0.533ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 170 | コンクリート吹付機 | | E　0.410ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 171 | 急結剤供給装置(吹付機用) | | | |
| 172 | 種子吹付機 | | 0.191 | |
| 173 | エンジン付ミキサ | | G　0.162 | |
| 174 | 工事用高圧洗浄機 | | E　0.900ｋＷｈ／ｋＷ<br>G　0.255 | |
| 175 | 薬剤散布機 | | 0.103 | |
| 176 | エレクタ | | E　0.255ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 177 | 切断機 | | E　0.305ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 178 | 草結束機 | | G　0.515 | |
| 179 | 木材破砕機 | | 0.185 | |
| 180 | 自走式破砕機 | | | |
| 181 | チェンソー | | G　0.450ℓ／ｈ | 左記は時間当り燃料消費量である。 |
| 182 | ポンプ浚渫船 | | E　1.217ｋＷｈ／ｋＷ | |
| 183 | 除雪ドーザ | クローラ | 0.166 | |
| 184 | ロータリ除雪装置 | | 0.141 | ロータリ式88kW型　ベースマシン<br>(除雪ドーザ) |

(注)　Ｇ：ガソリン　Ｅ：電力　Ｃ：圧縮天然ガス
印のないものは軽油である。

標準運転時間及び運転日当り燃料消費量

表２．２　運転日当り電力消費量

| 工　種　名 | 機　械　名 | 電力消費量 |
|---|---|---|
| トンネル（ＮＡＴＭ）<br>及び<br>小断面トンネル（ＮＡＴＭ） | セメントサイロ 30ｔ | Ｅ　8.0kWh |
| 小断面トンネル工<br>（NATM） | ｸﾛｰﾗ式・ﾊﾞｯｸﾎｳ・ｺﾝﾍﾞﾔ付<br>ズリ積機　コンベヤ最大搬送能力 150 ㎥／ｈ | Ｅ　27.0kWh |

## ③ 機械運転単価表

本資料は，各工種に使用する機械のうち，標準的な機種について単価表を示したものであり，各工種の単価表欄の指定に基づき作成する。

**1． 各工種の中で特に指定していない場合，次による。**

（1） 労務歩掛は「①建設機械運転労務」による。

（2） 主燃料の種類及び数量，油脂類は「②原動機燃料消費量」による。

**2． 各機種，規格ごとに次の事項を記入する。**

（1） 表題には，機械名を記入する。

（2） 燃料費の規格欄には，燃料の種類を記入する。

（3） 機械損料の規格欄には，機械の規格を記入する。

**機－1　　運転1時間当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数　量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 運転手（特殊） | | 人 | | ①建設機械運転労務による |
| 燃　料　費 | | ℓ | | ②原動機燃料消費量による |
| 機械損料 | | h | 1 | |
| 諸　雑　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

**機－2　　運転1時間当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数　量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 運転手（特殊） | | 人 | | ①建設機械運転労務による |
| 燃　料　費 | | ℓ | | ②原動機燃料消費量による |
| 機械損料 | | h | 1 | |
| 損　耗　費 | | 〃 | 1 | |
| 諸　雑　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

**機－3　　運転1時間当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数　量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 運転手（特殊） | | 人 | | ①建設機械運転労務による |
| 燃　料　費 | | ℓ | | ②原動機燃料消費量による |
| 機械損料1（　） | | h | 1 | |
| 機械損料2（　） | | 〃 | 1 | |
| 諸　雑　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（注） 機械損料の（　）内には，機械名を記入する。

**機－4　　運転1時間当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 運 転 手（特殊） | | 人 | | ①建設機械運転労務による |
| （　電　力　） | | kWh | | |
| 燃　料　費 | | ℓ | | ②原動機燃料消費量による |
| 機 械 損 料 | | h | 1 | |
| 諸　雑　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（注）　発動発電機を電源とする場合は，電力の積算はしない。

**機－5　　運転1時間当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 運 転 手（特殊） | | 人 | | ①建設機械運転労務による |
| （　電　力　） | | kWh | | |
| 燃　料　費 | | ℓ | | ②原動機燃料消費量による |
| 機械損料１（　） | | h | 1 | |
| 機械損料２（　） | | 〃 | 1 | |
| 諸　雑　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（注）　１．機械損料の（　）内には，機械名を記入する。
　　２．発動発電機を電源とする場合は，電力の積算はしない。

**機－6　　運転1時間当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 運 転 手（一般） | | 人 | | ①建設機械運転労務による |
| 燃　料　費 | | ℓ | | ②原動機燃料消費量による |
| 機 械 損 料 | | h | 1 | |
| 諸　雑　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

**機－7　　運転1時間当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 運 転 手（一般） | | 人 | | ①建設機械運転労務による |
| 燃　料　費 | | ℓ | | ②原動機燃料消費量による |
| 機 械 損 料 | | h | 1 | |
| 損　耗　費 | | 〃 | 1 | |
| 諸　雑　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

**機－8　　運転1日当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 特殊作業員 | | 人 | 1 | |
| 燃料費 | | ℓ | | ②原動機燃料消費量による |
| 機械損料 | | 日 | 1 | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

**機－9　　運転1時間当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 特殊作業員 | | 人 | 1／T | |
| 燃料費 | | ℓ | | ②原動機燃料消費量による |
| 機械損料 | | h | 1 | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（注）　T：運転日当り運転時間

**機－10　　運転1日当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 高級船員 | | 人 | | |
| 普通船員 | | 〃 | | |
| 燃料費 | | ℓ | | ②原動機燃料消費量による |
| 機械損料 | | 日 | 1 | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

**機－11　　運転1時間又は1日当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| （　）船員 | | 人 | | |
| 燃料費 | | ℓ | | ②原動機燃料消費量による |
| 機械損料 | | | | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（注）　（ ）内は，船員の種別を記入する。

**機－12　　運転1日当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 燃料費 | | ℓ | | ②原動機燃料消費量による |
| 機械損料 | | 日 | 1 | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（注）　運転歩掛は，施工歩掛に含まれている。

**機－13　　運転1時間当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 燃　料　費 | | ℓ | | ②原動機燃料消費量による |
| 機　械　損　料 | | h | 1 | |
| 諸　雑　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（注）　運転歩掛は，施工歩掛に含まれている。

**機－14　　運転1日当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| （　電　力　） | | kWh | | |
| 機　械　損　料 | | 日 | 1 | |
| 諸　雑　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（注）１．発動発電機を電源とする場合は，電力の積算はしない。
　　２．運転歩掛は，施工歩掛に含まれている。

**機－15　　運転1時間当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| （　電　力　） | | kWh | | |
| 機　械　損　料 | | h | 1 | |
| 諸　雑　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（注）１．発動発電機を電源とする場合は，電力の積算はしない。
　　２．運転歩掛は，施工歩掛に含まれている。

**機－16　　運転1日当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 燃　料　費 | | ℓ | | |
| 賃　料 | | 供用日 | | |
| 諸　雑　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（注）　運転歩掛は，施工歩掛に含まれている。

**機－17　　運転1時間当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 燃　料　費 | | ℓ | | 施工歩掛による |
| 機　械　損　料 | | h | 1 | |
| 諸　雑　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（注）　運転歩掛は，施工歩掛に含まれている。

**機－18　　運転1日当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 運転手（特殊） | | 人 | | |
| 燃料費 | | ℓ | | |
| 機械損料 | | 供用日 | | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

**機－19　　運転1日当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 運転手（一般） | | 人 | | |
| 燃料費 | | ℓ | | |
| 機械損料 | | 供用日 | | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

**機－20　　運転1日当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 運転手（特殊） | | 人 | | |
| （電力） | | kWh | | |
| 燃料費 | | ℓ | | |
| 機械損料1（　） | | 供用日 | | |
| 機械損料2（　） | | 〃 | | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（注）1．機械損料の（　）内には，機械名を記入する。
　　2．発動発電機を電源とする場合は，電力の積算はしない。

**機－21　　運転1日当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 運転手（特殊） | | 人 | | |
| （電力） | | kWh | | |
| 燃料費 | | ℓ | | |
| 機械損料 | | 供用日 | | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（注）　発動発電機を電源とする場合は，電力の積算はしない。

**機－22　　運転1日当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 運転手（一般） | | 人 | | |
| 燃料費 | | ℓ | | |
| 機械損料 | | 供用日 | | |
| 損耗費 | | 〃 | | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

**機－23　　運転1日当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 特殊作業員 | | 人 | 1 | |
| 燃料費 | | ℓ | | |
| 機械損料 | | 供用日 | | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

**機－24　　運転1日当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 燃料費 | | ℓ | | |
| 機械損料 | | 供用日 | | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（注）　運転歩掛は施工歩掛に含まれている。

**機－25　　運転1日当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| （電力） | | kWh | | |
| 機械損料 | | 供用日 | | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（注）１．発動発電機を電源とする場合は，電力の積算はしない。
　　２．運転歩掛は施工歩掛に含まれている。

**機－26　　運転1日当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 高級船員 | | 人 | | |
| 普通船員 | | 〃 | | |
| 燃料費 | | ℓ | | |
| 機械損料 | | 供用日 | | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

**機－27　　運転1日当り単価表**

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 燃料費 | | ℓ | | |
| 賃料 | | 日 | 1 | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（注）　運転歩掛は，賃料に含まれている。

機－28　　運転1日当り単価表

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 運転手（特殊） | | 人 | | |
| 燃料費 | | ℓ | | |
| 賃料 | | 供用日 | | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

機－29　　運転1日当り単価表

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 運転手（一般） | | 人 | | |
| 燃料費 | | ℓ | | |
| 賃料 | | 供用日 | | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

機－30　　運転1日当り単価表

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| （電力） | | kWh | | |
| 賃料 | | 供用日 | | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（注）１．発動発電機を電源とする場合は，電力の積算はしない。
　　２．運転歩掛は施工歩掛に含まれている。

機－31　　運転1日当り単価表

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 特殊作業員 | | 人 | | |
| 燃料費 | | ℓ | | |
| 賃料 | | 供用日 | | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

機－32　　運転1日当り単価表

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 燃料費 | | ℓ | | |
| 機械損料 | | 供用日 | 1.4 | |
| 損耗費 | | 〃 | 1.4 | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

# ④ 一　般　事　項

## 1. 建設機械運転労務

運転手の労務歩掛の考え方

（1） 運転手は通年雇用的な常用とみなす。

（2） １人工は実働８時間とする。

## 2. 指定事項における運転労務数量について

各工種における当該機械毎の機械運転単価表において，指定事項に運転労務数量が指定されている場合は，これによるものとする。

指定事項において運転労務数量が指定されていない場合は，①建設機械運転労務によるものとする。

## 3. 運転日当り運転時間(T)

（1） 作業が標準状態である場合，運転日当り運転時間（T）は建設機械等損料算定表に示す年間標準運転時間，年間標準運転日数等より算出した値を使用する。

ただし，各工種における当該機械毎に運転労務数量が指定されている場合は，これによる。

（2） 工事の施工に特別な条件がない場合，作業は標準状態と見なす。

（3） 積上げで求めた運転日当り運転（T）と標準時間（Ｔｏ）の差がＴｏに対し±20%未満の場合には，標準状態とみなし，標準Ｔｏを使用することができる。

（4） 設計変更その他不可抗力等により，当初の契約条件を変更するため運転日当り運転時間（T）がいちじるしく変更する場合（±20%以上の場合）は，運転日当り運転時間（T）を変更する。

（5） 運転日当り運転時間（T）が４時間未満の場合，歩掛はすべてＴ＝４時間で積算し同一運転手による他の機械の運転等を考慮する。又運転日当り運転時間（T）が７時間を超える場合も歩掛はすべてＴ＝７時間で積算し，場合によっては２シフト制を考慮する。

（6） 運転日当り運転時間（T）は，小数第２位を四捨五入して小数第１位止めとし，機械運転１時間当り労務歩掛は，小数第３位を四捨五入して小数第２位止めとする。

## 4. 運転手を計上する機械

道路交通法に定める運転免許が必要な建設機械並びにこれと同等の機械（フィニッシャ，アスファルトプラント等）とする。

運転手を計上する条件を運転手（特殊）及び運転手（一般）と分類してその各々の内容を次のとおりとする。

（1） 運転手（特殊）

重機械（道路交通法第 84 条に規程する大型特殊免許または労働安全衛生法第 61 条第１項に規程する免許，資格もしくは技能講習の修了を必要とし，運転及び操作に熟練を要するもの。）の運転及び操作について相当程度の技能を有し，主として重機械を運転または操作及び整備点検，給油脂，清掃等の作業。

（2） 運転手（一般）

道路交通法第 84 条に規程する運転免許（大型免許，普通免許等）を有し，主として機械を運転または操作及び整備点検，給油脂，清掃等の作業。

（3） 特殊作業員としての取扱い

軽機械（道路交通法第 84 条に規程する運転免許または労働安全衛生法第 61 条第１項に規程する免許，資格もしくは技能講習の修了を必要とせず，運転及び操作に比較的熟練を要しないもの。）を運転または操作して行う作業。

**5. ダム工事及び大型造成工事について**

ダム工事及び大型造成工事については，機械付世話役及び助手を別途考慮する。

**6. 労務単価について**

単価は公共工事設計労務単価（二省単価）による。

・世話役の単価について（6.1）
機械付世話役単価は一般土木世話役の労務単価とする。

・助手の単価（58.2）
助手の単価は普通作業員の単価とする。

・機械工の単価（58.2）
機械工の単価は溶接工の単価とする。

**7. 歩掛について**

（1） 損料との関係

1） 機械の供用日数，運転時間の定義等についてはすべて「請負工事機械経費積算要領」によるものとする。

2） 時間当り損料 労務歩掛積算要領表（表－1）

**8. 運転手職種別の対象機械**

運転手職種別の対象機械は，表－2のとおりとする。

**表－1 時間当り損料 労務歩掛積算要領表**

| 施 工 条 件 | 時間当り損料(円／h) | 労 務 歩 掛(人／h) | 摘　要 |
|---|---|---|---|
| (1) 稼働状態が標準の場合 | 損料＝損料表(13)欄 | 4≦T≦7ではT<br>T＜4の場合はT＝4<br>7＜Tの場合はT＝7<br>として，標準歩掛の式2.1による。 | Tは機種により一定<br>$T=\frac{\text{損料表(3)欄}}{\text{損料表(4)欄}}$ |
| (2) 稼働状態が標準と異なる場合 | 損料＝損料表(9)欄<br>＋損料表(11)欄／t<br>t：供用日当り運転時間<br>(積上げにて積算)<br>小数第2位を四捨五入して小数第1位止め | (1)に同じ | 4≦T≦7では損料Tと歩掛Tは一致する。<br><br>T＜4，7＜Tでは損料Tと歩掛は一致しない。 |
| (3) 特に作業条件が標準と異なる場合<br>(ハードワーク等) | 損料＝損料表(9)欄<br>×(1±α)損料表<br>＋(11)欄／t | (1)に同じ | 算定表の割増率を使用 |
| (4) 積雪寒冷地で使用する場合 | 損料＝損料表(9)欄<br>＋損料表(11)欄<br>×β／t | (1)に同じ | 算定表の割増率を使用 |

## 表－2 運転労務適用職種一覧

| 機械名 | 規格 | | 機械質量 | 運転手(特殊) | 運転手(一般) | 特殊作業員 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ブルドーザ | 1t | | － | | | ○ | |
| | 3t以上 | | － | ○ | | | |
| | リッパ装置付 | | － | ○ | | | |
| レーキドーザ<br>タイヤドーザ | 3t級未満 | | － | | | ○ | |
| | 3t級以上 | | － | ○ | | | |
| トラクタ | クローラ | 3t級未満 | － | | | ○ | |
| | | 3t級以上 | － | ○ | | | |
| | ホイール | － | 3t未満 | | ○ | | |
| | | － | 3t以上 | ○ | | | |
| スクレープドーザ<br>スクレーパ<br>モータスクレーパ | 各種 | | － | ○ | | | |
| バックホウ,クラムシェル<br>ドラグライン | 機械式 | | 3t以上 | ○ | | | |
| | クローラ | 山積0.08㎥級以下<br>(平積0.06㎥) | － | | | ○ | |
| | | 山積0.11㎥級以上<br>(平積0.08㎥) | － | ○ | | | |
| | ホイール | 0.28㎥級以上<br>(平積0.2㎥) | － | ○ | | | |
| クローラローダ<br>(トラクタショベル) | 山積0.25㎥級以下 | | － | | | ○ | |
| | 山積0.4 ㎥級以上 | | － | ○ | | | |
| ホイールローダ<br>(トラクタショベル) | 山積0.4 ㎥級以下 | | － | | ○ | | |
| | 山積0.5 ㎥級以上 | | － | ○ | | | |

| 機械名 | 規格 | 機械質量 | 運転手(特殊) | 運転手(一般) | 特殊作業員 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| クローラクレーン | 1t吊未満 | － | | | ○ | |
| | 1t吊以上 | － | ○ | | | |
| トラッククレーン<br>ラフテレーンクレーン | 1t吊未満 | － | | ○ | | |
| | 1t吊以上 | － | ○ | | | |
| モータグレーダ | 各種 | － | ○ | | | |
| サンドパイル打機 | バイブロ式 | － | ○ | | | |
| クローラ杭打機 | ブーム式 | － | ○ | | | |
| | 直結式 | － | ○ | | | |
| 路面清掃車 | ブラシ式フロントリフトダンプ | － | ○ | | | |
| | 上記以外 | － | | ○ | | |
| トラック式アースオーガ | 各種 | － | ○ | | | |
| 大型ブレーカ | 〃 | － | ○ | | | バックホウ架装 |
| 散水車 | 〃 | － | | ○ | | |
| 側溝清掃車 | 〃 | － | | ○ | | |
| 排水管清掃車 | 〃 | － | | ○ | | |
| ガードレール清掃車 | ブラシ式 | － | | ○ | | |
| トンネル清掃車 | 〃 | － | | ○ | | |
| トラック | 普通<br>クレーン装置付1t吊未満 | － | | ○ | | |
| | クレーン装置付1t吊以上 | － | ○ | | | |

| 機　械　名 | 規　　格 | 機械質量 | 運転手(特殊) | 運転手(一般) | 特　殊作業員 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ダンプトラック | オンロード | － | | ○ | | |
| 専用重ダンプトラック | オフロード（建設専用） | － | | ○ | | |
| 不整地運搬車 | 積載質量1ｔ未満 | － | | | ○ | |
| | 積載質量1ｔ以上 | － | ○ | | | |
| 水陸両用運搬車(泥上車) | 各　　種 | － | ○ | | | |
| 作　業　車 | 各　　種<br>(クレーン装置付1ｔ吊以上を除く) | － | | ○ | | クレーン装置付1ｔ吊以上の機種であって，クレーンを使用しない場合は，運転手(一般)のみ計上 |
| | 各　　種<br>(クレーン装置付1ｔ吊以上) | － | ○ | | | |
| 高所作業車 | 作業床高10m未満 | － | | ○ | | |
| | 作業床高10m以上 | － | ○ | | | |
| コンクリートポンプ車 | 配管式 | － | ○ | | | |
| | ブーム式 | － | ○ | | | |
| ラインマーカ | 自走式 | － | | ○ | | |
| | 車載式 | － | | ○ | | |
| ロードローラ | マカダム | － | ○ | | | |
| | タンデム | － | ○ | | | |
| タイヤローラ | 各　　種 | － | ○ | | | |
| 振動ローラ | 自走式2.5～2.8ｔ以下 | － | | | ○ | |
| | 〃　3.0～5.0ｔ以上 | － | ○ | | | |

| 機　械　名 | 規　　格 | 機械質量 | 運転手(特殊) | 運転手(一般) | 特　殊作業員 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| コンクリートフィニッシャ | 3.0～4.5m以上 | － | ○ | | | |
| コンクリートスプレッダ | ブレード式・ボックス式 | － | ○ | | | |
| コンクリートレベラー | 3.0～7.5m | － | ○ | | | |
| アスファルトフィニッシャ | 各　　種 | － | ○ | | | |
| アスファルトプラント | 〃 | － | ○ | | | |
| アスファルトディストリビュータ | 〃 | － | | ○ | | |
| アスファルトスプレッダ | 自走式・各種 | － | | ○ | | |
| スタビライザ | 路上混合自走式各種 | － | ○ | | | |
| トレンチャ | 自走式 | 3ｔ未満 | | | ○ | |
| | 〃 | 3ｔ以上 | ○ | | | |
| アジテータトラック（トラックミキサ） | 各　　種 | － | | ○ | | |
| ヒータプレーナ | | － | ○ | | | |
| 路面切削機 | クローラ式・ホイール式 | － | ○ | | | |
| マイクロバス | | － | | ○ | | |
| ライトバン | | － | | ○ | | |
| ウインチ | 5ｔ吊未満 | － | | | ○ | |
| | 5ｔ吊以上 | － | ○ | | | |
| 草刈車 | 大型自走式(履帯式) | － | | | ○ | |
| 草刈機 | 肩掛式・ハンドガイド式 | － | | | ○ | |

令和元年度建設工事積算基準

# 第７章　土木請負工事の特許使用料の積算

① 土木請負工事の特許使用料の積算について・・・

令和元年度建設工事積算基準

# 第７章　土木請負工事の特許使用料の積算

## ①　土木請負工事の特許使用料の積算について

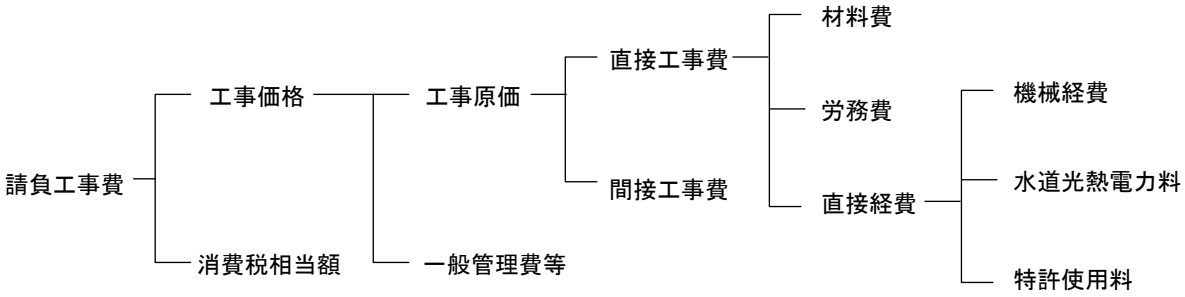
１．土木請負工事工事費の積算において必要な特許使用料の算定については次のとおりとする。ただし，これにより難い場合は別途考慮するものとする。

（１）　特許使用料の適用

特許使用料の適用は，特許権等に係る施工法・試験法・製造法並びに特許権，実用新案権及び意匠権等を用いて施工・製作させた装置等，工業所有権等に係るもの全てを対象とした特許工法等とし，特許法に基づく手続きのうち，設定登録が完了している場合及び出願を完了し，且つ，設定登録が完了していない手続き期間において，当該工法等を使用する積算に適用する。また，特許使用料を計上するのは，共有特許及び民間特許工法等を使用する場合とする。

（２）　特許使用料の積算

特許使用料は，工事を施工するのに直接必要とする経費とし，その算定は契約に基づき使用する特許の使用料および派出する技術者等に要する費用の合計額とする。




１）　特許使用料の算出

共有特許工法等を使用する場合は，実施契約に基づく，民間企業等が有する特許権の持分に対応した特許使用料を計上し，民間特許工法等を使用する場合は，当該特許工法に係る全ての特許使用料を計上する。なお，特許権，実用新案権及び意匠権等を用いて施工・製作させた装置等については，特許使用料が含まれている場合があるので留意されたい。

令和元年度建設工事積算基準

# 第８章　時間的制約を受ける公共土木工事の積算

①　時間的制約を受ける公共土木工事の積算について‥‥‥

令和元年度建設工事積算基準

# 第８章　時間的制約を受ける公共土木工事の積算

## ①　時間的制約を受ける公共土木工事の積算について

１．公共土木工事において，下記に示す項目により継続的に時間的制約を受け，通常の作業時間を確保することができない場合における当該作業の積算に係る労務費の算定は次のとおりとする。

（１）　時間的制約条件

１）　現道の交通量の多い時間帯

２）　通勤・通学の時間帯

３）　公的な輸送機関（バス・鉄道等）のピークとなる時間帯

４）　工事場所周辺地域の生活，各種営業活動等の時間帯等

以上の時間帯を避けた施工を必要とする場合とする。

ただし，ある特定の日のみの制約（例：毎週〇曜日のみ）を受ける場合は適用しない。

（２）　制約を受ける作業時間の適用範囲

制約を受ける作業時間については，４時間/日以上～7.5 時間/日以下とする。

なお，制約を受ける作業時間が４時間/日未満の場合は，別途施工条件等を考慮し適正に積算するものとする。

（３）　労務費の算定方法

時間的に制約を受ける工事の設計労務単価の補正割増しは，以下の方法により行うものとする。

１）　作業時間の算出

拘束時間＝作業終了時間－作業開始時間　（なお，標準拘束時間は９時間とする）

作業時間＝拘束時間－１時間（休憩時間帯）　（なお，標準作業時間は８時間とする）

２）　補正割増し係数

| 時間的制約状況の程度 | 補正割増し係数 |
|---|---|
| 時間的制約を受ける場合 | 1.06 |
| 時間的制約を著しく受ける場合 | 1.14 |

注)「時間的制約を受ける場合」とは，作業時間が７時間/日を超え 7.5 時間/日以下をいう。

「時間的制約を著しく受ける場合」とは，作業時間が４時間/日以上～７時間/日以下をいう。

３）　設計労務単価の補正割増し

設計労務単価は，次式により補正割増しを行うものとする。

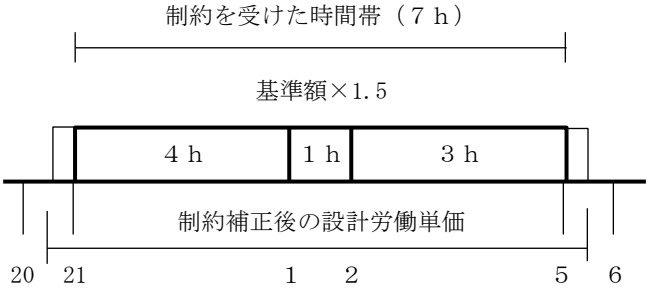
イ）　通常勤務すべき時間帯（８時～17 時）内において作業時間に制約を受ける場合の設計労務単価

設計労務単価＝公共工事設計労務単価×補正割増し係数

ロ）　施工条件により，やむを得ず通常勤務すべき時間帯（８時～17 時）を外して作業を行う場合の設計労務単価（例－1，例－2）

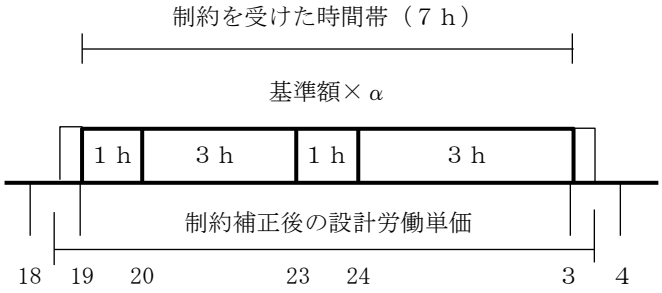
設計労務単価＝［公共工事設計労務単価＋割増し賃金］×補正割増し係数

（例－１）20 時～６時の時間帯の中で 21 時～５時までの時間的制約を受けた場合




設計労務単価＝［基準額＋割増し賃金］×補正割増し係数
＝基準額×1.5×1.14
＝基準額×1.71
ただし，割増し賃金＝基準額×0.5

（例－２）18 時～４時の時間帯の中で 19 時～３時までの時間的制約を受けた場合




設計労務単価＝［基準額＋割増し賃金］×補正割増し係数
＝基準額×1.428×1.14
＝基準額×1.628
ただし，α＝割増し率
＝（1h×1.0＋6h×1.5）／7h
＝1.428
割増し賃金＝基準額×0.428

ハ）　設計労務単価に他の特殊割増し（積雪寒冷地域での冬期割増し等）を合わせて考慮する場合は，割増し部分が重複しないように注意するものとする。

ニ）　機械付労務の労務費についても補正割増しの対象とする。

（４）　機械損料の補正

時間的制約を受ける工事の積算にあたって，機械損料を補正する場合には「建設機械損料の算定について」（建設省機発第 65 号）〔昭和 55 年２月 22 日付〕により，行うものとする。

（５）　工期の設定

時間的制約を受ける工事の工期設定にあたっては，制約された作業時間により適正な工期の設定を行うものとする。

# 第９章　土木請負工事における現場環境改善費の積算

①　土木請負工事における現場環境改善費の積算・・・

令和元年度建設工事積算基準

# 第９章　土木請負工事における現場環境改善費の積算

## ①　土木請負工事における現場環境改善費の積算

### １．対象となる内容は次のとおりとする。

工事に伴い実施する現場環境改善（仮設備関係，営繕関係，安全関係）及び地域連携に関するものを対象とする。

### ２．適 用 の 範 囲

周辺住民の生活環境への配慮及び一般住民への建設事業の広報活動，現場労働者の作業環境の改善を行うために実施するもので，現場環境改善等が必要と認められる場合に適用する。

### ３．積　算　方　法

（１）　現場環境改善費の積算は，以下の方法により行うものとする。ただし，標準的な現場環境改善を行う場合は率計上とし，特別な内容を行う場合は積上げ計上とする。

イ．積算方法は以下のとおりとし，現場環境改善費に計上するものとする。

$$K = i \cdot Pi + \alpha$$

ただし　K：現場環境改善費（単位：円，1000 円未満切り捨て）

i　：現場環境改善費率（単位：％，小数第３位四捨五入２位止め）

Pi　：対象額（直接工事費（処分費等を除く共通仮設費対象分）＋支給品費（共通仮設費対象分）＋無償貸付機械等評価額）

なお，対象額が５億円を超える場合は５億円とする。

α　：積上げ計上分（単位 円，1000 円未満切り捨て）

| 対象額 ： Pi | | 現場環境改善費率 ： i （％） | |
|---|---|---|---|
| | | 市街地 | 左記以外 |
| 直接工事費(処分費等を除く)<br>＋<br>支給品費<br>＋<br>無償貸付機械等評価額 | ５億円以下の場合 | $i = 56.6 \cdot Pi^{-0.174}$ | $i = 39.9 \cdot P\,i^{-0.201}$ |
| | ５億円を超える場合 | 1.73 | 0.71 |

ロ．率に計上されるものは，別表－１の内容のうち原則として各計上費目（現場環境改善のうち仮設備関係，営繕関係，安全関係及び地域連携）ごとに１内容ずつ（いずれか１費目のみ２内容）の合計５つの内容を基本とした費用である。

また，選択にあたっては地域の状況・工事内容により組み合わせ，実施費目数及び実施内容を変更しても良い。

ハ．積上げ計上分（α）に計上するものは，費用が巨額となるため現場環境改善費率分で行うことが適当でないと判断されるものとする。

ニ．なお，経費率は現場環境改善費の各費目を１本化した全体での率である。

ホ．現場環境改善に関する費用の対象額は５億円を限度とする。

（2） 設計変更について

率に計上されるものについては，設計変更を行わないものとする。ただし，対象金額（Pi）の変動に伴う現場環境改善費率ｉは変更される。また，積上げ計上分（α）については，内容に変更が生じた場合は設計変更の対象とする。

［別表－1］

| 計上費目 | 実 施 す る 内 容 （ 率 計 上 分 ） |
|---|---|
| 現場環境改善<br>（仮設備関係） | １．用水・電力等の供給設備，２．緑化・花壇，３．ライトアップ施設<br>４．見学路及び椅子の設置，５．昇降設備の充実，６．環境負荷の低減 |
| 現場環境改善<br>（営繕関係） | １．現場事務所の快適化（女性用更衣室の設置を含む）<br>２．労働宿舎の快適化<br>３．デザインボックス（交通誘警備員待機室），４．現場休憩所の快適化<br>５．健康関連設備及び厚生施設の充実等 |
| 現場環境改善<br>（安全関係） | １．工事標識・照明等安全施設のイメージアップ（電光式標識等）<br>２．盗難防止対策（警報器等），３．避暑（熱中症予防）・防寒対策 |
| 地域連携 | １．完成予想図，２．工法説明図，３．工事工程表<br>４．デザイン工事看板（各工事ＰＲ看板含む）<br>５．見学会等の開催（イベント等の実施含む）<br>６．見学所（インフォメーションセンター）の設置及び管理運営<br>７．パンフレット・工法説明ビデオ<br>８．地域対策費等（地域行事等の経費を含む），９．社会貢献 |

**４．その他**

平成 24 年 3 月 26 日付け技第 652 号「観光地等における工事施工中の景観配慮について（通知）」により，景観配慮型仮設物を設置する場合は，当該通知により現場環境改善費を計上するものとする。

その場合，当該通知における「イメージアップ経費」を「現場環境改善費」に読み替えて適用する。

# 第 10 章　工事の一時中止に伴う増加費用等の積算

①　工事の一時中止に伴う増加費用等の積算について…… Ⅰ-10-①- 1

令和元年度建設工事積算基準

# 第 10 章　工事の一時中止に伴う増加費用等の積算

## ①　工事の一時中止に伴う増加費用等の積算について

土木請負工事を一時中止（以下「中止」という。）した場合の増加費用等の負担については，下記により積算するものとする。

### 1．増加費用等の考え方

（1）　本工事施工中に中止した場合の費用

増加費用等の適用は，発注者が工事の中止（部分中止により工期延期となった場合を含む）を指示し，それに伴う増加費用等について受注者から請求があった場合に適用する。

増加費用として積算する範囲は，工事現場の維持に要する費用，工事体制の縮小に要する費用，工事の再開準備に要する費用，中止により工期延期となる場合の費用，工期短縮を行った場合の費用とする。

1）　工事現場の維持に要する費用

工事現場の維持に要する費用とは，中止期間中において工事現場を維持し又は工事の続行に備えて機械器具，労務者又は技術職員（専門職種を含む。以下同じ。）を保持するために必要とされる費用等とする。

2）　工事体制の縮小に要する費用

工事体制の縮小に要する費用とは，中止時点における工事体制から中止した工事現場の維持体制にまで体制を縮小するため，不要となった機械器具，労務者又は技術職員の配置転換に要する費用等とする。

3）　工事の再開準備に要する費用

工事の再開準備に要する費用とは，工事の再開予告後，工事を再開できる体制にするため，工事現場に再投入される機械器具，労務者，技術職員の転入に要する費用等とする。

4）　中止により工期延期となる場合の費用

中止により工期延期となる場合の費用とは，工期延期となることにより追加で生じる社員等給与，現場事務所費用，材料の保管費用，仮設諸機材の損料等に要する費用等とする。

5）　工期短縮を行った場合の費用

工期短縮を行った場合の費用とは，工期短縮の要因が発注者に起因する場合，自然条件（災害等含む）に起因する場合の工期短縮に要する費用等とする。なお，工期短縮の要因が受注者に起因する場合は増加費用を見込まないものとする。

（2）　契約後準備工着手前に中止した場合の費用

1）　契約後準備工着手前とは，契約締結後で，現場事務所・工事看板が未設置，材料等が未搬入の状態で測量等の準備工に着手するまでの期間をいう。

2）　発注者は，上記の期間中に，準備工又は本工事の施工に着手することが不可能と判断した場合は，工事の中止を受注者に通知する。

3）　一時中止に伴う増加費用は計上しない。

4）　受注者から，工期短縮を行った場合の費用の請求があったときは，これを増加費用として積算する範囲とする。なお，工期短縮の要因が受注者に起因する場合は増加費用を見込まないものとする。

（3）　準備工期間に中止した場合の費用

1）　準備工期間とは，契約締結後で現場事務所・工事看板を設置し，測量等の本工事施工前の準備期間をいう。

2）　発注者は，上記の期間中に，本体工事に着手することが不可能と判断した場合は，工事の中止を受注者に通知する。

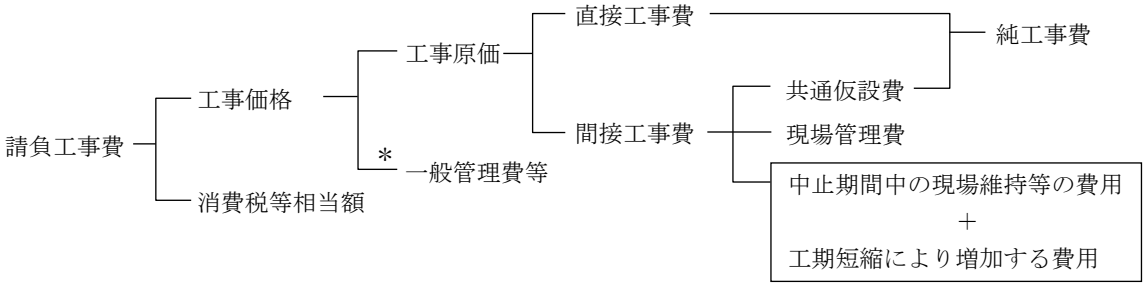
3）　増加費用は，安全費，営繕費及び現場管理費等が想定されるので，受注者が中止期間中の工事現場の維持・管理に関する基本計画書に基づき実施した結果，必要とされた工事現場の維持等の費用の「明細書」に基づき，費用の必要性・数量など受発注者が協議して決定する。

4）　受注者から，工期短縮を行った場合の費用の請求があったときは，これを増加費用として積算する範囲とする。なお，工期短縮の要因が受注者に起因する場合は増加費用を見込まないものとする。

## 2. 増加費用等の算定

### 2－1　増加費用等の構成

中止期間中の現場維持等に要する費用は，工事原価内の間接工事費の中で計上し，一般管理費等の対象とする。




＊中止に伴う本支店における増加費用を含む

（注）　中止に伴い発注者が新たに受取り対象とした材料，直接労務及び直接経費に係る費用は，該当する工種に追加計上し，設計変更により処理するものとする。

増加費用は，原則，工事目的物又は仮設に係る工事の施工着手後を対象に算定することとし，算定方法は以下のとおりとする。ただし，中止期間３ヶ月以内は標準積算により算定し，中止期間が３ヶ月を超える場合，道路維持工事又は河川維持工事のうち経常的な工事である場合など，標準積算によりがたい場合は，受注者から増加費用に係る見積を求め，受発注者間で協議を行い増加費用を算定する。

### 2－2　中止期間中の現場維持等に要する費用

（1）　標準積算により算定する場合，中止期間中の現場維持等に要する費用として積算する内容は以下の積上げ項目及び率項目とする。

1）　積上げ項目

積上げ計上する項目は，直接工事費，仮設費及び事業損失防止施設費における材料費，労務費，水道光熱電力等料金，機械経費で現場維持等に要する費用であり，下記の内容とする。

イ．直接工事費に計上された材料（期間要素を考慮した材料）及び仮設費に計上された仮設材等の中止期間中に係る損料額及び補修費用

ロ．直接工事費，仮設費及び事業損失防止施設費における項目で現場維持等に要する費用

2）　率で計上する項目

中止に伴い増加する費用の内，現場経費で算定する内容は下記のとおりとする。

イ．運搬費の増加費用

現場搬入済みの建設機械（質量 20ｔ以上の建設機械含む）の工事現場外への搬出又は工事現場への再搬入に要する費用及び大型機械類等の現場内小運搬。

ロ．安全費の増加費用

工事現場の維持に要する費用

（保安施設，保安要員の費用及び火薬庫，火工品庫の保安管理に要する費用）

ハ．役務費の増加費用

仮設費に係る土地の借り上げ等に要する費用，電力及び用水等の基本料金

ニ．営繕費の増加費用

現場事務所，労働者宿舎，監督員詰所及び火薬庫等の営繕損料に要する費用

ホ．現場管理費の増加費用

・現場維持のために現場へ常駐する社員等従業員給料手当及び労務管理費等に要する費用
・工事体制縮小のための労務者又は技術職員の配置転換に要する費用
・工事再開のための労務者又は技術職員の転入に要する費用
・工期延期となることにより追加で生じる社員等従業員給料手当

（２） 算定方法

中止に伴う現場維持等に要する費用の算定は，下記の式により算出する。(SSMN8600)

G＝dg×J＋α

ただし，

G：中止期間中の現場維持等の費用（単位 円 1，000 円未満切り捨て）

dg：中止に係る現場経費率（％ 小数第４位四捨五入３位止め）

（前記２－２（１） ２）に示す率項目）

Ｊ：対象額（中止時点の契約上の現場管理費対象純工事費）（単位 円 1，000 円未満切り捨て）

α：積上げ費用（単位 円 1，000 円未満切り捨て）

（前記２－２（１） １）に示す積上げ項目）

１） 中止に伴い増加する現場経費率

$$dg=\left[A\left\{\left(\frac{J}{a\times J^{b}+N}\right)^{B}-\left(\frac{J}{a\times J^{b}}\right)^{B}\right\}\right]+\frac{(N\times R\times 100)}{J}$$

ただし，

dg：一時中止に伴い増加する現場経費率（％ 小数第４位四捨五入３位止め）

（前記２－２（1） ２）に示す率項目）

Ｊ：対象額（一時中止時点の契約上の現場管理費対象純工事費）（単位 円 1,000 円未満切り捨て）

Ｎ：中止日数（日）

ただし，部分中止の場合は，部分中止に伴う工期延期日数。

Ｒ：公共工事設計労務単価（土木一般世話役）

Ａ，Ｂ，ａ，ｂ：各工種毎に決まる係数（別表－１）

**別表－1**

| 工種区分 | | 係数A | | | 係数B | 係数a | 係数b |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 地方部（一般交通等の影響なし） | 地方部（一般交通等影響有）離島 | 市街地（ＤＩＤ地区・準ずる地区） | | | |
| 河川工事 | | 739.2 | 781.0 | 807.6 | −0.2636 | 0.3687 | 0.3311 |
| 河川・道路構造物工事 | | 180.4 | 190.6 | 197.2 | −0.1562 | 0.8251 | 0.3075 |
| 海岸工事 | | 105.5 | 111.4 | 115.2 | −0.1120 | 1.6285 | 0.2498 |
| 道路改良工事 | | 339.5 | 358.7 | 370.9 | −0.1935 | 0.4461 | 0.3348 |
| 鋼橋架設工事 | | 550.3 | 581.5 | 601.3 | −0.2612 | 0.0717 | 0.4607 |
| ＰＣ橋工事 | | 476.3 | 503.2 | 520.4 | −0.2330 | 0.8742 | 0.3058 |
| 橋梁保全工事 | | 180.4 | 190.6 | 197.2 | −0.1562 | 0.8251 | 0.3075 |
| 舗装工事 | | 453.4 | 479.0 | 495.4 | −0.2108 | 0.0761 | 0.4226 |
| 共同溝等工事 | (1) | 209.6 | 221.5 | 229.1 | −0.1448 | 0.1529 | 0.4058 |
| | (2) | 154.8 | 163.6 | 169.1 | −0.1153 | 0.3726 | 0.3559 |
| トンネル工事 | | 293.8 | 310.3 | 321.0 | −0.1718 | 0.0973 | 0.4252 |
| 砂防・地すべり等工事 | | 151.0 | 159.5 | 164.9 | −0.1379 | 0.4267 | 0.3357 |
| 道路維持工事 | | 96.0 | 101.4 | 104.9 | −0.0926 | 0.1699 | 0.3933 |
| 河川維持工事 | | 439.2 | 464.0 | 479.9 | −0.2138 | 0.0144 | 0.5544 |
| 下水道工事 | (1) | 437.5 | 462.4 | 478.1 | −0.2054 | 0.0812 | 0.4356 |
| | (2) | 135.2 | 142.9 | 147.8 | −0.1089 | 0.2598 | 0.3771 |
| | (3) | 106.4 | 112.6 | 116.3 | −0.1078 | 0.5988 | 0.3258 |
| 公園工事 | | 244.3 | 258.1 | 267.0 | −0.1733 | 0.2026 | 0.3740 |
| コンクリートダム工事 | | 351.8 | 371.8 | 384.5 | −0.1793 | 11.6225 | 0.1998 |
| フィルダム工事 | | 508.1 | 536.9 | 555.1 | −0.2055 | 0.0617 | 0.4440 |
| 電線共同溝工事 | | 256.9 | 271.4 | 280.8 | −0.1615 | 8.1264 | 0.1740 |

（注）係数Ａの区分は以下のとおりとする。

１．市街地（ＤＩＤ地区及びこれに準ずる地区）

施工地域が人口集中地区（ＤＩＤ地区）及びこれに準ずる地区をいう。

なお、ＤＩＤ地区とは，総務省統計局国勢調査による地域別人口密度が 4,000 人／km2 以上でその全体が 5,000 人以上となっている地域をいう。（松江市，出雲市，益田市，浜田市，安来市の一部）

２．地方部

施工地域が上記以外の地区をいう。

なお，一般交通等影響有とは以下の場合をいう。

①施工場所において，一般交通の影響を受ける場合

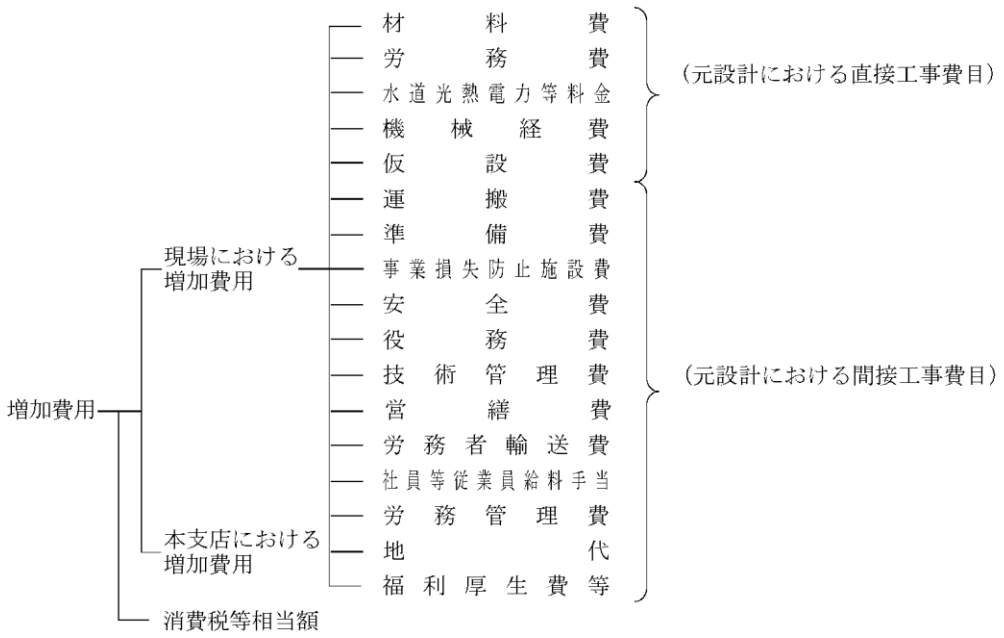
②施工場所において，地下埋設物件の影響を受ける場合

③施工場所において，50m以内に人家等が連なっている場合

3．　増加費用の構成費目

増加費用の構成費目は，次のとおりとする。

中止指示時点における当該工事の設計書について，以下「元設計」という。




4．　増加費用の費用と内容

増加費用の費目に係る積算の内容は次のとおりとする。

（1）　現場における増加費用

イ 材料費

①　材料の保管費用

工事を中止したために，元設計の直接工事費に計上されている現場搬入済の材料を，発注者が倉庫等（受注者が工事現場に設置したものを除く。）へ保管する必要があると認めた場合の倉庫保管料及び入出庫手数料

②　他の工事現場へ転用する材料の運搬費

工事を中止したために，元設計の直接工事費に計上されている現場搬入済の材料を，発注者が他の工事現場等に転用する必要があると認めた場合の当該材料の運搬費

③　直接工事費に計上された材料の損料等

元設計において期間要素を考慮して計上されている材料等の中止期間に係る損料額及び補修費用

ロ 労務費

①　工事現場の維持等に必要な労務費

中止後の労務費は，原則として計上しない。

ただし，トンネル，潜函等の特殊な工事において必要な作業員を確保しておくべき特別の事情があるため，受発注者協議により工事現場に労務者を常駐させた場合にはその費用

②　他職種に転用した場合の労務費差額

工事現場の保安等のために，受発注者協議により工事現場に常駐させた，トンネル・潜函工などの特殊技能労働者が職種外の普通作業等に従事した場合における本来の職種と，従事した職種の発注者の設計上の単価差額の費用

ハ 水道光熱電力等料金

工事現場に設置済の施設を工事現場の維持のため，発注者が指示し，あるいは受発注者協議により中止期間中稼動（維持）させるために要する水道光熱電力等に要する費用

ニ 機械経費

①　工事現場に存置する機械の費用

現場搬入済の機械のうち元設計に個別計上されている機械と同等と認められるものに関する次の費用

ⓐ　工事現場の維持のため存置することが必要であること，又は搬出費及び再搬入費（組立て，解体費を含む。）が存置する費用を上回ること等により，発注者が工事現場に存置することを認めた機械等の現場存置費用（組立て，解体費，管理費を含む。）

ⓑ　発注者が工事現場の維持等のため必要があると認めて指示した機械の運転費用

ホ 仮設費

① 仮設諸機材の損料
現場搬入済の仮設材料，設備等のうち，元設計において期間要素を考慮して計上されているものと同等と認められる仮設諸機材の中止期間に係る損料及び維持補修の増加費用
② 新たに必要となった工事現場の維持等に要する費用
元設計には計上されていないが，中止に伴う工事現場の維持等の必要上，発注者が新たに指示しあるいは受発注者の協議により発注者が必要と認めた仮設等に要する費用（補助労力を含む。）
③ 工期延期となることにより追加で生じる仮設諸機材の損料等に要する費用

ヘ 運搬費
① 工事現場外への搬出又は工事現場への再搬入に要する費用
中止時点に現場搬入済の機械器具類及び仮設材等のうち発注者が元設計に計上されたものと同等と認めたものを一定の範囲の工事現場外に搬出し又は一定の範囲から工事現場に再搬入する費用
② 大型機械類等の現場内運搬
元設計に計上した機械類，資材等のうち，工事が中止されたために，新たに工事現場内を移動させることを発注者が指示しあるいは受発注者協議により発注者が必要と認めた大型の機械，材料，仮設物等の運搬費用

ト 準備費
別費目で積算している現場常駐の従業員又は労務者をもって充てる通常の準備作業を超える工事現場の跡かたづけ，再開準備のための諸準備・測量等で，発注者が指示しあるいは受発注者協議により発注者が必要と認めたものに係る準備費用

チ 事業損失防止施設費
仮設費に準じて積算した費用

リ 安全費
① 既存の安全設備に係る費用
中止以前に工事現場に設置済の安全設備等のうち，原則として元設計において期間要素を考慮して計上されているものと同等と認められる，安全設備等の中止期間に係る損料及び維持補修の費用
② 新たな工事現場の維持等に要する安全費
元設計には計上されていないが，中止に伴い，工事現場の安全を確保するため，発注者が新たに指示しあるいは受発注者協議により発注者が必要と認めた安全管理に要する費用（保安要員費を含む。）

ヌ 役務費
① プラント敷地，材料置場等の敷地の借上げ料
元設計において期間要素を考慮して計上されているものと同等と認められるプラント敷地及び材料置場等の敷地の中止期間に係る借上げ，解約などに要した増加費用
② 電力水道等の基本料
元設計において期間要素を考慮して計上されているものと同等と認められる電力・用水設備等に係る中止期間中の基本料

ル 技術管理費
原則として増加費用は計上しないものとする。
ただし，現場搬入済の調査・試験用の機器，技術者等で元設計において期間要素を考慮して計上されているものと同等と認められるものがある場合には，仮設費に準じて積算した費用

ヲ 営繕費
中止以前に工事現場に設置済みの営繕施設のうち元設計において期間要素を考慮して計上されたものと同等と認められる営繕施設の中止期間に係る維持費，補修費及び損料額又は営繕費，労務者輸送費を一体化して直接工事費等に対する割掛率で計上している工事における中止期間中の維持費，補修費，損料額及び労務者輸送に要する費用

ワ 労務者輸送費
元設計が，営繕費，労務者輸送費を区分して積算している場合において受発注者協議により工事現場に常駐する労務者及び近傍の工事現場等に転用させると認められた労務者を一括通勤させる場合の通勤費用

カ 社員等従業員給料手当
中止期間中等の工事現場の維持等のために，受発注者協議により定めた次の費用
① 元請・下請会社の現場常駐の従業員（機械，電気設備の保安に係るものを含む。）に支給する給料手当の費用
② 中止時点に現場に常駐していた従業員を工事現場の維持体制に縮小するまでの間に従業員に支給する給料手当の費用
③ 工事現場の維持体制から再開する体制に移行するまでの間，工事現場に常駐する従業員に支給する給料手当の費用
④ 工期延期となることにより追加で生じる従業員に支給する給料手当の費用

ヨ 労務管理費
① 他の工事現場へ転出入する労務者の転出入に要する費用
中止によって遊休となった労務者のうち，当該工事現場に専従的に雇用された労務者（通勤者も含む。）を一定の範囲に転出又は一定の範囲から復帰のため転入するのに必要な旅費及び日当等の費用。なお，専従的

に雇用されていた者とは元請会社直庸又は専属下請会社が直接賃金を支給しており，かつ当該工事現場に相当長期間の契約で常駐的に雇用されていることが賃金台帳等で確認できるような者（以下「専従的労務者」という。）（通勤者も含む。）とする。

② 解雇・休業手当を払う場合の費用

受発注者協議により適当な転入工事現場を確保することができないと認めた専従的労務者を解雇・休業するために必要な費用

タ 地代

現場管理費の内，営繕費に係る敷地の借上げに要する費用等として現場管理費率の中に計上されている地代の中止期間の費用

レ 福利厚生費等

現場管理費の内，現場従業員に係る退職金・法定福利費・福利厚生費・通信交通費として現場管理費率の中に計上されている費用の中止期間中の費用

（2） 本支店における増加費用

中止に係る工事現場の維持等のために必要な受注者の本支店における費用

（3） 消費税相当額

現場及び本支店における増加費用に係る消費税に相当する費用

# 第 11 章　施工箇所が点在する工事の積算

①　施工箇所が点在する工事の積算について…… Ⅰ-11-①- 1

令和元年度建設工事積算基準

# 第 11 章　施工箇所が点在する工事の積算

## ①　施工箇所が点在する工事の積算について

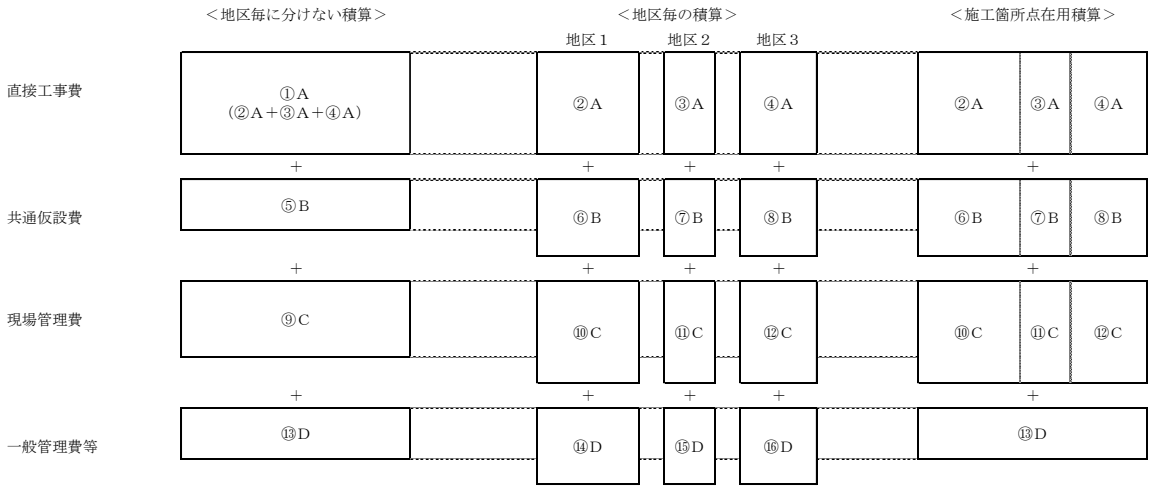
施工箇所が点在する工事については，建設機械を複数箇所に運搬する費用や複数箇所の交通規制等がそれぞれの箇所で発生するなど，積算額と実際かかる費用に乖離があるため，共通仮設費，現場管理費を箇所ごとに算出する積算とする。

### 1. 対　象　工　事

施工箇所が複数あり，施工箇所が１ｋｍ程度を超えて点在する工事を対象とする。
なお，道路付属物（防護柵，道路標識，視線誘導標，区画線，道路照明施設等）の維持管理工事は除く。
ただし，これによりがたい場合は個別に考慮できる。

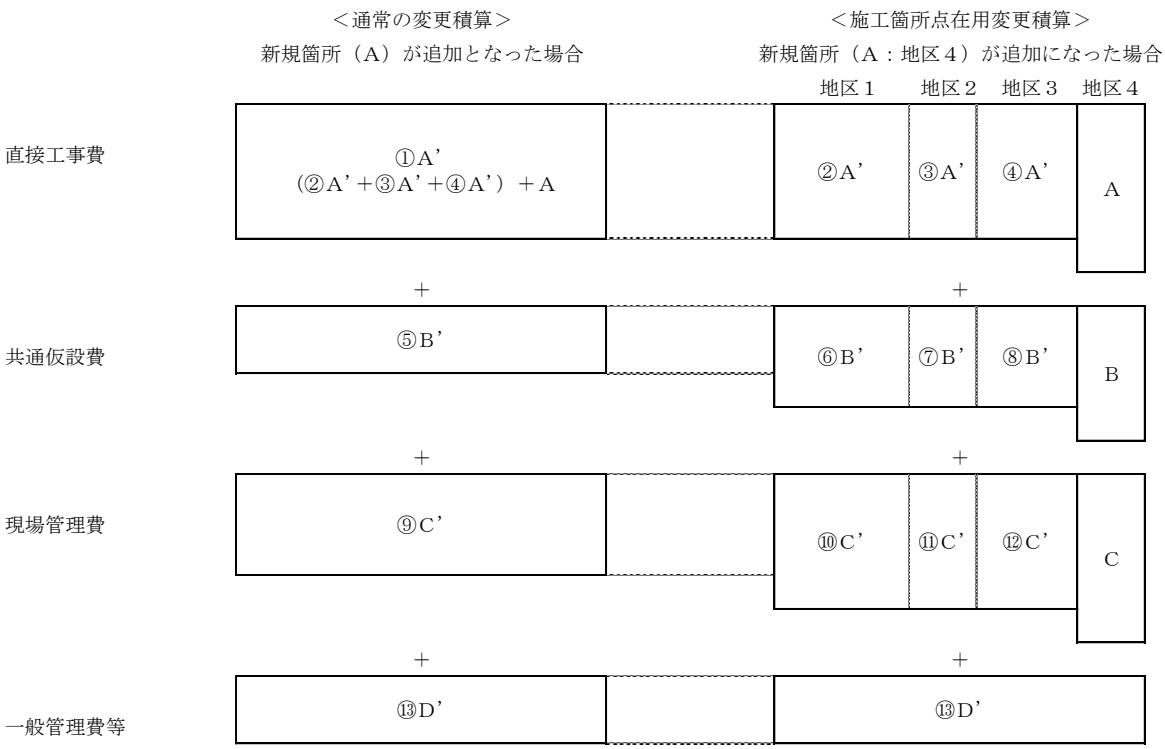
### 2. 工事箇所の設定方法及び積算方法

(1)　主たる工種区分は，工事全体で判断する。（地区毎に主たる工種区分を設定しない。）
(2)　直接工事費の施工規模等の入力条件は，施工箇所毎の数量から選択する。
(3)　材料費等単価の地区設定は，地区毎に設定する。
(4)　共通仮設費及び現場管理費については，地区毎に算出した合計額とする。
(5)　共通仮設費率及び現場環境改善費率，現場管理費率の補正については，地区毎に設定する。積上げ項目のうち，地区毎に分割できない場合は，直接工事費の最も大きい地区に計上する。
(6)　一般管理費等については，地区毎に分けない積算と同様とする。
なお，一般管理費算出時の，共通仮設費率及び現場管理費率にかかる，施工地域を考慮した補正は，施工規模の大きい地区の設計書で設定した係数によるものとする。




| | | | |
|---|---|---|---|
| 共通仮設費の算定 | ⑤B：①Aを対象額で算出 | ⑥B：②Aを対象額で算出<br>⑦B：③Aを対象額で算出<br>⑧B：④Aを対象額で算出 | ⑥B＋⑦B＋⑧Bとする |
| 現場管理費の算定 | ⑨C：（①A＋⑤B）を対象額で算出 | ⑩C：（②A＋⑥B）を対象額で算出<br>⑪C：（③A＋⑦B）を対象額で算出<br>⑫C：（④A＋⑧B）を対象額で算出 | ⑩C＋⑪C＋⑫Cとする |
| 一般管理費等の算定 | ⑬D：（①A＋⑤B＋⑨C）を対象額で算出 | ⑭D：（②A＋⑥B＋⑩C）を対象額に算出<br>⑮D：（③A＋⑦B＋⑪C）を対象額に算出<br>⑯D：（④A＋⑧B＋⑫C）を対象額に算出 | ⑬D：（①A＋⑤B＋⑨C）を対象額で算出 |

図２．１　施工箇所が点在する場合の積算イメージ




| | | |
|---|---|---|
| 共通仮設費の算定 | ⑤B’：①A’を対象額で算出 | ⑥B’：②A’を対象額で算出<br>⑦B’：③A’を対象額で算出<br>⑧B’：④A’を対象額で算出<br>B ：Aを対象額で算出<br>⑥B’＋⑦B’＋⑧B’＋Bとする |
| 現場管理費の算定 | ⑨C’：（①A’＋⑤B’）を対象額で算出 | ⑩C’：（②A’＋⑥B’）を対象額で算出<br>⑪C’：（③A’＋⑦B’）を対象額で算出<br>⑫C’：（④A’＋⑧B’）を対象額で算出<br>C ：（A＋B）を対象額で算出<br>⑩C’＋⑪C’＋⑫C’＋Cとする |
| 一般管理費等の算定 | ⑬D’：（①A’＋⑤B’＋⑨C’）を対象額で算出 | ⑬D’：（①A’＋⑤B’＋⑨C’）を対象額で算出 |

図２．２　施工箇所が点在する場合の変更積算イメージ

※積算のイメージ
（A地区直接工事費×間接費率）
＋（B地区直接工事費×間接費率）
＋（C地区直接工事費×間接費率）
※一般管理費等は通常どおり

# 第 12 章　１日未満で完了する作業の積算

①　　１日未満で完了する作業の積算…… Ⅰ-12-①- 1

令和元年度建設工事積算基準

# 第 12 章　１日未満で完了する作業の積算

## ①　1日未満で完了する作業の積算

### 1．適　用　条　件

本基準は，変更積算にのみ適用する。

施工実施にあたり，１日未満で完了する作業量の作業が見込まれ，施工パッケージ型積算基準と乖離が認められる場合に本基準を用いて積算するものとする。

本基準の採用にあたっては，契約期間内に受注者から当該積算の適用についての請求があった場合に，受発注者間の協議において，作業内容が当該積算基準に該当すると認められる場合に適用する。

同一作業員の作業が他工種・細別の作業と組合せで１日作業となる場合には，当該積算は適用しない。

### 2．適　用　範　囲

１日未満で完了する作業の積算は，表に記載の施工パッケージを使用して積算する工事に限って適用するものとする。

| 編・章 | 工種 | 施工パッケージ | 単位 | 作業日当り<br>標準作業量 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第Ⅱ編<br>共通工<br>第１章<br>土工 | 床掘工 | 床掘り | m3 | 32 | ・床掘りは，条件区分で，施工方法が「上記以外（小規模）」の場合に限って適用する。 |
| | | 舗装版破砕積込<br>（小規模土工） | m2 | 23 | |
| | 埋戻工 | 埋戻し | m3 | 40 | ・埋戻しは，条件区分で，施工方法が「上記以外（小規模）」の場合に限って適用する。<br>・埋戻し，タンパ締固めに係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | タンパ締固め | m3 | 36 | |
| 第２章<br>共通工 | 法面整形工 | 法面整形 | m2 | Ⅰ-14-①による | |
| | 基礎・裏込砕石工，<br>基礎・裏込栗石工 | 基礎砕石 | m2 | 155 | ・基礎砕石，裏込砕石，基礎栗石，裏込栗石に係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | 裏込砕石 | m3 | 38 | |
| | | 基礎栗石 | m2 | 敷均し：161<br>敷並べ：100 | |
| | | 裏込栗石 | m3 | かき込み：31<br>築 立 て：10 | |
| | 排水構造物工 | ヒューム管（Ｂ形管） | m | Ⅰ-14-①による | ・ヒューム管（Ｂ型管），ボックスカルバート，暗渠排水管，フィルター材，管（函）渠型側溝（製品長 2m/個），プレキャスト集水枡，鉄筋コンクリート台付管，プレキャストＬ型側溝（製品長 0.6m/個），プレキャストマンホール，ＰＣ管，コルゲートパイプ，コルゲートフリュームに係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | ボックスカルバート | m | Ⅰ-14-①による | |
| | | 暗渠排水管 | m | Ⅰ-14-①による | |
| | | フィルター材 | m3 | 36 | |
| | | 管（函）渠型側溝<br>（製品長 2m/個） | m | Ⅰ-14-①による | |
| | | プレキャスト集水桝 | 基 | Ⅰ-14-①による | |
| | | プレキャスト集水桝<br>（材料費） | 基 | － | |
| | | 鉄筋コンクリート台付管 | m | Ⅰ-14-①による | |

| 編・章 | 工種 | 施工パッケージ | 単位 | 作業日当り<br>標準作業量 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第2章<br>共通工 | 排水構造物工 | プレキャストL型側溝<br>（製品長0.6m/個） | m | L型側溝単体：33<br>L型側溝＋<br>基礎砕石：29 | |
| | | プレキャストマンホール | 基 | 2,000kg/基以下：4<br>2,000kg/基を超え<br>4,000kg/基以下：3 | |
| | | ＰＣ管 | m | Ⅰ-14-①による | |
| | | コルゲートパイプ | m | Ⅰ-14-①による | |
| | | コルゲートフリューム | m | Ⅰ-14-①による | |
| | 構造物とりこわし工 | 石積取壊し（人力） | m2 | Ⅰ-14-①による | ・石積取壊し（人力），コンクリートはつり，積込（コンクリート殻）に係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | コンクリートはつり | m2 | 3cm以下：21<br>3cmを超え<br>6cm以下：13 | |
| | | 積込（コンクリート殻） | m3 | 260 | |
| | 殻運搬 | 殻運搬 | m3 | Ⅰ-14-①による | |
| 第3章<br>基礎工 | コンクリート工（深礎工） | コンクリート打設（深礎工） | m3 | Ⅰ-14-①による | |
| 第4章<br>コンクリート工 | コンクリート工 | コンクリート | m3 | Ⅰ-14-①による | ・コンクリート，モルタル練に係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | モルタル練 | m3 | Ⅰ-14-①による | |
| | 型枠工 | 型枠 | m2 | Ⅰ-14-①による | ・型枠，化粧型枠に係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | 化粧型枠 | m2 | － | |
| | | 化粧型枠（材料費） | m2 | － | |
| | | 撤去しない埋設型枠<br>（材料費） | m2 | － | |
| 第Ⅲ編<br>河川<br>第2章<br>河川維持工 | 堤防除草工 | 除草 | m2 | Ⅰ-14-①による | ・除草，集草，梱包，積込・荷卸，運搬（堤防除草），除草，集草（人力），梱包，積込・荷卸（総合），除草，集草（機械），梱包，積込・荷卸（総合）に係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | 集草 | m2 | Ⅰ-14-①による | |
| | | 梱包 | m2 | 12,500 | |
| | | 積込・荷卸 | m2 | Ⅰ-14-①による | |
| | | 運搬（堤防除草） | m2 | Ⅰ-14-①による | |
| | | 除草，集草（人力），梱包，積込・荷卸（総合） | m2 | Ⅰ-14-①による | |
| | | 除草，集草（機械），梱包，積込・荷卸（総合） | m2 | Ⅰ-14-①による | |
| | 堤防天端補修工 | 不陸整正・締固め | m2 | 不陸整正・補修材敷均し・締固め：690<br>不陸整正・締固め<br>：1,340 | |
| | 堤防芝養生工 | 抜根 | m2 | Ⅰ-14-①による | ・抜根，施肥に係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | 施肥 | m2 | 13,600 | |

| 編・章 | 工種 | 施工パッケージ | 単位 | 作業日当り<br>標準作業量 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第Ⅲ編<br>河川<br>第２章<br>河川維持工 | 伐木除根工 | 伐木・伐竹（伐木除根） | m2 | Ⅰ-14-①による | ・伐木・伐竹（伐木除根），除根（伐木除根），整地（伐木除根），集積（人力施工）（伐木除根），積込（人力施工）（伐木除根），運搬（伐木除根），伐木・伐竹（複合）に係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | 除根（伐木除根） | m2 | 1,160 | |
| | | 整地（伐木除根） | m2 | 880 | |
| | | 集積積込み（機械施工）（伐木除根） | m2 | 除根有：720<br>除根無：940 | |
| | | 集積（人力施工）（伐木除根） | m2 | 1,180 | |
| 第２章<br>河川維持工 | 伐木除根工 | 積込（人力施工）（伐木除根） | m2 | 21,300 | |
| | | 運搬（伐木除根） | m2 | Ⅰ-14-①による | |
| | | 伐木・伐竹（複合） | m2 | Ⅰ-14-①による | |
| | 塵芥処理工 | 散在塵芥収集 | m2 | Ⅰ-14-①による | ・散在塵芥収集，堆積塵芥収集（機械処理），堆積塵芥収集（人力処理）に係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | 堆積塵芥収集（機械処理） | m3 | Ⅰ-14-①による | |
| | | 堆積塵芥収集（人力処理） | m3 | Ⅰ-14-①による | |
| | 機械土工<br>（河床等掘削） | 河床等掘削 | m3 | 147 | |
| | | 軟弱土等運搬 | m3 | Ⅰ-14-①による | |
| | 巨石積（張）工 | 巨石張（練） | m2 | 25 | ・巨石張（練），巨石張（空），巨石積（練）に係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | 巨石張（空） | m2 | 27 | |
| | | 巨石積（練） | m2 | 30 | |
| | | 巨石（材料費） | m2 | － | |
| | | 巨石採取 | 個 | 38 | |
| | 木杭打工 | 木杭打 | 本 | 58 | |
| | 護岸基礎ブロック工 | プレキャスト基礎 | m | Ⅰ-14-①による | ・プレキャスト基礎，中詰コンクリート打設に係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | プレキャスト基礎（材料費） | m | － | |
| | | 中詰コンクリート（材料費） | m | － | |
| | | 中詰コンクリート打設 | m3 | 17 | |
| | かごマット工<br>（スロープ型） | かごマット設置（スロープ型） | m2 | Ⅰ-14-①による | |
| | 野芝種子吹付工 | 野芝種子吹付 | m2 | 1,429 | ・野芝種子吹付，被覆シート張，養生（散水養生）に係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | 被覆シート張 | m2 | 1,429 | |
| | | 養生（散水養生） | m2 | 1,667 | |
| | 袋詰玉石工 | 袋詰玉石 | 袋 | Ⅰ-14-①による | |
| | 笠コンクリートブロック据付工 | 笠コンクリートブロック | m | Ⅰ-14-①による | |
| | | 笠コンクリートブロック（材料費） | m | － | |
| | グラウトホール工 | グラウトホール | 組 | 5 | |
| | | グラウト管（材料費） | 組 | － | |

| 編・章 | 工種 | 施工パッケージ | 単位 | 作業日当り<br>標準作業量 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第2章<br>河川維持工 | 光ケーブル配管工 | 掘削（光ケーブル配管） | m3 | 28 | ・配管設置（埋設部），配管設置（露出部），ハンドホールに係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | 埋戻し・締固め | m3 | 13 | |
| | | 敷砂，保護砂（材料費） | m3 | － | |
| | | 配管設置（埋設部） | m | 96 | |
| | | 配管設置（露出部） | m | 121 | |
| | | 配管支持金具（材料費） | 個 | － | |
| | | プルボックス（材料費） | 個 | － | |
| | | 可とう電線管（材料費） | m | － | |
| | | 伸縮継手（材料費） | 個 | － | |
| | | ノーマルベンド<br>（材料費） | 個 | － | |
| | | ハンドホール | 個 | 1 | |
| 第Ⅳ編<br>道路<br>第1章<br>舗装工 | 路盤工 | 不陸整正 | m2 | 1,510 | ・不陸整正，下層路盤（車道・路肩部），上層路盤（車道・路肩部）（条件区分で，材料が「粒度調整砕石」に限る。）に係る作業を一連の作業として判定する。<br>※上層路盤（車道・路肩部）（条件区分で，材料が「瀝青安定処理」に限る。）については，アスファルト舗装工の適用による。 |
| | | 下層路盤<br>（車道・路肩部） | m2 | 940 | |
| | | 上層路盤<br>（車道・路肩部） | m2 | Ⅰ-14-①による | |
| | | 下層路盤（歩道部） | m2 | 268 | ・下層路盤（歩道部），上層路盤（歩道部）に係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | 上層路盤（歩道部） | m2 | 268 | |
| | アスファルト舗装工 | 基層<br>（車道・路肩部） | m2 | Ⅰ-14-①による | ・上層路盤（車道・路肩部）（条件区分で，材料が「瀝青安定処理」に限る。），基層（車道・路肩部），中間層（車道・路肩部），表層（車道・路肩部）に係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | 中間層<br>（車道・路肩部） | m2 | Ⅰ-14-①による | |
| | | 表層<br>（車道・路肩部） | m2 | Ⅰ-14-①による | |
| | | 基層（歩道部） | m2 | Ⅰ-14-①による | ・基層（歩道部），中間層（歩道部），表層（歩道部）に係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | 中間層（歩道部） | m2 | Ⅰ-14-①による | |
| | | 表層（歩道部） | m2 | Ⅰ-14-①による | |
| | | アスカーブ | m | 260 | |
| 第2章<br>付属施設 | 立入り防止柵工 | 基礎ブロックク，鋼管基礎 | 基 | Ⅰ-14-①による | ・基礎ブロック，鋼管基礎，金網・支柱（立入防止柵），支柱（立入防止柵），門扉に係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | 金網・支柱（立入防止柵） | m | Ⅰ-14-①による | |
| | | 金網・支柱（立入防止柵）<br>（材料費） | m | － | |
| | | 支柱（立入防止柵） | 本 | Ⅰ-14-①による | |
| | | 支柱（立入防止柵）<br>（材料費） | 本 | － | |
| | | 門扉 | 基 | Ⅰ-14-①による | |
| | | 門扉（材料費） | 基 | － | |

| 編・章 | 工種 | 施工パッケージ | 単位 | 作業日当り<br>標準作業量 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第2章<br>付属<br>施設 | 車止めポスト<br>設置工 | 車止めポスト | 本 | 5 | |
| | 道路付属物<br>設置工 | 距離標 | 枚 | Ⅰ-14-①による | |
| 第3章<br>道路<br>維持<br>修繕工 | 路面切削工 | 路面切削 | m2 | Ⅰ-14-①による | |
| | | 殻運搬（路面切削） | m3 | Ⅰ-14-①による | |
| | 舗装版破砕工 | 舗装版破砕 | m2 | Ⅰ-14-①による | |
| | 舗装版切断工 | 舗装版切断 | m | Ⅰ-14-①による | |
| | 舗装版クラック<br>補修工 | クラック補修 | m | 620 | ・クラック補修，クラック防止シート張に係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | 注入材（材料費） | m | － | |
| | | クラック防止<br>シート張 | m | 930 | |
| | | クラック防止<br>シート（材料費） | m | － | |
| | 道路付属<br>構造物塗替工 | 素地調整 | m2 | Ⅰ-14-①による | ・素地調整，付属構造物塗替に係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | 付属構造物塗替 | m2 | ポール類　：89<br>防護柵類・<br>落石防止柵類：<br>121 | |
| | 張紙防止塗装工 | 張紙防止塗装 | m2 | ケレン作業：14<br>張紙防止塗装<br>（1層当り）：32 | |
| | | 張紙防止塗装<br>（材料費） | m2 | － | |
| | 橋梁地覆補修工 | とりこわし | m3 | 1.4 | |
| | | 鉄筋 | t | 0.36 | |
| | | コンクリート | m3 | 0.76 | |
| | 橋梁補修工<br>(現場溶接鋼桁補強工) | 現場溶接鋼桁補強 | m | 14 | |
| | 落橋防止装置工 | コンクリート削孔<br>（電動式コアボーリングマシン） | 孔 | Ⅰ-14-①による | ・コンクリート削孔（電動式コアボーリングマシン）又は（電動ハンマドリル）もしくは（さく岩機［ハンドドリル空圧式］），アンカー，充填補修に係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | コンクリート削孔<br>（電動ハンマドリル） | 孔 | 84 | |
| | | コンクリート削孔<br>（さく岩機[ハンドドリル空圧式]） | 孔 | 200超え<br>500以下：48<br>500超え<br>800以下：38 | |
| | | アンカー | 本 | Ⅰ-14-①による | |
| | | アンカー材（材料費） | 本 | － | |
| | | 注入材（材料費） | 本 | － | |
| | | 充填補修 | 孔 | 92 | |
| | | 補修材（材料費） | 孔 | － | |

| 編・章 | 工種 | 施工パッケージ | 単位 | 作業日当り標準作業量 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第3章 道路維持修繕工 | 道路除草工 | 除草 | m2 | Ⅰ-14-①による | ・除草，集草，積込運搬，機械除草（肩掛式）・集草・積込運搬，機械除草（肩掛式）・集草，機械除草（ハンドガイド式）・集草・積込運搬，機械除草（ハンドガイド式）・集草に係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | 集草 | m2 | 2,760 | |
| | | 積込運搬 | m2 | Ⅰ-14-①による | |
| | | 機械除草（肩掛式）・集草・積込運搬 | m2 | Ⅰ-14-①による | |
| | | 機械除草（肩掛式）・集草 | m2 | 1，240 | |
| | | 機械除草（ハンドガイド式）・集草・積込運搬 | m2 | Ⅰ-14-①による | |
| | | 機械除草（ハンドガイド式）・集草 | m2 | 1，902 | |
| | 路面清掃工（人力清掃工） | 路面清掃（路肩部・人力） | km | Ⅰ-14-①による | ・路面清掃（路肩部・人力），路面清掃（歩道部・人力）に係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | 路面清掃（歩道部・人力） | m2 | Ⅰ-14-①による | |
| | 視線誘導標清掃工 | 視線誘導標清掃 | 本 | 支柱付：189<br>ガードレール用及び頭部のみ：286 | |
| 第3章 道路維持修繕工 | 側溝清掃工（人力清掃工） | 側溝清掃（人力清掃工） | m | Ⅰ-14-①による | |
| | 集水桝清掃工（人力清掃工） | 桝清掃（人力清掃工） | 箇所 | Ⅰ-14-①による | |
| | トンネル漏水対策工 | 面導水 | m2 | 34 | ・面導水，線導水に係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | 面導水（材料費） | m2 | － | |
| | | 線導水 | m | 10 | |
| | | 線導水（材料費） | m | － | |
| | 沓座拡幅工 | チッピング（厚2cm以下） | m2 | 5.3 | ・チッピング（厚2cm以下），アンカー筋挿入，及び落橋防止装置工のうちコンクリート削孔（電動式コアボーリングマシン），コンクリート削孔（電動ハンマドリル），コンクリート削孔（さく岩機［ハンドドリル空圧式］），充填補修，アンカーに係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | アンカー筋挿入 | 本 | 97 | |
| | | アンカー筋（材料費） | 本 | － | |
| | | 注入材（材料費） | 本 | － | |
| | | 鉄筋（沓座拡幅工） | t | 0.73 | |
| | | 型枠（沓座拡幅工） | m2 | 15 | |
| | | コンクリート（沓座拡幅工） | m3 | 7.1 | |

| 編・章 | 工種 | 施工パッケージ | 単位 | 作業日当り標準作業量 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第3章 道路維持修繕工 | 桁連結工 | 桁連結装置（材料費） | t | - | ・芯出し素地調整，現場孔明，連結板取付，現場溶接，ボルト締めに係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | 芯出し素地調整 | m2 | 10 | |
| | | 現場孔明 | 本 | 10本以上/箇所：80<br>作業性の悪い箇所等：40 | |
| | | 連結板取付 | 箇所 | 10 | |
| | | 現場溶接 | m | 5.6 | |
| | | ボルト締め | 本 | 10本以上/箇所：200<br>作業性の悪い箇所等：100 | |
| | 路肩整正（人力による土はね） | 路肩整正（人力による土はね） | m2 | 37 | |
| | 防護柵復旧工 | ガードレール復旧 | m | コンクリート，土中<br>建込用支柱及びレール：3.6<br>レールのみ：5.0 | ・ガードレール復旧，ガードパイプ復旧に係る作業を一連の作業として判定する。 |
| | | ガードパイプ復旧 | m | コンクリート，土中<br>建込用支柱及びパイプ：4.9<br>パイプのみ：6.8 | |

## 3. 判 定 方 法

1日未満で完了する作業の判定は，次の方法によるものとする。

（1）施工パッケージが１つ，かつ条件区分が１つの場合の判定方法

x/D ＜ 1 の場合に1日未満で完了する作業とする。

x：作業量

D：作業日当り標準作業量

（2）複数の施工パッケージもしくは条件区分を一連の作業として判定する場合の判定方法

Σ（xi/Di）＜ 1 の場合に1日未満で完了する作業とする。

xi：各施工パッケージにおける各条件区分の作業量

Di：各施工パッケージにおける各条件区分の作業日当り標準作業量

（3）判定に使用する作業量の考え方

・判定に使用する作業量は，施工パッケージ毎の作業量とする。ただし，表の摘要欄に，関連する施工パッケージを一連の作業として判定する旨の記載があるものについては，摘要欄の記載によるものとする。
・一つの施工パッケージで異なる条件区分の作業量がある場合には，一連の作業として判定する。
・判定に使用する作業量は，１箇所当りの作業量とする。
・施工箇所の点在範囲が１km程度を超えるなど，同一施工箇所として取り扱えないと判断する場合には，別箇所として扱うものとする。
・上記以外は，１工事の全作業量を１箇所当りの作業量とする。
・日々の作業量が受注者の責によらず制約される場合，その他の現場条件等により，上記により難い場合は，別途考慮出来るものとする。

## 4. 積 算 方 法

1日未満で完了する作業の積算は，以下の方法によるものとする。

（1）施工パッケージが１つ，かつ条件区分が１つの場合の積算方法

1）x/D ＜ 1/2 の場合

機械費及び労務費は，作業量にかかわらず，作業日当り標準作業量の1/2の量を実施した場合の金額を計上する。材料費は，作業量分の金額を計上する。

2）1/2 ≦ x/D ＜ 1 の場合

機械費及び労務費は，作業量にかかわらず，作業日当り標準作業量を実施した場合の金額を計上する。材料費は，作業量分の金額を計上する。

（2）複数の施工パッケージもしくは条件区分を一連の作業として判定する場合の積算方法

α×Σ（xi/Di）＝ 1 となる α を計算し，α×xi をそれぞれの施工パッケージや条件区分の修正作業日当り標準作業量D’iとする。

1）Σ（xi/Di）＜ 1/2 の場合

機械費及び労務費は，作業量にかかわらず，それぞれの施工パッケージや条件区分において，修正作業日当り標準作業量 D’i の 1/2 の量を実施した場合の金額を計上する。材料費は，それぞれの施工パッケージや条件区分の作業量分の金額を計上する。

2）1/2 ≦Σ（xi/Di）＜ 1 の場合

機械費及び労務費は，作業量にかかわらず，それぞれの施工パッケージや条件区分において，修正作業日当り標準作業量 D’i を実施した場合の金額を計上する。材料費は，それぞれの施工パッケージや条件区分の作業量分の金額を計上する。

（3）端数処理

1）作業日当り標準作業量Dの1/2の量は，整数とし，小数第１位を四捨五入する。ただし，作業日当り標準作業量Dが小数である場合は，四捨五入により，同じ桁数となるようにする。

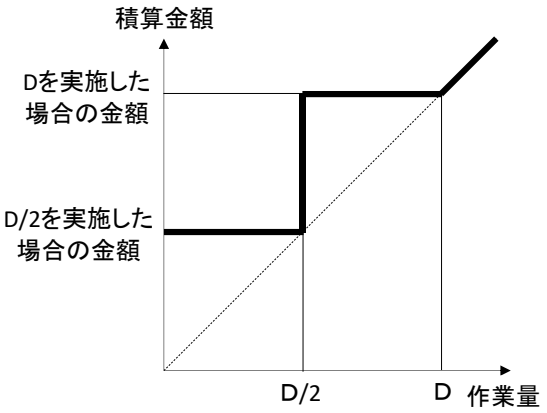
2）αは，小数第２位までとし，小数第３位を四捨五入する。

3）修正作業日当り標準作業量 D’i は，整数とし，小数第１位を四捨五入する。ただし，各施工パッケージにおける各条件区分の作業日当り標準作業量 Di が小数である場合は，四捨五入により，同じ桁数となるようにする。

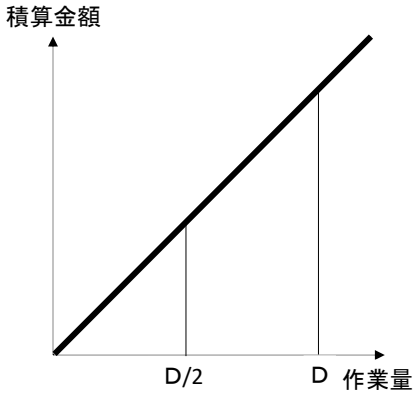
4）D’i の 1/2 の量は，D’i を計算した上で，１）と同様とする。

## 5. 参 考 資 料

### ５－１　機械費・労務費及び材料費の積算金額のイメージ




機械費・労務費の積算金額




材料費の積算金額

### ５－２　計算例

（1）施工パッケージが１つ，かつ条件区分が１つの場合

| | 単位 | 設計数量 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|---|
| 施工パッケージ１ | m | x1=200 | D1=800 |

1）判定

x1/D1 ＝ 200/800 ＝ 0.25 ＜ 1

従って，この場合は，x/D ＜ 1 なので，作業量が１日未満で完了する数量の作業に該当する。

2）積算

x1/D1 ＜ 1/2 より

施工パッケージ１：機械費及び労務費は，D1/2 ＝ 400 m分の金額を計上する。

材料費は，x1 ＝ 200 m分の金額を計上する。

（2）複数の施工パッケージもしくは条件区分を一連の作業として判定する場合

| | 単位 | 設計数量 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|---|
| 施工パッケージ１ | m | x1=200 | D1=800 |
| 施工パッケージ２ | m2 | x2=100 | D2=300 |
| 施工パッケージ３ | m3 | x3= 5 | D3= 50 |

１）判定

Σ（xi/Di）＝ x1/D1 ＋ x2/D2 ＋ x3/D3 ＝ 200/800 ＋ 100/300 ＋ 5/50 ＝ 0.68 ＜ 1

従って，この場合は，Σ（xi/Di）＜1 なので，作業量が１日未満で完了する数量の作業に該当する。

２）積算

α×Σ（xi/Di）＝ α×（ 200/800 ＋ 100/300 ＋ 5/50 ）＝ 1 となるαを計算する。

α＝1.463･･･＝1.46

修正作業日当り標準作業量

施工パッケージ１ D’1 ＝ α×x1 ＝ 1.46 × 200 ＝ 292

施工パッケージ２ D’2 ＝ α×x2 ＝ 1.46 × 100 ＝ 146

施工パッケージ３ D’3 ＝ α×x3 ＝ 1.46 × 5 ＝ 7.3 ＝ 7

1/2 ≦ Σ（xi/Di）＝0.68＜ 1 より

施工パッケージ１：機械費及び労務費は，D’1 ＝ 292 m分の金額を計上する。
材料費は，x1 ＝ 200 m 分の金額を計上する。

施工パッケージ２：機械費及び労務費は，D’2 ＝ 146 m2 分の金額を計上する。
材料費は，x2 ＝ 100 m2 分の金額を計上する。

施工パッケージ３：機械費及び労務費は，D’3 ＝ 7 m3 分の金額を計上する。
材料費は，x3 ＝ 5 m3 分の金額を計上する。

# 第13章　設計変更

1　一般事項‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-13-①- 1
2　設計変更における材料単価の取扱いについて
‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-13-①- 1
3　設計変更の計算例‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-13-①- 1

令和元年度建設工事積算基準

# 第 13 章　設計変更

## 1　一般事項

（1）変更設計で数量の増減等により主たる工種が変わっても当初設計の工種とする。

（2）設計変更時における率計算部分の共通仮設費，現場管理費及び一般管理費等の算出は，設計変更時の当該対象額に相応する率を乗じて算出するものとする。ただし，一般管理費等に計上する契約保証費は，請負額の増減による変更は行わない。

（3）設計変更時における共通仮設費率の補正及び現場管理費率の補正については，工事区間の延長，工期の延長等により当初計上した補正値に増減が生じた場合，あるいは当初計上していなかったが，上記条件の変更により補正できることとなった場合は，設計変更の対象として処理するものとする。

## 2　設計変更における材料単価及び歩掛の取扱いについて

（1）工事増量の場合は，新単価（変更指示時点単価）により積算するものとする。
ただし，現地の取合等の都合により増量する場合は，旧単価（当初設計時点単価）により積算するものとする。

（2）工事減量の場合は，その減量分に対する設計単価により積算するものとする。

（3）当初契約工種において，当初契約材料の規格・寸法のみが変更となった場合は旧単価（当初設計時点単価）で積算する。

（4）新単価（変更指示時点単価）とした場合は，材料単価，労務単価，機械損料及び歩掛の全てを新単価（変更指示時点単価）により積算するものとする。また，歩掛は新歩掛（変更指示時点歩掛）により積算するものとする。

## 3　設計変更の計算例

請負工事の設計変更は，県積算により次の方法で行うものとする。

・設計額
設計変更の際，元設計及び変更設計の種別，細別等の金額は全て県積算額とする。

・変更設計の要領
設計変更の積算は，次の方法により行う。

第１回変更設計額

$$\text{工事価格（落札率を乗じた価格）}=\frac{\text{請負価格}}{\text{当初設計価格}}\times\text{第１回変更工事価格}$$

第１回変更設計額＝工事価格（落札率を乗じた価格）×（１＋消費税等率）

第２回変更設計額

$$\text{工事価格（落札率を乗じた価格）}=\frac{\text{第１回変更請負価格}}{\text{第１回変更設計価格}}\times\text{第２回変更工事価格}$$

第２回変更設計額＝工事価格（落札率を乗じた価格）×（１＋消費税等率）

第３回変更設計額

$$\text{工事価格（落札率を乗じた価格）}=\frac{\text{第２回変更請負価格}}{\text{第２回変更設計価格}}\times\text{第３回変更工事価格}$$

第３回変更設計額＝工事価格（落札率を乗じた価格）×（１＋消費税等率）

（例）当初設計価格 100，000 千円　　請負額 98，000 千円
第１回変更県積算工事価格 115，000 千円

工事価格（落札率を乗じた価格）＝$\frac{98,000}{100,000}$ ×115，000＝112，700 千円

第１回変更設計額＝112，700×（１＋0.08）＝121，716 千円

第２回変更工事価格 105，000 千円　　第１回変更請負価格 112，700 千円

工事価格（落札率を乗じた価格）＝$\frac{112,700}{115,000}$ ×105，000＝102，900 千円

第２回変更設計額＝102，900×（１＋0.08）＝111，132 千円

第３回変更工事価格 110，000 千円　　第２回変更請負価格 102，900 千円

工事価格（落札率を乗じた価格）＝$\frac{102,900}{105,000}$ ×110，000＝107，800 千円

第３回変更設計額＝107，800×（１＋0.08）＝116，424 千円

（注）１）請負価格，工事価格は消費税相当額は含まない。
２）工事価格（落札率を乗じた価格）は，千円単位とし，千円未満は切り捨てる。

# 第14章　その他

① 作業日当り標準作業量‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-14-①- 1
② 市場単価の１日当り標準施工量‥‥‥ Ⅰ-14-②- 1
③ 工期日数及び水替日数‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅰ-14-③- 1

令和元年度建設工事積算基準

# 第 14 章　その他

## ① 作業日当り標準作業量

### 1. 適　　用

本章に掲載した作業日当り標準作業量は，施工パッケージ型積算基準及び標準歩掛に沿った条件，工法での設定であり，工程，作業日数等の検討のための参考として，とりまとめたものである。

設定した作業量は，あくまでも標準施工の場合であるので，当該工事の施工条件，施工方法，制約条件等十分考慮し，適用の可否を検討の上，使用されたい。

### 2. 作業日当り標準作業量

1 【共通編】


1- 1　現場発生品及び支給品運搬 ･･･ Ⅰ-14-①- 5
1- 2　土工 ･･･ Ⅰ-14-①- 6
1- 3　土工（ＩＣＴ） ･･･ Ⅰ-14-①-15
1- 4　床堀工 ･･･ Ⅰ-14-①-16
1- 5　埋戻工 ･･･ Ⅰ-14-①-17
1- 6　人力運搬工 ･･･ Ⅰ-14-①-17
1- 7　安定処理工 ･･･ Ⅰ-14-①-20
1- 8　安定処理工（自走式土質改良工） ･･･ Ⅰ-14-①-20
1- 9　土砂運搬工（不整地運搬車による運搬） ･･･ Ⅰ-14-①-20
1-10　法面整形工 ･･･ Ⅰ-14-①-20
1-11　法面整形工（ＩＣＴ） ･･･ Ⅰ-14-①-20
1-12　芝付工 ･･･ Ⅰ-14-①-21
1-13　コンクリート法枠工 ･･･ Ⅰ-14-①-21
1-14　法面施肥工 ･･･ Ⅰ-14-①-21
1-15　吹付法面とりこわし工 ･･･ Ⅰ-14-①-21
1-16　プレキャストコンクリート板設置工 ･･･ Ⅰ-14-①-22
1-17　人工張芝工 ･･･ Ⅰ-14-①-22
1-18　基礎・裏込砕石工，基礎・裏込栗石工 ･･･ Ⅰ-14-①-22
1-19　コンクリートブロック積（張）工 ･･･ Ⅰ-14-①-23
1-20　石積（張）工 ･･･ Ⅰ-14-①-24
1-21　平石張工 ･･･ Ⅰ-14-①-24
1-22　場所打擁壁工（１） ･･･ Ⅰ-14-①-25
1-23　場所打擁壁工（２） ･･･ Ⅰ-14-①-25
1-24　プレキャスト擁壁工 ･･･ Ⅰ-14-①-25
1-25　補強土壁工（帯鋼補強土壁，アンカー補強土壁） ･･･ Ⅰ-14-①-26
1-26　ジオテキスタイル工 ･･･ Ⅰ-14-①-26
1-27　構造物補修工（ひび割れ補修工（充てん工法)) ･･･ Ⅰ-14-①-27
1-28　構造物補修工（ひび割れ補修工（低圧注入工法)) ･･･ Ⅰ-14-①-27
1-29　構造物補修工（断面修復工（左官工法)) ･･･ Ⅰ-14-①-27
1-30　排水構造物工 ･･･ Ⅰ-14-①-28
1-31　排水構造物工（管（函）渠型側溝・溶接金網及び埋設鋼板型枠) ･･･ Ⅰ-14-①-32
1-32　排水構造物工（現場打ち水路（本体)) ･･･ Ⅰ-14-①-33
1-33　排水構造物工（現場打ち集水桝・街渠桝(本体)) ･･･ Ⅰ-14-①-34
1-34　サンドマット工 ･･･ Ⅰ-14-①-35
1-35　粉体噴射撹拌工（ＤＪＭ工法） ･･･ Ⅰ-14-①-35
1-36　スラリー撹拌工 ･･･ Ⅰ-14-①-35
1-37　高圧噴射攪拌工 ･･･ Ⅰ-14-①-36
1-38　ペーパードレーン工 ･･･ Ⅰ-14-①-36
1-39　中層混合処理工 ･･･ Ⅰ-14-①-36
1-40　薬液注入工 ･･･ Ⅰ-14-①-37
1-41　アンカー工（ロータリーパーカッション式) ･･･ Ⅰ-14-①-38
1-42　構造物とりこわし工 ･･･ Ⅰ-14-①-41
1-43　コンクリート削孔工 ･･･ Ⅰ-14-①-42
1-44　ガス切断工 ･･･ Ⅰ-14-①-43
1-45　吸出し防止材設置工 ･･･ Ⅰ-14-①-43
1-46　目地・止水板設置工 ･･･ Ⅰ-14-①-43
1-47　旧橋撤去工 ･･･ Ⅰ-14-①-43
1-48　かご工 ･･･ Ⅰ-14-①-45
1-49　発泡スチロールを用いた超軽量盛土工 ･･･ Ⅰ-14-①-46
1-50　現場取卸費 ･･･ Ⅰ-14-①-46
1-51　骨材再生工（自走式） ･･･ Ⅰ-14-①-46
1-52　函渠工（１） ･･･ Ⅰ-14-①-47
1-53　函渠工（２） ･･･ Ⅰ-14-①-47
1-54　函渠工（３）大型プレキャストボックスカルバート工 ･･･ Ⅰ-14-①-47
1-55　殻運搬 ･･･ Ⅰ-14-①-48
1-56　鋼管・既製コンクリート杭打工（パイルハンマ工） ･･･ Ⅰ-14-①-54
1-57　鋼管・既製コンクリート杭打工

（中堀工）・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-54
1-58　鋼管・既製コンクリート杭打工
（回転杭工）・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-54
1-59　鋼管ソイルセメント杭工・・・・・Ⅰ-14-①-54
1-60　場所打杭工（オールケーシング工・
全回転式オールケーシング工）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-54
1-61　場所打杭工（リバース
サーキュレーション工）・・・・・・Ⅰ-14-①-54
1-62　場所打杭工（アースオーガ工，
硬質地盤用アースオーガ工）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-54
1-63　場所打杭工（大口径ボーリングマシン工）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-54
1-64　場所打杭工（ダウンザホールハンマ工）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-54
1-65　深礎工・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-55
1-66　コンクリート工（深礎工）・・・Ⅰ-14-①-55
1-67　ニューマチックケーソン工・・・Ⅰ-14-①-55
1-68　基礎工（鋼管矢板基礎工）・・・Ⅰ-14-①-56
1-69　ドロップハンマ杭打工・・・・・・・Ⅰ-14-①-57
1-70　木杭及び矢板打工（人力，ドロップハンマ
工）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-57
1-71　既設コンクリート杭カットオフ工
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-57
1-72　泥水運搬工・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-58
1-73　コンクリート工・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-58
1-74　型枠工・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-58
1-75　型枠工（省力化構造）・・・・・・・Ⅰ-14-①-58
1-76　溶接金網設置工・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-59
1-77　張りコンクリート工・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-59
1-78　バイブロハンマ工・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-59
1-79　バイブロハンマ工（軽量鋼矢板打込引抜
工）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-59
1-80　油圧圧入引抜工・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-59
1-81　矢板工（アースオーガ併用圧入工）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-59
1-82　矢板工（クレーン引抜工）・・・Ⅰ-14-①-59
1-83　矢板工（H形鋼）・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-59
1-84　仮設材設置撤去工・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-60
1-85　足場工・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-60
1-86　支保工・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-61
1-87　締切排水工・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-61
1-88　ウエルポイント工・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-61
1-89　土のう工・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-61
1-90　大型土のう工・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-61
1-91　仮橋・仮桟橋工・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-62
1-92　汚濁防止フェンス工・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-62
1-93　仮囲い設置撤去工・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-62
1-94　雪寒仮囲い工・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-62
1-95　切土及び発破防護柵工・・・・・・・Ⅰ-14-①-62
1-96　濁水処理工（一般土木工事）・Ⅰ-14-①-63
1-97　敷鉄板設置・撤去工・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-63
1-98　防塵処理工・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-63
1-99　法面工（仮設用モルタル吹付工）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-63

2　【河川編】
Ⅰ-142①154消波根固めブロック工・・・・・・Ⅰ-14-①-64
2-2　消波根固めブロック工（ブロック撤去工）
（0.25ｔ以上35.5ｔ以下）・・・・・Ⅰ-14-①-73
2-3　捨石工・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-73
2-4　消波工・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-74
2-5　浚渫工（ポンプ式浚渫船）・・・Ⅰ-14-①-74
2-6　浚渫工（バックホウ浚渫船）・Ⅰ-14-①-74
2-7　軟弱地盤上における柔構造樋門・樋管工
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-74
2-8　堤防除草工・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-75
2-9　堤防天端補修工・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-79
2-10　堤防芝養生工・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-80
2-11　伐木除根工・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-80
2-12　塵芥処理工・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-84
2-13　ボーリンググラウト工・・・・・・・Ⅰ-14-①-88
2-14　粗朶沈床工・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-89
2-15　機械土工（河床等掘削）・・・・・Ⅰ-14-①-89
2-16　巨石積（張）工・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-90
2-17　木杭打工・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-90
2-18　巨石据付工・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-90
2-19　護岸基礎ブロック工・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-91
2-20　かごマット工（スロープ型）・Ⅰ-14-①-92
2-21　かごマット工（多段積型）・・・Ⅰ-14-①-92
2-22　ブロックマット工・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-92
2-23　野芝種子吹付工・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-92
2-24　袋詰玉石工・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-92
2-25　笠コンクリートブロック据付工
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-93
2-26　グラウトホール工・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-93
2-27　連節ブロックの水中吊落し工
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-93
2-28　光ケーブル配管工・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-94
2-29　土工（砂防工）・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-94
2-30　土工（バックホウ床掘山積0.45m3
（平積0.35m3））・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-96
2-31　コンクリート工（砂防工）・・・Ⅰ-14-①-97
2-32　コンクリート工（ケーブルクレーン打設）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-97
2-33　砂防コンクリート生産
（ミキサによる混合）工・・・・・Ⅰ-14-①-97
2-34　残存型枠工・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-97
2-35　仮設備工・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-14-①-98

2-36 仮設備工（ケーブルクレーン付属設備）
…… Ⅰ-14-①-99
2-37 養生工（練炭） …… Ⅰ-14-①-99
2-38 石材等採取工（割石，雑割石，野面石採取） …… Ⅰ-14-①-99
2-39 ケーブルクレーンによる資材等の運搬
…… Ⅰ-14-①-99
2-40 銘板工 …… Ⅰ-14-①-100
2-41 砂防土砂仮締切・砂防土砂土のう仮締切
…… Ⅰ-14-①-100
2-42 砂防コンクリート締切 …… Ⅰ-14-①-100
2-43 鋼製砂防工 …… Ⅰ-14-①-100
2-44 砂防ソイルセメント工 …… Ⅰ-14-①-100
2-45 集水井工（ライナープレート土留工法）
…… Ⅰ-14-①-101
2-46 集水井工（プレキャスト土留工法）
…… Ⅰ-14-①-101
2-47 地すべり防止工（集排水ボーリング工）
…… Ⅰ-14-①-101
2-48 地すべり防止工（山腹水路工）
…… Ⅰ-14-①-102
2-49 地すべり防止工（かご工） … Ⅰ-14-①-102
2-50 集排水ボーリング孔洗浄工 … Ⅰ-14-①-102

3 【道路編】
3- 1 路盤工 …… Ⅰ-14-①-103
3- 2 路盤工（ＩＣＴ） …… Ⅰ-14-①-103
3- 3 アスファルト舗装工 …… Ⅰ-14-①-104
3- 4 半たわみ性（コンポジット）舗装工
…… Ⅰ-14-①-104
3- 5 排水性アスファルト舗装工 … Ⅰ-14-①-104
3- 6 透水性樹脂コンクリート工 … Ⅰ-14-①-104
3- 7 透水性アスファルト舗装工 … Ⅰ-14-①-104
3- 8 グースアスファルト舗装工 … Ⅰ-14-①-105
3- 9 コンクリート舗装工 …… Ⅰ-14-①-105
3-10 ローラ転圧コンクリート舗装工
（ＲＣＣＰ工） …… Ⅰ-14-①-105
3-11 連続鉄筋コンクリート舗装工
…… Ⅰ-14-①-105
3-12 踏掛版 …… Ⅰ-14-①-105
3-13 ガードケーブル設置工 …… Ⅰ-14-①-106
3-14 落石防止網（繊維網）設置工
…… Ⅰ-14-①-106
3-15 立入り防止柵工 …… Ⅰ-14-①-106
3-16 車止めポスト設置工 …… Ⅰ-14-①-107
3-17 防雪柵設置及び撤去工 …… Ⅰ-14-①-107
3-18 防雪柵現地張出し・収納工 … Ⅰ-14-①-107
3-19 雪崩予防柵設置工 …… Ⅰ-14-①-108
3-20 雪崩発生予防柵設置工（円形空洞型枠工，立入防止柵工，柵板設置工）
…… Ⅰ-14-①-108
3-21 ボックスビーム設置工 …… Ⅰ-14-①-108
3-22 遮光フェンス設置工 …… Ⅰ-14-①-108
3-23 落下物等防止柵設置工 …… Ⅰ-14-①-109
3-24 しゃ音壁設置工 …… Ⅰ-14-①-109
3-25 基礎杭打工（しゃ音壁） …… Ⅰ-14-①-109
3-26 路側工（据付け） …… Ⅰ-14-①-110
3-27 路側工（取外し） …… Ⅰ-14-①-110
3-28 特殊ブロック設置工 …… Ⅰ-14-①-110
3-29 組立歩道工 …… Ⅰ-14-①-111
3-30 橋梁付属施設設置工 …… Ⅰ-14-①-111
3-31 トンネル内装板設置工 …… Ⅰ-14-①-111
3-32 道路付属物設置工 …… Ⅰ-14-①-111
3-33 スノーポール設置・撤去工 … Ⅰ-14-①-111
3-34 道路植栽工（客土工）（上層 30 ㎝）
…… Ⅰ-14-①-112
3-35 路面切削工 …… Ⅰ-14-①-112
3-36 切削オーバーレイ工 …… Ⅰ-14-①-114
3-37 舗装版破砕工 …… Ⅰ-14-①-115
3-38 舗装版切断工 …… Ⅰ-14-①-116
3-39 道路打換え工 …… Ⅰ-14-①-116
3-40 路上路盤再生工 …… Ⅰ-14-①-117
3-41 アスファルト注入工 …… Ⅰ-14-①-117
3-42 舗装版クラック補修工 …… Ⅰ-14-①-118
3-43 道路付属構造物塗替工 …… Ⅰ-14-①-118
3-44 張紙防止塗装工 …… Ⅰ-14-①-118
3-45 床版補強工 …… Ⅰ-14-①-119
3-46 橋梁補強工（鋼板巻立て）（１）（２）
…… Ⅰ-14-①-120
3-47 橋梁補強工（コンクリート巻立て）（１）（２） …… Ⅰ-14-①-120
3-48 橋梁地覆補修工 …… Ⅰ-14-①-121
3-49 橋梁補修工（支承取替工） … Ⅰ-14-①-121
3-50 橋梁補修工（現場溶接鋼桁補強工）
…… Ⅰ-14-①-121
3-51 橋梁補修工（表面被覆工（塗装工法））
…… Ⅰ-14-①-122
3-52 落橋防止装置工 …… Ⅰ-14-①-122
3-53 道路除草工 …… Ⅰ-14-①-123
3-54 路面清掃工（機械清掃） …… Ⅰ-14-①-125
3-55 路面清掃工（人力清掃工） … Ⅰ-14-①-126
3-56 ガードレール清掃工 …… Ⅰ-14-①-126
3-57 ガードレール清掃工（自動追従型）
…… Ⅰ-14-①-126
3-58 ガードパイプ清掃工 …… Ⅰ-14-①-126
3-59 管渠清掃工，側溝清掃工及び集水桝清掃工（組合せ作業）
…… Ⅰ-14-①-127
3-60 側溝清掃（単独作業） …… Ⅰ-14-①-128
3-61 側溝清掃工（人力清掃工） … Ⅰ-14-①-128

3-62　集水桝清掃工（単独作業）‥Ⅰ-14-①-128
3-63　集水桝清掃工（人力清掃工）　Ⅰ-14-①-128
3-64　トンネル清掃工‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-128
3-65　トンネル照明器具清掃工‥‥Ⅰ-14-①-128
3-66　トンネル漏水対策工‥‥‥‥Ⅰ-14-①-128
3-67　沓座拡幅工‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-129
3-68　桁連結工‥‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-129
3-69　欠損部補修工‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-129
3-70　路肩整正（人力による土はね）
‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-129
3-71　コンクリート接着工‥‥‥‥Ⅰ-14-①-129
3-72　防護柵復旧工‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-130
3-73　アスファルト舗装版削孔工‥Ⅰ-14-①-130
3-74　道路付属物のコンクリート面塗装工
‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-130
3-75　横断歩道橋補修工‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-130
3-76　共同溝工（１）（構造物単位）
‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-131
3-77　共同溝工（２）‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-132
3-78　防水工・防水層保護工‥‥‥Ⅰ-14-①-134
3-79　電線共同溝工（Ｃ・Ｃ・ＢＯＸ）
‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-134
3-80　情報ボックス工‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-136
3-81　トンネル工（インバート工）　Ⅰ-14-①-138
3-82　トンネル工（ＮＡＴＭ）〔発破工法〕
‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-138
3-83　トンネル工（ＮＡＴＭ）〔機械掘削工法〕
‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-138
3-84　トンネル濁水処理工‥‥‥‥Ⅰ-14-①-138
3-85　トンネル工（ＮＡＴＭ）坑口工
（ＤⅢパターン）‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-139
3-86　トンネル工（ＮＡＴＭ）非常駐車帯工
‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-139
3-87　トンネル工（ＮＡＴＭ）仮設備工
（防音扉工）‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-139
3-88　小断面トンネル工（ＮＡＴＭ）
‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-140
3-89　トンネル裏込め注入工‥‥‥Ⅰ-14-①-140
3-90　道路除雪工‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-140
3-91　鋼橋製作工‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-140
3-92　橋梁塗装工（工場塗装及び塗装前処理）
‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-140
3-93　鋼橋架設工‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-141
3-94　プレビーム桁製作工（現場）
‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-142
3-95　プレビーム桁架設工‥‥‥‥Ⅰ-14-①-143
3-96　鋼橋床版工‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-143
3-97　グレーチング床版架設工及び足場工
‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-143
3-98　ポストテンション桁製作工‥Ⅰ-14-①-143
3-99　プレキャストセグメント主桁組立工
‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-143
3-100　ＰＣ橋架設工‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-143
3-101　ＰＣ橋片持架設工‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-144
3-102　ポストテンション場所打ホロー
スラブ橋工‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-145
3-103　ポストテンション場所打箱桁橋工
‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-145
3-104　ＲＣ場所打ホロースラブ橋工
‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-145
3-105　架設支保工‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-145
3-106　伸縮装置工（鋼製）‥‥‥‥Ⅰ-14-①-145
3-107　橋梁排水管設置工‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-145
3-108　歩道橋（側道橋）架設工‥‥Ⅰ-14-①-146
3-109　側板工‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-146
3-110　鋼製橋脚設置工‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-146
3-111　橋台・橋脚工（１）（構造物単位）
‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-147
3-112　橋台・橋脚工（２）‥‥‥‥Ⅰ-14-①-147
3-113　公園植栽工‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-148
3-114　公園除草工‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-149
3-115　公園工‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥Ⅰ-14-①-150

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 現場発生品及び支給品運搬 | ①　現場発生品・支給品運搬 |

| 片道運搬距離 | 1回当り平均積載質量 | 作業日当り標準作業量 | 片道運搬距離 | 1回当り平均積載質量 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2.0km以下 | 0.1t 以下 | 73 回/日 | 14.0km以下 | 2.0t 超 2.6t 以下 | 4.3 回/日 |
| | 0.1t 超 0.2t 以下 | 56 回/日 | | 2.6t 超 2.95t 以下 | 4.0 回/日 |
| | 0.2t 超 0.3t 以下 | 45 回/日 | 20.0km以下 | 0.1t 以下 | 5.1 回/日 |
| | 0.3t 超 0.5t 以下 | 35 回/日 | | 0.1t 超 0.2t 以下 | 5.0 回/日 |
| | 0.5t 超 0.8t 以下 | 25 回/日 | | 0.2t 超 0.3t 以下 | 4.8 回/日 |
| | 0.8t 超 1.1t 以下 | 19 回/日 | | 0.3t 超 0.5t 以下 | 4.7 回/日 |
| | 1.1t 超 1.5t 以下 | 15 回/日 | | 0.5t 超 0.8t 以下 | 4.5 回/日 |
| | 1.5t 超 2.0t 以下 | 12 回/日 | | 0.8t 超 1.1t 以下 | 4.2 回/日 |
| | 2.0t 超 2.6t 以下 | 9.0 回/日 | | 1.1t 超 1.5t 以下 | 4.0 回/日 |
| | 2.6t 超 2.95t 以下 | 7.6 回/日 | | 1.5t 超 2.0t 以下 | 3.7 回/日 |
| 5.0km以下 | 0.1t 以下 | 24 回/日 | | 2.0t 超 2.6t 以下 | 3.4 回/日 |
| | 0.1t 超 0.2t 以下 | 21 回/日 | | 2.6t 超 2.95t 以下 | 3.2 回/日 |
| | 0.2t 超 0.3t 以下 | 20 回/日 | 27.0km以下 | 0.1t 以下 | 3.7 回/日 |
| | 0.3t 超 0.5t 以下 | 17 回/日 | | 0.1t 超 0.3t 以下 | 3.6 回/日 |
| | 0.5t 超 0.8t 以下 | 15 回/日 | | 0.3t 超 0.5t 以下 | 3.5 回/日 |
| | 0.8t 超 1.1t 以下 | 12 回/日 | | 0.5t 超 0.8t 以下 | 3.4 回/日 |
| | 1.1t 超 1.5t 以下 | 10 回/日 | | 0.8t 超 1.1t 以下 | 3.2 回/日 |
| | 1.5t 超 2.0t 以下 | 8.6 回/日 | | 1.1t 超 1.5t 以下 | 3.1 回/日 |
| | 2.0t 超 2.6t 以下 | 7.2 回/日 | | 1.5t 超 2.0t 以下 | 2.9 回/日 |
| | 2.6t 超 2.95t 以下 | 6.3 回/日 | | 2.0t 超 2.6t 以下 | 2.7 回/日 |
| 9.0km以下 | 0.2t 以下 | 12 回/日 | | 2.6t 超 2.95t 以下 | 2.6 回/日 |
| | 0.2t 超 0.3t 以下 | 11 回/日 | 35.0km以下 | 0.2t 以下 | 2.8 回/日 |
| | 0.3t 超 0.5t 以下 | 10 回/日 | | 0.2t 超 0.5t 以下 | 2.7 回/日 |
| | 0.5t 超 0.8t 以下 | 9.2 回/日 | | 0.5t 超 0.8t 以下 | 2.6 回/日 |
| | 0.8t 超 1.1t 以下 | 8.2 回/日 | | 0.8t 超 1.1t 以下 | 2.5 回/日 |
| | 1.1t 超 1.5t 以下 | 7.3 回/日 | | 1.1t 超 1.5t 以下 | 2.4 回/日 |
| | 1.5t 超 2.0t 以下 | 6.4 回/日 | | 1.5t 超 2.0t 以下 | 2.3 回/日 |
| | 2.0t 超 2.6t 以下 | 5.6 回/日 | | 2.0t 超 2.6t 以下 | 2.2 回/日 |
| | 2.6t 超 2.95t 以下 | 5.0 回/日 | | 2.6t 超 2.95t 以下 | 2.1 回/日 |
| 14.0km以下 | 0.1t 以下 | 7.4 回/日 | 46.0km以下 | 0.5t 以下 | 2.1 回/日 |
| | 0.1t 超 0.2t 以下 | 7.2 回/日 | | 0.5t 超 1.1t 以下 | 2.0 回/日 |
| | 0.2t 超 0.3t 以下 | 7.0 回/日 | | 1.1t 超 1.5t 以下 | 1.9 回/日 |
| | 0.3t 超 0.5t 以下 | 6.7 回/日 | | 1.5t 超 2.6t 以下 | 1.8 回/日 |
| | 0.5t 超 0.8t 以下 | 6.2 回/日 | | 2.6t 超 2.95t 以下 | 1.7 回/日 |
| | 0.8t 超 1.1t 以下 | 5.8 回/日 | 60.0km以下 | 0.8t 以下 | 1.6 回/日 |
| | 1.1t 超 1.5t 以下 | 5.3 回/日 | | 0.8t 超 2.0t 以下 | 1.5 回/日 |
| | 1.5t 超 2.0t 以下 | 4.8 回/日 | | 2.0t 超 2.95t 以下 | 1.4 回/日 |

| 工種名 | 設定内容 |
|---|---|
| 土工 | ① 掘削 |

| 土質 | 施工方法 | 岩質 | 押土の有無 | 障害の有無 | 施工数量 | 火薬使用 | 破砕片除去の有無 | 集積押土の有無 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土砂 | オープンカット | ― | 有り | ― | 普通土30,000m3未満又は湿地軟弱土 | ― | ― | ― | 320m3/日 |
| | | | | | 30,000m3以上 | ― | ― | ― | 710m3/日 |
| | | | 無し | 無し | 5,000m3未満 | | | | 230m3/日 |
| | | | | | 5,000m3以上 10,000m3未満 | ― | ― | ― | 270m3/日 |
| | | | | | 10,000m3以上 50,000m3未満 | ― | ― | ― | 330m3/日 |
| | | | | | 50,000m3以上 | ― | ― | ― | 500m3/日 |
| | | | | 有り | 5,000m3未満 | | | | 140m3/日 |
| | | | | | 5,000m3以上 10,000m3未満 | ― | ― | ― | 170m3/日 |
| | | | | | 10,000m3以上 50,000m3未満 | ― | ― | ― | 210m3/日 |
| | | | | | 50,000m3以上 | ― | ― | ― | 320m3/日 |
| | 片切掘削 | ― | ― | ― | ― | ― | ― | ― | 220m3/日 |
| | 水中掘削 | ― | ― | ― | ― | ― | ― | ― | 260m3/日 |
| | 現場制約あり | ― | ― | ― | ― | ― | ― | ― | 4m3/日 |
| | 上記以外(小規模) | ― | ― | ― | 1箇所100m3以下(標準) | ― | ― | ― | 37m3/日 |
| | | | | | 1箇所100m3以下(標準以外) | ― | ― | ― | 15m3/日 |
| 岩塊・玉石 | オープンカット | ― | 有り | ― | 普通土30,000m3未満又は湿地軟弱土 | ― | ― | ― | 200m3/日 |
| | | | | | 30,000m3以上 | ― | ― | ― | 440m3/日 |
| | | | 無し | 無し | 5,000m3未満 | | | | 180m3/日 |
| | | | | | 5,000m3以上 10,000m3未満 | ― | ― | ― | 210m3/日 |
| | | | | | 10,000m3以上 50,000m3未満 | ― | ― | ― | 250m3/日 |
| | | | | | 50,000m3以上 | ― | ― | ― | 410m3/日 |
| | | | | 有り | 5,000m3未満 | | | | 110m3/日 |
| | | | | | 5,000m3以上 10,000m3未満 | ― | ― | ― | 130m3/日 |
| | | | | | 10,000m3以上 50,000m3未満 | ― | ― | ― | 150m3/日 |
| | | | | | 50,000m3以上 | ― | ― | ― | 260m3/日 |
| | 水中掘削 | ― | ― | ― | ― | ― | ― | ― | 180m3/日 |
| | 現場制約あり | ― | ― | ― | ― | ― | ― | ― | 3m3/日 |

| 工種名 | 設定内容 |
|---|---|
| 土工 | |

| 土質 | 施工方法 | 岩質 | 押土の有無 | 障害の有無 | 施工数量 | 火薬使用 | 破砕片除去の有無 | 集積押土の有無 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 軟岩 | オープンカット | － | － | 無し | 1,000m3未満 | － | 無し | 無し | 59m3/日 |
| | | | | | | | | 有り | 59m3/日 |
| | | | | | | | 有り(5万m3未満) | 無し | 59m3/日 |
| | | | | | | | 有り(5万m3以上) | 無し | 59m3/日 |
| | | | | | 1,000m3以上5,000m3未満 | | 無し | 無し | 91m3/日 |
| | | | | | | | | 有り | 91m3/日 |
| | | | | | | | 有り(5万m3未満) | 無し | 91m3/日 |
| | | | | | | | 有り(5万m3以上) | 無し | 91m3/日 |
| | | | | | 5,000m3以上 | － | － | － | 340m3/日 |
| | | | | 有り | 5,000m3未満 | － | 無し | 無し | 32m3/日 |
| | | | | | | | | 有り | 32m3/日 |
| | | | | | | | 有り(5万m3未満) | 無し | 32m3/日 |
| | | | | | | | 有り(5万m3以上) | 無し | 32m3/日 |
| | 片切掘削 | － | － | － | － | － | 無し | 無し | 49m3/日 |
| | | | | | | | | 有り | 49m3/日 |
| | | | | | | | 有り(5万m3未満) | 無し | 49m3/日 |
| | | | | | | | 有り(5万m3以上) | 無し | 49m3/日 |
| | 現場制約あり | 軟岩(Ⅰ) | － | － | － | － | － | － | 25m3/日 |
| | | 軟岩(Ⅱ) | － | － | － | － | － | － | 17m3/日 |
| 硬岩 | オープンカット | － | － | 無し | － | 不可 | 無し | 無し | 45m3/日 |
| | | | | | | | | 有り | 45m3/日 |
| | | | | | | | 有り(5万m3未満) | 無し | 45m3/日 |
| | | | | | | | 有り(5万m3以上) | 無し | 45m3/日 |
| | | | | | | 可 | － | － | 190m3/日 |
| | | | | 有り | － | 不可 | 無し | 無し | 21m3/日 |
| | | | | | | | | 有り | 21m3/日 |
| | | | | | | | 有り(5万m3未満) | 無し | 21m3/日 |
| | | | | | | | 有り(5万m3以上) | 無し | 21m3/日 |
| | 片切掘削 | － | － | － | － | 不可 | 無し | 無し | 29m3/日 |
| | | | | | | | | 有り | 29m3/日 |
| | | | | | | | 有り(5万m3未満) | 無し | 29m3/日 |
| | | | | | | | 有り(5万m3以上) | 無し | 29m3/日 |
| | | | | | | 可 | 無し | 無し | 55m3/日 |
| | | | | | | | | 有り | 55m3/日 |
| | | | | | | | 有り(5万m3未満) | 無し | 55m3/日 |
| | | | | | | | 有り(5万m3以上) | 無し | 55m3/日 |
| | 現場制約あり | 中硬岩 | － | － | － | － | － | － | 13m3/日 |
| | | 硬岩(Ⅰ) | － | － | － | － | － | － | 8m3/日 |

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 土工 | ②　土砂等運搬 |

| 土砂等<br>発生現場 | 積込機種<br>・規格 | 土質 | DID区間<br>の有無 | 運搬距離 | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|---|---|---|---|
| 標準 | バックホウ<br>山積0.8m3<br>(平積0.6m3) | 土砂(岩塊・玉石混り土含む) | 無し | 0.3km 以下 | 154m3/日 |
| | | | | 0.5km 以下 | 133m3/日 |
| | | | | 1.0km 以下 | 118m3/日 |
| | | | | 1.5km 以下 | 105m3/日 |
| | | | | 2.0km 以下 | 91m3/日 |
| | | | | 3.0km 以下 | 77m3/日 |
| | | | | 4.0km 以下 | 67m3/日 |
| | | | | 5.5km 以下 | 56m3/日 |
| | | | | 6.5km 以下 | 48m3/日 |
| | | | | 7.5km 以下 | 42m3/日 |
| | | | | 9.5km 以下 | 37m3/日 |
| | | | | 11.5km 以下 | 32m3/日 |
| | | | | 15.5km 以下 | 26m3/日 |
| | | | | 22.5km 以下 | 21m3/日 |
| | | | | 49.5km 以下 | 16m3/日 |
| | | | | 60.0km 以下 | 11m3/日 |
| | | | 有り | 0.3km 以下 | 154m3/日 |
| | | | | 0.5km 以下 | 133m3/日 |
| | | | | 1.0km 以下 | 118m3/日 |
| | | | | 1.5km 以下 | 105m3/日 |
| | | | | 2.0km 以下 | 91m3/日 |
| | | | | 3.0km 以下 | 77m3/日 |
| | | | | 3.5km 以下 | 67m3/日 |
| | | | | 5.0km 以下 | 56m3/日 |
| | | | | 6.0km 以下 | 48m3/日 |
| | | | | 7.0km 以下 | 42m3/日 |
| | | | | 8.5km 以下 | 37m3/日 |
| | | | | 11.0km 以下 | 32m3/日 |
| | | | | 14.0km 以下 | 26m3/日 |
| | | | | 19.5km 以下 | 21m3/日 |
| | | | | 31.5km 以下 | 16m3/日 |
| | | | | 60.0km 以下 | 11m3/日 |
| | | 軟岩 | － | － | 土砂÷1.22 |
| | | 硬岩 | － | － | 土砂÷1.37 |

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|

土工

| 土砂等<br>発生現場 | 積込機種<br>・規格 | 土質 | DID区間<br>の有無 | 運搬距離 | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|---|---|---|---|
| 標準 | バックホウ<br>山積1.4m3<br>(平積1.0m3) | 土砂(岩塊・玉石混り土含む) | 無し | 0.3km 以下 | 200m3/日 |
| | | | | 0.5km 以下 | 167m3/日 |
| | | | | 1.0km 以下 | 143m3/日 |
| | | | | 1.5km 以下 | 125m3/日 |
| | | | | 2.0km 以下 | 111m3/日 |
| | | | | 2.5km 以下 | 100m3/日 |
| | | | | 3.0km 以下 | 83m3/日 |
| | | | | 3.5km 以下 | 77m3/日 |
| | | | | 4.5km 以下 | 67m3/日 |
| | | | | 6.0km 以下 | 56m3/日 |
| | | | | 7.0km 以下 | 48m3/日 |
| | | | | 8.5km 以下 | 42m3/日 |
| | | | | 10.0km 以下 | 37m3/日 |
| | | | | 12.5km 以下 | 32m3/日 |
| | | | | 16.5km 以下 | 26m3/日 |
| | | | | 23.5km 以下 | 21m3/日 |
| | | | | 51.5km 以下 | 16m3/日 |
| | | | | 60.0km 以下 | 11m3/日 |
| | | | 有り | 0.3km 以下 | 200m3/日 |
| | | | | 0.5km 以下 | 167m3/日 |
| | | | | 1.0km 以下 | 143m3/日 |
| | | | | 1.5km 以下 | 125m3/日 |
| | | | | 2.0km 以下 | 111m3/日 |
| | | | | 2.5km 以下 | 100m3/日 |
| | | | | 3.0km 以下 | 83m3/日 |
| | | | | 3.5km 以下 | 77m3/日 |
| | | | | 4.5km 以下 | 67m3/日 |
| | | | | 5.5km 以下 | 56m3/日 |
| | | | | 6.5km 以下 | 48m3/日 |
| | | | | 8.0km 以下 | 42m3/日 |
| | | | | 9.5km 以下 | 37m3/日 |
| | | | | 11.5km 以下 | 32m3/日 |
| | | | | 15.0km 以下 | 26m3/日 |
| | | | | 20.5km 以下 | 21m3/日 |
| | | | | 33.0km 以下 | 16m3/日 |
| | | | | 60.0km 以下 | 11m3/日 |
| | | 軟岩 | － | － | 土砂÷1.22 |
| | | 硬岩 | － | － | 土砂÷1.37 |

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|

土工

| 土砂等<br>発生現場 | 積込機種<br>・規格 | 土質 | DID区間<br>の有無 | 運搬距離 | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|---|---|---|---|
| 標準 | バックホウ<br>山積0.45m3<br>(平積0.35m3) | 土砂(岩塊玉石混り土含む) | 無し | 0.5km 以下 | 91m3/日 |
| | | | | 1.0km 以下 | 83m3/日 |
| | | | | 2.0km 以下 | 71m3/日 |
| | | | | 2.5km 以下 | 63m3/日 |
| | | | | 3.5km 以下 | 56m3/日 |
| | | | | 4.5km 以下 | 48m3/日 |
| | | | | 6.0km 以下 | 42m3/日 |
| | | | | 7.5km 以下 | 37m3/日 |
| | | | | 10.0km 以下 | 32m3/日 |
| | | | | 13.5km 以下 | 26m3/日 |
| | | | | 19.5km 以下 | 21m3/日 |
| | | | | 39.0km 以下 | 16m3/日 |
| | | | | 60.0km 以下 | 11m3/日 |
| | | | 有り | 0.5km 以下 | 91m3/日 |
| | | | | 1.0km 以下 | 83m3/日 |
| | | | | 1.5km 以下 | 71m3/日 |
| | | | | 2.0km 以下 | 63m3/日 |
| | | | | 3.0km 以下 | 56m3/日 |
| | | | | 4.0km 以下 | 48m3/日 |
| | | | | 5.5km 以下 | 42m3/日 |
| | | | | 7.0km 以下 | 37m3/日 |
| | | | | 9.0km 以下 | 32m3/日 |
| | | | | 12.0km 以下 | 26m3/日 |
| | | | | 17.5km 以下 | 21m3/日 |
| | | | | 28.5km 以下 | 16m3/日 |
| | | | | 60.0km 以下 | 11m3/日 |
| | | 軟岩 | － | － | 土砂÷1.22 |
| | | 硬岩 | － | － | 土砂÷1.37 |
| | クラムシェル | 土砂(岩塊・玉石混り土含む) | 無し | 0.5km 以下 | 67m3/日 |
| | | | | 2.0km 以下 | 56m3/日 |
| | | | | 2.5km 以下 | 48m3/日 |
| | | | | 4.0km 以下 | 42m3/日 |
| | | | | 5.5km 以下 | 37m3/日 |
| | | | | 7.5km 以下 | 32m3/日 |
| | | | | 10.5km 以下 | 26m3/日 |
| | | | | 16.0km 以下 | 21m3/日 |
| | | | | 30.0km 以下 | 16m3/日 |
| | | | | 60.0km 以下 | 11m3/日 |

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|

土工

| 土砂等<br>発生現場 | 積込機種<br>・規格 | 土質 | DID区間<br>の有無 | 運搬距離 | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|---|---|---|---|
| 標準 | クラムシェル | 土砂(岩塊・玉石混り土含む) | 有り | 0.5km 以下 | 67m3/日 |
| | | | | 2.0km 以下 | 56m3/日 |
| | | | | 2.5km 以下 | 48m3/日 |
| | | | | 3.5km 以下 | 42m3/日 |
| | | | | 5.0km 以下 | 37m3/日 |
| | | | | 7.0km 以下 | 32m3/日 |
| | | | | 10.0km 以下 | 26m3/日 |
| | | | | 14.5km 以下 | 21m3/日 |
| | | | | 24.5km 以下 | 16m3/日 |
| | | | | 60.0km 以下 | 11m3/日 |
| | | 軟岩 | － | － | 土砂÷1.22 |
| | | 硬岩 | － | － | 土砂÷1.37 |
| 小規模 | バックホウ<br>山積0.28m3<br>(平積0.2m3) | 土砂(岩塊・玉石混り土含む) | 無し | 0.2km 以下 | 50m3/日 |
| | | | | 1.0km 以下 | 40m3/日 |
| | | | | 1.5km 以下 | 33m3/日 |
| | | | | 2.5km 以下 | 29m3/日 |
| | | | | 3.5km 以下 | 25m3/日 |
| | | | | 4.0km 以下 | 22m3/日 |
| | | | | 5.0km 以下 | 20m3/日 |
| | | | | 6.0km 以下 | 18m3/日 |
| | | | | 7.5km 以下 | 17m3/日 |
| | | | | 10.0km 以下 | 13m3/日 |
| | | | | 13.0km 以下 | 11m3/日 |
| | | | | 19.0km 以下 | 9m3/日 |
| | | | | 35.0km 以下 | 7m3/日 |
| | | | | 60.0km 以下 | 4m3/日 |
| | | | 有り | 0.2km 以下 | 50m3/日 |
| | | | | 1.0km 以下 | 40m3/日 |
| | | | | 1.5km 以下 | 33m3/日 |
| | | | | 2.0km 以下 | 29m3/日 |
| | | | | 3.0km 以下 | 25m3/日 |
| | | | | 3.5km 以下 | 22m3/日 |
| | | | | 4.5km 以下 | 20m3/日 |
| | | | | 5.5km 以下 | 18m3/日 |
| | | | | 7.0km 以下 | 17m3/日 |
| | | | | 9.0km 以下 | 13m3/日 |
| | | | | 12.0km 以下 | 11m3/日 |
| | | | | 17.0km 以下 | 9m3/日 |
| | | | | 27.0km 以下 | 7m3/日 |
| | | | | 60.0km 以下 | 4m3/日 |

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|

土工

| 土砂等<br>発生現場 | 積込機種<br>・規格 | 土質 | DID区間<br>の有無 | 運搬距離 | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|---|---|---|---|
| 小規模 | バックホウ<br>山積0.13m3<br>(平積0.1m3) | 土砂(岩塊・玉石混土含む) | 無し | 0.3km 以下 | 22m3/日 |
| | | | | 1.0km 以下 | 20m3/日 |
| | | | | 1.5km 以下 | 17m3/日 |
| | | | | 2.5km 以下 | 14m3/日 |
| | | | | 3.0km 以下 | 13m3/日 |
| | | | | 3.5km 以下 | 11m3/日 |
| | | | | 4.5km 以下 | 10m3/日 |
| | | | | 5.5km 以下 | 9m3/日 |
| | | | | 7.0km 以下 | 8m3/日 |
| | | | | 9.0km 以下 | 7m3/日 |
| | | | | 12.0km 以下 | 6m3/日 |
| | | | | 17.0km 以下 | 4m3/日 |
| | | | | 28.0km 以下 | 3m3/日 |
| | | | | 60.0km 以下 | 2m3/日 |
| | | | 有り | 0.3km 以下 | 22m3/日 |
| | | | | 1.0km 以下 | 20m3/日 |
| | | | | 1.5km 以下 | 17m3/日 |
| | | | | 2.5km 以下 | 14m3/日 |
| | | | | 3.0km 以下 | 13m3/日 |
| | | | | 3.5km 以下 | 11m3/日 |
| | | | | 4.5km 以下 | 10m3/日 |
| | | | | 5.0km 以下 | 9m3/日 |
| | | | | 6.5km 以下 | 8m3/日 |
| | | | | 8.0km 以下 | 7m3/日 |
| | | | | 11.0km 以下 | 6m3/日 |
| | | | | 15.0km 以下 | 4m3/日 |
| | | | | 24.0km 以下 | 3m3/日 |
| | | | | 60.0km 以下 | 2m3/日 |
| 現場制約<br>あり | 人力 | 土砂(岩塊・玉石混り土含む) | 無し | 0.3km 以下 | 20m3/日 |
| | | | | 0.5km 以下 | 18m3/日 |
| | | | | 1.5km 以下 | 17m3/日 |
| | | | | 2.0km 以下 | 14m3/日 |
| | | | | 2.5km 以下 | 13m3/日 |
| | | | | 3.0km 以下 | 11m3/日 |
| | | | | 4.0km 以下 | 10m3/日 |
| | | | | 5.0km 以下 | 9m3/日 |
| | | | | 6.5km 以下 | 8m3/日 |
| | | | | 8.5km 以下 | 7m3/日 |
| | | | | 11.0km 以下 | 6m3/日 |
| | | | | 16.0km 以下 | 4m3/日 |
| | | | | 27.5km 以下 | 3m3/日 |
| | | | | 60.0km 以下 | 2m3/日 |

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 土工 | |

| 土砂等<br>発生現場 | 積込機種<br>・規格 | 土質 | DID区間<br>の有無 | 運搬距離 | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|---|---|---|---|
| 現場制約<br>あり | 人力 | 土砂(岩塊・玉石混り土含む) | 有り | 0.3km 以下 | 20m3/日 |
| | | | | 0.5km 以下 | 18m3/日 |
| | | | | 1.0km 以下 | 17m3/日 |
| | | | | 1.5km 以下 | 14m3/日 |
| | | | | 2.0km 以下 | 13m3/日 |
| | | | | 2.5km 以下 | 11m3/日 |
| | | | | 3.5km 以下 | 10m3/日 |
| | | | | 4.5km 以下 | 9m3/日 |
| | | | | 6.0km 以下 | 8m3/日 |
| | | | | 8.0km 以下 | 7m3/日 |
| | | | | 10.5km 以下 | 6m3/日 |
| | | | | 14.5km 以下 | 4m3/日 |
| | | | | 23.0km 以下 | 3m3/日 |
| | | | | 60.0km 以下 | 2m3/日 |
| | | 軟岩 | － | － | 土砂÷1.22 |
| | | 硬岩 | － | － | 土砂÷1.37 |

③　整地

| 作業区分 | 敷均し作業内容 | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|---|
| 残土受入れ地での処理 | ― | 1，030m3/日 |
| 敷均し(ルーズ) | 標準 | 760m3/日 |
| | 標準以外 | 1，090m3/日 |
| | 狭小幅員(幅2.5m以上4m未満) | 140m3/日 |
| | トラフィカビリティが確保出来ない場合 | 620m3/日 |

④　路体(築堤)盛土

| 施工幅員 | 施工数量 | 障害の有無 | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|---|---|
| 2.5m未満 | － | － | 50m3/日 |
| 2.5m以上4.0m未満 | － | － | 86m3/日 |
| 4.0m以上 | 10,000m3未満 | 無し | 370m3/日 |
| | | 有り | 190m3/日 |
| | 10,000m3以上 | 無し | 540m3/日 |
| | | 有り | 310m3/日 |

(注)１．上表は，締固め後の土量である。
　　２．敷均し作業の仕上り厚さは0.2～0.3mとする。

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 土工 | ⑤　路床盛土 |

| 施工幅員 | 施工数量 | 障害の有無 | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|---|---|
| 2.5m未満 | － | － | 43m3/日 |
| 2.5m以上4.0m未満 | － | － | 78m3/日 |
| 4.0m以上 | 10,000m3未満 | 無し | 280m3/日 |
| | | 有り | 140m3/日 |
| | 10,000m3以上 | 無し | 420m3/日 |
| | | 有り | 140m3/日 |

(注) 1．上表は，締固め後の土量である。
　　2．敷均し作業の仕上り厚さは 0.2～0.3mとする。

⑥　押土(ルーズ)

| 土質 | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|
| 土砂 | 540m3/日 |
| 岩塊・玉石 | 350m3/日 |
| 破砕岩 | 350m3/日 |

⑦　積込(ルーズ)

| 土質 | 作業内容 | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|---|
| 土砂 | 土量50,000m3未満 | 310m3/日 |
| | 土量50,000m3以上 | 520m3/日 |
| | 平均施工幅1m以上2m未満 | 160m3/日 |
| | 1箇所100m3以下(標準) | 42m3/日 |
| | 1箇所100m3以下(標準以外) | 22m3/日 |
| 岩塊・玉石，<br>破砕岩 | 土量50,000m3未満 | 260m3/日 |
| | 土量50,000m3以上 | 440m3/日 |
| | 平均施工幅1m以上2m未満 | 130m3/日 |

⑧　人力積込

| 土質 | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|
| 土砂 | 7.1 m3/日 |
| 岩塊・玉石 | 5.3 m3/日 |
| 軟岩 | 5.6 m3/日 |
| 中硬岩 | 5.0 m3/日 |
| 硬岩 | 4.5 m3/日 |
| アスファルト塊 | 5.6 m3/日 |
| コンクリート塊 | 5.0 m3/日 |

(注) 作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。

⑨　転石破砕

| 火薬使用の有無 | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|
| 有り | 33m3/日 |
| 無し | 34m3/日 |

(注)上表の火薬使用無しは，大型ブレーカによる転石破砕である。

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 土工<br>（ＩＣＴ） | ① 掘削（ＩＣＴ）※［ＩＣＴ建機使用割合 100%］ |

| 土質 | 施工方法 | 障害の有無 | 施工数量 | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|---|---|---|
| 土砂 | オープンカット | 無し | 5,000m3未満 | 250 m3/日 |
| | | | 5,000m3以上<br>10,000m3未満 | 290 m3/日 |
| | | | 10,000m3以上<br>50,000m3未満 | 350 m3/日 |
| | | | 50,000m3以上 | 550 m3/日 |
| | | 有り | 5,000m3未満 | 150 m3/日 |
| | | | 5,000m3以上<br>10,000m3未満 | 180 m3/日 |
| | | | 10,000m3以上<br>50,000m3未満 | 230 m3/日 |
| | | | 50,000m3以上 | 352 m3/日 |
| | 片切掘削 | － | － | 242 m3/日 |
| 岩塊・玉石 | オープンカット | 無し | 5,000m3未満 | 190 m3/日 |
| | | | 5,000m3以上<br>10,000m3未満 | 220 m3/日 |
| | | | 10,000m3以上<br>50,000m3未満 | 270 m3/日 |
| | | | 50,000m3以上 | 451 m3/日 |
| | | 有り | 5,000m3未満 | 120 m3/日 |
| | | | 5,000m3以上<br>10,000m3未満 | 140 m3/日 |
| | | | 10,000m3以上<br>50,000m3未満 | 170 m3/日 |
| | | | 50,000m3以上 | 286 m3/日 |

② 路体（築堤）盛土（ＩＣＴ）

| 作業形態 | 施工数量 | 障害の有無 | 作業日当り<br>標準作業量 | ＩＣＴ<br>標準作業量 |
|---|---|---|---|---|
| 敷均し＋<br>締固め | 10,000m3未満 | 無し | 550 m3/日 | 550 m3/日 |
| | | 有り | 280 m3/日 | 280 m3/日 |
| | 10,000m3以上 | 無し | 690 m3/日 | 690 m3/日 |
| | | 有り | 400 m3/日 | 430 m3/日 |

（注）１．上表は，締固め後の土量である。
２．敷均し作業の仕上り厚さは0.2～0.3mとする。
３．保守点検費を算出する場合に限り，上表の「ＩＣＴ標準作業量」を適用すること。

③ 路床盛土（ＩＣＴ）

| 施工数量 | 障害の有無 | 作業日当り標準作業量 | ＩＣＴ作業量 |
|---|---|---|---|
| 10,000m3未満 | 無し | 430 m3/日 | 430 m3/日 |
| | 有り | 140 m3/日 | 220 m3/日 |
| 10,000m3以上 | 無し | 500 m3/日 | 540 m3/日 |
| | 有り | 140 m3/日 | 320 m3/日 |

（注）１．上表は，締固め後の土量である。
２．敷均し作業の仕上り厚さは0.2～0.3mとする。
３．保守点検費を算出する場合に限り，上表の「ＩＣＴ標準作業量」を適用すること。

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 床掘工 | ①　床掘り |

| 土質 | 施工方法 | 土留方式の種類 | 障害の有無 | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|---|---|---|
| 土砂 | 標準 | 無し | 有り | 180m3/日 |
| | | | 無し | 220m3/日 |
| | | 自立式 | 有り | 180m3/日 |
| | | | 無し | 220m3/日 |
| | | グランドアンカー式 | 有り | 180m3/日 |
| | | | 無し | 220m3/日 |
| | | 切梁腹起式 | 有り | 180m3/日 |
| | | | 無し | 220m3/日 |
| | 平均施工幅<br>1m以上2m未満 | 無し | 有り | 100m3/日 |
| | | | 無し | 150m3/日 |
| | | 自立式 | 有り | 100m3/日 |
| | | | 無し | 150m3/日 |
| | | グランドアンカー式 | 有り | 100m3/日 |
| | | | 無し | 150m3/日 |
| | | 切梁腹起式 | 有り | 100m3/日 |
| | | | 無し | 150m3/日 |
| | 掘削深さ<br>5m超え20m以下 | グランドアンカー式 | 有り | 130m3/日 |
| | | | 無し | 200m3/日 |
| | | 切梁腹起式 | 有り | 130m3/日 |
| | | | 無し | 200m3/日 |
| | 掘削深さ20m超え | グランドアンカー式 | － | 120m3/日 |
| | | 切梁腹起式 | － | 120m3/日 |
| | 上記以外(小規模) | － | － | 32m3/日 |
| | 現場制約あり | － | － | 2.4m3/日 |
| 岩塊<br>・<br>玉石 | 標準 | 無し | 有り | 130m3/日 |
| | | | 無し | 160m3/日 |
| | | 自立式 | 有り | 130m3/日 |
| | | | 無し | 160m3/日 |
| | | グランドアンカー式 | 有り | 130m3/日 |
| | | | 無し | 160m3/日 |
| | | 切梁腹起式 | 有り | 130m3/日 |
| | | | 無し | 160m3/日 |
| | 平均施工幅<br>1m以上2m未満 | 無し | 有り | 70m3/日 |
| | | | 無し | 110m3/日 |
| | | 自立式 | 有り | 70m3/日 |
| | | | 無し | 110m3/日 |
| | | グランドアンカー式 | 有り | 70m3/日 |
| | | | 無し | 110m3/日 |
| | | 切梁腹起式 | 有り | 70m3/日 |
| | | | 無し | 110m3/日 |
| | 掘削深さ<br>5m超え20m以下 | グランドアンカー式 | 有り | 90m3/日 |
| | | | 無し | 140m3/日 |
| | | 切梁腹起式 | 有り | 90m3/日 |
| | | | 無し | 140m3/日 |
| | 掘削深さ20m超え | グランドアンカー式 | － | 90m3/日 |
| | | 切梁腹起式 | － | 90m3/日 |
| | 現場制約あり | － | － | 1.7m3/日 |

（注）「現場制約あり」の作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>床掘工</td><td>
② 掘削補助機械搬入搬出作業
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>3.3 回/日</td></tr>
</table>
③ 基面整正
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>50 m2/日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。
④ 舗装版破砕積込(小規模土工)
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量<br>(m2／日)</td><td>23 m2/日</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>埋戻工</td><td>
① 埋戻し
<table>
<tr><th>施工方法</th><th>土質</th><th>締固めの有無</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td>最小埋戻幅4m以上</td><td>－</td><td>－</td><td>270m3/日</td></tr>
<tr><td>最大埋戻幅4m以上</td><td>－</td><td>－</td><td>96m3/日</td></tr>
<tr><td>最大埋戻幅1m以上4m未満</td><td>－</td><td>－</td><td>61m3/日</td></tr>
<tr><td>最大埋戻幅1m未満</td><td>－</td><td>－</td><td>33m3/日</td></tr>
<tr><td>上記以外(小規模)</td><td>土砂</td><td>－</td><td>40m3/日</td></tr>
<tr><td rowspan="4">現場制約あり</td><td rowspan="2">土砂</td><td>有り</td><td>3.7 m3/日</td></tr>
<tr><td>無し</td><td>4.2 m3/日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">岩塊・玉石</td><td>有り</td><td>3.5 m3/日</td></tr>
<tr><td>無し</td><td>3.8 m3/日</td></tr>
</table>
（注）「現場制約あり」の作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。
② タンパ締固め
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量<br>(m3／日)</td><td>36 m3/日</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>人力運搬工</td><td>
① 人肩運搬（積込み～運搬～取卸し）
<table>
<tr><th rowspan="3">換算距離</th><th colspan="4">作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><th colspan="3">土・石</th><th rowspan="2">セメント<br>等</th><th rowspan="2">積ブロック<br>類</th></tr>
<tr><th>土砂</th><th>岩塊・玉石</th><th>栗石・ｸﾗｯｼｬﾗﾝ</th></tr>
<tr><td>20m以下</td><td>4.8 m3/日</td><td>3.2 m3/日</td><td>3.8 m3/日</td><td>9.1 t/日</td><td>14 m2/日</td></tr>
<tr><td>40m以下</td><td>3.8 m3/日</td><td>2.6 m3/日</td><td>3.0 m3/日</td><td>7.1 t/日</td><td>11 m2/日</td></tr>
<tr><td>60m以下</td><td>3.1 m3/日</td><td>2.3 m3/日</td><td>2.6 m3/日</td><td>5.9 t/日</td><td>9.1 m2/日</td></tr>
<tr><td>80m以下</td><td>2.7 m3/日</td><td>1.9 m3/日</td><td>2.2 m3/日</td><td>4.8 t/日</td><td>7.7 m2/日</td></tr>
<tr><td>100m以下</td><td>2.3 m3/日</td><td>1.7 m3/日</td><td>2.0 m3/日</td><td>4.2 t/日</td><td>6.7 m2/日</td></tr>
<tr><td>120m以下</td><td>2.0 m3/日</td><td>1.5 m3/日</td><td>1.8 m3/日</td><td>3.7 t/日</td><td>5.6 m2/日</td></tr>
<tr><td>140m以下</td><td>1.9 m3/日</td><td>1.4 m3/日</td><td>1.6 m3/日</td><td>3.2 t/日</td><td>5.3 m2/日</td></tr>
<tr><td>160m以下</td><td>1.7 m3/日</td><td>1.3 m3/日</td><td>1.4 m3/日</td><td>2.9 t/日</td><td>4.8 m2/日</td></tr>
<tr><td>180m以下</td><td>1.5 m3/日</td><td>1.1 m3/日</td><td>1.3 m3/日</td><td>2.7 t/日</td><td>4.3 m2/日</td></tr>
<tr><td>200m以下</td><td>1.4 m3/日</td><td>1.1 m3/日</td><td>1.2 m3/日</td><td>2.4 t/日</td><td>4.0 m2/日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。
</td></tr>
</table>

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 人力運搬工 | ② 人肩運搬（運搬～取卸し） |

| 換算距離 | 作業日当り標準作業量 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 土砂 | | 岩塊・玉石 | |
| | 掘削（床堀り）無し | 掘削（床堀り）有り | 掘削（床堀り）無し | 掘削（床堀り）有り |
| 20m以下 | 13 m3/日 | 2.0 m3/日 | 8.3 m3/日 | 1.4 m3/日 |
| 40m以下 | 7.7 m3/日 | 1.8 m3/日 | 5.3 m3/日 | 1.3 m3/日 |
| 60m以下 | 5.3 m3/日 | 1.6 m3/日 | 4.0 m3/日 | 1.2 m3/日 |
| 80m以下 | 4.2 m3/日 | 1.5 m3/日 | 3.0 m3/日 | 1.1 m3/日 |
| 100m以下 | 3.3 m3/日 | 1.4 m3/日 | 2.5 m3/日 | 1.0 m3/日 |
| 120m以下 | 2.8 m3/日 | 1.3 m3/日 | 2.1 m3/日 | 0.93 m3/日 |
| 140m以下 | 2.4 m3/日 | 1.2 m3/日 | 1.9 m3/日 | 0.88 m3/日 |
| 160m以下 | 2.1 m3/日 | 1.1 m3/日 | 1.6 m3/日 | 0.83 m3/日 |
| 180m以下 | 1.9 m3/日 | 1.1 m3/日 | 1.5 m3/日 | 0.78 m3/日 |
| 200m以下 | 1.7 m3/日 | 1.0 m3/日 | 1.4 m3/日 | 0.75 m3/日 |

（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。

③ 小車運搬（積込み～運搬～取卸し）

| 換算距離 | 作業日当り標準作業量 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 土・石 | | | セメント等 | 積ブロック類 |
| | 土砂 | 岩塊・玉石 | 栗石・ｸﾗｯｼｬﾗﾝ | | |
| 20m以下 | 7.1 m3/日 | 4.5 m3/日 | 5.3 m3/日 | 11 t/日 | 20 m2/日 |
| 40m以下 | 6.3 m3/日 | 4.0 m3/日 | 4.8 m3/日 | 10 t/日 | 20 m2/日 |
| 60m以下 | 5.0 m3/日 | 3.2 m3/日 | 4.0 m3/日 | 8.3 t/日 | 14 m2/日 |
| 80m以下 | 4.0 m3/日 | 2.8 m3/日 | 3.2 m3/日 | 6.7 t/日 | 11 m2/日 |
| 100m以下 | 3.3 m3/日 | 2.4 m3/日 | 2.8 m3/日 | 5.6 t/日 | 10 m2/日 |
| 120m以下 | 2.9 m3/日 | 2.0 m3/日 | 2.3 m3/日 | 4.8 t/日 | 7.7 m2/日 |
| 140m以下 | 2.4 m3/日 | 1.8 m3/日 | 2.1 m3/日 | 4.2 t/日 | 6.7 m2/日 |
| 160m以下 | 2.2 m3/日 | 1.6 m3/日 | 1.9 m3/日 | 3.8 t/日 | 6.3 m2/日 |
| 180m以下 | 1.9 m3/日 | 1.4 m3/日 | 1.6 m3/日 | 3.3 t/日 | 5.6 m2/日 |
| 200m以下 | 1.7 m3/日 | 1.3 m3/日 | 1.5 m3/日 | 3.0 t/日 | 5.3 m2/日 |

（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 人力運搬工 | ④　小車運搬（運搬～取卸し） |

| 換算距離 | 作業日当り標準作業量 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 土砂 | | 岩塊・玉石 | |
| | 掘削（床堀り）無し | 掘削（床堀り）有り | 掘削（床堀り）無し | 掘削（床堀り）有り |
| 20m以下 | 100 m3/日 | 2.3 m3/日 | 33 m3/日 | 1.6 m3/日 |
| 40m以下 | 33 m3/日 | 2.2 m3/日 | 17 m3/日 | 1.5 m3/日 |
| 60m以下 | 14 m3/日 | 2.0 m3/日 | 8.3 m3/日 | 1.4 m3/日 |
| 80m以下 | 8.3 m3/日 | 1.9 m3/日 | 5.9 m3/日 | 1.3 m3/日 |
| 100m以下 | 5.9 m3/日 | 1.7 m3/日 | 4.3 m3/日 | 1.2 m3/日 |
| 120m以下 | 4.5 m3/日 | 1.6 m3/日 | 3.3 m3/日 | 1.1 m3/日 |
| 140m以下 | 3.6 m3/日 | 1.4 m3/日 | 2.7 m3/日 | 1.0 m3/日 |
| 160m以下 | 3.0 m3/日 | 1.3 m3/日 | 2.3 m3/日 | 0.96 m3/日 |
| 180m以下 | 2.6 m3/日 | 1.2 m3/日 | 2.0 m3/日 | 0.90 m3/日 |
| 200m以下 | 2.2 m3/日 | 1.1 m3/日 | 1.7 m3/日 | 0.84 m3/日 |

（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>安定処理工</td><td>
① 安定処理（スタビライザ）
<table>
<tr><th>混合回数</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>1回</td><td>790m2／日</td></tr>
<tr><td>2回</td><td>690m2／日</td></tr>
</table>
（注） 1．固化材散布，混合，敷均し，締固めをすべて含んだ標準施工量である。<br>
2．上表には，100m程度の仮置場～現場までの小運搬及び現場内小運搬が含まれている。<br>
② 安定処理（バックホウ）
<table>
<tr><th>施工箇所</th><th>混合深さ</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>路床</td><td>1m 以下</td><td>180m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">構造物基礎</td><td>1m 以下</td><td>127m2／日</td></tr>
<tr><td>1m を超え 2m 以下</td><td>74m2／日</td></tr>
</table>
(注) 1．固化材散布，混合，敷均し，締固めをすべて含んだ標準施工量である。<br>
2．上表には，50m程度の現場内小運搬が含まれている。
</td></tr>
<tr><td>安定処理工（自走式土質改良工）</td><td>
① 自走式土質改良機設置・撤去工
<table>
<tr><th>作業区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>設置</td><td>2.6 回／日</td></tr>
<tr><td>撤去</td><td>3.7 回／日</td></tr>
</table>
② 安定処理工（自走式土質改良工） ･･･ 該当工種の基準内に記載。
</td></tr>
<tr><td>土砂運搬工（不整地運搬車による運搬）</td><td>該当工種の基準内に記載。</td></tr>
<tr><td>法面整形工</td><td>
① 法面整形工
<table>
<tr><th>整形箇所</th><th>法面締固めの有無</th><th>現場制約の有無</th><th>土質</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="3">盛土部</td><td rowspan="2">有り</td><td>有り</td><td>砂及び砂質土，粘性土</td><td>120m2/日</td></tr>
<tr><td>無し</td><td>レキ質土，砂及び砂質土，粘性土</td><td>140m2/日</td></tr>
<tr><td>無し</td><td>無し</td><td>レキ質土，砂及び砂質土，粘性土</td><td>220m2/日</td></tr>
<tr><td rowspan="4">切土部</td><td rowspan="4">－</td><td rowspan="2">有り</td><td>レキ質土，砂及び砂質土，粘性土</td><td>61m2/日</td></tr>
<tr><td>軟岩Ⅰ，軟岩Ⅱ，中硬岩，硬岩</td><td>30m2/日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">無し</td><td>レキ質土，砂及び砂質土，粘性土</td><td>140m2/日</td></tr>
<tr><td>軟岩Ⅰ</td><td>120m2/日</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>法面整形工<br>（ＩＣＴ）</td><td>
① 法面整形（ＩＣＴ）
<table>
<tr><th>整形箇所</th><th>法面締固めの有無</th><th>土質</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">盛土部</td><td>有り</td><td>レキ質土，砂及び砂質土，粘性土</td><td>154 m2/日</td></tr>
<tr><td>無し</td><td>レキ質土，砂及び砂質土，粘性土</td><td>242 m2/日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">切土部</td><td rowspan="2">－</td><td>レキ質土，砂及び砂質土，粘性土</td><td>154 m2/日</td></tr>
<tr><td>軟岩Ⅰ</td><td>132 m2/日</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>芝付工</td><td>①　市松芝<br><table><tr><th>芝の規格</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>高麗芝・野芝</td><td>333 m2／日</td></tr></table>（注）散水養生・施肥は含まない。</td></tr>
<tr><td>コンクリート法枠工</td><td>①　プレキャスト法枠工<br>（1）プレキャストブロック設置（中詰除く）　･･･　該当工種の基準内に記載。<br><br>（2）敷砂利<br><table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>10 m3／日</td></tr></table>（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。<br><br>（3）中詰工<br><table><tr><th>中詰区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>中詰ブロック</td><td>83 m2/日</td></tr><tr><td>客土</td><td>16 m3/日</td></tr><tr><td>植生土のう</td><td>625 袋/日</td></tr><tr><td>割石又は栗石</td><td>10 m3/日</td></tr><tr><td>砕石</td><td>12 m3/日</td></tr></table><br>②　現場打法枠工<br>（1）コンクリートポンプ車投入打設<br><table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>7.2 m3／日</td></tr></table>（注）養生を含む。<br><br>（2）アンカー工<br><table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>33 本／日</td></tr></table>（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。<br><br>（3）吸出し防止材敷設工<br><table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>200 m2／日</td></tr></table>（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。</td></tr>
<tr><td>法面施肥工</td><td>該当工種の基準内に記載。</td></tr>
<tr><td>吹付法面とりこわし工</td><td>①　吹付法面とりこわし工<br><table><tr><th>工法区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>人力施工</td><td>54 m2/日</td></tr><tr><td>機械施工</td><td>147 m2/日</td></tr><tr><td>集積・積込</td><td>234 m2/日</td></tr></table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>プレキャストコンクリート板設置工</td><td>
① プレキャストコンクリート板
<table>
<tr><th>フレームタイプ</th><th>1列当り平均据付枚数</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="3">クロスタイプ</td><td>20 枚未満</td><td>6.3 枚／日</td></tr>
<tr><td>20 枚以上 30 枚未満</td><td>7 枚／日</td></tr>
<tr><td>30 枚以上</td><td>7.7 枚／日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">セミスクエアタイプ・<br>スクエアタイプ</td><td>20 枚未満</td><td>4.5 枚／日</td></tr>
<tr><td>20 枚以上 30 枚未満</td><td>5 枚／日</td></tr>
<tr><td>30 枚以上</td><td>5.5 枚／日</td></tr>
</table>
（注）1．1列当り平均据付枚数は，次式により求める。<br>1列当り平均据付枚数＝総据付枚数÷施工列数<br>2．1列当り平均据付枚数は，1工事単位とする。<br><br>
② ジョイント処理
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>14 箇所／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>人工張芝工</td><td>
① 人工張芝
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>625 m2／日</td></tr>
</table>
（注）法面整形は含まない。
</td></tr>
<tr><td>基礎・裏込砕石工<br>基礎・裏込栗石工</td><td>
① 基礎・裏込砕石工，基礎・裏込栗石工
<table>
<tr><th colspan="2">工　種　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td colspan="2">基礎砕石</td><td>155m2／日</td></tr>
<tr><td colspan="2">裏込砕石</td><td>38m3／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">基礎栗石</td><td>敷均し</td><td>161m2／日</td></tr>
<tr><td>敷並べ</td><td>100m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">裏込栗石</td><td>かき込み</td><td>31m3／日</td></tr>
<tr><td>築立て</td><td>10m3／日</td></tr>
</table>
（注）1．上表には，20m程度の現場内小運搬を含む。<br>2．基礎砕石の敷均し厚は 20cm までを対象とし，それを超える場合は上表に 0.7 を乗じた数量を計上する。ただし，この場合の敷均し厚は 30cm を上限とする。<br>3．護岸工の裏込栗石において，護岸平場は，基礎栗石とする。<br>4．基礎栗石の敷均し及び敷並べ厚は，30cm までを対象とする。
</td></tr>
</table>

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| コンクリートブロック積（張）工 | ①　コンクリートブロック積（張）工 |

| 工　種　名 | ブロック質量<br>又は種類 | 基礎砕石の<br>有無 | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|---|---|
| コンクリートブロック積 | － | － | 13m2／日 |
| 大型ブロック積 | － | － | 42m2／日 |
| 間知ブロック張<br>平ブロック張<br>連節ブロック張 | 150kg／個未満 | － | 41m2／日 |
| | 150kg／個以上 | － | 92m2／日 |
| 緑化ブロック積 | 150kg／個未満 | － | 13m2／日 |
| | 150kg／個以上 | － | 24m2／日 |
| 胴込・裏込コンクリート | 間知・緑化ブロック | － | 9.1m3／日 |
| | 大型ブロック | － | 20m3／日 |
| 胴込・裏込材（砕石） | 間知・平・連節・緑化ブロック | － | 20m3／日 |
| | 大型ブロック | － | 50m3／日 |
| 遮水シート張 | － | － | 500m2／日 |
| 吸出し防止材（全面）設置 | － | － | 500m2／日 |
| 植樹 | － | － | 340本／日 |
| 現場打基礎コンクリート | － | 有り | 3.7m3／日 |
| | － | 無し | 4.5m3／日 |
| 天端コンクリート | － | － | 3.4m3／日 |
| プレキャスト基礎ブロック | － | － | 20m／日 |

（注）１．上表の作業日当り標準作業量には，次の作業を含む。

・コンクリートブロック積，大型ブロック積，間知ブロック張，平ブロック張，連節ブロック張

･･･ブロック積（張），裏込・胴込CO，裏込材までの一連作業

・緑化ブロック積

･･･緑化ブロック積，胴込CO，裏込材，客土までの一連作業

・植樹

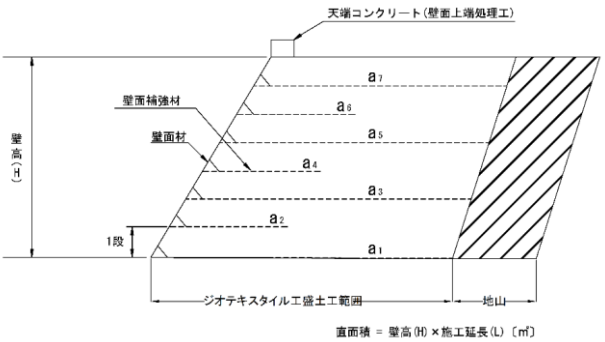
･･･植樹作業のみ

２．ブロック積（張）は，裏込・胴込CO，裏込材を施工しない場合も上表による。

３．緑化ブロック積は，胴込CO，裏込材，客土を施工しない場合も上表による。

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>石積（張）工</td><td>
① 石積（張）工
<table>
<tr><th>積張の区分</th><th>工種の区分</th><th>石の種類</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>積工</td><td>練石</td><td>玉石，雑割石</td><td>19m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">張工</td><td>練石</td><td>玉石，雑割石</td><td>31m2／日</td></tr>
<tr><td>空石</td><td>玉石</td><td>31m2／日</td></tr>
</table>
（注） 石積（張）工は，裏込・胴込CO，裏込材を施工しない場合も上表による。<br><br>
② 胴込・裏込コンクリート
<table>
<tr><th>積張の区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>積工</td><td>8.3 m3／日</td></tr>
<tr><td>張工</td><td>9.1 m3／日</td></tr>
</table>
<br>
③ 裏込材（クラッシャラン）
<table>
<tr><th>積張の区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>積工</td><td>8.3 m3／日</td></tr>
<tr><td>張工</td><td>11 m3／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>平石張工</td><td>
① 平石張
<table>
<tr><th>作業区分</th><th>平石の形状区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">舗装・床張り</td><td>乱形</td><td>21 m2／日</td></tr>
<tr><td>方形</td><td>28 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">階　　段</td><td>乱形</td><td>10 m2／日</td></tr>
<tr><td>方形</td><td>18 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">壁　張　り</td><td>乱形</td><td>13 m2／日</td></tr>
<tr><td>方形</td><td>11 m2／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>場所打擁壁工（１）</td><td>①　場所内擁壁
<table>
<tr><th colspan="2">区　　分</th><th>作業日当り標準作業量（m3／日）</th></tr>
<tr><td rowspan="3">小型擁壁(A)</td><td>0.5m以上0.6m未満</td><td>0.8</td></tr>
<tr><td>0.6m以上0.8m未満</td><td>1.0</td></tr>
<tr><td>0.8m以上1.0m以下</td><td>1.1</td></tr>
<tr><td rowspan="3">小型擁壁(B)</td><td>0.5m以上0.6m未満</td><td>0.8</td></tr>
<tr><td>0.6m以上0.8m未満</td><td>0.9</td></tr>
<tr><td>0.8m以上1.0m以下</td><td>1.0</td></tr>
<tr><td rowspan="2">重力式擁壁</td><td>1m超え２m未満</td><td>5.7</td></tr>
<tr><td>２m以上５m以下</td><td>7.8（7.5）</td></tr>
<tr><td>もたれ式擁壁</td><td>３mから８mまで</td><td>6.3（6.3）</td></tr>
<tr><td>逆Ｔ型擁壁</td><td>３mから10mまで</td><td>5.2（5.0）</td></tr>
<tr><td>Ｌ型擁壁</td><td>３mから７mまで</td><td>4.2（4.0）</td></tr>
</table>
(注)１．上表の作業日当り標準作業量には，次の作業が含まれている。<br>・基礎材敷均し・転圧<br>・均し型枠製作設置・撤去・均しコンクリート打設・養生<br>・コンクリート打設・養生<br>・型枠製作・設置，撤去<br>・鉄筋加工・組立<br>・足場設置・撤去<br>・目地材設置<br>・水抜きパイプ設置<br>・吸出し防止材設置<br>２．上表の作業日当り標準作業量は，基礎材，均しコンクリート，足場の施工の有無，足場形式（枠組足場，単管足場，手摺先行型枠組足場），目地材，水抜きパイプ，吸出し防止材の施工の有無にかかわらず適用出来る。<br>なお，手摺先行型枠組足場を使用する場合は，(　) 書きの数値を適用する。<br>３．小型擁壁の場合，小型擁壁（A），（B）を問わず適用出来る。<br>４．コンクリート養生は，散水，保温を問わず適用できる。<br>５．上表の作業日当り標準作業量は，擁壁本体コンクリート換算値である。</td></tr>
<tr><td>場所打擁壁工（２）</td><td>①　コンクリート（場所打擁壁）
<table>
<tr><th>作　　業　　種　　別</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>コンクリートポンプ車打設</td><td>80m3／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>プレキャスト擁壁工</td><td>①　プレキャスト擁壁設置
<table>
<tr><td>プレキャスト擁壁<br>高さ（m）</td><td>0.5 以上<br>1.0 以下</td><td>1.0 を超え<br>2.0 以下</td><td>2.0 を超え<br>3.5 以下</td><td>3.5 を超え<br>5.0 以下</td></tr>
<tr><td>作業日当り<br>標準作業量</td><td>33m／日</td><td>26m／日</td><td>22m／日</td><td>17m／日</td></tr>
</table>
(注)運搬距離 10m程度までの現場内小運搬を含んでいるが，床掘り，埋戻し，雑工種（基礎砕石，均しコンクリート），残土処理は含まない。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>補強土壁工<br>（帯鋼補強土壁，アンカー補強土壁）</td><td>
① 補強土壁壁面材組立・設置
<table>
<tr><th colspan="2">作　業　種　別</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>帯鋼補強土壁</td><td>帯鋼補強土壁（１）</td><td>40.0m2／日</td></tr>
<tr><td colspan="2">アンカー補強土壁</td><td>33.3m2／日</td></tr>
</table>
② 補強材取付
<table>
<tr><th colspan="2">作　業　種　別</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>帯鋼補強土壁</td><td>帯鋼補強土壁（１）</td><td>227m／日</td></tr>
<tr><td colspan="2">アンカー補強土壁</td><td>116m／日</td></tr>
</table>
③ まき出し・敷均し，締固め
<table>
<tr><th colspan="2">作　業　種　別</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>帯鋼補強土壁</td><td>帯鋼補強土壁（１）</td><td>172m3／日</td></tr>
<tr><td colspan="2">アンカー補強土壁</td><td>172m3／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>ジオテキスタイル工</td><td>
① 壁面材組立・設置
<table>
<tr><th>壁　面　材　種　類</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>算出面積</th></tr>
<tr><td>鋼製ユニット</td><td>59m2／日</td><td>直面積</td></tr>
</table>
② ジオテキスタイル敷設
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>120m2／日</td></tr>
</table>
（注）１．敷設面積には，壁面補強材の面積も含み，巻込み部の面積は含まないものとする。<br>
２．ジオテキスタイルの敷設面積の算出については，次式のとおりとする。<br>
ジオテキスタイル敷設面積(m2)＝a1 ＋a2 ＋a3 ･･･<br>
a1，a2，a3…：ジオテキスタイル工１段当り敷設面積（m2）（参考図参照）
③ まき出し・敷均し，締固め
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>89 m3／日</td></tr>
</table>
（注）１．上表は，ジオテキスタイル工１段当りのまき出し厚さ及び締固め回数に関係なく適用出来る。<br>
２．水平排水材，層厚管理材の有無にかかわらず適用出来る。
［参考図］ジオテキスタイル工標準断面図


</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>構造物補修工(ひび割れ補修工（充てん工法))</td><td>①　ひび割れ補修工（充てん工法）
<table>
<tr><th colspan="2">数　量</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1 構造物当り補修延べ延長</td><td>20m 未満の場合</td><td>13.9m／日</td></tr>
<tr><td>20m 以上の場合</td><td>20.1m／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>構造物補修工(ひび割れ補修工(低圧注入工法))</td><td>①　ひび割れ補修工（低圧注入工法）
<table>
<tr><th colspan="2">数　量</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1 構造物当り補修延べ延長</td><td>25m 未満の場合</td><td>13.4m／日</td></tr>
<tr><td>25m 以上の場合</td><td>25.6m／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>構造物補修工(断面修復工（左官工法）</td><td>①　鉄筋ケレン・防錆処理を含む
<table>
<tr><th colspan="2">数　量</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1 構造物当り補修延べ体積</td><td>0.1m3 未満の場合</td><td>0.020m3／日</td></tr>
<tr><td>0.1m3 以上の場合</td><td>0.069m3／日</td></tr>
</table>
①　鉄筋ケレン・防錆処理を含まない
<table>
<tr><th colspan="2">数　量</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1 構造物当り補修延べ体積</td><td>0.1m3 未満の場合</td><td>0.024m3／日</td></tr>
<tr><td>0.1m3 以上の場合</td><td>0.081m3／日</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>排水構造物工</td><td>
① ヒューム管<br>
（1） ヒューム管単体
<table>
<tr><td>管　　径（㎜）</td><td>200 250<br>300 350</td><td>400 450<br>500 600</td><td>700 800<br>900 1,000</td><td>1,100 1,200<br>1,350</td></tr>
<tr><td>作業日当り標準作業量<br>（m／日）</td><td>50</td><td>25</td><td>17</td><td>14</td></tr>
</table>
（注）撤去の作業日当り標準作業量は，上表×２とする。<br><br>
（2） ヒューム管＋ヒューム管用巻きコンクリート
<table>
<tr><td colspan="2">管　　径（㎜）</td><td>200 250<br>300 350</td><td>400 450<br>500 600</td><td>700 800<br>900 1,000</td><td>1,100 1,200<br>1,350</td></tr>
<tr><td rowspan="3">作業日当り<br>標準作業量<br>（m／日）</td><td>90° 巻き</td><td>8</td><td>6</td><td>4</td><td>3</td></tr>
<tr><td>180° 巻き</td><td>7</td><td>5</td><td>3</td><td>2</td></tr>
<tr><td>360° 巻き</td><td>5</td><td>3</td><td>2</td><td>―</td></tr>
</table>
（注）１．上表②の作業日当り標準作業量には，次の作業が含まれている。<br>
・基礎材敷均し・転圧<br>
・ヒューム管設置<br>
・コンクリート打設・養生<br>
・型枠製作・設置，撤去<br>
・鉄筋加工・組立<br>
２．上表②の作業日当り標準作業量は，基礎砕石の有無にかかわらず適用出来る。<br>
３．コンクリート養生は，散水，保温を問わず適用する。<br>
４．上表②の作業日当り標準作業量は，ヒューム管設置延長換算値である。<br><br>
② ボックスカルバート<br>
（1） ボックスカルバート単体
<table>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="9">PC 鋼材を使用しない場合</td></tr>
<tr><td>製 品 長 （ m ）</td><td colspan="2">1.0</td><td colspan="4">1.5</td><td colspan="3">2.0</td></tr>
<tr><td>枠　　番　　号</td><td>④</td><td>⑤</td><td>②</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td><td>①</td><td>②③</td><td>④</td></tr>
<tr><td>作業日当り標準作業量<br>（m／日）</td><td>6</td><td>3</td><td>8</td><td>6</td><td>4</td><td>3</td><td>17</td><td>11</td><td>9</td></tr>
</table>
<table>
<tr><td colspan="7">PC 鋼材による縦連結の場合</td></tr>
<tr><td colspan="4">1.5</td><td colspan="3">2.0</td></tr>
<tr><td>②</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td><td>①</td><td>②③</td><td>④</td></tr>
<tr><td>4</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>13</td><td>8</td><td>5</td></tr>
</table>
（注）撤去の作業日当り標準作業量は，上表×２とする。
</td></tr>
</table>

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 排水構造物工 | |

（2）　ボックスカルバート＋雑工種（基礎砕石・均しコンクリート）

| 区　　分 | PC 鋼材を使用しない場合 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 製 品 長 （ m ） | 1.0 | | 1.5 | | | | 2.0 | | | |
| 枠　　番　　号 | ④ | ⑤ | ② | ④ | ⑤ | ⑥ | ① | ② | ③ | ④ |
| 作業日当り標準作業量（m／日） | 4 | 2 | 4 | 4 | 2 | 2 | 10 | 5 | 7 | 4 |

| 区　　分 | PC 鋼材による縦連結の場合 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 製 品 長 （ m ） | 1.5 | | | | 2.0 | | | |
| 枠　　番　　号 | ② | ④ | ⑤ | ⑥ | ① | ② | ③ | ④ |
| 作業日当り標準作業量（m／日） | 3 | 3 | 2 | 1 | 9 | 4 | 5 | 3 |

（注）1．上表②の作業日当り標準作業量には，次の作業が含まれている。
・基礎材敷均し・転圧
・均し型枠製作・設置，撤去・均しコンクリート打設・養生
・ボックスカルバート設置
2．上表②の作業日当り標準作業量は，ボックスカルバート設置延長換算値である。
3．上表の枠番号①～⑥区分は，ボックスカルバート内空幅・内空高区分の図による。

③　暗渠排水管

| 区　　分 | 直　　管 | | 波・網状管 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 管　　径（㎜） | 50～150 | 200～400 | 50～150 | 200～400 | 450～600 |
| 作業日当り標準作業量(m／日) | 250 | 125 | 429 | 273 | 150 |

（注）撤去の作業日当り標準作業量は，上表×２とする。

④　フィルター材

| 作業日当り標準作業量 | 36m3／日 |
|---|---|

⑤　管（函）渠型側溝

（1）　管（函）渠型側溝単体

| 製　　品　　長　（m） | 2.0 | |
|---|---|---|
| 内 径 又 は 内 空 幅　（㎜） | 200 以上 400 以下 | 400 を超え 600 以下 |
| 作業日当り標準作業量(m／日) | 33 | 17 |

（注）撤去の作業日当り標準作業量は，上表×２とする。

（2）　管（函）渠型側溝＋基礎砕石

| 製　　品　　長　（m） | 2.0 | |
|---|---|---|
| 内 径 又 は 内 空 幅　（㎜） | 200 以上 400 以下 | 400 を超え 600 以下 |
| 作業日当り標準作業量(m／日) | 29 | 16 |

（注）1．上表②の作業日当り標準作業量には，次の作業が含まれている。
・基礎材敷均し・転圧
・管（函）渠型側溝設置
2．上表②の作業日当り標準作業量は，管（函）渠型側溝設置延長換算値である。

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 排水構造物工 | ⑥　プレキャスト集水桝 |

（１）　集水桝単体

| 製品質量（kg／基） | 50以上80以下 | 80を超え200以下 | 200を超え400以下 | 400を超え600以下 | 600を超え800以下 | 800を超え1,200以下 | 1,200を超え1,600以下 | 1,600を超え2,200以下 | 2,200を超え2,800以下 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 作業日当り標準作業量（基／日） | 250 | 125 | 50 | 33 | 25 | 20 | 17 | 13 | 10 |

（注）撤去の作業日当り標準作業量は，上表×２とする。

（２）　集水桝＋基礎砕石

| 製品質量（kg／基） | 50以上80以下 | 80を超え200以下 | 200を超え400以下 | 400を超え600以下 | 600を超え800以下 | 800を超え1,200以下 | 1,200を超え1,600以下 | 1,600を超え2,200以下 | 2,200を超え2,800以下 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 作業日当り標準作業量（基／日） | 143 | 91 | 42 | 29 | 22 | 17 | 15 | 11 | 9 |

（注）１．上表②の作業日当り標準作業量には，次の作業が含まれている。
・基礎材敷均し・転圧
・集水桝設置
２．上表②の作業日当り標準作業量は，集水桝設置数量換算値である。

⑦　鉄筋コンクリート台付管

（１）　鉄筋コンクリート台付管単体

| 管　　径（㎜） | 200　250<br>300 | 350　400<br>450　500 | 600　700<br>800 | 900　1,000<br>1,100　1200 |
|---|---|---|---|---|
| 作業日当り標準作業量（m／日） | 50 | 33 | 25 | 17 |

（注）撤去の作業日当り標準作業量は，上表×２とする。

（２）　鉄筋コンクリート台付管＋基礎砕石

| 管　　径（㎜） | 200　250<br>300 | 350　400<br>450　500 | 600　700<br>800 | 900　1,000<br>1,100　1200 |
|---|---|---|---|---|
| 作業日当り標準作業量（m／日） | 44 | 29 | 23 | 16 |

（注）１．上表②の作業日当り標準作業量には，次の作業が含まれている。
・基礎材敷均し・転圧
・鉄筋コンクリート台付管設置
２．上表②の作業日当り標準作業量は，鉄筋コンクリート台付管設置延長換算値である。

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 排水構造物工 | ⑧　プレキャストＬ形側溝 |

（１）　Ｌ形側溝単体

| 製　　品　　長（m） | 0.6 |
|---|---|
| 作業日当り標準作業量(m／日) | 33 |

（注）撤去の作業日当り標準作業量は，上表×２とする。

（２）　Ｌ形側溝＋基礎砕石

| 製　　品　　長（m） | 0.6 |
|---|---|
| 作業日当り標準作業量(m／日) | 29 |

（注）１．上表②の作業日当り標準作業量には，次の作業が含まれている。
・基礎材敷均し・転圧
・Ｌ形側溝設置
２．上表②の作業日当り標準作業量は，Ｌ形側溝設置延長換算値である。

⑨　プレキャストマンホール

| 製　品　質　量　（kg／基） | 2，000 以下 | 2，000 を超え 4，000 以下 |
|---|---|---|
| 作業日当り標準作業量(基／日) | 4 | 3 |

（注）１．上表の作業日当り標準作業量には，次の作業が含まれている。
・基礎材敷均し・転圧
・マンホール設置
２．作業日当り標準作業量は，基礎材の有無にかかわらず適用出来る。
３．上表の作業日当り標準作業量は，マンホール設置数量換算値である。
４．撤去の作業日当り標準作業量は，上表×２とする。

⑩　ＰＣ管

| 管径 | 作業日当り標準作業量 | | |
|---|---|---|---|
| | 固定基礎 | | |
| | 90°巻き | 180°巻き | 無し |
| 600mm | 13m/日 | 8.0m/日 | 50m/日 |
| 700mm | 9m/日 | 6.1m/日 | 33m/日 |
| 800mm | 8.3m/日 | 5.3m/日 | 33m/日 |
| 900mm | 7.7m/日 | 4.7m/日 | 33m/日 |
| 1000mm | 6.8m/日 | 4.3m/日 | 33m/日 |
| 1100mm | 5.7m/日 | 3.5m/日 | 33m/日 |
| 1200mm | 5.3m/日 | 3.2m/日 | 33m/日 |
| 1350mm | 4.4m/日 | 2.8m/日 | 25m/日 |
| 1500mm | 4.0m/日 | 2.5m/日 | 25m/日 |
| 1650mm | 3.4m/日 | 2.0m/日 | 25m/日 |
| 1800mm | 3.0m/日 | 1.8m/日 | 20m/日 |

（注）１．上表の作業日当り標準作業量には，PC 管の設置，基礎砕石，巻きコンクリート（コンクリート，型枠）の作業を含む。
２．各作業間の重複作業は考慮していない。
３．撤去（ＰＣ管単体）の作業日当り標準作業量は，上表の「無し」×２とする。ただし，管径 2000mm の撤去は，作業日当り標準作業量 40m/日とする。

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>排水構造物工</td><td>
⑪　コルゲートパイプ
<table>
<tr><th>規格</th><th>パイプ径</th><th>型式</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="6">フランジ型</td><td>250～600mm</td><td rowspan="6">円形</td><td>38 m/日</td></tr>
<tr><td>750～900mm</td><td>24 m/日</td></tr>
<tr><td>1000～1200mm</td><td>22 m/日</td></tr>
<tr><td>1300mm</td><td>18 m/日</td></tr>
<tr><td>1500～1600mm</td><td>16 m/日</td></tr>
<tr><td>1800～2200mm</td><td>11 m/日</td></tr>
<tr><td rowspan="10">ラップ型</td><td rowspan="2">2000mm</td><td>円形</td><td>6.9 m/日</td></tr>
<tr><td>アーチ形</td><td>12 m/日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2500mm</td><td>円形</td><td>6.3 m/日</td></tr>
<tr><td>アーチ形</td><td>10 m/日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3000mm</td><td>円形</td><td>4.9 m/日</td></tr>
<tr><td>アーチ形</td><td>8.1 m/日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3500mm</td><td>円形</td><td>3.9 m/日</td></tr>
<tr><td>アーチ形</td><td>6.5 m/日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4000mm</td><td>円形</td><td>3.4 m/日</td></tr>
<tr><td>アーチ形</td><td>5.7 m/日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4500mm</td><td>円形</td><td>2.4 m/日</td></tr>
<tr><td>アーチ形</td><td>4.0 m/日</td></tr>
</table>
（注）１．作業日当り標準作業量は，普通作業員 10 名の場合。<br>
２．撤去の作業日当り標準作業量は，上表×２とする。<br><br>
⑫　コルゲートフリューム
<table>
<tr><th>規格</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th><th>規格</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td>350×350mm</td><td>100 m/日</td><td>700×700mm</td><td>50 m/日</td></tr>
<tr><td>400×400mm</td><td>100 m/日</td><td>800×750mm</td><td>50 m/日</td></tr>
<tr><td>500×500mm</td><td>100 m/日</td><td>900×800mm</td><td>50 m/日</td></tr>
<tr><td>600×600mm</td><td>100 m/日</td><td>1000×850mm</td><td>50 m/日</td></tr>
</table>
（注）撤去の作業日当り標準作業量は，上表×２とする。
</td></tr>
<tr><td>排水構造物工（管（函）渠型側溝・溶接金網及び埋設鋼板型枠）</td><td>
①　管（函）渠型側溝据付
<table>
<tr><th>規格</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>長さ1，000mm［質量200kg以上1，000kg以下］</td><td>17 m/日</td></tr>
<tr><td>長さ2，430mm［質量400kg以上1，200kg以下］</td><td>50 m/日</td></tr>
</table>
（注）１．上表の作業日当り標準作業量には，床堀り，基面整正，基礎（敷コンクリート，敷モルタル，砕石基礎），埋戻しは含まない。<br>
２．撤去の作業日当り標準作業量は，上表×２とする。<br><br>
②　溶接金網（現場打側溝蓋補強用）設置
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>500 m2／日</td></tr>
</table>
③　埋設鋼板型枠（現場打側溝蓋用）
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>143 m2／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 排水構造物工（現場打ち水路（本体)) | ① 現場打ち水路(本体) |

| コンクリート打設工法 | 鉄筋の有無 | 10m当りｺﾝｸﾘｰﾄ使用量 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|---|
| バックホウ（クレーン機能付）打設 | 無し | 3.0m3/10m以上4.2m3/10m以下 | 4 m/日 |
| | | 4.2m3/10m超え7.4m3/10m以下 | 3 m/日 |
| | | 7.4m3/10m超え9.0m3/10m以下 | 2 m/日 |
| | 有り | 3.6m3/10m以上5.0m3/10m以下 | 3 m/日 |
| | | 5.0m3/10m超え8.1m3/10m以下 | 2 m/日 |
| 人力打設 | 無し | 3.0m3/10m以上3.3m3/10m以下 | 4 m/日 |
| | | 3.3m3/10m超え6.0m3/10m以下 | 3 m/日 |
| | | 6.0m3/10m超え9.0m3/10m以下 | 2 m/日 |
| | 有り | 3.6m3/10m以上4.4m3/10m以下 | 3 m/日 |
| | | 4.4m3/10m超え7.7m3/10m以下 | 2 m/日 |
| | | 7.7m3/10m超え8.1m3/10m以下 | 1 m/日 |

（注）１．上表の作業日当り標準作業量には，コンクリート打設，型枠設置・撤去，鉄筋加工・組立，目地材設置，基礎材設置の作業を含む。
２．各作業間の重複作業は考慮していない。
３．養生工は，現場，施工条件等により別途考慮する。

（参考）各作業単独の場合の作業量

| 作　業　名 | | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|
| 基礎材設置 | | 155 m2/日 |
| 目地板設置 | | 14 m2/日 |
| 鉄筋加工･組立 | | 3.5 t/日 |
| 型枠設置・撤去 | | 15 m2/日 |
| コンクリート打設 | バックホウ（クレーン機能付）打設 | 8 m3/日 |
| | 人力打設 | 5 m3/日 |

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 排水構造物工（現場打ち集水桝・街渠桝（本体)) | ① 現場打ち集水桝・街渠桝(本体) |

| コンクリート打設工法 | 1箇所当りｺﾝｸﾘｰﾄ使用量 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|
| バックホウ（クレーン機能付）打設 | 0.20m3以上0.22m3以下 | 4 箇所/日 |
| | 0.22m3超え0.38m3以下 | 3 箇所/日 |
| | 0.38m3超え0.77m3以下 | 2 箇所/日 |
| | 0.77m3超え1.03m3以下 | 1 箇所/日 |
| | 1.03m3超え1.80m3以下 | 2 箇所/日 |
| | 1.80m3超え3.42m3以下 | 1 箇所/日 |
| 人力打設 | 0.20m3以上0.36m3以下 | 3 箇所/日 |
| | 0.36m3超え0.69m3以下 | 2 箇所/日 |
| | 0.69m3超え1.03m3以下 | 1 箇所/日 |
| | 1.03m3超え1.29m3以下 | 2 箇所/日 |
| | 1.29m3超え3.42m3以下 | 1 箇所/日 |

（注）１．上表の作業日当り標準作業量には，コンクリート打設，型枠設置・撤去，基礎材設置の作業を含む。
２．各作業間の重複作業は考慮していない。
３．養生工は，現場，施工条件等により別途考慮する。

（参考）各作業単独の場合の作業量

| 作　業　名 | | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|
| 基礎材設置 | | 155m2/日 |
| 型枠設置・撤去(1箇所当りｺﾝｸﾘｰﾄ使用量1.03m3以下) | | 15m2/日 |
| 型枠設置・撤去(1箇所当りｺﾝｸﾘｰﾄ使用量1.03m3超え) | | 38m2/日 |
| コンクリート打設 | バックホウ（クレーン機能付）打設 | 8m3/日 |
| | 人力打設(1箇所当りｺﾝｸﾘｰﾄ使用量1.03m3以下) | 5m3/日 |
| | 人力打設(1箇所当りｺﾝｸﾘｰﾄ使用量1.03m3超え) | 4m3/日 |

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>サンドマット工</td><td>①　サンドマット<br><table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>560m3／日</td></tr></table><br>②　安定シート・ネット<br><table><tr><td>シート種類</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr><tr><td>シート</td><td>1，000 m2／日</td></tr><tr><td>ネット</td><td>400 m2／日</td></tr></table>（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。</td></tr>
<tr><td>粉体噴射撹拌工（ＤＪＭ工法）</td><td>①　粉体噴射撹拌<br>１日当り杭施工本数<br><table><tr><td>打設長ℓ(m)</td><td>現場制約有り<br>（単軸施工）</td><td>打設長ℓ(m)</td><td>現場制約無し<br>（二軸施工）</td></tr><tr><td>3mを超え 6m未満</td><td>14 本／日</td><td>3mを超え 6m未満</td><td>28 本／日</td></tr><tr><td>6m以上 10m未満</td><td>10 本／日</td><td>6m以上 10m未満</td><td>22 本／日</td></tr><tr><td>10m以上 14m未満</td><td>7 本／日</td><td>10m以上 15m未満</td><td>16 本／日</td></tr><tr><td>14m以上 17m未満</td><td>6 本／日</td><td>15m以上 20m未満</td><td>12 本／日</td></tr><tr><td>17m以上 20m以下</td><td>5 本／日</td><td>20m以上 27m未満</td><td>10 本／日</td></tr><tr><td></td><td></td><td>27m以上 33m以下</td><td>8 本／日</td></tr></table>（注）１．施工本数は杭間の移動，位置決め，貫入，引抜き（改良材噴射）までの一連の作業のものである。<br>２．二軸施工の１日当り杭施工本数は，１軸当り１本とする。<br><br>②　粉体噴射撹拌（移設）<br><table><tr><td>施工方法</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr><tr><td>単軸施工</td><td>1.7 回／日</td></tr><tr><td>二軸施工</td><td>1.4 回／日</td></tr></table><br>③　粉体噴射撹拌（軸間変更）<br><table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>0.77 回／日</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>スラリー撹拌工</td><td>①　スラリー撹拌工　･･･　該当工種の基準内に記載。<br><br>②　スラリープラント現場内移設<br><table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>0.71 回／日</td></tr></table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>高圧噴射攪拌工</td><td>
① 単管工法 ･･･ 該当工種の計算式（1日当り施工本数）を参照。<br><br>
施工条件の例
<table>
<tr><td>杭　径</td><td>800 ㎜</td><td>1，100 ㎜</td></tr>
<tr><td>セット数</td><td>4セット</td><td>2セット</td></tr>
<tr><td>削孔長</td><td>15m</td><td>15m</td></tr>
<tr><td>注入長</td><td>10m</td><td>10m</td></tr>
<tr><td>改良対象土質</td><td>粘性土</td><td>粘性土</td></tr>
<tr><td>改良対象土質の<br>最大N値</td><td>0</td><td>0</td></tr>
</table>
<table>
<tr><th>作　業　種　別</th><th>杭　　径</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">単管工法</td><td>700 ㎜以上 800 ㎜以下</td><td>17 本／日</td></tr>
<tr><td>800 ㎜を超え 1,100 ㎜以下</td><td>9 本／日</td></tr>
</table>
② 二重管工法 ･･･ 該当工種の計算式（1日当り施工本数）を参照。<br>
施工条件の例　杭　　径：1,800 ㎜<br>
セ ッ ト 数：1セット<br>
削　孔　長：15m<br>
注　入　長：5m<br>
改良対象土質：砂質土<br>
改良対象土質の最大N値：15
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>1本／日</td></tr>
</table>
③ 三重管工法 ･･･ 該当工種の計算式（1日当り施工本数）を参照。<br>
施工条件の例　杭　　径：2,000 ㎜<br>
セ ッ ト 数：1セット<br>
削　孔　長：15m<br>
注　入　長：5m<br>
改良対象土質：砂質土<br>
改良対象土質の最大N値：15
<table>
<tr><th colspan="2">作　業　種　別</th><th>作業日当り標準業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">三重管工法</td><td>削孔</td><td>1本／日</td></tr>
<tr><td>注入</td><td>3本／日</td></tr>
</table>
④ 注入設備据付・解体，注入設備移設 ･･･ 該当工種の基準内に記載。（施工日数）
</td></tr>
<tr><td>ペーパードレーン工</td><td>該当工種の計算式（1本当り施工時間）を参照。</td></tr>
<tr><td>中層混合処理工</td><td>該当工種の基準内に記載。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>薬液注入工</td><td>
① 二重管ストレーナ工法（単相） ･･･ 該当工種の計算式（1 日当り施工本数）を参照。<br>
施工条件の例　セット数：４セット<br>
削 孔 工：9.5m<br>
土 被 り：7.0m<br>
注 入 量：800ℓ<br>
土　　質：砂質土
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>12 本／日</td></tr>
</table>
② 二重管ストレーナ工法（複相） ･･･ 該当工種の計算式（1 日当り施工本数）を参照。<br>
施工条件の例　セット数：４セット<br>
削 孔 工：11.0m<br>
土 被 り： 7.0m<br>
注 入 量：一次注入・・800ℓ<br>
二次注入・1，200ℓ<br>
土　　質：砂質土
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>7 本／日</td></tr>
</table>
③ 二重管ダブルパッカー工法 ･･･ 該当工種の計算式（1 日当り施工本数）を参照。<br>
施工条件の例　セット数：２セット（削孔）４セット（一次・二次注入）<br>
削 孔 工：16.5m<br>
土 被 り： 6.0m<br>
注 入 量：一次注入・・530ℓ<br>
二次注入・3，300ℓ<br>
土　　質：砂質土
<table>
<tr><td>作　　業　　名</td><td>削　　孔</td><td>一次注入</td><td>二次注入</td></tr>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>5 本／日</td><td>20 本／日</td><td>4 本／日</td></tr>
</table>
（注）上表の作業日当り標準作業量は，機械準備・移動から引抜き・器具洗浄までの作業である。<br>
④ 注入設備据付・解体
<table>
<tr><th>注入方式</th><th>セット数</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">二重管ストレーナ工法</td><td>2セット</td><td>0.45 現場／日</td></tr>
<tr><td>4セット</td><td>0.34 現場／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">二重管ダブルパッカー工法（削孔）</td><td>1セット</td><td>0.67 現場／日</td></tr>
<tr><td>2セット</td><td>0.67 現場／日</td></tr>
<tr><td>二重管ダブルパッカー工法（注入）</td><td>4セット</td><td>0.31 現場／日</td></tr>
</table>
⑤ 注入設備移設
<table>
<tr><th>注入方式</th><th>セット数</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">二重管ストレーナ工法</td><td>2セット</td><td>0.73 回／日</td></tr>
<tr><td>4セット</td><td>0.50 回／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">二重管ダブルパッカー工法（削孔）</td><td>1セット</td><td>1.0 回／日</td></tr>
<tr><td>2セット</td><td>1.0 回／日</td></tr>
<tr><td>二重管ダブルパッカー工法（注入）</td><td>4セット</td><td>0.48 回／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| アンカー工<br>(ロータリーパーカッション式) | |

① 削孔（アンカー）

| 方式 | 足場の有無 | 呼び径 | 作業日当り標準作業量(m／日) | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 粘性土<br>砂質土 | ﾚｷ質土 | 玉石<br>混り土 | 軟岩 | 硬岩 |
| 単管 | 有り<br>(ｽｷｯﾄﾞ型) | 90mm | 48 | 32 | 22 | － | － |
| | | 115mm | 33 | 26 | 18 | － | － |
| | | 135mm | 26 | 22 | 15 | － | － |
| | 無し<br>(ｸﾛｰﾗ型) | 90mm | 53 | 36 | 24 | － | － |
| | | 115mm | 37 | 29 | 20 | － | － |
| | | 135mm | 29 | 24 | 17 | － | － |
| 二重管 | 有り<br>(ｽｷｯﾄﾞ型) | 90mm | 45 | 30 | 21 | 26 | 20 |
| | | 115mm | 28 | 23 | 16 | 20 | 16 |
| | | 135mm | 22 | 18 | 14 | 15 | 13 |
| | | 146mm | 19 | 16 | 12 | 14 | 10 |
| | 無し<br>(ｸﾛｰﾗ型) | 90mm | 50 | 33 | 24 | 29 | 22 |
| | | 115mm | 31 | 26 | 18 | 22 | 18 |
| | | 135mm | 24 | 20 | 15 | 17 | 14 |
| | | 146mm | 21 | 18 | 14 | 15 | 11 |

(注) 1．上表の作業日当り標準作業量は，ボーリングマシンの横移動を含む。
2．硬岩は，コンクリートを含む。
3．転石等土質条件が上表区分に適用しないと判断される場合は，別途検討する。
4．泥水処理が必要な場合は，別途計上する。

② アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理（アンカー）

| 防食方式 | アンカー鋼材種類 | 削孔長 | 設計荷重 | 作業日当り標準作業量（本／日） | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 頭部処理有り | 頭部処理無し |
| 二重防食 | PC 鋼線より線 | 10m 以内 | f＜400kN | 3.1 | 3.4 |
| | | | 400≦f＜1300kN | 2.5 | 2.8 |
| | | | 1300≦f＜2000kN | 2.2 | 2.4 |
| | | 10m を超える | f＜400kN | 2.7 | 2.9 |
| | | | 400≦f＜1300kN | 2.5 | 2.8 |
| | | | 1300≦f＜2000kN | 2.2 | 2.4 |
| | PC 鋼線より線(工場組立) | － | f＜400kN | 6.4 | 8.3 |
| | | | 400≦f＜1300kN | 5.8 | 7.1 |
| | | | 1300≦f＜2000kN | 4.3 | 5.1 |
| | 複合 PC 鋼線より線束 | 10m 以内 | f＜400kN | 5.0 | 6.0 |
| | | | 400≦f＜1300kN | 4.3 | 5.0 |
| | | | 1300≦f＜2000kN | 3.3 | 3.8 |
| | | 10m を超える | f＜400kN | 4.6 | 5.5 |
| | | | 400≦f＜1300kN | 4.1 | 4.7 |
| | | | 1300≦f＜2000kN | 3.2 | 3.6 |

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|

アンカー工
(ロータリーパーカッション式)

| 防食方式 | アンカー鋼材種類 | 削孔長 | 設計荷重 | 作業日当り標準作業量（本／日） | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 頭部処理有り | 頭部処理無し |
| 二重防食 | PC 鋼棒 | 10m 以内 | f＜400kN | 3.7 | 4.3 |
| | | | 400≦f＜1300kN | 3.5 | 3.9 |
| | | 10m を超える | f＜400kN | 3.7 | 4.3 |
| | | | 400≦f＜1300kN | 3.5 | 3.9 |
| 簡易防食 | PC 鋼線より線 | 10m 以内 | f＜400kN | 4.2 | 5.0 |
| | | | 400≦f＜1300kN | 3.2 | 3.6 |
| | | | 1300≦f＜2000kN | 2.2 | 2.4 |
| | | 10m を超える | f＜400kN | 4.0 | 4.6 |
| | | | 400≦f＜1300kN | 2.9 | 3.2 |
| | | | 1300≦f＜2000kN | 2.2 | 2.4 |
| | PC 鋼線より線(工場組立) | － | f＜400kN | 6.9 | 9.0 |
| | | | 400≦f＜1300kN | 6.1 | 7.6 |
| | | | 1300≦f＜2000kN | 4.5 | 5.4 |
| | PC 鋼棒 | 10m 以内 | f＜400kN | 4.6 | 5.5 |
| | | | 400≦f＜1300kN | 4.1 | 4.7 |
| | | 10m を超える | f＜400kN | 4.4 | 5.2 |
| | | | 400≦f＜1300kN | 3.9 | 4.5 |

（参考）各作業単独の場合の作業量

（1）アンカー鋼材加工・組立・挿入

1）削孔長：10m 以内

| 防食 | 種別 | 作業日当り標準作業量(本／日) | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 設計荷重（f）kN | | |
| | | f＜400 | 400≦f＜1，300 | 1，300≦f＜2，000 |
| 二重 | PC 鋼線より線 | 5 | 4 | 4 |
| | 複合 PC 鋼線より線束 | 13 | 11 | 10 |
| | PC 鋼棒 | 7 | 7 | － |
| 簡易 | PC 鋼線より線 | 9 | 6 | 4 |
| | PC 鋼棒 | 11 | 10 | － |

2）削孔長：10m 超え 20m 以内

| 防食 | 種別 | 作業日当り標準作業量(本／日) | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 設計荷重（f）kN | | |
| | | f＜400 | 400≦f＜1，300 | 1，300≦f＜2，000 |
| 二重 | PC 鋼線より線 | 4 | 4 | 4 |
| | 複合 PC 鋼線より線束 | 11 | 10 | 9 |
| | PC 鋼棒 | 7 | 7 | － |
| 簡易 | PC 鋼線より線 | 8 | 5 | 4 |
| | PC 鋼棒 | 10 | 9 | － |

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| アンカー工<br>(ロータリーパーカッション式) | |

3）削孔長：20m 超え

| 防食 | 種別 | 作業日当り標準作業量(本／日) | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 設計荷重（ｆ）kN | | |
| | | f ＜400 | 400≦ f ＜1，300 | 1，300≦ f ＜2，000 |
| 二重 | PC 鋼線より線 | 4 | 4 | 4 |
| | 複合 PC 鋼線より線束 | 10 | 9 | 8 |
| | PC 鋼棒 | 6 | 6 | － |
| 簡易 | PC 鋼線より線 | 7 | 5 | 4 |
| | PC 鋼棒 | 9 | 8 | － |

(注)１．上表の作業日当り標準作業量は，現場内小運搬を含む。
２．二重防食とは，腐食防護が二重になされたものをいい，簡易防食とは，腐食防護が二重になされていない簡易なものをいう。
３．ＰＣ鋼線より線及びＰＣ鋼棒の現場加工・組立は，シース，防錆材，止水部の取付である。
４．複合ＰＣ鋼線より線束の現地での加工・組立は，スペーサの取付けである。

（２）アンカー鋼材挿入(工場加工・組立)

1）削孔長：10m 以内

| 防食 | 種別 | 作業日当り標準作業量(本／日) | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 設計荷重（ｆ）kN | | |
| | | f ＜400 | 400≦ f ＜1，300 | 1，300≦ f ＜2，000 |
| 二重 | PC 鋼線より線 | 33 | 33 | 33 |
| 簡易 | PC 鋼線より線 | 50 | 50 | 50 |

2）削孔長：10m 超え 20m 以内

| 防食 | 種別 | 作業日当り標準作業量(本／日) | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 設計荷重（ｆ）kN | | |
| | | f ＜400 | 400≦ f ＜1，300 | 1，300≦ f ＜2，000 |
| 二重 | PC 鋼線より線 | 23 | 23 | 23 |
| 簡易 | PC 鋼線より線 | 30 | 30 | 30 |

3）削孔長：20m 超え

| 防食 | 種別 | 作業日当り標準作業量(本／日) | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 設計荷重（ｆ）kN | | |
| | | f ＜400 | 400≦ f ＜1，300 | 1，300≦ f ＜2，000 |
| 二重 | PC 鋼線より線 | 19 | 19 | 19 |
| 簡易 | PC 鋼線より線 | 23 | 23 | 23 |

(注)１．上表は，現場内小運搬を含む。
２．二重防食とは，腐食防護が二重になされたものをいい，簡易防食とは，腐食防護が二重になされていない簡易なものをいう。
３．組立・加工については別途考慮する。

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>アンカー工<br>(ロータリーパーカッション式)</td><td>
（３）緊張・定着・頭部処理
<table>
<tr><td rowspan="3">定着方法</td><td rowspan="3">オイルキャップによる頭部処理</td><td colspan="3">作業日当り標準作業量(本／日)</td></tr>
<tr><td colspan="3">設計荷重（ｆ）kN</td></tr>
<tr><td>ｆ＜400</td><td>400≦ｆ＜1，300</td><td>1，300≦ｆ＜2，000</td></tr>
<tr><td rowspan="2">クサビ及びナット</td><td>有り</td><td>8</td><td>7</td><td>5</td></tr>
<tr><td>無し</td><td>11</td><td>9</td><td>6</td></tr>
</table>
③　グラウト注入(アンカー)
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>3.9m3／日</td></tr>
</table>
④　ボーリングマシン移設(アンカー)
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>2.9 回／日</td></tr>
</table>
⑤　足場（アンカー）
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>足場量 44 空 m3／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>構造物とりこわし工</td><td>
①　石積取壊し（人力）
<table>
<tr><th>形状</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>練積　控え 35cm 以上 45cm 未満</td><td>1.7 m2／日</td></tr>
<tr><td>空積　控え 45cm 未満</td><td>5.0 m2／日</td></tr>
<tr><td>空積　控え 45cm 以上 60cm 未満</td><td>4.3 m2／日</td></tr>
<tr><td>空積　控え 60cm 以上 90cm 未満</td><td>3.3 m2／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，特殊作業員１名の場合。
②　コンクリートはつり
<table>
<tr><th>平均はつり厚</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>3cm 以下</td><td>21 m2／日</td></tr>
<tr><td>3cm を超え 6cm 以下</td><td>13 m2／日</td></tr>
</table>
③　積込(コンクリート殻)
<table>
<tr><th>作　業　名</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>摘　　要</th></tr>
<tr><td>とりこわしコンクリート殻積込</td><td>260m3</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>コンクリート削孔工</td><td>
① コンクリート削孔（ハンマドリル 40 ㎜）
<table>
<tr><th>適用削孔径（㎜）</th><th>適用削孔深（㎜）</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">10 以上 30 未満</td><td>30 以上 200 未満</td><td>83 孔／日</td></tr>
<tr><td>200 以上 400 以下</td><td>63 孔／日</td></tr>
</table>
② コンクリート削孔（さく岩機）
<table>
<tr><th>適用削孔径（㎜）</th><th>適用削孔深（㎜）</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="8">30 以上 60 未満</td><td>100 以上 200 未満</td><td>67 孔／日</td></tr>
<tr><td>200 以上 300 未満</td><td>50 孔／日</td></tr>
<tr><td>300 以上 400 未満</td><td>40 孔／日</td></tr>
<tr><td>400 以上 600 未満</td><td>31 孔／日</td></tr>
<tr><td>600 以上 800 未満</td><td>24 孔／日</td></tr>
<tr><td>800 以上 1,000 未満</td><td>19 孔／日</td></tr>
<tr><td>1,000 以上 1,100 以下</td><td>17 孔／日</td></tr>
</table>
③ コンクリート削孔（コンクリート穿孔機）
<table>
<tr><th>適用削孔径（㎜）</th><th>適用削孔深（㎜）</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="5">60 以上 100 未満</td><td>50 以上 200 未満</td><td>12 孔／日</td></tr>
<tr><td>200 以上 400 未満</td><td>9.2 孔／日</td></tr>
<tr><td>400 以上 600 未満</td><td>7.4 孔／日</td></tr>
<tr><td>600 以上 800 未満</td><td>6.2 孔／日</td></tr>
<tr><td>800 以上 1,100 以下</td><td>5.1 孔／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">100 以上 200 以下</td><td>50 以上 200 未満</td><td>12 孔／日</td></tr>
<tr><td>200 以上 400 以下</td><td>9.2 孔／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>ガス切断工</td><td>①　ガス切断工<br><table><tr><th>名称</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>鋼管杭</td><td>13 箇所／日</td></tr><tr><td>H 鋼杭</td><td>14 箇所／日</td></tr><tr><td>鋼矢板</td><td>26 箇所／日</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>吸出し防止材設置工</td><td>①　吸出し防止材設置<br><table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>167 m2／日</td></tr></table>（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。</td></tr>
<tr><td>目地・止水板設置工</td><td>①　目地・止水板設置工<br><table><tr><th>作　　業　　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>目地板</td><td>14m2／日</td></tr><tr><td>止水板</td><td>14m／日</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>旧橋撤去工</td><td>①　高欄撤去<br><table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>131m／日</td></tr></table>（注）１．作業日当り標準作業量とは高欄の実撤去延長である。<br>２．作業日当り標準作業量は，高欄の切断から運搬車両への積込みまでであり，運搬については別途計上する。<br><br>②　アスファルト舗装版破砕・積込み<br><table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>32m3／日</td></tr></table>（注）上表の適用範囲の対象数量は，アスファルト舗装版のみの体積である。<br><br>③　床版１次破砕・撤去<br><table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>18m3／日</td></tr></table>（注）上表の適用範囲の対象数量は，床版の体積である。なお，コンクリート舗装版及びコンクリート高欄（壁高欄含む）の場合についても対象数量に含む。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>旧橋撤去工</td><td>
④　床版１次及び２次破砕・撤去
<table>
<tr><th>作　　業　　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>１　　次　　破　　砕</td><td>18 m3／日</td></tr>
<tr><td>２　　次　　破　　砕</td><td>127 m3／日</td></tr>
</table>
（注）１．１次破砕の作業内容は，床版を分割し作業半径内の１次仮置場に仮置する，もしくは直接積込む作業である。<br>
２．２次破砕の作業内容は，１次破砕後の床版を，おおよそ 30 cm× 30 cm程度までの破砕及び積込みである。<br><br>
⑤　桁１次切断・撤去
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>26ｔ／日</td></tr>
</table>
（注）１．桁１次切断・撤去の作業は，桁材の撤去及び積込みである。<br><br>
⑥　桁１次及び２次切断・撤去
<table>
<tr><th>作　　業　　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>桁　１　次　切　断　・　撤　去</td><td>26ｔ／日</td></tr>
<tr><td>２　　次　　切　　断</td><td>37ｔ／日</td></tr>
</table>
（注）１．桁１次切断・撤去の作業は，桁材の撤去及び積込みである。<br>
２．２次切断の作業は，切断，積込みである。<br><br>
⑦　アスファルト塊運搬
<table>
<tr><th>DID区間<br>の有無</th><th>運搬距離</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="17">無し</td><td>0.3km 以下</td><td>125 m3／日</td></tr>
<tr><td>0.5km 以下</td><td>111 m3／日</td></tr>
<tr><td>1.0km 以下</td><td>100 m3／日</td></tr>
<tr><td>1.5km 以下</td><td>83 m3／日</td></tr>
<tr><td>2.0km 以下</td><td>77 m3／日</td></tr>
<tr><td>3.0km 以下</td><td>63 m3／日</td></tr>
<tr><td>4.0km 以下</td><td>56 m3／日</td></tr>
<tr><td>5.5km 以下</td><td>45 m3／日</td></tr>
<tr><td>6.5km 以下</td><td>38 m3／日</td></tr>
<tr><td>7.5km 以下</td><td>33 m3／日</td></tr>
<tr><td>9.5km 以下</td><td>29 m3／日</td></tr>
<tr><td>11.5km 以下</td><td>26 m3／日</td></tr>
<tr><td>15.5km 以下</td><td>21 m3／日</td></tr>
<tr><td>22.5km 以下</td><td>17 m3／日</td></tr>
<tr><td>49.5km 以下</td><td>13 m3／日</td></tr>
<tr><td>60.0km 以下</td><td>8 m3／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>旧橋撤去工</td><td>
<table>
<tr><th>DID区間<br>の有無</th><th>運搬距離</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="16">有り</td><td>0.3km 以下</td><td>125 m3／日</td></tr>
<tr><td>0.5km 以下</td><td>111 m3／日</td></tr>
<tr><td>1.0km 以下</td><td>100 m3／日</td></tr>
<tr><td>1.5km 以下</td><td>83 m3／日</td></tr>
<tr><td>2.0km 以下</td><td>77 m3／日</td></tr>
<tr><td>3.0km 以下</td><td>63 m3／日</td></tr>
<tr><td>3.5km 以下</td><td>56 m3／日</td></tr>
<tr><td>5.0km 以下</td><td>45 m3／日</td></tr>
<tr><td>6.0km 以下</td><td>38 m3／日</td></tr>
<tr><td>7.0km 以下</td><td>33 m3／日</td></tr>
<tr><td>8.5km 以下</td><td>29 m3／日</td></tr>
<tr><td>11.0km 以下</td><td>26 m3／日</td></tr>
<tr><td>14.0km 以下</td><td>21 m3／日</td></tr>
<tr><td>19.5km 以下</td><td>17 m3／日</td></tr>
<tr><td>31.5km 以下</td><td>13 m3／日</td></tr>
<tr><td>60.0km 以下</td><td>8 m3／日</td></tr>
</table>
⑧　床版運搬
<table>
<tr><th>運搬距離</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>0.7km 以下</td><td>50 m3／日</td></tr>
<tr><td>2.2km 以下</td><td>33 m3／日</td></tr>
<tr><td>5.0km 以下</td><td>20 m3／日</td></tr>
<tr><td>7.9km 以下</td><td>14 m3／日</td></tr>
<tr><td>12.1km 以下</td><td>10 m3／日</td></tr>
<tr><td>17.8km 以下</td><td>7 m3／日</td></tr>
<tr><td>25.0km 以下</td><td>5 m3／日</td></tr>
<tr><td>34.9km 以下</td><td>4 m3／日</td></tr>
<tr><td>47.8km 以下</td><td>3 m3／日</td></tr>
<tr><td>60.0km 以下</td><td>2 m3／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>かご工</td><td>
①　かご工
<table>
<tr><th>かご種類</th><th>かご寸法(cm)</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>摘　　要</th></tr>
<tr><td rowspan="2">じゃかご</td><td>φ45</td><td>56m／日</td><td></td></tr>
<tr><td>φ60</td><td>31m／日</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">ふとんかご</td><td>高さ40×幅120</td><td>27m／日</td><td></td></tr>
<tr><td>高さ50×幅120</td><td>21m／日</td><td></td></tr>
<tr><td>高さ60×幅120</td><td>18m／日</td><td></td></tr>
</table>
（注）撤去の作業日当り標準作業量は，上表×２とする。<br><br>
②　止杭打込
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>17 本／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>発泡スチロールを用いた超軽量盛土工</td><td>
① 発泡スチロール設置及び壁面材設置
<table>
<tr><th>作　　業　　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>発泡スチロール設置</td><td>42 m3／日</td></tr>
<tr><td>壁 面 材 設 置</td><td>65 m2／日</td></tr>
</table>
（注）1．発泡スチロール設置には発泡スチロールブロックの緊結金具設置作業及び現場での発泡スチロールの加工作業を含む<br>
2．壁面材設置には壁面材の金具による固定作業及び壁面材頂部に取付ける天端目隠しプレートの取付け作業を含む。<br>
② コンクリート床版
<table>
<tr><th>作　　業　　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>コンクリートポンプ車打設</td><td>29m3／日</td></tr>
</table>
③ 支柱設置
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>18 本／日</td></tr>
</table>
④ 裏込砕石（軽量盛土）
<table>
<tr><th>付帯工の割合</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>付帯工無し</td><td>38 m3／日</td></tr>
<tr><td>0.1 以下</td><td>33 m3／日</td></tr>
<tr><td>0.1 を超え 0.2 以下</td><td>27 m3／日</td></tr>
<tr><td>0.2 を超え 0.3 以下</td><td>22 m3／日</td></tr>
<tr><td>0.3 を超え 0.4 以下</td><td>19 m3／日</td></tr>
<tr><td>0.4 を超え 0.5 以下</td><td>17 m3／日</td></tr>
<tr><td>0.5 を超え 0.6 以下</td><td>15 m3／日</td></tr>
<tr><td>0.6 を超え 0.7 以下</td><td>13 m3／日</td></tr>
<tr><td>0.7 を超え 0.8 以下</td><td>12 m3／日</td></tr>
<tr><td>0.8 を超え 0.9 以下</td><td>11 m3／日</td></tr>
<tr><td>0.9 を超え 1.0 以下</td><td>10 m3／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>現場取卸費</td><td>
① 現場取卸費
<table>
<tr><th>作業名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>現場取卸（鋼桁）</td><td>141 t／日</td></tr>
<tr><td>現場取卸（PC 桁）</td><td>11 本／日</td></tr>
<tr><td>現場取卸（鋼管杭）</td><td>244 t／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>骨材再生工（自走式）</td><td>
① 自走式破砕機設置・撤去工
<table>
<tr><th>作業区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>設置又は撤去</td><td>3.4 回／日</td></tr>
<tr><td>設置・撤去</td><td>1.7 回／日</td></tr>
</table>
② 骨材再生工　･･･　該当工種の基準内に記載。
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>函渠工（1）</td><td>①　函渠
<table>
<tr><th>内空寸法「(幅×高さ) m」</th><th>作業日当り<br>標準作業量<br>(m3／日)</th></tr>
<tr><td>幅：1.0 以上 2.5 未満かつ高さ：1.0 以上 2.5 未満</td><td>2.0</td></tr>
<tr><td>幅：2.5 以上 4.0 以下かつ高さ：1.0 以上 2.5 未満</td><td>3.4</td></tr>
<tr><td>幅：1.0 以上 2.5 未満かつ高さ：2.5 以上 4.0 以下</td><td>3.5</td></tr>
<tr><td>幅：2.5 以上 4.0 未満かつ高さ：2.5 以上 4.0 以下</td><td>3.9</td></tr>
<tr><td>幅：4.0 以上 5.5 未満かつ高さ：2.5 以上 4.0 未満</td><td>5.0</td></tr>
<tr><td>幅：5.5 以上 7.0 以下かつ高さ：2.5 以上 4.0 未満</td><td>5.9</td></tr>
<tr><td>幅：4.0 以上 5.5 未満かつ高さ：4.0 以上 5.5 未満</td><td>6.5</td></tr>
<tr><td>幅：5.5 以上 7.0 未満かつ高さ：4.0 以上 5.5 未満</td><td>7.5</td></tr>
<tr><td>幅：7.0 以上 8.5 未満かつ高さ：4.0 以上 5.5 以下</td><td>8.5</td></tr>
<tr><td>幅：8.5 以上 10.0 以下かつ高さ：4.0 以上 5.5 以下</td><td>10.0</td></tr>
<tr><td>幅：4.0 以上 5.5 未満かつ高さ：5.5 以上 7.0 以下</td><td>7.2</td></tr>
<tr><td>幅：5.5 以上 7.0 以下かつ高さ：5.5 以上 7.0 以下</td><td>8.4</td></tr>
</table>
(注) 1．上表の作業日当り標準作業量には，次の作業が含まれている。<br>・基礎材敷均し・転圧<br>・均し型枠製作・設置，撤去・均しコンクリート打設・養生<br>・コンクリート打設・養生<br>・型枠製作・設置，撤去<br>・鉄筋加工・組立<br>・足場設置，撤去・支保設置，撤去<br>・目地材設置・止水板設置<br>2．上表の作業日当り標準作業量は，作業の重複を考慮した１ブロックでの値であり，工程の算出に当っては，施工場所，ブロック数を考慮して決定するものとする。<br>3．上表の作業日当り標準作業量は，基礎材敷均し・転圧，均しコンクリート，足場の施工の有無，足場形式（枠組足場又は手摺先行型枠組足場）にかかわらず適用出来る。<br>4．コンクリート養生は，散水，保温を問わず適用する。<br>5．上表の作業日当り標準作業量は，本体コンクリート(函渠，ウイング，段落ち防止枕)換算値である。</td></tr>
<tr><td>函渠工（2）</td><td>①　コンクリート（場所内函渠）
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>102 ㎥／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>函渠工（3）<br>大型プレキャストボックスカルバート工</td><td>該当工種の基準内に記載。</td></tr>
</table>

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 殻運搬 | ① 殻運搬 |

| 殻発生作業 | 積込工法区分 | DID区間の有無 | 運搬距離 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|---|---|
| コンクリート（無筋・鉄筋）構造物とりこわし | 機械積込 | 無し | 0.3km以下 | 118m3/日 |
| | | | 0.5km以下 | 103m3/日 |
| | | | 1.0km以下 | 90m3/日 |
| | | | 1.5km以下 | 81m3/日 |
| | | | 2.0km以下 | 70m3/日 |
| | | | 3.0km以下 | 59m3/日 |
| | | | 4.0km以下 | 51m3/日 |
| | | | 5.5km以下 | 43m3/日 |
| | | | 6.5km以下 | 37m3/日 |
| | | | 7.5km以下 | 32m3/日 |
| | | | 9.5km以下 | 28m3/日 |
| | | | 11.5km以下 | 25m3/日 |
| | | | 15.5km以下 | 20m3/日 |
| | | | 22.5km以下 | 16m3/日 |
| | | | 49.5km以下 | 12m3/日 |
| | | | 60.0km以下 | 8m3/日 |
| | | 有り | 0.3km以下 | 118m3/日 |
| | | | 0.5km以下 | 103m3/日 |
| | | | 1.0km以下 | 90m3/日 |
| | | | 1.5km以下 | 81m3/日 |
| | | | 2.0km以下 | 70m3/日 |
| | | | 3.0km以下 | 59m3/日 |
| | | | 3.5km以下 | 51m3/日 |
| | | | 5.0km以下 | 43m3/日 |
| | | | 6.0km以下 | 37m3/日 |
| | | | 7.0km以下 | 32m3/日 |
| | | | 8.5km以下 | 28m3/日 |
| | | | 11.0km以下 | 25m3/日 |
| | | | 14.0km以下 | 20m3/日 |
| | | | 19.5km以下 | 16m3/日 |
| | | | 31.5km以下 | 12m3/日 |
| | | | 60.0km以下 | 8m3/日 |

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 殻運搬 | |

| 殻発生作業 | 積込工法区分 | DID区間の有無 | 運搬距離 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|---|---|
| コンクリート（無筋・鉄筋）構造物とりこわし | 人力積込 | 無し | 0.3km以下 | 15m3/日 |
| | | | 0.5km以下 | 14m3/日 |
| | | | 1.5km以下 | 13m3/日 |
| | | | 2.0km以下 | 11m3/日 |
| | | | 2.5km以下 | 10m3/日 |
| | | | 3.0km以下 | 9m3/日 |
| | | | 4.0km以下 | 8m3/日 |
| | | | 5.0km以下 | 7m3/日 |
| | | | 6.5km以下 | 6m3/日 |
| | | | 8.5km以下 | 5m3/日 |
| | | | 11.0km以下 | 4m3/日 |
| | | | 16.0km以下 | 3m3/日 |
| | | | 27.5km以下 | 3m3/日 |
| | | | 60.0km以下 | 2m3/日 |
| | | 有り | 0.3km以下 | 15m3/日 |
| | | | 0.5km以下 | 14m3/日 |
| | | | 1.0km以下 | 13m3/日 |
| | | | 1.5km以下 | 11m3/日 |
| | | | 2.0km以下 | 10m3/日 |
| | | | 2.5km以下 | 9m3/日 |
| | | | 3.5km以下 | 8m3/日 |
| | | | 4.5km以下 | 7m3/日 |
| | | | 6.0km以下 | 6m3/日 |
| | | | 8.0km以下 | 5m3/日 |
| | | | 10.5km以下 | 4m3/日 |
| | | | 14.5km以下 | 3m3/日 |
| | | | 23.0km以下 | 3m3/日 |
| | | | 60.0km以下 | 2m3/日 |

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 殻運搬 | |

| 殻発生作業 | 積込工法区分 | DID 区間の有無 | 運搬距離 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|---|---|
| 舗装版破砕 | 機械積込（騒音対策不要，舗装版厚 15cm 超え）または（騒音対策必要） | 無し | 0.5km 以下 | 70m3/日 |
| | | | 1.0km 以下 | 64m3/日 |
| | | | 2.0km 以下 | 55m3/日 |
| | | | 2.5km 以下 | 48m3/日 |
| | | | 3.5km 以下 | 43m3/日 |
| | | | 4.5km 以下 | 37m3/日 |
| | | | 6.0km 以下 | 32m3/日 |
| | | | 7.5km 以下 | 28m3/日 |
| | | | 10.0km 以下 | 25m3/日 |
| | | | 13.5km 以下 | 20m3/日 |
| | | | 19.5km 以下 | 16m3/日 |
| | | | 39.0km 以下 | 12m3/日 |
| | | | 60.0km 以下 | 8m3/日 |
| | | 有り | 0.5km 以下 | 70m3/日 |
| | | | 1.0km 以下 | 64m3/日 |
| | | | 1.5km 以下 | 55m3/日 |
| | | | 2.0km 以下 | 48m3/日 |
| | | | 3.0km 以下 | 43m3/日 |
| | | | 4.0km 以下 | 37m3/日 |
| | | | 5.5km 以下 | 32m3/日 |
| | | | 7.0km 以下 | 28m3/日 |
| | | | 9.0km 以下 | 25m3/日 |
| | | | 12.0km 以下 | 20m3/日 |
| | | | 17.5km 以下 | 16m3/日 |
| | | | 28.5km 以下 | 12m3/日 |
| | | | 60.0km 以下 | 8m3/日 |

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 殻運搬 | |

| 殻発生作業 | 積込工法区分 | DID区間の有無 | 運搬距離 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|---|---|
| 舗装版破砕 | 人力積込 | 無し | 0.3km以下 | 15m3/日 |
| | | | 0.5km以下 | 14m3/日 |
| | | | 1.5km以下 | 13m3/日 |
| | | | 2.0km以下 | 11m3/日 |
| | | | 2.5km以下 | 10m3/日 |
| | | | 3.0km以下 | 9m3/日 |
| | | | 4.0km以下 | 8m3/日 |
| | | | 5.0km以下 | 7m3/日 |
| | | | 6.5km以下 | 6m3/日 |
| | | | 8.5km以下 | 5m3/日 |
| | | | 11.0km以下 | 4m3/日 |
| | | | 16.0km以下 | 3m3/日 |
| | | | 27.5km以下 | 3m3/日 |
| | | | 60.0km以下 | 2m3/日 |
| | | 有り | 0.3km以下 | 15m3/日 |
| | | | 0.5km以下 | 14m3/日 |
| | | | 1.0km以下 | 13m3/日 |
| | | | 1.5km以下 | 11m3/日 |
| | | | 2.0km以下 | 10m3/日 |
| | | | 2.5km以下 | 9m3/日 |
| | | | 3.5km以下 | 8m3/日 |
| | | | 4.5km以下 | 7m3/日 |
| | | | 6.0km以下 | 6m3/日 |
| | | | 8.0km以下 | 5m3/日 |
| | | | 10.5km以下 | 4m3/日 |
| | | | 14.5km以下 | 3m3/日 |
| | | | 23.0km以下 | 3m3/日 |
| | | | 60.0km以下 | 2m3/日 |

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 殻運搬 | |

| 殻発生作業 | 積込工法区分 | DID 区間の有無 | 運搬距離 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|---|---|
| 舗装版破砕 | 機械積込（騒音対策不要，舗装版厚 15cm 以下） | 無し | 0.3km 以下 | 32m3/日 |
| | | | 1.5km 以下 | 28m3/日 |
| | | | 3.5km 以下 | 25m3/日 |
| | | | 6.5km 以下 | 20m3/日 |
| | | | 11.5km 以下 | 16m3/日 |
| | | | 22.0km 以下 | 12m3/日 |
| | | | 60.0km 以下 | 8m3/日 |
| | | 有り | 0.3km 以下 | 32m3/日 |
| | | | 1.5km 以下 | 28m3/日 |
| | | | 3.5km 以下 | 25m3/日 |
| | | | 6.0km 以下 | 20m3/日 |
| | | | 10.5km 以下 | 16m3/日 |
| | | | 19.5km 以下 | 12m3/日 |
| | | | 60.0km 以下 | 8m3/日 |
| | 機械積込（小規模土工） | 無し | 0.3km 以下 | 17m3/日 |
| | | | 1.0km 以下 | 15m3/日 |
| | | | 1.5km 以下 | 13m3/日 |
| | | | 2.5km 以下 | 11m3/日 |
| | | | 3.0km 以下 | 10m3/日 |
| | | | 3.5km 以下 | 9m3/日 |
| | | | 4.5km 以下 | 8m3/日 |
| | | | 5.5km 以下 | 7m3/日 |
| | | | 7.0km 以下 | 6m3/日 |
| | | | 9.0km 以下 | 5m3/日 |
| | | | 12.0km 以下 | 4m3/日 |
| | | | 17.0km 以下 | 3m3/日 |
| | | | 28.5km 以下 | 3m3/日 |
| | | | 60.0km 以下 | 2m3/日 |
| | | 有り | 0.3km 以下 | 17m3/日 |
| | | | 1.0km 以下 | 15m3/日 |
| | | | 1.5km 以下 | 13m3/日 |
| | | | 2.5km 以下 | 11m3/日 |
| | | | 3.0km 以下 | 10m3/日 |
| | | | 3.5km 以下 | 9m3/日 |
| | | | 4.5km 以下 | 8m3/日 |
| | | | 5.0km 以下 | 7m3/日 |
| | | | 6.5km 以下 | 6m3/日 |
| | | | 8.0km 以下 | 5m3/日 |
| | | | 11.0km 以下 | 4m3/日 |
| | | | 15.0km 以下 | 3m3/日 |
| | | | 24.0km 以下 | 3m3/日 |
| | | | 60.0km 以下 | 2m3/日 |

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 殻運搬 | |

| 殻発生作業 | 積込工法区分 | DID 区間の有無 | 運搬距離 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|---|---|
| 吹付法面取壊し（モルタル） | 機械積込 | 無し | 0.5km 以下 | 63m3/日 |
| | | | 1.0km 以下 | 48m3/日 |
| | | | 1.5km 以下 | 42m3/日 |
| | | | 2.0km 以下 | 36m3/日 |
| | | | 2.5km 以下 | 32m3/日 |
| | | | 3.5km 以下 | 29m3/日 |
| | | | 4.5km 以下 | 23m3/日 |
| | | | 6.0km 以下 | 20m3/日 |
| | | | 7.0km 以下 | 18m3/日 |
| | | | 8.5km 以下 | 16m3/日 |
| | | | 9.0km 以下 | 14m3/日 |
| | | | 10.5km 以下 | 13m3/日 |
| | | | 13.5km 以下 | 11m3/日 |
| | | | 18.0km 以下 | 9m3/日 |
| | | | 27.5km 以下 | 7m3/日 |
| | | | 60.0km 以下 | 5m3/日 |
| | | 有り | 0.5km 以下 | 59m3/日 |
| | | | 1.0km 以下 | 48m3/日 |
| | | | 1.5km 以下 | 42m3/日 |
| | | | 2.0km 以下 | 36m3/日 |
| | | | 2.5km 以下 | 30m3/日 |
| | | | 3.5km 以下 | 27m3/日 |
| | | | 4.0km 以下 | 23m3/日 |
| | | | 5.0km 以下 | 22m3/日 |
| | | | 6.0km 以下 | 18m3/日 |
| | | | 7.0km 以下 | 16m3/日 |
| | | | 8.0km 以下 | 14m3/日 |
| | | | 9.0km 以下 | 13m3/日 |
| | | | 12.0km 以下 | 11m3/日 |
| | | | 16.0km 以下 | 9m3/日 |
| | | | 23.0km 以下 | 7m3/日 |
| | | | 43.0km 以下 | 5m3/日 |
| | | | 60.0km 以下 | 4m3/日 |

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>鋼管・既製コンクリート杭打工<br>（パイルハンマ工）</td><td>①　鋼管・既製コンクリート杭打工<br>・・・　該当工種の計算式（10 本当り施工日数）を参照。<br><br>②　鋼管杭杭頭処理溶接工<br><table><tr><th>鋼管杭板厚</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>8～10mm</td><td>26 m／日</td></tr><tr><td>12mm</td><td>15 m／日</td></tr><tr><td>14mm・16mm</td><td>8.9 m／日</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>鋼管・既製コンクリート杭打工<br>（中堀工）</td><td>該当工種の計算式（10本当り施工日数）を参照。</td></tr>
<tr><td>鋼管・既製コンクリート杭打工<br>（回転杭工）</td><td>該当工種の計算式（10本当り施工日数）を参照。</td></tr>
<tr><td>鋼管ソイルセメント杭工</td><td>該当工種の計算式（１本当り施工時間）を参照。</td></tr>
<tr><td>場所打杭工（全回転式オールケーシング工）</td><td>①　基礎杭工　・・・　該当工種の計算式（１本当り施工日数）を参照。<br><br>②　杭頭処理<br><table><tr><th>設計杭径(mm)</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>1,000</td><td>6.3 本／日</td></tr><tr><td>1,100</td><td>5.9 本／日</td></tr><tr><td>1,200</td><td>5.6 本／日</td></tr><tr><td>1,500</td><td>4.3 本／日</td></tr><tr><td>2,000</td><td>3.2 本／日</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>場所打杭工（リバースサーキュレーション工）</td><td>該当工種の計算式（１本当り施工日数）を参照。</td></tr>
<tr><td>場所打杭工（アースオーガ工,<br>硬質地盤用アースオーガ工）</td><td>該当工種の計算式（10本当り施工日数）を参照。</td></tr>
<tr><td>場所打杭工（大口径ボーリングマシン工）</td><td>①　場所打杭工（大口径ボーリングマシン工）<br>・・・　該当工種の計算式（１本当り施工日数）を参照。<br>②　やぐら設置・撤去<br><table><tr><th>施工方法</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン使用</td><td>1.0 回／日</td></tr><tr><td>索道使用</td><td>0.67 回／日</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>場所打杭工（ダウンザホールハンマ工）</td><td>①　場所打杭工（ダウンザホールハンマ工）<br>・・・　該当工種の計算式（１本当り施工日数）を参照。<br>②　やぐら設置・撤去<br><table><tr><th>施工方法</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン使用</td><td>1.0 回／日</td></tr><tr><td>索道使用</td><td>0.67 回／日</td></tr></table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>深礎工</td><td>
① 掘削土留 ･･･ 該当工種の計算式（１本当り施工日数）を参照。<br><br>
② グラウト注入工
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>20 m3／日</td></tr>
</table>
③ 掘削作業設備組立・解体（Ｃ工法のみ）
<table>
<tr><th>杭径（m）</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>備考</th></tr>
<tr><td>1.5 以上 2.5 未満</td><td>1.7 本／日</td><td rowspan="3">本：深礎杭１本当り</td></tr>
<tr><td>2.5 以上 3.0 未満</td><td>1.1 本／日</td></tr>
<tr><td>3.0 以上 4.5 以下</td><td>0.83 本／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>コンクリート工（深礎工）</td><td>
① コンクリート打設（深礎工）
<table>
<tr><th>打　設　方　法</th><th>設計日打設量区分</th><th>作業日当り標準打設量</th><th>摘　要</th></tr>
<tr><td rowspan="2">コンクリートポンプ車打設</td><td>10m3 以上 100m3 未満</td><td>69 m3／日</td><td></td></tr>
<tr><td>100m3 以上 500m3 未満</td><td>280 m3／日</td><td></td></tr>
<tr><td>人力打設</td><td>－</td><td>4 m3／日</td><td></td></tr>
<tr><td>バックホウ（クレーン機能付）打設</td><td>－</td><td>8 m3/日</td><td></td></tr>
</table>
（注）養生工は，現場，施工条件等により別途考慮する。
</td></tr>
<tr><td>ニューマチックケーソン工</td><td>
① 刃口金物据付 ･･･ 現場条件により設定<br><br>
② 機械掘削 ･･･ 該当工種の計算式（１本当り掘削量）を参照。<br><br>
③ 水荷重（ポンプによる注排水）作業
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>50 t／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，特殊作業員１名の場合。<br><br>
④ ブローパイプバルブ調整
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>0.16 基／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，潜かん工１名の場合。<br><br>
⑤ 仮設備の組立・解体 ･･･ 該当工種の基準内に記載。<br><br>
⑥ 送気用配管設備組立･解体
<table>
<tr><th>管径</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>100mm</td><td>67 m／日</td></tr>
<tr><td>150mm</td><td>63 m／日</td></tr>
</table>
⑦ 艤装設備組立・解体（1艤装･1ﾘﾌﾄ(ﾛｯﾄ)）
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>1.0 日／1艤装･1ﾘﾌﾄ(ﾛｯﾄ)</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 基礎工（鋼管矢板基礎工） | ①　鋼管矢板打込工（打撃工法）･･･　該当工種の計算式（10本当り施工日数）を参照。<br><br>②　鋼管矢板打込工（中掘工法）･･･　該当工種の計算式（１本当り施工時間）を参照。<br><br>③　鋼管内掘削工，鋼管内コンクリート打設工，継手管内排土工，<br>継手管内モルタル注入工，継手管内止水材注入工，井筒内掘削工，底面均し（敷砂）工<br>底盤コンクリート打設工，井筒内支保設置・撤去工，井筒内支保間詰コンクリート工<br>コネクタ取付工（鉄筋スタッド方式・プレートブラケット方式），<br>鋼管矢板切断・撤去工　　･･･　該当工種の基準内に記載。 |

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>ドロップハンマ杭打工</td><td>①　ドロップハンマ杭打工
<table>
<tr><th>杭径（mm）</th><th>杭長（m）</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="3">200</td><td>2</td><td>38 本／日</td></tr>
<tr><td>3</td><td>33 本／日</td></tr>
<tr><td>4</td><td>29 本／日</td></tr>
<tr><td rowspan="4">250</td><td>3</td><td>24 本／日</td></tr>
<tr><td>4</td><td>21 本／日</td></tr>
<tr><td>5</td><td>18 本／日</td></tr>
<tr><td>6</td><td>16 本／日</td></tr>
<tr><td rowspan="4">300</td><td>3</td><td>15 本／日</td></tr>
<tr><td>4</td><td>12 本／日</td></tr>
<tr><td>5</td><td>10 本／日</td></tr>
<tr><td>6</td><td>8.8 本／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>木杭及び矢板打工（人力，ドロップハンマ工）</td><td>①　人力木杭打工
<table>
<tr><th>杭長（m）</th><th>末口</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>備考</th></tr>
<tr><td rowspan="3">1.2</td><td>6cm 以下</td><td>25 本／日</td><td rowspan="14">普通地盤における<br>混入率 80%以上<br>100%の場合</td></tr>
<tr><td>6cm を超え 9cm 以下</td><td>17 本／日</td></tr>
<tr><td>9cm を超え 12cm 以下</td><td>13 本／日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">1.5</td><td>6cm を超え 9cm 以下</td><td>11 本／日</td></tr>
<tr><td>9cm を超え 12cm 以下</td><td>7.7 本／日</td></tr>
<tr><td>12cm を超え 15cm 以下</td><td>5.3 本／日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">1.8</td><td>6cm を超え 9cm 以下</td><td>8.3 本／日</td></tr>
<tr><td>9cm を超え 12cm 以下</td><td>4.5 本／日</td></tr>
<tr><td>12cm を超え 15cm 以下</td><td>4.3 本／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2.1</td><td>9cm を超え 12cm 以下</td><td>2.8 本／日</td></tr>
<tr><td>12cm を超え 15cm 以下</td><td>1.8 本／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2.4</td><td>9cm を超え 12cm 以下</td><td>2.1 本／日</td></tr>
<tr><td>12cm を超え 15cm 以下</td><td>1.4 本／日</td></tr>
<tr><td>2.7</td><td>12cm を超え 15cm 以下</td><td>1.3 本／日</td></tr>
<tr><td>3.0</td><td>12cm を超え 15cm 以下</td><td>0.92 本／日</td></tr>
<tr><td colspan="2">混入率 70%以上 80%未満</td><td>上表÷0.8</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">混入率 70%未満</td><td>上表÷0.7</td><td></td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。<br><br>②　人力木杭抜取工
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量（本／日）</td><td>上表÷0.7</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。</td></tr>
<tr><td>既設コンクリート杭カットオフ工</td><td>①　既設コンクリート杭カットオフ工
<table>
<tr><th>杭径</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>φ300～450mm</td><td>5.9 本／日</td></tr>
<tr><td>φ500～600mm</td><td>3.4 本／日</td></tr>
<tr><td>φ700～800mm</td><td>2.4 本／日</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>泥水運搬工</td><td>①　汚泥吸排車運転
<table>
<tr><th>DID区間<br>の有無</th><th>運搬距離</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="5">無し</td><td>2.0km 以下</td><td>45 m3／日</td></tr>
<tr><td>6.3km 以下</td><td>38 m3／日</td></tr>
<tr><td>14.8km 以下</td><td>31 m3／日</td></tr>
<tr><td>25.7km 以下</td><td>23 m3／日</td></tr>
<tr><td>60.0km 以下</td><td>15 m3／日</td></tr>
<tr><td rowspan="5">有り</td><td>1.9km 以下</td><td>45 m3／日</td></tr>
<tr><td>5.9km 以下</td><td>38 m3／日</td></tr>
<tr><td>13.1km 以下</td><td>31 m3／日</td></tr>
<tr><td>22.6km 以下</td><td>23 m3／日</td></tr>
<tr><td>60.0km 以下</td><td>15 m3／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>コンクリート工</td><td>①　コンクリート
<table>
<tr><th>構造物区分</th><th>打設方法</th><th>設計日打設量区分</th><th>作業日当り標準打設量</th><th>摘　要</th></tr>
<tr><td rowspan="3">無筋・鉄筋構造物</td><td rowspan="2">コンクリート<br>ポンプ車打設</td><td>10m3 以上100m3 未満</td><td>69 m3／日</td><td></td></tr>
<tr><td>100m3 以上500m3 未満</td><td>280 m3／日</td><td></td></tr>
<tr><td>人力打設</td><td>－</td><td>4m3／日</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">小型構造物</td><td>クレーン車打設</td><td>－</td><td>6m3／日</td><td></td></tr>
<tr><td>人力打設</td><td>－</td><td>5m3／日</td><td></td></tr>
<tr><td>無筋・鉄筋構造物・小型構造物</td><td>バックホウ（クレーン機能付）<br>打設</td><td>－</td><td>8m3/日</td><td></td></tr>
</table>
（注）　養生工は，現場，施工条件等により別途考慮する。<br><br>②　モルタル練
<table>
<tr><th>混合比</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>１：１</td><td>0.67 m3／日</td></tr>
<tr><td>１：２</td><td>0.77 m3／日</td></tr>
<tr><td>１：３</td><td>0.91 m3／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。</td></tr>
<tr><td>型枠工</td><td>①　型枠
<table>
<tr><th>作　業　名</th><th>対　象　構　造　物</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>摘　要</th></tr>
<tr><td rowspan="2">型枠の製作・<br>設置・撤去</td><td>鉄筋・無筋構造物</td><td>38m2／日</td><td></td></tr>
<tr><td>小型構造物</td><td>15m2／日</td><td></td></tr>
</table>
②　撤去しない埋設型枠
<table>
<tr><th>施工区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>床版部</td><td>100 m2／日</td></tr>
<tr><td>支承部・連結部</td><td>50 m2／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>型枠工（省力化構造）</td><td>①　型枠（鉄筋構造）〔省力化構造〕
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>31 m2／日</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>溶接金網設置工</td><td>①　溶接金網設置工<br><table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>50 m2／日</td></tr></table>（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。</td></tr>
<tr><td>張りコンクリート工</td><td>①型枠工<br><table><tr><th>対象構造物</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>縦排水溝</td><td>8 m2/日</td></tr><tr><td>小段排水溝</td><td>8 m2/日</td></tr><tr><td>防草コンクリート</td><td>15 m2/日</td></tr></table>②コンクリート打設<br><table><tr><th>対象構造物</th><th>打設方法</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="2">縦排水溝</td><td>バックホウ</td><td>33 m2/日</td></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン</td><td>43 m2/日</td></tr><tr><td rowspan="2">小段排水溝</td><td>バックホウ</td><td>65 m2/日</td></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン</td><td>85 m2/日</td></tr><tr><td rowspan="2">防草コンクリート</td><td>バックホウ</td><td>113 m2/日</td></tr><tr><td>人力</td><td>73 m2/日</td></tr></table>（注）１．目地材設置は，コンクリート打設工に含む。<br>２．養生工は，現場，施工条件等により別途考慮する。</td></tr>
<tr><td>バイブロハンマ工</td><td>①　継施工なし　･･･　該当工種の基準内に記載。<br>②　継施工あり　･･･　該当工種の計算式（１日当り継施工枚数及び本数）を参照。</td></tr>
<tr><td>バイブロハンマ工（軽量鋼矢板打込引抜工）</td><td>該当工種の計算式（１枚当り施工時間）を参照。</td></tr>
<tr><td>油圧圧入引抜工</td><td>①　油圧圧入引抜工<br>・継施工なし　･･･　該当工種の基準内に記載。<br>・継施工あり　･･･　該当工種の計算式（１日当り継施工枚数）を参照。<br><br>②　油圧式杭圧入引抜機据付・解体<br><table><tr><th>作業区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>圧入（Nmax≦25）</td><td>3.3 回／日</td></tr><tr><td>圧入（Nmax≦50）</td><td>2.0 回／日</td></tr><tr><td>圧入（50＜Nmax≦600）</td><td>0.91 回／日</td></tr><tr><td>引抜き</td><td>5.3 回／日</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>矢板工（アースオーガ併用圧入工）</td><td>該当工種の基準内に記載。</td></tr>
<tr><td>矢板工（クレーン引抜工）</td><td>該当工種の基準内に記載。</td></tr>
<tr><td>矢板工（H形鋼）</td><td>該当工種の計算式（１本当り施工時間）を参照。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>仮設材設置撤去工</td><td>① 仮設材設置撤去工
<table>
<tr><th rowspan="2">工　種　名</th><th colspan="2">作業日当り標準作業量</th><th rowspan="2">摘　　要</th></tr>
<tr><th>設　置</th><th>撤　去</th></tr>
<tr><td>切梁・腹起し</td><td>6.1ｔ／日<br>(10.1ｔ／日)</td><td>10.2ｔ／日<br>(18.3ｔ／日)</td><td></td></tr>
<tr><td>タイロッド・腹起し</td><td>2.0ｔ／日</td><td>4.6ｔ／日</td><td></td></tr>
<tr><td>横矢板</td><td>24.8 ㎡／日</td><td>49.3 ㎡／日</td><td></td></tr>
<tr><td>覆工板・覆工板受桁</td><td>34 m2／日</td><td>56 m2／日</td><td>設置面積 700m2 以下</td></tr>
<tr><td>覆工板</td><td>119.3 m2／日</td><td>209.2 m2／日</td><td>設置面積 700m2 を超える</td></tr>
<tr><td>覆工板受桁</td><td>6.2ｔ／日</td><td>10.1ｔ／日</td><td>〃</td></tr>
</table>
(注)１．覆工板受桁用桁受の設置・撤去は，覆工板受桁に準ずる。<br>２．切梁・腹起しで，火打ブロックを使用する場合は，(　)内の値とする。</td></tr>
<tr><td>足場工</td><td>① 足場工
<table>
<tr><th>作　業　種　別</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>手摺先行型枠組足場設置・撤去</td><td>61 掛㎡／日</td></tr>
<tr><td>単管足場設置・撤去</td><td>79 掛㎡／日</td></tr>
<tr><td>単管傾斜足場設置・撤去</td><td>57 掛㎡／日</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>支保工</td><td>① 支保工
<table>
<tr><th>作　業　種　別</th><th>支保耐力(f)kN／㎡</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">パイプサポート支保設置撤去</td><td>f ≦40</td><td>27 空m³／日</td></tr>
<tr><td>40＜ f ≦60</td><td>15 空m³／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">くさび結合支保設置･撤去</td><td>f ≦40</td><td>67 空m³／日</td></tr>
<tr><td>40＜ f ≦80</td><td>37 空m³／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>締切排水工</td><td>① ポンプ据付・撤去
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量<br>（箇所／日）</td><td>1.7</td></tr>
</table>
（注） 上表の作業日当り標準作業量には，ポンプ運転は含まれていない。</td></tr>
<tr><td>ウエルポイント工</td><td>① ウエルポイント工
<table>
<tr><th>作　業　名</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>摘　要</th></tr>
<tr><td>ウエルポイント設置(サンドフイルター有り)</td><td>40 本／日</td><td></td></tr>
<tr><td>ウエルポイント設置(サンドフイルター無し)</td><td>40 本／日</td><td></td></tr>
<tr><td>ウエルポイント撤去</td><td>77 本／日</td><td></td></tr>
<tr><td>ウエルポイントポンプ設置</td><td>3 組／日</td><td></td></tr>
<tr><td>ウエルポイントポンプ撤去</td><td>10 組／日</td><td></td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>土のう工</td><td>① 土のう工
<table>
<tr><th>作　業　内　容</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>仕拵，積立，撤去</td><td>95 袋／日</td></tr>
<tr><td>仕拵，積立</td><td>133 袋／日</td></tr>
<tr><td>撤去</td><td>333 袋／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員４名の場合。<br><br>② 土のう積工
<table>
<tr><th>作業内容</th><th>作業内容</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="3">小口並べ</td><td>仕拵，積立，撤去</td><td>5.6 m2／日</td></tr>
<tr><td>仕拵，積立</td><td>7.8 m2／日</td></tr>
<tr><td>撤去</td><td>20 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">側面並べ</td><td>仕拵，積立，撤去</td><td>6.8 m2／日</td></tr>
<tr><td>仕拵，積立</td><td>9.5 m2／日</td></tr>
<tr><td>撤去</td><td>24 m2／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員４名の場合。</td></tr>
<tr><td>大型土のう工</td><td>該当工種の基準内に記載。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>仮橋・仮桟橋工</td><td>
① 仮橋・仮桟橋工 設置・撤去
<table>
<tr><th rowspan="2">工　　程</th><th colspan="2">作業日当り標準作業量</th><th rowspan="2">摘　　要</th></tr>
<tr><th>設　　置</th><th>撤　去</th></tr>
<tr><td>上　　部</td><td>11ｔ／日</td><td>12ｔ／日</td><td>主桁，横桁の質量</td></tr>
<tr><td>覆　工　板</td><td>73m2／日</td><td>163m2／日</td><td>覆工板の面積</td></tr>
<tr><td>高欄(ガードレール型)</td><td>36m／日</td><td>52m／日</td><td>高欄の延長</td></tr>
<tr><td>高欄(単管パイプ型)</td><td>41m／日</td><td>78m／日</td><td>〃</td></tr>
<tr><td>橋　　脚</td><td>8ｔ／日</td><td>10ｔ／日</td><td>注）2</td></tr>
<tr><td>杭　橋　脚</td><td>4ｔ／日</td><td>5ｔ／日</td><td>注）3</td></tr>
<tr><td>導　　枠</td><td colspan="2">15本／日</td><td>本：杭橋脚打込<br>1本当り</td></tr>
</table>
(注)1．覆工板は，路面のすり付作業を含まない。<br>
2．橋脚，枕，ブラケット，つなぎ材等の質量<br>
3．枕，ブラケット，つなぎ材等の質量<br><br>
② 杭橋脚打込み・引抜き　･･･　該当工種の基準内に記載。
</td></tr>
<tr><td>汚濁防止フェンス工</td><td>
① 汚濁防止フェンス工
<table>
<tr><th>作　業　区　分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>汚濁防止フェンス設置</td><td>77m／日</td></tr>
<tr><td>汚濁防止フェンス撤去</td><td>111m／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>仮囲い設置撤去工</td><td>該当工種の基準内に記載。</td></tr>
<tr><td>雪寒仮囲い工</td><td>
① 雪寒仮囲い工
<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">タイプ</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><th>設置・撤去</th></tr>
<tr><td>Ｐタイプ</td><td>－</td><td>91 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Ｗ・ＰＷタイプ</td><td>枠組足場部</td><td>45 m2／日</td></tr>
<tr><td>枠組足場以外</td><td>91 m2／日</td></tr>
</table>
② 除雪工
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>24 m3／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。
</td></tr>
<tr><td>切土及び発破防護柵工</td><td>該当工種の基準内に記載。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>濁水処理工<br>（一般土木工事）</td><td>①　濁水処理設備設置撤去
<table>
<tr><th rowspan="2">濁水処理設備能力</th><th colspan="2">作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><th>設置</th><th>撤去</th></tr>
<tr><td>30～60m3/h</td><td>0.33 箇所／日</td><td>0.50 箇所／日</td></tr>
<tr><td>100m3/h</td><td>0.25 箇所／日</td><td>0.33 箇所／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>敷鉄板設置・撤去工</td><td>該当工種の基準内に記載。</td></tr>
<tr><td>防塵処理工</td><td>該当工種の計算式（１回当り作業時間）を参照。</td></tr>
<tr><td>法面工（仮設用モルタル吹付工）</td><td>①　仮設用モルタル吹付工
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>145 m2／日</td></tr>
</table>
（注）１．目地の設置作業を含む。<br>２．法面清掃，ラス張工は含まない。</td></tr>
</table>

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 消波根固めブロック工 | ①　消波根固めブロック製作 |

| 消波根固め<br>ブロック規格 | 1個当りコンクリート<br>体積 | 1個当り型枠<br>面積 | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|---|---|
| 2.5ｔ以下 | 0.17m3 以上 0.23m3 以下 | 2.00m2 以上 2.20m2 以下 | 25 個/日 |
| | | 2.20m2 を超え 2.40m2 以下 | 23 個/日 |
| | | 2.40m2 を超え 2.60m2 以下 | 22 個/日 |
| | | 2.60m2 を超え 2.80m2 以下 | 20 個/日 |
| | | 2.80m2 を超え 3.00m2 以下 | 19 個/日 |
| | 0.23m3 を超え 0.28m3 以下 | 2.20m2 以上 2.43m2 以下 | 22 個/日 |
| | | 2.43m2 を超え 2.66m2 以下 | 21 個/日 |
| | | 2.66m2 を超え 2.89m2 以下 | 19 個/日 |
| | | 2.89m2 を超え 3.12m2 以下 | 18 個/日 |
| | | 3.12m2 を超え 3.35m2 以下 | 17 個/日 |
| | 0.28m3 を超え 0.33m3 以下 | 2.37m2 以上 2.64m2 以下 | 20 個/日 |
| | | 2.64m2 を超え 2.91m2 以下 | 19 個/日 |
| | | 2.91m2 を超え 3.18m2 以下 | 17 個/日 |
| | | 3.18m2 を超え 3.45m2 以下 | 16 個/日 |
| | | 3.45m2 を超え 3.72m2 以下 | 15 個/日 |
| | 0.33m3 を超え 0.39m3 以下 | 2.59m2 以上 2.90m2 以下 | 18 個/日 |
| | | 2.90m2 を超え 3.21m2 以下 | 17 個/日 |
| | | 3.21m2 を超え 3.52m2 以下 | 15 個/日 |
| | | 3.52m2 を超え 3.83m2 以下 | 14 個/日 |
| | | 3.83m2 を超え 4.14m2 以下 | 13 個/日 |
| | 0.39m3 を超え 0.45m3 以下 | 2.81m2 以上 3.16m2 以下 | 17 個/日 |
| | | 3.16m2 を超え 3.51m2 以下 | 15 個/日 |
| | | 3.51m2 を超え 3.86m2 以下 | 14 個/日 |
| | | 3.86m2 を超え 4.21m2 以下 | 13 個/日 |
| | | 4.21m2 を超え 4.56m2 以下 | 12 個/日 |
| | | 4.56m2 を超え 4.91m2 以下 | 11 個/日 |
| | 0.45m3 を超え 0.51m3 以下 | 3.04m2 以上 3.43m2 以下 | 15 個/日 |
| | | 3.43m2 を超え 3.82m2 以下 | 14 個/日 |
| | | 3.82m2 を超え 4.21m2 以下 | 13 個/日 |
| | | 4.21m2 を超え 4.60m2 以下 | 12 個/日 |
| | | 4.60m2 を超え 4.99m2 以下 | 11 個/日 |
| | | 4.99m2 を超え 5.38m2 以下 | 10 個/日 |
| | | 5.38m2 を超え 5.77m2 以下 | 9.6 個/日 |
| | | 5.77m2 を超え 6.16m2 以下 | 9.0 個/日 |

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 消波根固めブロック工 | |

| 消波根固め<br>ブロック規格 | 1個当りコンクリート<br>体積 | 1個当り型枠<br>面積 | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|---|---|
| 2.5ｔ以下 | 0.51m3 を超え 0.57m3 以下 | 3.25m2 以上 3.69m2 以下 | 14 個/日 |
| | | 3.69m2 を超え 4.12m2 以下 | 13 個/日 |
| | | 4.12m2 を超え 4.55m2 以下 | 12 個/日 |
| | | 4.55m2 を超え 4.98m2 以下 | 11 個/日 |
| | | 4.98m2 を超え 5.41m2 以下 | 10 個/日 |
| | 0.57m3 を超え 0.64m3 以下 | 3.50m2 以上 3.96m2 以下 | 13 個/日 |
| | | 3.96m2 を超え 4.42m2 以下 | 12 個/日 |
| | | 4.42m2 を超え 4.88m2 以下 | 11 個/日 |
| | | 4.88m2 を超え 5.34m2 以下 | 10 個/日 |
| | | 5.34m2 を超え 5.80m2 以下 | 9.3 個/日 |
| | 0.64m3 を超え 0.71m3 以下 | 3.75m2 以上 4.27m2 以下 | 12 個/日 |
| | | 4.27m2 を超え 4.78m2 以下 | 11 個/日 |
| | | 4.78m2 を超え 5.29m2 以下 | 10 個/日 |
| | | 5.29m2 を超え 5.8m2 以下 | 9.2 個/日 |
| | | 5.8m2 を超え 6.31m2 以下 | 8.5 個/日 |
| | 0.71m3 を超え 0.79m3 以下 | 4.06m2 以上 4.62m2 以下 | 11 個/日 |
| | | 4.62m2 を超え 5.18m2 以下 | 10 個/日 |
| | | 5.18m2 を超え 5.74m2 以下 | 9.2 個/日 |
| | | 5.74m2 を超え 6.30m2 以下 | 8.5 個/日 |
| | | 6.30m2 を超え 6.86m2 以下 | 7.8 個/日 |
| | 0.79m3 を超え 0.86m3 以下 | 4.28m2 以上 4.90m2 以下 | 10 個/日 |
| | | 4.90m2 を超え 5.52m2 以下 | 9.4 個/日 |
| | | 5.52m2 を超え 6.14m2 以下 | 8.6 個/日 |
| | | 6.14m2 を超え 6.76m2 以下 | 7.9 個/日 |
| | | 6.76m2 を超え 7.38m2 以下 | 7.3 個/日 |
| | | 7.38m2 を超え 8.00m2 以下 | 6.8 個/日 |
| | 0.86m3 を超え 0.94m3 以下 | 4.58m2 以上 5.26m2 以下 | 9.7 個/日 |
| | | 5.26m2 を超え 5.93m2 以下 | 8.7 個/日 |
| | | 5.93m2 を超え 6.60m2 以下 | 8.0 個/日 |
| | | 6.60m2 を超え 7.27m2 以下 | 7.3 個/日 |
| | | 7.27m2 を超え 7.94m2 以下 | 6.7 個/日 |
| | 0.94m3 を超え 1.04m3 以下 | 4.92m2 以上 5.66m2 以下 | 9.0 個/日 |
| | | 5.66m2 を超え 6.39m2 以下 | 8.1 個/日 |
| | | 6.39m2 を超え 7.12m2 以下 | 7.4 個/日 |
| | | 7.12m2 を超え 7.85m2 以下 | 6.7 個/日 |
| | | 7.85m2 を超え 8.58m2 以下 | 6.2 個/日 |
| | | 8.58m2 を超え 9.31m2 以下 | 5.8 個/日 |
| | | 9.31m2 を超え 10.04m2 以下 | 5.4 個/日 |
| | 1.04m3 を超え 1.13m3 以下 | 5.25m2 以上 6.05m2 以下 | 8.3 個/日 |
| | | 6.05m2 を超え 6.84m2 以下 | 7.5 個/日 |
| | | 6.84m2 を超え 7.63m2 以下 | 6.8 個/日 |
| | | 7.63m2 を超え 8.42m2 以下 | 6.3 個/日 |
| | | 8.42m2 を超え 9.21m2 以下 | 5.8 個/日 |

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 消波根固めブロック工 | |

| 消波根固め<br>ブロック規格 | 1個当りコンクリート<br>体積 | 1個当り型枠<br>面積 | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|---|---|
| 2.5tを超え5.5t<br>以下 | 1.05m3 以上 1.15m3 以下 | 5.14m2 以上 5.94m2 以下 | 12 個/日 |
| | | 5.94m2 を超え 6.73m2 以下 | 11 個/日 |
| | | 6.73m2 を超え 7.52m2 以下 | 10 個/日 |
| | | 7.52m2 を超え 8.31m2 以下 | 9.2 個/日 |
| | | 8.31m2 を超え 9.10m2 以下 | 8.5 個/日 |
| | 1.15m3 を超え 1.25m3 以下 | 5.35m2 以上 6.21m2 以下 | 12 個/日 |
| | | 6.21m2 を超え 7.06m2 以下 | 10 個/日 |
| | | 7.06m2 を超え 7.91m2 以下 | 9.4 個/日 |
| | | 7.91m2 を超え 8.76m2 以下 | 8.7 個/日 |
| | | 8.76m2 を超え 9.61m2 以下 | 8.0 個/日 |
| | 1.25m3 を超え 1.37m3 以下 | 5.58m2 以上 6.50m2 以下 | 11 個/日 |
| | | 6.50m2 を超え 7.41m2 以下 | 9.8 個/日 |
| | | 7.41m2 を超え 8.32m2 以下 | 8.9 個/日 |
| | | 8.32m2 を超え 9.23m2 以下 | 8.2 個/日 |
| | | 9.23m2 を超え 10.14m2 以下 | 7.5 個/日 |
| | 1.37m3 を超え 1.48m3 以下 | 5.87m2 以上 6.83m2 以下 | 10 個/日 |
| | | 6.83m2 を超え 7.80m2 以下 | 9.3 個/日 |
| | | 7.80m2 を超え 8.77m2 以下 | 8.4 個/日 |
| | | 8.77m2 を超え 9.74m2 以下 | 7.7 個/日 |
| | | 9.74m2 を超え 10.71m2 以下 | 7.1 個/日 |
| | 1.48m3 を超え 1.61m3 以下 | 6.04m2 以上 7.08m2 以下 | 9.8 個/日 |
| | | 7.08m2 を超え 8.12m2 以下 | 8.8 個/日 |
| | | 8.12m2 を超え 9.16m2 以下 | 8.0 個/日 |
| | | 9.16m2 を超え 10.20m2 以下 | 7.3 個/日 |
| | | 10.20m2 を超え 11.24m2 以下 | 6.7 個/日 |
| | | 11.24m2 を超え 12.28m2 以下 | 6.2 個/日 |
| | 1.61m3 を超え 1.73m3 以下 | 6.34m2 以上 7.46m2 以下 | 9.3 個/日 |
| | | 7.46m2 を超え 8.58m2 以下 | 8.3 個/日 |
| | | 8.58m2 を超え 9.70m2 以下 | 7.5 個/日 |
| | | 9.70m2 を超え 10.82m2 以下 | 6.9 個/日 |
| | | 10.82m2 を超え 11.94m2 以下 | 6.3 個/日 |
| | 1.73m3 を超え 1.87m3 以下 | 6.61m2 以上 7.81m2 以下 | 8.8 個/日 |
| | | 7.81m2 を超え 9.00m2 以下 | 7.9 個/日 |
| | | 9.00m2 を超え 10.19m2 以下 | 7.1 個/日 |
| | | 10.19m2 を超え 11.38m2 以下 | 6.5 個/日 |
| | | 11.38m2 を超え 12.57m2 以下 | 6.0 個/日 |
| | 1.87m3 を超え 2.01m3 以下 | 6.91m2 以上 8.19m2 以下 | 8.3 個/日 |
| | | 8.19m2 を超え 9.46m2 以下 | 7.4 個/日 |
| | | 9.46m2 を超え 10.73m2 以下 | 6.7 個/日 |
| | | 10.73m2 を超え 12.00m2 以下 | 6.1 個/日 |
| | | 12.00m2 を超え 13.27m2 以下 | 5.6 個/日 |
| | | 13.27m2 を超え 14.54m2 以下 | 5.2 個/日 |
| | | 14.54m2 を超え 15.81m2 以下 | 4.9 個/日 |

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 消波根固めブロック工 | |

| 消波根固め<br>ブロック規格 | 1個当りコンクリート<br>体積 | 1個当り型枠<br>面積 | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|---|---|
| 2.5tを超え5.5t<br>以下 | 2.01m3 を超え 2.17m3 以下 | 7.24m2 以上 8.60m2 以下 | 7.9 個/日 |
| | | 8.60m2 を超え 9.95m2 以下 | 7.0 個/日 |
| | | 9.95m2 を超え 11.30m2 以下 | 6.4 個/日 |
| | | 11.30m2 を超え 12.65m2 以下 | 5.8 個/日 |
| | | 12.65m2 を超え 14.00m2 以下 | 5.3 個/日 |
| | 2.17m3 を超え 2.33m3 以下 | 7.53m2 以上 8.99m2 以下 | 7.5 個/日 |
| | | 8.99m2 を超え 10.45m2 以下 | 6.7 個/日 |
| | | 10.45m2 を超え 11.91m2 以下 | 6.0 個/日 |
| | | 11.91m2 を超え 13.37m2 以下 | 5.5 個/日 |
| | | 13.37m2 を超え 14.83m2 以下 | 5.0 個/日 |
| | 2.33m3 を超え 2.51m3 以下 | 7.95m2 以上 9.49m2 以下 | 7.1 個/日 |
| | | 9.49m2 を超え 11.02m2 以下 | 6.3 個/日 |
| | | 11.02m2 を超え 12.55m2 以下 | 5.7 個/日 |
| | | 12.55m2 を超え 14.08m2 以下 | 5.2 個/日 |
| | | 14.08m2 を超え 15.61m2 以下 | 4.7 個/日 |
| 5.5tを超え11.0t<br>以下 | 2.20m3 以上 2.40m3 以下 | 10.01m2 以上 11.59m2 以下 | 6.2 個/日 |
| | | 11.59m2 を超え 13.15m2 以下 | 5.6 個/日 |
| | | 13.15m2 を超え 14.73m2 以下 | 5.1 個/日 |
| | 2.40m3 を超え 2.60m3 以下 | 10.38m2 以上 12.08m2 以下 | 5.9 個/日 |
| | | 12.08m2 を超え 13.76m2 以下 | 5.3 個/日 |
| | | 13.76m2 を超え 15.46m2 以下 | 4.8 個/日 |
| | 2.60m3 を超え 2.80m3 以下 | 10.74m2 以上 12.56m2 以下 | 5.6 個/日 |
| | | 12.56m2 を超え 14.36m2 以下 | 5.1 個/日 |
| | | 14.36m2 を超え 16.18m2 以下 | 4.6 個/日 |
| | 2.80m3 を超え 3.00m3 以下 | 11.12m2 以上 13.04m2 以下 | 5.4 個/日 |
| | | 13.04m2 を超え 14.96m2 以下 | 4.8 個/日 |
| | | 14.96m2 を超え 16.88m2 以下 | 4.4 個/日 |
| | 3.00m3 を超え 3.22m3 以下 | 11.51m2 以上 13.53m2 以下 | 5.2 個/日 |
| | | 13.53m2 を超え 15.55m2 以下 | 4.6 個/日 |
| | | 15.55m2 を超え 17.57m2 以下 | 4.2 個/日 |
| | | 17.57m2 を超え 19.59m2 以下 | 3.8 個/日 |
| | 3.22m3 を超え 3.45m3 以下 | 11.94m2 以上 14.10m2 以下 | 4.9 個/日 |
| | | 14.10m2 を超え 16.24m2 以下 | 4.4 個/日 |
| | | 16.24m2 を超え 18.40m2 以下 | 4.0 個/日 |
| | 3.45m3 を超え 3.70m3 以下 | 12.23m2 以上 14.51m2 以下 | 4.7 個/日 |
| | | 14.51m2 を超え 16.79m2 以下 | 4.2 個/日 |
| | | 16.79m2 を超え 19.07m2 以下 | 3.8 個/日 |
| | 3.70m3 を超え 3.96m3 以下 | 12.86m2 以上 15.28m2 以下 | 4.5 個/日 |
| | | 15.28m2 を超え 17.70m2 以下 | 4.0 個/日 |
| | | 17.70m2 を超え 20.12m2 以下 | 3.6 個/日 |

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 消波根固めブロック工 | |

| 消波根固め<br>ブロック規格 | 1個当りコンクリート<br>体積 | 1個当り型枠<br>面積 | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|---|---|
| 5.5tを超え11.0t<br>以下 | 3.96m3 を超え 4.23m3 以下 | 13.33m2 以上 15.93m2 以下 | 4.3 個/日 |
| | | 15.93m2 を超え 18.51m2 以下 | 3.8 個/日 |
| | | 18.51m2 を超え 21.11m2 以下 | 3.4 個/日 |
| | | 21.11m2 を超え 23.71m2 以下 | 3.1 個/日 |
| | 4.23m3 を超え 4.53m3 以下 | 13.87m2 以上 16.61m2 以下 | 4.1 個/日 |
| | | 16.61m2 を超え 19.35m2 以下 | 3.6 個/日 |
| | | 19.35m2 を超え 22.09m2 以下 | 3.2 個/日 |
| | | 22.09m2 を超え 24.83m2 以下 | 3.0 個/日 |
| | 4.53m3 を超え 4.84m3 以下 | 14.45m2 以上 17.37m2 以下 | 3.9 個/日 |
| | | 17.37m2 を超え 20.27m2 以下 | 3.4 個/日 |
| | | 20.27m2 を超え 23.19m2 以下 | 3.1 個/日 |

（参考）各作業単独の場合の作業量

（1）　ブロック製作（型枠工）

| 区　　分 | 作業日当り標準作業量 | | 摘　　要 |
|---|---|---|---|
| | 組　　立 | 脱　　型 | |
| 2.5ｔ以下 | 105m2／日 | 139m2／日 | |
| 2.5ｔを超え 11.0ｔ以下 | 164m2／日 | 193m2／日 | |

（2）　ブロック製作（コンクリート工）

| 区　　分 | 作業日当り標準作業量 | 摘　　要 |
|---|---|---|
| 2.5ｔ以下 | 43m3／日 | クレーン打設 |
| 2.5ｔを超え 5.5ｔ以下 | 56m3／日 | |
| 5.5ｔを超え 11.0ｔ以下 | 59m3／日 | |

②　消波根固めブロック横取り・積込み・荷卸・据付け

| 作業区分 | 作業日当り標準作業量 | | |
|---|---|---|---|
| | 2.5ｔ以下 | 2.5ｔを超え<br>5.5ｔ以下 | 5.5ｔを超え<br>11.0ｔ以下 |
| 横取り | 78 個／日 | 74 個／日 | 52 個／日 |
| 積込み | 69 個／日 | 62 個／日 | 55 個／日 |
| 荷卸 | 72 個／日 | 72 個／日 | 60 個／日 |
| 据付け(乱積) | 66 個／日 | 65 個／日 | 48 個／日 |
| 据付け(層積) | 50 個／日 | 43 個／日 | 36 個／日 |

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 消波根固めブロック工 | ③　消波根固めブロック運搬 |

作業日当り標準作業量（個／日）

| ﾌﾞﾛｯｸ規格 | 2.5ｔ以下 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 積載個数 | 1個／台 | | | 2個／台 | | |
| ﾄﾗｯｸ1台当り運搬距離 | 積込・荷卸 | 積込・据付(乱積) | 積込・据付(層積) | 積込・荷卸 | 積込・据付(乱積) | 積込・据付(層積) |
| 0.5km以下 | 22 | 22 | 19 | 24 | 24 | 20 |
| 1.0km以下 | 21 | 20 | 18 | 23 | 23 | 20 |
| 1.5km以下 | 18 | 18 | 16 | 22 | 21 | 18 |
| 2.0km以下 | 17 | 17 | 15 | 21 | 20 | 18 |
| 2.5km以下 | 15 | 15 | 13 | 19 | 19 | 17 |
| 3.0km以下 | 14 | 13 | 12 | 18 | 18 | 16 |
| 3.5km以下 | 13 | 13 | 12 | 18 | 17 | 15 |
| 4.0km以下 | 12 | 12 | 11 | 16 | 16 | 15 |
| 4.5km以下 | 11 | 11 | 10 | 16 | 16 | 14 |
| 5.0km以下 | 11 | 10 | 9.8 | 15 | 15 | 13 |
| 5.5km以下 | 9.9 | 9.7 | 9.1 | 14 | 14 | 13 |
| 6.0km以下 | 9.5 | 9.4 | 8.8 | 14 | 14 | 13 |
| 6.5km以下 | 8.9 | 8.8 | 8.3 | 13 | 13 | 12 |
| 7.0km以下 | 8.4 | 8.3 | 7.9 | 13 | 13 | 12 |
| 7.5km以下 | 8.1 | 8.1 | 7.6 | 12 | 12 | 11 |
| 8.5km以下 | 7.9 | 7.8 | 7.4 | 12 | 12 | 11 |
| 9.5km以下 | 7.3 | 7.2 | 6.9 | 11 | 11 | 10 |
| 10.5km以下 | 6.8 | 6.7 | 6.4 | 11 | 11 | 9.9 |
| 11.5km以下 | 6.2 | 6.1 | 5.9 | 10 | 9.9 | 9.3 |
| 12.5km以下 | 5.8 | 5.8 | 5.5 | 9.5 | 9.4 | 8.8 |
| 14.0km以下 | 5.5 | 5.4 | 5.2 | 9.1 | 9.0 | 8.4 |
| 15.0km以下 | 5.0 | 4.9 | 4.8 | 8.4 | 8.3 | 7.9 |

| 積載個数 | 3個／台 | | | 4個／台 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0.5km以下 | 25 | 24 | 21 | 25 | 25 | 21 |
| 1.0km以下 | 24 | 24 | 20 | 25 | 24 | 21 |
| 1.5km以下 | 23 | 22 | 19 | 24 | 23 | 20 |
| 2.0km以下 | 22 | 22 | 19 | 23 | 23 | 20 |
| 2.5km以下 | 21 | 21 | 18 | 22 | 22 | 19 |
| 3.0km以下 | 20 | 20 | 17 | 22 | 21 | 18 |
| 3.5km以下 | 20 | 19 | 17 | 21 | 21 | 18 |
| 4.0km以下 | 19 | 18 | 16 | 20 | 20 | 17 |
| 4.5km以下 | 18 | 18 | 16 | 20 | 19 | 17 |
| 5.0km以下 | 18 | 17 | 15 | 19 | 19 | 17 |
| 5.5km以下 | 17 | 17 | 15 | 19 | 18 | 16 |
| 6.0km以下 | 17 | 16 | 15 | 18 | 18 | 16 |
| 6.5km以下 | 16 | 16 | 14 | 18 | 17 | 16 |
| 7.0km以下 | 15 | 15 | 14 | 17 | 17 | 15 |
| 7.5km以下 | 15 | 15 | 13 | 17 | 17 | 15 |
| 8.5km以下 | 15 | 15 | 13 | 17 | 16 | 15 |
| 9.5km以下 | 14 | 14 | 13 | 16 | 16 | 14 |
| 10.5km以下 | 13 | 13 | 12 | 15 | 15 | 14 |
| 11.5km以下 | 13 | 12 | 11 | 15 | 14 | 13 |
| 12.5km以下 | 12 | 12 | 11 | 14 | 14 | 13 |
| 14.0km以下 | 12 | 11 | 11 | 14 | 13 | 12 |
| 15.0km以下 | 11 | 11 | 10 | 13 | 13 | 12 |

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 消波根固めブロック工 | |

作業日当り標準作業量（個／日）

| ﾌﾞﾛｯｸ規格 | 2.5ｔ以下 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 積載個数 | 5個／台 | | | 6個／台 | | |
| ﾄﾗｯｸ1台当り運搬距離 | 積込・荷卸 | 積込・据付(乱積) | 積込・据付(層積) | 積込・荷卸 | 積込・据付(乱積) | 積込・据付(層積) |
| 0.5km以下 | 26 | 25 | 21 | 26 | 25 | 21 |
| 1.0km以下 | 25 | 24 | 21 | 25 | 25 | 21 |
| 1.5km以下 | 24 | 24 | 20 | 25 | 24 | 21 |
| 2.0km以下 | 24 | 23 | 20 | 24 | 24 | 20 |
| 2.5km以下 | 23 | 22 | 19 | 24 | 23 | 20 |
| 3.0km以下 | 22 | 22 | 19 | 23 | 22 | 19 |
| 3.5km以下 | 22 | 21 | 19 | 23 | 22 | 19 |
| 4.0km以下 | 21 | 21 | 18 | 22 | 21 | 19 |
| 4.5km以下 | 21 | 20 | 18 | 22 | 21 | 19 |
| 5.0km以下 | 20 | 20 | 18 | 21 | 21 | 18 |
| 5.5km以下 | 20 | 19 | 17 | 21 | 20 | 18 |
| 6.0km以下 | 20 | 19 | 17 | 20 | 20 | 18 |
| 6.5km以下 | 19 | 19 | 16 | 20 | 19 | 17 |
| 7.0km以下 | 19 | 18 | 16 | 20 | 19 | 17 |
| 7.5km以下 | 18 | 18 | 16 | 19 | 19 | 17 |
| 8.5km以下 | 18 | 18 | 16 | 19 | 19 | 17 |
| 9.5km以下 | 17 | 17 | 15 | 18 | 18 | 16 |
| 10.5km以下 | 17 | 16 | 15 | 18 | 17 | 16 |
| 11.5km以下 | 16 | 16 | 14 | 17 | 17 | 15 |
| 12.5km以下 | 15 | 15 | 14 | 17 | 16 | 15 |
| 14.0km以下 | 15 | 15 | 13 | 16 | 16 | 14 |
| 15.0km以下 | 14 | 14 | 13 | 15 | 15 | 14 |

| 積載個数 | 7個／台 | | | 8個／台 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0.5km以下 | 26 | 25 | 21 | 26 | 25 | 21 |
| 1.0km以下 | 26 | 25 | 21 | 26 | 25 | 21 |
| 1.5km以下 | 25 | 24 | 21 | 25 | 24 | 21 |
| 2.0km以下 | 25 | 24 | 20 | 25 | 24 | 21 |
| 2.5km以下 | 24 | 23 | 20 | 24 | 24 | 20 |
| 3.0km以下 | 23 | 23 | 20 | 24 | 23 | 20 |
| 3.5km以下 | 23 | 22 | 19 | 24 | 23 | 20 |
| 4.0km以下 | 23 | 22 | 19 | 23 | 22 | 19 |
| 4.5km以下 | 22 | 22 | 19 | 23 | 22 | 19 |
| 5.0km以下 | 22 | 21 | 19 | 22 | 22 | 19 |
| 5.5km以下 | 21 | 21 | 18 | 22 | 21 | 19 |
| 6.0km以下 | 21 | 21 | 18 | 22 | 21 | 18 |
| 6.5km以下 | 21 | 20 | 18 | 21 | 21 | 18 |
| 7.0km以下 | 20 | 20 | 17 | 21 | 20 | 18 |
| 7.5km以下 | 20 | 20 | 17 | 21 | 20 | 18 |
| 8.5km以下 | 20 | 19 | 17 | 21 | 20 | 18 |
| 9.5km以下 | 19 | 19 | 17 | 20 | 19 | 17 |
| 10.5km以下 | 19 | 18 | 16 | 19 | 19 | 17 |
| 11.5km以下 | 18 | 18 | 16 | 19 | 18 | 16 |
| 12.5km以下 | 18 | 17 | 15 | 18 | 18 | 16 |
| 14.0km以下 | 17 | 17 | 15 | 18 | 17 | 16 |
| 15.0km以下 | 16 | 16 | 14 | 17 | 17 | 15 |

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 消波根固めブロック工 | |

作業日当り標準作業量（個／日）

| ﾌﾞﾛｯｸ規格 | 2.5ｔ以下 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 積載個数 | 9個／台 | | | 10個／台 | | |
| ﾄﾗｯｸ1台当り運搬距離 | 積込・荷卸 | 積込・据付(乱積) | 積込・据付(層積) | 積込・荷卸 | 積込・据付(乱積) | 積込・据付(層積) |
| 0.5km以下 | 26 | 25 | 21 | 26 | 25 | 22 |
| 1.0km以下 | 26 | 25 | 21 | 26 | 25 | 21 |
| 1.5km以下 | 25 | 24 | 21 | 25 | 25 | 21 |
| 2.0km以下 | 25 | 24 | 21 | 25 | 24 | 21 |
| 2.5km以下 | 25 | 24 | 20 | 25 | 24 | 21 |
| 3.0km以下 | 24 | 23 | 20 | 24 | 24 | 20 |
| 3.5km以下 | 24 | 23 | 20 | 24 | 23 | 20 |
| 4.0km以下 | 23 | 23 | 20 | 24 | 23 | 20 |
| 4.5km以下 | 23 | 22 | 20 | 24 | 23 | 20 |
| 5.0km以下 | 23 | 22 | 19 | 23 | 22 | 19 |
| 5.5km以下 | 22 | 22 | 19 | 23 | 22 | 19 |
| 6.0km以下 | 22 | 22 | 19 | 23 | 22 | 19 |
| 6.5km以下 | 22 | 21 | 19 | 22 | 22 | 19 |
| 7.0km以下 | 21 | 21 | 18 | 22 | 21 | 19 |
| 7.5km以下 | 21 | 21 | 18 | 22 | 21 | 18 |
| 8.5km以下 | 21 | 20 | 18 | 22 | 21 | 18 |
| 9.5km以下 | 21 | 20 | 18 | 21 | 20 | 18 |
| 10.5km以下 | 20 | 20 | 17 | 21 | 20 | 18 |
| 11.5km以下 | 19 | 19 | 17 | 20 | 19 | 17 |
| 12.5km以下 | 19 | 19 | 16 | 20 | 19 | 17 |
| 14.0km以下 | 19 | 18 | 16 | 19 | 19 | 17 |
| 15.0km以下 | 18 | 18 | 16 | 19 | 18 | 16 |

| 積載個数 | 11個以上15個以下／台 | | | 15個を超え23個以下／台 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0.5km以下 | 26 | 25 | 22 | 26 | 25 | 22 |
| 1.0km以下 | 26 | 25 | 21 | 26 | 25 | 22 |
| 1.5km以下 | 26 | 25 | 21 | 26 | 25 | 21 |
| 2.0km以下 | 25 | 25 | 21 | 26 | 25 | 21 |
| 2.5km以下 | 25 | 24 | 21 | 26 | 25 | 21 |
| 3.0km以下 | 25 | 24 | 21 | 25 | 24 | 21 |
| 3.5km以下 | 25 | 24 | 21 | 25 | 24 | 21 |
| 4.0km以下 | 24 | 24 | 20 | 25 | 24 | 21 |
| 4.5km以下 | 24 | 23 | 20 | 25 | 24 | 21 |
| 5.0km以下 | 24 | 23 | 20 | 25 | 24 | 21 |
| 5.5km以下 | 24 | 23 | 20 | 24 | 24 | 20 |
| 6.0km以下 | 23 | 23 | 20 | 24 | 24 | 20 |
| 6.5km以下 | 23 | 22 | 19 | 24 | 23 | 20 |
| 7.0km以下 | 23 | 22 | 19 | 24 | 23 | 20 |
| 7.5km以下 | 23 | 22 | 19 | 24 | 23 | 20 |
| 8.5km以下 | 23 | 22 | 19 | 24 | 23 | 20 |
| 9.5km以下 | 22 | 21 | 19 | 23 | 23 | 20 |
| 10.5km以下 | 22 | 21 | 18 | 23 | 22 | 19 |
| 11.5km以下 | 21 | 21 | 18 | 23 | 22 | 19 |
| 12.5km以下 | 21 | 20 | 18 | 22 | 22 | 19 |
| 14.0km以下 | 21 | 20 | 18 | 22 | 21 | 19 |
| 15.0km以下 | 20 | 19 | 17 | 22 | 21 | 18 |

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 消波根固めブロック工 | |

作業日当り標準作業量（個／日）

| ﾌﾞﾛｯｸ規格 | 2.5t を超え 5.5t 以下 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 積載個数 | 1 個／台 | | | 2 個／台 | | |
| ﾄﾗｯｸ 1 台当り運搬距離 | 積込・荷卸 | 積込・据付(乱積) | 積込・据付(層積) | 積込・荷卸 | 積込・据付(乱積) | 積込・据付(層積) |
| 0.5km 以下 | 21 | 21 | 17 | 23 | 22 | 18 |
| 1.0km 以下 | 20 | 19 | 16 | 22 | 21 | 18 |
| 1.5km 以下 | 17 | 17 | 14 | 21 | 20 | 16 |
| 2.0km 以下 | 16 | 16 | 14 | 20 | 19 | 16 |
| 2.5km 以下 | 15 | 14 | 12 | 19 | 18 | 15 |
| 3.0km 以下 | 13 | 13 | 11 | 17 | 17 | 14 |
| 3.5km 以下 | 13 | 12 | 11 | 17 | 16 | 14 |
| 4.0km 以下 | 12 | 11 | 10 | 16 | 15 | 13 |
| 4.5km 以下 | 11 | 11 | 9.9 | 15 | 15 | 13 |
| 5.0km 以下 | 10 | 10 | 9.2 | 15 | 14 | 12 |
| 5.5km 以下 | 9.7 | 9.5 | 8.7 | 14 | 14 | 12 |
| 6.0km 以下 | 9.3 | 9.2 | 8.4 | 14 | 13 | 12 |
| 6.5km 以下 | 8.8 | 8.6 | 7.9 | 13 | 13 | 11 |
| 7.0km 以下 | 8.2 | 8.1 | 7.5 | 12 | 12 | 11 |
| 7.5km 以下 | 8.0 | 7.9 | 7.3 | 12 | 12 | 11 |
| 8.5km 以下 | 7.8 | 7.7 | 7.1 | 12 | 12 | 10 |
| 9.5km 以下 | 7.2 | 7.1 | 6.6 | 11 | 11 | 9.9 |
| 10.5km 以下 | 6.7 | 6.6 | 6.2 | 11 | 10 | 9.4 |
| 11.5km 以下 | 6.1 | 6.0 | 5.7 | 9.8 | 9.7 | 8.8 |
| 12.5km 以下 | 5.7 | 5.7 | 5.4 | 9.3 | 9.2 | 8.4 |
| 14.0km 以下 | 5.4 | 5.4 | 5.1 | 8.9 | 8.8 | 8.0 |
| 15.0km 以下 | 4.9 | 4.9 | 4.7 | 8.2 | 8.1 | 7.5 |

| 積載個数 | 3 個／台 | | | 4 個／台 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0.5km 以下 | 24 | 23 | 18 | 24 | 23 | 19 |
| 1.0km 以下 | 23 | 22 | 18 | 24 | 23 | 18 |
| 1.5km 以下 | 22 | 21 | 17 | 23 | 22 | 18 |
| 2.0km 以下 | 21 | 21 | 17 | 22 | 21 | 18 |
| 2.5km 以下 | 20 | 20 | 16 | 21 | 21 | 17 |
| 3.0km 以下 | 19 | 19 | 16 | 21 | 20 | 16 |
| 3.5km 以下 | 19 | 18 | 15 | 20 | 20 | 16 |
| 4.0km 以下 | 18 | 18 | 15 | 20 | 19 | 16 |
| 4.5km 以下 | 18 | 17 | 15 | 19 | 19 | 16 |
| 5.0km 以下 | 17 | 17 | 14 | 19 | 18 | 15 |
| 5.5km 以下 | 16 | 16 | 14 | 18 | 17 | 15 |
| 6.0km 以下 | 16 | 16 | 13 | 18 | 17 | 15 |
| 6.5km 以下 | 15 | 15 | 13 | 17 | 17 | 14 |
| 7.0km 以下 | 15 | 15 | 13 | 17 | 16 | 14 |
| 7.5km 以下 | 15 | 14 | 12 | 16 | 16 | 14 |
| 8.5km 以下 | 14 | 14 | 12 | 16 | 16 | 14 |
| 9.5km 以下 | 14 | 13 | 12 | 15 | 15 | 13 |
| 10.5km 以下 | 13 | 13 | 11 | 15 | 14 | 13 |
| 11.5km 以下 | 12 | 12 | 11 | 14 | 14 | 12 |
| 12.5km 以下 | 12 | 12 | 10 | 14 | 13 | 12 |
| 14.0km 以下 | 11 | 11 | 10 | 13 | 13 | 11 |
| 15.0km 以下 | 11 | 10 | 9.4 | 12 | 12 | 11 |

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|

消波根固めブロック工

作業日当り標準作業量（個／日）

| ﾌﾞﾛｯｸ規格 | 5.5t を超え 11.0t 以下 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 積載個数 | 1 個／台 | | | 2 個／台 | | |
| ﾄﾗｯｸ 1 台当り運搬距離 | 積込・荷卸 | 積込・据付(乱積) | 積込・据付(層積) | 積込・荷卸 | 積込・据付(乱積) | 積込・据付(層積) |
| 0.5km 以下 | 19 | 17 | 15 | 20 | 18 | 15 |
| 1.0km 以下 | 18 | 16 | 14 | 19 | 18 | 15 |
| 1.5km 以下 | 16 | 14 | 13 | 18 | 16 | 14 |
| 2.0km 以下 | 15 | 14 | 12 | 18 | 16 | 14 |
| 2.5km 以下 | 13 | 12 | 11 | 17 | 15 | 13 |
| 3.0km 以下 | 12 | 11 | 10 | 16 | 14 | 13 |
| 3.5km 以下 | 12 | 11 | 10 | 15 | 14 | 12 |
| 4.0km 以下 | 11 | 10 | 9.3 | 14 | 13 | 12 |
| 4.5km 以下 | 10 | 9.9 | 9.0 | 14 | 13 | 12 |
| 5.0km 以下 | 9.7 | 9.2 | 8.5 | 13 | 12 | 11 |
| 5.5km 以下 | 9.1 | 8.7 | 8.0 | 13 | 12 | 11 |
| 6.0km 以下 | 8.8 | 8.4 | 7.8 | 13 | 12 | 11 |
| 6.5km 以下 | 8.3 | 7.9 | 7.4 | 12 | 11 | 10 |
| 7.0km 以下 | 7.8 | 7.5 | 7.0 | 12 | 11 | 9.8 |
| 7.5km 以下 | 7.6 | 7.3 | 6.8 | 11 | 11 | 9.7 |
| 8.5km 以下 | 7.4 | 7.1 | 6.7 | 11 | 10 | 9.5 |
| 9.5km 以下 | 6.9 | 6.6 | 6.2 | 10 | 9.9 | 9.0 |
| 10.5km 以下 | 6.4 | 6.2 | 5.9 | 9.9 | 9.4 | 8.6 |
| 11.5km 以下 | 5.9 | 5.7 | 5.4 | 9.2 | 8.8 | 8.1 |
| 12.5km 以下 | 5.5 | 5.4 | 5.1 | 8.8 | 8.4 | 7.8 |
| 14.0km 以下 | 5.2 | 5.1 | 4.8 | 8.4 | 8.0 | 7.5 |
| 15.0km 以下 | 4.8 | 4.7 | 4.5 | 7.8 | 7.5 | 7.0 |

消波根固めブロック工
（ブロック撤去工）
（0.25ｔ以上
35.5ｔ以下）

①　根固めブロック撤去

| 作業区分 | | 作業日当り標準作業量 0.25ｔ以上 6.5ｔ以下 | 6.5ｔ超え 12.5ｔ以下 | 12.5ｔ超え 35.5ｔ以下 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 撤去・仮置き | | 84(67)個/日 | 55(44)個/日 | 37(30)個/日 | 堆砂がある場合は(　)の作業量とする。 |
| 撤去・据付け | 乱積 | 75(60)個/日 | 57(46)個/日 | 43(34)個/日 | |
| | 層積 | 53(42)個/日 | 45(36)個/日 | 35(28)個/日 | |
| 撤去・積込み | | 73(58)個/日 | 51(41)個/日 | 36(29)個/日 | |

捨石工

①　捨石工

| 作　業　名 | 作業日当り標準作業量 | 摘　　要 |
|---|---|---|
| 捨石投入 | 76m3／日 | 最大作業半径９ｍ以下 |
| | 67m3／日 | 最大作業半径９ｍを超え 24m以下 |
| 表面均し | 55m2／日 | |

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>消波工</td><td>
① 捨石工（捨石均し） ･･･ 該当工種の基準内に記載。<br><br>
② ブロック製作（型枠工）
<table>
<tr><th rowspan="2">区　　分</th><th colspan="2">作業日当り標準作業量</th><th rowspan="2">摘　　要</th></tr>
<tr><th>組　　立</th><th>脱　　型</th></tr>
<tr><td>11.0ｔを超え25.0ｔ以下</td><td>164m2／日</td><td>193m2／日</td><td></td></tr>
<tr><td>25.0ｔを超え50.0ｔ以下</td><td>230m2／日</td><td>270m2／日</td><td></td></tr>
</table>
③ ブロック製作（コンクリート工）
<table>
<tr><th>区　　分</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>摘　　要</th></tr>
<tr><td>11.0ｔを超え25.0ｔ以下</td><td>83m3／日</td><td rowspan="2">クレーン打設</td></tr>
<tr><td>25.0ｔを超え50.0ｔ以下</td><td>125m3／日</td></tr>
</table>
④ ブロック横取り ･･･ 該当工種の基準内に記載。<br><br>
⑤ ブロック積込み･運搬･据付け工<br>
・運搬距離15km以下 ･･･ 該当工種の基準内に記載。<br>
・運搬距離15kmを超え ･･･ 該当工種の計算式（１日当り施工個数）を参照。
</td></tr>
<tr><td>浚渫工（ポンプ浚渫船）</td><td>
① 浚渫・排土日数 ･･･ 現場条件により設定<br><br>
② 排砂管及び受枠設置･撤去,<br>
排砂管及びフロータ設置･撤去 ･･･ 該当工種の基準内に記載。
</td></tr>
<tr><td>浚渫工（バックホウ浚渫船）</td><td>現場条件により設定</td></tr>
<tr><td>軟弱地盤上における柔構造樋門・樋管工</td><td>
① 軟弱地盤上における柔構造樋門・樋管工
<table>
<tr><th>作　　業　　種　　別</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>ブロック組立工</td><td>3.3 ﾌﾞﾛｯｸ／日</td></tr>
<tr><td>ＰＣケーブル組立工</td><td>10 ｹｰﾌﾞﾙ／日</td></tr>
<tr><td>グラウト工</td><td>333 m／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 堤防除草工 | ① 除草<br>② 集草<br>③ 梱包 |

① 除草

| 作　業　種　別 | | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|---|
| 大型自走式 | ロングリーチ式 | 6,670 m2／日 |
| 遠隔操縦式 | 刈幅 185 cm | 6,660 m2／日 |
| | 刈幅 120 cm | 4,760 m2／日 |
| ハンドガイド式(刈幅 150cm) | | 5,760 m2／日 |
| 肩掛式(カッタ径 255mm) | | 680 m2／日 |
| 人　　力 | | 240 m2／日 |

② 集草

| 作　業　種　別 | | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|---|
| 遠隔操縦式 | 集草幅 180 cm | 11,540 m2／日 |
| | 集草幅 160 cm | 7,690 m2／日 |
| ハンドガイド式(集草幅 200 cm) | | 8,530 m2／日 |
| 人　　力 | | 1,180 m2／日 |

③ 梱包

| 作業日当り標準作業量 | 12,500 m2／日 |
|---|---|

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 堤防除草工 | ④　積込・荷卸 |

| 作　業　種　別 | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|
| ダンプトラック（オンロード・ディーゼル・2t積級）<br>（梱包無し） | 2,240 m2／日 |
| ダンプトラック（オンロード・ディーゼル・2t積級）<br>（梱包有り） | 5,950 m2／日 |
| パッカー車（回転式・積載容量８m3） | 2,720 m2／日 |

⑤　運搬（堤防除草）

| 運搬機種 | 梱包の有無 | DID区間の有無 | 運搬距離 | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|---|---|---|
| ダンプトラック（オンロード・ディーゼル・２ｔ積級） | 梱包無し | 無し | 1.0km 以下 | 9,833 m2／日 |
| | | | 2.5km 以下 | 8,429 m2／日 |
| | | | 4.0km 以下 | 7,375 m2／日 |
| | | | 6.0km 以下 | 6,556 m2／日 |
| | | | 7.5km 以下 | 5,900 m2／日 |
| | | | 9.5km 以下 | 5,364 m2／日 |
| | | | 11.0km 以下 | 4,917 m2／日 |
| | | | 13.0km 以下 | 4,538 m2／日 |
| | | | 17.0km 以下 | 3,933 m2／日 |
| | | | 22.0km 以下 | 3,471 m2／日 |
| | | | 25.0km 以下 | 3,278 m2／日 |
| | | | 32.5km 以下 | 2,950 m2／日 |
| | | | 40.0km 以下 | 2,682 m2／日 |
| | | 有り | 1.0km 以下 | 9,833 m2／日 |
| | | | 2.5km 以下 | 8,429 m2／日 |
| | | | 4.0km 以下 | 7,375 m2／日 |
| | | | 5.5km 以下 | 6,556 m2／日 |
| | | | 7.0km 以下 | 5,900 m2／日 |
| | | | 8.5km 以下 | 5,364 m2／日 |
| | | | 10.0km 以下 | 4,917 m2／日 |
| | | | 12.0km 以下 | 4,538 m2／日 |
| | | | 15.5km 以下 | 3,933 m2／日 |
| | | | 19.0km 以下 | 3,471 m2／日 |
| | | | 21.5km 以下 | 3,278 m2／日 |
| | | | 26.0km 以下 | 2,950 m2／日 |
| | | | 40.0km 以下 | 2,682 m2／日 |

（注）ダンプトラックの運転日当り運転時間は，5.9ｈとする。

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 堤防除草工 | |

| 運搬機種 | 梱包の有無 | DID区間の有無 | 運搬距離 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|---|---|
| ダンプトラック（オンロード・ディーゼル・２ｔ積級） | 梱包有り | 無し | 1.0km 以下 | 25,652 m2／日 |
| | | | 2.5km 以下 | 22,692 m2／日 |
| | | | 4.0km 以下 | 20,345 m2／日 |
| | | | 6.0km 以下 | 17,879 m2／日 |
| | | | 7.5km 以下 | 15,946 m2／日 |
| | | | 9.5km 以下 | 14,390 m2／日 |
| | | | 11.0km 以下 | 13,409 m2／日 |
| | | | 13.0km 以下 | 12,292 m2／日 |
| | | | 17.0km 以下 | 11,132 m2／日 |
| | | | 22.0km 以下 | 9,833 m2／日 |
| | | | 25.0km 以下 | 9,077 m2／日 |
| | | | 32.5km 以下 | 8,310 m2／日 |
| | | | 40.0km 以下 | 7,763 m2／日 |
| | | 有り | 1.0km 以下 | 25,652 m2／日 |
| | | | 2.5km 以下 | 22,692 m2／日 |
| | | | 4.0km 以下 | 20,345 m2／日 |
| | | | 5.5km 以下 | 17,879 m2／日 |
| | | | 7.0km 以下 | 15,946 m2／日 |
| | | | 8.5km 以下 | 14,390 m2／日 |
| | | | 10.0km 以下 | 13,409 m2／日 |
| | | | 12.0km 以下 | 12,292 m2／日 |
| | | | 15.5km 以下 | 11,132 m2／日 |
| | | | 19.0km 以下 | 9,833 m2／日 |
| | | | 21.5km 以下 | 9,077 m2／日 |
| | | | 26.0km 以下 | 8,310 m2／日 |
| | | | 40.0km 以下 | 7,108 m2／日 |

（注）ダンプトラックの運転日当たり運転時間は，5.9ｈとする。

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 堤防除草工 | |

| 運搬機種 | DID区間の有無 | 運搬距離 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|---|
| パッカー車（回転式・積載容量8m3） | 無し | 5.0km 以下 | 15,500 m2／日 |
| | | 6.5km 以下 | 10,333 m2／日 |
| | | 8.0km 以下 | 8,857 m2／日 |
| | | 10.0km 以下 | 7,750 m2／日 |
| | | 12.0km 以下 | 6,889 m2／日 |
| | | 14.0km 以下 | 6,200 m2／日 |
| | | 16.0km 以下 | 5,636 m2／日 |
| | | 18.0km 以下 | 5,167 m2／日 |
| | | 20.5km 以下 | 4,769 m2／日 |
| | | 26.5km 以下 | 4,133 m2／日 |
| | | 35.0km 以下 | 3,647 m2／日 |
| | | 40.0km 以下 | 3,263 m2／日 |
| | 有り | 5.0km 以下 | 15,500 m2／日 |
| | | 6.0km 以下 | 10,333 m2／日 |
| | | 7.5km 以下 | 8,857 m2／日 |
| | | 9.0km 以下 | 7,750 m2／日 |
| | | 11.0km 以下 | 6,889 m2／日 |
| | | 12.5km 以下 | 6,200 m2／日 |
| | | 14.5km 以下 | 5,636 m2／日 |
| | | 16.0km 以下 | 5,167 m2／日 |
| | | 18.0km 以下 | 4,769 m2／日 |
| | | 22.0km 以下 | 4,133 m2／日 |
| | | 27.0km 以下 | 3,647 m2／日 |
| | | 40.0km 以下 | 3,263 m2／日 |

（注）パッカー車の運転日当り運転時間は，6.2ｈとする。

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>堤防除草工</td><td>⑥　除草，集草（人力），梱包，積込・荷卸（総合）
<table>
<tr><th>除草機種</th><th>梱包の有無</th><th>運搬機械</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="3">大型自走式<br>(ロングリーチ式)</td><td>有り</td><td rowspan="2">ダンプトラック</td><td>803 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">無し</td><td>693 m2／日</td></tr>
<tr><td>パッカー車</td><td>733 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">遠隔操縦式<br>(刈幅185cm)</td><td>有り</td><td rowspan="2">ダンプトラック</td><td>802 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">無し</td><td>692 m2／日</td></tr>
<tr><td>パッカー車</td><td>732 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">遠隔操縦式<br>(刈幅120cm)</td><td>有り</td><td rowspan="2">ダンプトラック</td><td>766 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">無し</td><td>665 m2／日</td></tr>
<tr><td>パッカー車</td><td>702 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ﾊﾝﾄﾞｶﾞｲﾄﾞ式<br>(刈幅150cm)</td><td>有り</td><td rowspan="2">ダンプトラック</td><td>788 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">無し</td><td>681 m2／日</td></tr>
<tr><td>パッカー車</td><td>720 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">肩掛式<br>(ｶｯﾀ径255mm)</td><td>有り</td><td rowspan="2">ダンプトラック</td><td>390 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">無し</td><td>362 m2／日</td></tr>
<tr><td>パッカー車</td><td>372 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">人力</td><td>有り</td><td rowspan="2">ダンプトラック</td><td>190 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">無し</td><td>183 m2／日</td></tr>
<tr><td>パッカー車</td><td>186 m2／日</td></tr>
</table>
⑦　除草，集草（機械），梱包，積込・荷卸（総合）
<table>
<tr><th>除草機種</th><th>梱包の有無</th><th>運搬機械</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="3">遠隔操縦式<br>(刈幅185cm)</td><td>有り</td><td rowspan="2">ダンプトラック</td><td>2,057 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">無し</td><td>1,461 m2／日</td></tr>
<tr><td>パッカー車</td><td>1,651 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">遠隔操縦式<br>(刈幅120cm)</td><td>有り</td><td rowspan="2">ダンプトラック</td><td>1,700 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">無し</td><td>1,271 m2／日</td></tr>
<tr><td>パッカー車</td><td>1,413 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ﾊﾝﾄﾞｶﾞｲﾄﾞ式<br>(刈幅150cm)</td><td>有り</td><td rowspan="2">ダンプトラック</td><td>1,856 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">無し</td><td>1,356 m2／日</td></tr>
<tr><td>パッカー車</td><td>1,519 m2／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>堤防天端補修工</td><td>①　堤防天端補修工
<table>
<tr><th>作　　業　　種　　別</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>不陸整正・補修材敷均し・締固め</td><td>690 m2／日</td></tr>
<tr><td>不陸整正・締固め</td><td>1,340 m2／日</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>堤防芝養生工</td><td>①　堤防芝養生工
<table>
<tr><th>作業種別</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>抜根＋集草＋積込運搬</td><td>934㎡/日</td></tr>
<tr><td>抜根＋集草</td><td>1,290㎡/日</td></tr>
<tr><td>抜　　根</td><td>1,880㎡/日</td></tr>
<tr><td>集　　草</td><td>4,110㎡/日</td></tr>
<tr><td>積込運搬</td><td>3,380㎡/日</td></tr>
<tr><td>施　　肥</td><td>13,600㎡/日</td></tr>
</table>
（注）　集草，積込運搬は，必要な工種のみ計上する。</td></tr>
<tr><td>伐木除根工</td><td>①　伐木除根工
<table>
<tr><th colspan="2">作　　業　　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="3">伐　木　作　業</td><td>粗</td><td>2,105m2／日</td></tr>
<tr><td>中</td><td>768m2／日</td></tr>
<tr><td>密</td><td>433m2／日</td></tr>
<tr><td colspan="2">伐　竹　作　業</td><td>439m2／日</td></tr>
<tr><td colspan="2">除　根　作　業</td><td>1,160m2／日</td></tr>
<tr><td colspan="2">整　地　作　業</td><td>880m2／日</td></tr>
<tr><td colspan="2">集積作業　（人力施工）</td><td>1,180m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">集積作業　（機械施工）</td><td>除根有</td><td>720m2／日</td></tr>
<tr><td>除根無</td><td>940m2／日</td></tr>
<tr><td colspan="2">積　込　み（人力施工）</td><td>21,300m2／日</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 伐木除根工 | ②　運搬（伐木除根）人力施工 |

| 積込条件 | 除根作業の有無 | DID 区間の有無 | 運搬距離 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|---|---|
| 人力施工 | － | 無し | 1.0km 以下 | 4,917 m2/日 |
| | | | 2.5km 以下 | 4,538 m2/日 |
| | | | 4.0km 以下 | 4,214 m2/日 |
| | | | 5.5km 以下 | 3,933 m2/日 |
| | | | 7.5km 以下 | 3,471 m2/日 |
| | | | 9.5km 以下 | 3,278 m2/日 |
| | | | 12.0km 以下 | 2,950 m2/日 |
| | | | 15.0km 以下 | 2,682 m2/日 |
| | | | 19.0km 以下 | 2,458 m2/日 |
| | | | 24.0km 以下 | 2,269 m2/日 |
| | | | 31.0km 以下 | 2,034 m2/日 |
| | | | 49.0km 以下 | 1,844 m2/日 |
| | | | 60.0km 以下 | 1,686 m2/日 |
| | | 有り | 1.0km 以下 | 4,917 m2/日 |
| | | | 2.5km 以下 | 4,538 m2/日 |
| | | | 4.0km 以下 | 4,214 m2/日 |
| | | | 5.5km 以下 | 3,933 m2/日 |
| | | | 7.5km 以下 | 3,471 m2/日 |
| | | | 9.5km 以下 | 3,278 m2/日 |
| | | | 11.5km 以下 | 2,950 m2/日 |
| | | | 14.5km 以下 | 2,682 m2/日 |
| | | | 18.0km 以下 | 2,458 m2/日 |
| | | | 22.0km 以下 | 2,269 m2/日 |
| | | | 27.5km 以下 | 2,034 m2/日 |
| | | | 34.5km 以下 | 1,844 m2/日 |
| | | | 60.0km 以下 | 1,686 m2/日 |

（注）ダンプトラックの運転日当たり運転時間は，5.9ｈとする。

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 伐木除根工 | ③　運搬（伐木除根）機械施工・除根作業有り |

| 積込条件 | 除根作業の有無 | DID 区間の有無 | 運搬距離 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|---|---|
| 機械施工 | 有り | 無し | 0.5km 以下 | 5,364 m2/日 |
| | | | 1.0km 以下 | 4,538 m2/日 |
| | | | 1.5km 以下 | 4,214 m2/日 |
| | | | 2.0km 以下 | 3,933 m2/日 |
| | | | 2.5km 以下 | 3,471 m2/日 |
| | | | 3.0km 以下 | 3,278 m2/日 |
| | | | 3.5km 以下 | 3,105 m2/日 |
| | | | 4.0km 以下 | 2,950 m2/日 |
| | | | 4.5km 以下 | 2,810 m2/日 |
| | | | 5.5km 以下 | 2,565 m2/日 |
| | | | 6.5km 以下 | 2,360 m2/日 |
| | | | 7.5km 以下 | 2,185 m2/日 |
| | | | 8.5km 以下 | 1,967 m2/日 |
| | | | 10.0km 以下 | 1,844 m2/日 |
| | | | 11.5km 以下 | 1,686 m2/日 |
| | | | 13.5km 以下 | 1,553 m2/日 |
| | | | 15.5km 以下 | 1,405 m2/日 |
| | | | 18.0km 以下 | 1,311 m2/日 |
| | | | 21.0km 以下 | 1,204 m2/日 |
| | | | 25.0km 以下 | 1,093 m2/日 |
| | | | 30.5km 以下 | 1,000 m2/日 |
| | | | 41.5km 以下 | 908 m2/日 |
| | | | 60.0km 以下 | 831 m2/日 |
| | | 有り | 0.5km 以下 | 5,364 m2/日 |
| | | | 1.0km 以下 | 4,538 m2/日 |
| | | | 1.5km 以下 | 4,214 m2/日 |
| | | | 2.0km 以下 | 3,688 m2/日 |
| | | | 2.5km 以下 | 3,471 m2/日 |
| | | | 3.0km 以下 | 3,278 m2/日 |
| | | | 3.5km 以下 | 3,105 m2/日 |
| | | | 4.0km 以下 | 2,810 m2/日 |
| | | | 4.5km 以下 | 2,682 m2/日 |
| | | | 5.0km 以下 | 2,565 m2/日 |
| | | | 6.0km 以下 | 2,360 m2/日 |
| | | | 7.0km 以下 | 2,185 m2/日 |
| | | | 8.0km 以下 | 2,034 m2/日 |
| | | | 9.5km 以下 | 1,844 m2/日 |
| | | | 11.0km 以下 | 1,686 m2/日 |
| | | | 12.5km 以下 | 1,513 m2/日 |
| | | | 14.0km 以下 | 1,405 m2/日 |
| | | | 16.0km 以下 | 1,311 m2/日 |
| | | | 18.5km 以下 | 1,204 m2/日 |
| | | | 21.0km 以下 | 1,093 m2/日 |
| | | | 25.0km 以下 | 1,017 m2/日 |
| | | | 29.0km 以下 | 908 m2/日 |
| | | | 60.0km 以下 | 831 m2/日 |

（注）ダンプトラックの運転日当たり運転時間は，5.9ｈとする。

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 伐木除根工 | |

| 積込条件 | 除根作業の有無 | DID 区間の有無 | 運搬距離 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|---|---|
| 機械施工 | 無し | 無し | 0.5km 以下 | 11,800 m2/日 |
| | | | 1.5km 以下 | 9,833 m2/日 |
| | | | 2.0km 以下 | 8,429 m2/日 |
| | | | 2.5km 以下 | 7,375 m2/日 |
| | | | 3.0km 以下 | 6,556 m2/日 |
| | | | 4.0km 以下 | 5,900 m2/日 |
| | | | 4.5km 以下 | 5,364 m2/日 |
| | | | 5.0km 以下 | 4,917 m2/日 |
| | | | 6.5km 以下 | 4,538 m2/日 |
| | | | 7.5km 以下 | 3,933 m2/日 |
| | | | 8.5km 以下 | 3,688 m2/日 |
| | | | 9.5km 以下 | 3,278 m2/日 |
| | | | 11.0km 以下 | 3,105 m2/日 |
| | | | 12.5km 以下 | 2,810 m2/日 |
| | | | 14.5km 以下 | 2,565 m2/日 |
| | | | 16.5km 以下 | 2,360 m2/日 |
| | | | 19.0km 以下 | 2,185 m2/日 |
| | | | 22.0km 以下 | 1,967 m2/日 |
| | | | 26.0km 以下 | 1,788 m2/日 |
| | | | 32.0km 以下 | 1,639 m2/日 |
| | | | 47.0km 以下 | 1,475 m2/日 |
| | | | 60.0km 以下 | 1,341 m2/日 |
| | | 有り | 0.5km 以下 | 11,800 m2/日 |
| | | | 1.5km 以下 | 9,833 m2/日 |
| | | | 2.0km 以下 | 8,429 m2/日 |
| | | | 2.5km 以下 | 7,375 m2/日 |
| | | | 3.0km 以下 | 6,556 m2/日 |
| | | | 4.0km 以下 | 5,900 m2/日 |
| | | | 4.5km 以下 | 5,364 m2/日 |
| | | | 5.0km 以下 | 4,917 m2/日 |
| | | | 6.0km 以下 | 4,538 m2/日 |
| | | | 7.0km 以下 | 3,933 m2/日 |
| | | | 8.0km 以下 | 3,688 m2/日 |
| | | | 9.0km 以下 | 3,278 m2/日 |
| | | | 10.0km 以下 | 3,105 m2/日 |
| | | | 11.5km 以下 | 2,810 m2/日 |
| | | | 13.0km 以下 | 2,565 m2/日 |
| | | | 15.0km 以下 | 2,360 m2/日 |
| | | | 17.0km 以下 | 2,185 m2/日 |
| | | | 19.5km 以下 | 1,967 m2/日 |
| | | | 22.0km 以下 | 1,788 m2/日 |
| | | | 25.5km 以下 | 1,639 m2/日 |
| | | | 30.0km 以下 | 1,475 m2/日 |
| | | | 60.0km 以下 | 1,341 m2/日 |

（注）ダンプトラックの運転日当たり運転時間は，5.9ｈとする。

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>伐木除根工</td><td>④　伐木･伐竹(複合)
<table>
<tr><th>樹木･竹の区分<br>樹木密集度</th><th>除根作業<br>の有無</th><th>集積積込み<br>作業の区分</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="3">伐木（粗）</td><td>有り</td><td rowspan="2">機械施工</td><td>259 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">無し</td><td>650 m2／日</td></tr>
<tr><td>人力施工</td><td>730 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">伐木（中）</td><td>有り</td><td rowspan="2">機械施工</td><td>213 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">無し</td><td>423 m2／日</td></tr>
<tr><td>人力施工</td><td>455 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">伐木（密）</td><td>有り</td><td rowspan="2">機械施工</td><td>176 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">無し</td><td>296 m2／日</td></tr>
<tr><td>人力施工</td><td>312 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">伐竹</td><td>有り</td><td rowspan="2">機械施工</td><td>177 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">無し</td><td>299 m2／日</td></tr>
<tr><td>人力施工</td><td>315 m2／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>塵芥処理工</td><td>①　塵芥処理工
<table>
<tr><th>工　　種　　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>散在塵芥収集</td><td>20,000 m2／日</td></tr>
<tr><td>堆積塵芥収集（機械処理）</td><td>26 m3／日</td></tr>
<tr><td>堆積塵芥収集（人力処理）</td><td>9 m3／日</td></tr>
</table>
（注）上表は，収集・集積作業のみである。</td></tr>
</table>

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 塵芥処理工 | ②　散在塵芥処理（収集・集積・運搬） |

| DID 区間の有無 | 運搬距離 | 作業日当り標準作業量 | |
|---|---|---|---|
| | | 運搬のみ | 収集･集積･運搬 |
| 無し | 1.0km 以下 | 84，286 m2/日 | 16，164 m2/日 |
| | 2.0km 以下 | 73，750 m2/日 | 15，733 m2/日 |
| | 3.0km 以下 | 65，556 m2/日 | 15，325 m2/日 |
| | 4.5km 以下 | 59，000 m2/日 | 14，937 m2/日 |
| | 6.0km 以下 | 53，636 m2/日 | 14，568 m2/日 |
| | 7.5km 以下 | 49，167 m2/日 | 14，217 m2/日 |
| | 9.5km 以下 | 42，143 m2/日 | 13，563 m2/日 |
| | 12.0km 以下 | 39，333 m2/日 | 13，258 m2/日 |
| | 14.5km 以下 | 34，706 m2/日 | 12，688 m2/日 |
| | 17.5km 以下 | 31，053 m2/日 | 12，165 m2/日 |
| | 21.5km 以下 | 28，095 m2/日 | 11，683 m2/日 |
| | 26.5km 以下 | 25，652 m2/日 | 11，238 m2/日 |
| | 34.5km 以下 | 22，692 m2/日 | 10，631 m2/日 |
| | 46.0km 以下 | 21，071 m2/日 | 10，261 m2/日 |
| | 60.0km 以下 | 19，667 m2/日 | 9，916 m2/日 |
| 有り | 1.0km 以下 | 84，286 m2/日 | 16，164 m2/日 |
| | 2.0km 以下 | 73，750 m2/日 | 15，733 m2/日 |
| | 3.0km 以下 | 65，556 m2/日 | 15，325 m2/日 |
| | 4.0km 以下 | 59，000 m2/日 | 14，937 m2/日 |
| | 5.0km 以下 | 53，636 m2/日 | 14，568 m2/日 |
| | 7.0km 以下 | 49，167 m2/日 | 14，217 m2/日 |
| | 8.5km 以下 | 42，143 m2/日 | 13，563 m2/日 |
| | 10.5km 以下 | 39，333 m2/日 | 13，258 m2/日 |
| | 13.0km 以下 | 34，706 m2/日 | 12，688 m2/日 |
| | 15.5km 以下 | 31，053 m2/日 | 12，165 m2/日 |
| | 18.0km 以下 | 28，095 m2/日 | 11，683 m2/日 |
| | 22.5km 以下 | 25，652 m2/日 | 11，238 m2/日 |
| | 25.5km 以下 | 22，692 m2/日 | 10，631 m2/日 |
| | 29.5km 以下 | 21，071 m2/日 | 10，261 m2/日 |
| | 60.0km 以下 | 19，667 m2/日 | 9，916 m2/日 |

（注）ダンプトラックの運転日当り運転時間は，5.9ｈとする。

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 塵芥処理工 | ③　堆積塵芥処理（収集･集積･運搬） |

| 塵芥の種類 | DID 区間の有無 | 運搬距離 | 作業日当り標準作業量 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 運搬のみ | 収集･集積･運搬 | |
| | | | | 機械処理 | 人力処理 |
| 木片･空缶･枯草等のかさ高物 | 無し | 0.5km 以下 | 74 m3/日 | 19 m3/日 | 8.0 m3/日 |
| | | 1.0km 以下 | 66 m3/日 | 19 m3/日 | 7.9 m3/日 |
| | | 2.0km 以下 | 59 m3/日 | 18 m3/日 | 7.8 m3/日 |
| | | 3.0km 以下 | 49 m3/日 | 17 m3/日 | 7.6 m3/日 |
| | | 4.0km 以下 | 42 m3/日 | 16 m3/日 | 7.4 m3/日 |
| | | 5.0km 以下 | 37 m3/日 | 15 m3/日 | 7.2 m3/日 |
| | | 6.5km 以下 | 33 m3/日 | 15 m3/日 | 7.1 m3/日 |
| | | 8.0km 以下 | 30 m3/日 | 14 m3/日 | 6.9 m3/日 |
| | | 9.5km 以下 | 26 m3/日 | 13 m3/日 | 6.7 m3/日 |
| | | 11.5km 以下 | 24 m3/日 | 12 m3/日 | 6.5 m3/日 |
| | | 13.5km 以下 | 21 m3/日 | 12 m3/日 | 6.3 m3/日 |
| | | 16.0km 以下 | 19 m3/日 | 11 m3/日 | 6.1 m3/日 |
| | | 19.0km 以下 | 17 m3/日 | 10 m3/日 | 5.9 m3/日 |
| | | 22.5km 以下 | 16 m3/日 | 9.9 m3/日 | 5.8 m3/日 |
| | | 27.5km 以下 | 14 m3/日 | 9.1 m3/日 | 5.5 m3/日 |
| | | 35.0km 以下 | 13 m3/日 | 8.7 m3/日 | 5.3 m3/日 |
| | | 46.0km 以下 | 11 m3/日 | 7.7 m3/日 | 5.0 m3/日 |
| | | 60.0km 以下 | 11 m3/日 | 7.7 m3/日 | 5.0 m3/日 |
| | 有り | 0.5km 以下 | 74 m3/日 | 19 m3/日 | 8.0 m3/日 |
| | | 1.0km 以下 | 66 m3/日 | 19 m3/日 | 7.9 m3/日 |
| | | 2.0km 以下 | 59 m3/日 | 18 m3/日 | 7.8 m3/日 |
| | | 3.0km 以下 | 49 m3/日 | 17 m3/日 | 7.6 m3/日 |
| | | 4.0km 以下 | 42 m3/日 | 16 m3/日 | 7.4 m3/日 |
| | | 5.0km 以下 | 37 m3/日 | 15 m3/日 | 7.2 m3/日 |
| | | 6.0km 以下 | 33 m3/日 | 15 m3/日 | 7.1 m3/日 |
| | | 7.5km 以下 | 30 m3/日 | 14 m3/日 | 6.9 m3/日 |
| | | 8.5km 以下 | 26 m3/日 | 13 m3/日 | 6.7 m3/日 |
| | | 10.5km 以下 | 24 m3/日 | 12 m3/日 | 6.5 m3/日 |
| | | 12.0km 以下 | 21 m3/日 | 12 m3/日 | 6.3 m3/日 |
| | | 14.5km 以下 | 19 m3/日 | 11 m3/日 | 6.1 m3/日 |
| | | 16.5km 以下 | 17 m3/日 | 10 m3/日 | 5.9 m3/日 |
| | | 19.0km 以下 | 16 m3/日 | 9.9 m3/日 | 5.8 m3/日 |
| | | 23.0km 以下 | 14 m3/日 | 9.1 m3/日 | 5.5 m3/日 |
| | | 27.0km 以下 | 13 m3/日 | 8.7 m3/日 | 5.3 m3/日 |
| | | 29.5km 以下 | 11 m3/日 | 7.7 m3/日 | 5.0 m3/日 |
| | | 60.0km 以下 | 11 m3/日 | 7.7 m3/日 | 5.0 m3/日 |

（注）ダンプトラックの運転日当り運転時間は，5.9ｈとする。

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 塵芥処理工 | |

| 塵芥の種類 | DID 区間の有無 | 運搬距離 | 作業日当り標準作業量 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 運搬のみ | 収集･集積･運搬 | |
| | | | | 機械処理 | 人力処理 |
| コンクリート塊等の重量物 | 無し | 0.5km 以下 | 20 m3/日 | 11 m3/日 | 6.2 m3/日 |
| | | 1.0km 以下 | 18 m3/日 | 11 m3/日 | 6.0 m3/日 |
| | | 2.0km 以下 | 16 m3/日 | 9.9 m3/日 | 5.8 m3/日 |
| | | 3.0km 以下 | 14 m3/日 | 9.1 m3/日 | 5.5 m3/日 |
| | | 4.0km 以下 | 12 m3/日 | 8.2 m3/日 | 5.1 m3/日 |
| | | 5.0km 以下 | 11 m3/日 | 7.7 m3/日 | 5.0 m3/日 |
| | | 6.0km 以下 | 9.4 m3/日 | 6.9 m3/日 | 4.6 m3/日 |
| | | 7.5km 以下 | 8.6 m3/日 | 6.5 m3/日 | 4.4 m3/日 |
| | | 9.0km 以下 | 7.6 m3/日 | 5.9 m3/日 | 4.1 m3/日 |
| | | 11.0km 以下 | 6.8 m3/日 | 5.4 m3/日 | 3.9 m3/日 |
| | | 13.0km 以下 | 6.0 m3/日 | 4.9 m3/日 | 3.6 m3/日 |
| | | 15.5km 以下 | 5.4 m3/日 | 4.5 m3/日 | 3.4 m3/日 |
| | | 18.5km 以下 | 4.8 m3/日 | 4.1 m3/日 | 3.1 m3/日 |
| | | 22.0km 以下 | 4.3 m3/日 | 3.7 m3/日 | 2.9 m3/日 |
| | | 26.5km 以下 | 3.9 m3/日 | 3.4 m3/日 | 2.7 m3/日 |
| | | 33.0km 以下 | 3.6 m3/日 | 3.2 m3/日 | 2.6 m3/日 |
| | | 46.0km 以下 | 3.2 m3/日 | 2.8 m3/日 | 2.4 m3/日 |
| | | 60.0km 以下 | 3.0 m3/日 | 2.7 m3/日 | 2.3 m3/日 |
| | 有り | 0.5km 以下 | 20 m3/日 | 11 m3/日 | 6.2 m3/日 |
| | | 1.0km 以下 | 18 m3/日 | 11 m3/日 | 6.0 m3/日 |
| | | 2.0km 以下 | 16 m3/日 | 9.9 m3/日 | 5.8 m3/日 |
| | | 3.0km 以下 | 14 m3/日 | 9.1 m3/日 | 5.5 m3/日 |
| | | 4.0km 以下 | 12 m3/日 | 8.2 m3/日 | 5.1 m3/日 |
| | | 5.0km 以下 | 11 m3/日 | 7.7 m3/日 | 5.0 m3/日 |
| | | 6.0km 以下 | 9.4 m3/日 | 6.9 m3/日 | 4.6 m3/日 |
| | | 7.0km 以下 | 8.6 m3/日 | 6.5 m3/日 | 4.4 m3/日 |
| | | 8.5km 以下 | 7.6 m3/日 | 5.9 m3/日 | 4.1 m3/日 |
| | | 10.5km 以下 | 6.8 m3/日 | 5.4 m3/日 | 3.9 m3/日 |
| | | 12.0km 以下 | 6.0 m3/日 | 4.9 m3/日 | 3.6 m3/日 |
| | | 14.0km 以下 | 5.4 m3/日 | 4.5 m3/日 | 3.4 m3/日 |
| | | 17.0km 以下 | 4.8 m3/日 | 4.1 m3/日 | 3.1 m3/日 |
| | | 19.5km 以下 | 4.3 m3/日 | 3.7 m3/日 | 2.9 m3/日 |
| | | 22.5km 以下 | 3.9 m3/日 | 3.4 m3/日 | 2.7 m3/日 |
| | | 26.5km 以下 | 3.6 m3/日 | 3.2 m3/日 | 2.6 m3/日 |
| | | 29.5km 以下 | 3.2 m3/日 | 2.8 m3/日 | 2.4 m3/日 |
| | | 60.0km 以下 | 3.0 m3/日 | 2.7 m3/日 | 2.3 m3/日 |

（注）ダンプトラックの運転日当り運転時間は，5.9ｈとする。

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| ボーリンググラウト工 | 日当り施工本数（参考）<br>ロッド工法及びパッカー工法の２セット１日当り施工本数は以下により算出する。<br>２セット１日当り施工本数（本／日）<br>$N=\dfrac{1}{\dfrac{Tr\text{又は}Tp}{10}+S\times Q}$<br>Ｔｒ：ロッド工法 10 孔当り削孔日数（準備含む）（1－1）<br>Ｔｐ：パッカー工法 10 孔当り削孔日数（準備含む）（1－2）<br>Ｓ　：注入工１m3 当り注入日数（2－1）<br>Ｑ　：１孔当り平均注入量（m3）<br>１－１　ロッド工法 10 孔当り削孔日数（準備含む）（Ｔr）は次式のとおりとする。<br>$Tr=\alpha\times Ta+0.9$（日）（２セット当り）<br>Ｔａ：削孔長別 10 孔当り削孔日数（準備含まず）（下表参照）<br>0.9：準備等の日数<br>$\alpha$　：土質係数は，掘削する土質毎の係数をを下記のとおり加重平均して算出する。$\alpha$ は小数第２位を四捨五入し小数第１位とし，下表より選択する。<br>$\alpha=\dfrac{\alpha 1\times L1+\alpha 2\times L2}{L1+L2}$<br>ここで，$\alpha$１：砂質土及び粘性土の土質係数(=1.0)<br>$\alpha$２：レキ質土の土質係数（＝2.5）<br>Ｌ１：砂質土及び粘性土の総削孔長（m）<br>Ｌ２：レキ質土の総削孔長（m） |

| | |
|---|---|
| 土質係数（$\alpha$） | 1.0 |
| | 1.1 |
| | 1.2 |
| | 1.3 |
| | 1.4 |
| | 1.5 |
| | 1.6 |
| | 1.7 |
| | 1.8 |

ロッド工法　削孔長別 10 孔当り削孔日数（Ｔａ）（２セット当り）

| 削孔長（m） | 単位 | 数量 |
|---|---|---|
| 1.0m 以上 2.0m 未満 | 日 | 0.2 |
| 2.0m 以上 3.0m 未満 | 日 | 0.4 |
| 3.0m 以上 4.0m 未満 | 日 | 0.6 |
| 4.0m 以上 5.0m 未満 | 日 | 0.7 |
| 5.0m 以上 6.0m 未満 | 日 | 0.9 |
| 6.0m 以上 7.0m 未満 | 日 | 1.0 |
| 7.0m 以上 8.0m 未満 | 日 | 1.2 |
| 8.0m 以上 9.0m 未満 | 日 | 1.4 |
| 9.0m 以上 10.0m 未満 | 日 | 1.5 |
| 10.0m 以上 11.0m 未満 | 日 | 1.7 |
| 11.0m 以上 12.0m 未満 | 日 | 1.8 |
| 12.0m 以上 13.0m 未満 | 日 | 2.0 |
| 13.0m 以上 14.0m 未満 | 日 | 2.2 |
| 14.0m 以上 15.0m 未満 | 日 | 2.3 |
| 15.0m 以上 16.0m 未満 | 日 | 2.5 |

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>ボーリンググラウト工</td><td>
１－２　パッカー工法 10 孔当り削孔日数（準備含む）（Ｔｐ）は次表のとおりとする。<br>
パッカー工法 削孔長別 10 孔当り削孔日数（Ｔｐ）（２セット当り）
<table>
<tr><th>削孔長（m）</th><th>単位</th><th>数　　量</th></tr>
<tr><td>0.2m 未満</td><td>日</td><td>0.8</td></tr>
<tr><td>0.2m 以上 0.4m 未満</td><td>日</td><td>1.0</td></tr>
<tr><td>0.4m 以上 0.6m 未満</td><td>日</td><td>1.1</td></tr>
<tr><td>0.6m 以上 0.8m 未満</td><td>日</td><td>1.3</td></tr>
<tr><td>0.8m 以上 1.0m 未満</td><td>日</td><td>1.5</td></tr>
<tr><td>1.0m 以上 1.2m 未満</td><td>日</td><td>1.7</td></tr>
<tr><td>1.2m 以上 1.4m 未満</td><td>日</td><td>1.8</td></tr>
<tr><td>1.4m 以上 1.6m 未満</td><td>日</td><td>2.0</td></tr>
<tr><td>1.6m 以上 1.8m 未満</td><td>日</td><td>2.2</td></tr>
<tr><td>1.8m 以上 2.0m 未満</td><td>日</td><td>2.3</td></tr>
</table>
２－１　注入工１m3 当り注入日数（Ｓ）は次表のとおりとする。<br>
注入工１m3 当り注入日数（Ｓ）（２セット当り）
<table>
<tr><th>注　入　日　数　（Ｓ）</th></tr>
<tr><td>0.12</td></tr>
</table>
（注）１．上表の注入日数は 1 分間当り注入量を 0.01m3／min とした場合である。<br>
１分間当り注入量を，試験注入等を行って決める場合は，次の式より注入日数を求めるものとする。<br>
Ｓ＝１／（408 ×ｑ×２）<br>
ｑ：１分間当り注入量（m3／min）<br>
２．上記算出式により算出するＳは小数第３位を四捨五入し小数第２位とする。<br><br>
３－１　注入設備の据付け・解体の施工日数は２日とする。　（２セット分）
</td></tr>
<tr><td>粗朶沈床工</td><td>
①　粗朶沈床工
<table>
<tr><th>作　　業　　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>連柴製作・沈床組立</td><td>32m2／日</td></tr>
<tr><td>沈床沈設・沈石投入</td><td>169m2／日</td></tr>
<tr><td>間詰石投入</td><td>94m2／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>機械土工（河床等掘削）</td><td>
①　河床等掘削
<table>
<tr><th>作　　業　　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>河床等掘削</td><td>147m$^3$／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>機械土工（河床等掘削）</td><td>② 軟弱土等運搬
<table>
<tr><th>DID 区間の<br>有無</th><th>運搬距離</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="12">無し</td><td>0.3km 以下</td><td>63m3/日</td></tr>
<tr><td>0.8km 以下</td><td>59m3/日</td></tr>
<tr><td>1.5km 以下</td><td>53m3/日</td></tr>
<tr><td>2.5km 以下</td><td>48m3/日</td></tr>
<tr><td>3.5km 以下</td><td>42m3/日</td></tr>
<tr><td>6.5km 以下</td><td>37m3/日</td></tr>
<tr><td>9.0km 以下</td><td>31m3/日</td></tr>
<tr><td>13.0km 以下</td><td>26m3/日</td></tr>
<tr><td>19.5km 以下</td><td>21m3/日</td></tr>
<tr><td>40.0km 以下</td><td>16m3/日</td></tr>
<tr><td>60.0km 以下</td><td>11m3/日</td></tr>
<tr><td rowspan="12">有り</td><td>0.3km 以下</td><td>63m3/日</td></tr>
<tr><td>0.8km 以下</td><td>59m3/日</td></tr>
<tr><td>1.5km 以下</td><td>53m3/日</td></tr>
<tr><td>2.5km 以下</td><td>48m3/日</td></tr>
<tr><td>3.5km 以下</td><td>42m3/日</td></tr>
<tr><td>4.5km 以下</td><td>37m3/日</td></tr>
<tr><td>8.5km 以下</td><td>31m3/日</td></tr>
<tr><td>12.0km 以下</td><td>26m3/日</td></tr>
<tr><td>17.5km 以下</td><td>21m3/日</td></tr>
<tr><td>30.0km 以下</td><td>16m3/日</td></tr>
<tr><td>50.0km 以下</td><td>11m3/日</td></tr>
<tr><td>60.0km 以下</td><td>5m3/日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>巨石積（張）工</td><td>① 巨石積（張）工
<table>
<tr><th>作　　業　　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>巨石張　(練)</td><td>25m2/日</td></tr>
<tr><td>巨石張　(空)</td><td>27m2/日</td></tr>
<tr><td>巨石積　(練)</td><td>30m2/日</td></tr>
<tr><td>巨石採取</td><td>38個/日</td></tr>
</table>
(注)　巨石積（張）工は，裏込材工を施工しない場合も上表による。</td></tr>
<tr><td>木杭打工</td><td>① 木杭打
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>58 本／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>巨石据付工</td><td>① 巨石据付工
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>42m2／日</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 護岸基礎ブロック工 | ① プレキャスト基礎(中詰材の種類：コンクリート) |

| ブロック製品長 | ブロック下幅 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|
| 2，000㎜ | 500㎜以上600㎜未満 | 26m/日 |
| | 600 ㎜以上 700 ㎜未満 | 22m/日 |
| | 700 ㎜以上 900 ㎜未満 | 18m/日 |
| | 900 ㎜以上 1,100 ㎜未満 | 14m/日 |
| | 1,100 ㎜ | 12m/日 |
| 3，300㎜ | 500㎜以上600㎜未満 | 33m/日 |
| | 600 ㎜以上 700 ㎜未満 | 26m/日 |
| | 700 ㎜以上 900 ㎜未満 | 21m/日 |
| | 900 ㎜以上 1,100 ㎜未満 | 16m/日 |
| | 1,100 ㎜ | 13m/日 |
| 5，000㎜ | 500㎜以上600㎜未満 | 40m/日 |
| | 600 ㎜以上 700 ㎜未満 | 31m/日 |
| | 700 ㎜以上 900 ㎜未満 | 23m/日 |
| | 900 ㎜以上 1,100 ㎜未満 | 17m/日 |
| | 1,100 ㎜ | 15m/日 |

(注)1．上表の作業日当り標準作業量には，ブロックの据付け，連結，目地材設置，中詰コンクリート打設，養生を含む。
2．基礎材の設置は含まない。
3．中詰コンクリート工はクレーン車打設とする。
4．養生は，養生材の被覆，散水養生，被覆養生程度のものである。

② プレキャスト基礎(中詰材の種類：その他または無し)

| ブロック製品長 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|
| 2,000㎜ | 30(32)m/日 |
| 3,300 ㎜ | 38m/日 |
| 4,000㎜ | 42m/日 |
| 5,000㎜ | 48m/日 |

(注)1．上表の作業日当り標準作業量には，ブロックの据付け，連結，目地材設置を含む。
2．ブロック製品長 2,000㎜ で，中詰材投入の必要がない場合は()内の値とする。
3．基礎材の設置は含まない。
4．中詰材の投入は含まない。

③ 中詰コンクリート打設

| 作業日当り標準作業量 | 17 m3／日 |
|---|---|

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>かごマット工（スロープ型）</td><td>
① かごマット工（スロープ型）
<table>
<tr><th colspan="2">作　業　名</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>摘　要</th></tr>
<tr><td rowspan="2">かごマット</td><td>厚さ 30cm</td><td>42m2/日</td><td></td></tr>
<tr><td>厚さ 50 cm</td><td>35m2/日</td><td></td></tr>
</table>
(注)1. 上表の作業日当り標準作業量には，法面整形（床拵え含む），吸出し防止材設置，かご組立・据付け，補強材設置撤去，詰石，蓋設置の作業を含む。<br>2. 各作業間の重複は考慮していない。<br><br>
（参考）各作業単独の場合の作業量
<table>
<tr><th colspan="2">作　業　名</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>摘　要</th></tr>
<tr><td colspan="2">法面整形</td><td>478m2/日</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">吸出し防止材設置</td><td>418m2/日</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">かご組立・据付け</td><td>厚さ 30cm</td><td>328m2/日</td><td></td></tr>
<tr><td>厚さ 50 cm</td><td>190m2/日</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">補強材設置撤去</td><td>165m2/日</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">詰石</td><td>厚さ 30cm</td><td>150m2/日</td><td></td></tr>
<tr><td>厚さ 50 cm</td><td>108m2/日</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">蓋設置</td><td>289m2/日</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>かごマット工（多段積型）</td><td>
① かごマット工（多段積型）
<table>
<tr><th colspan="2">作　業　名</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>摘　要</th></tr>
<tr><td>かごマット</td><td>多段積型</td><td>18m2/日</td><td></td></tr>
</table>
(注)1. 上表の作業日当り標準作業量には，かご組立・据付，詰石，吸出し防止材設置，補強材設置・撤去，法面整形。床拵えの他，蓋設置を含む。<br>2. 各作業間の重複は考慮していない。
</td></tr>
<tr><td>ブロックマット工</td><td>該当工種の基準内に記載。</td></tr>
<tr><td>野芝種子吹付工</td><td>
① 野芝種子吹付工
<table>
<tr><th>作業名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>野芝種子吹付</td><td>1，429 m2／日</td></tr>
<tr><td>被覆シート張</td><td>1，429 m2／日</td></tr>
<tr><td>養生(散水養生)</td><td>1，667 m2／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>袋詰玉石工</td><td>
① 袋詰玉石
<table>
<tr><th>袋材規格</th><th>施工条件</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">２ｔ用</td><td>据付深さ 4m以下及び<br>作業半径5m以内</td><td>37 袋／日</td></tr>
<tr><td>据付深さ 4mを超え 9m以下又は<br>作業半径5mを超え18m以下</td><td>40 袋／日</td></tr>
<tr><td>３ｔ用</td><td>－</td><td>38 袋／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>笠コンクリート<br>ブロック据付工</td><td>
① 笠コンクリートブロック
<table>
<tr><th>中詰ｺﾝｸﾘｰﾄ型枠の<br>有無</th><th>中詰ｺﾝｸﾘｰﾄ 100m 当り<br>設計量</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="10">無し</td><td>11m3 以上 16m3 未満</td><td>25 m/日</td></tr>
<tr><td>16m3 以上 23m3 未満</td><td>24 m/日</td></tr>
<tr><td>23m3 以上 31m3 未満</td><td>23 m/日</td></tr>
<tr><td>31m3 以上 39m3 未満</td><td>21 m/日</td></tr>
<tr><td>39m3 以上 47m3 未満</td><td>20 m/日</td></tr>
<tr><td>47m3 以上 56m3 未満</td><td>19 m/日</td></tr>
<tr><td>56m3 以上 65m3 未満</td><td>18 m/日</td></tr>
<tr><td>65m3 以上 75m3 未満</td><td>17 m/日</td></tr>
<tr><td>75m3 以上 85m3 未満</td><td>16 m/日</td></tr>
<tr><td>85m3 以上 96m3 未満</td><td>15 m/日</td></tr>
<tr><td rowspan="10">有り</td><td>11m3 以上 16m3 未満</td><td>16 m/日</td></tr>
<tr><td>16m3 以上 23m3 未満</td><td>15 m/日</td></tr>
<tr><td>23m3 以上 31m3 未満</td><td>15 m/日</td></tr>
<tr><td>31m3 以上 39m3 未満</td><td>14 m/日</td></tr>
<tr><td>39m3 以上 47m3 未満</td><td>14 m/日</td></tr>
<tr><td>47m3 以上 56m3 未満</td><td>13 m/日</td></tr>
<tr><td>56m3 以上 65m3 未満</td><td>13 m/日</td></tr>
<tr><td>65m3 以上 75m3 未満</td><td>12 m/日</td></tr>
<tr><td>75m3 以上 85m3 未満</td><td>12 m/日</td></tr>
<tr><td>85m3 以上 96m3 未満</td><td>11 m/日</td></tr>
</table>
（参考）各作業単独の場合の作業量
<table>
<tr><th>作　業　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>高さ調整金具取付</td><td>107m／日</td></tr>
<tr><td>笠コンクリートブロック据付</td><td>56m／日</td></tr>
<tr><td>ブロック連結</td><td>122m／日</td></tr>
<tr><td>中詰コンクリート工</td><td>30m3／日</td></tr>
<tr><td>型枠設置</td><td>67m／日</td></tr>
<tr><td>型枠撤去</td><td>111m／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>グラウトホール工</td><td>
① グラウトホール
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>5 組／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，特殊作業員１名の場合。
</td></tr>
<tr><td>連節ブロックの水中吊落し工</td><td>
① 連節ブロックの水中吊落し工
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>187 m2／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>光ケーブル配管工</td><td>①　光ケーブル配管工
<table>
<tr><th>作　業　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>掘　　削</td><td>28　m3／日</td></tr>
<tr><td>埋　戻　し</td><td>13　m3／日</td></tr>
<tr><td>配管設置（埋設部）</td><td>96　m／日</td></tr>
<tr><td>配管設置（露出）</td><td>121　m／日</td></tr>
<tr><td>ハンドホール設置</td><td>1　個／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>土工(砂防工)</td><td>①　掘削（砂防）
<table>
<tr><th>土質</th><th>施工数量</th><th>障害の有無</th><th>掘削範囲</th><th>火薬使用</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="4">土砂</td><td rowspan="2">3,000m3<br>未満</td><td>無し</td><td>－</td><td>－</td><td>110m3/日</td></tr>
<tr><td>有り</td><td>－</td><td>－</td><td>83m3/日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3,000m3<br>以上</td><td>無し</td><td>－</td><td>－</td><td>220m3/日</td></tr>
<tr><td>有り</td><td>－</td><td>－</td><td>160m3/日</td></tr>
<tr><td rowspan="4">岩塊・玉石</td><td rowspan="2">3,000m3<br>未満</td><td>無し</td><td>－</td><td>－</td><td>93m3/日</td></tr>
<tr><td>有り</td><td>－</td><td>－</td><td>62m3/日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3,000m3<br>以上</td><td>無し</td><td>－</td><td>－</td><td>180m3/日</td></tr>
<tr><td>有り</td><td>－</td><td>－</td><td>120m3/日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">軟岩</td><td>－</td><td>－</td><td>機械走行面<br>より5m以内</td><td>－</td><td>51m3/日</td></tr>
<tr><td>－</td><td>－</td><td rowspan="2">機械走行面<br>より5m超え</td><td>可</td><td>37m3/日</td></tr>
<tr><td>－</td><td>－</td><td>不可</td><td>9m3/日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">硬岩</td><td>－</td><td>－</td><td>機械走行面<br>より5m以内</td><td>－</td><td>29m3/日</td></tr>
<tr><td>－</td><td>－</td><td rowspan="2">機械走行面<br>より5m超え</td><td>可</td><td>21m3/日</td></tr>
<tr><td>－</td><td>－</td><td>不可</td><td>7m3/日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">転石</td><td>－</td><td>－</td><td>機械走行面<br>より5m以内</td><td>－</td><td>31m3/日</td></tr>
<tr><td>－</td><td>－</td><td rowspan="2">機械走行面<br>より5m超え</td><td>可</td><td>9m3/日</td></tr>
<tr><td>－</td><td>－</td><td>不可</td><td>12m3/日</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 土工（砂防工） | ②　土砂等運搬（砂防） |

| 土質 | 運搬距離 | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|---|
| 土砂<br>（岩塊・玉石混り土含む） | 0.5km 以下 | 125m3/日 |
| | 1.0km 以下 | 111m3/日 |
| | 1.5km 以下 | 100m3/日 |
| | 2.0km 以下 | 91m3/日 |
| | 2.5km 以下 | 77m3/日 |
| | 3.0km 以下 | 71m3/日 |
| | 4.0km 以下 | 63m3/日 |
| | 5.0km 以下 | 56m3/日 |
| | 6.0km 以下 | 48m3/日 |
| | 7.0km 以下 | 43m3/日 |
| 軟岩 | － | 土砂÷1.22 |
| 硬岩 | － | 土砂÷1.37 |

③　積込（ルーズ）（砂防）

| 土質 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|
| 土砂 | 240m3/日 |
| 岩塊・玉石 | 200m3/日 |
| 破砕岩 | 160m3/日 |

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 土工（バックホウ床掘<br>山積 0.45m3<br>（平積 0.35m3）） | ①　バックホウ床掘 山積 0.45m3(平積 0.35m3) |

| 現場条件 | 土・岩質区分 | 旋回角度 | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|---|---|
| 床堀・良好 | 砂・砂質土 | 90°以下 | 206 m3/日 |
| | | 90°超 | 176 m3/日 |
| | レキ質土・粘性土 | 90°以下 | 180 m3/日 |
| | | 90°超 | 154 m3/日 |
| | 岩塊・玉石 | 90°以下 | 154 m3/日 |
| | | 90°超 | 132 m3/日 |
| 床堀・普通 | 砂・砂質土 | 90°以下 | 167 m3/日 |
| | | 90°超 | 143 m3/日 |
| | レキ質土・粘性土 | 90°以下 | 141 m3/日 |
| | | 90°超 | 121 m3/日 |
| | 岩塊・玉石 | 90°以下 | 116 m3/日 |
| | | 90°超 | 99 m3/日 |
| 床堀・不良 | 砂・砂質土 | 90°以下 | 129 m3/日 |
| | | 90°超 | 110 m3/日 |
| | レキ質土・粘性土 | 90°以下 | 103 m3/日 |
| | | 90°超 | 88 m3/日 |
| | 岩塊・玉石 | 90°以下 | 77 m3/日 |
| | | 90°超 | 66 m3/日 |
| ルーズ・良好 | 砂・砂質土 | 90°以下 | 218 m3/日 |
| | | 90°超 | 187 m3/日 |
| | レキ質土・粘性土 | 90°以下 | 193 m3/日 |
| | | 90°超 | 165 m3/日 |
| | 岩塊・玉石 | 90°以下 | 167 m3/日 |
| | | 90°超 | 143 m3/日 |
| ルーズ・普通 | 砂・砂質土 | 90°以下 | 180 m3/日 |
| | | 90°超 | 154 m3/日 |
| | レキ質土・粘性土 | 90°以下 | 154 m3/日 |
| | | 90°超 | 132 m3/日 |
| | 岩塊・玉石 | 90°以下 | 129 m3/日 |
| | | 90°超 | 110 m3/日 |
| | 破砕岩 | 90°以下 | 103 m3/日 |
| | | 90°超 | 88 m3/日 |
| ルーズ・不良 | 砂・砂質土 | 90°以下 | 141 m3/日 |
| | | 90°超 | 121 m3/日 |
| | レキ質土・粘性土 | 90°以下 | 116 m3/日 |
| | | 90°超 | 99 m3/日 |
| | 岩塊・玉石 | 90°以下 | 90 m3/日 |
| | | 90°超 | 77 m3/日 |
| | 破砕岩 | 90°以下 | 64 m3/日 |
| | | 90°超 | 55 m3/日 |

（注）バックホウの運転日当り運転時間は，6.3ｈとする。

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>コンクリート工<br>(砂防工)</td><td>①　コンクリート工（砂防工）
<table>
<tr><th colspan="2">作　　業　　名</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">コンクリート打設<br>（一般部）</td><td>日打設量 10m3 以上<br>50m3 未満</td><td>43m3／日</td></tr>
<tr><td>日打設量 50m3 以上<br>150m3 未満</td><td>73m3／日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">コンクリート打設<br>（堤冠）</td><td>鉄材 3(m3/ﾌﾞﾛｯｸ)未満</td><td>3m3／日</td></tr>
<tr><td>ｸﾞﾗﾉﾘｼｯｸ 20(m3/ﾌﾞﾛｯｸ)未満</td><td>17m3／日</td></tr>
<tr><td>富配合 30(m3/ﾌﾞﾛｯｸ)未満</td><td>33m3／日</td></tr>
<tr><td colspan="2">型枠設置・撤去・ケレンはく離剤塗布</td><td>47m2／日</td></tr>
<tr><td colspan="2">足　場　工</td><td>100m／日</td></tr>
<tr><td colspan="2">止　水　板　設　置</td><td>33m／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>コンクリート工（ケーブルクレーン打設）</td><td>①　コンクリート投入　･･･　該当工種の計算式（1 時間当り投入量）を参照。<br>②　コンクリート工（ケーブルクレーン打設）
<table>
<tr><th colspan="2">作　　業　　名</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td colspan="2">型　枠　工</td><td>50 m2／日</td></tr>
<tr><td colspan="2">コンクリート養生</td><td>77 m3／日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">堤冠コンクリート締固め</td><td>鉄材 3(m3/ﾌﾞﾛｯｸ)未満</td><td>3 m3／日</td></tr>
<tr><td>ｸﾞﾗﾉﾘｼｯｸ 20(m3/ﾌﾞﾛｯｸ)未満</td><td>17 m3／日</td></tr>
<tr><td>富配合 30(m3/ﾌﾞﾛｯｸ)未満</td><td>33 m3／日</td></tr>
<tr><td colspan="2">堤冠コンクリート養生</td><td>11 m3／日</td></tr>
<tr><td colspan="2">岩盤清掃</td><td>100 m2／日</td></tr>
<tr><td colspan="2">チッピング</td><td>100 m2／日</td></tr>
</table>
(注)「コンクリート養生」「堤冠コンクリート養生」の作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。</td></tr>
<tr><td>砂防コンクリート生産（ミキサによる混合）工</td><td>①　砂防コンクリート生産（ミキサによる混合）工
<table>
<tr><th rowspan="3">構造物区分</th><th colspan="3">作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><th colspan="3">ミキサ容量</th></tr>
<tr><th>0.08m3</th><th>0.20m3</th><th>0.30m3</th></tr>
<tr><td>鉄筋・無筋コンクリート</td><td>9.1 m3／日</td><td>19 m3／日</td><td>28 m3／日</td></tr>
<tr><td>小型構造物（Ⅰ）</td><td>8.3 m3／日</td><td>16 m3／日</td><td>25 m3／日</td></tr>
<tr><td>小型構造物（Ⅱ）</td><td>7.1 m3／日</td><td>14 m3／日</td><td>23 m3／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>残存型枠工</td><td>①　残存型枠工
<table>
<tr><th>作　業　名</th><th>対象構造物</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">残存型枠の加工・設置</td><td>残存型枠</td><td>65m2／日</td></tr>
<tr><td>残存化粧型枠</td><td>59m2／日</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 仮設備工 | ①　ケーブルクレーン（両端固定式）基礎・据付け・解体 |

| 規格（ｔ） | スパン（m） | 基礎（ウインチベース・アンカーベース） | 据付け（機械据付・ワイヤ張上） | 解体（機械解体・ワイヤ撤去） |
|---|---|---|---|---|
| 2ｔ未満 | 75以下 | 3日/基 | 3日/基 | 2日/基 |
| | 76～125 | 4日/基 | 4日/基 | 3日/基 |
| | 126～175 | 4日/基 | 5日/基 | 3日/基 |
| | 176～225 | 5日/基 | 5日/基 | 4日/基 |
| | 226～275 | 6日/基 | 6日/基 | 4日/基 |
| | 276～325 | 6日/基 | 7日/基 | 5日/基 |
| | 326～375 | 7日/基 | 7日/基 | 5日/基 |
| | 376～425 | 7日/基 | 8日/基 | 6日/基 |
| | 426～500 | 8日/基 | 9日/基 | 6日/基 |
| 3ｔ未満 | 75以下 | 3日/基 | 5日/基 | 3日/基 |
| | 76～125 | 4日/基 | 5日/基 | 4日/基 |
| | 126～175 | 5日/基 | 6日/基 | 4日/基 |
| | 176～225 | 5日/基 | 7日/基 | 4日/基 |
| | 226～275 | 6日/基 | 7日/基 | 5日/基 |
| | 276～325 | 7日/基 | 8日/基 | 5日/基 |
| | 326～375 | 7日/基 | 9日/基 | 6日/基 |
| | 376～425 | 8日/基 | 9日/基 | 6日/基 |
| | 426～500 | 9日/基 | 10日/基 | 7日/基 |
| 4ｔ未満 | 75以下 | 4日/基 | 5日/基 | 3日/基 |
| | 76～125 | 4日/基 | 6日/基 | 4日/基 |
| | 126～175 | 5日/基 | 7日/基 | 4日/基 |
| | 176～225 | 6日/基 | 7日/基 | 5日/基 |
| | 226～275 | 6日/基 | 8日/基 | 5日/基 |
| | 276～325 | 7日/基 | 9日/基 | 6日/基 |
| | 326～375 | 8日/基 | 10日/基 | 6日/基 |
| | 376～425 | 8日/基 | 10日/基 | 6日/基 |
| | 426～500 | 9日/基 | 11日/基 | 7日/基 |
| 5ｔ未満 | 75以下 | 4日/基 | 6日/基 | 3日/基 |
| | 76～125 | 4日/基 | 7日/基 | 4日/基 |
| | 126～175 | 5日/基 | 7日/基 | 4日/基 |
| | 176～225 | 6日/基 | 8日/基 | 5日/基 |
| | 226～275 | 6日/基 | 9日/基 | 5日/基 |
| | 276～325 | 7日/基 | 9日/基 | 6日/基 |
| | 326～375 | 8日/基 | 10日/基 | 6日/基 |
| | 376～425 | 8日/基 | 11日/基 | 7日/基 |
| | 426～500 | 9日/基 | 12日/基 | 7日/基 |

②　土工機械分離・組立　･･･　現場条件により設定

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>仮設備工（ケーブルクレーン付属設備）</td><td>
① 支柱設備設置・撤去
<table>
<tr><th rowspan="2">支柱高さ</th><th colspan="2">作業日数</th></tr>
<tr><th>設置</th><th>撤去</th></tr>
<tr><td>4m 以下</td><td>1 日／基</td><td>1 日／基</td></tr>
<tr><td>4m を超え 8m 以下</td><td>2 日／基</td><td>1 日／基</td></tr>
<tr><td>8m を超え 12m 以下</td><td>3 日／基</td><td>1 日／基</td></tr>
<tr><td>12m を超え 16m 以下</td><td>4 日／基</td><td>2 日／基</td></tr>
<tr><td>16m を超え 20m 以下</td><td>6 日／基</td><td>2 日／基</td></tr>
<tr><td>20m を超え 24m 以下</td><td>7 日／基</td><td>3 日／基</td></tr>
<tr><td>24m を超え 28m 以下</td><td>8 日／基</td><td>3 日／基</td></tr>
</table>
② ウインチ小屋設置・撤去
<table>
<tr><th>作　業　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>設置</td><td>1 基／日</td></tr>
<tr><td>撤去</td><td>2 基／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>養生工（練炭）</td><td>
① 養生工（練炭）
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>25 m3／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。
</td></tr>
<tr><td>石材等採取工（割石，雑割石，野面石採取）</td><td>
① 石材等採取工（割石，雑割石，野面石採取）
<table>
<tr><th rowspan="2">種別</th><th colspan="4">作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><th>割石</th><th>雑割石</th><th>野面石又は雑石</th><th>玉石</th></tr>
<tr><td>控長 25cm</td><td>－</td><td>－</td><td>4.5 m2／日</td><td>－</td></tr>
<tr><td>控長 30cm</td><td>4.5 m2／日</td><td>6.3 m2／日</td><td>3.6 m2／日</td><td>－</td></tr>
<tr><td>控長 35cm</td><td>4.2 m2／日</td><td>5.8 m2／日</td><td>2.9 m2／日</td><td>－</td></tr>
<tr><td>控長 45cm</td><td>3.6 m2／日</td><td>4.9 m2／日</td><td>2.2 m2／日</td><td>－</td></tr>
<tr><td>控長 55cm</td><td>－</td><td>－</td><td>1.7 m2／日</td><td>－</td></tr>
<tr><td>長径 15cm 以上</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>1.7 m3／日</td></tr>
</table>
（注）「野面石又は雑石」「玉石」の作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。
</td></tr>
<tr><td>ケーブルクレーンによる資材等の運搬</td><td>該当工種の計算式（1 時間当り運搬量）を参照。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>銘板工</td><td>現場条件により設定</td></tr>
<tr><td>砂防土砂仮締切・砂防土砂土のう仮締切</td><td>土のう工，大型土のう工，土工（砂防工）の作業日当り標準作業量を参照。</td></tr>
<tr><td>砂防コンクリート締切</td><td>殻運搬，コンクリート工，型枠工，構造物とりこわし工（市場単価）の<br>作業日当り標準作業量を参照。</td></tr>
<tr><td>鋼製砂防工</td><td>①　組立･据付工　･･･　該当工種の計算式（１日当り組立･据付質量）を参照。<br>②　本締め工，アンカー工　･･･　該当工種の計算式（１日当り施工量）を参照。<br>③　現場塗装工（はけ塗り）<br><table><tr><th>作　業　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>格子型鋼製砂防堰堤</td><td>34 m2／日</td></tr><tr><td>鋼製スリット堰堤Ｂ型</td><td>31 m2／日</td></tr></table>（注）作業日当り標準作業量は，塗装工１名の場合。</td></tr>
<tr><td>砂防ソイルセメント工</td><td>①　粒径処理<br><table><tr><th>粒径処理率(%)</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>40 を超え 45 以下</td><td>30 m3／日</td></tr><tr><td>45 を超え 50 以下</td><td>37 m3／日</td></tr><tr><td>50 を超え 60 以下</td><td>47 m3／日</td></tr><tr><td>60 を超え 80 以下</td><td>68 m3／日</td></tr><tr><td>80 を超え 100 以下</td><td>96 m3／日</td></tr></table>（**注**）１．対象土質は，砂質土及びレキ質土であり，土質条件が異なる場合は別途考慮する。<br>２．作業日当り標準作業量は，粒径処理後土量を示す。<br>３．粒径処理率は次式による。<br>粒径処理率(%)＝(粒径処理後土量)／(粒径処理前土量)<br><br>②　撹拌混合<br><table><tr><th>作　業　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>撹　　拌　　混　　合</td><td>171 m3／日</td></tr></table>（**注**）１．作業日当り標準作業量は，粒径処理土投入，セメント投入，撹拌混合，混合材料積込までを含む。<br>２．作業日当り標準作業量は，製造する混合材料量とする。<br><br>③　混合材料敷均し・締固め<br><table><tr><th>作　業　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>混合材料敷均し・締固め</td><td>128 m3／日</td></tr></table>（**注**）１．作業日当り標準作業量は，敷均し，締固め，養生，打継面処理までを含む。<br>２．養生は，施工箇所をシートで覆うことを標準とする。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>集水井工（ライナープレート土留工法）</td><td>①　掘削土留工　･･･　該当工種の計算式（１基当り施工日数）を参照。<br>②　井戸蓋工，昇降用設備設置工，<br>掘削作業設備据付・解体　･･･　該当工種の基準内に記載。</td></tr>
<tr><td>集水井工（プレキャスト土留工法）</td><td>①　土留掘削工　･･･　該当工種の計算式（1 基当り施工日数）を参照。<br>②　昇降用設備設置工，井戸蓋工　･･･　該当工種の基準内に記載。</td></tr>
<tr><td>地すべり防止工<br>(集排水ボーリング工)</td><td>①　ボーリング
<table>
<tr><th rowspan="2">施工場所</th><th rowspan="2">呼び径</th><th colspan="4">作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><th>粘性土<br>砂質土</th><th>レキ質土</th><th>岩塊玉石</th><th>軟岩</th></tr>
<tr><td rowspan="3">地表</td><td>90mm</td><td>32m/日</td><td>22m/日</td><td>16m/日</td><td>20m/日</td></tr>
<tr><td>115mm</td><td>24m/日</td><td>18m/日</td><td>14m/日</td><td>17m/日</td></tr>
<tr><td>135mm</td><td>20m/日</td><td>15m/日</td><td>13m/日</td><td>15m/日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">集水井</td><td>90mm</td><td>27m/日</td><td>19m/日</td><td>13m/日</td><td>17m/日</td></tr>
<tr><td>115mm</td><td>20m/日</td><td>15m/日</td><td>12m/日</td><td>14m/日</td></tr>
<tr><td>135mm</td><td>17m/日</td><td>13m/日</td><td>11m/日</td><td>13m/日</td></tr>
</table>
（注）１．呼び径とは，ドリルパイプ外径（mm）をいう。<br>２．同一足場上での移動を含む。<br>３．削孔長が 50ｍを超える場合は全長について 20%の削減補正を行う。<br><br>②　保孔管，ボーリング仮設機材，足場（地表）
<table>
<tr><th colspan="3">作　業　名</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>摘　　要</th></tr>
<tr><td rowspan="6">保孔管</td><td rowspan="2">地表部</td><td>VP管</td><td>150m/日<br>500m/日</td><td>ストレーナ現地加工有<br>ストレーナ現地加工無</td></tr>
<tr><td>SGP管</td><td>52m/日<br>98m/日</td><td>ストレーナ現地加工有<br>ストレーナ現地加工無</td></tr>
<tr><td rowspan="2">集水井内</td><td>VP管</td><td>110m/日<br>440m/日</td><td>ストレーナ現地加工有<br>ストレーナ現地加工無</td></tr>
<tr><td>SGP管</td><td>37m/日<br>56m/日</td><td>ストレーナ現地加工有<br>ストレーナ現地加工無</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ボーリング仮設機材</td><td>地表部</td><td></td><td>0.89 回/日</td><td></td></tr>
<tr><td>集水井内</td><td></td><td>0.30 回/日</td><td>足場設置撤去含む</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">足場（地表）</td><td>平地</td><td rowspan="2">42 空 m3/日<br>32 空 m3/日</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>傾斜地</td></tr>
</table>
（注）　上表の作業日当り標準作業量には，ロータリパーカッション式ボーリングマシンの据付けから保孔管挿入，足場撤去までの一連作業を含む(削孔は除く)。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>地すべり防止工<br>（山腹水路工）</td><td>
① 山腹U形側溝，山腹コルゲートフリューム据付，山腹U形側溝明暗渠，<br>山腹ルゲートフリューム明暗渠，山腹暗渠工　　･･･ 該当工種の基準内に記載。<br><br>
② 集水桝，プレキャスト集水桝
<table>
<tr><th>作業名</th><th>材料種別</th><th>内空積もしくは製品質量</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="6">集水桝工</td><td rowspan="3">集水桝</td><td>0.4m3 以下</td><td>1.7 基／日</td></tr>
<tr><td>0.4 を超え 0.8m3 以下</td><td>1.4 基／日</td></tr>
<tr><td>0.8 を超え 1.0m3 以下</td><td>1.1 基／日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">プレキャスト集水桝</td><td>150 を超え 500 kg以下</td><td>2.8 基／日</td></tr>
<tr><td>500 を超え 1,000 kg以下</td><td>2.3 基／日</td></tr>
<tr><td>1，000 を超え 1，500 kg以下</td><td>1.9 基／日</td></tr>
<tr><td>1，500 を超え 1，700 kg以下</td><td>1.8 基／日</td></tr>
</table>
（注） 集水桝の作業日当り標準作業量には床掘り（仕上げ含む），基礎，型枠，コンクリート打設，埋戻しまでの一連作業を含む。ただし，養生に要する日数は含まない。
</td></tr>
<tr><td>地すべり防止工<br>（かご工）</td><td>
① かご工
<table>
<tr><th>かご種類</th><th>かご寸法（cm）</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">じゃかご</td><td>φ45</td><td>25m／日</td></tr>
<tr><td>φ60</td><td>14m／日</td></tr>
<tr><td rowspan="6">ふとんかご</td><td>高さ 40×幅 120</td><td>９m／日</td></tr>
<tr><td>高さ 50×幅 120</td><td>７m／日</td></tr>
<tr><td>高さ 60×幅 120</td><td>６m／日</td></tr>
<tr><td>高さ 100×幅 120</td><td>４m／日</td></tr>
<tr><td>高さ 50×幅 200</td><td>４m／日</td></tr>
<tr><td>高さ 100×幅 200</td><td>２m／日</td></tr>
</table>
② 止杭工
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>17 本／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。
</td></tr>
<tr><td>集排水ボーリング孔洗浄工</td><td>
① 洗浄工　･･･ 該当工種の基準内に記載。<br><br>
② 集水井内足場設置・撤去
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>2.5 回／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>路盤工</td><td>
① 不陸整正，下層路盤，上層路盤<br>
（1日・1層当り）
<table>
<tr><th>施工区分</th><th>工　　種</th><th>単位</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="3">車道・路肩部施工</td><td>不陸整正</td><td rowspan="4">m2</td><td>1,510 m2/日･層</td></tr>
<tr><td>下層路盤</td><td>940 m2/日･層</td></tr>
<tr><td>上層路盤（粒度調整砕石）</td><td>940 m2/日･層</td></tr>
<tr><td>歩道施工</td><td>下層路盤及び上層路盤</td><td>268 m2/日･層</td></tr>
</table>
<table>
<tr><th>施工区分</th><th>工　　種</th><th>平均幅員</th><th>1層当り<br>平均仕上り厚</th><th>単位</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="4">車道・路肩部施工</td><td rowspan="4">上層路盤(瀝青安定処理)</td><td rowspan="2">1.4m 未満</td><td>50mm 以下</td><td rowspan="4">m2</td><td>250 m2/日･層</td></tr>
<tr><td>50mm を超え<br>100mm 以下</td><td>230 m2/日･層</td></tr>
<tr><td>1.4m 以上<br>3.0m 以下</td><td>－</td><td>1,300 m2/日･層</td></tr>
<tr><td>3.0m 超</td><td>－</td><td>2,300 m2/日･層</td></tr>
</table>
（注）1．下層路盤の一層当りの仕上り厚さは 20cm までとする。<br>
2．上層路盤の一層当りの仕上り厚さは 15cm まで（瀝青安定処理路盤の場合は 10cm）とする。
</td></tr>
<tr><td>路盤工（ＩＣＴ）</td><td>
① 不陸整正（ＩＣＴ）下層路盤（ＩＣＴ），上層路盤（ＩＣＴ）<br>
（1日・1層当り）
<table>
<tr><th>工　　種</th><th>単位</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>不陸整正（ＩＣＴ）</td><td rowspan="3">m2</td><td>1,920 m2/日･層</td></tr>
<tr><td>下層路盤（車道・路肩部）（ＩＣＴ）</td><td>1,350 m2/日･層</td></tr>
<tr><td>上層路盤（車道・路肩部）（ＩＣＴ）</td><td>1,350 m2/日･層</td></tr>
</table>
（注）1．下層路盤の一層当りの仕上り厚さは 20cm までとする。<br>
2．上層路盤の一層当りの仕上り厚さは 15cm までとする。
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>アスファルト舗装工</td><td>
① 舗設工<br>（１日・１層当り）
<table>
<tr><th>施工区分</th><th>平均幅員</th><th>１層当り仕上り<br>平均厚さ</th><th>単<br>位</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="4">基層(車道・路肩部)<br>中間層(車道・路肩部)<br>表層(車道・路肩部)</td><td rowspan="2">1.4m未満</td><td>50mm以下</td><td rowspan="4">m2</td><td>250 m2/日･層</td></tr>
<tr><td>50mmを超え<br>70mm以下</td><td>230 m2/日･層</td></tr>
<tr><td>1.4m 以上<br>3.0m以下</td><td rowspan="2">70mm以下</td><td>1,300 m2/日･層</td></tr>
<tr><td>3.0m超</td><td>2,300 m2/日･層</td></tr>
<tr><td rowspan="3">基層(歩道部)<br>中間層(歩道部)<br>表層(歩道部)</td><td rowspan="2">1.4m未満</td><td>50mm以下</td><td rowspan="3">m2</td><td>250 m2/日･層</td></tr>
<tr><td>50mmを超え<br>70mm以下</td><td>230 m2/日･層</td></tr>
<tr><td>1.4m以上</td><td>70mm以下</td><td>940 m2/日･層</td></tr>
</table>
② アスカーブ
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>260 m/日</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>半たわみ性（コンポジット）舗装工</td><td>
① セメントミルク浸透
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>1,050 m2／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>排水性アスファルト舗装工</td><td>
① 排水性舗装・表層（車道・路肩部）<br>（１日・１層当り）
<table>
<tr><th>平均施工幅員</th><th>導水パイプの設置</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1.4m未満</td><td>有り</td><td>170m2／日･層</td></tr>
<tr><td>無し</td><td>190m2／日･層</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2.4m 以上</td><td>有り</td><td>1,500m2／日･層</td></tr>
<tr><td>無し</td><td>1,700m2／日･層</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>透水性樹脂コンクリート工</td><td>
① 透水性樹脂コンクリート工 ･･･ 該当工種の基準内に記載。<br><br>
② 導水パイプ設置
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>200 m/日</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>透水性アスファルト舗装工</td><td>
① フィルター層<br>（１日・１層当り）
<table>
<tr><th>作　業　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>フィルター材の敷均し及び締固め</td><td>290m2/日・層</td></tr>
</table>
② 透水性アスファルト舗装<br>（１日・１層当り）
<table>
<tr><th>平均施工幅員</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>1.4m以上</td><td>600m2／日･層</td></tr>
<tr><td>1.4m未満</td><td>200m2／日･層</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>グースアスファルト舗装工</td><td>該当工種の基準内に記載。</td></tr>
<tr><td>コンクリート舗装工</td><td>①　コンクリート舗装工
<table>
<tr><th colspan="2">作　業　種　別</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">機械舗設</td><td>１車</td><td>111 ㎡／日</td></tr>
<tr><td>２車</td><td>152 ㎡／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">人力舗設</td><td>舗設厚 20 ㎝以上</td><td>47 ㎡／日</td></tr>
<tr><td>舗設厚 20 ㎝未満</td><td>69 ㎡／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>ローラ転圧コンクリート舗装工(ＲＣＣＰ工)</td><td>該当工種の基準内に記載。</td></tr>
<tr><td>連続鉄筋コンクリート舗装工</td><td>①　連続鉄筋コンクリート舗装工
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>146 m2／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>踏掛版</td><td>①　踏掛版
<table>
<tr><th>鉄筋量</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>0.08t/m3以上0.10t/m3未満</td><td>11 m3/日</td></tr>
<tr><td>0.10t/m3以上0.14t/m3未満</td><td>10 m3/日</td></tr>
<tr><td>0.14t/m3以上0.18t/m3未満</td><td>9 m3/日</td></tr>
<tr><td>0.18t/m3以上0.24t/m3未満</td><td>8 m3/日</td></tr>
<tr><td>0.24t/m3以上0.30t/m3未満</td><td>7 m3/日</td></tr>
<tr><td>0.30t/m3以上0.34t/m3未満</td><td>6 m3/日</td></tr>
</table>
(注) １．上表の作業日当り標準作業量には，コンクリート，型枠，鉄筋，目地材の作業を含む。<br>２．各作業間の重複作業は考慮していない。<br><br>(参考) 各作業単独の場合の作業量
<table>
<tr><th>作　業　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>目地板設置</td><td>14 m2/日</td></tr>
<tr><td>鉄筋加工･組立</td><td>3.5 t/日</td></tr>
<tr><td>型枠設置</td><td>38 m2/日</td></tr>
<tr><td>コンクリート打設</td><td>69 m3/日</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>ガードケーブル設置工</td><td>① ガードケーブル設置工
<table>
<tr><th colspan="3">作　業　種　別</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">端末支柱</td><td rowspan="2">建込み</td><td>標準型</td><td>5 本/日</td></tr>
<tr><td>耐雪型</td><td>5 本/日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">中間支柱</td><td rowspan="2">機械打込</td><td>標準型</td><td>44 本/日</td></tr>
<tr><td>耐雪型</td><td>37 本/日</td></tr>
<tr><td colspan="2">コンクリート建込</td><td>25 本/日</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="6">ケーブル張</td><td>A種</td><td>164m/日</td></tr>
<tr><td>B種</td><td>205m/日</td></tr>
<tr><td>C種</td><td>273m/日</td></tr>
<tr><td>S種</td><td>137m/日</td></tr>
<tr><td>Am種</td><td>102m/日</td></tr>
<tr><td>Bm種</td><td>137m/日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>落石防止網（繊維網）設置工</td><td>① 落石防止網（繊維網）設置
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>19 m2/日</td></tr>
</table>
（注）１．作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。<br>２．撤去の作業日当り標準作業量は，上表×２とする。</td></tr>
<tr><td>立入り防止柵工</td><td>① 基礎ブロック，鋼管基礎
<table>
<tr><th>基礎種別</th><th>種別</th><th>支柱柵高・門柱高</th><th>基礎砕石</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="4">基礎ブロック</td><td rowspan="2">金網柵</td><td rowspan="2">－</td><td>無し</td><td>22 基/日</td></tr>
<tr><td>有り</td><td>21 基/日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">門扉</td><td rowspan="2">－</td><td>無し</td><td>21 基/日</td></tr>
<tr><td>有り</td><td>20 基/日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">鋼管基礎</td><td rowspan="2">－</td><td>2m 以下</td><td></td><td>32 基/日</td></tr>
<tr><td>2m を超え 2.5m 以下</td><td></td><td>45 基/日</td></tr>
</table>
② 金網・支柱(立入防止柵)
<table>
<tr><th>基礎種別</th><th>支柱柵高</th><th>支柱間隔</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="4">基礎ブロック</td><td rowspan="2">－</td><td>1.5m</td><td>28 m/日</td></tr>
<tr><td>2m</td><td>30 m/日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2m 以下</td><td>1.5m</td><td>28 m/日</td></tr>
<tr><td>2m</td><td>30 m/日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">鋼管基礎</td><td rowspan="2">2m を超え 2.5m 以下</td><td>1.5m</td><td>25 m/日</td></tr>
<tr><td>2m</td><td>27 m/日</td></tr>
</table>
③ 支柱(立入防止柵)
<table>
<tr><th>基礎種別</th><th>支柱柵高</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td>基礎ブロック</td><td>－</td><td>74 本/日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">鋼管基礎</td><td>2m 以下</td><td>74 本/日</td></tr>
<tr><td>2m を超え 2.5m 以下</td><td>70 本/日</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>立入り防止柵工</td><td>④ 門扉
<table>
<tr><th>門扉種別</th><th>門柱高</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">片開き</td><td>2m 以下</td><td>7.5 基/日</td></tr>
<tr><td>2m を超え 2.5m 以下</td><td>6.1 基/日</td></tr>
<tr><td>両開き</td><td>－</td><td>3.8 基/日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>車止めポスト設置工</td><td>① 車止めポスト
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>5 本/日</td></tr>
</table>
（注）１．作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。<br>２．撤去の作業日当り標準作業量は，上表×２とする。</td></tr>
<tr><td>防雪柵設置及び撤去工</td><td>① 設置の場合
<table>
<tr><th>形式</th><th>取付方式</th><th>柵高</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="6">吹溜式</td><td rowspan="2">仮設式(支柱＋張立材)</td><td>3.5m 以下</td><td>87m/日</td></tr>
<tr><td>3.5 超え 6.0m 以下</td><td>56m/日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">仮設式(張立材のみ)</td><td>3.5m 以下</td><td>201m/日</td></tr>
<tr><td>3.5 超え 6.0m 以下</td><td>128m/日</td></tr>
<tr><td>固定式(支柱＋張立材)</td><td>5.0m 以下</td><td>29m/日</td></tr>
<tr><td>固定式(張立材のみ)</td><td>5.0m 以下</td><td>68m/日</td></tr>
<tr><td rowspan="4">吹払式</td><td>仮設式(支柱＋張立材)</td><td>4.0m 以下</td><td>67m/日</td></tr>
<tr><td>仮設式(張立材のみ)</td><td>4.0m 以下</td><td>155m/日</td></tr>
<tr><td>固定式(支柱＋張立材)</td><td>4.0m 以下</td><td>39m/日</td></tr>
<tr><td>固定式(張立材のみ)</td><td>4.0m 以下</td><td>90m/日</td></tr>
</table>
② 撤去の場合
<table>
<tr><th>形式</th><th>取付方式</th><th>柵高</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="6">吹溜式</td><td rowspan="2">仮設式(支柱＋張立材)</td><td>3.5m 以下</td><td>114m/日</td></tr>
<tr><td>3.5 超え 6.0m 以下</td><td>73m/日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">仮設式(張立材のみ)</td><td>3.5m 以下</td><td>264m/日</td></tr>
<tr><td>3.5 超え 6.0m 以下</td><td>170m/日</td></tr>
<tr><td>固定式(支柱＋張立材)</td><td>5.0m 以下</td><td>38m/日</td></tr>
<tr><td>固定式(張立材のみ)</td><td>5.0m 以下</td><td>88m/日</td></tr>
<tr><td rowspan="4">吹払式</td><td>仮設式(支柱＋張立材)</td><td>4.0m 以下</td><td>88m/日</td></tr>
<tr><td>仮設式(張立材のみ)</td><td>4.0m 以下</td><td>203m/日</td></tr>
<tr><td>固定式(支柱＋張立材)</td><td>4.0m 以下</td><td>51m/日</td></tr>
<tr><td>固定式(張立材のみ)</td><td>4.0m 以下</td><td>118m/日</td></tr>
</table>
（注）　上表の作業日当り標準作業量には，現場内小運搬を含む。</td></tr>
<tr><td>防雪柵現地張出し・収納工</td><td>① 防雪柵現地張出し・収納
<table>
<tr><th>作　　業　　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>張　　出　　し</td><td>186m/日</td></tr>
<tr><td>収　　納</td><td>214m/日</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工 種 名</th><th>設 定 内 容</th></tr>
<tr><td>雪崩予防柵設置工</td><td>
① 雪崩予防柵
<table>
<tr><th>柵の区分</th><th>作 業 種 別</th><th>適 用 規 格</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td>固定柵</td><td>柵の組立・設置</td><td>柵長 6.0m以下<br>柵高 3.0m以下</td><td>２基／日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">吊 柵</td><td>パイプアンカー設置</td><td>アンカー径φ114.3㎜<br>アンカー長 2.0～3.0m</td><td>９本／日</td></tr>
<tr><td>樹脂アンカー設置</td><td>アンカー径φ32，36㎜<br>アンカー長 1.7m</td><td>11 本／日</td></tr>
<tr><td>柵の組立・設置</td><td>柵長 6.0m以下<br>柵高 3.0m以下</td><td>４基／日</td></tr>
</table>
（注）1．上表の作業日当り標準作業量は，鋼製の雪崩発生予防柵にのみ適用できる。<br>
2．吊柵の組立・設置には，ワイヤの加工・設置が含まれている。<br><br>
② 簡易ケーブルクレーン（１ｔ吊）設置･撤去
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>0.5 基/日</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>雪崩発生予防柵設置工（円形空洞型枠工，立入防止柵工，柵板設置工）</td><td>
① 雪崩発生予防柵設置工
<table>
<tr><th colspan="2">作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>円形空洞型枠</td><td>－</td><td>50 m/日</td></tr>
<tr><td>立入防止柵</td><td>－</td><td>22 m/日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">柵板設置工</td><td>長さ 1000㎜/枚</td><td>33 枚/日</td></tr>
<tr><td>長さ 1500㎜/枚<br>長さ 2000㎜/枚</td><td>25 枚/日</td></tr>
</table>
（注） 1．作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。<br>
2．柵板設置工の撤去の作業日当り標準作業量は，上表×２とする。
</td></tr>
<tr><td>ボックスビーム設置工</td><td>
① ボックスビーム設置工
<table>
<tr><th>作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>支柱及びレール</td><td>7.7 m/日</td></tr>
<tr><td>支柱のみ</td><td>11 m/日</td></tr>
<tr><td>レールのみ</td><td>25 m/日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。
</td></tr>
<tr><td>遮光フェンス設置工</td><td>
① 遮光フェンス設置工
<table>
<tr><th colspan="3">作 業 名</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="4">遮光ﾌｪﾝｽ設置(人力建込)</td><td rowspan="2">ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ<br>建込用</td><td>支柱間隔 3m</td><td>12 m/日</td></tr>
<tr><td>支柱間隔 4m</td><td>14 m/日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ｺﾝｸﾘｰﾄ建込用</td><td>支柱間隔 3m</td><td>20 m/日</td></tr>
<tr><td>支柱間隔 4m</td><td>23 m/日</td></tr>
<tr><td>遮光ﾌｪﾝｽﾊﾟﾈﾙのみ取付</td><td colspan="2">－</td><td>33 m/日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">遮光ﾌｪﾝｽｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ併用型<br>設置</td><td colspan="2">片側ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ併用型</td><td>13 m/日</td></tr>
<tr><td colspan="2">両面ｶﾞｰﾄﾞﾚｰﾙ併用型</td><td>17 m/日</td></tr>
</table>
（注） 1．作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。<br>
2．撤去の作業日当り標準作業量は，上表×２とする。
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>落下物等防止柵設置工</td><td>① 落下物等防止柵設置工
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>33 m/日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>しゃ音壁設置工</td><td>① 支柱アンカー
<table>
<tr><th>形 式</th><th>支柱間隔</th><th>設置高さ</th><th>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="4">A型<br>(埋設アンカー方式)</td><td rowspan="2">２ｍ</td><td>４ｍ以下</td><td>475 ｍ／日</td></tr>
<tr><td>４ｍ超え８ｍ以下</td><td>150 ｍ／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">４ｍ</td><td>４ｍ以下</td><td>981 ｍ／日</td></tr>
<tr><td>４ｍ超え８ｍ以下</td><td>297 ｍ／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">B型<br>(穿孔アンカー方式)</td><td>２ｍ</td><td>４ｍ以下</td><td>22 ｍ／日</td></tr>
<tr><td>４ｍ</td><td>４ｍ以下</td><td>50 ｍ／日</td></tr>
</table>
② 支柱立込
<table>
<tr><th>形 式</th><th>支柱間隔</th><th>設置高さ</th><th>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="4">A型<br>(埋設アンカー方式)</td><td rowspan="2">２ｍ</td><td>４ｍ以下</td><td>72 ｍ／日</td></tr>
<tr><td>４ｍ超え８ｍ以下</td><td>28 ｍ／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">４ｍ</td><td>４ｍ以下</td><td>148 ｍ／日</td></tr>
<tr><td>４ｍ超え８ｍ以下</td><td>55 ｍ／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">B型<br>(穿孔アンカー方式)</td><td>２ｍ</td><td>４ｍ以下</td><td>39 ｍ／日</td></tr>
<tr><td>４ｍ</td><td>４ｍ以下</td><td>78 ｍ／日</td></tr>
</table>
③ 土留板取付
<table>
<tr><th>設置高さ</th><th>標準作業量</th></tr>
<tr><td>４ｍ以下</td><td>78 m2／日</td></tr>
<tr><td>４ｍ超え８ｍ以下</td><td>53 m2／日</td></tr>
</table>
④ しゃ音板・透光板取付
<table>
<tr><th>作　業　名</th><th>設置高さ</th><th>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">しゃ音板取付</td><td>４ｍ以下</td><td>175 m2／日</td></tr>
<tr><td>４ｍ超え８ｍ以下</td><td>144 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">透光板取付</td><td>４ｍ以下</td><td>199 m2／日</td></tr>
<tr><td>４ｍ超え８ｍ以下</td><td>173 m2／日</td></tr>
</table>
⑤ 笠木取付
<table>
<tr><th>作　業　名</th><th>標準作業量</th></tr>
<tr><td>笠木取付</td><td>2,000 ｍ／日</td></tr>
</table>
⑥ 外装板取付
<table>
<tr><th>作　業　名</th><th>標準作業量</th></tr>
<tr><td>外装板取付</td><td>152 m2／日</td></tr>
</table>
⑦ 水切版取付
<table>
<tr><th>作　業　名</th><th>標準作業量</th></tr>
<tr><td>水切板取付</td><td>254 ｍ／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>基礎杭打工（しゃ音壁）</td><td>該当工種の基準内に記載。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>路側工（据付け）</td><td>①　歩車道境界ブロック据付，地先境界ブロック据付
<table>
<tr><th rowspan="2">ブロック規格</th><th colspan="4">作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><th>ブロック<br>単体</th><th>ブロック＋<br>基礎砕石</th><th>ブロック＋<br>均しｺﾝｸﾘｰﾄ</th><th>ブロック＋<br>基礎砕石＋<br>均しｺﾝｸﾘｰﾄ</th></tr>
<tr><td>歩車道境界ブロックＡ種<br>地先境界ブロックＡ・Ｂ・Ｃ種</td><td>37 m/日</td><td>34 m/日</td><td>23 m/日</td><td>22 m/日</td></tr>
<tr><td>歩車道境界ブロックＢ・Ｃ種</td><td>43 m/日</td><td>39 m/日</td><td>25 m/日</td><td>23 m/日</td></tr>
<tr><td>各種(600㎜以下，50kg未満)</td><td>37 m/日</td><td>34 m/日</td><td>23 m/日</td><td>22 m/日</td></tr>
<tr><td>各種(600㎜以下，<br>50kg以上100kg未満)</td><td>43 m/日</td><td>39 m/日</td><td>25 m/日</td><td>23 m/日</td></tr>
<tr><td>各種(600㎜超1000㎜以下，<br>50kg以上150kg未満)</td><td>49 m/日</td><td>43 m/日</td><td>27 m/日</td><td>25 m/日</td></tr>
<tr><td>各種(1000㎜超2000㎜以下，<br>150kg以上550kg未満)</td><td>56 m/日</td><td>49 m/日</td><td>29 m/日</td><td>27 m/日</td></tr>
</table>
（注）１．上表は，直線部，曲線部及び片面用，両面用，乗入れ，すりつけ用ブロックを含む。<br>２．上表には，敷モルタル，目地モルタルの施工を含む。<br>３．上表には，ブロックの現場内小運搬を含む。<br>４．床掘り，埋戻し，基礎の施工は，別途計上する。</td></tr>
<tr><td>路側工（取外し）</td><td>①　歩車道境界ブロック撤去，地先境界ブロック撤去
<table>
<tr><th>再利用区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>処分</td><td>200m／日</td></tr>
<tr><td>再利用</td><td>115m／日</td></tr>
</table>
（注）１．上表は，直線部，曲線部及び片面用，両面用，乗入れ，すりつけ用ブロックを含む。<br>２．上表には，敷モルタル，目地モルタルの取外しを含む。<br>３．上表には，ブロックの現場内小運搬を含む。<br>４．基礎コンクリートのとりこわしは，含まない。</td></tr>
<tr><td>特殊ブロック設置工</td><td>①　特殊ブロック設置工
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>77m2/日</td></tr>
</table>
（注）撤去の作業日当り標準作業量は，上表×２とする。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>組立歩道工</td><td>① 組立歩道工
<table>
<tr><th rowspan="2">形式<br>区分</th><th rowspan="2">床版形式</th><th rowspan="2">支柱<br>(受桁)<br>間隔</th><th rowspan="2">幅員</th><th colspan="3">作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><th>支柱受桁<br>床版据付<br>高欄据付</th><th>支柱受桁<br>床版据付</th><th>高欄据付</th></tr>
<tr><td rowspan="8">支柱式</td><td rowspan="5">プレキャスト<br>コンクリート<br>製</td><td rowspan="4">3.0m</td><td>1.0m</td><td>17 m/日</td><td>25 m/日</td><td rowspan="11">50 m/日</td></tr>
<tr><td>1.5m</td><td>14 m/日</td><td>20 m/日</td></tr>
<tr><td>2.0m</td><td>13 m/日</td><td>17 m/日</td></tr>
<tr><td>2.5m</td><td>11 m/日</td><td>14 m/日</td></tr>
<tr><td>5.0m</td><td>2.0m</td><td>13 m/日</td><td>17 m/日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">現場打</td><td rowspan="2">3.0m</td><td>1.5m</td><td>13 m/日</td><td>17 m/日</td></tr>
<tr><td>2.0m</td><td>11 m/日</td><td>14 m/日</td></tr>
<tr><td rowspan="6">片持式</td><td rowspan="6">プレキャスト<br>コンクリート<br>製</td><td rowspan="3">3.0m</td><td>1.0m</td><td>17 m/日</td><td>25 m/日</td></tr>
<tr><td>1.5m</td><td>14 m/日</td><td>20 m/日</td></tr>
<tr><td>2.0m</td><td>13 m/日</td><td>17 m/日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">無し</td><td>1.5m</td><td>20 m/日</td><td>33 m/日</td></tr>
<tr><td>2.0m</td><td>17 m/日</td><td>25 m/日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>橋梁付属施設設置工</td><td>① 橋梁付属施設設置工
<table>
<tr><th colspan="2">作　業　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td colspan="2">排水桝</td><td>－</td><td>10 箇所/日</td></tr>
<tr><td colspan="2">橋名板取付</td><td>－</td><td>7.1 箇所/日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">橋梁用高欄</td><td>組立式・一体式</td><td>33 m/日</td></tr>
<tr><td>一体式</td><td>33 m/日</td></tr>
</table>
(注)「橋名板取付」の作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。</td></tr>
<tr><td>トンネル内装板設置工</td><td>① トンネル内装板設置
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>63.4m2／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>道路付属物設置工</td><td>① 距離標
<table>
<tr><th rowspan="2">形　　式</th><th colspan="2">作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><th>設置</th><th>撤去</th></tr>
<tr><td>パネル式（アンカー固定）</td><td>16 枚／日</td><td>40 枚／日</td></tr>
<tr><td>パネル式（金具固定）</td><td>24 枚／日</td><td>60 枚／日</td></tr>
<tr><td>パネル式（土中埋込）</td><td>10 枚／日</td><td>25 枚／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>スノーポール設置・撤去工</td><td>① スノーポール設置・撤去工
<table>
<tr><th rowspan="2">スノーポール規格</th><th colspan="2">作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><th>設置</th><th>撤去</th></tr>
<tr><td>かぶせ型</td><td>83 本／日</td><td>95 本／日</td></tr>
<tr><td>土中単柱型</td><td>40 本／日</td><td>40 本／日</td></tr>
<tr><td>挿入単柱型</td><td>100 本／日</td><td>100 本／日</td></tr>
</table>
(注)「かぶせ型」「挿入単柱型」の作業日当り標準作業量は，普通作業員２名の場合。<br>「土中単柱型」の作業日当り標準作業量は，普通作業員４名の場合。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工 種 名</th><th>設 定 内 容</th></tr>
<tr><td>道路植栽工(客土工)(上層30㎝)</td><td>①道路植栽工（客土工）（上層 30 ㎝）<br><table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>4.5 m3／日</td></tr></table>（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。</td></tr>
<tr><td>路面切削工</td><td>①　路面切削<br><table><tr><td rowspan="2">施工区分</td><td colspan="3">全面切削</td><td rowspan="2">帯状切削</td></tr><tr><td>4,000m2以下</td><td>4,000m2を超え</td><td></td></tr><tr><td>平均切削深さ(H)</td><td colspan="2">6cm以下</td><td>6cmを超え<br>12cm以下</td><td>3cm以下</td></tr><tr><td>作業日当り標準作業量<br>(m2／日)</td><td>1,400</td><td>1,800</td><td>1,340</td><td>1,800</td></tr></table>（注）１．作業日当り標準作業量には，路面切削機等の施工箇所間及び機械待避場所と施工箇所間の自走による移動を含むが，運搬車両による移動は別途考慮する。<br>２．全面切削の施工区分は，1 工事の切削面積のうち全面切削に係る施工面積を対象とする。<br>３．上表には，清掃作業を含む。<br>４．平均切削深さは，次式による。<br>$H=\frac{A_V}{W}\times 100$<br>H：１現場の平均切削深さ（㎝）<br>$A_V$ ：１現場の平均切削断面積（m2）<br>W：平均切削幅員（ｍ）<br>なお，帯状切削の場合は，W＝２ｍとする。<br>５．帯状切削とは，不陸部の切削幅が路面切削機の切削幅より狭い場合をいう。<br>６．帯状切削の施工面積は，次式による。<br>延べ施工面積＝切削機の作業幅（２ｍ）×延べ施工延長</td></tr>
</table>

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 路面切削工 | ②　殻運搬（路面切削） |

| DID 区間の有無 | 運搬距離 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|
| 無し | 0.2km 以下 | 167m3/日 |
| | 0.5km 以下 | 143m3/日 |
| | 1.0km 以下 | 125m3/日 |
| | 1.5km 以下 | 111m3/日 |
| | 2.0km 以下 | 91m3/日 |
| | 2.5km 以下 | 83m3/日 |
| | 3.0km 以下 | 71m3/日 |
| | 3.5km 以下 | 67m3/日 |
| | 4.0km 以下 | 59m3/日 |
| | 4.5km 以下 | 56m3/日 |
| | 5.0km 以下 | 50m3/日 |
| | 5.5km 以下 | 48m3/日 |
| | 6.5km 以下 | 43m3/日 |
| | 7.5km 以下 | 38m3/日 |
| | 9.0km 以下 | 34m3/日 |
| | 10.5km 以下 | 30m3/日 |
| | 12.0km 以下 | 28m3/日 |
| | 13.5km 以下 | 25m3/日 |
| | 16.0km 以下 | 23m3/日 |
| | 18.5km 以下 | 20m3/日 |
| | 21.5km 以下 | 19m3/日 |
| | 26.0km 以下 | 17m3/日 |
| | 32.0km 以下 | 15m3/日 |
| | 39.5km 以下 | 14m3/日 |
| | 47.0km 以下 | 12m3/日 |
| | 55.5km 以下 | 11m3/日 |
| | 60.0km 以下 | 10m3/日 |

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>路面切削工</td><td>
<table>
<tr><th>DID 区間の<br>有無</th><th>運搬距離</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="30">有り</td><td>0.2km 以下</td><td>167m3/日</td></tr>
<tr><td>0.5km 以下</td><td>143m3/日</td></tr>
<tr><td>1.0km 以下</td><td>125m3/日</td></tr>
<tr><td>1.5km 以下</td><td>111m3/日</td></tr>
<tr><td>2.0km 以下</td><td>91m3/日</td></tr>
<tr><td>2.5km 以下</td><td>77m3/日</td></tr>
<tr><td>3.0km 以下</td><td>71m3/日</td></tr>
<tr><td>3.5km 以下</td><td>63m3/日</td></tr>
<tr><td>4.0km 以下</td><td>56m3/日</td></tr>
<tr><td>4.5km 以下</td><td>53m3/日</td></tr>
<tr><td>5.0km 以下</td><td>48m3/日</td></tr>
<tr><td>5.5km 以下</td><td>45m3/日</td></tr>
<tr><td>6.0km 以下</td><td>42m3/日</td></tr>
<tr><td>6.5km 以下</td><td>40m3/日</td></tr>
<tr><td>7.5km 以下</td><td>37m3/日</td></tr>
<tr><td>8.5km 以下</td><td>33m3/日</td></tr>
<tr><td>9.5km 以下</td><td>30m3/日</td></tr>
<tr><td>11.0km 以下</td><td>28m3/日</td></tr>
<tr><td>12.5km 以下</td><td>25m3/日</td></tr>
<tr><td>14.5km 以下</td><td>23m3/日</td></tr>
<tr><td>16.5km 以下</td><td>20m3/日</td></tr>
<tr><td>19.0km 以下</td><td>19m3/日</td></tr>
<tr><td>22.0km 以下</td><td>17m3/日</td></tr>
<tr><td>25.5km 以下</td><td>15m3/日</td></tr>
<tr><td>30.0km 以下</td><td>14m3/日</td></tr>
<tr><td>36.0km 以下</td><td>12m3/日</td></tr>
<tr><td>46.0km 以下</td><td>11m3/日</td></tr>
<tr><td>60.0km 以下</td><td>10m3/日</td></tr>
</table>
(注)１．運搬距離は片道であり，往路と復路が異なるときは，平均値とする。<br>２．自動車専用道路を利用する場合は，別途考慮する。<br>３．DID（人口集中地区）は，総務省統計局の国勢調査報告資料添付の人口集中地区境界図によるものとする。
</td></tr>
<tr><td>切削オーバーレイ工</td><td>該当工種の基準内に記載。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>舗装版破砕工</td><td>
① 舗装版破砕（障害無し）<br>
（1） アスファルト舗装版
<table>
<tr><th rowspan="2">障害等の有無</th><th rowspan="2">騒音振動対策</th><th rowspan="2">舗装版厚</th><th colspan="3">作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><th>直接掘削・積込作業</th><th>舗装版破砕作業</th><th>掘削・積込作業</th></tr>
<tr><td rowspan="4">無し</td><td rowspan="2">不要</td><td>15cm以下</td><td>510m2／日</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td>15cmを超え40cm以下</td><td>－</td><td>310m2／日</td><td>370m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">必要</td><td>15cm以下</td><td>－</td><td>260m2／日</td><td>490m2／日</td></tr>
<tr><td>15cmを超え35cm以下</td><td>－</td><td>180m2／日</td><td>370m2／日</td></tr>
</table>
（2）コンクリート舗装版
<table>
<tr><th rowspan="2">騒音振動対策</th><th rowspan="2">舗装版厚</th><th colspan="3">作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><th>直接掘削・積込作業</th><th>舗装版破砕作業</th><th>掘削・積込作業</th></tr>
<tr><td rowspan="2">不要</td><td>15cm以下</td><td>510m2／日</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td>15cmを超え35cm以下</td><td>－</td><td>230m2／日</td><td>260m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">必要</td><td>15cm以下</td><td>－</td><td>190m2／日</td><td>320m2／日</td></tr>
<tr><td>15cmを超え35cm以下</td><td>－</td><td>150m2／日</td><td>260m2／日</td></tr>
</table>
（3）コンクリート＋アスファルト(カバー)舗装版
<table>
<tr><th rowspan="2">Co＋As(カバー)舗装によるアスファルト舗装版厚</th><th colspan="2">作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><th>舗装版破砕作</th><th>掘削・積込作業</th></tr>
<tr><td>15cm以下</td><td>230m2／日</td><td>170m2／日</td></tr>
<tr><td>15cmを超え22.5cm以下</td><td>230m2／日</td><td>150m2／日</td></tr>
</table>
② 舗装版破砕（障害有り）<br>
（1）アスファルト舗装版
<table>
<tr><th>舗装版厚</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>舗装版厚 4cm 以下</td><td>35 m2／日</td></tr>
<tr><td>舗装版厚 4cm を超え 10cm 以下</td><td>21 m2／日</td></tr>
<tr><td>舗装版厚 10cm を超え 15cm 以下</td><td>16 m2／日</td></tr>
<tr><td>舗装版厚 15cm を超え 30cm 以下</td><td>8.8 m2／日</td></tr>
</table>
（注）上表は，積込の有無にかかわらず適用出来る。
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>舗装版切断工</td><td>
① 舗装版切断<br>
（1）アスファルト舗装版
<table>
<tr><th>アスファルト舗装版厚</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>15cm以下</td><td>230m／日</td></tr>
<tr><td>15cmを超え30cm以下</td><td>130m／日</td></tr>
<tr><td>30cmを超え40cm以下</td><td>80m／日</td></tr>
</table>
（2）コンクリート舗装版，コンクリート＋アスファルト（カバー）舗装版
<table>
<tr><th>コンクリート舗装版厚</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>15cm以下</td><td>150m／日</td></tr>
<tr><td>15cmを超え30cm以下</td><td>70m／日</td></tr>
</table>
（注）コンクリート＋アスファルト（カバー）舗装版の場合，舗装版厚はコンクリート舗装版のみの厚さである。
</td></tr>
<tr><td>道路打換え工</td><td>
① 道路打換え工<br>
作業日当り標準作業量（総施工量1，000 ㎡未満）　（㎡/日）
<table>
<tr><th colspan="2">全体掘削厚</th><th colspan="2">40 cm以下</th><th>40 cmを超え<br>80 cm以下</th><th>80 cmを超え<br>120 cm以下</th></tr>
<tr><td colspan="2">復旧層数</td><td>２層</td><td>３層以上<br>５層以下</td><td>４層以上<br>６層以下</td><td>５，６層</td></tr>
<tr><td rowspan="3">歩掛区分</td><td>コンクリート圧砕装置 15 cm以下</td><td rowspan="3">250</td><td rowspan="2">200</td><td rowspan="3">160</td><td rowspan="3">140</td></tr>
<tr><td>コンクリート圧砕装置・大型ブレーカ15cm を超え30 cm以下</td></tr>
<tr><td>コンクリート圧砕装置・大型ブレーカ30cm を超え40 cm以下</td><td>190</td></tr>
</table>
（㎡/日）
<table>
<tr><th colspan="2">復旧層数</th><th>２層</th><th>３層以上<br>４層以下</th><th>５層</th></tr>
<tr><td>歩掛区分</td><td>バックホウによる直接掘削積込・掘削全体厚 40 cm以下</td><td>360</td><td>270</td><td>220</td></tr>
<tr><td colspan="2">復旧層数</td><td>２層</td><td>３層以上<br>４層以下</td><td>５層以上<br>６層以下</td></tr>
<tr><td rowspan="2">歩掛区分</td><td>バックホウによる直接掘削積込・掘削全体厚 40 cmを超え 80 cm以下</td><td>260</td><td>210</td><td>170</td></tr>
<tr><td>バックホウによる直接掘削積込・掘削全体厚 80 cmを超え 120 cm以下</td><td>200</td><td>170</td><td>140</td></tr>
</table>
作業日当り標準作業量（総施工量1，000 ㎡以上）　（㎡/日）
<table>
<tr><th colspan="2">全体掘削厚</th><th colspan="2">40 cm以下</th><th>40 cmを超え<br>80 cm以下</th><th>80 cmを超え<br>120 cm以下</th></tr>
<tr><td colspan="2">復旧層数</td><td>２層</td><td>３層以上<br>５層以下</td><td>４層以上<br>６層以下</td><td>５，６層</td></tr>
<tr><td rowspan="3">歩掛区分</td><td>コンクリート圧砕装置 15 cm以下</td><td rowspan="3">260</td><td>220</td><td>180</td><td rowspan="3">150</td></tr>
<tr><td>コンクリート圧砕装置・大型ブレーカ15cm を超え30 cm以下</td><td>210</td><td rowspan="2">170</td></tr>
<tr><td>コンクリート圧砕装置・大型ブレーカ30cm を超え40 cm以下</td><td>200</td></tr>
</table>
（注）1．復旧層数は即日復旧を行う（路床～表層まで）の全層数とする。<br>
2．作業量はとりこわし～復旧までの作業量とする。
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>道路打換え工</td><td>
<table>
<tr><td colspan="2">復旧層数</td><td>２層</td><td>３層以上<br>４層以下</td><td>５層</td></tr>
<tr><td rowspan="2">歩掛区分</td><td>バックホウによる直接掘削積込・掘削<br>全体厚 40 ㎝以下</td><td>380</td><td>300</td><td>240</td></tr>
<tr><td colspan="2">復旧層数</td><td>２層</td><td>３層以上<br>４層以下</td><td>５層以上<br>６層以下</td></tr>
<tr><td rowspan="2">歩掛区分</td><td>バックホウによる直接掘削積込・掘削<br>全体厚 40 ㎝を超え 80 ㎝以下</td><td>270</td><td>230</td><td>180</td></tr>
<tr><td>バックホウによる直接掘削積込・掘削<br>全体厚 80 ㎝を超え 120 ㎝以下</td><td>210</td><td colspan="2">170</td></tr>
</table>
（注）１．復旧層数は即日復旧を行う（路床～表層まで）の全層数とする。<br>２．作業量はとりこわし～復旧までの作業量とする。<br><br>（参考）各作業単独の場合の作業量
<table>
<tr><th>作　業　名</th><th>舗装版厚さ</th><th>掘削深さ<br>又は総施工量</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="3">直接掘削積込</td><td rowspan="3">－</td><td>40cm 以下</td><td>606 m2／日</td></tr>
<tr><td>40cm を越え 80cm 以下</td><td>368 m2／日</td></tr>
<tr><td>80cm を越え 120cm 以下</td><td>258 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="9">とりこわし掘削積込</td><td rowspan="3">15cm 以下</td><td>40cm 以下</td><td>379 m2／日</td></tr>
<tr><td>40cm を越え 80cm 以下</td><td>311 m2／日</td></tr>
<tr><td>80cm を越え 120cm 以下</td><td>263 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">15cm を越え<br>30cm 以下</td><td>40cm 以下</td><td>356 m2／日</td></tr>
<tr><td>40cm を越え 80cm 以下</td><td>296 m2／日</td></tr>
<tr><td>80cm を越え 120cm 以下</td><td>253 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">30cm を越え<br>40cm 以下</td><td>40cm 以下</td><td>318 m2／日</td></tr>
<tr><td>40cm を越え 80cm 以下</td><td>270 m2／日</td></tr>
<tr><td>80cm を越え 120cm 以下</td><td>233 m2／日</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">不陸整正<br>（路床又は路盤の補足材敷均し転圧）</td><td>1000m2 未満</td><td>1,724 m2／日</td></tr>
<tr><td>1000m2 以上</td><td>2,000 m2／日</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">路盤の敷均し転圧</td><td>1000m2 未満</td><td>1,724 m2/日・層</td></tr>
<tr><td>1000m2 以上</td><td>2,000 m2/日・層</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">舗装の敷均し転圧</td><td>1000m2 未満</td><td>1,351 m2/日・層</td></tr>
<tr><td>1000m2 以上</td><td>2,000 m2/日・層</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>路上路盤再生工</td><td>該当工種の基準内に記載。</td></tr>
<tr><td>アスファルト注入工</td><td>該当工種の基準内に記載。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>舗装版クラック補修工</td><td>①　舗装版クラック補修
<table>
<tr><th>作　業　名</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>摘　　要</th></tr>
<tr><td>クラック補修</td><td>620m／日</td><td></td></tr>
<tr><td>クラック防止シート張</td><td>930m／日</td><td></td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>道路付属構造物塗替工</td><td>①　道路付属構造物塗替工
<table>
<tr><th>作　業　種　別</th><th>構造物区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="3">素地調整</td><td>ポール類</td><td>78 m2／日</td></tr>
<tr><td>防護柵類</td><td>100 m2／日</td></tr>
<tr><td>落石防止柵類</td><td>73 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">付属構造物塗替</td><td>ポール類</td><td>89 m2／日･回</td></tr>
<tr><td>防護柵類･落石防止柵類</td><td>121 m2／日･回</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，塗装工４名の場合。</td></tr>
<tr><td>張紙防止塗装工</td><td>①　張紙防止塗装
<table>
<tr><th>作　業　種　別</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>ケレン作業</td><td>14m2／日</td></tr>
<tr><td>張紙防止塗装（１層当り）</td><td>32m2／日</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

| 工種名 | 設定内容 |
|---|---|
| 床版補強工 | |

① 鋼板接着工法

| 工種名 | 作業日当り標準作業量 | 摘要 |
|---|---|---|
| 下地処理工 | 66m2／日 | 施工量は，鋼板取付面積とする。 |
| アンカー設置工 | 419本／日 | 本歩掛には，罫書作業を含む。 |
| 鋼板取付工（スプライス板取付工含む） | 39m2／日 | 本歩掛には，鋼板の現場内小運搬を含む。 |
| シール工 | 301m／日 | 施工量は，シール延長とする。<br>本歩掛には,注入エア抜きパイプの設置を含む。 |
| 注入工 | 59m2／日 | 施工量は，鋼板取付面積とスプライス板取付面積とする。 |
| 仕上工 | 144m2／日 | 施工量は，鋼板取付面積とする。<br>本歩掛には,注入エア抜きパイプの除去を含む。 |

② 増桁架設工法

| 工種名 | | 作業日当り標準作業量 | 摘要 |
|---|---|---|---|
| 既設部材撤去工 | | 0.4ｔ／日 | |
| 現場削孔工 | | 120箇所／日 | |
| 下地処理工 | | 17m2／日 | 施工量は，増桁取付面積とする。<br>本歩掛には，罫書作業を含む。 |
| 増桁取付工 | 障害無し | 3.5ｔ／日 | 施工量は，主桁，副部材の質量とする。<br>本歩掛には，高力ボルトの仮締めを含む。<br>障害とは，ガス管，水道管，通信ケーブル等の施工上支障をきたす占用物件をいう。 |
| | 障害有り | 2.7ｔ／日 | |
| ボルト締工 | | 310本／日 | |
| シール工 | | 79m／日 | 施工量は，シール延長とする。<br>本歩掛には，注入エア抜きパイプ設置を含む。 |
| 注入工 | | 12m2／日 | 施工量は，増桁取付面積とする。 |
| 仕上工 | | 140m／日 | 施工量は，シール延長とする。<br>本歩掛には,注入エア抜きパイプの除去を含む。 |

③ 炭素繊維接着工法

| 工種名 | | 作業日当り標準作業量 | 摘要 |
|---|---|---|---|
| 下地処理工 | | 52.1㎡／日 | 施工量は，補強対象面積とする。 |
| プライマー工 | 全面貼り | 96.3㎡／日 | 施工量は，炭素繊維投影面積とする。本歩掛には，養生を含む。 |
| | 格子貼り | 94.7㎡／日 | |
| 不陸修正工 | 全面貼り | 49.7㎡／日 | 施工量は，炭素繊維投影面積とする。本歩掛には，養生を含む。 |
| | 格子貼り | 42.4㎡／日 | |
| 炭素繊維シート接着工 | 全面貼り | 36.3㎡／日 | 施工量は，炭素繊維接着面積とする。本歩掛には，墨出し及び養生を含む。 |
| | 格子貼り | 34.0㎡／日 | |
| 仕上げ塗装工 | | 88.7㎡／日 | 施工量は，炭素繊維投影面積とする。 |

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>床版補強工</td><td>④　クラック処理工
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>22m／日</td></tr>
</table>
⑤　足場工
<table>
<tr><th colspan="3">工　　種　　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">足場<br>（板張防護含む）</td><td>桁高 1.5m 以上</td><td>－</td><td>33 m2／日</td></tr>
<tr><td>桁高 1.5m 未満</td><td>－</td><td>38 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">朝顔</td><td rowspan="2">－</td><td>両側設置</td><td>227 m2／日</td></tr>
<tr><td>片側設置</td><td>455 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="4">防護工</td><td rowspan="2">板張防護</td><td>両側設置</td><td>278 m2／日</td></tr>
<tr><td>片側設置</td><td>556 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">シート張防護</td><td>両側設置</td><td>1,250 m2／日</td></tr>
<tr><td>片側設置</td><td>2,500 m2／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，橋梁特殊工５名の場合。</td></tr>
<tr><td>橋梁補強工（鋼板巻立て）（１）（２）</td><td>①　橋梁補強工（鋼板巻立て）
<table>
<tr><th colspan="2">作　業　種　別</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td colspan="2">足場設置・撤去(枠組足場(手摺先行型))</td><td>72 掛㎡／日</td></tr>
<tr><td colspan="2">鋼板取付</td><td>10 ㎡／日</td></tr>
<tr><td rowspan="5">現場溶接</td><td>すみ肉脚長　6㎜</td><td>15m／日</td></tr>
<tr><td>板厚　　6～10㎜</td><td>7m／日</td></tr>
<tr><td>板厚　　12～13㎜</td><td>3m／日</td></tr>
<tr><td>板厚　　14～15㎜</td><td>3m／日</td></tr>
<tr><td>板厚　　16～19㎜</td><td>2m／日</td></tr>
<tr><td rowspan="4">フーチングアンカー<br>削孔・定着</td><td>削孔深　0.8m以上1.0m未満</td><td>46箇所／日</td></tr>
<tr><td>削孔深　1.0m以上1.2m未満</td><td>40箇所／日</td></tr>
<tr><td>削孔深　1.2m以上1.4m未満</td><td>36箇所／日</td></tr>
<tr><td>削孔深　1.4m以上1.6m未満</td><td>32箇所／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>橋梁補強工（コンクリート巻立て）<br>（１）（２）</td><td>①　橋梁補強工（コンクリート巻立て工）
<table>
<tr><th>作　業　種　別</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>足場設置･撤去(枠組足場(手摺先行型))</td><td>72 掛㎡／日</td></tr>
<tr><td>下地処理</td><td>36 ㎡／日</td></tr>
<tr><td>一般型枠製作・設置・撤去</td><td>26 ㎡／日</td></tr>
<tr><td>合板円形型枠製作・設置・撤去</td><td>13 ㎡／日</td></tr>
<tr><td>コ ン ク リ ー ト 打 設</td><td>43 ㎥／日</td></tr>
</table>
（箇所／日）
<table>
<tr><th>削孔機械名</th><th>電動ハンマドリル</th><th colspan="2">ハンドドリル（空圧式）</th></tr>
<tr><td>削　孔　径(㎜)</td><td>20 以上 30 未満</td><td colspan="2">30 以上 50 以下</td></tr>
<tr><td>削　孔　深(m)</td><td>0.2 以上 0.4 以下</td><td>0.3 以上 0.6 未満</td><td>0.6 以上 0.9 以下</td></tr>
<tr><td>日当り施工量</td><td>127</td><td>77</td><td>56</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>橋梁地覆補修工</td><td>
① とりこわし
<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>1.4 m3／日</td></tr></table>
（注）旧高欄の撤去，鉄筋の切断，破砕片除去・集積及び運搬車の積込みを含む。<br>
② 鉄筋
<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>0.36 t／日</td></tr></table>
（注）現場加工及び組立を含む。<br>
③ コンクリート
<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>0.76 m3／日</td></tr></table>
（注）人力による打設，型枠（側板部及び底板部）の製作，設置・撤去，はく離剤塗布及び養生作業を含む。<br>
④ 足場・防護
<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>31 m2／日</td></tr></table>
</td></tr>
<tr><td>橋梁補修工<br>（支承取替工）</td><td>
① 支承取替（鋼橋及びＰＣ橋）
<table>
<tr><th>工　種　名</th><th colspan="3">1 基 当 り 標 準 作 業 日 数</th></tr>
<tr><td rowspan="9">支 承 取 替</td><td>鋼橋－鋼製支承　(150ｔ以下)</td><td>－</td><td>5日／基</td></tr>
<tr><td>鋼橋－ゴム支承　(150ｔ以下)</td><td>－</td><td>4日／基</td></tr>
<tr><td>PC橋－ゴム支承　(200ｔ以下)</td><td>－</td><td>4日／基</td></tr>
<tr><td rowspan="3">鋼橋－鋼製支承<br>(150ｔを超え250ｔ以下)</td><td>鈑　　桁</td><td>7日／基</td></tr>
<tr><td>1箱桁2沓</td><td>8日／基</td></tr>
<tr><td>1箱桁1沓</td><td>11日／基</td></tr>
<tr><td rowspan="3">鋼橋－鋼製支承<br>(250ｔを超え320ｔ以下)</td><td>鈑　　桁</td><td>8日／基</td></tr>
<tr><td>1箱桁2沓</td><td>11日／基</td></tr>
<tr><td>1箱桁1沓</td><td>13日／基</td></tr>
</table>
② 沓座コンクリートはつり（支承直下部以外）
<table><tr><td>1m3当り標準作業量日数</td><td>3 日／m3</td></tr></table>
③ 下部工ブラケット取付
<table>
<tr><td rowspan="2">作業日当り標準作業量</td><td colspan="2">ブラケット単部材質量</td></tr>
<tr><td>600kg以下</td><td>600kgを超え2,000kg以下</td></tr>
<tr><td>3 基／日</td><td>2 基／日</td></tr>
</table>
④ 足場
<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>20 m2／日</td></tr></table>
（注）作業日当り標準作業量は，橋梁特殊工５名の場合。
</td></tr>
<tr><td>橋梁補修工<br>（現場溶接鋼桁補強工）</td><td>
① 現場溶接鋼桁補強
<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>14 m／日</td></tr></table>
（注）上表の作業日当り標準作業量は，計測から現場溶接までの一連作業である。
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>橋梁補修工（表面被覆工（塗装工法））</td><td>該当工種の計算式（１橋当り施工日数）を参照。</td></tr>
<tr><td>落橋防止装置工</td><td>
① コンクリート削孔
<table>
<tr><th>削孔機械名</th><th>削孔径(mm)</th><th>削孔深(mm)</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="5">電動式コアボーリングマシン</td><td rowspan="2">50 以下</td><td>500 以下</td><td>15 孔／日</td></tr>
<tr><td>500 超え 1000 以下</td><td>12 孔／日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">50 超え 110 以下</td><td>500 以下</td><td>11 孔／日</td></tr>
<tr><td>500 超え 1000 以下</td><td>9 孔／日</td></tr>
<tr><td>1000 超え 1300 以下</td><td>4 孔／日</td></tr>
<tr><td>電動ハンマドリル</td><td>20 以上 30 以下</td><td>200 以下</td><td>84 孔／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">さく岩機（ハンドドリル（空圧式））</td><td rowspan="2">20 以上 50 以下</td><td>200 超え 500 以下</td><td>48 孔／日</td></tr>
<tr><td>500 超え 800 以下</td><td>38 孔／日</td></tr>
</table>
② アンカー
<table>
<tr><th>適用アンカー材径(mm)</th><th>打込み方向</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">アンカー材径 25 以下</td><td>下方向</td><td>79 本／日</td></tr>
<tr><td>横方向</td><td>68 本／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">アンカー材径 25 超え 40 以下</td><td>下方向</td><td>68 本／日</td></tr>
<tr><td>横方向</td><td>55 本／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">アンカー材径 40 超え 55 以下</td><td>下方向</td><td>58 本／日</td></tr>
<tr><td>横方向</td><td>43 本／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">アンカー材径 55 超え 70 以下</td><td>下方向</td><td>42 本／日</td></tr>
<tr><td>横方向</td><td>26 本／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">アンカー材径 70 超え 85 以下</td><td>下方向</td><td>31 本／日</td></tr>
<tr><td>横方向</td><td>12 本／日</td></tr>
</table>
③ 充填補修
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>92 孔／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 道路除草工 | ① 除草 |

| 作　業　形態 | 飛び石防護の有無 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|
| 肩掛け式 | 有り | 2,250 m2／日 |
| | 無し | 2,250 m2／日 |
| ハンドガイド式 | － | 6,120 m2／日 |
| 人力除草 | － | 1,000 m2／日 |

② 集草

| 作業日当り標準作業量 | 2,760 m2／日 |
|---|---|

③ 積込運搬

（1）積込み

| 作業日当り標準作業量 | 2,050 m2／日 |
|---|---|

| 運搬機種・規格 | 運搬距離 | 運転時間当り標準作業量 |
|---|---|---|
| ダンプトラック［オンロード・ディーゼル］２ｔ積級 | 6.5km 以下 | 833 m2／時間 |
| | 11.5km 以下 | 714 m2／時間 |
| | 14.5km 以下 | 625 m2／時間 |
| | 17.5km 以下 | 556 m2／時間 |
| | 19.5km 以下 | 500 m2／時間 |
| | 21.5km 以下 | 455 m2／時間 |
| | 23.5km 以下 | 417 m2／時間 |
| | 26.0km 以下 | 370 m2／時間 |
| | 28.0km 以下 | 333 m2／時間 |
| | 30.0km 以下 | 303 m2／時間 |
| | 32.0km 以下 | 278 m2／時間 |
| | 34.5km 以下 | 250 m2／時間 |
| | 35.0km 以下 | 227 m2／時間 |
| パッカー車［回転式］積載容量４㎥ | 4.0km 以下 | 500 m2／時間 |
| | 7.0km 以下 | 455 m2／時間 |
| | 10.0km 以下 | 417 m2／時間 |
| | 14.0km 以下 | 370 m2／時間 |
| | 17.5km 以下 | 333 m2／時間 |
| | 21.0km 以下 | 303 m2／時間 |
| | 25.0km 以下 | 270 m2／時間 |
| | 29.0km 以下 | 244 m2／時間 |
| | 33.0km 以下 | 217 m2／時間 |
| | 35.0km 以下 | 196 m2／時間 |

（注）１．ダンプトラックの運転日当り運転時間は，5.9ｈとする。
　　２．パッカー車の運転日当り運転時間は，6.2ｈとする。

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 道路除草工 | ④　機械除草（肩掛式）・集草・積込運搬 |

| 運搬機種・規格 | 運搬距離 | 作業日当り<br>標準作業量 |
|---|---|---|
| ダンプトラック［オンロード・ディーゼル］2t積級 | 6.5km 以下 | 990 m2／日 |
| | 11.5km 以下 | 958 m2／日 |
| | 14.5km 以下 | 928 m2／日 |
| | 17.5km 以下 | 899 m2／日 |
| | 19.5km 以下 | 873 m2／日 |
| | 21.5km 以下 | 848 m2／日 |
| | 23.5km 以下 | 824 m2／日 |
| | 26.0km 以下 | 791 m2／日 |
| | 28.0km 以下 | 760 m2／日 |
| | 30.0km 以下 | 732 m2／日 |
| | 32.0km 以下 | 706 m2／日 |
| | 34.5km 以下 | 674 m2／日 |
| | 35.0km 以下 | 644 m2／日 |
| パッカー車［回転式］積載容量4m3 | 4.0km 以下 | 885 m2／日 |
| | 7.0km 以下 | 861 m2／日 |
| | 10.0km 以下 | 838 m2／日 |
| | 14.0km 以下 | 805 m2／日 |
| | 17.5km 以下 | 775 m2／日 |
| | 21.0km 以下 | 747 m2／日 |
| | 25.0km 以下 | 712 m2／日 |
| | 29.0km 以下 | 681 m2／日 |
| | 33.0km 以下 | 646 m2／日 |
| | 35.0km 以下 | 614 m2／日 |

（注）１．ダンプトラックの運転日当り運転時間は，5.9ｈとする。
　　２．パッカー車の運転日当り運転時間は，6.2ｈとする。

⑤　機械除草（肩掛式）・集草

| 作業日当り標準作業量 | 1,240 m2／日 |
|---|---|

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>道路除草工</td><td>⑥　機械除草（ハンドガイド式）・集草・積込運搬
<table>
<tr><th>運搬機種・規格</th><th>運搬距離</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="12">ダンプトラック［オンロード・ディーゼル］2t積級</td><td>6.5km 以下</td><td>1，372 m2／日</td></tr>
<tr><td>11.5km 以下</td><td>1，311 m2／日</td></tr>
<tr><td>14.5km 以下</td><td>1，255 m2／日</td></tr>
<tr><td>17.5km 以下</td><td>1，204 m2／日</td></tr>
<tr><td>19.5km 以下</td><td>1，156 m2／日</td></tr>
<tr><td>21.5km 以下</td><td>1，113 m2／日</td></tr>
<tr><td>23.5km 以下</td><td>1，072 m2／日</td></tr>
<tr><td>26.0km 以下</td><td>1，017 m2／日</td></tr>
<tr><td>28.0km 以下</td><td>967 m2／日</td></tr>
<tr><td>30.0km 以下</td><td>922 m2／日</td></tr>
<tr><td>32.0km 以下</td><td>880 m2／日</td></tr>
<tr><td>34.5km 以下</td><td>831 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="12">パッカー車［回転式］積載容量4m3</td><td>35.0km 以下</td><td>786 m2／日</td></tr>
<tr><td>4.0km 以下</td><td>1，179 m2／日</td></tr>
<tr><td>7.0km 以下</td><td>1，136 m2／日</td></tr>
<tr><td>10.0km 以下</td><td>1，096 m2／日</td></tr>
<tr><td>14.0km 以下</td><td>1，040 m2／日</td></tr>
<tr><td>17.5km 以下</td><td>991 m2／日</td></tr>
<tr><td>21.0km 以下</td><td>945 m2／日</td></tr>
<tr><td>25.0km 以下</td><td>891 m2／日</td></tr>
<tr><td>29.0km 以下</td><td>842 m2／日</td></tr>
<tr><td>33.0km 以下</td><td>789 m2／日</td></tr>
<tr><td>35.0km 以下</td><td>742 m2／日</td></tr>
</table>
（注）１．ダンプトラックの運転日当り運転時間は，5.9ｈとする。<br>２．パッカー車の運転日当り運転時間は，6.2ｈとする。<br><br>⑦　機械除草（ハンドガイド式）・集草
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>1,902 m2／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>路面清掃工（機械清掃）</td><td>①　路面清掃工　･･･　該当工種の計算式を参照。<br><br>②　歩道掃き出し
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>3.2 km／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>路面清掃工<br>（人力清掃工）</td><td>①　人力清掃工
<table>
<tr><th colspan="2">作　　業　　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="3">路肩部</td><td>少ない</td><td>1.3 km／日</td></tr>
<tr><td>普通</td><td>0.25 km／日</td></tr>
<tr><td>多い</td><td>0.16 km／日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">歩道</td><td>少ない</td><td>2,000 m2／日</td></tr>
<tr><td>普通</td><td>164 m2／日</td></tr>
<tr><td>多い</td><td>109 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">横断歩道橋・地下道</td><td>少ない</td><td>1,000 m2／日</td></tr>
<tr><td>普通</td><td>455 m2／日</td></tr>
<tr><td>多い</td><td>286 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">中央分離帯</td><td>普通</td><td>3,333 m2／日</td></tr>
<tr><td>多い</td><td>909 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">歩道（草の処理）</td><td>普通</td><td>63 m2／日</td></tr>
<tr><td>多い</td><td>53 m2／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。</td></tr>
<tr><td>ガードレール清掃工</td><td>①　ガードレール清掃作業
<table>
<tr><th>支柱清掃の有無</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>無し</td><td>8.5 km／日</td></tr>
<tr><td>有り</td><td>6.7 km／日</td></tr>
</table>
（注）ガードレール清掃車の運転日当り運転時間は，6.1ｈとする。<br><br>②　ガードレール清掃作業（移動）
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>183 km／日</td></tr>
</table>
（注）ガードレール清掃車の運転日当り運転時間は，6.1ｈとする。</td></tr>
<tr><td>ガードレール清掃工<br>（自動追従型）</td><td>該当工種の計算式を参照。</td></tr>
<tr><td>ガードパイプ清掃工</td><td>①　ガードパイプ清掃
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>333 m／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>管渠清掃工，側溝清掃工及び集水桝清掃工（組合せ作業）</td><td>
① 管渠清掃工（機械清掃）清掃作業
<table>
<tr><th>堆積率</th><th>管径</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="3">50%未満</td><td>φ200 ㎜以上 φ400 ㎜未満</td><td>245 m／日</td></tr>
<tr><td>φ400 ㎜以上 φ800 ㎜未満</td><td>135 m／日</td></tr>
<tr><td>φ800 ㎜以上 φ1，000 ㎜以下</td><td>88 m／日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">50%以上</td><td>φ200 ㎜以上 φ400 ㎜未満</td><td>163 m／日</td></tr>
<tr><td>φ400 ㎜以上 φ800 ㎜未満</td><td>103 m／日</td></tr>
<tr><td>φ800 ㎜以上 φ1，000 ㎜以下</td><td>63 m／日</td></tr>
</table>
（注）排水管清掃車の運転日当り運転時間は，6.7ｈとする。<br><br>
② 管渠清掃工（機械清掃）移動
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>201 km／日</td></tr>
</table>
（注）排水管清掃車の運転日当り運転時間は，6.7ｈとする。<br><br>
③ 側溝清掃工（機械清掃の組合せ作業）清掃作業
<table>
<tr><th>堆積率</th><th>側溝断面積</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">50%未満</td><td>0.125m2 未満</td><td>181 m／日</td></tr>
<tr><td>0.125m2 以上 0.5m2 未満</td><td>119 m／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">50%以上</td><td>0.125m2 未満</td><td>132 m／日</td></tr>
<tr><td>0.125m2 以上 0.5m2 未満</td><td>81 m／日</td></tr>
</table>
（注）排水管清掃車の運転日当り運転時間は，6.7ｈとする。<br><br>
④ 側溝清掃工（機械清掃の組合せ作業）移動
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>201 km／日</td></tr>
</table>
（注）排水管清掃車の運転日当り運転時間は，6.7ｈとする。<br><br>
⑤ 集水桝清掃工（機械清掃の組合せ作業）清掃作業
<table>
<tr><th>側溝断面積</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>0.125m2 未満</td><td>132 個／日</td></tr>
<tr><td>0.125m2 以上 0.5m2 未満</td><td>56 個／日</td></tr>
</table>
（注）排水管清掃車の運転日当り運転時間は，6.7ｈとする。<br><br>
⑥ 集水桝清掃工(機械清掃の組合せ作業)移動
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>201 km／日</td></tr>
</table>
（注）排水管清掃車の運転日当り運転時間は，6.7ｈとする。
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>側溝清掃（単独作業）</td><td>
① 側溝清掃（単独作業）清掃作業 ･･･ 該当工種の計算式を参照。<br>
② 側溝清掃（単独作業）移動
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>195 km／日</td></tr>
</table>
（注）排水管清掃車の運転日当り運転時間は，6.5ｈとする。<br><br>
③ 側溝蓋設置・撤去
<table>
<tr><th>側溝蓋質量</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>40kg 以上 80kg 以下</td><td>333 枚／日</td></tr>
<tr><td>80kg を超え 120kg 以下</td><td>250 枚／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>側溝清掃工（人力清掃工）</td><td>
① 側溝清掃（人力清掃工）
<table>
<tr><th>側溝蓋規格</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>無蓋</td><td>63 m／日</td></tr>
<tr><td>有蓋　コンクリート蓋</td><td>26 m／日</td></tr>
<tr><td>有蓋　鋼蓋（ボルト締無）</td><td>23 m／日</td></tr>
<tr><td>有蓋 鋼蓋（ボルト締有）</td><td>15 m／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。
</td></tr>
<tr><td>集水桝清掃工（単独作業）</td><td>該当工種の計算式を参照。</td></tr>
<tr><td>集水桝清掃工（人力清掃工）</td><td>
①集水桝清掃工(人力清掃工)
<table>
<tr><th>蓋の有無及び土砂厚</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>有蓋 25cm 未満</td><td>13 箇所／日</td></tr>
<tr><td>有蓋 25cm 以上</td><td>9.9 箇所／日</td></tr>
<tr><td>無蓋 25cm 未満</td><td>23 箇所／日</td></tr>
<tr><td>無蓋 25cm 以上</td><td>12 箇所／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。
</td></tr>
<tr><td>トンネル清掃工</td><td>該当工種の計算式を参照。</td></tr>
<tr><td>トンネル照明器具清掃工</td><td>
① トンネル照明器具清掃工
<table>
<tr><th colspan="2">作　業　種　別</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>機械施工</td><td>表面清掃</td><td>2,600m／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">人力施工</td><td>表面清掃</td><td>111 灯／日</td></tr>
<tr><td>表面及び内面清掃</td><td>55 灯／日</td></tr>
</table>
（注） 機械施工の施工単位は，トンネル延長とする。
</td></tr>
<tr><td>トンネル漏水対策工</td><td>
① 面導水
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>34 m2／日</td></tr>
</table>
② 線導水
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>10 m／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>沓座拡幅工</td><td>①　沓座拡幅工
<table>
<tr><th>作業名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>チッピング（厚 2cm 以下）</td><td>5.3 m2／日</td></tr>
<tr><td>アンカー筋挿入</td><td>97 本／日</td></tr>
<tr><td>鉄筋（沓座拡幅工）</td><td>0.73 t／日</td></tr>
<tr><td>型枠（沓座拡幅工）</td><td>15 m2／日</td></tr>
<tr><td>コンクリート（沓座拡幅工）</td><td>7.1 m3／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>桁連結工</td><td>①　桁連結工
<table>
<tr><th>作　業　名</th><th>作 業 条 件</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>芯出し素地調整</td><td>－</td><td>10m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">現　場　孔　明</td><td>10 本以上／箇所</td><td>80 本／日</td></tr>
<tr><td>作業性の悪い箇所等</td><td>40 本／日</td></tr>
<tr><td>連 結 板 取 付</td><td>－</td><td>10 箇所／日</td></tr>
<tr><td>現　場　溶　接</td><td>溶接脚長 8～12mm</td><td>5.6m／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ボ　ル　ト　締</td><td>10 本以上／箇所</td><td>200 本／日</td></tr>
<tr><td>作業性の悪い箇所等</td><td>100 本／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>欠損部補修工</td><td>①　加熱合材補修工
<table>
<tr><th>日施工量</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>1t 未満</td><td>1.0 t／日</td></tr>
<tr><td>1t 以上 2t 未満</td><td>1.6 t／日</td></tr>
<tr><td>2t 以上 5t 未満</td><td>4.2 t／日</td></tr>
<tr><td>5t 以上 20t 未満</td><td>9.1 t／日</td></tr>
</table>
②　常温合材補修工
<table>
<tr><th>日施工量</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>0.3t 未満</td><td>0.3 t／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>路肩整正（人力による土はね）</td><td>①　路肩整正（人力による土はね）
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>37 m2／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。</td></tr>
<tr><td>コンクリート接着工</td><td>①　コンクリート接着工
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>10 m2／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>防護柵復旧工</td><td>① ガードレール復旧
<table>
<tr><th>作業区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>コンクリート，土中建込用支柱及びレール</td><td>3.6 m／日</td></tr>
<tr><td>レールのみ</td><td>5.0 m／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。<br><br>② ガードパイプ復旧
<table>
<tr><th>作業区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>コンクリート，土中建込用支柱及びパイプ</td><td>4.9 m／日</td></tr>
<tr><td>パイプのみ</td><td>6.8 m／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。</td></tr>
<tr><td>アスファルト舗装版削孔工</td><td>① アスファルト舗装版削孔
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>19 孔／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>道路付属物のコンクリート面塗装工</td><td>① 道路付属物のコンクリート面塗装工
<table>
<tr><th>作業名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>コンクリート面清掃</td><td>56 m2／日</td></tr>
<tr><td>下塗り</td><td>53 m2／日･回</td></tr>
<tr><td>上塗り</td><td>50 m2／日･回</td></tr>
</table>
(注)作業日当り標準作業量は，塗装工１名の場合。</td></tr>
<tr><td>横断歩道橋補修工</td><td>① 横断歩道橋補修工
<table>
<tr><th>作業名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>既設橋面舗装はぎ取り</td><td>50 m2／日</td></tr>
<tr><td>ノンスリップ撤去</td><td>667 m／日</td></tr>
<tr><td>ノンスリップ設置（穴あけ共）</td><td>143 m／日</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>共同溝工（１）<br>（構造物単位）</td><td>
①　共同溝工（１層１連　土被り：1.5＜DH≦3.0）適用歩掛
<table>
<tr><th>歩掛区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>①</td><td>3.6m3／日</td></tr>
<tr><td>②</td><td>3.8m3／日</td></tr>
<tr><td>③</td><td>3.2m3／日</td></tr>
<tr><td>④</td><td>3.3m3／日</td></tr>
</table>
②　共同溝工（１層２連　土被り：1.5＜DH≦3.0）適用歩掛
<table>
<tr><th>歩掛区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>③</td><td>3.9m3／日</td></tr>
<tr><td>④</td><td>4.0m3／日</td></tr>
</table>
③　共同溝工（１層２連　土被り：3.0＜DH≦5.0）適用歩掛
<table>
<tr><th>歩掛区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>⑤</td><td>4.7m3／日</td></tr>
<tr><td>⑥</td><td>4.8m3／日</td></tr>
<tr><td>⑦</td><td>4.5m3／日</td></tr>
<tr><td>⑧</td><td>4.5m3／日</td></tr>
</table>
(注)１．上表の作業日当り標準作業量には，次の作業が含まれている。<br>なお，鉄筋工及び防水工・防水層保護工については，別途計上する。<br>・基礎砕石工　敷均し・転圧<br>・型枠工（均しコンクリート）　製作・設置・撤去<br>・コンクリート工（均しコンクリート）　打設・養生<br>・型枠工（歩床部コンクリート）　製作・設置・撤去<br>・コンクリート工（歩床部コンクリート）　打設・養生<br>・型枠工（躯体部コンクリート）製作・設置・撤去<br>・コンクリート工（躯体部コンクリート）　打設・養生<br>・足場・支保工　設置・撤去<br>・伸縮継手　目地・止水板設置<br>２．上表の作業日当り標準作業量は，作業の重複を考慮した１スパンでの値であり，工程の算出にあたっては，施工場所，スパン数を考慮して決定するものとする。<br>３．作業日当り標準作業量は，基礎砕石工（基礎砕石），コンクリート工（均しコンクリート・歩床部コンクリート），伸縮継手（目地・止水板），足場の施工の有無にかかわらず適用出来る。<br>４．コンクリート養生は，散水，給熱を問わず適用する。<br>５．上表の作業日当り標準作業量は，本体コンクリート（躯体部）換算値である。
</td></tr>
</table>

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 共同溝工（2） | |

① 躯体部コンクリートポンプ車打設

| 作業日当り標準作業量 | 87m3／日 |
|---|---|

② 掘削工

| 覆　工　方　式 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|
| 土　留　覆　工 | 124m3 |
| 土　留　開　放 | 171m3 |

③ ダンプトラック運搬

| DID 区間の有無 | 運搬距離 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|
| 無し | 1.5km 以下 | 67 m3/日 |
| | 2.5km 以下 | 59 m3/日 |
| | 4.5km 以下 | 48 m3/日 |
| | 5.5km 以下 | 42 m3/日 |
| | 7.0km 以下 | 38 m3/日 |
| | 9.0km 以下 | 31 m3/日 |
| | 12.5km 以下 | 26 m3/日 |
| | 18.5km 以下 | 21 m3/日 |
| | 34.0km 以下 | 16 m3/日 |
| | 60.0km 以下 | 11 m3/日 |
| 有り | 1.5km 以下 | 67 m3/日 |
| | 2.5km 以下 | 59 m3/日 |
| | 4.0km 以下 | 48 m3/日 |
| | 5.0km 以下 | 42 m3/日 |
| | 6.5km 以下 | 37 m3/日 |
| | 8.5km 以下 | 31 m3/日 |
| | 11.5km 以下 | 26 m3/日 |
| | 16.5km 以下 | 21 m3/日 |
| | 26.5km 以下 | 16 m3/日 |
| | 60.0km 以下 | 11 m3/日 |

④ 伸縮継手

| 作業内容 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|
| 止水板設置 | 21 m／日 |
| 目地材設置 | 24 m2／日 |

（注）作業日当り標準作業量は，型わく工１名の場合。

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 共同溝工（２） | |

⑤　防水工・防水層保護工

| 作　　業　　名 | | | | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|---|---|
| 防水工 | 一般部及び換気部 | 底頂部 | － | 83 m2／日 |
| | | 側部 | 内防水 | 34 m2／日 |
| | | | 外防水 | 53 m2／日 |
| | 特殊部 | 底頂部 | － | 29 m2／日 |
| | | 側部 | 内防水 | 32 m2／日 |
| | | | 外防水 | 43 m2／日 |
| 防水層保護工 | 一般部及び換気部 | 底頂部 | － | 200 m2／日 |
| | | 側部 | － | 63 m2／日 |
| | 特殊部 | 底頂部 | － | 83 m2／日 |
| | | 側部 | － | 53 m2／日 |

⑥　埋戻工

| 施工区分 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|
| 施工区分①（人力・水締め） | 4.8 m3／日 |
| 施工区分②（ブルドーザ・振動ローラ＋タンパ） | 30 m3／日 |
| 施工区分③（ブルドーザ・タイヤローラ） | 50 m3／日 |

⑦　基礎砕石工

| | |
|---|---|
| 作業日当り標準作業量 | 167 m2／日 |

⑧　足場・支保工

| 作　業　種　別 | 支保耐力(f)kN／m2 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|
| 足場工 | － | 67 掛 m2／日 |
| パイプサポート支保設置撤去 | f ≦40 | 38 空 m3／日 |
| | 40＜ f ≦60 | 24 空 m3／日 |
| くさび結合支保設置･撤去 | f ≦40 | 71 空 m3／日 |
| | 40＜ f ≦80 | 48 空 m3／日 |

⑨　型枠工

| 作業内容 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|
| 一般型枠　製作・設置・撤去 | 26 m2／日 |
| 均し基礎ｺﾝｸﾘｰﾄ型枠　製作・設置・撤去 | 43 m2／日 |
| 撤去しない埋設型枠　製作・設置 | 42 m2／日 |
| 歩床部型枠　製作・設置・撤去 | 63 m／日 |

⑩　人力打設（歩床部）

| | |
|---|---|
| 作業日当り標準作業量 | 7.1 m3／日 |

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>共同溝工（２）</td><td>⑪　養生工<br><table><tr><th>打設条件</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>躯体部</td><td>77 m3／日</td></tr><tr><td>均しコンクリート部</td><td>32 m3／日</td></tr><tr><td>歩床部</td><td>16 m3／日</td></tr></table>（注）作業日当り標準作業量は，普通作業員１名の場合。<br><br>⑫　覆工板開閉作業<br><table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>36 m2／日</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>防水工・防水層保護工</td><td>共同溝工（２）⑤　防水工・防水層保護工による。</td></tr>
<tr><td>電線共同溝工<br>（Ｃ・Ｃ・ＢＯＸ）</td><td>①　舗装版破砕積込<br><table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>101 m2／日</td></tr></table>②　床堀り<br><table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>41 m3／日</td></tr></table>③　埋戻し・締固め<br><table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>58 m3／日</td></tr></table></td></tr>
</table>

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 電線共同溝工<br>(C･C･BOX) | ④　運搬(電線共同溝) |

| 積載区分 | DID 区間の有無 | 運搬距離 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|---|
| 土砂 | 無し | 0.5km 以下 | 40m3/日 |
| | | 2.0km 以下 | 33m3/日 |
| | | 3.5km 以下 | 29m3/日 |
| | | 6.5km 以下 | 22m3/日 |
| | | 11.5km 以下 | 17m3/日 |
| | | 26.5km 以下 | 11m3/日 |
| | | 60.0km 以下 | 6m3/日 |
| | 有り | 0.5km 以下 | 40m3/日 |
| | | 2.0km 以下 | 33m3/日 |
| | | 3.5km 以下 | 29m3/日 |
| | | 6.0km 以下 | 22m3/日 |
| | | 10.5km 以下 | 17m3/日 |
| | | 22.5km 以下 | 11m3/日 |
| | | 60.0km 以下 | 6m3/日 |
| アスファルト塊 | 無し | 0.5km 以下 | 31m3/日 |
| | | 2.0km 以下 | 26m3/日 |
| | | 3.5km 以下 | 22m3/日 |
| | | 6.5km 以下 | 17m3/日 |
| | | 11.5km 以下 | 13m3/日 |
| | | 26.5km 以下 | 9m3/日 |
| | | 60.0km 以下 | 4m3/日 |
| | 有り | 0.5km 以下 | 31m3/日 |
| | | 2.0km 以下 | 26m3/日 |
| | | 3.5km 以下 | 22m3/日 |
| | | 6.0km 以下 | 17m3/日 |
| | | 10.5km 以下 | 13m3/日 |
| | | 22.5km 以下 | 9m3/日 |
| | | 60.0km 以下 | 4m3/日 |

⑤　軽量鋼矢板設置･撤去

| 作業日当り標準作業量 | 121 m／日 |
|---|---|

⑥　覆工板設置･撤去

| 作業日当り標準作業量 | 206 m2／日 |
|---|---|

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>電線共同溝工<br>（C・C・BOX）</td><td>
⑦　管路材設置
<table>
<tr><th>作業区分</th><th>設置区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>露出部</td><td>単管</td><td>56 m／日</td></tr>
<tr><td rowspan="5">埋設部</td><td>単管設置</td><td>93 m／日</td></tr>
<tr><td>ＦＡ管設置</td><td>99 m／日</td></tr>
<tr><td>ボディ管(φ200mm)設置<br>(さや管含む)</td><td>63 m／日</td></tr>
<tr><td>ボディ管(φ250mm)設置<br>(さや管含む)</td><td>36 m／日</td></tr>
<tr><td>多条管</td><td>136 m／日</td></tr>
</table>
⑧　プレキャストボックスブロック設置
<table>
<tr><th>ﾎﾞｯｸｽﾌﾞﾛｯｸ1個当り質量</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>1,000kg 以下</td><td>12 個／日</td></tr>
<tr><td>1,000kg 超～4,000kg 以下</td><td>6 個／日</td></tr>
<tr><td>4,000kg 超～11,000kg 以下</td><td>4 個／日</td></tr>
</table>
⑨　蓋設置
<table>
<tr><th>蓋1組当り質量</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>200kg 以下</td><td>9 組／日</td></tr>
<tr><td>200kg 超～800kg 以下</td><td>7 組／日</td></tr>
<tr><td>800kg 超～2,000kg 以下</td><td>5 組／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>情報ボックス工</td><td>
①　舗装版破砕
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>248 m2／日</td></tr>
</table>
②　床掘り
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>57 m3／日</td></tr>
</table>
③　埋戻し
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>35 m3／日</td></tr>
</table>
④　基礎材
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>135 m2／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>情報ボックス工</td><td>
⑤　埋設部管路材設置
<table>
<tr><th>本体管の材質</th><th>さや管の材質</th><th>設置区分</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">コンクリート製</td><td rowspan="2">ＶＵ・ＦＥＰ管類</td><td>本体管設置</td><td>98 m／日</td></tr>
<tr><td>さや管設置</td><td>218 m／日</td></tr>
<tr><td rowspan="3">合成樹脂製</td><td>ＶＵ管類</td><td>本体管及びさや管設置</td><td>68 m／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ＦＥＰ管類</td><td>本体管設置</td><td>146 m／日</td></tr>
<tr><td>さや管設置</td><td>358 m／日</td></tr>
<tr><td>鋼 製</td><td>－</td><td>本体管設置</td><td>507 m／日</td></tr>
</table>
⑥　露出部管路材設置
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>21 m／日</td></tr>
</table>
⑦　ハンドホール
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>4 個／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>トンネル工<br>（インバート工）</td><td>① インバート工<br><table><tr><th>作　業　種　別</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>インバート工<br>掘削工～コンクリート工まで</td><td>2.4m／日</td></tr></table>（注） 上表は，インバート厚が 50 ㎝の場合で，鉄筋は無筋の場合の標準作業量である。</td></tr>
<tr><td>トンネル工(ＮＡＴＭ)〔発破工法〕</td><td>① 掘削工等 ･･･ 該当工種の基準内に記載。(時間当り掘削量)<br><br>② 覆工コンクリート等 ･･･ 該当工種の基準内に記載。<br><br>③ インバート敷均し･締固め工（路床）<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>104 m3／日</td></tr></table><br>④ 埋戻し材の積込み<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>131 m3／日</td></tr></table><br>⑤ 吹付プラント設備組立･解体<table><tr><th>作業内容</th><th>１基当り標準作業日数</th></tr><tr><td>組立</td><td>9.0 日／基</td></tr><tr><td>解体</td><td>5.0 日／基</td></tr></table><br>⑥ スライドセントル組立･解体<table><tr><th>作業内容</th><th>１基当り標準作業日数</th></tr><tr><td>組立</td><td>8.5 日／基</td></tr><tr><td>解体</td><td>6.0 日／基</td></tr></table><br>⑦ 防水工作業台車組立･解体<table><tr><th>作業内容</th><th>１基当り標準作業日数</th></tr><tr><td>組立</td><td>2.5 日／基</td></tr><tr><td>解体</td><td>1.5 日／基</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>トンネル(ＮＡＴＭ)〔機械掘削工法〕</td><td>① 掘削工等 ･･･ 該当工種の基準内に記載。(時間当り掘削量)<br><br>② 覆工コンクリート等 ･･･ 該当工種の基準内に記載。</td></tr>
<tr><td>トンネル濁水処理工</td><td>① 濁水処理設備設置撤去<table><tr><th>作業内容</th><th>１箇所当り標準作業日数</th></tr><tr><td>設置</td><td>4 日／箇所</td></tr><tr><td>撤去</td><td>3 日／箇所</td></tr></table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>トンネル工(ＮＡＴＭ)坑口工(ＤⅢパターン)</td><td>①　掘削工等　･･･　該当工種の基準内に記載。(時間当り掘削量)<br><br>②　覆工コンクリート等　･･･　該当工種の基準内に記載。</td></tr>
<tr><td>トンネル工(ＮＡＴＭ)非常駐車帯工</td><td>①　掘削工等　･･･　該当工種の基準内に記載。(時間当り掘削量)<br><br>②　覆工コンクリート等　･･･　該当工種の基準内に記載。<br><br>③　スライドセントル組立･解体
<table>
<tr><th>作業内容</th><th>１基当り標準作業日数</th></tr>
<tr><td>組立</td><td>5.5 日／基</td></tr>
<tr><td>解体</td><td>3.9 日／基</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>トンネル工(ＮＡＴＭ)仮設備工(防音扉工)</td><td>①　防音扉設置撤去
<table>
<tr><th>作業内容</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>設置</td><td>22 m2／日</td></tr>
<tr><td>撤去</td><td>67 m2／日</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>小断面トンネル工(ＮＡＴＭ)</td><td>
① 掘削工等 ･･･ 該当工種の基準内に記載。(週当り掘削量)<br>
② 覆工コンクリート等 ･･･ 該当工種の基準内に記載。<br>
③ 空気圧縮機設備設置・撤去
<table>
<tr><th>作業内容</th><th>２台当り標準作業日数</th></tr>
<tr><td>設置</td><td>3.0 日／2 台</td></tr>
<tr><td>撤去</td><td>1.0 日／2 台</td></tr>
</table>
④ 吹付プラント設備組立･解体
<table>
<tr><th>作業内容</th><th>１基当り標準作業日数</th></tr>
<tr><td>組立</td><td>9.0 日／基</td></tr>
<tr><td>解体</td><td>5.0 日／基</td></tr>
</table>
⑤ スライドセントル組立･解体
<table>
<tr><th>作業内容</th><th>１基当り標準作業日数</th></tr>
<tr><td>組立</td><td>8.5 日／基</td></tr>
<tr><td>解体</td><td>6.0 日／基</td></tr>
</table>
⑥ 防水工作業台車組立･解体
<table>
<tr><th>作業内容</th><th>１基当り標準作業日数</th></tr>
<tr><td>組立</td><td>2.5 日／基</td></tr>
<tr><td>解体</td><td>1.5 日／基</td></tr>
</table>
⑦ 坑外送気管敷設･撤去
<table>
<tr><th>作業内容</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>敷設</td><td>20 m／日</td></tr>
<tr><td>撤去</td><td>33 m／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，配管工１名の場合。
</td></tr>
<tr><td>トンネル裏込め注入工</td><td>該当工種の基準内に記載。</td></tr>
<tr><td>道路除雪工</td><td>現場条件により設定</td></tr>
<tr><td>鋼橋製作工</td><td>現場条件により設定</td></tr>
<tr><td>橋梁塗装工（工場塗装及び塗装前処理）</td><td>
① 塗装前処理
<table>
<tr><th>二次調整の区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>動力工具処理</td><td>43 m2／日</td></tr>
<tr><td>製品ブラスト</td><td>16 m2／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，橋梁塗装工１名の場合。<br>
② 工場塗装
<table>
<tr><th>箱桁構造内面歩掛補正</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>箱桁構造内面（密閉部）</td><td>45 m2／日・回</td></tr>
<tr><td>上記以外</td><td>71 m2／日・回</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，橋梁塗装工１名の場合。
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>鋼橋架設工</td><td>
① 支承工，地組工，本締め工 ･･･ 該当工種の計算式（日当り施工量）を参照。<br>
② 架設工 ･･･ 該当工種の計算式（日当り架設質量）を参照。<br>
③ 落橋防止装置取付工 ･･･ 該当工種の基準内に記載。<br>
④ 架設用機械設備据付･解体 ･･･ 該当工種の計算式（所要日数又は日当り施工量）を参照。<br>
⑤ 検査路架設工<br>
（1）架設工 ･･･ 該当工種の基準内に記載。<br>
（2）足場工(検査路)吊足場
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>17 m2／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，橋梁特殊工１名の場合。<br>
（3）アンカーボルト設置 ･･･ 該当工種の基準内に記載。<br>
⑥ 鋼床版現場溶接工 ･･･ ･･･ 該当工種の計算式（日当り施工量）を参照。<br>
⑦ 鋼床版Ｕリブ現場溶接工 ･･･ 該当工種の基準内に記載。<br><br>
⑧ 足場工，防護工及び登り桟橋工
<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">作　業　名</th><th colspan="2">作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><th>設置</th><th>撤去</th></tr>
<tr><td rowspan="4">主体足場<br>（パイプ吊足場）</td><td colspan="2">プレードガーダ･ボックスガーダ</td><td>172 m2／日</td><td>250 m2／日</td></tr>
<tr><td colspan="2">ラーメン</td><td>132 m2／日</td><td>208 m2／日</td></tr>
<tr><td colspan="2">トラス，アーチ</td><td>89 m2／日</td><td>147 m2／日</td></tr>
<tr><td colspan="2">少数Ｉ桁</td><td>179 m2／日</td><td>250 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">主体足場（ワイヤーブリッジ転用足場）</td><td colspan="2">プレードガーダ･ボックスガーダ</td><td>111 m2／日</td><td>179 m2／日</td></tr>
<tr><td colspan="2">トラス，アーチ</td><td>69 m2／日</td><td>119 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">中段足場</td><td colspan="2">プレードガーダ･ボックスガーダ<br>ラーメン<br>トラス，アーチ</td><td>385 m2／日</td><td>714 m2／日</td></tr>
<tr><td colspan="2">少数Ｉ桁</td><td>417 m2／日</td><td>556 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="4">安全通路</td><td colspan="2">プレードガーダ･ボックスガーダ</td><td colspan="2">385 m2／日（設置・撤去）</td></tr>
<tr><td colspan="2">ラーメン</td><td colspan="2">192 m2／日（設置・撤去）</td></tr>
<tr><td colspan="2">トラス，アーチ</td><td colspan="2">185 m2／日（設置・撤去）</td></tr>
<tr><td colspan="2">少数Ｉ桁</td><td colspan="2">385 m2／日（設置・撤去）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">部分作業床</td><td colspan="2">プレードガーダ･ボックスガーダ</td><td colspan="2">714 m2／日（設置・撤去）</td></tr>
<tr><td colspan="2">ラーメン</td><td colspan="2">192 m2／日（設置・撤去）</td></tr>
<tr><td colspan="2">トラス，アーチ</td><td colspan="2">172 m2／日（設置・撤去）</td></tr>
<tr><td colspan="2">少数Ｉ桁</td><td colspan="2">714 m2／日（設置・撤去）</td></tr>
<tr><td rowspan="8">朝顔</td><td rowspan="2">プレードガーダ･<br>ボックスガーダ</td><td>両側朝顔</td><td>357 m2／日</td><td>500 m2／日</td></tr>
<tr><td>片側朝顔</td><td>714 m2／日</td><td>1,000 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ラーメン</td><td>両側朝顔</td><td>294 m2／日</td><td>385 m2／日</td></tr>
<tr><td>片側朝顔</td><td>588 m2／日</td><td>769 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">トラス，アーチ</td><td>両側朝顔</td><td>357 m2／日</td><td>500 m2／日</td></tr>
<tr><td>片側朝顔</td><td>714 m2／日</td><td>1,000 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">少数Ｉ桁</td><td>両側朝顔</td><td>417 m2／日</td><td>625 m2／日</td></tr>
<tr><td>片側朝顔</td><td>833 m2／日</td><td>1,250 m2／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，橋梁特殊工５名の場合。
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>鋼橋架設工</td><td>
<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">作　業　名</th><th colspan="2">作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><th>設置</th><th>撤去</th></tr>
<tr><td>側面塗装足場</td><td></td><td colspan="2">278 m2／日（設置・撤去）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">板張防護工</td><td>両側朝顔</td><td>185 m2／日</td><td>417 m2／日</td></tr>
<tr><td>片側朝顔</td><td>200 m2／日</td><td>455 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">シート張防護工</td><td>両側朝顔</td><td>833 m2／日</td><td>1,667 m2／日</td></tr>
<tr><td>片側朝顔</td><td>1,000 m2／日</td><td>1,667 m2／日</td></tr>
<tr><td>シート張防護工<br>（側面）</td><td></td><td colspan="2">1,250 m2／日（設置・撤去）</td></tr>
<tr><td>ワイヤーブリッジ防護工</td><td></td><td>111 m2／日</td><td>263 m2／日</td></tr>
<tr><td>ネット防護工</td><td></td><td>294 m2／日</td><td>385 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">登り桟橋工</td><td>手摺先行工法有り</td><td>12 m／日</td><td>16 m／日</td></tr>
<tr><td>手摺先行工法無し</td><td>14 m／日</td><td>19 m／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，橋梁特殊工５名の場合。<br><br>
⑨　合成床版架設工
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>66.7 m2／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>プレビーム桁製作工（現場）</td><td>
①　プレビーム桁製作台工
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>2 基／日</td></tr>
</table>
②　主桁製作用足場工
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>20 m／日</td></tr>
</table>
③　プレビーム桁製作及び架設工
<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>プレビーム桁製作<br>主桁応力導入工～<br>コンクリート工</td><td>22m未満　6 日／本<br>22m以上～30m未満　8 日／本<br>30m以上～40m未満　9 日／本<br>40m以上　10 日／本</td></tr>
</table>
（注）上表は，製作ベースが１箇所の場合の標準作業量であるので，桁製作本数が５～10 本の場合は 1/2，11～30 本の場合は 1/3 とすること。<br><br>
④　主桁解体工（分割工法）
<table>
<tr><th>区間長</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>30m未満</td><td>10 本／日</td></tr>
<tr><td>30m以上</td><td>5 本／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>プレビーム桁架設工</td><td>① 架設工 ･･･ 該当工種の基準内に記載。<br>② 地組工，本締め工 ･･･ 該当工種の計算式（日当り施工量）を参照。<br>③ 横桁取付工 ･･･ 該当工種の基準内に記載。<br>④ 局部プレストレス工<br><table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>1 径間／日</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>鋼橋床版工</td><td>① 鋼橋床版工<br><table><tr><th colspan="2">作　業　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="3">型枠（鋼橋床版）</td><td>型枠の補正係数 無し</td><td>20 m2／日</td></tr><tr><td>型枠の補正係数 0.05 以下</td><td>19 m2／日</td></tr><tr><td>型枠の補正係数 0.06 以上 0.10 以下</td><td>18 m2／日</td></tr><tr><td>養生（鋼橋床版）</td><td></td><td>63 m2／日</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>グレーチング床版架設工及び足場工</td><td>該当工種の計算式（100m2 当り架設日数）を参照。</td></tr>
<tr><td>ポストテンション桁製作工</td><td>① ポストテンション桁製作工<br><table><tr><th>工　種　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>ポストテンション<br>桁製作工</td><td>1.2m3／日</td></tr></table>（注） 上表の作業日当り標準作業量には，軌道設置撤去，主桁製作台及び足場設置撤去，鉄筋加工・組立，横組シース組立，ＰＣケーブル挿入，型枠設置・撤去，コンクリート打設・養生，緊張及びグラウト注入を含んでいる。</td></tr>
<tr><td>プレキャストセグメント主桁組立工</td><td>該当工種の計算式（１本当り施工日数）を参照。</td></tr>
<tr><td>ＰＣ橋架設工</td><td>① トラッククレーンによる架設 ･･･ 該当工種の基準内に記載。<br>② 架設桁による架設<br>（１）桁架設，架設設備据付･解体，<br>架設機械移動，軌道設置･撤去 ･･･ 該当工種の基準内に記載。<br>（２）アンカー工<br><table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>3.3 箇所／日</td></tr></table></td></tr>
</table>

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| ＰＣ橋架設工 | ③　ＰＣ橋架設工（横組工，ＰＣコンポ橋） |

| 作　業　種　別 | | 作業日当り標準作業量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|
| コンクリート工 | | 40 ㎥／日 | 横組工 |
| 鉄筋工 | | 1.1ｔ／日 | 横組工 |
| ＰＣ工 | プレテンション桁 | 148m／日 | 横組工 |
| | ポストテンション桁 | 150m／日 | 横組工 |
| 緊張工 | | 27 ケーブル／日 | 横組工 |
| ＰＣ板支承工 | | 250m／日 | ＰＣコンポ橋用 |
| ＰＣ板仮置工 | | 120 枚／日 | ＰＣコンポ橋用 |
| ＰＣ板敷設工 | | 50 枚／日 | ＰＣコンポ橋用 |
| 継目工 | | 1,000m／日 | ＰＣコンポ橋用 |
| 型枠工 | | 8 ㎡／日 | ＰＣコンポ橋用 |

（注）　上表の作業日当り標準作業量は，ＰＣ橋架設工の一連作業における各作業に適用する。

④　ＰＣ橋架設工（足場工及び防護工）

| 作　業　名 | | | | 作業日当り標準作業量 | 編成人員（橋梁特殊工） |
|---|---|---|---|---|---|
| 桁下足場 | ポストテンション桁 | 両側朝顔 | 桁高 1.1≦H＜1.5 | 42 m2／日 | 5 人 |
| | | | 桁高 1.5≦H | 36 m2／日 | 5 人 |
| | | 片側朝顔 | 桁高 1.1≦H＜1.5 | 67 m2／日 | 6 人 |
| | | | 桁高 1.5≦H | 55 m2／日 | 6 人 |
| | プレテンション桁 | 両側朝顔 | － | 60 m2／日 | 6 人 |
| | | 片側朝顔 | － | 64 m2／日 | 6 人 |
| 側部足場（スラブ桁橋） | | | | 17 m／日 | 4 人 |
| 橋台･橋脚回り足場ブラケット工 | | | | 11 m／日 | 4 人 |
| 板張防護工 | | 両側朝顔 | | 120 m2／日 | 6 人 |
| | | 片側朝顔 | | 150 m2／日 | 6 人 |
| ネット防護工 | | | | 200 m2／日 | 4 人 |

⑤　支承工，落橋防止工　･･･　該当工種の基準内に記載。

| ＰＣ橋片持架設工 | ①　ＰＣ橋片持架設工 |
|---|---|

| 作　業　名 | 作業日当り標準作業量 | 摘　　要 |
|---|---|---|
| 柱頭部工 | 1 箇所／84 日 | |
| 片持部工 | 0.33m／日 | |
| 側径間部 | 0.3m／日 | |
| 中央閉合部工 | 1 箇所／31 日 | |

（注）　作業日＝供用日数とし，工期算出の際，不稼動係数を掛けない。

②　作業車引戻工

| 作業日当り標準作業量 | 20 m／日 |
|---|---|

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>ＰＣ橋片持架設工</td><td>③　足場及び防護工
<table>
<tr><th colspan="3">作　業　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="4">柱頭部<br>足場工</td><td rowspan="2">手摺先行工法有り</td><td>柱頭部桁高 6m 未満</td><td>14 m2／日</td></tr>
<tr><td>柱頭部桁高 6m 以上</td><td>7.0 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">手摺先行工法無し</td><td>柱頭部桁高 6m 未満</td><td>15 m2／日</td></tr>
<tr><td>柱頭部桁高 6m 以上</td><td>7.7 m2／日</td></tr>
<tr><td colspan="3">橋側足場工</td><td>29 m／日</td></tr>
<tr><td colspan="3">橋面手摺工</td><td>93 m／日</td></tr>
<tr><td colspan="3">防護工</td><td>294 m2／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，橋梁特殊工５名の場合。</td></tr>
<tr><td>ポストテンション場所打ホロースラブ橋工</td><td>該当工種の基準内に記載。</td></tr>
<tr><td>ポストテンション場所打箱桁橋工</td><td>該当工種の基準内に記載。</td></tr>
<tr><td>ＲＣ場所打ホロースラブ橋工</td><td>該当工種の基準内に記載。</td></tr>
<tr><td>架設支保工</td><td>①　架設支保工 設置・撤去
<table>
<tr><th>作　　業　　名</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>摘　　要</th></tr>
<tr><td>くさび結合支保設置・撤去</td><td>337 空 m3／日</td><td>設置 55%，撤去 45%</td></tr>
<tr><td>基礎用鋼材設置・撤去</td><td>119 m2／日</td><td>設置 63%，撤去 37%</td></tr>
<tr><td>支柱支保設置・撤去</td><td>286 空 m3／日</td><td>設置 54%，撤去 46%</td></tr>
<tr><td>支柱受台設置・撤去</td><td>76 m／日</td><td>設置 56%，撤去 44%</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>伸縮装置工（鋼製）</td><td>①　伸縮装置工（鋼製）新設　･･･該当工種の基準内に記載。<br>②　伸縮装置工（鋼製）取替工
<table>
<tr><th>作　業　名</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>摘要</th></tr>
<tr><td>伸縮装置工(鋼製)取替工<br>鋼フィンガージョイント等の設置</td><td>2.8 m/日</td><td></td></tr>
<tr><td>伸縮装置工(鋼製)取替工<br>既製品ジョイントの設置</td><td>3.6 m/日</td><td></td></tr>
</table>
（注）上表の作業日当り標準作業量には，次の作業を含む。<br>・鋼フィンガージョイント等の設置<br>舗装面切断，コンクリートのはつり，旧ジョイント撤去，新ジョイント据付，型枠設置・撤去，C0 打設，はつりから据付に渡って発生する附帯作業<br>・既製品ジョイントの設置<br>舗装面切断，コンクリートのはつり，旧ジョイント撤去，新ジョイント据付，C0 打設</td></tr>
<tr><td>橋梁排水管設置工</td><td>①　排水管
<table>
<tr><th>作　業　名</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>摘　　要</th></tr>
<tr><td>コンクリートアンカーボルト設置</td><td>56 本／日</td><td></td></tr>
<tr><td>排水管設置</td><td>17m／日</td><td>（ＶＰ管）</td></tr>
<tr><td>排水管設置</td><td>13m／日</td><td>（鋼管）</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>歩道橋（側道橋）<br>架設工</td><td>①　アンカーフレーム据付工，ベント設備設置･撤去工<br>架設工（横断歩道橋），手摺設置工，支承据付工，<br>架設工（側道橋）支柱据付工，高欄組立工　‥‥‥‥‥‥　該当工種の基準内に記載。<br>②　足場工（手摺先行枠組足場）<br><table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>0.34 箇所／日</td></tr></table>（注）作業日当り標準作業量は，橋梁特殊工１名の場合。<br><br>③　足場工（吊足場）　･･･　現場条件により設定<br><br>④　ノンスリップタイル設置<br><table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>50 枚／日</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>側板工</td><td>①　側板工<br><table><tr><th>作　　業　　名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>側板取付</td><td>18 m2／日</td></tr><tr><td>側板取外し</td><td>60 m2／日</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>鋼製橋脚設置工</td><td>①　アンカーフレーム架設工　･･･　該当工種の計算式（所要日数）を参照。<br>②　地組工，現場溶接工　･･･　該当工種の計算式（日当り施工量）を参照。<br>③　架設工　･･･　該当工種の計算式（日当り架設質量）を参照。<br>④　本締め工　･･･　該当工種の計算式（日当り作業量）を参照。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>橋台・橋脚工（１）<br>（構造物単位）</td><td>①　橋台・橋脚工（１）（構造物単位）
<table>
<tr><th>構造物種別</th><th>構造物高さ区分</th><th>コンクリート打設量区分</th><th>作業日当り<br>標準作業量<br>（m3／日）</th></tr>
<tr><td rowspan="8">Ｔ形橋脚</td><td rowspan="2">5≦Ｈ＜10</td><td>100m3以上300m3未満</td><td>6.6　(6.5)</td></tr>
<tr><td>300m3以上500m3未満</td><td>8.9　(8.8)</td></tr>
<tr><td rowspan="3">10≦Ｈ＜15</td><td>120m3以上220m3未満</td><td>5.6　(5.5)</td></tr>
<tr><td>220m3以上440m3未満</td><td>7.8　(7.7)</td></tr>
<tr><td>440m3以上650m3未満</td><td>8.5　(8.4)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">15≦Ｈ＜25</td><td>290m3以上910m3未満</td><td>8.6　(8.4)</td></tr>
<tr><td>910m3以上980m3未満</td><td>9.9　(9.7)</td></tr>
<tr><td rowspan="4">壁式橋脚</td><td rowspan="2">5≦Ｈ＜15</td><td>100m3以上280m3未満</td><td>6.5　(6.5)</td></tr>
<tr><td>280m3以上700m3未満</td><td>9.6　(9.5)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">15≦Ｈ＜20</td><td>250m3以上520m3未満</td><td>7.4　(7.3)</td></tr>
<tr><td>520m3以上700m3未満</td><td>8.6　(8.5)</td></tr>
<tr><td rowspan="18">逆Ｔ式橋台</td><td rowspan="2">Ｈ＜5</td><td>50m3以上140m3未満</td><td>4.3　(4.3)</td></tr>
<tr><td>140m3以上260m3未満</td><td>6.9　(6.9)</td></tr>
<tr><td rowspan="3">5≦Ｈ＜7</td><td>50m3以上 90m3未満</td><td>3.2　(3.2)</td></tr>
<tr><td>90m3以上160m3未満</td><td>4.4　(4.3)</td></tr>
<tr><td>160m3以上310m3未満</td><td>6.1　(6.1)</td></tr>
<tr><td rowspan="3">7≦Ｈ＜9</td><td>70m3以上110m3未満</td><td>3.9　(3.9)</td></tr>
<tr><td>110m3以上210m3未満</td><td>5.7　(5.6)</td></tr>
<tr><td>210m3以上310m3未満</td><td>7.4　(7.3)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">9≦Ｈ＜10</td><td>130m3以上280m3未満</td><td>6.3　(6.2)</td></tr>
<tr><td>280m3以上310m3未満</td><td>7.6　(7.5)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">10≦Ｈ＜11</td><td>230m3以上370m3未満</td><td>7.5　(7.4)</td></tr>
<tr><td>370m3以上650m3未満</td><td>9.7　(9.6)</td></tr>
<tr><td rowspan="3">11≦Ｈ＜12</td><td>230m3以上320m3未満</td><td>6.8　(6.7)</td></tr>
<tr><td>320m3以上560m3未満</td><td>8.9　(8.8)</td></tr>
<tr><td>560m3以上650m3未満</td><td>10.5　(10.3)</td></tr>
</table>
(注)１．上表の作業日当り標準作業量は，次の作業が含まれる。<br>・基礎材敷均し・転圧<br>・均し型枠製作設置・撤去・均しコンクリート打設・養生<br>・コンクリート打設・養生・型枠製作設置・撤去<br>・鉄筋加工・組立<br>・足場設置・撤去<br>・支保設置・撤去<br>・水抜パイプ設置(橋台のみ)<br>２．上表のコンクリート打設量区分は，１基当りの全体量を表しており，工程の算出にあたっては全数量における標準作業量で各現場条件に応じ算出するものとする。<br>３．作業日当り標準施工量は，基礎材，均しコンクリート，足場，水抜きパイプの施工の有無にかかわらず適用出来る。また，手摺先行型枠組足場を使用する場合は，(　) 書きの数値を適用する。<br>４．コンクリート養生は，散水・保温を問わず適用する。<br>５．上表の作業日当り標準作業量は，橋台・橋脚本体コンクリート換算値である。</td></tr>
<tr><td>橋台・橋脚工（２）</td><td>①　橋台・橋脚工（２）
<table>
<tr><th>打設方法</th><th>構造物区分</th><th>設計日打設量区分</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td>コンクリート<br>ポンプ車打設</td><td>橋台・橋脚工</td><td>50m3 以上</td><td>110m3／日</td></tr>
</table>
(注)　養生工は，現場，施工条件等により別途考慮する。</td></tr>
</table>

| 工　種　名 | 設　　定　　内　　容 |
|---|---|
| 公園植栽工 | ① 公園植栽工（高木植栽）<br>② 公園植栽工（支柱設置）<br>③ 公園植栽堀取（移植）工<br>④ 幹巻き |

① 公園植栽工（高木植栽）

| 作業種別 | | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|---|
| 植栽（高木） | （幹周）　15cm 未満 | 3.5 本／日 |
| | 15cm 以上　25cm 未満 | 2.0 本／日 |
| | 25cm 以上　40cm 未満 | 2.4 本／日 |
| | 40cm 以上　60cm 未満 | 1.2 本／日 |
| | 60cm 以上　90cm 未満 | 1.0 本／日 |

② 公園植栽工（支柱設置）

| 支柱区分 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|
| 二脚鳥居支柱（添木付） | 56 本／日 |
| 二脚鳥居支柱（添木なし） | 77 本／日 |
| 三脚鳥居支柱 | 56 本／日 |
| 十字鳥居支柱 | 37 本／日 |
| 二脚鳥居組合せ | 28 本／日 |
| 八ッ掛（三脚）（竹） | 77 本／日 |
| 八ッ掛（丸太）L=4m | 50 本／日 |
| 八ッ掛（丸太）L=6～7m | 32 本／日 |

③ 公園植栽堀取（移植）工

| 樹木区分 | 寸法 | 作業日当り標準作業量 | |
|---|---|---|---|
| | | 根巻き有り | 根巻き無し |
| 中低木 | 樹高 50cm 未満 | 333 本／日 | 500 本／日 |
| | 樹高 50cm 以上 100cm 未満 | 250 本／日 | 333 本／日 |
| | 樹高 100cm 以上 200cm 未満 | 143 本／日 | 167 本／日 |
| | 樹高 200cm 以上 300cm 未満 | 59 本／日 | 71 本／日 |
| 高木 | 幹周 15cm 未満 | 50 本／日 | 59 本／日 |
| | 幹周 15cm 以上 25cm 未満 | 23 本／日 | 28 本／日 |
| | 幹周 25cm 以上 40cm 未満 | 14 本／日 | 17 本／日 |
| | 幹周 40cm 以上 60cm 未満 | 10 本／日 | 11 本／日 |
| | 幹周 60cm 以上 90cm 未満 | 5.9 本／日 | 7.1 本／日 |

④ 幹巻き

| 幹周 | 作業日当り標準作業量 |
|---|---|
| 25cm 以上 40cm 未満 | 91 本／日 |
| 40cm 以上 60cm 未満 | 50 本／日 |
| 60cm 以上 90cm 未満 | 31 本／日 |

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>公園植栽工</td><td>⑤　公園植栽運搬（移植）工（5km 以内）
<table>
<tr><th>樹木区分</th><th>寸法</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="4">中低木</td><td>樹高 50cm 未満</td><td>88 本／日</td></tr>
<tr><td>樹高 50cm 以上 100cm 未満</td><td>62 本／日</td></tr>
<tr><td>樹高 100cm 以上 200cm 未満</td><td>50 本／日</td></tr>
<tr><td>樹高 200cm 以上 300cm 未満</td><td>39 本／日</td></tr>
<tr><td rowspan="5">高木</td><td>幹周 15cm 未満</td><td>27 本／日</td></tr>
<tr><td>幹周 15cm 以上 25cm 未満</td><td>20 本／日</td></tr>
<tr><td>幹周 25cm 以上 40cm 未満</td><td>67 本／日</td></tr>
<tr><td>幹周 40cm 以上 60cm 未満</td><td>28 本／日</td></tr>
<tr><td>幹周 60cm 以上 90cm 未満</td><td>12 本／日</td></tr>
</table>
（注）１．高木の幹周 25cm 未満と中低木については，積込み・取卸しを含み，高木の幹周 25cm 以上は積込み・取卸しを含まない。<br>２．5km を超える場合は，該当工種の計算式（5km を超え 5km 増す毎に加算する運転時間）を参照。<br><br>⑥　公園植栽張芝工
<table>
<tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>500 m2／日</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>公園除草工</td><td>①　公園除草工
<table>
<tr><th>作　業　種　別</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td>人力除草</td><td>129 ㎡／日</td></tr>
<tr><td>人力抜根</td><td>68 ㎡／日</td></tr>
<tr><td>機械除草Ⅰ</td><td>788 ㎡／日</td></tr>
<tr><td>機械除草Ⅱ</td><td>1，859 ㎡／日</td></tr>
<tr><td>集草</td><td>1，238 ㎡／日</td></tr>
<tr><td>積込み・運搬</td><td>2，304 ㎡／日</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工 種 名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>公園除草工</td><td>
② トラック 2t 積による公園外への運搬
<table>
<tr><th>DID 区間の<br>有無</th><th>運搬距離</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th><th>DID 区間の<br>有無</th><th>運搬距離</th><th>作業日当り<br>標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="15">無し</td><td>1.8km 以下</td><td>47 台/日</td><td rowspan="15">有り</td><td>1.7km 以下</td><td>47 台/日</td></tr>
<tr><td>3.2km 以下</td><td>24 台/日</td><td>3.0km 以下</td><td>24 台/日</td></tr>
<tr><td>4.6km 以下</td><td>16 台/日</td><td>4.3km 以下</td><td>16 台/日</td></tr>
<tr><td>6.0km 以下</td><td>12 台/日</td><td>5.6km 以下</td><td>12 台/日</td></tr>
<tr><td>7.5km 以下</td><td>9.4 台/日</td><td>7.0km 以下</td><td>9.4 台/日</td></tr>
<tr><td>9.1km 以下</td><td>7.8 台/日</td><td>8.4km 以下</td><td>7.8 台/日</td></tr>
<tr><td>10.7km 以下</td><td>6.7 台/日</td><td>9.8km 以下</td><td>6.7 台/日</td></tr>
<tr><td>12.4km 以下</td><td>5.9 台/日</td><td>11.2km 以下</td><td>5.9 台/日</td></tr>
<tr><td>14.2km 以下</td><td>5.2 台/日</td><td>12.8km 以下</td><td>5.2 台/日</td></tr>
<tr><td>16.1km 以下</td><td>4.7 台/日</td><td>14.4km 以下</td><td>4.7 台/日</td></tr>
<tr><td>18.1km 以下</td><td>4.3 台/日</td><td>16.0km 以下</td><td>4.3 台/日</td></tr>
<tr><td>20.3km 以下</td><td>3.9 台/日</td><td>17.7km 以下</td><td>3.9 台/日</td></tr>
<tr><td>22.7km 以下</td><td>3.6 台/日</td><td>19.4km 以下</td><td>3.6 台/日</td></tr>
<tr><td>25.2km 以下</td><td>3.4 台/日</td><td>21.4km 以下</td><td>3.4 台/日</td></tr>
<tr><td>28.4km 以下</td><td>3.1 台/日</td><td>23.3km 以下</td><td>3.1 台/日</td></tr>
<tr><td>30.0km 以下</td><td>2.9 台/日</td><td>25.3km 以下</td><td>2.9 台/日</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>27.6km 以下</td><td>2.8 台/日</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>30.0km 以下</td><td>2.6 台/日</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>公園工</td><td>
① 機械土工（トラクター運転費）
<table>
<tr><th>作業区分</th><th>土質</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">耕起</td><td>砂・砂質土</td><td>4，393 m2／日</td></tr>
<tr><td>レキ質土･粘性土</td><td>3，852 m2／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">砕土･整地</td><td>砂・砂質土</td><td>6，184 m2／日</td></tr>
<tr><td>レキ質土･粘性土</td><td>5，402 m2／日</td></tr>
<tr><td>肥料散布</td><td>－</td><td>20，435 m2／日</td></tr>
<tr><td>播種</td><td>－</td><td>12，368 m2／日</td></tr>
</table>
（注）トラクターの運転日当り運転時間は，4.7ｈとする。
<br><br>
② コンクリートはつり，つつき仕上げ
<table>
<tr><th>仕上げ区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>コンクリートはつり仕上げ</td><td>2.6 m2／日</td></tr>
<tr><td>コンクリートつつき仕上げ</td><td>4.0 m2／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，石工１名の場合。
<br><br>
③ レンガ舗装工
<table>
<tr><th>舗装区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>Ａ（平敷き）</td><td>24 m2／日</td></tr>
<tr><td>Ｂ（小端立て敷き）</td><td>14 m2／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>公園工</td><td>
④レンガ縁石工
<table>
<tr><th>施工区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>A</td><td>190 m／日</td></tr>
<tr><td>B・C</td><td>56 m／日</td></tr>
<tr><td>D・E</td><td>89 m／日</td></tr>
</table>
⑤　硬質塩化ビニール管工（排水工）
<table>
<tr><th>樹木区分</th><th>管径（呼び径）</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="5">市街地以外</td><td>100mm</td><td>43 m／日</td></tr>
<tr><td>125mm</td><td>38 m／日</td></tr>
<tr><td>150mm</td><td>36 m／日</td></tr>
<tr><td>200mm</td><td>32 m／日</td></tr>
<tr><td>250mm</td><td>30 m／日</td></tr>
<tr><td rowspan="5">市街地</td><td>100mm</td><td>40 m／日</td></tr>
<tr><td>125mm</td><td>36 m／日</td></tr>
<tr><td>150mm</td><td>32 m／日</td></tr>
<tr><td>200mm</td><td>29 m／日</td></tr>
<tr><td>250mm</td><td>27 m／日</td></tr>
</table>
⑥　水道用鋼管敷設（給水工）
<table>
<tr><th rowspan="2">内径</th><th colspan="2">作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><th>屋外配管</th><th>屋内配管</th></tr>
<tr><td>1／2インチ　（15mm）</td><td>60 m／日</td><td>37 m／日</td></tr>
<tr><td>3／4　（20mm）</td><td>53 m／日</td><td>33 m／日</td></tr>
<tr><td>1　（25mm）</td><td>43 m／日</td><td>27 m／日</td></tr>
<tr><td>1・1／4　（32mm）</td><td>35 m／日</td><td>22 m／日</td></tr>
<tr><td>1・1／2　（40mm）</td><td>32 m／日</td><td>20 m／日</td></tr>
<tr><td>2　（50mm）</td><td>25 m／日</td><td>16 m／日</td></tr>
<tr><td>2・1／2　（65mm）</td><td>20 m／日</td><td>12 m／日</td></tr>
<tr><td>3　（80mm）</td><td>17 m／日</td><td>11 m／日</td></tr>
<tr><td>4　（100mm）</td><td>13 m／日</td><td>8.3 m／日</td></tr>
<tr><td>5　（125mm）</td><td>11 m／日</td><td>7.0 m／日</td></tr>
<tr><td>6　（150mm）</td><td>9.2 m／日</td><td>5.8 m／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，配管工４名の場合。
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>工　種　名</th><th>設　　定　　内　　容</th></tr>
<tr><td>公園工</td><td>
⑦　硬質塩化ビニール管工（給水工）
<table>
<tr><th>管径（呼び径）</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td>15mm</td><td>125 m／日</td></tr>
<tr><td>20mm</td><td>93 m／日</td></tr>
<tr><td>25mm</td><td>77 m／日</td></tr>
<tr><td>30mm</td><td>73 m／日</td></tr>
<tr><td>40mm</td><td>56 m／日</td></tr>
<tr><td>50mm</td><td>44 m／日</td></tr>
<tr><td>65mm</td><td>35 m／日</td></tr>
<tr><td>75mm</td><td>30 m／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，配管工４名の場合。
<br><br>
⑧　水栓類取付工
<table>
<tr><th>口径</th><th>散水栓（箱共）取付</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">15mm</td><td>有り</td><td>9.5 個／日</td></tr>
<tr><td>無し</td><td>57 個／日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">20mm</td><td>有り</td><td>9.3 個／日</td></tr>
<tr><td>無し</td><td>50 個／日</td></tr>
<tr><td>25mm</td><td>－</td><td>44 個／日</td></tr>
</table>
（注）作業日当り標準作業量は，配管工４名の場合。
<br><br>
⑨　ベンチ据付
<table>
<tr><th rowspan="2">質量</th><th colspan="3">作業日当り標準作業量</th></tr>
<tr><th>スツール</th><th>背なしベンチ</th><th>背付きベンチ</th></tr>
<tr><td>20kg 未満</td><td>100 基／日</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td>20kg 以上 30kg 未満</td><td>67 基／日</td><td>42 基／日</td><td>36 基／日</td></tr>
<tr><td>30kg 以上 40kg 未満</td><td>－</td><td>36 基／日</td><td>29 基／日</td></tr>
<tr><td>40kg 以上 50kg 未満</td><td>－</td><td>31 基／日</td><td>25 基／日</td></tr>
<tr><td>50kg 以上</td><td>－</td><td>－</td><td>22 基／日</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

## ② 市場単価の1日当り標準施工量

本項に記載した日当り作業量は,市場単価への移行にともない削除された工種の標準作業量を定めたものである。

設定した作業量は，あくまでも標準施工の場合であるので，当該工種の施工条件，施工法，制約条件等を十分考慮の上適用の可否を検討し，使用するものとする。

### 1. 鉄　筋　工

表1．1

| 規格・仕様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| 1 | 一般構造物 | t | 3.5 |
| 2 | 切梁のある構造物 | t | 3.0 |
| 3 | 地下構造物 | t | |
| 4 | 橋梁用床版 | t | 4.0 |
| 5 | 場所打杭用かご筋 | t | 6.5 |
| 6 | ＲＣ場所打ホロースラブ | t | 2.5 |
| 7 | 差筋及び杭頭処理 | t | 3.5 |
| 8 | 一般構造物<br>（太径鉄筋混合） | t | 5.0 |
| 9 | 切梁のある構造物<br>（太径鉄筋混合） | t | 4.0 |
| 10 | 地下構造物<br>（太径鉄筋混合） | t | 4.0 |
| 11 | 場所打杭用かご筋<br>（太径鉄筋混合） | t | 9.0 |

## 2. 鉄筋工 （ガス圧接工）

表2．1

| 規格・仕様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| ガス圧接工<br>〔手動（半自動）<br>自　　動〕 | D19＋D19 | 箇所 | 350 |
| | D22＋D22 | 箇所 | |
| | D25＋D25 | 箇所 | |
| | D29＋D29 | 箇所 | 310 |
| | D32＋D32 | 箇所 | 280 |
| | D35＋D35 | 箇所 | 240 |
| | D38＋D38 | 箇所 | 160 |
| | D41＋D41 | 箇所 | 150 |
| | D51＋D51 | 箇所 | 130 |

## 3. インターロッキングブロック工

表 3.1

| 規格・仕様 | | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 設置 | 直線配置 | ブロック厚６cm | ㎡ | 100 |
| | | ブロック厚８cm | ㎡ | |
| | 曲線配置 | ブロック厚６cm | ㎡ | 80 |
| | | ブロック厚８cm | ㎡ | |
| | 直線配置３色以上による色合わせ | ブロック厚６cm | ㎡ | |
| | | ブロック厚８cm | ㎡ | |
| | 曲線配置３色以上による色合わせ | ブロック厚６cm | ㎡ | |
| | | ブロック厚８cm | ㎡ | |
| 撤去 | 再使用目的の撤去 | ブロック厚 ６cm，８cm | ㎡ | 200 |
| | とりこわし | ブロック厚 ６cm，８cm | ㎡ | 300 |

## 4. ガードレール設置工

表4．1 設置

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 土中建込 | 塗装品<br>・<br>メッキ品 | Gr-A-4E | m | 130 |
| | | Gr-B-4E | m | |
| | | Gr-C-4E | m | |
| | | Gr-Am-4E | m | 60 |
| | | Gr-Bm-4E | m | |
| コンクリート<br>建　　込 | | Gr-A-2B | m | 40 |
| | | Gr-B-2B | m | |
| | | Gr-C-2B | m | |
| | | Gr-Am-2B | m | 40 |
| | | Gr-Bm-2B | m | |

表4．2 設置（耐雪型）

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 土中建込 | 塗装品<br>・<br>メッキ品 | Gr-A2-4E | m | 130 |
| | | Gr-A3-3E | m | 120 |
| | | Gr-A4-2E | m | 100 |
| | | Gr-A5-2E | m | |
| | | Gr-B2-4E | m | 130 |
| | | Gr-B3-3E | m | 120 |
| | | Gr-B4-2E | m | 100 |
| | | Gr-C2-3E | m | 120 |
| | | Gr-C3-2E | m | 100 |
| コンクリート<br>建　　込 | | Gr-A2-2B | m | 40 |
| | | Gr-A3-2B | m | |
| | | Gr-A4-2B | m | |
| | | Gr-A5-2B | m | |
| | | Gr-B2-2B | m | |
| | | Gr-B3-2B | m | |
| | | Gr-B4-2B | m | |
| | | Gr-C2-2B | m | |
| | | Gr-C3-2B | m | |

**表4．3 撤 去**

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 土中建込用撤　　去 | 塗装品・メッキ品 | (旧 Gr-S-2E) | m | 120 |
| | | Gr-A-4E | m | 250 |
| | | Gr-B-4E | | |
| | | Gr-C-4E | | |
| | | Gr-Am-4E | m | 120 |
| | | Gr-Bm-4E | | |
| | | (旧 Gr-Ap-2E) | m | 200 |
| | | (旧 Gr-Bp-2E) | | |
| | | (旧 Gr-Cp-2E) | | |
| コンクリート建込用撤去 | | (旧 Gr-S-1B) | m | 160 |
| | | Gr-A-2B | m | 200 |
| | | Gr-B-2B | | |
| | | Gr-C-2B | | |
| | | Gr-Am-2B | m | 120 |
| | | Gr-Bm-2B | | |
| | | (旧 Gr-Ap-2B) | m | 200 |
| | | (旧 Gr-Bp-2B) | | |
| | | (旧 Gr-Cp-2B) | | |

(注)　中央分離帯用は（狭）タイプを含む。

**表4．4 撤 去（耐雪型）**

| 区　　分 | 規　格・仕　様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 土中建込用<br>撤　　去 | 塗装品<br>・<br>メッキ品 | (旧 Gr-S2-2E) | m | 60 |
| | | (旧 Gr-S3-2E) | | |
| | | (旧 Gr-S4-2E) | | |
| | | (旧 Gr-S5-2E) | | |
| | | Gr-A4-2E | m | 100 |
| | | Gr-A5-2E | | |
| | | Gr-B4-2E | | |
| | | Gr-C3-2E | | |
| | | Gr-A3-3E | m | 120 |
| | | Gr-B3-3E | | |
| | | Gr-C2-3E | | |
| | | Gr-A2-4E | m | 130 |
| | | Gr-B2-4E | | |
| コンクリート<br>建込用撤去 | | (旧 Gr-S2-1B) | m | 80 |
| | | (旧 Gr-S3-1B) | | |
| | | (旧 Gr-S4-1B) | | |
| | | (旧 Gr-S5-1B) | | |
| | | Gr-A2-2B | m | 100 |
| | | Gr-A3-2B | | |
| | | Gr-A4-2B | | |
| | | Gr-A5-2B | | |
| | | Gr-B2-2B | | |
| | | Gr-B3-2B | | |
| | | Gr-B4-2B | | |
| | | Gr-C2-2B | | |
| | | Gr-C3-2B | | |

**表4．5 部材設置**

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| レール設置<br>事故復旧を除く | 路側用　A･B･C 種<br>支柱間隔　4m | m | 130 |
| | 路側用　A･B･C 種<br>支柱間隔　2m | m | 100 |
| | 分離帯用　Am･Bm 種<br>支柱間隔　4m | m | 60 |
| | 分離帯用　Am･Bm 種<br>支柱間隔　2m | m | 60 |

**表4．6 部材撤去**

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| レール撤去<br>事故復旧を除く | （旧路側用　S 種<br>支柱間隔　1m） | m | 170 |
| | （旧路側用　S 種<br>支柱間隔　2m） | m | 100 |
| | 路側用　A･B･C 種<br>支柱間隔　4m | m | 250 |
| | 路側用　A･B･C 種<br>支柱間隔　2m | m | 200 |
| | 分離帯用　Am･Bm 種<br>支柱間隔　4m | m | 130 |
| | 分離帯用　Am･Bm 種<br>支柱間隔　2m | m | 110 |
| | 歩道用　（旧 Ap･Bp･Cp 種）<br>支柱間隔　2m | m | 200 |

**表4．7 部材設置（耐雪型）**

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| レール設置<br>事故復旧を除く | 路側用　A･B 種<br>支柱間隔　4m | m | 130 |
| | 路側用　A･B･C 種<br>支柱間隔　3m | m | 120 |
| | 路側用　A･B･C 種<br>支柱間隔　2m | m | 100 |

**表4．8 部材撤去（耐雪型）**

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| レール撤去<br>事故復旧を除く | （旧路側用　S 種<br>支柱間隔　2m） | m | 120 |
| | （旧路側用　S 種<br>支柱間隔　1m） | m | 160 |
| | 路側用　A･B 種<br>支柱間隔　4m | m | 250 |
| | 路側用　A･B･C 種<br>支柱間隔　3m | m | 200 |
| | 路側用　A･B･C 種<br>支柱間隔　2m | m | 200 |

## 5. ガードパイプ設置工

表5．1 設 置

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 土中建込 | 塗装品<br>・<br>メッキ品 | Gp-Ap-2E | m | 70 |
| | | Gp-Bp-2E | m | |
| | | Gp-Cp-2E | m | |
| コンクリート建込 | | Gp-Ap-2B | m | 40 |
| | | Gp-Bp-2B | m | |
| | | Gp-Cp-2B | m | |

表5．2 撤 去

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 土中建込用<br>撤　　去 | 塗装品<br>・<br>メッキ品 | Gp-Ap-2E | m | 135 |
| | | Gp-Bp-2E | m | |
| | | Gp-Cp-2E | m | |
| コンクリート建込用<br>撤　　去 | | Gp-Ap-2B | m | 80 |
| | | Gp-Bp-2B | m | |
| | | Gp-Cp-2B | m | |

表5．3 部材設置

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| パイプ設置 | 歩車道境界用　　Ap･Bp･Cp 種<br>支柱間隔　　2m | m | 80 |

表5．4 部材撤去

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| パイプ撤去 | 歩車道境界用　　Ap･Bp･Cp 種<br>支柱間隔　　2m | m | 150 |

## 6. 横断･転落防止柵設置工

表6．1

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 土中建込 | ビーム式 | 支柱間隔　1m | m | 55 |
| | | 支柱間隔　1.5m | m | 75 |
| | ビーム式<br>・<br>パネル式 | 支柱間隔　2m | m | 100 |
| | | 支柱間隔　3m | m | 140 |

表6．2

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| プレキャスト<br>コンクリート<br>ブロック建込 | ビーム式 | 支柱間隔　1m | m | 25 |
| | | 支柱間隔　1.5m | m | 40 |
| | ビーム式<br>・<br>パネル式 | 支柱間隔　2m | m | 55 |
| | | 支柱間隔　3m | m | 75 |
| | 門　　型 | 支柱間隔　3m | m | 95 |

表6．3

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| コンクリート建込 | ビーム式 | 支柱間隔　1m | m | 55 |
| | | 支柱間隔　1.5m | m | 70 |
| | ビーム式<br>・<br>パネル式 | 支柱間隔　2m | m | 100 |
| | | 支柱間隔　3m | m | 140 |
| | 門　　型 | 支柱間隔　3m | m | 175 |

表6．4

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| アンカーボルト<br>固定 | ビーム式 | 支柱間隔　1m | m | 30 |
| | | 支柱間隔　1.5m | m | 45 |
| | ビーム式<br>・<br>パネル式 | 支柱間隔　2m | m | 60 |
| | | 支柱間隔　3m | m | 80 |

表6．5

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 部材設置 | ビーム設置 | 支柱間隔　1m | m | 50 |
| | | 支柱間隔　1.5m | m | 65 |
| | ビームまたはパネルの設置 | 支柱間隔　2m | m | 95 |
| | | 支柱間隔　3m | m | 130 |

表6．6

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| 根巻き<br>コンクリート設置 | | 箇所 | 60 |

表6．7

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 土中建込撤去 | ビーム式 | 支柱間隔　1m | m | 105 |
| | | 支柱間隔　1.5m | m | 145 |
| | ビーム式<br>・<br>パネル式 | 支柱間隔　2m | m | 195 |
| | | 支柱間隔　3m | m | 275 |

表6．8

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| プレキャスト<br>コンクリート<br>ブロック<br>建込撤去 | ビーム式 | 支柱間隔　1m | m | 45 |
| | | 支柱間隔　1.5m | m | 70 |
| | ビーム式<br>・<br>パネル式 | 支柱間隔　2m | m | 100 |
| | | 支柱間隔　3m | m | 145 |
| | 門　　型 | 支柱間隔　3m | m | 180 |

表6．9

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| コンクリート<br>建込撤去 | ビーム式 | 支柱間隔　1m | m | 100 |
| | | 支柱間隔　1.5m | m | 135 |
| | ビーム式<br>・<br>パネル式 | 支柱間隔　2m | m | 190 |
| | | 支柱間隔　3m | m | 270 |
| | 門　　型 | 支柱間隔　3m | m | 340 |

表6．10

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| アンカーボルト<br>固定撤去 | ビーム式 | 支柱間隔　1m | m | 55 |
| | | 支柱間隔　1.5m | m | 80 |
| | ビーム式<br>・<br>パネル式 | 支柱間隔　2m | m | 110 |
| | | 支柱間隔　3m | m | 160 |

表6．11

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 部材撤去 | ビーム撤去 | 支柱間隔　1m | m | 95 |
| | | 支柱間隔　1.5m | m | 125 |
| | ビームまたは<br>パネルの撤去 | 支柱間隔　2m | m | 185 |
| | | 支柱間隔　3m | m | 250 |

## 7. 防護柵設置工(落石防護柵)

**表7.1 落石防護柵 (ロープ・金網設置工 間隔保持材付き)**

| 区　　分 | 規格・仕様 | 単位 | 施工数量 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 設置 | 撤去 |
| 柵高 1.50m | ロープ本数 5本 | m | 20 | 40 |
| 柵高 2.00m | ロープ本数 7本 | m | 15 | 30 |
| 柵高 2.50m | ロープ本数 8本 | m | 10 | 20 |
| 柵高 3.00m | ロープ本数 10本 | m | 9 | 18 |
| 柵高 3.50m | ロープ本数 12本 | m | 8 | 16 |
| 柵高 4.00m | ロープ本数 13本 | m | 6 | 12 |

**表7.2 耐雪型落石防護柵 (ロープ・金網設置工 上弦材付き)**

| 区　　分 | 規格・仕様 | 単位 | 施工数量 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 設置 | 撤去 |
| 柵高 1.50m | ロープ本数 5本 | m | 15 | 30 |
| 柵高 2.00m | ロープ本数 7本 | m | 12 | 24 |
| 柵高 2.50m | ロープ本数 8本 | m | 8 | 16 |
| 柵高 3.00m | ロープ本数 10本 | m | 7 | 14 |

**表7.3 ステーロープ設置工**

| 区　　分 | 規格・仕様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| ステーロープ | 岩盤用アンカー込み | 本 | 15 |

## 8. 防護柵設置工 （落石防止網）

**表8．1 金網･ロープ設置**

| 規格・仕様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|
| 亜鉛メッキ３，４種（Ｚ－ＧＳ３，４） 線径 2.6㎜ | ㎡ | 130 |
| 亜鉛メッキ３，４種（Ｚ－ＧＳ３，４） 線径 3.2㎜ | ㎡ | 110 |
| 亜鉛メッキ３，４種（Ｚ－ＧＳ３，４） 線径 4.0㎜ | ㎡ | 90 |
| 亜鉛メッキ３，４種（Ｚ－ＧＳ３，４） 線径 5.0㎜ | ㎡ | 75 |

**表8．2 アンカー設置**

| 規格・仕様 | | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 岩 盤 用 | Ｄ 22㎜ × 長 1,000㎜ | | 箇所 | 15 |
| | Ｄ 25㎜ × 長 1,000㎜ | | 箇所 | |
| | Ｄ 29㎜ × 長 1,000㎜ | | 箇所 | |
| | Ｄ 32㎜ × 長 1,000㎜ | | 箇所 | |
| 土 中 用 | 羽根付アンカー | 径 25㎜×長 1,500㎜ | 箇所 | 18 |
| | 高耐力アンカー（プレート羽付） | アンカー有効長 1,500㎜ | 箇所 | 6 |
| | | アンカー有効長 2,000㎜ | 箇所 | |
| | 高耐力アンカー（溝形鋼羽付） | アンカー有効長 1,500㎜ | 箇所 | 4 |
| | | アンカー有効長 2,000㎜ | 箇所 | |

**表8．3 支柱設置**

| 規格・仕様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| ポケット式支柱（アンカー固定式） | 支柱高 2.0m | 箇所 | 6 |
| | 支柱高 2.5m | 箇所 | |
| | 支柱高 3.0m | 箇所 | |
| | 支柱高 3.5m | 箇所 | |
| | 支柱高 4.0m | 箇所 | |

## 9. 法　面　工

表9．1

| 区　分 | 規格・仕様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| モルタル吹付工 | 厚 5 cm | ㎡ | 120 |
| | 厚 6 cm | ㎡ | |
| | 厚 7 cm | ㎡ | |
| | 厚 8 cm | ㎡ | 100 |
| | 厚 9 cm | ㎡ | |
| | 厚 10 cm | ㎡ | |

表9．2

| 区　分 | 規格・仕様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| コンクリート吹付工 | 厚 10 cm | ㎡ | 100 |
| | 厚 15 cm | ㎡ | 60 |
| | 厚 20 cm | ㎡ | 50 |

表9．3

| 区　分 | 規格・仕様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| 植生基材吹付工 | 厚 3 cm | ㎡ | 140 |
| | 厚 4 cm | ㎡ | |
| | 厚 5 cm | ㎡ | |
| | 厚 6 cm | ㎡ | 110 |
| | 厚 7 cm | ㎡ | |
| | 厚 8 cm | ㎡ | |
| | 厚 10 cm | ㎡ | 100 |
| 客土吹付工 | 厚 1 cm | ㎡ | 400 |
| | 厚 2 cm | ㎡ | |
| | 厚 3 cm | ㎡ | |
| 種子散布工 | － | ㎡ | 1,100 |

表9．4

| 区　分 | 規格・仕様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 植生マット工 | 肥料袋付 | | ㎡ | 200 |
| 植生シート工 | 肥料袋無 | 標準品 | ㎡ | 250 |
| | | 特殊品 | ㎡ | |
| 植生筋工 | 人工筋芝(種子帯) | | ㎡ | 100 |
| 筋芝工 | 野芝・高麗芝 | | ㎡ | 90 |
| 張芝工 | 野芝・高麗芝（全面張） | | ㎡ | 300 |

表9．5

| 区　分 | 規格・仕様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| 繊維ネット工 | 肥料袋無 | ㎡ | 250 |
| | 肥料袋付 | ㎡ | 200 |

## 10. 吹 付 枠 工

表 10. 1

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| 吹付枠工<br>(モルタル・<br>コンクリート) | 梁断面　150×150 | m | 98 |
| | 梁断面　200×200 | m | 77 |
| | 梁断面　300×300 | m | 51 |
| | 梁断面　400×400 | m | 30 |
| | 梁断面　500×500 | m | 26 |
| | 梁断面　600×600 | m | 20 |

表 10. 2

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| ラ　ス　張　工 | 法面清掃及びラス・アンカーピン設置 | ㎡ | 140 |

## 11. 道 路 植 栽 工

**表 11. 1 植樹工**

| 区 分 | | 規格・仕様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 植樹工 | 低木 | 樹 高 60 cm未満 | 本 | 1,000 |
| | 中木 | 樹 高 60 cm以上 100 cm未満 | 本 | 440 |
| | | 樹 高 100 cm以上 200 cm未満 | 本 | 120 |
| | | 樹 高 200 cm以上 300 cm未満 | 本 | 60 |
| | 高木 | 幹 周 20 cm未満 | 本 | 30 |
| | | 幹 周 20 cm以上 40 cm未満 | 本 | 20 |
| | | 幹 周 40 cm以上 60 cm未満 | 本 | 10 |
| | | 幹 周 60 cm以上 90 cm未満 | 本 | 6 |

**表 11. 2 支柱設置**

| 区 分 | | 規格・仕様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 支柱設置 | 中木 | 二脚鳥居 添木付<br>樹 高 250 cm以上 | 本 | 60 |
| | | 八ッ掛 (竹)<br>樹 高 100 cm以上 | 本 | 110 |
| | | 布 掛 (竹)<br>樹 高 100 cm以上 | m | 180 |
| | | 添柱形 (1本形・竹)<br>樹 高 100 cm以上 | 本 | 200 |
| | | 生垣形<br>樹 高 100 cm以上 | m | 130 |
| | 高木 | 二脚鳥居 添木付<br>幹 周 30 cm未満 | 本 | 60 |
| | | 二脚鳥居 添木無<br>幹周 30 cm以上 40 cm未満 | 本 | 110 |
| | | 三脚鳥居<br>幹周 30 cm以上 60 cm未満 | 本 | 100 |
| | | 十字鳥居<br>幹 周 30 cm以上 | 本 | 40 |
| | | 二脚鳥居組合せ<br>幹 周 50 cm以上 | 本 | 45 |
| | | 八ッ掛<br>幹 周 40 cm未満 | 本 | 35 |
| | | 八ッ掛<br>幹 周 40 cm以上 | 本 | 35 |

**表 11. 3 支柱撤去**

| 区 分 | | 規 格 ・ 仕 様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 支柱撤去 | 中木 | 二脚鳥居, 添木付, 八ッ掛 (竹), 添柱形(1本形・竹) | 本 | 450 |
| | | 布掛 (竹), 生垣形 | m | 450 |
| | 高木 | 各種 | 本 | 200 |

**表 11. 4 地被類植付工**

| 区 分 | 規格・仕様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| 地被類植付工 | 各 種 | 鉢 | 3,500 |

表 11．5 植樹管理 （せん定）

| 区　分 | | 規格・仕様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|---|
| 植樹管理せん定 | 高木 | 夏期せん定 | 幹周 60cm未満 | 本 | 90 |
| | | | 幹周 60cm以上 120cm未満 | 本 | 30 |
| | | 冬期せん定 | 幹周 60cm未満 | 本 | 80 |
| | | | 幹周 60cm以上 120cm未満 | 本 | 30 |

表 11．6 植樹管理 （せん定）

| 区　分 | | 規格・仕様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|---|
| 植樹管理せん定 | 低木・中木 | 球形 | 樹高 100cm未満 | 本 | 430 |
| | | | 樹高 100cm以上 200 cm未満 | 本 | 120 |
| | | | 樹高 200cm以上 300 cm未満 | 本 | 45 |
| | | 円筒形 | 樹高 100 cm未満 | 本 | 1,000 |
| | | | 樹高 100cm以上 200 cm未満 | 本 | 290 |
| | | | 樹高 200cm以上 300 cm未満 | 本 | 110 |
| | 寄植 | 低木 | | ㎡ | 1,000 |
| | | 中木 | | ㎡ | 700 |

（注） せん定枝焼却については施工数量を定めていない。

表 11．7 植樹管理（施肥，除草，芝刈，灌水）

| 区　分 | | 規格・仕様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|---|
| 植樹管理せん定 | 施肥 | 高木 | | 本 | 200 |
| | | 中木，低木 | | 本 | 600 |
| | | 寄植 | | ㎡ | 2,000 |
| | | 芝 | | ㎡ | 5,000 |
| | 除草 | 除根除草 | 植込み地 | ㎡ | 500 |
| | | | 芝　生 | ㎡ | 350 |
| | 芝刈 | 芝刈 | | ㎡ | 800 |
| | 灌水 | トラック使用 | | ㎡ | 1,000 |
| | | 散水車使用（貸与車） | | ㎡ | 5,000 |

表 11．8 植樹管理(防除)

| 区　分 | | 規格・仕様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 防除 | 低木 | 樹高 60cm未満 | 本 | 5,000 |
| | 中木 | 樹高 60cm以上 100cm未満 | 本 | 5,000 |
| | | 樹高 100cm以上 200cm未満 | 本 | 2,000 |
| | | 樹高 200cm以上 300cm未満 | 本 | 1,300 |
| | 高木 | 幹周 60cm未満 | 本 | 400 |
| | | 幹周 60cm以上 120cm未満 | 本 | 300 |
| | 寄植 | 低木 | ㎡ | 2,000 |
| | | 中木 | ㎡ | 1,000 |
| | 芝 | | ㎡ | 6,000 |

表 11．9 移植工 （掘取工）

| 区　分 | | 規格・仕様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 移植工（掘取工） | 低木 | 樹高 60 cm未満 | 本 | 400 |
| | 中木 | 樹高 60 cm以上 100 cm未満 | 本 | 120 |
| | | 樹高 100 cm以上 200 cm未満 | 本 | 80 |
| | | 樹高 200 cm以上 300 cm未満 | 本 | 60 |
| | 高木 | 幹周 30 cm未満 | 本 | 20 |
| | | 幹周 30 cm以上 60 cm未満 | 本 | 5 |
| | | 幹周 60 cm以上 90 cm未満 | 本 | 3 |

## 12. 橋梁用伸縮継手装置設置工

表 12. 1

| 区分 | 規　格　・　仕　様 | | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|---|
| 新設 | 軽量型 | 1.8m当り50kg未満 | | m | 7.2 |
| | 普通型 | 1.8m当り 50 kg以上 180 kg以下 | | m | 7.2 |
| 補修 | 軽量型 | 1車線相当 | 1.8m当り50kg未満 | m | 3.6 |
| | | 2 車線相当 | 1.8m当り 50 kg未満 | m | 7.2 |
| | 普通型 | 1 車線相当 | 1.8m当り 50 kg以上 180 kg以下 | m | 3.6 |
| | | 2 車線相当 | 1.8m当り 50 kg以上 180 kg以下 | m | 7.2 |

## 13. 橋梁用埋設型伸縮継手装置設置工

表 13. 1

| 区分 | 規　格　・　仕　様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 新設 | 舗装厚内型 | 後付工法 | m | 7.2 |
| | 床版箱抜型 | 先付工法 | m | 7.2 |
| | | 後付工法 | m | 7.2 |
| 補修 | 舗装厚内型 | 1 車線相当 | m | 3.6 |
| | | 2 車線相当 | m | 7.2 |
| | 床版箱抜型 | 1 車線相当 | m | 3.6 |
| | | 2 車線相当 | m | 7.2 |

## 14. 薄層カラー舗装工

表 14. 1

| 区　分 | 規　格・仕　様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| 樹脂モルタル舗装工 | 厚 6㎜以下 | ㎡ | 60 |
| | 厚 6㎜超え 8㎜以下 | ㎡ | |
| | 厚 8㎜超え10㎜以下 | ㎡ | |
| 景観透水性舗装工 | 厚10㎜以下 | ㎡ | |
| | 厚10㎜超え15㎜以下 | ㎡ | |
| 樹脂系すべり止め舗装工 | ＲＰＮ-１０１ | ㎡ | 350 |
| | ＲＰＮ-１０２ | ㎡ | |
| | ＲＰＮ-１０３ | ㎡ | 200 |
| | ＲＰＮ-１０４ | ㎡ | |
| | ＲＰＮ-２０１ | ㎡ | 350 |
| | ＲＰＮ-２０２ | ㎡ | |
| | ＲＰＮ-２０３ | ㎡ | 200 |
| | ＲＰＮ-２０４ | ㎡ | |
| | ＲＰＮ-３０１ | ㎡ | 250 |
| | ＲＰＮ-３０２ | ㎡ | |
| | ＲＰＮ-３０３ | ㎡ | 150 |
| | ＲＰＮ-３０４ | ㎡ | |
| | ＲＰＮ-４０１ | ㎡ | 120 |
| | ＲＰＮ-４０２ | ㎡ | |
| | ＲＰＮ-５０１ | ㎡ | 150 |
| | ＲＰＮ-５０２ | ㎡ | |
| | ＲＰＮ-６０１ | ㎡ | 160 |
| | ＲＰＮ-６０２ | ㎡ | 120 |

## 15. 道路標識設置工

**表 15.1 標識柱設置（路側式〔単柱式〕）**

| 区　分 | 規　格　・　仕　様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 路側式<br>単柱式<br>基礎含む<br>標識板<br>設置除く | メッキ品 | 柱径φ60.5 | 基 | 20 |
| | | φ76.3 | 基 | |
| | | φ89.1 | 基 | |
| | | φ101.6 | 基 | |
| | 下地亜鉛メッキ＋静電粉体塗装 | 柱径φ60.5 | 基 | |
| | | φ76.3 | 基 | |
| | | φ89.1 | 基 | |
| | 静電粉体塗装 | 柱径φ60.5 | 基 | |
| | | φ76.3 | 基 | |
| | | φ89.1 | 基 | |

**表 15.2 標識柱設置（路側式〔複柱式〕）**

| 区　分 | 規　格　・　仕　様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 路側式<br>複柱式<br>基礎含む<br>標識板<br>設置除く | メッキ品 | 柱径φ60.5 | 基 | 15 |
| | | φ76.3 | 基 | |
| | | φ89.1 | 基 | |
| | | φ101.6 | 基 | |
| | 下地亜鉛メッキ＋静電粉体塗装 | 柱径φ60.5 | 基 | |
| | | φ76.3 | 基 | |
| | | φ89.1 | 基 | |
| | 静電粉体塗装 | 柱径φ60.5 | 基 | |
| | | φ76.3 | 基 | |
| | | φ89.1 | 基 | |

**表 15.3 標識柱設置（片持式）**

| 区　分 | 規　格　・　仕　様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 標識柱設置<br>片持式<br>基礎別途 | 1基当り総質量 | 400 kg未満 | 基 | 6 |
| | | 400 kg以上 | 基 | 4 |

**表 15.4 標識柱設置（門型式）**

| 区　分 | 規　格　・　仕　様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 標識柱設置<br>門型式<br>基礎別途 | 1スパンの長さ | 10m未満 | 基 | 1 |
| | | 10m以上 20m未満 | 基 | |
| | | 20m以上 | 基 | |

**表 15.5 標識板設置 （案内標識 ［路線番号除く］）**

| 区　分 | 規　格　・　仕　様 | | | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 標識板設置<br>(案内標識)<br>路線番号は<br>除く | 路側式<br>片持式<br>門型式<br>添架式<br>取付金具(クランプ型<br>ブラケットを除く)を含む | 広角プリズム | 1枚当り面積 | 2.0㎡未満 | ㎡ | 25 |
| | | | | 2.0 ㎡以上 | ㎡ | |
| | | カプセルプリズム<br>カプセルレンズ | | 2.0 ㎡未満 | ㎡ | |
| | | | | 2.0 ㎡以上 | ㎡ | |
| | | 封入プリズム・封入レンズ | | 2.0 ㎡未満 | ㎡ | |
| | | | | 2.0 ㎡以上 | ㎡ | |

**表 15.6 標識板設置 （警戒･規制･指示･路線番号標識）**

| 区　分 | 規　格　・　仕　様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 標識板設置 | 警戒・規制・指示・<br>路線番号標識 | 板の枚数，補助板の有無を問わず | 基 | 30 |

**表 15.7 添架式標識板取付金具設置**

| 区　分 | 規　格　・　仕　様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| 添架式標識板<br>取付金具設置 | 信号アーム部に取付 | 組 | 20 |
| | 照明柱・既設標識柱に取付 | 組 | 20 |
| | 歩道橋に取付 | 組 | 3 |

**表 15.8 標識基礎設置 （片持式･門型式）**

| 区　分 | 規　格　・　仕　様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎設置<br>コンクリート<br>基礎アンカー<br>ボルトの設置<br>含む | 標識柱1基当りの<br>基礎コンクリート容量 | 4.0㎥未満 | 基 | 0.125 |
| | | 4.0 ㎥以上 6.0 ㎥未満 | 基 | |
| | | 6.0 ㎥以上 | 基 | |

**表 15.9 標識柱･基礎撤去 （路側式 〔単柱式･複柱式〕）**

| 区　分 | 規　格　・　仕　様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 路側式 | 単柱式(基礎含む) | 柱径φ60.5，φ76.3，φ89.1，φ101.6 | 基 | 40 |
| | 複柱式(基礎含む) | 柱径φ60.5，φ76.3，φ89.1，φ101.6 | 基 | 30 |

**表 15.10 標識柱撤去 （片持式･門型式）**

| 区　分 | 規　格　・　仕　様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 片持式 | 1基当りの総質量<br>(支柱のみ) | 400kg未満 | 基 | 12 |
| | | 400 kg以上 | 基 | 9 |
| 門型式 | 1スパン当りの長さ<br>(支柱のみ) | 10m未満 | 基 | 2 |
| | | 10m以上 20m未満 | 基 | |
| | | 20m以上 | 基 | |

**表 15.11 標識板撤去 （路側式，片持式･門型式）**

| 区　　分 | | 規　格　・　仕　様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|---|
| 標識板撤去<br>（添架式は除く） | 案内標識以外 | 路側式（警戒・規制・指示・路線番号標識） | | 基 | 60 |
| | 案内標識<br>（片持式･門型式） | 1枚当りの面積 | 2.0 ㎡未満 | ㎡ | 50.0 |
| | | | 2.0 ㎡以上 | ㎡ | |

**表 15.12 標識板撤去 （添架式標識板）**

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| 標識板撤去<br>添架式標識板<br>取付金具撤去含む | 信号アーム部 | 組 | 20 |
| | 照明柱・既製標識柱 | 組 | |
| | 歩道橋 | 組 | 3 |

**表 15.13 基礎 （コンクリート基礎） 撤去**

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| 基礎撤去 | コンクリート基礎 | 基 | 0.5 |

## 16. 道路付属物工

表 16.1 視線誘導標設置

| 区分 | | 規格・仕様 | | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 視線誘導標設置 | 土中建込用 | 両面反射 | 反射体径φ100以下 | 支柱径φ34 | 本 | 40 |
| | | | | 支柱径φ60.5 | 本 | |
| | | | | 支柱径φ89 | 本 | |
| | | | 反射体径φ300 | 支柱径φ60.5 | 本 | |
| | | 片面反射 | 反射体径φ100以下 | 支柱径φ34 | 本 | |
| | | | | 支柱径φ60.5 | 本 | |
| | | | | 支柱径φ89 | 本 | |
| | | | 反射体径φ300 | 支柱径φ60.5 | 本 | |
| | コンクリート建込用（穿孔含む） | 両面反射 | 反射体径φ100以下 | 支柱径φ34 | 本 | 25 |
| | | | | 支柱径φ60.5 | 本 | |
| | | | | 支柱径φ89 | 本 | |
| | | | 反射体径φ300 | 支柱径φ60.5 | 本 | |
| | | 片面反射 | 反射体径φ100以下 | 支柱径φ34 | 本 | |
| | | | | 支柱径φ60.5 | 本 | |
| | | | | 支柱径φ89 | 本 | |
| | | | 反射体径φ300 | 支柱径φ60.5 | 本 | |
| | コンクリート建込用（穿孔含まない） | 両面反射 | 反射体径φ100以下 | 支柱径φ34 | 本 | 200 |
| | | | | 支柱径φ60.5 | 本 | |
| | | | | 支柱径φ89 | 本 | |
| | | | 反射体径φ300 | 支柱径φ60.5 | 本 | |
| | | 片面反射 | 反射体径φ100以下 | 支柱径φ34 | 本 | |
| | | | | 支柱径φ60.5 | 本 | |
| | | | | 支柱径φ89 | 本 | |
| | | | 反射体径φ300 | 支柱径φ60.5 | 本 | |
| | 防護柵取付用 | 両面反射 | 反射体径φ100以下 | バンド式 | 本 | 100 |
| | | | | ボルト式 | 本 | |
| | | | | かぶせ式 | 本 | |
| | | | 反射体径φ300 | バンド式 | 本 | |
| | | 片面反射 | 反射体径φ100以下 | バンド式 | 本 | |
| | | | | ボルト式 | 本 | |
| | | | | かぶせ式 | 本 | |
| | | | 反射体径φ300 | バンド式 | 本 | |
| | 構造物取付用 | 両面反射 | 反射体径φ100以下 | 側壁用 | 本 | 40 |
| | | | | ベースプレート式 | 本 | |
| | | | 反射体径φ300 | ベースプレート式 | 本 | |
| | | 片面反射 | 反射体径φ100以下 | 側壁用 | 本 | |
| | | | | ベースプレート式 | 本 | |
| | | | 反射体径φ300 | ベースプレート式 | 本 | |

表 16.2 スノーポール併用型視線誘導標設置

| 区分 | | 規格・仕様 | | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 視線誘導標設置スノーポール併用型 | 土中建込式（２段式）（スライド式） | 両面反射 | 反射体径φ100以下 | 反射体数１個 | 本 | 40 |
| | | 片面反射 | 反射体径φ100以下 | 反射体数２個 | 本 | |
| | | | | 反射体数１個 | 本 | |
| | コンクリート建込用（穿孔含む）（２段式）（スライド式） | 両面反射 | 反射体径φ100以下 | 反射体数１個 | 本 | 25 |
| | | 片面反射 | 反射体径φ100以下 | 反射体数２個 | 本 | |
| | | | | 反射体数１個 | 本 | |
| | コンクリート建込用（穿孔含まない）（２段式）（スライド式） | 両面反射 | 反射体径φ100以下 | 反射体数１個 | 本 | 200 |
| | | 片面反射 | 反射体径φ100以下 | 反射体数２個 | 本 | |
| | | | | 反射体数１個 | 本 | |

表 16.3 境界杭設置

| 区分 | 規格・仕様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| 境界杭 | コンクリート製（根巻基礎あり） | 本 | 20 |
| | コンクリート製（根巻基礎なし） | 本 | |

**表 16. 4 道路鋲設置**

| 区分 | | 規格・仕様 | | | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 道路鋲設置 | 大型鋲<br>高さ 30 ㎜超え<br>50 ㎜以下 | 両面反射 | 穿孔式 | アルミ製 | 設置幅 30 ㎝ | 個 | 60 |
| | | | | | 設置幅 20 ㎝ | 個 | |
| | | 片面反射 | 穿孔式 | アルミ製 | 設置幅 30 ㎝ | 個 | |
| | | | | | 設置幅 20 ㎝ | 個 | |
| | 小型鋲<br>高さ 30 ㎜以下 | 両面・片面 | 穿孔式 | アルミ製 | 設置幅 15 ㎝ | 個 | 120 |
| | | | 貼付式 | 樹脂製 | 設置幅 10 ㎝ | 個 | 150 |

**表 16. 5 車線分離標設置(ラバーポール)**

| 区分 | 規格・仕様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| 車線分離標設置<br>(ラバーポール) | 可変式(穿孔式・1本脚) | 本体(柱)径φ80<br>ベース径 φ250 | 本 | 40 |
| | 着脱式(穿孔式・3本脚) | 本体(柱)径φ80<br>ベース径 φ250 | 本 | 30 |
| | 固定式(貼付式) | 本体(柱)径φ80<br>ベース径 φ250 | 本 | 80 |

**表 16. 6 境界鋲設置**

| 区分 | 規格・仕様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| 境界鋲 | 金属製 | 枚 | 150 |

**表 16. 7 道路付属物撤去**

| 区分 | 規格・仕様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| 視線誘導標撤去<br>(スノーポール併用型含む) | 土中建込用 | 本 | 100 |
| | コンクリート建込用 | 本 | 100 |
| | 防護柵取付用 | 本 | 200 |
| | 構造物取付用 | 本 | 100 |
| 境界杭撤去 | | 本 | 60 |
| 道路鋲撤去 | 穿孔式 | 個 | 120 |
| | 貼付式 | 個 | 240 |
| 車線分離標撤去<br>(ラバーポール) | 可変式(穿孔式・1本脚) | 本 | 60 |
| | 着脱式(穿孔式・3本脚) | 本 | 45 |
| | 固定式(貼付式) | 本 | 100 |
| 境界鋲撤去 | | 枚 | 300 |

## 17. 公 園 植 栽 工

**表 17. 1 植樹工**

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| 低　　木<br>(株物，一本立を含む) | 樹高　60cm未満 | 本 | 500 |
| 中　　木 | 樹高　60cm以上　100cm未満 | 本 | 330 |
| | 樹高　100cm以上　200cm未満 | 本 | 100 |
| | 樹高　200cm以上　300cm未満 | 本 | 30 |

**表 17. 2 支柱設置**

| 区　　分 | 規　　格　　・　　仕　　様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| 中　　木 | 二脚鳥居　添木付　　樹高　250cm以上 | 本 | 30 |
| | 八ツ掛　(竹)　　樹高　100cm以上 | 本 | 40 |
| | 添柱形　(1本形・竹)　樹高　100cm以上 | 本 | 200 |
| | 布掛　(竹)　　樹高　100cm以上 | m | 60 |
| | 生垣形　　樹高　100cm以上 | m | 90 |

**表 17. 3 地被類植付工**

| 区　　分 | 規格・仕様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| 地被類植付工 | 各　種 | 鉢 | 4，000 |

## 18. 軟弱地盤処理工

表 18. 1

| 区　　分 | 規　格　・　仕　様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| サンドドレーン工 | 打設長　10m未満 | m | 440 |
| | 打設長　10m以上 20m未満 | m | 390 |
| | 打設長　20m以上 35m未満 | m | 390 |
| サンドコンパクションパイル工 | 打設長　10m未満 | m | 180 |
| | 打設長　10m以上 20m未満 | m | 170 |
| | 打設長　20m以上 35m未満 | m | 170 |

## 19. 橋 面 防 水 工

表 19. 1

| 区　　分 | 規格・仕様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| シート系防水（アスファルト系） | 新　設 | ㎡ | 220 |
| | 補　修 | ㎡ | 150 |
| 塗膜系防水（アスファルト系） | 新　設 | ㎡ | 250 |
| | 補　修 | ㎡ | 170 |

## 20. グルービングエ

表 20. 1

| 区　　分 | 規格・仕様 | | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|---|
| グルービング工 | 縦方向 | 幅９㎜－深さ６㎜－間隔 60 ㎜ | ㎡ | 300 |
| | | 幅９㎜－深さ４㎜－間隔 60 ㎜ | ㎡ | 300 |
| | 横方向 | 幅９㎜－深さ６㎜－間隔 60 ㎜ | ㎡ | 150 |
| | | 幅 36 ㎜－深さ 10 ㎜（路面排水用） | m | 150 |

## 21. 鉄 筋 挿 入 工

表 21. 1

| 区　　分 | 規格・仕様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| 現場条件Ⅰ | L≦2.0m | 本 | 14 |
| | 2.0m＜L≦5.0m | 本 | 7 |
| 現場条件Ⅱ | L≦2.0m | 本 | 8 |
| | 2.0m＜L≦5.0m | 本 | 4 |
| | 削孔機械の上下移動 | 回 | 2 |
| | 仮設足場の設置・撤去 | 空 m3 | 40 |
| 現場条件Ⅲ | L≦2.0m | 本 | 8 |

## 22. コンクリート表面処理工

表 22. 1

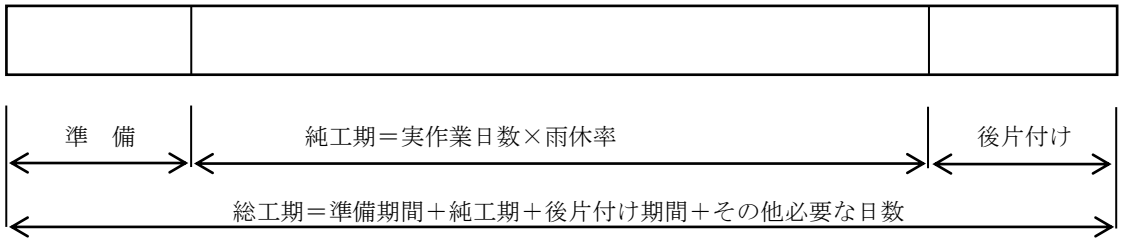
| 区　　分 | 規格・仕様 | 単位 | 施工数量 |
|---|---|---|---|
| コンクリート表面処理 | | ㎡ | 150 |

## ③ 工期日数及び水替日数

３－１　工期日数の算定（令和２年３月３１日まで適用）

（１）工期の設定

工期の設定は，４週８休（完全週休２日制）として算定する。




雨休率・・・・・・・・・・・1.8　（歴日／稼働日）
準備期間・・・・・・・・・・別表１
後片付け期間・・・・・・・・別表２

①実作業日数の算定にあたっては，各作業の工事数量を，建設工事積算基準「第Ｉ編第１４章①作業日当り標準作業量」及び「第Ｉ編第１４章②市場単価の１日当り標準施工量」等に記載されている作業日当り標準作業量で除し，雨休率を乗じて延べ日数を算出し，施工順序を考慮して算出することを標準とする。ただし，通年行うべき保守（維持）工事等は除く。

②雨休率(1.8)は，降雨降雪日（10㎜以上／日），休日（土日，祝日，年末年始（６日），夏期休暇（３日））を考慮して設定した値である。

③上記により工期設定する場合は，これまでの同種類似工事で実際にかかった工期と比べることにより，工期日数の妥当性を確認する(目安としては,実績値の－１０％以上乖離した場合に設計工程等を確認する)。別表３に過去の実績に基づく工種別の工期算定式を示す。この算定式を用いて算出した工期がこれまでの実績の平均日数であり，この日数を参考とする。

④河川，海岸，砂防，道路（舗装関係を除く）及び橋梁（上部工を除く）工事等で，対象額（直接工事費＋事業損失防止施設費）１億円未満の工事については，純工期を下記算定式により算出することができる。

純工期の算定式

$(68.6 \log P - 74.8) \times 1.1$

P:対象額（単位：万円）＝直接工事費＋事業損失防止施設費

（注）１．コンクリートを使用する工事の純工期は，最低４０日とする。

２．工期日数の１日未満は切り上げとする。

⑤工期設定にあたっては、出水期等の作業不能日数，現場状況（地元関係者や関係機関との協議状況，関連工事等の進捗状況，支障物件の移転状況）を考慮して必要な日数を見込むこと。

⑥用地等の不確定要素のあるもの、他事業関連及び工法の変更等で工期の変更が予想される場合は，当初から施工条件を明示すること。

⑦準備及び後片付け期間の設定にあたって，別表１，２に記載がない工種区分については，準備期間 40 日，後片付け期間 20 日をそれぞれ最低必要日数として工事内容等に合わせて設定すること。

別表１　準備期間

| 工種区分 | 準備期間 | 備考 |
|---|---|---|
| 河川工事 | ４０日 | |
| 河川・道路構造物工事 | ４０日 | プレテン桁を含む |
| 海岸工事 | ４０日 | |
| 道路改良工事 | ４０日 | |
| 鋼橋架設工事 | １０５日 | 照査，材料手間期間を含む |
| ＰＣ橋工事 | ７０日 | 支承製作を含む |
| 橋梁保全工事 | ６０日 | |
| 舗装工事（新設） | ５０日 | |
| 舗装工事（修繕） | ６０日 | |
| 共同溝等工事 | ８０日 | |
| トンネル工事 | ８０日 | トンネル仮設備（プラント等）設置期間は含まない |
| 砂防・地すべり等工事 | ４０日 | |
| 道路維持工事 | ５０日 | 通年維持工事は除く |
| 河川維持工事 | ４０日 | 通年維持工事は除く |
| 電線共同溝工事 | ９０日 | |

別表２　後片付け期間

| 工種区分 | 後片付け期間 | 備考 |
|---|---|---|
| 河川工事 | ２０日 | |
| 河川・道路構造物工事 | ２０日 | |
| 海岸工事 | ２０日 | |
| 道路改良工事 | ２０日 | |
| 鋼橋架設工事 | ２０日 | |
| ＰＣ橋工事 | ２０日 | |
| 橋梁保全工事 | ２０日 | |
| 舗装工事（新設） | ２０日 | |
| 舗装工事（修繕） | ２０日 | |
| 共同溝等工事 | ２０日 | |
| トンネル工事 | ３０日 | |
| 砂防・地すべり等工事 | ２０日 | |
| 道路維持工事 | ２０日 | 通年維持工事は除く |
| 河川維持工事 | ２０日 | 通年維持工事は除く |
| 電線共同溝工事 | ２０日 | |

別表３

| 工種 | A | b |
|---|---|---|
| 河川工事 | 6.5 | 0.1981 |
| 河川・道路構造物工事 | 1.0 | 0.3102 |
| 海岸工事 | 0.6 | 0.3265 |
| 道路改良工事 | 2.2 | 0.2637 |
| 鋼橋架設工事 | 4.5 | 0.2373 |
| ＰＣ橋工事 | 0.9 | 0.3154 |
| 舗装工事 | 9.9 | 0.1753 |
| 砂防・地すべり等工事 | 4.6 | 0.2263 |
| 道路維持工事 | 19.9 | 0.1422 |
| 河川維持工事 | 20.1 | 0.1436 |
| 下水道１工事 | 0.2 | 0.4044 |
| 下水道２工事 | 1.5 | 0.2817 |
| 下水道３工事 | 1.5 | 0.2934 |

【標準工期試算式（参考値）】

$T = A \times P^{b}$

Ｔ　：　総工期（準備、後片付け含む）

Ｐ　：　直接工事費（単位：円）

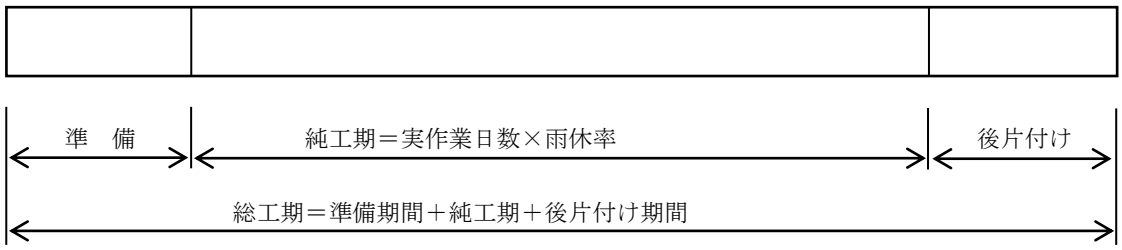
別表３及び標準工期試算式は，平成 29 年３月 31 日事務連絡「週休２日の推進に向けた適切な工期設定について」で国土交通省より参考として示されたものである。

（２）適用除外

工期の設定について，事業により別の定めがあるものについては，その方法によること。

３－１　工期日数の算定（令和２年４月１日以降適用）

工期の設定は，４週８休（週休２日制）として算定する。




雨休率・・・1.8　（歴日／稼働日）

（１）積み上げに方式よる工期設定

①原則、積み上げ方式にて工期設定を行うものとする。この場合、準備期間、後片付け期間については、別表１のとおりとする。なお、別表１に記載がない工種区分については，準備期間40日，後片付け期間20日をそれぞれ最低必要日数として工事内容等に合わせて設定すること。

②実作業日数の算定にあたっては，各作業の工事数量を，建設工事積算基準「第Ｉ編第１４章①作業日当り標準作業量」及び「第Ｉ編第１４章②市場単価の１日当り標準施工量」等に記載されている作業日当り標準作業量で除し，雨休率を乗じて延べ日数を算出し，施工順序を考慮して算出することを標準とする。ただし，通年行うべき保守（維持）工事等は除く。

③雨休率(1.8)は，降雨降雪日（10㎜以上／日），休日（土日，祝日，年末年始（６日），夏期休暇（３日））を考慮して設定した値である。

④積み上げ方式により工期設定する場合は，これまでの同種類似工事で実際にかかった工期と比べることにより，工期日数の妥当性を確認する（目安としては，実績値の－１０％以上乖離した場合に設計工程等を確認する)。下記の標準工期試算式（参考値）を用いて算出した工期がこれまでの実績の平均日数であり，この日数を参考とする。

【標準工期試算式（参考値)】

$T = A \times P^{b}$

Ｔ：　総工期（準備、後片付け含む）

Ｐ：　直接工事費（単位：円）

Ａ，ｂ：　係数（別表２）

（２）簡便式による工期設定

①直接工事費が１億円未満の工事については，総工期を下記算定式により算出することができる。

総工期の算定式

$T = A \times P^{b} \times 1.21$

Ｔ：　総工期（準備、後片付け含む）

Ｐ：　直接工事費（単位：円）

Ａ，ｂ：　係数（別表２）

（３）工期算定における留意事項

①工期設定にあたっては、出水期等の作業不能日数，現場状況（地元関係者や関係機関との協議状況，関連工事等の進捗状況，支障物件の移転状況）を考慮して必要な日数を見込むこと。

②工期の設定について，事業により別の定めがあるものについては，その方法によること。

③コンクリートを使用する工事の純工期は，最低４０日とする。

④工期日数の１日未満は切り上げとする。

別表１　準備・後片付け期間

| 工種区分 | 準備期間 | | 後片付け期間 | |
|---|---|---|---|---|
| | 日数 | 備考 | 日数 | 備考 |
| 河川工事 | ４０日 | | ２０日 | |
| 河川・道路構造物工事 | ４０日 | プレテン桁を含む | ２０日 | |
| 海岸工事 | ４０日 | | ２０日 | |
| 道路改良工事 | ４０日 | | ２０日 | |
| 鋼橋架設工事 | １０５日 | 照査，材料手間期間を含む | ２０日 | |
| ＰＣ橋工事 | ７０日 | 支承製作を含む | ２０日 | |
| 橋梁保全工事 | ６０日 | | ２０日 | |
| 舗装工事（新設） | ５０日 | | ２０日 | |
| 舗装工事（修繕） | ６０日 | | ２０日 | |
| 共同溝等工事 | ８０日 | | ２０日 | |
| トンネル工事 | ８０日 | トンネル仮設備(プラント等)設置期間は含まない | ３０日 | |
| 砂防・地すべり等工事 | ４０日 | | ２０日 | |
| 道路維持工事 | ５０日 | 通年維持工事は除く | ２０日 | 通年維持工事は除く |
| 河川維持工事 | ４０日 | 通年維持工事は除く | ２０日 | 通年維持工事は除く |
| 電線共同溝工事 | ９０日 | | ２０日 | |

別表２

| 工種 | A | b |
|---|---|---|
| 河川工事 | 6.5 | 0.1981 |
| 河川・道路構造物工事 | 1.0 | 0.3102 |
| 海岸工事 | 0.6 | 0.3265 |
| 道路改良工事 | 2.2 | 0.2637 |
| 鋼橋架設工事 | 4.5 | 0.2373 |
| ＰＣ橋工事 | 0.9 | 0.3154 |
| 舗装工事 | 9.9 | 0.1753 |
| 砂防・地すべり等工事 | 4.6 | 0.2263 |
| 道路維持工事 | 19.9 | 0.1422 |
| 河川維持工事 | 20.1 | 0.1436 |
| 下水道１工事 | 0.2 | 0.4044 |
| 下水道２工事 | 1.5 | 0.2817 |
| 下水道３工事 | 1.5 | 0.2934 |

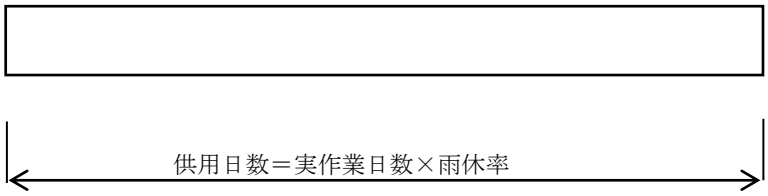
３－２　水替日数の算定

排水期間中のポンプの運転日数（水替日数）は，工事の規模，現場の状況などから，積み上げて算出するものとする。

ただし，水替日数について，別に定めのある事業については，その定めによるものとする。

３－３　供用日数の算定

供用日当たりで計上する仮設材賃料・器材損料及び建設機械賃料等の積算に当たっては，下記によるものとする。




雨休率・・・・・・・・・・・・1.8　（歴日／稼働日）

令和元年度建設工事積算基準

# 第15章　請負工事機械経費積算要領

①請負工事機械経費積算要領・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-15-①- 1
　１－１　請負工事機械経費積算要領・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-15-①- 1
　１－２　建設機械損料の算定について・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-15-①- 1
　１－３　建設機械損料の補正・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-15-①- 1
　１－４　低騒音型・低振動型建設機械の取扱い・・・・・・・・・・・・Ⅰ-15-①- 4
　１－５　建設機械等損料表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-15-①- 5
②建設用仮設材損料算定基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-15-②- 1
　２－１　建設用仮設材損料算定基準・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-15-②- 1
　２－２　建設用仮設材損料算定表・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-15-②- 1
　２－３　仮設材（仮排水路）損料率の取扱いについて・・・・・・・・・Ⅰ-15-②- 1
③ダム施工機械等損料算定基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-15-③- 1
　３－１　ダム施工機械等損料算定基準・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-15-③- 1
　３－２　ダム施工機械等損料算定基準の取扱いについて・・・・・・・・Ⅰ-15-③- 1
④建設機械等賃料積算基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-15-④- 1
　４－１　建設機械等賃料積算基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-15-④- 1
　４－２　建設機械等賃料積算基準の扱いについて・・・・・・・・・・・Ⅰ-15-④- 1
　４－３　建設機械賃料について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-15-④- 1
⑤建設用仮設材賃料積算基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-15-⑤- 1
　５－１　建設用仮設材賃料積算基準・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-15-⑤- 1
　５－２　建設用仮設材賃料積算基準の運用について・・・・・・・・・・Ⅰ-15-⑤- 1
⑥橋梁架設用仮設備機械等損料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-15-⑥- 1

令和元年度建設工事積算基準

# 第 15 章　請負工事機械経費積算要領

## ①　請負工事機械経費積算要領

１－１　請負工事機械経費積算要領

「令和元年度版建設機械等損料表（(一社）日本建設機械施工協会)」参照。

１－２　建設機械損料の算定について

「令和元年度版建設機械等損料表（(一社）日本建設機械施工協会)」参照。

１－３　建設機械損料の補正

１－３－１　交替制作業の損料補正

機械損料が運転日単位又は供用日単一の単位で定められている機械を、二交替制作業又は三交替制作業もしくはこれらに準ずる作業（１日の通常の使用時間を超えて長時間使用する作業）に使用するときは、下記により補正してもよい。

(1)　運転日単位の機械

| | 12＜Ｔ≦18 | 18＜Ｔ≦24 |
|---|---|---|
| 運転１日当り損料 | 50%増 | 100%増 |

(注）補正は、運転日当たり（損料表(9)欄）損料のみ行う。

(2)　供用日単一の単位の機械

| | 12＜Ｔ≦18 | 18＜Ｔ≦24 |
|---|---|---|
| 供用１日当り損料 | 25%増 | 50%増 |

ただし、Ｔ：運転日１日当たり運転時間(h)

１－３－２　交替制作業の損料補正の対象外機械

次表に示す機械は、特定作業専用機械（損料が交替制作業として体系付けられている）及び設置状態の機器（交替制作業であっても損耗、修理の度合に変化がない）であり、交替制作業の損料補正は行わないものとするが、次表に示されている機械の内で、機械損料が運転時間単位で定められている機械については、１日の運転時間を算出し、１日の運転時間を供用日当たり運転時間に換算した時間が損料表上の供用日当り運転時間に比べて著しく相違する場合（±20%を超える）は損料を補正する。

請負工事機械経費積算要領に示す、交替制作業による補正の対象としない機器は次のとおりとする。
(1)　トンネル工事及びニューマチックケーソン工事等の交替制作業が標準の工事に一般的に使用される機器。
(2)　可動部が少なく、通常定置状態で使用される機器、ただし、作業により損耗がはげしい機器は除く。

**交替制作業による損料補正対象外機種**

| 分類 | | 機械名 |
|---|---|---|
| 04 | クレーンその他荷役機械 | クローラクレーン〔油圧駆動式ウインチ・タワー型〕、タワークレーン（中間タワー）、ジブクレーン（走行装置）、工事用リフト（二本溝リフト〔中間ガイドレール〕）、工事用エレベータ（中間ポスト、扉） |
| 05 | 基礎工事用機器 | クローラ式サンドパイル打機（砂面計、施工管理計）、ニューマチックケーソン施工機器<br>地下連続壁施工機（付属機器〔スラッシュタンク、トレミー管〕） |
| 06 | せん孔機械及びトンネル工事用機械 | ドリルジャンボ、グラブホッパ、シールドマシン用機器、レッグハンマ、ドリフタ、ＮＡＴＭ用機械、濁水処理装置、ズリ鋼車、油圧転倒装置 |
| 10 | 舗装機械 | 舗装用スチールフォーム |
| 12 | 空気圧縮機及び送風機 | 遠心ファン、軸流ファン |
| 15 | 電気機器 | 変圧器、高圧気中開閉器、キュービクル式高圧受変電設備 |
| 17 | 試験測定機器 | 全機種 |
| 18 | 鋼橋・ＰＣ橋架設用仮設備機器 | ウィンチ、電気溶接機を除く全機種 |
| 20 | その他の機器 | やぐら装置、コンクリートバケット、モンケン、レール設備〔軌条、分岐線〕、ターンテーブル、水槽、工事用信号機、フロート |
| 31 | 付属作業船 | 押航土運搬船を除く全機種 |
| 32 | 作業船付属品 | 全機種 |

１－３－３　損料補正の対象外
建設工事積算基準において損料数量が指定され、供用１日当り換算値損料「(15)欄」を適用している歩掛については、補正の対象としない。

１－３－４　ポンプ式浚渫船による浚渫工の損料補正
排土作業に使用する湿地ブルドーザの供用日当り運転時間(t)の損料補正については、原則として補正しない。

１－３－５　貸与機械の取扱いについて
建設工事積算基準等を作業車の貸与で積算する場合の経費計上は当分の間下記のよること。
(1)　機械損料及び燃料消費量は、貸与作業車の値とする。
(2)　貸与作業車と歩掛で採用した標準機種の供用日当り運転時間（ｔ）の違いが±20%以上ある場合は、機械損料の補正を行う。
(3)　標準歩掛のダンプトラックに替えて、作業車を無償貸与する場合、当該機械が付属装置（クレーン、標識等）を備えていても、損料の対象は、付属装置の無い基礎価格を計上する。

１－３－６　トンネル工事対応機械（賃料）
トンネル工事対応の下記機械を使用する場合は、次表に示す数値を乗じて得た額とする。

| 機械名 | 規格 | 基礎価格に乗ずる率 | 摘要 |
|---|---|---|---|
| タイヤローラ | （トンネル対応工事）<br>排出ガス対策型<br>８～２０ｔ | 1.20 | 賃料 |

1－3－7　トンネル工事用機械の損料

下記トンネル工事用機械を使用する場合の損料は、次表により算出する。

**トンネル工事用機械損料算定表**

| 分類ｺｰﾄﾞ | 諸元 | 規格 機関出力 (kW) | 規格 機械質量 (t) | (1) 基礎価格 (千円) | (2) 標準使用年数 (年) | 年間標準 (3) 運転時間 (時間) | 年間標準 (4) 運転日数 (日) | 年間標準 (5) 供用日数 (日) | (6) 維持修理費率 (%) | (7) 年間管理費率 (%) | 運転1時間当り (8) 損料率 (×10⁻⁶) | 運転1時間当り (9) 損料額 (円) | 供用1日当り (10) 損料率 (×10⁻⁶) | 供用1日当り (11) 損料額 (円) | 運転1時間当り換算値 (12) 損料率 (×10⁻⁶) | 運転1時間当り換算値 (13) 損料額 (円) | 供用1日当り換算値 (14) 損料率 (×10⁻⁶) | 供用1日当り換算値 (15) 損料額 (円) | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 防水工作業台車(L=4.5m) | R=2.0m | 3.0 | 1.6 | (1m当り) 1,440 | | | | | | | | | | | | | | | 台車長L=4.5mに適用。(小断面ﾄﾝﾈﾙ工(NATM)) |
| | R=2.5m | 3.0 | 1.8 | 1,540 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=3.0m | 3.0 | 1.9 | 1,620 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=3.5m | 3.0 | 2.0 | 1,710 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=4.0m | 3.0 | 2.2 | 1,790 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=4.5m | 3.0 | 2.3 | 1,870 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=5.0m | 3.0 | 2.6 | 2,050 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=5.5m | 3.0 | 2.9 | 2,220 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=6.0m | 3.0 | 3.2 | 2,400 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=6.5m | 3.0 | 3.6 | 2,660 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=7.0m | 3.0 | 4.3 | 3,020 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=7.5m | 3.0 | 4.8 | 3,370 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 施工1現場当り損料=(0.00014L+0.48)×P，500m未満損料=0.55×P<br>P：防水工作業台車(4.5m)の基礎価格(円)<br>L：防水施工延長(m) | | | | | | | | | | | | | | |
| 防水工作業台車(L=6.0m) | R=2.0m | 3.0 | 1.6 | (1m当り) 1,180 | | | | | | | | | | | | | | | 台車長L=6.0mに適用。(ﾄﾝﾈﾙ工(NATM)) |
| | R=2.5m | 3.0 | 1.7 | 1,270 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=3.0m | 3.0 | 1.8 | 1,340 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=3.5m | 3.0 | 2.0 | 1,420 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=4.0m | 3.0 | 2.1 | 1,500 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=4.5m | 3.0 | 2.2 | 1,580 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=5.0m | 3.0 | 2.5 | 1,730 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=5.5m | 3.0 | 2.8 | 1,900 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=6.0m | 3.0 | 3.1 | 2,050 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=6.5m | 3.0 | 3.5 | 2,300 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=7.0m | 3.0 | 4.2 | 2,630 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=7.5m | 3.0 | 4.7 | 2,980 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 施工1現場当り損料=(0.00014L+0.48)×P，500m未満損料=0.55×P<br>P：防水工作業台車(6.0m)の基礎価格(円)<br>L：防水施工延長(m) | | | | | | | | | | | | | | |
| 全断面用ｽﾗｲﾄﾞｾﾝﾄﾙ(L=10.5m) | R=2.0m | 7.2 | (型枠1m当り) 4.4 | 3,950 | | | | | | | | | | | | | | | ｾﾝﾄﾙ長L=10.5mに適用。ﾚｰﾙ、枕木等を含む。(ﾄﾝﾈﾙ工(NATM))(小断面ﾄﾝﾈﾙ工(NATM))【単心円、三心円(上半単心円)に適用】 |
| | R=2.5m | 7.2 | 5.3 | 4,590 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=3.0m | 7.4 | 6.5 | 5,090 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=3.5m | 7.4 | 7.6 | 5,700 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=4.0m | 7.4 | 8.8 | 6,430 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=4.5m | 7.4 | 9.6 | 6,810 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=5.0m | 9.9 | 10.9 | 7,740 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=5.5m | 9.9 | 11.9 | 8,320 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=6.0m | 10.4 | 13.3 | 9,420 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=6.5m | 10.4 | 14.5 | 9,830 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=7.0m | 8.5 | 16.5 | 12,100 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R=7.5m | 8.5 | 18.2 | 13,000 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 施工1現場当り損料=(0.00014L+0.48)×P，500m未満損料=0.55×P<br>P：ｽﾗｲﾄﾞｾﾝﾄﾙ(10.5m)の基礎価格(円)<br>L：巻立施工延長(m) | | | | | | | | | | | | | | |

１－４　低騒音型・低振動型建設機械の取扱い

低騒音型・低振動型建設機械指定制度の取扱いについて

［管発第　２８１号
平成２年７月17日
土　木　部　長］

一部改正　平成12年６月13日
一部改正　平成25年７月12日

このことについては、平成１２年６月１３日付管発第１５４号で通知し適切に運用してきたところですが、本通知以降、省庁再編や市町村合併、騒音規制法の改正が実施されたため、別添のとおり改めて通知しますので関係職員へ周知してください。

また、県内市町村に対して別途参考送付しましたので申し添えます。

１．適用期日

平成２５年８月１日以降入札通知する工事

２．適用工事

（　１　）　国土交通省所管の補助事業に係る土木工事及び公共土木施設災害復旧事業に係る工事

（　２　）　県単独事業に係る工事

３．適用地域

指定建設機械※１を使用する地域は、各市※２が騒音規制法に基づき指定する「規制地域」とする。

なお、上記以外の地域にあっても、下記の区域は周辺地域の状況により同様に取り扱うことができる。

（　１　）　人家が連担している区域

（　２　）　学校、保健所、病院、図書館、老人ホーム等の施設の周辺等、特に静穏が必要であると認められる区域。

※１　国土交通省が定めた「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規定」に基づき指定された建設機械

※２　松江市、安来市、出雲市、大田市、江津市、浜田市、益田市の７市。「規制地域」は各市ホームページ等を参照。

４．指定建設機械の種類

指定建設機械の種類は、下記ホームページに掲載されている。

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/constplan/sosei_constplan_tk_000003.html

５．指定建設機械の損料

指定建設機械を設計計上する場合は「建設工事積算基準第Ｉ編第１５章請負工事機械経費積算要領」による。

## １－５　建設機械等損料表

「令和元年度版建設機械等損料表（(一社）日本建設機械施工協会)」による。

## ②　建設用仮設材損料算定基準

２－１　建設用仮設材損料算定基準

「令和元年度版建設機械等損料表（(一社）日本建設機械施工協会)」参照。

２－２　建設用仮設材損料算定表

「令和元年度版建設機械等損料表（(一社）日本建設機械施工協会)」による。

２－３　仮設材（仮排水路）損料率の取扱いについて

仮設材（仮排水路）の選定については、現場条件（荷重条件等）によるとともに、可能な管材による経済比較により決定するものであるが、仮設材（仮排水路）の損料率については、下記によるものとする。

１．鋼製品（コルゲートパイプ等）については、「建設工事積算基準第Ⅱ編第５章①仮設工」における「鋼材」を参考にする。

２．コンクリート製品（ヒューム管等）は50%とする。

３．合成樹脂管・ホースは下表のとおりとする。

| 供用月数 | 損料率（%） |
|---|---|
| １ヶ月未満 | ３０ |
| ３ヶ月未満 | ４５ |
| ６ヶ月未満 | ５５ |
| １年未満 | ６５ |
| ２年未満 | ７５ |
| ３年未満 | ８５ |

（注）合成樹脂管・ホースとは、塩化ビニルホース及び高密度ポリエチレン管をいう。

## ③　ダム施工機械等損料算定基準

３－１　ダム施工機械等損料算定基準

「令和元年度版建設機械等損料表（(一社）日本建設機械施工協会)」参照。

３－２　ダム施工機械等損料算定基準の取扱いについて

「令和元年度版建設機械等損料表（(一社）日本建設機械施工協会)」参照。

## ④　建設機械等賃料積算基準

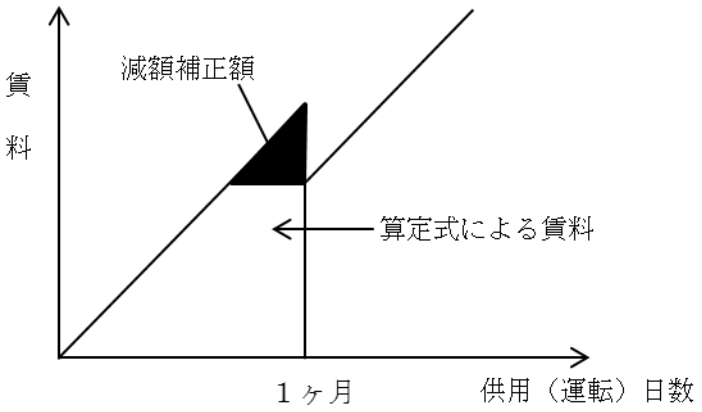
４－１　建設機械等賃料積算基準

「令和元年度版建設機械等損料表（(一社）日本建設機械施工協会)」参照。

４－２　建設機械等賃料積算基準の扱いについて

１．長期の貸借に係る割引が設定されている機種の賃料については、割引賃料が適用される時点（以下「割引時点」という）よりも短い時点における賃料計上に際しては、割引時点の賃料計上額を上限として計上すること。

なお、長期の貸借に係る割引が役定されている機種の賃料に係る賃料の補正については、次の方法により行うものとする。




４－３　建設機械賃料について

機械賃料の条件は下記のとおりとする。

１．トラッククレーン、ラフテレーンクレーン

①オペレータ費用、燃料費、油脂費を含む。

②運搬費、回走費、組立・解体費は含まない。

２．クローラクレーン

①オペレータ費用を含む。

②燃料費、油脂類は含まない。

③運搬費、回走費、組立・解体費は含まない。

３．その他の機械

①オペレータ費用、燃料費、油脂類を含まない。

②運搬費、回走費、組立・解体費は含まない。

４．単価の適用

賃料については、長期割引単価（賃貸期間が１ヶ月以上となる場合の長期割引率を適用した単価）を一律適用する。

なお、以下に示す機械賃料について、契約期間内に受注者から通常単価（長期割引率を適用しない単価）の適用について請求があった場合に、受発注者間の協議において、建設機械が１ヶ月未満の短期利用となることが確認され、かつ積算額と実際にかかる費用に乖離があることが認められる場合、通常単価により設計変更する。

①　トラッククレーン

②　ラフテレーンクレーン

５．夜間割増

自走式クレーンを夜間作業で使用する場合の夜間割増率は、30％とする。

## ⑤　建設用仮設材賃料積算基準

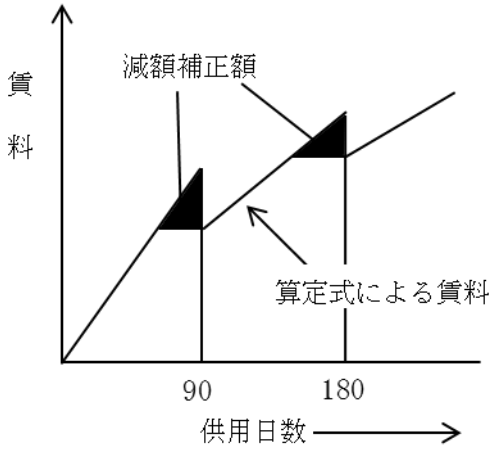
５－１　建設用仮設材賃料積算基準

「令和元年度版建設機械等損料表（(一社）日本建設機械施工協会)」参照。

５－２　建設用仮設材賃料積算基準の運用について

１．適用区分による賃料の補正

供用日数（または月数）の長短による賃料に係る市場単価の適用区分が変わることによって賃料計上額（１現場あたり修理費及び損耗費または１現場あたり整備費等を除く。）が当該日数（または月数）の増加に比例せず減少する場合がある。従って、減少する時点までの供用日数（または月数）における賃料計上額（１現場あたり修理費及び損耗費または１現場あたり整備費等を除く。）は、その減少する時点における賃料計上額（１現場あたり修理費及び損耗費または１現場あたり整備費等を除く。）を上限とし、下記の方法により減額補正する。




２．賃料計上限度額

仮設材の賃料計上限度額（１現場あたり修理費及び損耗費または１現場あたり整備費等を含む。）は、当該仮設材において施工業者が入手可能な購入価格の 90%を上限とする。

３．作業区分による修理費及び損耗費の取扱い

鋼矢板又はH形鋼の１現場あたり修理費及び損耗費の作業区分は下表の参考値を標準とする。

〔参考〕

| 作業区分 | 最大N値 |
|---|---|
| 軽作業 | 20 未満 |
| 標準作業 | 20～39 |
| 重作業 | 40 以上 |

ただし、鋼矢板、H形鋼をプレボーリング等で施工する場合は１ランク下の作業区分を適用することができる。

４．スクラップ長未満の仮設材が発生した場合の取扱い

現場条件により、スクラップ長未満に切断する場合は、不足分弁償金として次式により算出する。

不足分弁償金＝（スクラップ長未満の製品重量）×（不足分弁償金に係る市場価格×90%）

５．山留主部材の副部材について

副部材の賃料（１現場あたり修理費及び損耗費を含む。）は、別表１による。

(1)副部材(A)に係る賃料計上限度額（１現場あたり修理費及び損耗費を含む。）は、基礎価格の 90%とする。

(2)副部材に係る賃料（１現場あたり修理費及び損耗費を含む。）の補正は、建設用仮設材損料算定基準及び建設用仮設材賃料積算基準に準じる。

６．簡易な整備作業について

建設用仮設材賃料積算基準の第３の２項の中の「簡易な整備作業」とは、機材の入・出庫検収作業や簡易な整備作業を含んだもので、機材使用の有無や期間の長短にかかわらず、賃貸取引市場において全部材について初回時に支払う費用にかかる作業である。

７．建設用仮設材に係る付属金属について

建設用仮設材の積算にあたっては、建設用仮設材賃料積算基準の第３の積算方法により算定するほか、建設用仮設材に係る付属金属について必要数量を勘案し別途積算するものとする。

８．組立ハウスの積算について

建設用仮設材賃料積算基準の第３の積算方法によらず賃貸取引実態を考慮し、別途積算するものとする。

別表１

| 規格 | 基礎価格 | 供用１日あたり賃料（日） | | | | | １現場あたり修理費及び損耗費 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | １～90 | 91～180 | 181～360 | 361～720 | 721 以上 | |
| | （円/ｔ） | （円/ｔ） | （円/ｔ） | （円/ｔ） | （円/ｔ） | （円/ｔ） | （円/ｔ） |
| 副部材(A) | 269,000 | 353 | 329 | 301 | 266 | 229 | 8,510 |
| 副部材(B) | － | － | － | － | － | － | 223,000 |

（備考）修理費及び損耗費は、整備費、特別ケレン・穴埋め・曲がり直し等の修理費、切断による短尺補償、打ち込みによる破損を含む。

## ⑥　橋梁架設用仮設備機械等損料

「橋梁架設工事の積算（(一社）日本建設機械施工協会)」参照。

# 第16章　積算上の統一事項等

①積算上の統一事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-16-①- 1
　１－１　生コンクリート使用の取扱いについて・・・・・・・・・・Ⅰ-16-①- 1
　１－２　コンクリートの適用区分・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-16-①- 1
　１－３　足場工・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-16-①- 1
　１－４　鋼矢板、仮橋、防護柵等仮設物件を撤去しないで次の工事に継続使用する
　　場合の取扱い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-16-①- 1
　１－５　仮設道路について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-16-①- 1
　１－６　用地境界柱の設置区分・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-16-①- 2
　１－７　アスファルト混合物使用の取扱いについて・・・・・・・・Ⅰ-16-①- 2
②労働者職種別定義・作業内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-16-②- 1

令和元年度建設工事積算基準

# 第 16 章　積算上の統一事項等

## ①　積算上の統一事項

１－１　生コンクリート使用の取扱いについて

１－１－１　運搬距離 15m以上の小運搬を必要とする場合は、小車による方法をやめ仮設道路等の方法で比較検討する。

１－１－２　容量 3.0m$^3$未満のミキサ車が搬入可能（道路全幅 3.5m未満 2.5mまで）な場合は、小型車運搬とし、小型車割増を加算する。

１－２　コンクリートの適用区分

均し基礎コンクリートは、無筋構造物を適用する。

１－３　足場工

足場工のうち、安全ネットの有無については、建設工事公衆災害防止対策要綱等によるものとする。

（参考）安全ネットの設置基準

①設置する場合：地上高４m以上の作業で、物の落下等により一般交通に影響を及ぼす可能性がある場合

②必要に応じて設置する場合：ア．地上高４m以下の作業で、物の落下等により一般交通に影響を及ぼす可能性がある場合

イ．作業現場内において、物の落下等により作業員等に影響を及ぼす可能性があり、必要と判断される場合

③不要の場合：上記以外

１－４　鋼矢板、仮橋、防護柵等仮設物件を撤去しないで次の工事に継続使用する場合の取扱い

１）年度を越えて仮設物を継続使用するような計画はできるだけさける。

２）やむを得ず仮設物を継続使用する場合は次による。

（イ）撤去費用は別途契約工事（仮設物を継続使用する工事）に計上する。

（ロ）「修理費および損耗費」は別途契約工事に計上する。

（ハ）別途契約工事の賃料は、当該工事（仮設物を設置した工事）の契約時点のものとし、撤去歩掛は別途契約工事の契約時点のものとする。

３）空白期間ができないよう配慮するものとするが、もし空白期間ができる場合は、当該期間について貸借契約を締結すること。

１－５　仮設道路について

（１）資材の搬入方法及び残土の搬出方法については、小車運搬と運搬路新設との比較検討を行い、経済的方法を採用すること。

（２）運搬路の計画については、下表を原則とする。

| 幅　員<br>車　種 | 全幅 | 車道幅<br>（路面工幅） | 車輌幅 |
|---|---|---|---|
| 大型車 | 4.00m | 3.00m | 2.50m |
| 小型車 | 3.50m | 2.50m | 2.00m |

（注）大型車とは、車幅 2.50mを有する車両を、小型車とは、車幅 2.00mを有する車輌をいう

１－６　用地境界柱の設置区分

（１）用地境界柱の設置区分

| 国土交通省型 | 島根県型 |
|---|---|
| １．河川工事<br>２．砂防工事<br>３．道路工事（国道）<br>４．地すべり防止工事 | １．道路工事（県道）<br>２．港湾工事<br>３．急傾斜地崩壊対策工事<br>４．空港工事<br>５．街路工事<br>６．下水道工事<br>７．県立公園工事 |

（２）境界杭等の設置

境界杭等の設置については、平成 17 年４月 15 日付け技第５５号による。

ただし、境界杭設置単価については、「建設工事積算基準第 15 編単価」によること。

１－７　アスファルト混合物使用の取扱いについて

１－７－１　夜間舗設（22 時～5 時）の場合は、アスファルト混合物単価に夜間割増単価を別途加算すること。

１－７－２　道路幅員が狭く大型車（10t）で搬入が困難な場合は、アスファルト混合物単価に小型車割増単価を別途加算すること。

## ②　労働者職種別定義・作業内容

| 職　　種 | 定　義　・　作　業　内　容 |
|---|---|
| 01　特　殊　作　業　員 | ①　相当程度の技能および高度の肉体的条件を有し、主として次に掲げる作業について主体的業務を行うもの<br>a.　軽機械（道路交通法第84条に規定する運転免許ならびに労働安全衛生法第61条第1項に規定する免許、資格および技能講習の修了を必要とせず、運転および操作に比較的熟練を要しないもの）を運転または操作して行う次の作業<br>イ．機械重量3t未満のブルドーザ・トラクタ（クローラ型）・バックホウ（クローラ型）・トラクタショベル（クローラ型）・レーキドーザ・タイヤドーザ等を運転または操作して行う土砂等の掘削、積込みまたは運搬<br>ロ．吊上げ重量1t未満のクローラクレーン、吊上げ重量5t未満のウインチ等を運転または操作して行う資材等の運搬<br>ハ．機械重量3t未満の振動ローラ（自走式）、ランマ、タンパ等を運転または操作して行う土砂等の締固め<br>ニ．可搬式ミキサ、バイブレータ等を運転または操作して行うコンクリートの練上げおよび打設<br>ホ．ピックブレーカ等を運転または操作して行うコンクリート、舗装等のとりこわし<br>ヘ．動力草刈機を運転または操作して行う機械除草<br>ト．ポンプ、コンプレッサ、発動発電機等の運転または操作<br>チ．コンクリートカッター、コアボーリングマシンの運転または操作<br>b.　人力による合材の敷均しおよび舗装面の仕上げ<br>c.　ダム工事において、グリズリホッパ、トリッパ付ベルトコンベア、骨材洗浄設備、振動スクリーン、二次・三次破砕設備、製砂設備、骨材運搬設備（調整ビン機械室）を運転または操作して行う骨材の製造、貯蔵または運搬<br>d.　コンクリートポンプ車の筒先作業<br>②　その他、相当程度の技能および高度の肉体的条件を有し、各種作業について必要とされる主体的業務を行うもの |
| 02　普　通　作　業　員 | ①　普通の技能および肉体的条件を有し、主として次に掲げる作業を行うもの<br>a.　人力による土砂等の掘削、積込み、運搬、敷均し等<br>b.　人力による資材等の積込み、運搬、片付け等<br>c.　人力による小規模な作業（たとえば、標識、境界ぐい等の設置）<br>d.　人力による芝はり作業（公園等の苑地を築造する工事における芝はり作業について主体的業務を行うものを除く）<br>e.　人力による除草<br>f.　ダム工事での骨材の製造、貯蔵または運搬における人力による木根、不良鉱物等の除去<br>②　その他、普通の技能および肉体的条件を有し、各種作業について必要とされる補助的業務を行うもの |
| 03　軽　作　業　員 | ①　主として人力による軽易な次の作業を行うもの<br>a.　軽易な清掃または後片付け<br>b.　公園等における草むしり<br>c.　軽易な散水<br>d.　現場内の軽易な小運搬<br>e.　準備測量、出来高管理等の手伝い<br>f.　仮設物、安全施設等の小物の設置または撤去<br>g.　品質管理のための試験等の手伝い<br>②　その他、各種作業において主として人力による軽易な補助作業を行うもの |

| 職　　種 | 定　義　・　作　業　内　容 |
|---|---|
| 04 造　園　工 | 造園工事について相当程度の技能を有し、主として次に掲げる作業について主体的業務を行うもの<br>①　樹木の植栽または維持管理<br>②　公園、庭園、緑地等の苑地を築造する工事における次の作業<br>a.　芝等の地被類の植付け<br>b.　景石の据付け<br>c.　地ごしらえ<br>d.　園路または広場の築造<br>e.　池または流れの築造<br>f.　公園設備の設置 |
| 05 法　面　工 | 法面工事について相当程度の技能および高度の肉体的条件を有し、主として次に掲げる作業について主体的業務を行うもの<br>a.　モルタルコンクリート吹付機または種子吹付機の運転<br>b.　高所・急勾配法面における、ピックハンマ、ブレーカによる法面整形または金網・鉄筋張り作業<br>c.　モルタルコンクリート吹付け、種子吹付け等の法面仕上げ |
| 06 と　び　工 | 高所・中空における作業について相当程度の技能および高度の肉体的条件を有し、主として次に掲げる作業について主体的業務を行うもの<br>a.　足場または支保工の組立、解体等（コンクリート橋または鋼橋の桁架設に係るものを除く）<br>b.　木橋の架設等<br>c.　杭、矢板等の打ち込みまたは引き抜き（杭打機の運転を除く）<br>d.　仮設用エレベーター、杭打機、ウインチ、索道等の組立、据付、解体等<br>e.　重量物（大型ブロック、大型覆工板等）の捲揚げ、据付け等（クレーンの運転を除く）<br>f.　鉄骨材の捲揚げ（クレーンの運転を除く） |
| 07 石　　工 | 石材の加工等について相当程度の技能および高度の肉体的条件を有し、主として次に掲げる作業について主体的業務を行うもの<br>a.　石材の加工<br>b.　石積みまたは石張り<br>c.　構造物表面のはつり仕上げ |
| 08 ブロック工 | ブロック工事について相当程度の技能を有し、積ブロック、張ブロック、連節ブロック、舗装用平板等の積上げ、布設等の作業について主体的業務を行うもの（48建築ブロック工に該当するものを除く） |
| 09 電　　工 | 電気工事について相当程度の技能かつ必要な資格を有し、建物ならびに屋外における、受電設備、変電設備、配電線路、電力設備、発電設備、通信設備等の工事に関する、主として次に掲げる作業について主体的業務を行うもの<br>a.　配線器具、照明器具、発電機、通信機器、盤類等の取付け、据付けまたは撤去<br>b.　電線、電線管等の取付け、据付けまたは撤去<br>（「必要な資格を有し」とは、電気工事士法第3条に規定する以下の4つの資格のいずれかの免状または認定証の交付を受けていることをいう。<br>①　第1種電気工事士<br>②　第2種電気工事士<br>③　認定電気工事従事者<br>④　特殊電気工事資格者） |
| 10 鉄　筋　工 | 鉄筋の加工組立について相当程度の技能を有し、鉄筋コンクリート工事における鉄筋の切断、屈曲、成型、組立、結束等について主体的業務を行うもの |

| 職　　種 | 定　義　・　作　業　内　容 |
|---|---|
| 11 鉄　骨　工 | 鉄骨の組立について相当程度の技能を有し、鉄塔、鉄柱、高層建築物等の建設における鉄骨の組立、H.T.ボルト締めまたは建方および建方合番（相番）作業について主体的業務を行うもの（工場製作に従事するものおよび鋼橋の桁架設における作業、鉄骨の組立に必要な足場もしくは支保工の組立、解体等または鉄骨材の捲揚げ作業に従事するものを除く） |
| 12 塗　装　工 | 塗装作業について相当程度の技能を有し、塗料、仕上塗材、塗り床等の塗装材料を用い、各種工法による塗装作業（塗装のための下地処理を含む）について主体的業務を行うもの（塗装作業上必要となる足場の組立または解体に従事するものおよび23橋りょう塗装工に該当するものを除く） |
| 13 溶　接　工 | 溶接作業について相当程度の技能を有し、酸素、アセチレンガス、水素ガス、電気その他の方法により、鋼杭、鋼矢板、鋼管、鉄筋等の溶接（ガス圧接を含む）または切断について主体的業務を行うもの（工場製作に従事するものを除く） |
| 14 運転手（特殊） | 重機械（主として道路交通法第84条に規定する大型特殊免許または労働安全衛生法第61条第1項に規定する免許、資格もしくは技能講習の修了を必要とし、運転および操作に熟練を要するもの）の運転および操作について相当程度の技能を有し、主として重機械を運転または操作して行う次に掲げる作業について主体的業務を行うもの<br>a. 機械重量3t以上のブルドーザ・トラクタ・パワーショベル・バックホウ・クラムシェル・ドラグライン・ローディングショベル・トラクタショベル・レーキドーザ・タイヤドーザ・スクレープドーザ・スクレーパ・モータスクレーパ等を運転または操作して行う土砂等の掘削、積込みまたは運搬<br>b. 吊上げ重量1t以上のクレーン装置付トラック・クローラクレーン・トラッククレーン・ホイールクレーン、吊上げ重量5t以上のウインチ等を運転または操作して行う資材等の運搬<br>c. ロードローラ、タイヤローラ、機械重量3t以上の振動ローラ（自走式）、スタビライザ、モータグレーダ等を運転または操作して行う土砂等のかきならしまたは締固め<br>d. コンクリートフィニッシャ、アスファルトフィニッシャ等を運転または操作して行う路面等の舗装<br>e. 杭打機を運転または操作して行う杭、矢板等の打込みまたは引抜き<br>f. 路面清掃車（3輪式）、除雪車等の運転または操作<br>g. コンクリートポンプ車の運転または操作（筒先作業は除く） |
| 15 運転手（一般） | 道路交通法第84条に規定する運転免許（大型免許、中型免許、普通免許等）を有し、主として機械を運転または操作して行う次に掲げる作業について主体的業務を行うもの<br>a. 資機材の運搬のための貨物自動車の運転<br>b. もっぱら路上を運行して作業を行う散水車、ガードレール清掃車等の運転<br>c. 機械重量3t未満のトラクタ（ホイール型）・トラクタショベル（ホイール型）・バックホウ（ホイール型）等を運転または操作して行う土砂等の掘削、積込みまたは運搬<br>d. 吊上げ重量1t未満のホイールクレーン・クレーン装置付トラック等を運転または操作して行う資材等の運搬<br>e. アスファルトディストリビュータを運転または操作して行う乳剤の散布<br>f. 路面清掃車（4輪式）の運転または操作 |
| 16 潜　か　ん　工 | 加圧された密室内における作業について相当程度の技能および高度の肉体的条件を有し、潜かんまたはシールド（圧気）内において土砂の掘削、運搬等の作業を行うもの |
| 17 潜かん世話役 | 加圧された密室内における作業について相当程度の技術を有し、潜かん工事またはシールド工事（圧気）についてもっぱら指導的な業務を行うもの |

| 職　　種 | 定　義　・　作　業　内　容 |
|---|---|
| 18 さ く 岩 工 | 岩掘削作業について相当程度の技能および高度の肉体的条件を有し、爆薬およびさく岩機を使用する岩石の爆破掘削作業（坑内作業を除く）について主体的業務を行うもの |
| 19 トンネル特殊工 | 坑内における作業について相当程度の技能および高度の肉体的条件を有し、トンネル等の坑内における主として次に掲げる作業について主体的業務を行うもの<br>a. ダイナマイトおよびさく岩機を使用する爆破掘削<br>b. 支保工の建込、維持、点検等<br>c. アーチ部、側壁部およびインバートのコンクリート打設等<br>d. ずり積込機、バッテリーカー、機関車等の運転等<br>e. アーチ部および側壁部型わくの組立、取付け、除去等<br>f. シールド工事（圧気を除く）における各種作業 |
| 20 トンネル作業員 | 坑内における作業について普通の技能および肉体的条件を有し、トンネル等の坑内における主として人力による次に掲げる作業を行うもの<br>a. 各種作業についての補助的業務<br>b. 人力による資材運搬等<br>c. シールド工事（圧気を除く）における各種作業についての補助的業務 |
| 21 トンネル世話役 | トンネル坑内における作業について相当程度の技術を有し、もっぱら指導的な業務を行うもの |
| 22 橋りょう特殊工 | 橋りょう関係の作業について相当程度の技能を有し、主として次に掲げる作業（工場製作に係るものおよび工場内における仮組立に係るものを除く）について主体的業務を行うもの<br>a. PC橋の製作のうち、グラウト、シースおよびケーブルの組立、緊張、横締め等<br>b. コンクリート橋または鋼橋の桁架設および桁架設用仮設備の組立、解体、移動等<br>c. コンクリート橋または鋼橋の桁架設に伴う足場、支保工等の組立、解体等 |
| 23 橋りょう塗装工 | 橋りょう等の塗装作業について相当程度の技能を有し、橋りょう、水門扉等の塗装、ケレン作業等（工場内を含む）について主体的業務を行うもの |
| 24 橋りょう世話役 | 橋りょう関係作業について相当程度の技術を有し、もっぱら指導的な業務を行うもの（工場内作業を除く） |
| 25 土木一般世話役 | 土木工事および重機械の運転または操作について相当程度の技術を有し、もっぱら指導的な業務を行うもの（17潜かん世話役、21トンネル世話役または24橋りょう世話役に該当するものを除く） |
| 26 高 級 船 員 | 海面での工事における作業船（土運船、台船等の雑船を除く）の各部門の長または統括責任者をいい、次に掲げる職名を標準とする<br>船長、機関長、操業長等（各会社が俗称として使用している水夫長、甲板長等を除く）<br><br>（以下の水面は、海面に含める（27普通船員、28潜水士、29潜水連絡員および30潜水送気員についても同様）<br>① 海岸法第3条により指定された海岸保全区域内の水面<br>② 漁港法第5条により指定された漁港の区域内の水面<br>③ 港湾法第4条により認可を受けた港湾区域内の水面） |
| 27 普 通 船 員 | 海面での工事における作業船（土運船、台船等の雑船を含む）の船員で、高級船員以外のもの |

| 職　　種 | 定　義　・　作　業　内　容 |
|---|---|
| 28 潜　水　士 | 潜水士免許を有し、海中の建設工事等のため、潜水器を用いかつ空気圧縮機による送気を受けて海面下で作業を行うもの<br><br>（ 潜水器（潜水服、靴、カブト、ホース等）の損料を含む ）<br><br>「潜水士免許」とは、労働安全衛生法第 61 条に規定する免許のことをいう |
| 29 潜水連絡員 | 潜水士との連絡等を行うもので次に掲げる業務等を行うもの<br>a. 潜水士と連絡して、潜降および浮上を適正に行わせる業務<br>b. 潜水送気員と連絡し、所要の送気を行わせる業務<br>c. 送気設備の故障等により危害のおそれがあるとき直ちに潜水士に連絡する業務 |
| 30 潜水送気員 | 潜水士への送気の調節を行うための弁またはコックを操作する業務等を行うもの |
| 31 山林砂防工 | 山林砂防工事について相当程度の技能および高度の肉体的条件を有し、山地治山砂防事業（主として山間遠かく地の急傾斜地または狭隘な谷間における作業）に従事し、主として次に掲げる作業を行うもの<br>a. 人力による崩壊地の法切、階段切付け、土石の掘削・運搬、構造物の築造等<br>b. 人力による資材の積込み、運搬、片付け等<br>c. 簡易な索道、足場等の組立、架設、撤去等<br>d. その他各作業について必要とされる関連業務 |
| 32 軌　道　工 | 軌道工事および軌道保守について相当程度の技能および高度の肉体的条件を有し、主として次に掲げる作業について主体的業務を行うもの<br>a. 軽機械（タイタンパー、ランマー、パワーレンチ等）等を使用してレールの軌間、高低、通り、平面性等を限度内に修正保守する作業<br>b. 新線建設等において、レール、枕木、バラスト等を運搬配列して、軽機械（タイタンパー、ランマー、パワーレンチ等）等を使用して軌道を構築する作業 |
| 33 型わく工 | 木工事について相当程度の技能を有し、主として次に掲げる作業について主体的業務を行うもの<br>a. 木製型わく（メタルフォームを含む）の製作、組立て、取付け、解体等（坑内作業を除く）<br>b. 木坑、木橋等の仕拵え等 |
| 34 大　　工 | 大工工事について相当程度の技能を有し、家屋等の築造、屋内における造作等の作業について主体的業務を行うもの |
| 35 左　　官 | 左官工事について相当程度の技能を有し、土、モルタル、プラスター、漆喰、人造石等の壁材料を用いての壁塗り、吹き付け等の作業について主体的業務を行うもの |
| 36 配　管　工 | 配管工事について相当程度の技能を有し、建物ならびに屋外における給排水、冷暖房、給気、給湯、換気等の設備工事に関する、主として次に掲げる作業について主体的業務を行うもの<br>a. 配管ならびに管の撤去<br>b. 金属・非金属製品（管等）の加工および装着<br>c. 電触防護 |
| 37 はつり工 | はつり作業について相当程度の技能を有し、主として次に掲げる作業について主体的業務を行うもの<br>a. コンクリート、石れんが、タイル等の建築物壁面のはつり取り（はつり仕上げを除く）<br>b. 建築物の床または壁の穴あけ |

| 職　　種 | 定　義　・　作　業　内　容 |
|---|---|
| 38 防　水　工 | 防水工事について相当程度の技能を有し、アスファルト、シート、セメント系材料、塗膜、シーリング材等による屋内、屋外、屋根または地下の床、壁等の防水作業について主体的業務を行うもの |
| 39 板　金　工 | 板金作業について相当程度の技能を有し、金属薄板の切断、屈曲、成型、接合等の加工および組立・取付作業ならびに金属薄板による屋根ふき作業について主体的業務を行うもの（46ダクト工に該当するものを除く） |
| 40 タ イ ル 工 | タイル工事について相当程度の技能を有し、外壁、内壁、床等の表面のタイル張付けまたは目地塗の作業について主体的業務を行うもの |
| 41 サ ッ シ 工 | サッシ工事について相当程度の技能を有し、金属製建具の取付作業について主体的業務を行うもの |
| 43 内　装　工 | 内装工事について相当程度の技能を有し、ビニル床タイル、ビニル床シート、カーペット、フローリング、壁紙、石こうボードその他ボード等の内装材料を床、壁もしくは天井に張り付ける作業またはブラインド、カーテンレール等を取り付ける作業について主体的業務を行うもの |
| 44 ガ ラ ス 工 | ガラス工事について相当程度の技能を有し、各種建具のガラスはめ込み作業について主体的業務を行うもの |
| 45 建　具　工 | 建具工事について相当程度の技能を有し、戸、窓、枠等の木製建具の製作・加工及び取付作業に従事するもの |
| 46 ダ ク ト 工 | ダクト工事について相当程度の技能を有し、金属・非金属の薄板を加工し、通風ダクトの製作および取付作業に従事するもの（39板金工に該当するものを除く） |
| 47 保　温　工 | 保温工事について相当程度の技能を有し、建築設備の機器、配管及びダクトに保温（保冷、防露、断熱等を含む）材を装着する作業に従事するもの |
| 49 設備機械工 | 機械設備工事について相当程度の技能を有し、冷凍機、送風機、ボイラー、ポンプ、エレベーター等の大型重量機器の据付け、調整または撤去作業について主体的業務を行うもの |
| 50 交通誘導警備員Ａ | 警備業者の警備員（警備業法第2条第4項に規定する警備員をいう）で、交通誘導警備業務（警備員等の検定等に関する規則第1条第4号に規定する交通誘導警備業務をいう）に従事する交通誘導警備業務に係る一級検定合格警備員又は二級検定合格警備員 |
| 51 交通誘導警備員Ｂ | 警備業者の警備員で、交通誘導警備員Ａ以外の交通の誘導に従事するもの |

（参考）

| 参　考　職　種 | 定　義　・　作　業　内　容 |
|---|---|
| 42 屋根ふき工 | 屋根ふき作業について相当程度の技能を有し、瓦ふき、スレートふき、土居ぶき等の屋根ふき作業またはふきかえ作業について主体的業務を行うもの（39板金工に該当するものを除く） |
| 48 建築ブロック工 | 建築ブロック工事について相当程度の技能を有し、建築物の躯体および帳壁の築造または改修のために、空洞コンクリートブロック、レンガ等の積上げおよび目地塗作業に従事するもの（08ブロック工に該当するものを除く） |

# 第Ⅱ編　共通工

第１章　土工----------Ⅱ-1
第２章　共通工----------Ⅱ-5
第３章　基礎工----------Ⅱ-9
第４章　コンクリート工----------Ⅱ-11
第５章　仮設工----------Ⅱ-13

令和元年度建設工事積算基準

# 第１章　土　工

## ［1］ 適用基準

**土木工事標準積算基準書（共通編） 第Ⅱ編 共通工**

**第1章 土工／ ①土量変化率等～⑥土砂運搬工（不整地運搬車による運搬） による。**

## ［2］ 運用基準

### ① 土量変化率等

土量の変化率について

建設工事積算基準の土量変化率を標準とするが、土質試験或いは現場実績により数値の明確なものは、その値を用いるものとする。

施工途中において上記の変化率に変化があり設計を変更するのが適当と認められる場合は、適正な資料により改定することが出来る。

転石、玉石混り土砂の変化率の決定にあたっては、転石Ｃ＝1.0 として平均変化率を算定するものとする。

岩砕と土砂を流用する工事にあっては変化率の補正を行うものとする。

### ② 土工

１．ブルドーザ作業のマスカーブについて

ブルドーザ作業歩掛は運搬距離が６０m以下の場合は、全て一律として設定しているためブルドーザのマスカーブによる距離算出は不要である。

２．数量算出要領の土工に対する運用

(1) 自立式土留工の床掘適用歩掛

| 区　分 | 掘　削　機　械 | 現　場　条　件 |
|---|---|---|
| Ａ領域 | バックホウ | 障害なし |
| Ｂ領域 | ｸﾗﾑｼｪﾙ（ﾃﾚｽｺ） | 障害なし |
| | ｸﾗﾑｼｪﾙ（ﾃﾚｽｺ）<br>+小型バックホウ | 障害有り |

（注） １．土留工の規模等によりＡ領域でバックホウが使用出来ない場合は、別途区分し、クラムシェル（ﾃﾚｽｺ）を適用する。

(2) 切梁式土留工の床掘適用歩掛

| 区　分 | 掘　削　機　械 | 現　場　条　件 |
|---|---|---|
| Ａ領域 | バックホウ | 障害なし |
| Ｂ領域 | ｸﾗﾑｼｪﾙ（ﾃﾚｽｺ） | 障害有り |
| Ｃ領域 | ｸﾗﾑｼｪﾙ（ﾃﾚｽｺ）<br>+小型バックホウ | 障害有り |
| Ｄ領域 | ｸﾗﾑｼｪﾙ（油圧ﾛｰﾌﾟ）<br>+小型バックホウ | 障害有り |

（注） １．土留工の規模等によりＡ，Ｂ領域でバックホウが使用出来ない場合は、別途区分し、クラムシェル（ﾃﾚｽｺ）を適用する。

3．床掘について

1）床掘勾配について

床掘勾配については、数量算出要領によるが、現地の状況等により、標準によりがたい場合は、労働安全衛生規則等検討し決定すること。特に切土部に設けるブロック積み、もたれ擁壁等については、山の状態をよく把握し決定すること。

2）床掘余裕幅について

床掘余裕幅については、数量算出要領による。

3）床掘（溝掘）の機種選定

バックホウ（山積 1.4m³（平積 1.0m³））……掘削積込と同時施工（施工基面より上（数量算出要領「B´」部））となる場合で対象土量が 50,000 m³以上となる場合

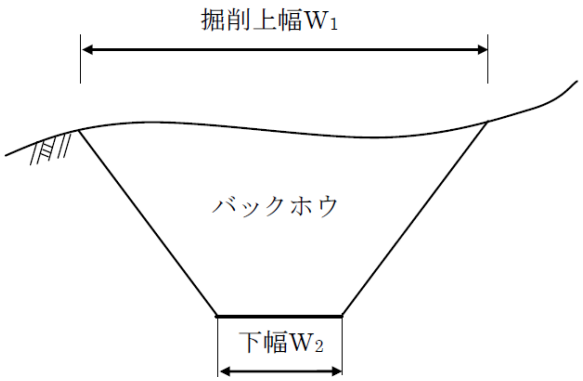
バックホウ（山積 0.8m³（平積 0.6m³））……標準

バックホウ（山積 0.45m³（平積 0.35m³））……平均掘削巾が１m以上２m未満の場合

$$(1\,\mathrm{m} \leqq \frac{W_1 + W_2}{2} < 2\,\mathrm{m})$$

バックホウ（山積 0.28m³（平積 0.2m³））……平均掘削巾が１m未満の場合

$$(\frac{W_1 + W_2}{2} < 1\,\mathrm{m})$$




4．置換工法について（路床置換は除く）

a）購入砂を使用する場合の材料割増は 23%、クラッシャーランは 20%を標準とする。

b）敷均し、締固めについては路床、路体の形態及び現場の実態に応じた方法とする。

5．ダンプトラックの運搬作業について

運搬日数におけるＤＩＤ区間有・無の適用区分については、ＤＩＤ区間を通っていれば、ＤＩＤ区間延長の大小にかかわらず「ＤＩＤ区間有」を適用する。

6．埋戻しについて

1）構造物の埋戻しにセレクト材としてクラッシャーランを使用する場合の材料割増は 20%を標準とする。

2）河川内の工事で低水路部分（護岸、橋脚等）の埋戻しのうち締固めは原則として計上しないものとする。

7．掘削について

1）掘削（軟岩で施工数量「500m³以上」または、硬岩で火薬使用「可」を選択した場合の土運搬作業の考え方。

掘削において、上記条件を選択した場合、運搬距離に応じて以下を参考とする。

（標準例）

《運搬距離 60m 以上の場合》

掘削　＋　積込（ルーズ）　＋　土砂等運搬（DT 運搬）

《運搬距離 30m 以上 60m 未満の場合》

掘削　＋　押土（ルーズ）（0～60m まで）

《運搬距離 30m 未満》

掘削（30m以内の工区内運搬含む）

## ⑤ 安定処理工

1．当工法は、舗装構成上求められる強度を満たす一工法であり、当工法採用前に他工法との経済比較等を行うこと。

1）（置換工法）＋（採取土又は購入土）との経済比較

2）1）の土捨場の有無

## ［3］ 独自基準

## な し

# 第２章　共通工

## ［1］ 適用基準

**土木工事標準積算基準書(共通編) 第Ⅱ編 共通工**

**第2章 共通工／ ①法面工～㉕殻運搬 による。**

## ［2］ 運用基準

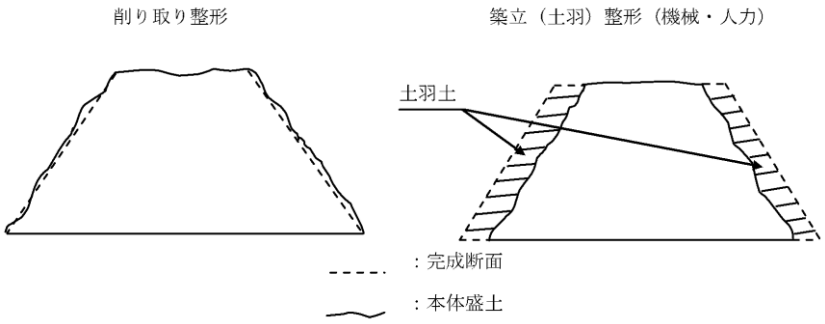
### ① 法面工

### ①－１ 法面整形工

盛土法面整形工（空土羽工）

（１）盛土法面整形工で、削り取り整形を実施する場合は、土工（盛土）で完成断面までの数量を計上する。
また、築立（土羽）整形を実施する場合は、土工（盛土）で完成断面までの数量を総括表に計上するが、土羽土部分は無単価とし、単価表の構成には計上しない。

（２）築立（土羽）厚さは３０ｃｍを標準とする。




### ⑤ 場所打擁壁工

### ⑤－１ 場所打擁壁工(1)

設計本体コンクリート数量に含まれない付属物の積算は下記による。

・コンクリート　「建設工事積算基準第Ⅱ編第４章①コンクリート工」による。
・型枠　　「建設工事積算基準第Ⅱ編第４章②型枠工」による。
・その他　　その他必要に応じ基準書により積上げる。

### ⑤－２ 場所打擁壁工(2)

設計本体コンクリート数量に含まれない付属物の積算は下記による。

・コンクリート　「建設工事積算基準第Ⅱ編第４章①コンクリート工」による。
・型枠　　「建設工事積算基準第Ⅱ編第４章②型枠工」による。
・その他　　その他必要に応じ基準書により積上げる。

## ⑪ 軟弱地盤処理工

### ⑪－３ スラリー攪拌工

当初設計書で工法指定しない場合は、条件明示を行い、特許料を計上せず、変更設計で対応するものとする。変更設計で対応する場合とは、現場条件等により特許使用料を必要とする工法でのみ施工可能と判断された場合をいう。

（仕様書追加事項記載例）
本スラリー攪拌工法における特許料は計上していないが、特許料が必要になった場合は監督職員と協議するものとし、変更契約の対象とする。

### ⑪－４ 高圧噴射攪拌工

当初設計書で工法指定しない場合は、条件明示を行い、特許料を計上せず、変更設計で対応するものとする。変更設計で対応する場合とは、現場条件等により特許使用料を必要とする工法でのみ施工可能と判断された場合をいう。

（仕様書追加事項記載例）
本高圧噴射攪拌工法における特許料は計上していないが、特許料が必要になった場合は監督職員と協議するものとし、変更契約の対象とする。

## ⑫ 薬液注入工

当初設計書で工法指定しない場合は、条件明示を行い、特許料を計上せず、変更設計で対応するものとする。変更設計で対応する場合とは、現場条件等により特許使用料を必要とする工法でのみ施工可能と判断された場合をいう。

（仕様書追加事項記載例）
本薬液注入工法における特許料は計上していないが、特許料が必要になった場合は監督職員と協議するものとし、変更契約の対象とする。

## ㉓ 骨材再生工(自走式)

工事等で発生したコンクリート殻を破砕し、骨材再生として再利用する場合に適用する。「島根県建設副産物処理要領」に基づき、適切に取り扱うものとする。
骨材の品質確認のため、修正ＣＢＲ試験・骨材のふるい分け試験・粗骨材のすり減り試験等を行う場合は、仕様書に試験項目及び試験基準を明記し、その試験費用を技術管理費に計上すること。

## ㉔ 函渠工

### ㉔－１ 函渠工（1）

設計本体コンクリート数量に含まれない付属物の積算は下記による。

・コンクリート　「建設工事積算基準第Ⅱ編第４章①コンクリート工」による。
・型枠　　「建設工事積算基準第Ⅱ編第４章②型枠工」による。
・その他　　その他必要に応じ基準書により積上げる。

### ㉔－２ 函渠工（2）

設計本体コンクリート数量に含まれない付属物の積算は下記による。

・コンクリート　「建設工事積算基準第Ⅱ編第４章①コンクリート工」による。
・型枠　　「建設工事積算基準第Ⅱ編第４章②型枠工」による。
・その他　　その他必要に応じ基準書により積上げる。

## ［3］ 独自基準

### な し

# 第３章　基礎工

## ［1］ 適用基準

土木工事標準積算基準書（共通編） 第Ⅱ編 共通工

第3章 基礎工／ ①鋼管・既製コンクリート杭打工～⑧泥水運搬工 による。

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

な し

# 第４章　コンクリート工

## ［1］ 適用基準

### 土木工事標準積算基準書（共通編） 第Ⅱ編　共通工

### 第4章　コンクリートエ／　①コンクリートエ～④張りコンクリートエ　による。

## ［2］ 運用基準

### ①　コンクリートエ

#### 1．適用範囲

設計基準強度に対する呼び強度表

設計基準強度に対する生コンクリート使用の場合の呼び強度及び使用箇所は下表を標準とする。

※なお、下記は設計基準であるが積算に必要なものとして掲載しているものである。

| 設計基準強度 (N/mm2) | 許　容応力度 (N/mm2) | 呼び強度 | | 粗骨材最　大寸　法 (mm) | スランプ (cm) | 水セメント比 (%以下) | 単位セメント量 (kg/㎥以上) | 空気量 (%) | セメントの種類 | 使用箇所 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 標準品 | 特注品 | | | | | | | |
| 18 | — | 18 | — | 40 | 8 | 60 | — | 4.5±1.5 | 高炉B | ○重力式、半重力式の擁壁・橋台・橋脚・胸壁<br>○ブロック擁壁の胴込、裏込、基礎<br>○管渠<br>○防音壁の基礎（但し、無筋構造）<br>○側溝、桝<br>○法枠中埋、法張コンクリート<br>○根固ブロック<br>○均しコンクリート<br>○海岸構造物及び消波ブロック<br>○その他無筋構造物<br>○トンネル（ＮＡＴＭ・インバート） |
| 18 | — | 18 | — | 20 | 18 | 60 | — | 4.5±1.5 | 高炉B | ○潜函基礎の底版 |
| 18 | — | 18 | — | 40 | 5 | 60 | — | 4.5±1.5 | 高炉B | ○砂防ダム |
| 18 | — | 18 | — | 40 | 15 | 60 | 270 | 4.5±1.5 | 高炉B | ○トンネル（ＮＡＴＭ・覆工ＣＯ） |
| 24 | 24/3 | 24 | — | 20 | 15 | 55 | — | 4.5±1.5 | 高炉B | ○トンネル、アーチカルバート等の吹上施工部（但し、鉄筋構造） |
| 24 | 24/3 | 24 | — | 20 | 12 | 55 | — | 4.5±1.5 | 高炉B | ○橋台、橋脚（鉄筋構造物）<br>○擁壁（鉄筋構造物）<br>○函渠、共同溝<br>○深礎杭<br>○樋門、樋管、サイホン<br>○地覆、壁高欄<br>○その他の鉄筋構造物 |
| 24 | 24/3 | — | 30 | 20 | 18 | 55 | 350 | 4.5±1.5 | 高炉B | ○場所打杭（リバース、ベノト、アースドリル）<br>○井筒基礎の底版 |
| 24 | 24/3 | 24 | — | 20 | 12 | 55 | — | 4.5±1.5 | 早強 | ○井筒、潜函基礎 |
| 24 | 24/3 | 24 | — | 20 | 12 | 55 | 230 | 4.5±1.5 | 普通 | ○プレテンション軽荷重スラブ橋桁<br>（ＪＩＳＡ5373-2010）の中埋部<br>○非合成桁床版<br>○ＲＣのスラブ桁、ホロー桁 |
| 30 | 30/3 | 30 | — | 20 | 12 | 55 | 300 | 4.5±1.5 | 早強 | ○プレテンション桁橋桁<br>（ＪＩＳＡ5373-2010）<br>ポストテンション桁の各床版、横桁 |
| | | | | | | | | | 普通 | ○プレテンションスラブ橋桁<br>（ＪＩＳＡ5373-2010）の中埋部<br>○ポストテンション方式合成桁橋<br>（コンポ橋の床版場所打ち部） |
| | | | | | | | | | | ○鋼・コンクリート合成床版 |
| 36 | 36/3 | 36 | — | 20 | 12 | 55 | 300 | 4.5±1.5 | 早強 | ○場所打ポステン桁（固定支保工架設）（注３） |
| 40 | 40/3 | 40 | — | 20 | 12 | 55 | 300 | 4.5±1.5 | 早強 | ○ポストテンション桁の主桁<br>○ポストテンションブロック桁<br>○場所打ポステン桁（張出架設） |

（注）１）　橋台翼壁の呼び強度は１橋台当り10㎥以下の場合は本体（重力式、Ｌ型等）と同一の強度としてよい。

２）　セメントの種類は、普通：普通ポルトランドセメント、高炉Ｂ：高炉セメントＢ種、早強：早強ポルトランドセメント。

３）　ポストテンション場所打ホロースラブ橋及び、ポストテンション場所打箱桁橋は早強ポルトランドセメントを標準とする。

2. コンクリート打設工法の選定

**無筋・鉄筋構造物のコンクリートの人力打設区分は、打設地上高さ（-1.0m≦H≦1.0m）、日打設量（10m3/日）等により選定するが以下に留意すること。**

1）日打設量は、構造物の水平方向については、伸縮目地の２スパン（２０m程度）として計算し決定する。

2）但し、一工事内に構造物が多数ある場合には現場条件等を考慮してポンプ打設を選択する。

## ［3］ 独自基準

### な し

# 第５章　仮設工

## ［1］ 適用基準

**土木工事標準積算基準書(共通編) 第Ⅱ編 共通工**

**第5章 仮設工／ ①仮設工～㉑交通誘導警備員 による。**

## ［2］ 運用基準

### ① 仮設工

（2）仮設工の積算

2）積算方法

以下を追記する。

・スクラップ長については、建設物価及び積算資料の平均とする。

・鋼矢板、H 形鋼、覆工板及び鋼製マットの１現場あたり修理費及び損耗費に係る、１現場における使用回数に係る補正については、「建設工事積算基準第Ⅰ編第 15 章⑤建設用仮設材賃料積算基準」によること。

6）工事用仮設材（鋼矢板、H 形鋼等）の計上について

6）－１当初より撤去しない場合、又は、当初より一部を撤去しない場合

以下を追記する。

①　運搬費は搬入のみ計上する。(中古品の場合のみ)

②　鋼矢板を撤去しない場合は、広幅鋼矢板を使用することも考慮して決定すること。

6）－２当初より撤去する場合、又は、現地の状況で一部もしくは全体が撤去できなくなった場合

以下を追記する。

⑦　　当初設計で撤去として積算していたものを現地の都合等により、撤去しない場合。

以下を追記する。

共通仮設の運搬費は、搬出する運搬費を変更設計で減額すること。

以下を追記する。

8）H形鋼及び鋼矢板の賃料について

H形鋼の賃料について、仮締切の腹起し切梁及び仮橋に用いる主桁、横桁等は鋼製山留材賃料とする。その他の仮設に用いるH形鋼はH形鋼賃料とする。

9）H型鋼及び鋼矢板の標準長外の賃料について

H型鋼及び鋼矢板の標準長外（スクラップ長未満を含む）を使用する場合は、市場の流通状況を確認の上、賃料か購入かを決定すること。

ただし、橋梁補修工事等で上空制限がある場合において、撤去時の矢板長がスクラップ長未満となる場合は、賃料ではなく全損（市中価格×80%）とする。

１０）工事目的物として、鋼矢板、H型鋼を施工し、設計杭長以内で打ち止めた場合の取扱いについて

鋼矢板・H型鋼を打込の結果、複雑な地層による局部的な支持層の変更、および打込中支障物等により打込を中止せざるを得ない場合等で設計杭長以内で打止めた場合の取扱いは下記による。

1)打込費は、実打込長により精算する。
2)施工杭長と設計杭長との差について、材料費の計上は次のとおりとする。
(a)施工杭長が設計杭長より短縮した時に、切断した杭長がスクラップ長未満の時は、他に転用できないものと考えスクラップ扱いとし控除する。なお、スクラップ長については、建設物価及び積算資料の平均とする。
(b)施工杭長が設計杭長より短縮した時に、切断した杭長がスクラップ長以上の時は、他に転用できるものと考え施工杭長で精算する。

## ⑥ 仮設材設置撤去工

6.部材質量
6-1 主部材及び副部材の質量算出
以下を追記する。

※運搬費について
・副部材（A）の運搬基地は主部材にあわせるものとする。
・なお、副部材（B）についての運搬費は計上しないものとする。

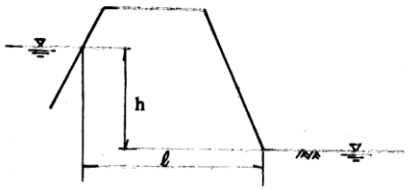
## ⑧ 締切排水工

2.施工概要
2-2 排水方法の選定
以下を追記する。

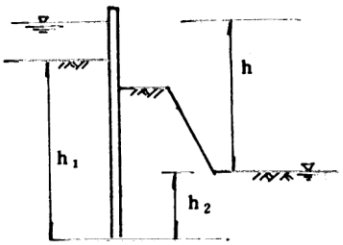
常時排水か作業時排水かは、工事目的物の品質に及ぼす影響及び施工現場土質条件により決定するが、次の場合は常時排水とする。
（1）水没によって工事目的物の品質が害される場合
（例） 鉄筋構造物：橋台・橋脚・函渠・擁壁・ひ門・排水機場等
無筋構造物：橋台・擁壁等
（2）土質が軟弱なシルト等で湛水により安定を欠くおそれのある場合
（3）作業時排水では排水しきれないなど、日々作業に手戻りが生じ作業効率への影響が大きい場合

3.施工歩掛
3-1 機種の選定
以下を追記する。

排水量(m3/h)の算定は以下のとおりとする。

| 章 | 節 | 項　　目 | 運　　用 |
|---|---|---|---|
| 5 | 10 | 締　切　排　水 | 排水量の算定<br>1．適用範囲<br>本資料は、仮設工のうち水門、樋門、樋管、橋台、橋脚、護岸、砂防ダムなどの水中締切、地中締切の排水工事に適用するものとし、ダム本体工事などの大規模工事の排水工事には適用しない。<br>排水量の算定が水理公式などによる算出によらない場合は次式により算出することが出来る。<br>$Q_a = q_1 + q_2 + q_3 + q_4$　（$m^3/h$）<br>ただし　$Q_a$：時間当り排水量（$m^3/h$）<br>$q_1$：土堤または土俵工法の透水量（$m^3/h$）<br>$q_2$：水中矢板工法の透水量（$m^3/h$）<br>$q_3$：地中矢板工法の透水量（$m^3/h$）<br>$q_4$：裏側からの湧水量（$m^3/h$）<br>(1) 土堤または土俵<br>土堤または土俵による水中締切の場合の時間当り透水量は次式により算出する。<br>$q_1 = \frac{N_1 \cdot h^2 \cdot L}{2 \cdot \ell}$　（$m^3/h$）<br>ただし<br>$q_1$：時間当り透水量（$m^3/h$）<br>$\ell$：平均透水長（外水位と内水位の水平距離）（m）<br>  <br><br>h：水位差（外水位は排水期間中の平均水位、内水位は設計時の最下端時水位）（m）<br>L：締切延長（両サイドを含む実延長で目的物の堤防等の部分は除く）（m）<br>N：透水常数（m／h）<br>透水常数は土質により次表を標準とする。<br>透水常数表（$N_1$）<br>土質／土の有効径(mm)：シルト：0.05以下；砂：0.05～0.25；粗砂：0.25～1.0；礫：1.0～5.0<br>$N_1$：$1.4\times10^{-1}$；3.6；$5.9\times10$；$1.4\times10^{3}$<br>（注）1）土の有効径（土の有効径は掘削最下端部分の土質の粒径加積曲線の 10%に相当する粒径を言う）と、$N_1$との関係は次式のとおりである。<br>$N_1 = 96\,d^2 \cdot C$<br>ただし　d：土の有効径（mm）<br>C：漏水係数<br>C＝1.16（実績より）<br>2）$N_1$は土の有効径による透水常数の中位の値であり、土の有効径が中位の値より著しく異なる場合は土の有効径に応じて増減する。<br>3）$N_1$は締切土の空隙、排水による土粒子の移動などの現場の状況により 20%の範囲内で増減することが出来る。<br>4）不透水層が地表面より相当深い所にある場合<br>透水量は $q_1 = \frac{K \cdot h^2}{2\ell} + \frac{K \cdot H \cdot h}{\ell} = \frac{h^2}{2\ell}\left(K + \frac{2K \cdot H}{h}\right)$ となる。<br>ただし、H：不透水層までの距離<br>K：透水係数<br>本資料では不透水層までの距離に関係なく一括してとりまとめてあるため、透水常数は $N_1 = K + \frac{2K \cdot H}{h}$ としている。 |

| 章 | 節 | 項　　目 | 運　　用 |
|---|---|---|---|
| | | | (2) 水中矢板<br>鋼矢板トレンチシートによる水中締切の場合の透水量は、次式により算出する。<br>$q_2 = N_2 \times h \times L$ （$m^3$／h）<br>ただし<br>$q_2$：時間当り透水量（$m^3$／h）<br>h　：水位差（m）<br>L　：締切延長（m）<br>$N_2$：透水常数（m／h）<br>透水常数は土質および矢板の<br>根入れ深さにより、次表を標準とする。 |




透水常数表（$N_2$）

| 根入れ深さ $(h_1+h_2)$ (m) ＼ 土質 / 土の有効径(mm) | シ ル ト<br>0.05 以下 | 砂<br>0.05～0.25 | 粗　砂<br>0.25～1.0 | 礫<br>1.0～5.0 |
|---|---|---|---|---|
| 4 以下 | $2.3\times10^{-3}$ | $5.8\times10^{-2}$ | $9.3\times10^{-1}$ | 22 |
| 7　〃 | $5.8\times10^{-4}$ | $1.2\times10^{-2}$ | $2.3\times10^{-1}$ | 5.8 |
| 10　〃 | $2.3\times10^{-4}$ | $5.8\times10^{-3}$ | $9.3\times10^{-2}$ | 2.3 |
| 13　〃 | $1.2\times10^{-4}$ | $2.3\times10^{-3}$ | $4.6\times10^{-2}$ | 1.2 |

（注）1）土の有効径と$N_2$との関係は次表のとおりである。

$$N_2 = \frac{52}{X^{2.56}} \times d^2 \times C$$

ただし　d：土の有効径（㎜）
X：根入れ深さ（$h_1+h_2$）（m）
C：漏水係数
C＝1.16（実績より）

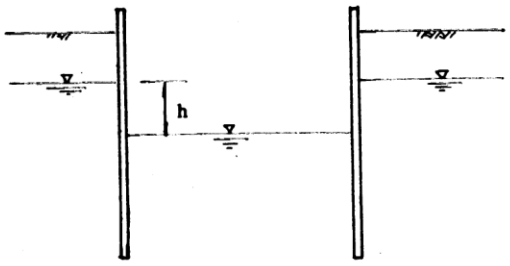
2）$N_2$は土の有効径による透水常数の中位の値であり土の有効径が中位の値より著しく異なる場合は土の有効径に応じて増減する。

3）$N_2$は空隙率、土粒子の移動など現場の状況により 20%の範囲内で増減することが出来る。

4）土俵または土堤と矢板との水中締切の場合を含んでいる。

5）矢板施工において玉石などが多い場合の付合せ不完全による漏水を含んでいる。

| 章 | 節 | 項　　目 | 運　　用 |
|---|---|---|---|
| | | | (3) 地中締切<br>矢板（木矢板を含む）による地中締切の場合の透水量は次式により算出する。 |




$q_3 = 4 \cdot K \cdot r_0 \cdot h$ （$m^3/h$）

ただし　$q_3$：時間当り透水量（$m^3/h$）

$r_0$：床掘半径 $\frac{\Sigma L}{2\pi}$（m）

$\Sigma L$：床掘周長（m）

h　：水位差（m）

K　：透水係数

透水係数は土質により次表を標準とする。

透水係数（K）

| 土質 / 土の有効径(mm) | シ ル ト | 砂 | 粗　砂 | 礫 |
|---|---|---|---|---|
| | 0.05 以下 | 0.05～0.25 | 0.25～1.0 | 1.0～5.0 |
| K | $1.6\times10^{-2}$ | $4.1\times10^{-1}$ | 6.7 | $1.6\times10^{2}$ |

（注）1）土の有効径とKとの関係は次表のとおりである。

$K = 12.6\,d^2$

ただし　d：土の有効径（㎜）

2）径は土の有効径による透水係数の中位の値であり、土の有効径が中位の値より著しく異なる場合は土の有効径に応じて増減する。

3）Kは天板の施工状況、土粒子の移動などの現場の状況により 20%の範囲内で増減することが出来る。

4）土堤または土俵の中に矢板工のある場合の透水量は本項の算式により算出する。

| 章 | 節 | 項　　目 | 運　　用 |
|---|---|---|---|
| | | | (4) 裏側からの湧水量<br>土堤または土俵の締切工法において裏面の堤防などからの湧水量は次式により算出する。<br>$q_4 = N_3 \cdot h \cdot L$ （$m^3$／h）<br>ただし　$q_4$：裏側からの時間当り湧水量（$m^3$／h）<br>h　：水位差（$q_1$、$q_2$の算定に使用したh）（m）<br>L　：目的物の堤防等の延長（m）<br>$N_3$：透水常数（m／h）<br>透水常数は土質により次表を標準とする。 |

透水常数（$N_3$）

| 土質 ＼ 土の有効径(mm) | シ ル ト | 砂 | 粗　砂 | 礫 |
|---|---|---|---|---|
| | 0.05 以下 | 0.05～0.25 | 0.25～1.0 | 1.0～5.0 |
| $N_3$ | $3.3\times10^{-3}$ | $8.7\times10^{-2}$ | 1.4 | $3.5\times10$ |

（注）1）土の有効径と$N_3$との関係は次表のとおりである。
$N_3 = 2.68\,d^2$
ただし　d：土の有効径（mm）
2）$N_3$は土の有効径による透水常数の中位の値であり、土の有効径が中位の値より著しく異なる場合は土の有効径に応じて増減する。
3）次の現場の状況が予想される場合は20%の範囲内で増すことが出来る。
(a) 伏流水により通水の危険性がある場合
(b) 土質により流水にて水道ができると思われる場合
(c) その他

3-2 運転工歩掛

（1）運転日数

以下を追記する。

ポンプの運転日数の算出対象となる施工数量は、地下水位＋30cm以下の部分とし、運転日数は、対象数量を「作業日当たり標準作業量」で除した値の計とする。なお、常時排水の場合は不稼働日を考慮し、上記日数の１．８倍とする。

水替日数の算出例

| 構造物種別 | 高さ区分 | コンクリート打設量区分 | 対象数量 | 標準作業量 | 水替日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | A | B | A/B |
| 逆T式橋台 | 7 ≦H＜ 9 | 110m3以上210m3未満 | 58m3 | 5.6m3/日 | 10.4日 |
| 設計計上数量 | | 作業時排水 | | | 11日 |
| | | 常時排水 | 11日×1.8＝19.8日 | | **20日** |

## ⑪ 仮橋･仮桟橋工

1. 適用範囲

以下を追記する。

・定義（上部工の仮橋と作業構台）

標準歩掛の適用上の定義は次による。

仮 橋

橋の架替時に代替として架ける橋、あるいは工事用車両などを通行させるために架ける橋などを言う。

作業構台

作業構台は、水上あるいは水中等での工事のために、陸からのアプローチとして、作業員や工事用機械、材料等の運搬及び船舶の接岸や係留などのために設けられたり、工事用作業足場及び資材置場等として利用されるものをいう。

4.施工歩掛

4-1 上部工

以下を追記する。

上部工の損料は、下記によるものとする。

| 種　　別 | 材　　料　　費 |
|---|---|
| 主桁（H鋼） | 賃　　料<br>（鋼製山留材賃料） |
| 覆　工　板 | 賃　　料<br>（覆工板賃料） |
| 横桁（H鋼） | 賃　　料<br>（鋼製山留材賃料） |
| 添　接　板 | 損　　料<br>（Ⅱ-5-①-2 表 2.1 の材料損料率による） |

・覆工板の供用月数は、0.5ヶ月単位とする。
・H鋼の供用日数は、基準書、仮設費（鋼矢板の賃料期間の算定）による。
・覆工板受桁については、実情を考慮し生材を標準とする。
・材料費（修理費、損耗費）は建設機械等損料算定表等による。

4-2 下部工

以下を追記する。

下部工の損料は、下記によるものとする。

| 種　　別 | 材　料　費 |
|---|---|
| H　　杭 | 賃　　料<br>（H形鋼賃料） |
| 覆工板受桁用桁受<br>（H　　鋼） | 〃<br>（鋼製山留材賃料） |
| 横桁受・斜材・杭補強 | 損料<br>（**Ⅱ-5-①-2 表 2.1 の材料損料率による**） |

・材料費（修理費、損耗費）は建設機械等損料算定表等による。

## ⑭ -1 土工用防護柵

(1)取扱い

以下は参考事例として掲載しているもので、適用に当たっては必ず現地状況を考慮し、安全性の確認を行うこと。

(2)適用範囲

1)土工用防護柵（Aタイプ・Bタイプ）は土工作業等で第三者への被害を防止する必要がある場合で現場条件により適用を区分する。

・防護柵（Aタイプ）

家屋、現道、鉄道等に対する落石及び飛石等を防ぐ場合で、H=10m 以下の場合に適用する。（H鋼間隔３ｍ）

・防護柵（Bタイプ）

現道拡幅等で車線確保が必要で現場条件により土留を兼用する必要がある場合に適用する。(H 鋼間隔 1.5m)

2)構造については、目的・現地状況により設計計算を行うこと。 また、異常気象（台風等）にはシートをはずす等の対策をすること。なお、安全のためステー（アンカー）を取るのが良い。

(3)積算

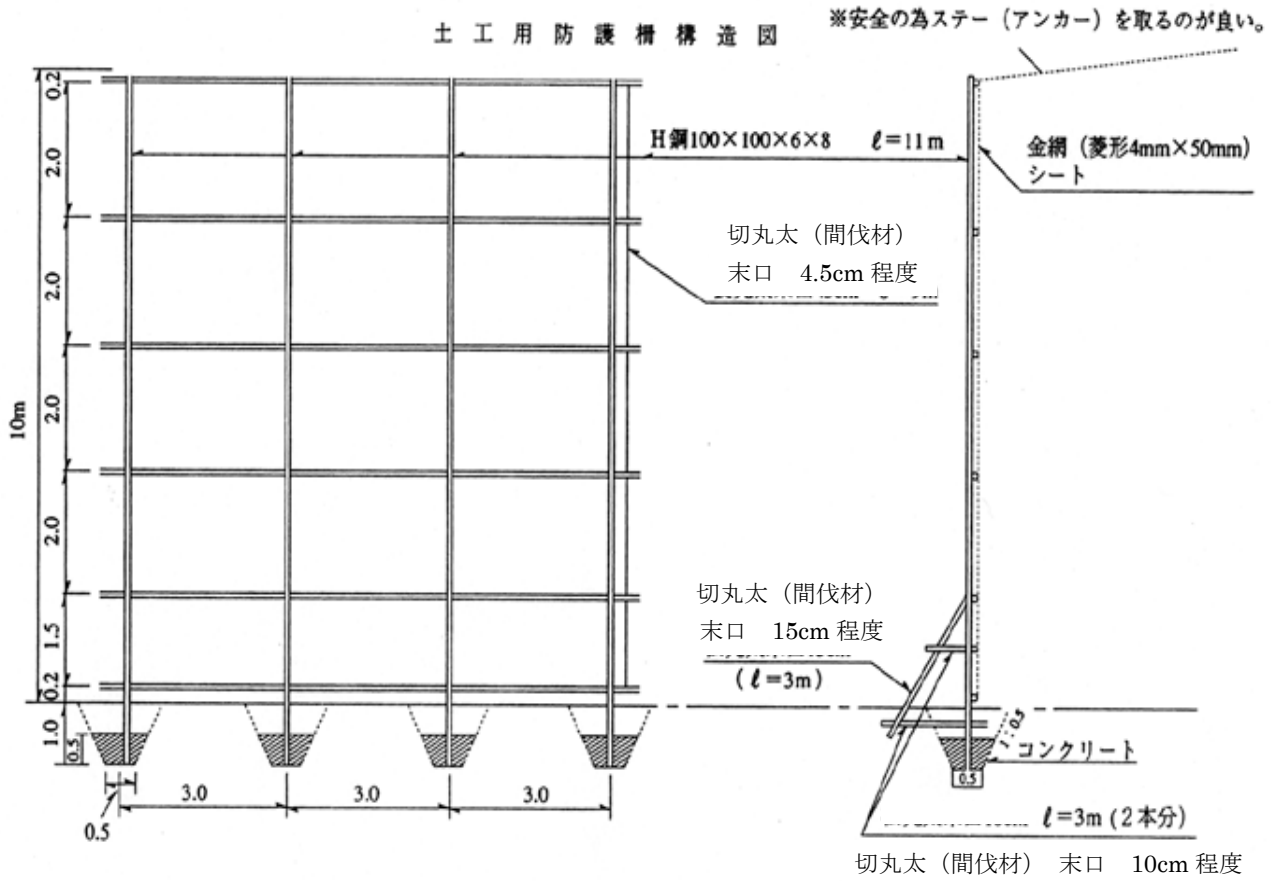
1)土工用防護柵の設置撤去歩掛及び土留板、金網、シートの材料費は、「建設工事積算基準第Ⅱ編第５章⑭仮設防護柵工（切土及び発破防護柵工)」によるものとする。

2)土工は別途計上すること。

各タイプの防護柵は下記を参考とする。

・ Aタイプ（参考）

防護柵（A タイプ）



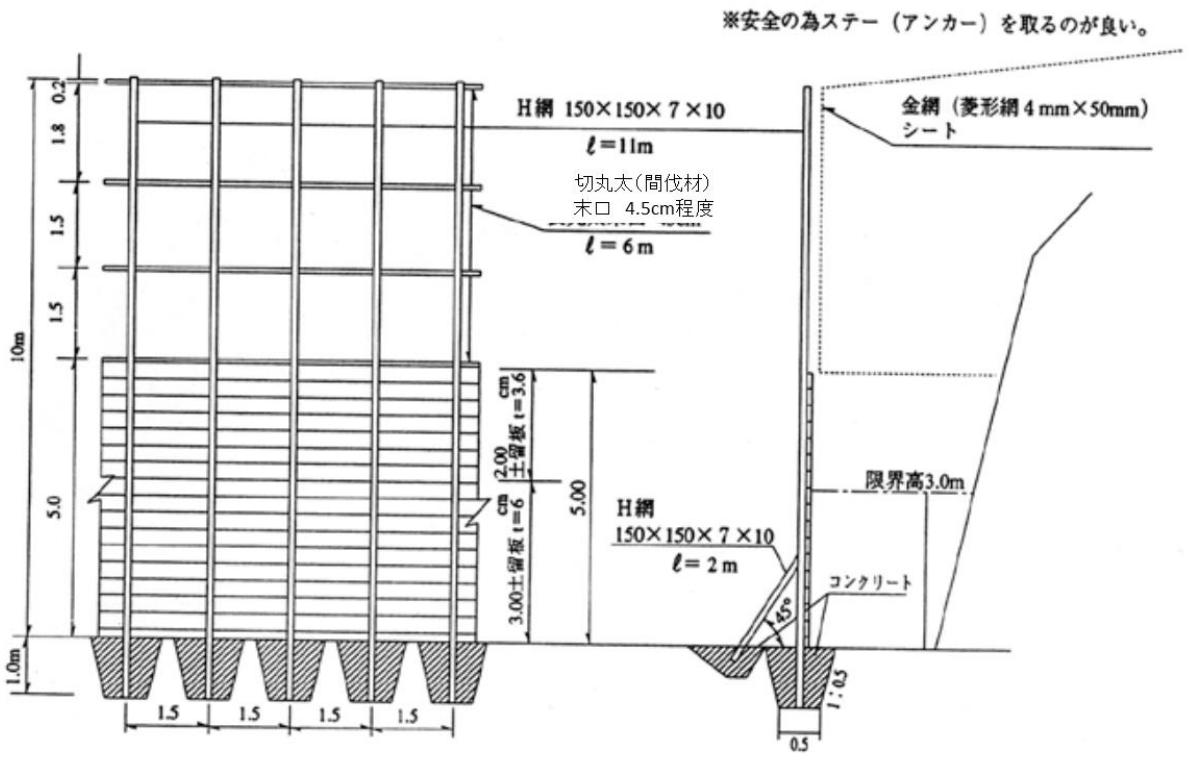

防護柵材料費（Aタイプ）　（90m2当たり）

| 名 称 | 単位 | 規　　格 | 数 量 | 摘 要 |
|---|---|---|---|---|
| H形鋼 | t | （100×100×6×8　l＝11ｍ）　×　3本 | 0.558 | 杭　用 |
| 杭材 | 本 | 切丸太(間伐材)末口15cm程度　L=3.0m | 3 | 支保杭用 |
| | 〃 | 切丸太(間伐材)末口10cm程度　L=3.0m | 3 | 支保杭用 |
| | 〃 | 切丸太(間伐材)末口4.5cm程度　L=9.0m | 6 | 横桁用 |
| 金網 | m2 | 菱形4mm×50mm目 | 90.0 | |
| シート | 〃 | 1.8m×5.1m×0.4mm | 90.0 | |

（注） H形鋼の賃料はH－200型を準用し、修理費は軽作業とする。

・B タイプ（参考）

防護柵（B タイプ）

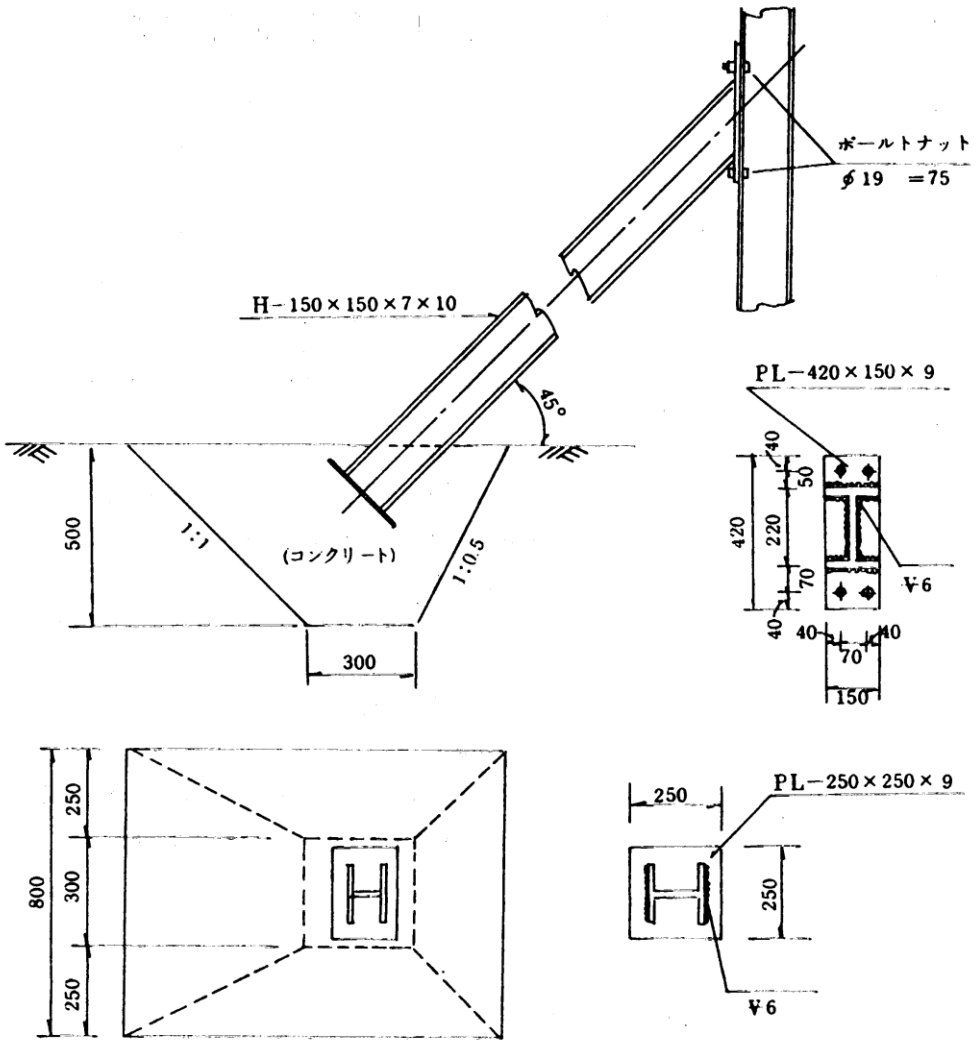



防護柵材料費（Bタイプ）　　（60m2 当たり）

| 名 称 | 単位 | 規　　格 | 数 量 | 摘 要 |
|---|---|---|---|---|
| H形鋼 | t | （150×150×7×10　L＝11m）×4本 | 1.368 | 杭 用 |
| | 〃 | （150×150×7×10　L＝ 2m）×4本 | 0.249 | 支保杭用 |
| 鋼板 | 〃 | （420×150×9）×4枚 | 0.035 | |
| | 〃 | （420×250×9）×4枚 | | |
| 杭材 | 本 | 切丸太（間伐材）末口4.5cm程度　L=6.0m | 4 | 横桁用 |
| 矢板（板） | m2 | 松板　厚3.6cm | 12.0 | （0.43m3） |
| | 〃 | 松板　厚6.0cm | 18.0 | （1.08m3） |
| 金網 | 〃 | 菱形4mm×50mm目 | 30.0 | |
| シート | 〃 | 1.8m×5.1m×0.4mm | 30.0 | |
| 製作加工費 | 本 | | 4 | 支保杭 |

（注） H形鋼の賃料はH－200型を準用し、修理費は軽作業とする。

支柱詳細図(防護柵 B 型)


ボールトナット
φ19 =75
H-150×150×7×10
45°
500
1:1
(コンクリート)
1:0.5
300
PL-420×150× 9
40
50
420
220
70
40
40
40
70
150
V6
800
250
300
250
250
PL-250×250× 9
250
250
V6

(4)単価表

(1)土工用防護柵A型 90m2当り歩掛

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 床堀 | | m3 | 3.8 | 別途計上 |
| 埋戻 | | 〃 | 2.8 | 別途計上 |
| コンクリート | 18-8-40 | 〃 | 0.94 | |
| 金網 | 菱形(亜鉛引) 4mm×50mm目 | m2 | 93.6 | 損料は第5章①仮設工表2.2の防護柵等の材料損料率による。 |
| シート | シート(ポリエスエル製)1.8m×5.1m×0.4mm | 〃 | 98.1 | 〃 |
| 切丸太(間伐材) | 末口15cm程度 L=3.0m | 本 | 3 | 〃 |
| 切丸太(間伐材) | 末口10cm程度 L=3.0m | 本 | 3 | 〃 |
| 長丸太 | 切丸太(間伐材)末口4.5cm程度 L=9.0m | 本 | 6 | 〃 |
| H形鋼賃料 | (100×100×6×8 L=11m) ×3本 | t | 0.558 | |
| 〃修理費 | 〃 | 〃 | 0.558 | 修理費は第5章①仮設工7)の軽作業による。 |
| 防護柵<br>設置撤去費 | | m2 | 90 | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | 杭用 |
| 計(90m2当り) | | | | |
| 1m2当り | | | | 金額÷90m2 |

※1 H形鋼の賃料はH－200型を準用し、修理費は軽作業とする。

※ 材料数量(H形鋼・金網等)は延使用数量(転用なしの場合)である。

(2)土工用防護柵B型 60m2当り歩掛

| 名　称 | 規　格 | 単　位 | 数 量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 床堀 | | m3 | 5.9 | 別途計上 |
| コンクリート | 18-8-40 | 〃 | 5.93 | |
| 金網 | 菱形(亜鉛引) 4mm×50mm目 | m2 | 31.2 | 損料は第5章①仮設工表2.2の防護柵等の材料損料率による。 |
| シート | シート(ポリエスエル製)1.8m×5.1m×0.4mm | 〃 | 32.7 | 〃 |
| 長丸太 | 切丸太(間伐材)末口4.5cm程度 L=6.00m | 本 | 4 | 〃 |
| 土留板 | 松板厚 3.6cm | m3 | 1.51 | 〃 |
| | 松板厚 6.0cm | | | 〃 |
| 鋼板 | | t | 0.035 | |
| 加工費 | | 本 | 4 | |
| H形鋼賃料 | 150×150×7×10 | t | 1.617 | |
| 〃修理費 | 〃 | 〃 | 1.617 | 修理費は第5章①仮設工7)の軽作業による。 |
| 防護柵<br>設置撤去費 | | m2 | 60 | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | 杭用 |
| 計(60m2当り) | | | | |
| 1m2当り | | | | 金額÷60m2 |

※1 H形鋼の賃料はH－200型を準用し、修理費は軽作業とする。

※ 材料数量(H形鋼・金網等)は延使用数量(転用なしの場合)である。

## ㉓ 山岳トンネル工事の切羽における肌落ち災害防止対策に係る切羽監視責任者の取り扱い

切羽監視責任者の費用計上

① 切羽監視責任者のトンネル職種は、公共工事設計労務単価のうち、「トンネル作業員」とし、直接工事費の仮設工に「切羽監視」として計上するものとする。また、すべての間接工事費等の率計算の対象とする。

② 切羽監視責任者は、１人を配置するものとする。計上する人数は、２方（２交替）「２人／日」を標準とし、切羽作業（切羽監視）日数分の延べ人数とすること。
労務費の補正は、建設工事積算基準書第１編総則　第２章工事費の積算　①直接工事費「３ 労務費」の〔例－１〕の場合を標準として算定する。積算システムの利用にあたっては、レベル４のＤ条件（構成率αを掛けない係数）に 1.000、Ｅ条件（構成率αを掛ける係数）に 0.063 を入力すること。ただし、〔例－２〕や〔例－３〕など所定労働時間を超える作業を計画する場合等については、作業計画に応じて労務費補正値を算定し入力すること。

③ 切羽作業（切羽監視）日数は、掘削・支保工に要する実作業日数（設計工程による割増係数を考慮しない日数）を計上するものとする。

# ［3］ 独自基準

## ① 仮設工

（2）仮設工の積算

3）仮設工の損料率

（注）１．に以下を追記する。

・スクラップ控除の積算については、スクラップ額を直接工事費から控除するものとし、間接工事費等（共通仮設費、現場管理費、一般管理費等）の対象としない。

## ㉒ 工事用道路(敷砂利)工

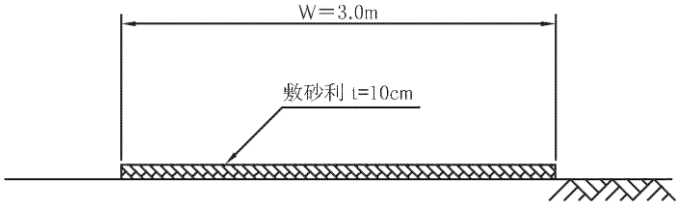
### 1. 適用範囲

本資料は、工事施工に伴って必要となる工事用道路（敷砂利）について適用する。

一般交通を伴う場合は、路線の重要度・交通量等を考慮し、別途積算すること。

### 2. 施工概要

施工は下図を標準とする。




３．単価表

（１）工事用道路（敷砂利）工１００㎡当り単価表

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数　量 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|
| 整　　地 | 敷均し（ルーズ） | ㎥ | 10.0 | |
| 敷　砂　利 | ＲＣ－４０ | ㎥ | 10.0 | 材料費 |

（注）１．整地は「建設工事積算基準第Ⅱ編第１章②土工」による。

# 第VI編　土木工事標準単価及び市場単価

第１章　土木工事標準単価----------VI-1
第２章　市場単価----------VI-5

令和元年度建設工事積算基準

# 第１章　土木工事標準単価

## [1]適用基準

**な し**

## [2]運用基準

**な し**

## [3]独自基準

１－１　本土地区の単価決定について

設計単価については，県単価（「建設工事積算基準第１５編（単価）」）を使用することとし，県単価の定めがない場合は，物価資料（「土木コスト情報」及び「土木施工単価」）に掲載している価格の平均値とする。

ただし，一方の物価資料のみに掲載されているものは，その物価資料の単価とする。

なお，物価資料は，春号（４～９月に起案する場合）または秋号（１０月～３月に起案する場合）を適用する。

また，単価の端数処理方法については，「第Ⅰ編/第２章/①直接工事費/１材料費/（２）価格/２ ）（ロ）①材料単価の端数処理方法について」に準じる。

１－２　隠岐地区の単価決定について

設計単価については，県単価を使用することとし，県単価に「隠岐地区加算額」の設定がある場合は，「１－１　本土地区の単価決定について」に基づき決定した本土単価に，当該加算額を加算した単価とする。県単価の定めがない場合は，見積りにより単価決定する。

１－３　豪雪地域補正について

豪雪地域補正については，適用しないこととする。

１－４　随意契約による調整を行う追加工事の取扱いについて

現工事の施工規模を考慮せず，単独工事として数量を判定する。

１－５　土木工事標準単価における材料単価の計上について

物価資料の「標準単価の構成と範囲」で「材」が「×」になっているものであっても積算システムのコード内において，材料単価を考慮しているものがあるので，それらにおいては，別途計上する必要はない。

１－６　その他事項

以下を定める。

### ①－１　区画線工 【溶剤型ペイント式（手動式）】

１．　適　用　範　囲

１－１　標準単価が適用出来る範囲

（１）　道路に設置する区画線のうち，車載式の施工が困難な場合に限り適用する。

（２）　舗装の種別に関係なく適用できる。

１－２　標準単価が適用出来ない範囲

（１）　特別調査等別途考慮するもの。

１）　隠岐地区において施工する場合。

２）　特殊地域において労務費の補正が適用される工事の場合。

３）　バイパス新設など未供用区間の区画線の場合。

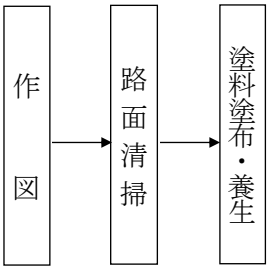
４）　その他，規格・仕様等が適合しない場合。

２．　標準単価の設定

２－１　標準単価の構成と範囲

標準単価で対応しているのは，機・労・材の○及びフロー図の実線部分である。

| 工　　種 | 標準単価 | | |
|---|---|---|---|
| | 機 | 労 | 材 |
| 区　画　線　設　置<br>（ペイント式） | ○ | ○ | ×<br>※ |




（注）　1．単価には雑器具の費用を含む。
　　2．交通誘導警備員を必要とする場合は，別途計上する。
　　3．積算システムのコード内において，材料単価を考慮しているので，別途計上する必要はない。

２－２　標準単価の規格・仕様

区画線工の標準単価の規格・仕様，日当たり標準施工量は，下表のとおりである。

表－１　区画線設置（ペイント式・手動式）

| 規格・仕様 | | | 単位 | 日当たり標準施工量 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 供用区間 |
| 溶剤型<br>（加熱式） | 実線 | 15cm | m | 972 |
| | 破線 | 15cm | m | 827 |
| | | 30cm | m | 415 |

（注）　1．線色は白色又は黄色とする。
　　2．破線は塗布延長とする。

２－４　直接工事費の算出

直接工事費＝設計単価（注１）×設計数量＋材料費（注２）

（注１）設計単価＝標準単価（機械・労務）

（注２）材料費＝主材料単価×使用数量×（１＋材料諸雑費率）

※主材料は塗料，ガラスビーズ，プライマー，燃料である。

※材料諸雑費は，プロパンガス，希釈剤等の費用であり，材料諸雑費率は，０．０３とする。

＜施工規模が日当たり標準施工量に満たない場合＞

１）１日未満で完了する場合（施工規模が日当たり標準施工量に満たない場合）は，「第Ⅰ編第 12 章１日未満で完了する作業の積算」に準ずることとする。

溶融式・手動，ペイント式・車載式，ペイント式・手動式，区画線消去（削取り式）については，一連の作業として判定する。

２）ペイント式（手動式）で，表層の完了待ちなどの工程調整により，１日当たりの実施工量が日当たり標準施工量に満たない場合については，１日当たりの実施工量で判定する。

３．　適用にあたっての留意事項

標準単価の適用にあたっては，以下の点に留意すること。

（１）　区画線設置作業における供用区間及び未供用区間の取扱いは，下表のとおりとする。

表－２　施工場所区分

| 区　　分 | 工　事　種　別 |
|---|---|
| 供　用　区　間 | 維持修繕工事：維持修繕工事に伴う区画線工事<br>現道拡幅工事等：現道拡幅工事に伴う区画線工事<br>交通安全工事（１種）：交差点改良，停車帯等の交通安全工事（１種）に伴う区画線工事<br>交通安全工事（２種）：現道の区画線の補修工事 |
| 未 供 用 区 間 | バイパス工事等：バイパス新設など未供用区間の区画線工事 |

（2）仮区画線を施工する場合，区画線工と規格・仕様が同じであれば，適用出来る。

（3）歩道部，駐車場に区画線を設置する場合，区画線工と規格・仕様が同じであれば，適用出来る。

（4）コンクリート舗装に区画線を設置する場合，区画線工と規格・仕様が同じであれば，適用出来る。

（5）随意契約による調整を行う追加工事の取扱いは，現工事の施工規模を考慮せず，単独工事として数量を判定する。

【参考資料】

表－３　区画線工で使用する一般的な材料仕様

| 規格・仕様（同等以上） | 種　　別 | 施工方式 |
|---|---|---|
| JIS K 5665 2種　A | トラフィックペイント加熱型 | ペイント式水性型 |
| JIS K 5665 2種　B | | ペイント式溶剤型 |
| JIS R 3301 | ガラスビーズ | 各方式に合わせて使用 |

表－４　ペイント式（手動式）の標準的な材料使用量

（1,000m 当たり）

| 名　称 | 区　　分 | 単位 | 実線 | 破線 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 15cm | 15cm | 30cm |
| 塗料 | 加熱式で施工する場合 | L | 72 | 70 | 140 |
| ガラスビーズ | 加熱式で施工する場合 | kg | 62 | 59 | 118 |
| ガソリン | | L | 4 | 3 | 6 |

※使用材料の塗料，ガラスビーズはロス分を含む数量である。

※プロパンガス，希釈剤等の費用は主材料（塗料，ガラスビーズ，燃料）の３％を計上する。

## ⑤コンクリートブロック積工

適用にあたっての留意事項について

「土木コスト情報」及び「土木施工単価」の「適用にあたっての留意事項」に関して，以下を追記する。

・胴込コンクリート１㎡当り設計数量は，０．２２m3／㎡を標準とする。

なお，これにより難い場合は，別途考慮する。

（令和２年３月３１日まで適用）

土木工事標準積算基準書（共通編）／第Ⅵ編 土木工事標準単価及び市場単価／第１章 土木工事標準単価／⑤コンクリートブロック積工

（令和２年４月１日以降適用）

## １．　適　用　範　囲

### １－１　標準単価が適用出来る範囲

（１）　勾配が１割未満（１：1.0 未満）の法面に施工するブロック積みで，JIS タイプ（JIS で規定する形状寸法）の積ブロック（間知・ブロック質量 150kg ／個未満）を使用する場合に適用する。

### １－２　標準単価が適用出来ない範囲

（１）　土木工事標準積算基準書等により別途積算するもの

１）　積ブロック（間知・ブロック質量 150kg ／個以上）を使用する場合。

２）　作業半径が 8.5m を超える場合又は吊上げ高さが 5.8m を超える場合。

３）　勾配が１割以上（１：１．０以上）の法面に施工する場合。

４）　JIS 以外の積ブロックを使用する場合。

（２）　特別調査等別途考慮するもの

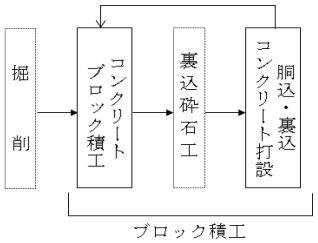
１）　規格・仕様等が適合せず，標準単価が適用出来ない場合。

## ２．　標準単価の設定

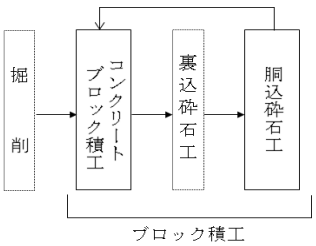
### ２－１　標準単価の構成と範囲

標準単価で対応しているのは，機・労・材の○及びフロー図の実線部分である。

| 工　　種 | 標準単価 | | |
|---|---|---|---|
| | 機 | 労 | 材 |
| ブロック積工<br>（練積） | ○ | ○ | × |




| 工　　種 | 標準単価 | | |
|---|---|---|---|
| | 機 | 労 | 材 |
| ブロック積工<br>（空積） | ○ | ○ | × |




（注）　１．材料ロス及び現場内小運搬を含む。

２．ブロック積工には，調整コンクリートも含む。

３．練積の場合は，胴込・裏込コンクリートの打設手間を含むが，材料費は含まない。空積の場合は，胴込砕石工の手間を含むが，材料費は含まない。

４．特殊養生，雪寒仮囲いのための機械経費，労務費及び材料費は含まない。
なお，必要な場合は別途考慮する。

### ２－２　標準単価の規格・仕様

区画線工の標準単価の規格・仕様，日当たり標準施工量は，下表のとおりである。

表２．１ 規格・仕様区分

| 区　　分 | 規　格・仕　様 | 単位 | 日当り<br>標準施工量 |
|---|---|---|---|
| ブロック積工 | JIS タイプの積ブロック（間知・ブロック質量 150 kg/個未満），調整コンクリート等 | ㎡ | １０ |

（注）　１．上表の日当り標準施工量には，コンクリートブロック積工，裏込砕石工，胴込・裏込コンクリート工（空積の場合は胴込砕石工）までの一連作業を含む。

２．胴込・裏込コンクリート工を施工しない場合も上表による。

２－３　補正係数

（1）補正係数の適用基準

表２．２ 補正係数の適用基準

| 規　格・仕　様 | | 適　　用　　基　　準 | 記号 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 補正係数 | 裏込コンクリートを施工しない場合 | 対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。 | K1 | 対象数量 |
| | 空 積 の 場 合 | 対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。 | K2 | 対象数量 |

（2）補正係数の数値

表２．３ 補正係数の数値

| 区　　分 | | 記号 | ブロック積工 |
|---|---|---|---|
| 補正係数 | 裏込コンクリートを施工しない場合 | K1 | 0.92 |
| | 空 積 の 場 合 | K2 | 0.87 |

２－４　直接工事費の算出

練積の場合の直接工事費＝（設計単価（注１）×設計数量）＋ブロック材料費（注２）+胴込・裏込めコンクリート材料費（注３）

空積の場合の直接工事費＝(設計単価(注１)×設計数量)+ブロック材料費(注２) +胴込砕石材料費(注４)

(注１)設計単価＝標準単価×（K1 or K2）

(注２)ブロック材料費＝ブロック単価［円／個］×㎡当り使用量［個／㎡］×設計数量［㎡］

(注３)練積の場合は，コンクリート材料費を計上する。材料費の計上は次式による。

材料費＝コンクリート（胴込・裏込）材料単価×設計数量×１.12（ロス分）

(注４)空積の場合は、胴込砕石材料費を計上する。材料費の計上は次式による。

材料費＝砕石（胴込）材料単価×設計数量×1.12（ロス分）

３．　適用にあたっての留意事項

標準単価の適用にあたっては，以下の点に留意すること。

（1）　布積，谷積を問わず適用出来る。

（2）　設計面積は，ブロック積本体の面積と調整コンクリートの面積を合計した面積とすること。

（3）　ブロック積工は，目地，水抜パイプ等の施工（材料費含む）の有無に関わらず適用出来る。

（4）　遮水・止水シート及び吸出し防止材を全面に施工する場合は「第Ⅱ編第２章③コンクリートブロック積（張工」により別途計上する。

（5）　小口止コンクリートは，「第Ⅱ編第４章コンクリート工」により別途計上する。

（6）　基礎・天端コンクリートを施工する場合は「第Ⅱ編第２章③コンクリートブロック積（張）工の現場打基礎コンクリート工及び天端コンクリート工」により別途計上する。

（7）　基礎・裏込砕石を施工する場合，基礎砕石は「第Ⅱ編第２章②基礎・裏込砕石工,」，裏込砕石は「第Ⅱ編第２章③コンクリートブロック積（張）工」により別途計上する。

# 第２章　市場単価

## [1]適用基準

**土木工事標準積算基準書（共通編） 第Ⅵ編 土木工事標準単価及び市場単価**

**第2章市場単価／ ①鉄筋工 ～ ⑮コンクリート表面処理工（ウォータージェット工）による。**

## [2]運用基準

**な し**

## [3]独自基準

共通事項

設計単価については，県単価（「建設工事積算基準書第１５編（単価）」）を使用することとし，県単価に定めのない場合は，物価資料（「土木コスト情報」及び「土木施工単価」）に掲載されている価格の平均値とする。

ただし，一方の物価資料のみに掲載されているものは，その物価資料の単価とする。

なお，物価資料は，春号（４～９月に起案する場合）または秋号（１０月～３月に起案する場合）を適用する。

また，単価の端数処理方法については，「第Ⅰ編/第２章/①直接工事費/１材料費/（２）価格/２ ）（ロ）①材料単価の端数処理方法について」に準じる。

１－２　市場単価が適用できない範囲

「離島及び山間僻地等で，明らかに単価が異なると判断される地域の場合。」は，「明らかに単価が異なると判断される地域の場合。」に読替える。

２．　市場単価の設定

２－１ 市場単価の構成と範囲

「材」が「×」になっているものであっても積算システムのコード内において，材料単価を考慮しているものがあるので，それらにおいては，別途計上する必要はない。

## ③防護柵設置工

### ③－4防護柵設置工（落石防護柵）

３．適用にあたっての留意事項

以下を追記する。

（１１）変化点における補強金具が必要になる場合は，別途計上する。

## ④法面工

### ④－1法面工

２．市場単価の設定

２－３加算率・補正係数

（1）加算率・補正係数の適用基準

表２．７（注）

以下を追記する。

（注）２　備考における〔全体数量〕及び〔対象数量〕とは，以下のとおりである。

１）全体数量：現地条件に関わりなく，１工事における全体数量

２）対象数量：１工事における対象となる部分の数量

## ④－2吹付枠工

２．市場単価の設定

２－３加算率・補正係数

（1）加算率・補正係数の適用基準

表２．２

以下を追記する。

（注）　備考における〔全体数量〕及び〔対象数量〕とは，以下のとおりである。

１）全体数量：現地条件に関わりなく，１工事における全体数量

２）対象数量：１工事における対象となる部分の数量

（2）加算率・補正係数の数値

表２．３（注）

以下を追記する。

３．　吹付枠工の施工規模は，１工事における設計上枠長である。

## ⑤道路植栽工

３．適用にあたっての留意事項

（8）

以下を読み替える。

文中の「第Ⅱ編第１章②土工」を「建設工事積算基準第Ⅱ編第１章②土工」

## ⑥橋梁付属物工

## ⑥－1橋梁用伸縮継手装置設置工

**３．適用にあたっての留意事項**

（8）

以下を読み替える。

文中の「第Ⅱ編第２章㉕殻運搬」を「建設工事積算基準第Ⅱ編第２章㉕殻運搬」

## ⑥－2橋梁用埋設型伸縮継手装置設置工

１．適用範囲

１－２　市場単価が適用出来ない範囲

以下を追記する。

（2）既設の伸縮装置及び取替後の伸縮装置の断面寸法が，＜参考資料＞◆市場単価適用可能　橋梁用埋設型伸縮継手装置一覧表（Ⅵ-2-⑨-16）にある標準断面寸法を超える場合。

# ⑯法面工（島根県独自）

## ⑯－１ 木材チップ植生基材吹付工

### 1. 適　用　範　囲

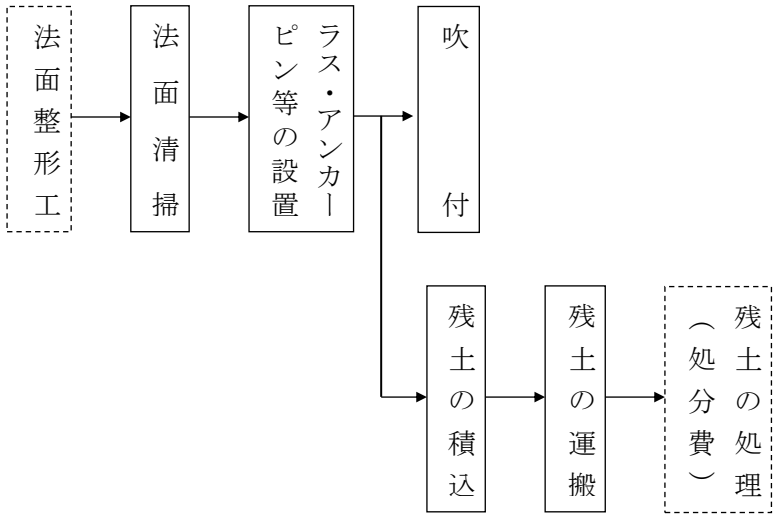
本資料は，市場単価方式による木材チップ（現場発生木材破砕チップ又は購入チップ）を使用する植生基材吹付工に適用する。なお，木材チップ堆肥化の工程を含む工法については，適用できない。

### 2. 市場単価の設定

#### ２－１　市場単価の構成と範囲

市場単価で対応しているのは，機・労・材の○及びフロー図の実線部分である。

| 工　種 | 単価の構成 | | |
|---|---|---|---|
| | 機 | 労 | 材 |
| 木材チップ植生基材吹付工 | ○ | ○ | ○ |




（注）１．吹付後の山水養生は，含まない。

２．材料ロス及び現場内小運搬を含む。

３．法面清掃は，法面のゴミ，浮石等を除去し，地山と吹付材との付着を良好にすることを示す。
また，根当は，吹付材の付着に支障が出る場合に除去する。

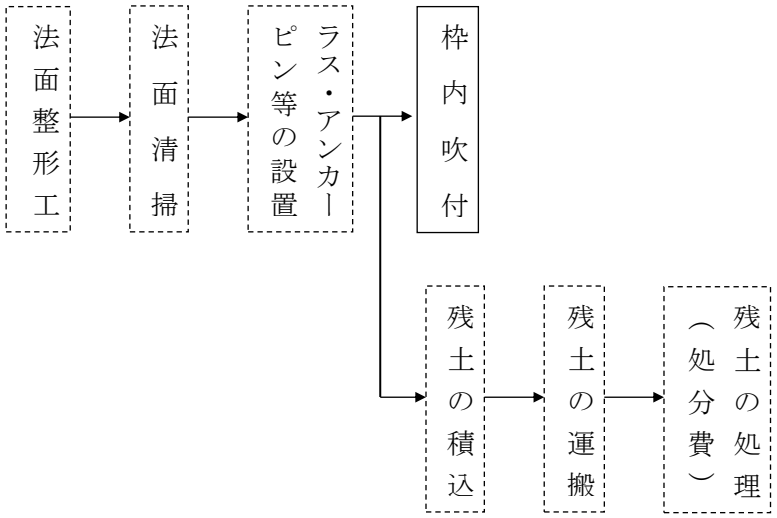
４．残土とは，法面清掃で発生する残土を示す。

５．購入チップを使用する場合は，
単価にチップ材料費を含む。
現地破砕チップを使用する場合は，
チップ材料費を含まない。

６．隠岐地区は，単価適用外である。

※枠内吹付の場合

| 工　種 | 単価の構成 | | |
|---|---|---|---|
| | 機 | 労 | 材 |
| 枠内吹付工 | ○ | ○ | ○ |



## ２－２　市場単価の規格・仕様

木材チップ植生基材吹付工の規格・仕様区分は，下記のとおりである。

（1）　規格・仕様

表２．１　木材チップ植生基材吹付工

| 区　分 | 規　格　・　仕　様 | 単　位 |
|---|---|---|
| 木材チップ植生基材吹付工 | 厚　3㎝ | ㎡ |
| | 厚　4㎝ | ㎡ |
| | 厚　5㎝ | ㎡ |
| | 厚　6㎝ | ㎡ |
| | 厚　7㎝ | ㎡ |
| | 厚　8㎝ | ㎡ |
| | 厚　10㎝ | ㎡ |

（2）　種子配合

使用植物（種子）に主構成種として用いる種子は次表による。

表２．２　主体種子

| | | |
|---|---|---|
| 草本類 | 外　来　種 | トールフェスク　クリーピングレッドフェスク　オーチャードグラス　ケンタッキーブルーグラス　チモシー　バミューダグラス<br>バビアグラス　ホワイトクローバー<br>ペレニアルライグラス　イタリアンライグラス　ベントグラス　レッドトップ |
| | 在　来　種 | ヨモギ　　ススキ　　イタドリ　　メドハギ |
| 木本類 | 在　来　種 | ヤマハギ（皮取り）　　ヤマハギ（皮付き）　　コマツナギ |

（注）種子は，外国産を対象とする。

（3）木材チップ

木材チップの規格は，38㎜以下を標準とする。

## ２－３　加算率・補正係数

（1）加算率・補正係数の適用基準

表２．３ 加算率・補正係数の適用基準

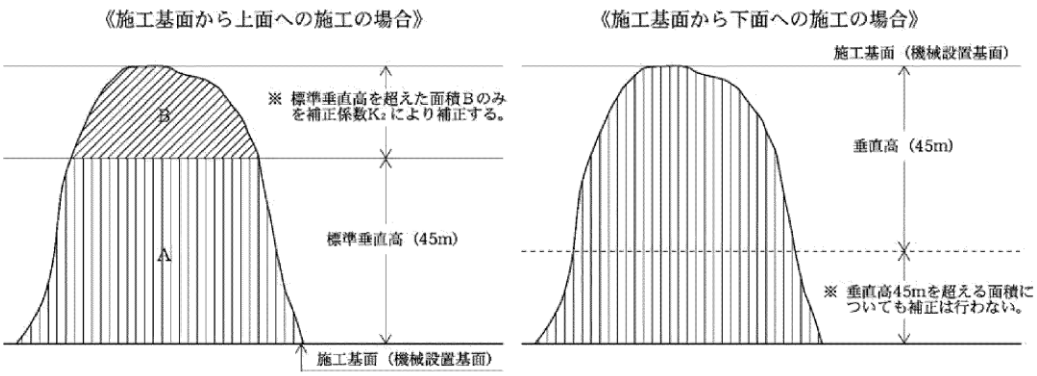
| 規　格　・　仕　様 | | 適　用　基　準 | 記号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 加算率 | 施　工　規　模 | 標準 | $S_0$ | 全体数量 |
| | | １工事の施工規模が標準より小さい場合は，対象となる規格・仕様の単価を率で補正する。 | $S_1$<br>$S_2$<br>$S_3$ | |
| 補正係数 | 時間的制約を受ける場合 | 通常勤務すべき１日の作業時間（所定労働時間）を７時間以下４時間以上に制限する場合は，対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。 | $K_1$ | 対象数量 |
| | 施工基面からの法面の垂直高が 45ｍを超え 80ｍ以下の場合 | 法面の垂直高が 45mを超え 80m以下の場合は，対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。ただし，施工基面より下面への施工は補正しない。 | $K_3$ | |
| | 枠内吹付の場合 | 吹付枠工で枠内吹付をする場合，対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。また，対象となる数量は，枠内に吹き付ける面積とする。 | $K_4$ | |

（注）１．標準の垂直高は，45m以下。（次図例を参照）

２．備考における〔全体数量〕及び〔対象数量〕とは，以下のとおりである。

１）全体数量：現場条件に関わりなく，１工事における全体数量。

２）対象数量：１工事における対象となる部分の数量。




（2）加算率・補正係数の数値

表２．４ 加算率・補正係数の数値

| 区　　分 | | 記号 | 木材チップ植生基材吹付工 |
|---|---|---|---|
| 加算率 | 施工規模 | $S_0$ | (1，000 ㎡以上)<br>0% |
| | | $S_1$ | (500 ㎡以上 1，000 ㎡未満)<br>5% |
| | | $S_2$ | (250 ㎡以上 500 ㎡未満)<br>10% |
| | | $S_3$ | (250 ㎡未満)<br>20% |
| 補正係数 | 時間的制約を受ける場合 | $K_1$ | 1.05 |
| | 法面の垂直高 45mを超 80m以下の場合 | $K_3$ | 1.10 |
| | 枠内吹付の場合 | $K_4$ | 0.80 |

(注)　１．施工規模加算率（$S_1$），（$S_2$）または（$S_3$）と時間的制約を受ける場合の補正係数（$K_1$）が重複する場合は，施工規模加算率のみを対象とする。

２．法面垂直高補正（$K_3$）は，標準垂直高を超える面積（対象数量）についてのみ補正する。

３．時間的制約補正（$K_1$），法面垂直高補正（$K_3$）については，枠内吹付の場合も同じ係数を使用するものとする。

４．１工事において，通常の吹付工と枠内吹付工がある場合，同種の吹付けに限り，施工規模は合計施工数量で判定する。

### ２－４　ラス張工の控除

木材チップ植生基材吹付工は，ラス張工の施工を含んでいる。ラス張工を現場条件等により施工しない場合は，木材チップ植生基材吹付工単価から，第Ⅵ編市場単価第２章⑥－2 吹付枠工の「ラス張工」単価に「法面清掃を必要としない場合」の補正係数等により補正した額を控除する。

なお，枠内吹付の場合は，ラス張工を含んでいないため，上記控除は，行わない。

## ２－５　直接工事費の算出

直接工事費＝設計単価（注１）×設計数量

（注１）設計単価＝木材チップ植生基材吹付工単価×（1＋$S_0$ or $S_1$ or $S_2$ or $S_3$／100）×（$K_1$×$K_2$×$K_3$）
〔ー吹付枠工「ラス張工」単価×（1＋$S_0$ or $S_1$ or $S_2$ or $S_3$／100）×（$K_1$×$K_2$）〕（注2，3）

（注２）ラス張工控除額算定式の記号は⑥ー2 吹付枠工 2. の 2ー3 加算率・補正係数の表 2.2 及び表 2.3 による

（注３）枠内吹付補正（$K_3$）をする場合は，ラス張工控除は行わない。

## 3.　適用にあたっての留意事項

木材チップ植生基材吹付工の適用にあたっては，下記の点に留意すること。

（１）　菱形金網は，線形 2.0 ㎜ 網目 50 ㎜，アンカーピンはφ9（D10）×L＝200 ㎜・1.5 本／㎡，及びφ16（D16）×L＝400 ㎜・0.3 本／㎡をそれぞれ標準とする。

（２）　仮設ロープ等による施工を標準とする。

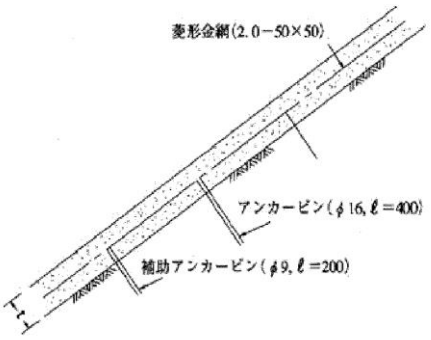
（３）　施工規模は，木材チップ植生基材吹付工のみの１工事の全体数量で判定する。

（４）　法面部への施工を標準とするが，法面に一部平面部（小段等）が含まれる施工にも適用できる。ただし，平面部のみの施工には適用できない。

（５）　随意契約により調整を行う場合の取扱いは，現工事の施工規模を考慮せず，単独工事として数量を判定する。

## 4.　参考資料

（１）　施工参考図




（２）　木材チップ使用量

表４．１　木材チップ植生基材吹付工の標準木材チップ使用量

| 区　　分 | 規　格 | 木材チップ使用量 | 施工面積当たり単位 |
|---|---|---|---|
| 木材チップ植生基材吹付工 | 厚　3 cm | 5.85 | ㎥／100 ㎡ |
| | 厚　4 cm | 7.80 | |
| | 厚　5 cm | 9.75 | |
| | 厚　6 cm | 11.70 | |
| | 厚　7 cm | 13.65 | |
| | 厚　8 cm | 15.60 | |
| | 厚 10 cm | 19.50 | |

（注１）木材チップ使用量＝施工厚（m）×100 ㎡×1.5（圧密率）×1.3（ロス率）

（注２）上表を標準とするが，選定工法等により適合しない場合は，別途算出する。

# ⑯－2 木材チップ現地破砕工

## 1. 適 用 範 囲

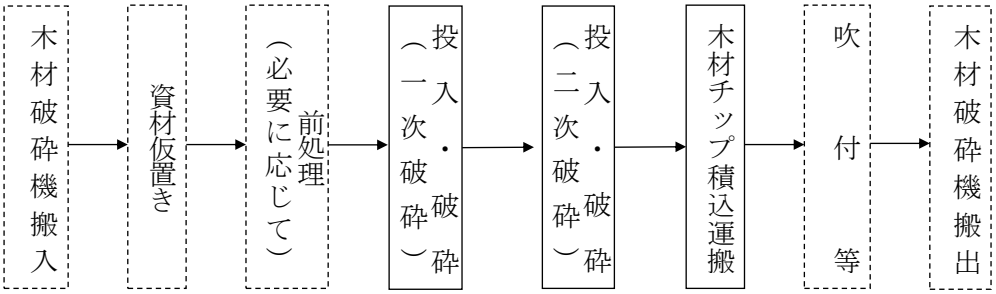
本資料は，現場発生木材を利用して現地で木材チップを作成する市場単価方式による破砕工に適用する。

## 2. 市場単価の設定

2－1 市場単価の構成と範囲

市場単価で対応しているのは，機・労・材の○及びフロー図の実線部分である。

| 工 種 | 単価の構成 | | |
|---|---|---|---|
| | 機 | 労 | 材 |
| 木材チップ現地破砕工 | ○ | ○ | |




（注）1. 根株に前処理が必要な場合は，別途計上する。
2. 単価は，破砕ヤードから1㎞以内の木材チップ積込運搬を含む。
3. 根株・枝葉・幹の区別に関わりなく適用できる。
4. 竹類は，適用範囲外とする。
5. 隠岐地区は，単価適用外である。

2－2 市場単価の規格・仕様

木材チップ現地破砕工の規格・仕様区分は，次のとおりである。

| 区 分 | 規 格 ・ 仕 様 | 単 位 |
|---|---|---|
| 木 材 チ ッ プ 現 地 破 砕 工 | チップ仕上寸法 38 ㎜以下 | ㎥ |

2－3 直接工事費の算出

直接工事費＝設計単価（注1）×設計数量（注2）

（注1） 設計単価＝木材チップ現地破砕工単価

（注2） 設計数量＝木材チップ量（㎥）

## 3. 適用にあたっての留意事項

木材チップ現地破砕工の適用にあたっては，下記の点に留意すること。

⑴ 使用する破砕機は，自走式木材破砕機タブ敷き・機関出力 230～270kw の規格を標準とする。現場への破砕機搬出入には，別途運搬費を計上する。

⑵ チップの積込・運搬がない場合は，積込・運搬費を控除する。

令和元年度建設工事積算基準

# 第Ⅲ編 河　川

第１章　河川海岸----------Ⅲ-1
第２章　河川維持工----------Ⅲ-3
第３章　砂防工----------Ⅲ-5
第４章　地すべり防止工----------Ⅲ-7
第５章　急傾斜地崩壊防止工----------Ⅲ-9
第６章　ダム工----------Ⅲ-21

令和元年度建設工事積算基準

# 第１章　河川海岸

［1］ 適用基準

土木工事標準積算基準書（河川編） 第Ⅲ編 河川

第1章 河川海岸／ ①消波根固めブロック工～⑤軟弱地盤上における柔構造樋門・樋管工 による。

［2］ 運用基準

な し

［3］ 独自基準

な し

# 第２章　河川維持工

## ［1］ 適用基準

土木工事標準積算基準書（河川編） 第Ⅲ編 河川

第2章 河川維持工／ ①堤防除草工～⑱光ケーブル配管工 による。

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

な し

# 第３章　砂防工

## ［1］ 適用基準

土木工事標準積算基準書（共通編） 第Ⅲ編 河川

第3章 砂防工／ ①土工～⑩砂防ソイルセメントエ による。

## ［2］ 運用基準

### ②－１ コンクリートエ

１．適用範囲について

狭隘な地形で施工ヤードの制約により施工方法が限定される渓流保全工等については別途考慮することができる。

## ［3］ 独自基準

な し

# 第４章　地すべり防止工

［1］ 適用基準

土木工事標準積算基準書（共通編） 第Ⅲ編 河川

第4章 地すべり防止工／ ①地すべり防止工 による。

［2］ 運用基準

な し

［3］ 独自基準

な し

# 第５章　急傾斜地崩壊防止工

## ［1］ 適用基準

な し

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

次ページ以降に記載

# ①急傾斜地崩壊防止工

## ①－１ 積算基準の運用

### １．土工

１－１　土工

土工は、「建設工事積算基準第Ⅱ編第１章土工」を使用すること。

なお、急傾斜地崩壊防止工事は崩壊の危険性が高い斜面を対象として行う工事であり、切土等の施工は原則として人力施工とする。

ただし、現場の状況により機械施工が可能な場合はこの限りではない（『傾斜地保全関係事業設計指針（急傾斜地崩壊対策事業）』第７章参照）。

### ２．法面工

２－１　法面工

法面工は、「建設工事積算基準第Ⅵ編第２章市場単価」の法面工を使用すること。

２－２　吹付枠工

吹付枠工は、「建設工事積算基準第Ⅵ編第２章市場単価」の吹付枠工を使用すること。

２－３　その他

その他の法面工は、「建設工事積算基準第Ⅱ編第２章共通工」の法面工を使用すること。

### ３．擁壁工

３－１　擁壁工

擁壁工は、「建設工事積算基準第Ⅱ編第２章共通工」の場所打擁壁工または「建設工事積算基準第Ⅱ編第４章コンクリート工」を使用すること。

### ４．落石防止柵工

４－１　落石防止柵工

落石防止柵工は、「建設工事積算基準第Ⅵ編第２章市場単価」の防護柵設置工（落石防護柵）を使用すること。

### ５．標識板及び標柱

５－１　標識板及び標柱

標識板及び標柱は、「建設工事積算基準第１５編第１章一般基礎単価」の用地境界柱・用地境界鋲、「建設工事積算基準第１５編第３章事業用単価」の急傾斜地崩壊対策工事単価を使用すること。

なお、標識板及び標柱は「急傾斜地崩壊危険区域」の指定に基づき打ち込むものとする（『傾斜地保全関係事業設計指針（急傾斜地崩壊対策事業）』第２章第５節参照）。

# ①－2 仮設防護柵工

## 1. 適用範囲

この基準は、急傾斜地崩壊防止工事の仮設防護柵に適用する。

仮設防護柵は、当該急傾斜地の地形地質、工法、がけ下の人家の配置、工事の施工計画等を勘案の上、工事に伴う小規模な崩落や砕石等の飛散により、がけ下及び周辺住民に危害を与えないような規模のもので積算し、付図を明示する。

これらの使用は、本編の表１の工種別材料表、歩掛表と同等のもので、十分安全が確保される場合とする。

なお、現場の条件によりこの積算が適さない場合は、別途積算するものとする。

## 2. 材料損料率及び賃料

H形鋼及び単管は賃料、その他の材料は損料で計上し、「建設工事積算基準第Ⅱ編第５章仮設工」の仮設工により積算・算定する。

## 3. 施 工 歩 掛

施工歩掛は以下を標準とする。

**表1 工種別材料表、歩掛表**

| 種別 / 名称 | | 1型<br>L×H<br>10.0m×1.5m | 2型<br>L×H<br>10.0m×3.0m | 3型<br>L×H<br>10.0m×3.0m | 4型<br>L×H<br>10.0m×4.0m | 5型<br>L×H<br>10.0m×4.0m | 6型<br>L×H<br>10.0m×4.0m |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 材料費 | 主柱 | 切丸太<br>(0.29㎥)本<br>200×φ12×10 | 切丸太<br>(0.29㎥)本<br>400×φ12×5 | 切丸太<br>(0.29㎥)本<br>400×φ12×5 | 単管<br>(22.5m)本<br>450×φ4.86×5 | 切丸太<br>(0.36㎥)本<br>500×φ12×5 | 切丸太<br>(0.36㎥)本<br>500×φ12×5 |
| | 横梁 | 〃<br>(0.16㎥)<br>400×φ9×5 | 〃<br>(0.29㎥)<br>400×φ12×5 | 〃<br>(0.29㎥)<br>400×φ12×5 | 〃<br>(20.0m)<br>400×φ4.86×5 | 〃<br>(0.29㎥)<br>400×φ12×5 | 〃<br>(0.29㎥)<br>400×φ12×5 |
| | 控木 | 〃<br>(0.14㎥)<br>200×φ12×5 | 〃<br>(0.14㎥)<br>200×φ12×5 | 〃<br>(0.14㎥)<br>200×φ12×5 | 〃<br>(15.0m)<br>300×φ4.86×5 | 〃<br>(0.20㎥)<br>280×φ12×5 | 〃<br>(0.20㎥)<br>280×φ12×5 |
| | 控杭 | 〃<br>(0.07㎥)<br>100×φ12×5 | 〃<br>(0.11㎥)<br>150×φ12×5 | 〃<br>(0.11㎥)<br>150×φ12×5 | | 〃<br>(0.11㎥)<br>150×φ12×5 | 〃<br>(0.11㎥)<br>150×φ12×5 |
| | 筋違 | | | 〃<br>(0.74㎥)<br>260×φ12×20 | 〃<br>(60.0m)<br>300×φ4.86×20 | | 〃<br>(0.84㎥)<br>290×φ12×20 |
| | 土留板 | 厚板<br>(0.54㎥)<br>200×20×3.6×37.5 | 厚板<br>(1.08㎥)<br>200×20×3.6×75 | | | 厚板<br>(1.44㎥)<br>200×20×3.6×100 | |
| | 防護網 | | | (3.2m/m)<br>網目40×#10×30㎡ | (3.2m/m)<br>網目40×#10×40㎡ | | (3.2m/m)<br>網目40×#10×40㎡ |
| | 小計 | | | | | | |
| | 諸雑費 | 10% | 10% | 10% | 10% | 10% | 10% |
| | 計 | | | | | | |
| 労務費 | とび工 | 0人 | 3.0人 | 3.2人 | 3.9人 | 4.2人 | 4.4人 |
| | 普通作業員 | 5.9人 | 6.4人 | 6.6人 | 6.8人 | 7.8人 | 7.9人 |
| | 計 | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | |
| 1m当り | | | | | | | |

| 名称＼種別 | | 7型 | 8型 | 9型 | 10型 | 11型 | 12型 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | L×H<br>10.0m×4.0m | L×H<br>10.0m×4.0m | L×H<br>10.0m×5.0m | L×H<br>10.0m×5.0m | L×H<br>10.0m×5.0m | L×H<br>10.0m×5.0m |
| 材料費 | 主柱 | H形鋼<br>(0.71t)<br>450×15×15×0.7×<br>1.0×5本 | H形鋼<br>(0.71t)<br>450×15×15×0.7×<br>1.0×5本 | 切丸太<br>(0.51㎥)本<br>600×φ12×5 | 切丸太<br>(0.51㎥)本<br>600×φ12×5 | H形鋼<br>(0.91t)<br>580×15×15×0.7×<br>1.0×5本 | H形鋼<br>(0.91t)<br>580×15×15×0.7×<br>1.0×5本 |
| | 横梁 | L形鋼<br>(0.27t)<br>400×6×75×<br>75×10 | L形鋼<br>(0.27t)<br>400×6×75×<br>75×10 | 〃<br>(0.43㎥)<br>400×φ12×7.5 | 〃<br>(0.43㎥)<br>400×φ12×7.5 | L形鋼<br>(0.34t)<br>400×6×75×<br>75×12.5 | L形鋼<br>(0.34t)<br>400×6×75×<br>75×12.5 |
| | 控木 | | | 〃<br>(0.29㎥)<br>400×φ12×5 | 〃<br>(0.29㎥)<br>400×φ12×5 | | |
| | 控杭 | | | 〃<br>(0.11㎥)<br>150×φ12×5 | 〃<br>(0.11㎥)<br>150×φ12×5 | | |
| | 筋違 | | | | 〃<br>(1.26㎥)<br>290×φ12×30 | | |
| | 土留板 | 厚板<br>(1.44㎡)<br>200×20×3.6×100 | | 厚板<br>(1.80㎡)<br>200×20×3.6×125 | | 厚板<br>(1.80㎡)<br>200×20×3.6×125 | |
| | 防護網 | | (3.2m/m)<br>網目40×#10×40㎡ | | (3.2m/m)<br>網目40×#10×50㎡ | | (3.2m/m)<br>網目40×#10×50㎡ |
| | 小計 | | | | | | |
| | 諸雑費 | 10% | 10% | 10% | 10% | 10% | 10% |
| | 計 | | | | | | |
| 労務費 | とび工 | 5.3人 | 4.9人 | 5.6人 | 6.1人 | 6.6人 | 6.3人 |
| | 普通作業員 | 8.9人 | 8.0人 | 9.9人 | 10.1人 | 10.8人 | 9.8人 |
| | 計 | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | |
| 1m当り | | | | | | | |

（注）1. 4，7，8，11，12型の基礎コンクリートは別途計上する。
2. H形鋼の修理費及び損耗費は軽作業とする。

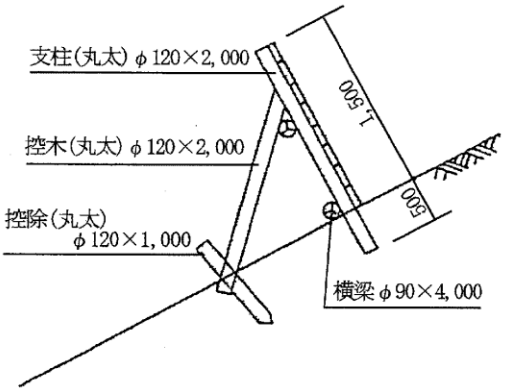
施工単価内訳表

| 項目 | 名　　称 | 数量 | 単位 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 01 | 主柱（切丸太・間伐材） | | 本 | |
| 02 | 主柱（単管） | | m | |
| 03 | 主柱（H形鋼） | 1 | 式 | |
| 04 | 横梁（切丸太・間伐材） | | 本 | |
| 05 | 横梁（単管） | | m | |
| 06 | 横梁（L形鋼） | | t | |
| 07 | 控木（切丸太・間伐材） | | 本 | |
| 08 | 控木（単管） | | m | |
| 09 | 控杭（切丸太・間伐材） | | 本 | |
| 10 | 筋違（切丸太・間伐材） | | 本 | |
| 11 | 筋違（単管） | | m | |
| 12 | 土留板（厚板） | | $m^3$ | |
| 13 | 防護網（3.2mm 網目 40mm） | | $m^2$ | |
| 14 | とび工 | | 人 | |
| 15 | 普通作業員 | | 人 | |
| 16 | 諸雑費 | 10 | % | 材料費の 10% |
| | 合計（10m当り） | | | |
| | 1ｍ当り | | | |

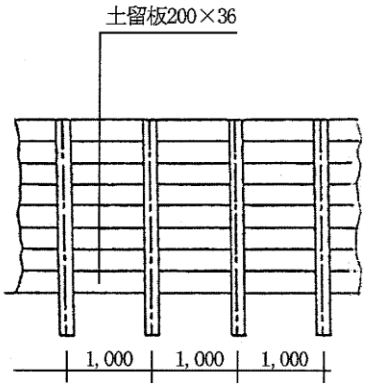
（注）1. この基準は各種杭の建込み、引抜き、床堀、埋戻を含む。
2. 各型式の基礎コンクリートは別途計上する。
3. H形鋼は1現場当り1回使用の場合に適用する。

1　型

側　面　図



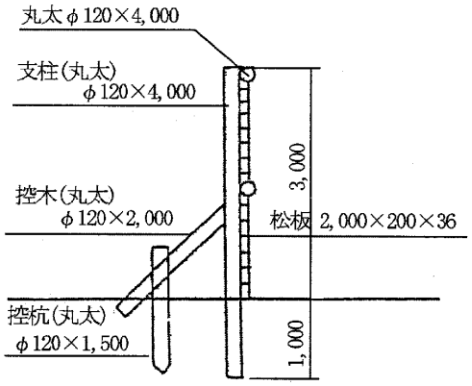

正　面　図



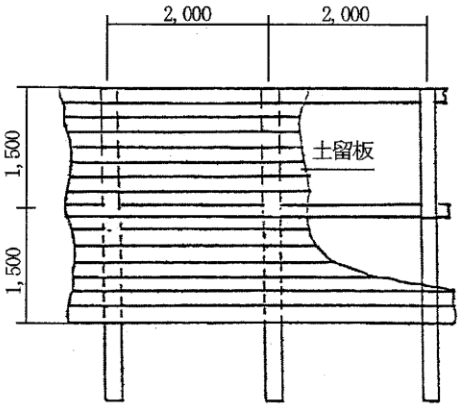

備考 1.　中間防護柵に用いる。

2　型

側　面　図

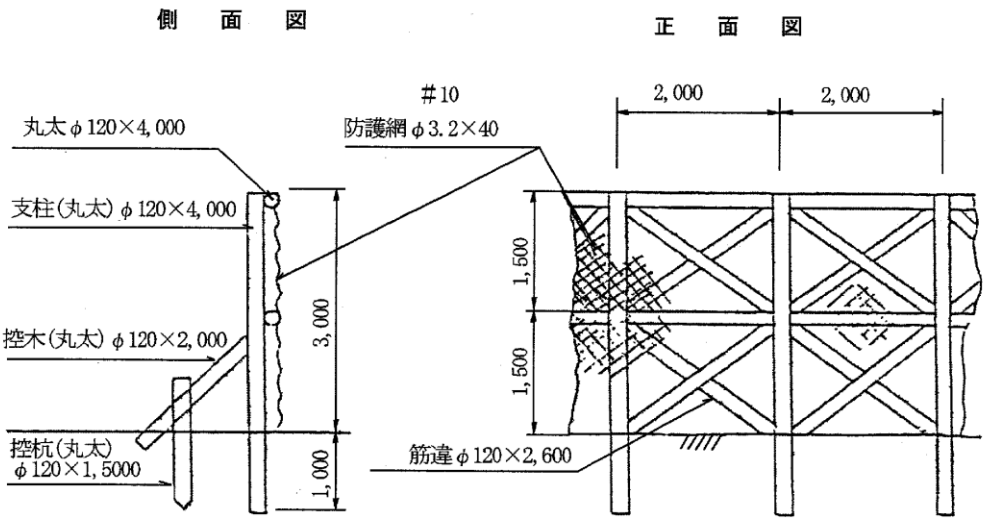



正　面　図



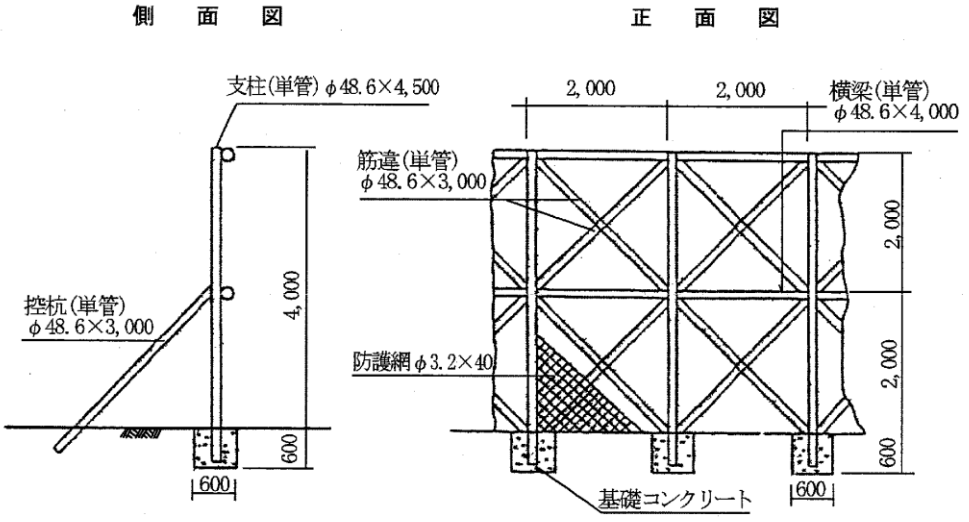

備考 1.　人家との間に余裕があり，比較的緩斜面で良好な土質。

3　型




備考1.　人家との間に余裕があり，比較的緩斜面で良好な土質。

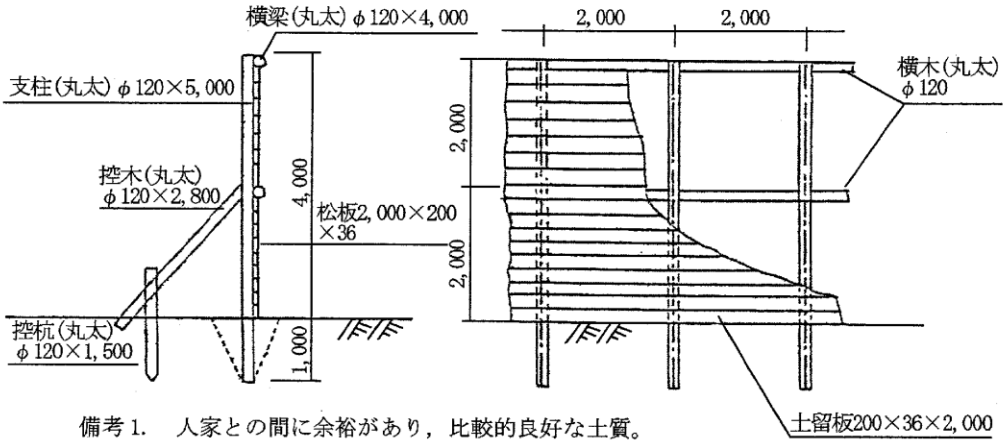
4　型




備考1.　人家との間に余裕があり，比較的緩斜面で良好な土質。

## 5　型

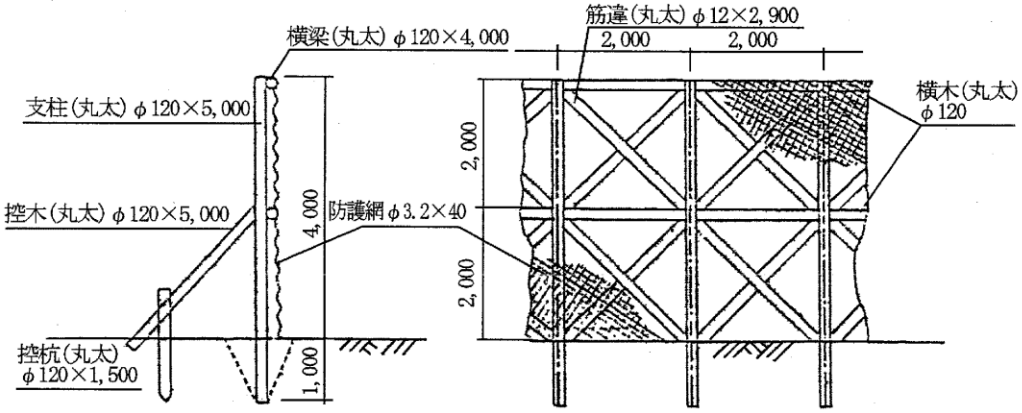
側　面　図　　正　面　図




備考 1.　人家との間に余裕があり，比較的良好な土質。

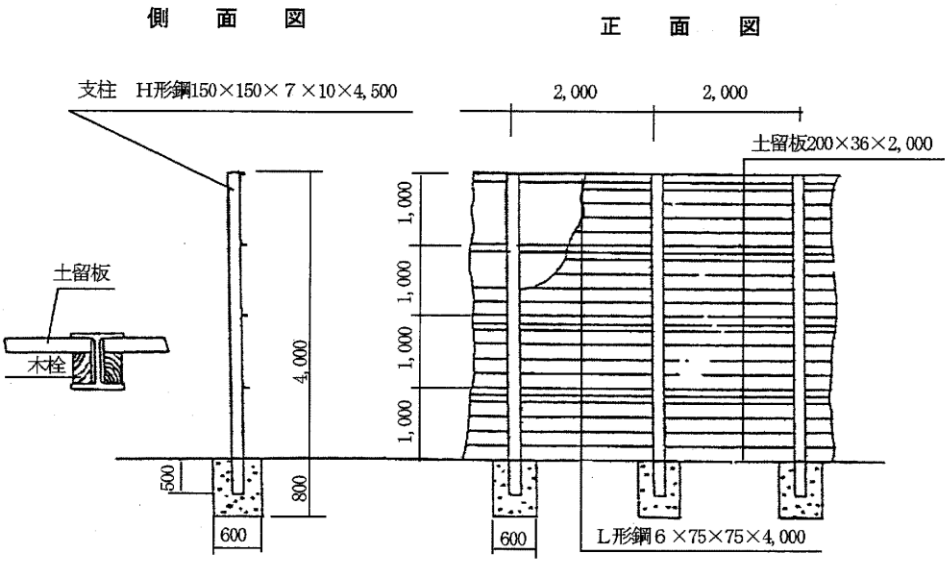
## 6　型

側　面　図　　正　面　図



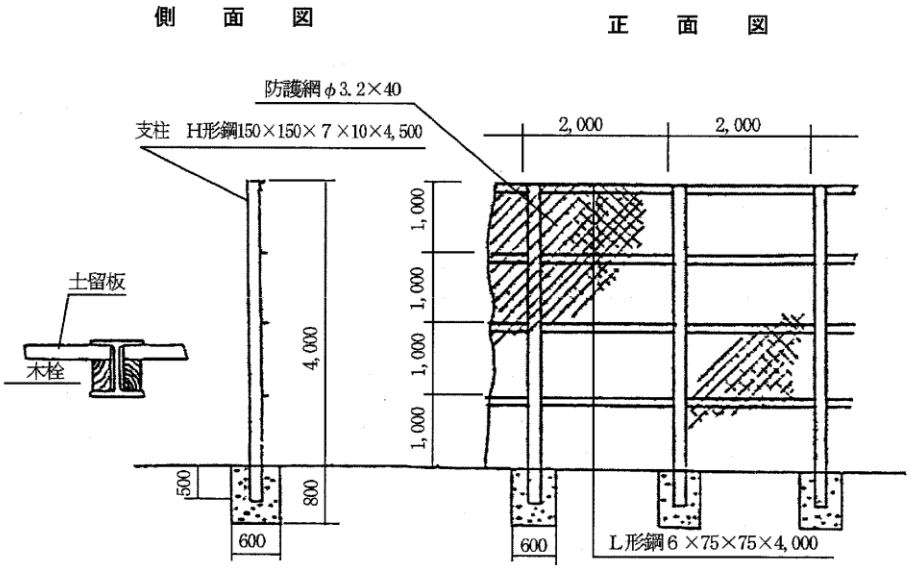

備考 1.　人家との間に余裕があり，比較的良好な土質。

## 7　型



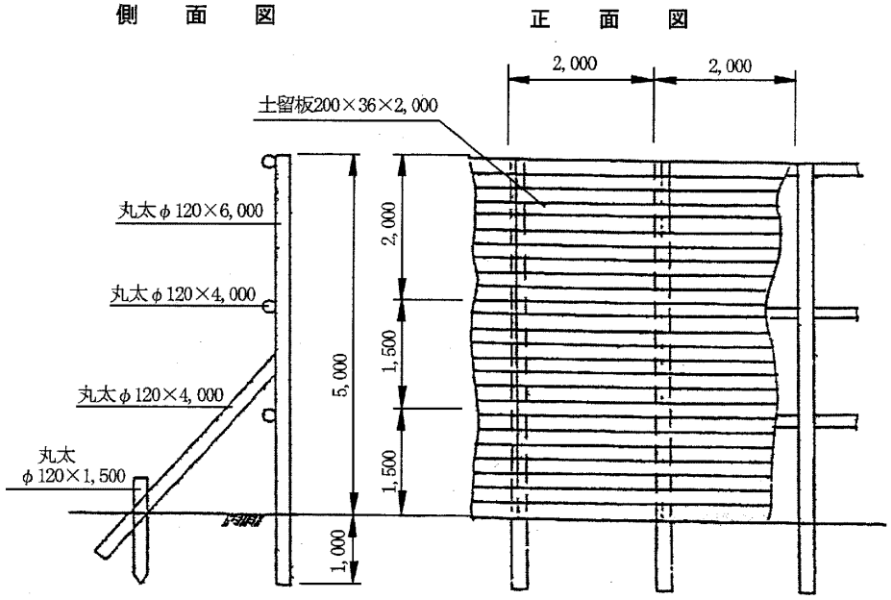

備考1.　人家との間に余裕が少なく，比較的急斜面で小崩落の予想される土質。

## 8　型



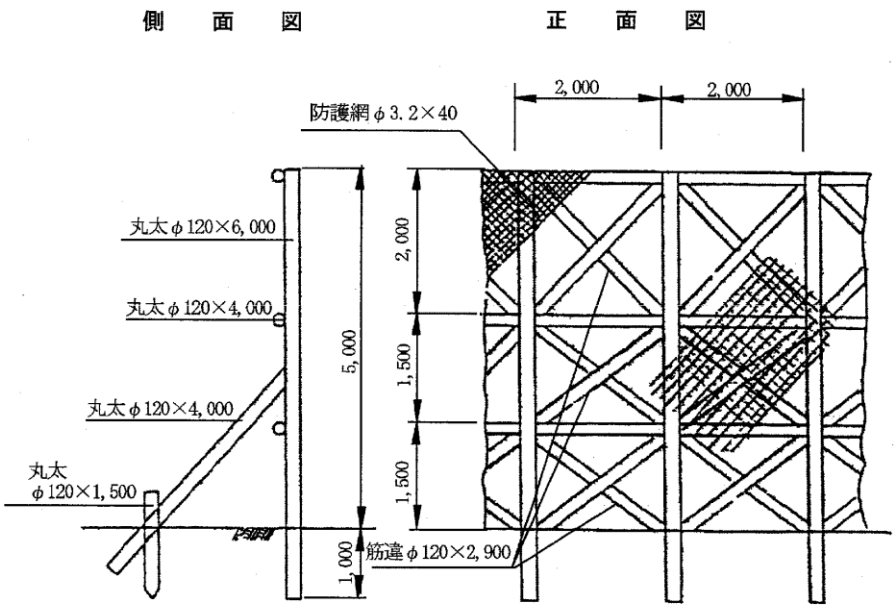

備考1.　人家との間に余裕が少なく，比較的急斜面で小崩落の予想される土質。

9　型




備考1.　人家との間に余裕があり，比較的急斜面で小崩落の予想される土質。

10　型



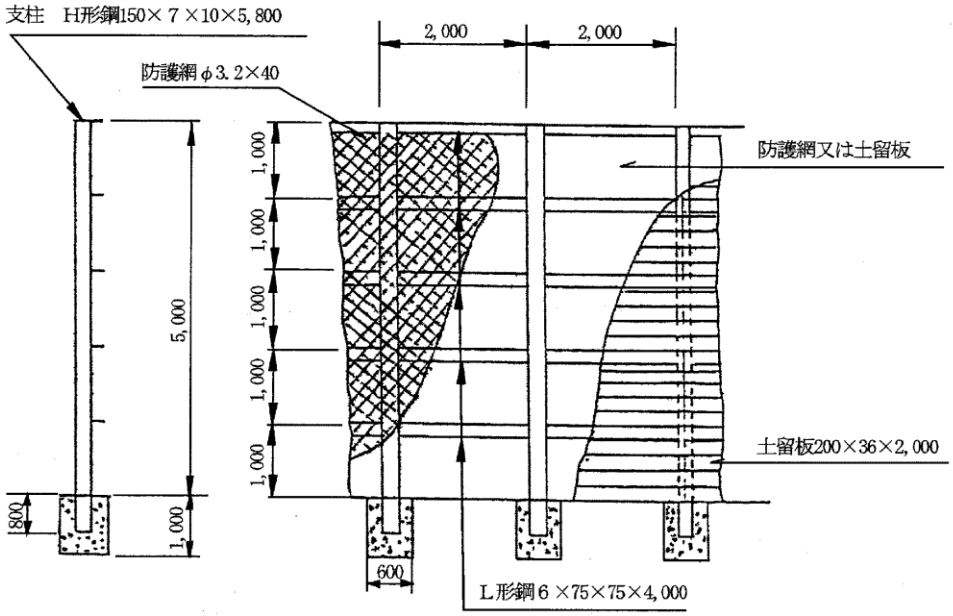

備考1.　人家との間に余裕があり，比較的急斜面で小崩落の予想される土質。

## 11型及び12型

11型は土留板使用の場合

12型は防護網使用の場合

側　面　図　　正　面　図




備考1.　人家との間に余裕が少なく，比較的急斜面で小崩落の予想される土質。

# 第６章　ダム工

## ［1］ 適用基準

ダム工事積算資料による。

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

な し

# 第Ⅳ編 道　路

第１章　舗装工----------Ⅳ-1
第２章　付属施設工----------Ⅳ-3
第３章　道路維持修繕工----------Ⅳ-5
第４章　共同溝工----------Ⅳ-7
第５章　トンネル工----------Ⅳ-9
第６章　道路除雪工（適用基準なし）----------Ⅳ-11
第７章　橋梁工----------Ⅳ-13

令和元年度建設工事積算基準

# 第１章　舗装工

［1］ 適用基準

土木工事標準積算基準書（共通編） 第Ⅳ編 道路

第1章 舗装工／ ①路盤工～⑥踏掛版 による。

［2］ 運用基準

な し

［3］ 独自基準

な し

# 第２章　付属施設

## ［1］ 適用基準

土木工事標準積算基準書（共通編） 第Ⅳ編 道路

第2章 付属施設／ ①防護柵設置工～⑨スノーポール設置・撤去工 による。

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

### ⑧ 道路付属物設置工

### ⑧－２ 道路照明設備設置工

「建設工事積算基準第Ⅷ編第 3 章第 6 節①道路照明設備設置工」による。

# 第３章　道路維持修繕工

## ［1］ 適用基準

土木工事標準積算基準書（共通編） 第Ⅳ編　道路

第3章　道路維持修繕工／ ①路面切削工～㉘横断歩道橋補修工による。

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

な し

# 第４章　共同溝工

## ［1］ 適用基準

土木工事標準積算基準書（共通編） 第Ⅳ編　道路

第4章　共同溝工／ ①共同溝工～③情報ボックスエによる。

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

### ③ 情報ボックスエ

１．適用範囲　に以下を追記する。

共用ＦＡ方式を含む電線共同溝工（Ｃ・Ｃ・ＢＯＸ）には適用できない。

# 第５章　トンネル工

## ［1］ 適用基準

土木工事標準積算基準書（共通編） 第Ⅳ編 道路

第5章 トンネル工／ ①トンネル工(NATM)～③トンネル裏込注入工による。

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

な し

# 第６章　道路除雪工

## ［1］ 適用基準

な し

（土木工事標準積算基準書（共通編） 第Ⅳ編　道路　第6章　道路除雪工は適用しない。）

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

な し

# 第７章　橋梁工

## ［1］ 適用基準

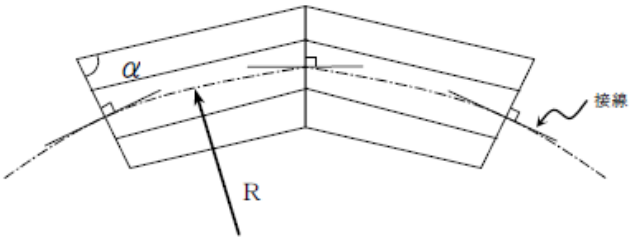
土木工事標準積算基準書（共通編） 第Ⅳ編　道路

第7章　橋梁工／ ①鋼橋製作工～⑲橋台・橋脚工による。

## ［2］ 運用基準

次ページ以降に記載

<table>
<tr><th>章</th><th>節</th><th>項　　目</th><th>運　　用</th></tr>
<tr><td>7</td><td>1</td><td>H型橋梁の輸送</td><td>(1) 輸送は架設位置に最も近い工場からの距離で積算する。<br>H型鋼橋梁メーカー指定工場一覧表（参考）
<table>
<tr><th>メーカー名</th><th>指定工場名</th><th>住　　所</th></tr>
<tr><td rowspan="5">新日鐵住金エンジニアリング(株)</td><td>(株)藤原鐵工所</td><td>島根県松江市富士見町 5-4</td></tr>
<tr><td>新光産業(株)</td><td>山口県宇部市大字際波 1465</td></tr>
<tr><td>長岡鉄工建設(株)</td><td>広島県庄原市上原町 2612</td></tr>
<tr><td>(株)大和鉄工所</td><td>岡山県岡山市東区金岡西町 1108-2</td></tr>
<tr><td>太平工業(株)</td><td>兵庫県姫路市大津区勘兵衛町 1-193-4</td></tr>
<tr><td>JFEスチール(株)</td><td>(株)サンベルコ</td><td>岡山県岡山市東区升田519-1</td></tr>
<tr><td>JFEエンジニアリング(株)</td><td>JFEエンジニアリング(株)</td><td>三重県津市雲出鋼管町1番地</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>7</td><td>1</td><td>鋼 橋 の 輸 送</td><td>(1) 鋼橋の輸送積算にあたっては、基準書「第７章橋梁工」①鋼橋製作工の５桁輸送費の回帰式によるものとする。なお、回帰式で求めた桁輸送費は、地区、特大、深夜早朝、冬期、悪路等の運賃割増を考慮したものであり、当該単価に加算する必要はない。<br><br>(2)運搬距離について、中国管内発注の場合は、(4)の工場一覧を参考とすること。<br><br>(3) 輸送経路は部材の性質上長尺かつ重量が大きいものであるから最少回転半径、橋梁の耐荷力等を考慮し最短実距離程をきめなければならない。この場合車輌制限令を遵守すること。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>章</th><th>節</th><th>項　　目</th><th>運　　用</th></tr>
<tr><td>7</td><td>1</td><td>鋼 橋 の 輸 送</td><td>(4) 中国地方の鋼橋製作工場から主要地点までの距離は下表を標準とする。
<table>
<tr><th>会社名</th><th>工場名</th><th>所在地</th><th>主要地点（道路上）</th><th>工場からの距離（km）</th></tr>
<tr><td>日立造船鉄構エンジニアリング㈱</td><td>向島工場</td><td>広島県尾道市向東町14755番地</td><td>尾道市向東町（２号　尾崎交差点）</td><td>4.0</td></tr>
<tr><td>日本鉄塔工業㈱</td><td>若松工場</td><td>福岡県北九州市若松区北浜1丁目7番1号</td><td>北九州市若松区白山１丁目（199号　若松交差点）</td><td>1.3</td></tr>
<tr><td>日本橋梁㈱</td><td>播磨工場</td><td>兵庫県加古郡播磨町東新島3番地</td><td>加古川郡播磨町東新島（２号新在家交差点）</td><td>15.5</td></tr>
<tr><td>川田工業㈱</td><td>四国工場</td><td>香川県仲多度郡多度津町西港町17</td><td>瀬戸中央自動車道（坂出北インター）</td><td>7.0</td></tr>
<tr><td>宇部興産機械㈱</td><td>宇部本社・工場</td><td>山口県宇部市大字小串字沖ノ山1980番地</td><td>宇部市大字小串字沖ノ山（190号　西本町交差点）</td><td>2.0</td></tr>
<tr><td>山九㈱</td><td>黒崎工場</td><td>福岡県北九州市八幡西区築地町10番</td><td>北九州市八幡西区築地町（３号　藤田交差点）</td><td>1.0</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>7</td><td>1</td><td>橋 梁 上 部 工<br>（鋼 橋 製 作）</td><td>１．製作工数の補正について<br>曲線区間において橋脚は同心円方向（道路中心線に直角）で主桁は支点間を直線とした場合（下図）は、斜橋による工数の補正「75°≦α（斜角）＜90°」を適用する。<br> 
</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>章</th><th>節</th><th>項　　目</th><th>運　　用</th></tr>
<tr><td>7</td><td>2</td><td>橋　梁　塗　装</td><td>鋼橋塗装の施工管理<br>　施工管理について<br>（1）塗替の場合は標準使用量で契約（特記仕様書に塗布量を明記する）し、塗料の使用量を検収する。</td></tr>
<tr><td>7<br>7</td><td>3<br>9</td><td>鋼橋・ＰＣ橋のトラッククレーン架設機種選定</td><td>　同一工事内に橋梁型式や作業半径等の機種設定条件が異なる橋梁のトラッククレーン選定は各連単位に吊上げる部材の最大部材重量、作業半径等を考慮して選定する。<br>　選定した機種が２種類以上となる場合は運搬費を考慮して最終的機種の選定を行うものとする。</td></tr>
<tr><td>7<br>7</td><td>3<br>9</td><td>ベント設備組立解体クレーン</td><td>　ベントの単体長さ（Ｌ＝６ｍ）重量（Ｗ＝６ｍ×185 kg／ｍ＝1.11≒1.0ｔ）と仮定し作業半径ベント高さ等のチェックは必ず行うこと。</td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td>塗　装　工<br>積　算　区　分</td><td>塗装工積算区分
<table>
<tr><th rowspan="2">職　　種</th><th colspan="2">工　　種</th></tr>
<tr><th>種　　別</th><th>細　　別</th></tr>
<tr><td rowspan="5">橋梁塗装工</td><td>橋　梁　等</td><td>鋼橋、横断歩道橋、側道橋、簡易組立橋梁、河川管理橋等<br>（高欄、橋脚等を含む）</td></tr>
<tr><td>水門扉類</td><td>水門、用排水樋門扉管門扉等</td></tr>
<tr><td>鉄　塔　類</td><td>無線塔等</td></tr>
<tr><td>機械設備類</td><td>ポンプ設備（除塵機、スクーン等を含む）<br>ダム工事用仮設備、ダム用管理設備<br>トンネル換気設備</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="5">塗　装　工</td><td>防護柵類</td><td>ガードレール、ガードパイプ、ガードフェンス等</td></tr>
<tr><td>附属物類</td><td>道路標識（オーバーヘッド、オーバーハング、Ｆ型、単柱、情報板）河川標識、照明灯等<br>電線ケーブル等の引込柱等</td></tr>
<tr><td>上　屋　類</td><td>地下道上屋、自転車置場、管理施設の建屋等</td></tr>
<tr><td>そ　の　他</td><td>橋梁塗装工の区分以外のもの</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>章</th><th>節</th><th>項　　目</th><th>運　　用</th></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td>足　場　工<br>桁下防護工</td><td>（床版もしくは塗装工事で撤去された足場の運搬について）<br>床版もしくは塗装工事で撤去する足場の運搬は、撤去を行う工事で行うよう現場説明書追加事項に明記すること。<br>なお、条件明示の方法については、平成 22 年 8 月 26 日付け事務連絡「橋梁上部関連（床版・塗装）工事における条件明示について」による。</td></tr>
<tr><td>7</td><td>5</td><td>鋼橋床版工</td><td>地覆部の型枠については、型枠工にて積算するものとする。</td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td>沓据付工</td><td>吊り上げクレーンが複数となる場合、全体の沓の個数により所要日数を算定し沓の数にて按分する。</td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td>沓座モルタル</td><td>１．沓座モルタル<br>(1) モルタル材数量<br>ゴム支承及び鋼製支承のグラウト材（モルタル）は設計図に明示することを原則とする。<br>(2) 材料単価<br>支承据付の沓座モルタル無収縮モルタルとしてプレミックスタイプのものを使用する。積算は基準書第Ⅳ編第 7 章⑨ＰＣ橋架設工の支承工の支承モルタルによる。</td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td>落橋防止装置<br>支　　承</td><td>各橋梁形式における、落橋防止装置及び支承の施工歩掛は下表のとおりとする。
<table>
<tr><th rowspan="3">区分<br>橋梁形式</th><th colspan="4">適　用　歩　掛　工　種</th></tr>
<tr><th rowspan="2">落橋防止装置<br>（PC 鋼棒・ｹｰﾌﾞﾙ）</th><th colspan="3">支承設置</th></tr>
<tr><th>鋼製支承</th><th>ｺﾞﾑ支承<br>ﾀｲﾌﾟA</th><th>ﾀｲﾌﾟB</th><th>無収縮ﾓﾙﾀﾙ<br>（材料費）</th></tr>
<tr><td>・鋼橋</td><td>鋼橋架設工</td><td>鋼橋架設工</td><td colspan="2">鋼橋架設工</td><td rowspan="5">ＰＣ橋架設工</td></tr>
<tr><td>・ﾌﾟﾚﾋﾞｰﾑ桁<br>・ﾎﾟｽﾄﾃﾝｼｮﾝT (I)桁<br>・ﾌﾟﾚﾃﾝｼｮﾝ桁</td><td>ＰＣ橋架設工</td><td>－</td><td colspan="2">ＰＣ橋架設工</td></tr>
<tr><td>・ﾎﾟｽﾄﾃﾝｼｮﾝ場所打箱桁<br>（片持架設）</td><td rowspan="3">ﾎﾟｽﾄﾃﾝｼｮﾝ場所打箱桁橋工</td><td>ＰＣ橋架設工</td><td colspan="2">ＰＣ橋片持架設工</td></tr>
<tr><td>・ﾎﾟｽﾄﾃﾝｼｮﾝ場所打箱桁<br>（固定支保）</td><td rowspan="2">鋼橋架設工</td><td>ＰＣ橋架設工</td><td>ﾎﾟｽﾄﾃﾝｼｮﾝ場所打ﾎﾛｰｽﾗﾌﾞ橋工</td></tr>
<tr><td>・ﾎﾟｽﾄﾃﾝｼｮﾝ場所打ﾎﾛｰｽﾗﾌﾞ<br>・ＲＣ場所打ﾎﾛｰｽﾗﾌﾞ</td><td>ﾎﾟｽﾄﾃﾝｼｮﾝ場所打ﾎﾛｰｽﾗﾌﾞ橋工</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

| 章 | 節 | 項　　目 | 運　　用 |
|---|---|---|---|
| 7 | 16 | 伸縮装置工 | (1) 積雪地用あるいはグレーダ対策を施したタイプの伸縮装置であっても、重量区分等が合致すれば適用する。 |
| 7 | 17 | 橋梁排水管設置工 | 1．排水桝、取付金具の製品価格の取扱について<br>排水桝、取付金具等は、原則として設置・取付工事に計上するものとする。(鋼橋においては、床版工事にて計上するが橋体付ピースについては、鋼橋にて取付けるものとする。)<br>単価は、局単価とする。<br>2．排水桝、取付金具の設置歩掛について<br>排水桝については橋梁付属施設設置工(Ⅳ-2-⑦-1)による。<br>取付金具については、排水管設置歩掛の内に含まれるものとする。<br>3．配水管（塩ビ管）の設置歩掛について<br>フレキシブルジョイント、伸縮管等を含めた流芯延長を算出しその延長について、橋梁排水管歩掛を適用する。<br>4．橋梁排水管設置と鋼橋架設を同時に発注する場合は、排水管設置については、排水管設置の歩掛を適用する。 |
| 7 | 20 | 橋台・橋脚工（構造物単位） | 設計本体コンクリート数量に含まれない付属物の積算<br>① コンクリート<br>第Ⅱ編第４章①コンクリート工による<br>② 型枠<br>第Ⅱ編第４章②型枠工による<br>③ その他<br>その他必要に応じ基準書により積上げる |

## ［3］ 独自基準

（令和２年２月 29 日まで適用）

**な し**

（令和２年３月１日以降適用）

### 土木工事標準積算基準書（共通編） 第Ⅳ編 道路

#### 第7章 橋梁工／①鋼橋製作工 3. 鋼橋制作費

３－２ 製作工労務単価 を次のとおり読み替える。
工場製作における工数単価（直接労務費）は 27，500 円とする。

# 第Ⅴ編　公　園

第１章　公園植栽工----------Ⅴ-1
第２章　基盤整備----------Ⅴ-3
第３章　施設整備----------Ⅴ-5

令和元年度建設工事積算基準

# 第１章　公園植栽工

## ［1］ 適用基準

土木工事標準積算基準書（河川・道路編） 第Ｖ編　公園

第1章　公園植栽工／ ①公園植栽工及び②公園除草工 による。

（③公園工は、適用しない。）

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

な し

# 第２章　基盤整備

## ［1］ 適用基準

① 敷地造成工 ～ ② 擁壁工 については、

公園緑地工事標準歩掛

Ⅰ 基盤整備 ／1敷地造成工 ～2擁壁工 による。

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

公園緑地工事業準歩掛の単価表に記載のコード名称（W○○○○等）については、適用しない。

### ② 擁壁工

２－３－４雑割石－縁石積、２－３－８雑石－練石積、２－３－１０雑石－練石張、２－３－１１割石積の単価表について、積算システムにおいては単価表の項目に胴込コンクリート（m3）を含む。

# 第３章　施設整備

## ［1］ 適用基準

① 給水設備工 ～ ⑧ 施設仕上げ工 については、

公園緑地工事標準歩掛

Ⅱ 施設整備 ／1給水設備工～8施設仕上げ工 による。

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

な し

# 第Ⅶ編　電気通信（積算）

第１章　総則----------Ⅶ-1
第２章　工事費の積算----------Ⅶ-1
第３章　一般管理費等及び消費税相当額----------Ⅶ-1
第４章　その他----------Ⅶ-1

令和元年度建設工事積算基準

# 第１章 総則 ～ 第４章 その他

## ［1］ 適用基準

土木工事標準積算基準書(電気通信編) 第Ⅶ編 積算

第1章 総則 ～ 第4章 その他 による。

## ［2］ 運用基準

なし

## ［3］ 独自基準

### 第２章 工事費の積算

### ①機器･材料費等の区分

（令和２年３月３１日まで）
土木工事積算基準書（電気通信編）／第Ⅶ編 積算／第２章 工事費の積算／①機器・材料費等の区分／別表第１ 機器・材料等の区分（Ⅶ-2-1、Ⅶ-2-2）

（令和２年４月１日以降適用）

別表 第１

機器・材料等の区分

| 設備等名称 | 機　器 | 材　料 | 鋼構造製作物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 多重無線通信装置 | ① 多重無線装置<br>② 空中線及びレドーム<br>③ 伝送装置、端局装置及び同ユニット<br>④ 遠方監視制御装置、回線監視装置<br>⑤ 上記①～④に類する装置 | ① ケーブル・電線<br>② 電線管等管路材及び付属品<br>③ 導波管<br>④ 避雷針、避雷器、接地材<br>⑤ ケーブルラック | ① 通信鉄塔<br>② 反射板構造物<br>③ 空中線取付架台<br>④ ケーブルラック等鉄塔付帯設備（鉄塔と一体のもの）<br>⑤ 反射板面 | |
| テレメータ設備 | ① 監視局の無線装置、空中線、分配器、同軸避雷器、操作卓、プリンター、表示盤<br>② 観測局、中継局等の無線装置、空中線、同軸避雷器、雨量計又は水位計、直流電源装置、太陽電池電源装置<br>③ 上記①、②に類する装置 | ① ケーブル・電線<br>② 電線管等管路材及び付属品<br>③ 避雷針、避雷器、接地材<br>④ パンザーマスト<br>⑤ 空中線取付金具 | | |

機器・材料等の区分

| 設備等名称 | 機　器 | 材　料 | 鋼構造製作物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 放流警報設備 | ① 制御監視局の無線装置、空中線、分配器、同軸避雷器、操作卓、タイプライタ、表示盤<br>② 警報局の無線装置、空中線、同軸避雷器、サイレン及びサイレン制御盤、拡声器及び音声増幅装置、放流警報表示機及び同制御盤等<br>③ 中継局はテレメータ設備に準じる<br>④ 上記①、②に類する装置 | ① ケーブル・電線<br>② 電線管等管路材及び付属品<br>③ 避雷針、避雷器、接地材<br>④ パンザーマスト | ① 表示機支柱構造物 | |
| 移動体通信設備 | ① 総括局、統制局の主制御装置、データ回線終端装置、表示制御装置、監視制御端末、時計装置及び監視表示盤<br>② 基地局の基地局装置、空中線共用装置及び空中線、同軸避雷器<br>③ 移動局の携帯型及び車載型移動局装置<br>④ 上記①～③に類する装置 | ① ケーブル・電線<br>② 電線管等管路材及び付属品<br>③ 避雷針、避雷器、接地材<br>④ 空中線取付金具 | | |
| 衛星通信地球局設備 | ① 固定型衛星地球局のアンテナ装置、送受信装置、個別通信端局装置、画像端局装置及び回線制御装置<br>② 可搬型衛星通信地球局のアンテナ装置、送受信装置、端局装置、小型交換装置、画像端局装置、画像設備及び車輌・付帯設備<br>③ 上記①、②に類する装置 | ① ケーブル・電線<br>② 電線管等管路材及び付属品<br>③ 導波管<br>④ 避雷針、避雷器、接地材 | | |
| 電話交換設備 | ① 自動電話交換装置の本体、操作卓、電話機<br>② 電話交換設備に付帯するネットワーク装置、変換装置、接続装置<br>③ 上記①、②に類する装置 | ① ケーブル・電線及び配線材料<br>② 電線管等管路材及び付属品<br>③ 避雷器、保安器<br>④ 壁掛形中継端子盤 | | |

## ②機器単体費

機器単体費の価格については「建設工事積算基準　第Ⅰ編第２章　工事の積算」における「①直接工事費１材料費　（２）価格」によるものとする。

ただし、見積により単価決定する場合は、異常値（徴収した見積り全ての平均値の±３０％を超えるもの）を除いた最低値とする。

なお、物価資料に掲載されている価格で、荷渡し場所が「都市内現場持ち込み」となっているもの、特別資材調査あるいは見積により設定した価格で「現場渡し価格」となっているものについては、輸送費を計上しない。

## ④直接工事費

２　材料費　を次のとおり読み替える。

材料費の価格については、「建設工事積算基準　第Ⅰ編第２章　工事の積算」における「①直接工事費　１材料費　（２）価格」によるものとする。

## ⑤間接工事費

（令和２年３月３１日まで）

土木工事積算基準書（電気通信編）／第Ⅶ編 積算／第２章 工事費の積算／⑤間接工事費／別表 第４　機器管理費率の補正、(2)算定式（Ⅶ-2-14）

（令和２年４月１日以降適用）

別表　第４

機器管理費率の補正

| 種　　別 | 補正係数 |
|---|---|
| 機器製作及び据付調整を行う場合 | 1.0 |
| 機器製作のみを行う場合 | 0.5 |
| 機器を支給する場合 | 0.5 |
| 機器移設する場合 | 0.5 |
| 上記を複合した場合 | 補正係数算定式により算出された係数（h） |

（注１）別表第３で求めた機器管理費率に当該補正係数を乗じて得た率は、小数点以下第３位を四捨五入して2位止めとする。

(2) 算定式

［補正係数算定式］

$$h = \frac{E_a + (E_b + E_c + E_d) \times 0.5}{E}$$

ただし　h　：補正係数

E　：対象額（機器単体費の合計）［単位：円］

$E_a$　：Eのうち機器製作及び据付調整を行う機器の機器単体費計［単位：円］

$E_b$　：Eのうち機器製作のみを行う機器の機器単体費計［単位：円］

$E_c$　：Eのうち支給する機器の機器単体費相当額計［単位：円］

$E_d$　：Eのうち移設する機器の機器単体費相当額計［単位：円］

（注）hの値は、小数点以下第３位を四捨五入して２位止めとする。

# 第Ⅷ編　電気通信（歩掛）

第１章　一般事項----------Ⅷ-1
第２章　共通設備----------Ⅷ-3
第３章　電気設備----------Ⅷ-5
第４章　通信設備----------Ⅷ-7
第５章　電子応用設備----------Ⅷ-9

令和元年度建設工事積算基準

# 第１章　一般事項

## ［1］ 適用基準

土木工事標準積算基準書（電気通信編） 第Ⅷ編 歩掛

第1章 一般事項／ 第1節一般事項 による。

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

な し

# 第２章　共通設備

## ［1］ 適用基準

土木工事標準積算基準書（電気通信編） 第Ⅷ編 歩掛

第2章 共通設備／ 第1節共通設備工 ～第2節工場製品輸送工 による。

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

な し

# 第３章　電気設備

［1］ 適用基準

土木工事標準積算基準書（電気通信編） 第Ⅷ編 歩掛

第3章 電気設備／ 第1節受変電設備工 ～第12節道路照明維持補修工 による。

［2］ 運用基準

な し

［3］ 独自基準

次ページ以降に記載

# 第6節　道路照明設備工

## ①　道路照明設備設置工

以下を追記する。

**4　単価表**

道路照明灯１基当り単価表（例：局部照明標準タイプ）

| 名　称 | 種　別 | 規　格 | 数量 | 単位 | 施工歩掛コード |
|---|---|---|---|---|---|
| ポール建柱 | | | 1 | 基 | SSMN2711 |
| 材料費 | テーパポール | 建設省型 | 1 | 本 | |
| | アンカーボルト | （ベース型ポールの場合） | 1 | 式 | |
| 照明器具取付 | | | | 台 | SSMN2710 |
| 灯具類 | 灯具 | KSC－4 | | 個 | |
| | ランプ | HF－300W | | 個 | |
| | 安定器 | 200V－300W 高力率型 | | 個 | |
| | 開閉器 | | | 個 | |
| | 引込硝子 | 自在バンド付 | | 個 | |
| | ターミナルキャップタ | 22φ | | 個 | |
| | ケーブル | 2RNCT，2m/m－2 | | m | |
| | 電線 | 1V　2m/m | | m | |
| 分電盤設置 | | | 1 | 面 | SSMN2710 |
| 材料費 | 分電盤 | | 1 | 台 | |
| 自動点滅器設置 | | | 1 | 個 | SSMN2710 |
| 材料費 | 自動点滅器 | 200V－6A　直付形 | 1 | 個 | |
| 接地 | | | 1 | 極 | SSMN2710<br>接地（D種） |
| 材料費 | 接地棒 | ND式　10×1,500 | 1 | 本 | |
| | リード端子 | 10φ用 | 1 | 個 | |
| 計（1基当り） | | | | | |

（注）　1.　材料単価は、建設工事積算基準第15編単価、物価資料、及び見積等による。

2.　基礎工及び塗装費は別途計上する。基礎工は、「第６節④照明灯基礎設置工」により、塗装は「建設工事積算基準第Ⅳ編第３章⑧道路附属構造物塗替工」による。

3.　接地（D種）は、1.5m程度までの接地棒を使用し、他の基礎等の床掘箇所から水平距離でおおむね 3m 以内に打込む場合に適用し、歩掛には床掘、埋戻及び接地抵抗の測定を含む。

**４．種別・規格・数量については、例示であり、現場に合わせて設計すること。**

## ④　照明灯基礎設置工

３標準歩掛３－１基礎掘削及びスパイラルダクト立込

以下を追記する。

（注）１．アースオーガは、トラック式アースオーガ[建柱式]とし、規格は下記を標準とする。なお、現場条件等これにより難い場合は別途考慮する。

オーガ径：450mm　　ブーム長：7.8m　　吊能力：2t 吊

２．アースオーガ運転は、「建設工事積算基準第Ⅰ編 第６章 ③機械運転単価表」の機-1により積算すること。

# 第４章　通信設備

［1］ 適用基準

土木工事標準積算基準書（電気通信編） 第Ⅷ編 歩掛

第4章 通信設備／ 第1節多重無線設備工 ～第19節通信鉄塔・反射板設置工 による。

［2］ 運用基準

な し

［3］ 独自基準

な し

# 第５章　電子応用設備

## ［1］ 適用基準

土木工事標準積算基準書（電気通信編） 第Ⅷ編　歩掛

第5章　電子応用設備／　第1節共通設備工　～第9節システム・インテグレーション　による。

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

な し

# 第Ⅸ編　機械設備

第１章　一般共通----------Ⅸ-1
第２章　水門設備----------Ⅸ-1
第３章　ゴム引布製起伏ゲート設備----------Ⅸ-1
第４章　揚排水ポンプ設備----------Ⅸ-1
第５章　ダム施工機械設備----------Ⅸ-1
第６章　トンネル換気設備----------Ⅸ-1
第７章　トンネル非常用設備----------Ⅸ-1
第８章　消融雪設備----------Ⅸ-1
第９章　道路排水設備----------Ⅸ-1
第１０章　共同溝付帯設備----------Ⅸ-1
第１１章　駐車場設備----------Ⅸ-1
第１２章　車両重量計設備----------Ⅸ-1
第１３章　車両計測設備----------Ⅸ-1
第１４章　道路用昇降設備----------Ⅸ-1
第１５章　ダム管理設備----------Ⅸ-1
第１６章　遠方監視操作制御設備----------Ⅸ-1
第１７章　河川浄化設備----------Ⅸ-1
第１８章　鋼製付属設備----------Ⅸ-1
第１９章　塗装----------Ⅸ-1
第２０章　機械設備点検・整備業務----------Ⅸ-5
第２１章　機械設備設計業務委託----------Ⅸ-7

令和元年度建設工事積算基準

# 第１章 一般共通 ～ 第１９章 塗装

## [1] 適用基準

機械設備工事積算基準 第2編 機械設備工事積算基準

第1章 一般共通 ～ 第19章 塗装 による。

（機械設備工事積算基準 第1編 積算基準等通達資料 は適用しない。）

## [2] 運用基準

な し

## [3] 独自基準

### 第１章 第５請負工事の積算 ２据付工事原価 2－2 間接工事費 (1)共通仮設費

（ト）施工地域を考慮した共通仮設費率の補正及び計算

a 次表の適用条件に該当する場合，施工地域を考慮した共通仮設費率の補正は，表－1・6 の共通仮設費率に次表の補正係数を乗じるものとする。

**地域補正の適用**

| 適用条件 | | | 補正係数 | 適用優先 |
|---|---|---|---|---|
| 施工地域区分 | 工種区分 | 対象 | | |
| 一般交通影響有り(1) | 全ての工種（注 1） | 2 車線以上（片側 1 車線以上）かつ交通量（上下合計）が 5,000 台／日以上の車道において、車線変更を促す規制を行う場合。ただし，常時全面通行止めの場合は対象外とする。 | 1.3 | 1 |
| 一般交通影響有り(2) | 全ての工種（注 1） | 一般交通影響有り(1)以外の車道において，、車線変更を促す規制を伴う場合。(常時全面通行止めの場合を含む。) | 1.2 | 2 |
| 市街地（DID 補正） | 全ての工種（注 1） | 市街地部が施工箇所に含まれる場合。 | 1.2 | 3 |
| 離 島 | 全ての工種（注 1） | | 1.3 | 4 |

（注）1. コンクリートダム及びフィルダム工事は適用しない。

2. 施工地域区分は以下のとおりとする。

・市 街 地：

施工地域が人口集中地区（DID 地区）及びこれに準ずる地区をいう。

なお，DID 地区とは，総務省統計局国勢調査による地域別人口密度が 4,000 人／$km^2$ 以上でその全体が 5,000 人以上となっている地域をいう。(松江市、出雲市、益田市、浜田市、安来市の一部)

これに準ずる地区とは、総務省が規定する「準人口集中地区」という。

b 適用条件の複数に該当する場合の取扱い

適用条件の複数に該当する場合は，適用優先順に従い決定するものとする。

c その他

イ）災害の発生等により、本基準において想定している状況と実態が乖離している場合などについては、上記 a の他、必要に応じて実態等を踏まえた補正係数を設定することができるものとする。

ロ）設計変更時における共通仮設費率の補正については，工事区間の延長等により当初計上した補正値に増減が生じた場合，あるいは当初計上していなかったが，上記条件の変更により補正出来ることとなった場合は設計変更の対象として処理するものとする。

## 第１章　第５請負工事の積算　２据付工事原価　2－2 間接工事費　(2)現場管理費

7)施工地域を考慮した現場管理費率の補正及び計算

a　施工地域を考慮した現場管理費率の補正は，表－1・7 の現場管理費率に次表の補正係数を乗じるものとする。

**地域補正の適用**

| 適用条件 | | | 補正係数 | 適用優先 |
|---|---|---|---|---|
| 施工地域区分 | 工種区分 | 対象 | | |
| 一般交通影響有り(1) | 全ての工種（注 1） | 2 車線以上（片側 1 車線以上）かつ交通量（上下合計）が 5,000 台／日以上の車道において、車線変更を促す規制を行う場合。ただし，常時全面通行止めの場合は対象外とする。 | 1.1 | 1 |
| 一般交通影響有り(2) | 全ての工種（注 1） | 一般交通影響有り(1)以外の車道において，車線変更を促す規制を伴う場合。(常時全面通行止めの場合を含む。) | 1.1 | 2 |
| 市街地（DID 補正） | 全ての工種（注 1） | 市街地部が施工箇所に含まれる場合。 | 1.1 | 3 |
| 離　　島 | 全ての工種（注 1） | | 1.0 | 4 |

（注）1.　コンクリートダム及びフィルダム工事は適用しない。

2.　施工地域区分は以下のとおりとする。

・市　街　地：

施工地域が人口集中地区（DID 地区）及びこれに準ずる地区をいう。

なお，DID 地区とは，総務省統計局国勢調査による地域別人口密度が 4,000 人／$km^2$ 以上でその全体が 5,000 人以上となっている地域をいう。(松江市、出雲市、益田市、浜田市、安来市の一部)

これに準ずる地区とは、総務省が規定する「準人口集中地区」という。

b　適用条件の複数に該当する場合の取扱い

適用条件の複数に該当する場合は，適用優先順に従い決定するものとする。

c　その他

イ）災害の発生等により、本基準において想定している状況と実態が乖離している場合などについては、上記 a の他、必要に応じて実態等を踏まえた補正係数を設定することができるものとする。

ロ）設計変更時における共通仮設費率の補正については，工事区間の延長等により当初計上した補正値に増減が生じた場合，あるいは当初計上していなかったが，上記条件の変更により補正出来ることとなった場合は設計変更の対象として処理するものとする。

## 第１章　第５請負工事の積算　４一般管理費等　(2)一般管理費等率

（令和２年３月３１日まで適用）

国土交通省機械設備工事積算基準／第２編 機械設備工事積算基準／第１章 一般共通／第５ 請負工事の積算／4 一般管理費等

（令和２年４月１日以降適用）

表－1･10　標準一般管理費等率

| 対　象　額 | 標準一般管理費等率 |
|---|---|
| ５００万円以下 | ２７．００％ |
| ５００万円を超え<br>３０億円以下 | $G_1$＝－２．９６４８Ｌｏｇ（$C_1$）＋４６．８６２<br>ただし、$G_1$：標準一般管理費等率（％）<br>$C_1$：対象額（円） |
| ３０億円を超えるもの | １８．７６％ |

（注）$G_1$の値は、小数点以下第３位を四捨五入して第２位止めとする。

## 第1章　一般共通　基準の解説

［解］6　材料費等の価格等の取り扱い　（２）材料費等　を、次のとおり読み替える。

材料費の価格については、「建設工事積算基準　第Ｉ編第２章　工事の積算」における「①直接工事費　１材料費　（２）価格」によるものとする。また、標準歩掛のない労務工数については、見積り等をもとに決定するものとする。

機器単体費の価格については「建設工事積算基準　第Ｉ編第２章　工事の積算」における「①直接工事費　１材料費　（２）価格」によるものとする。

ただし、見積により単価決定する場合は、異常値（徴収した見積り全ての平均値の±３０％を超えるもの）を除いた最低値とする。

なお、物価資料に掲載されている価格で、荷渡し場所が「都市内現場持ち込み」となっているもの、特別資材調査あるいは見積により設定した価格で「現場渡し価格」となっているものについては、輸送費を計上しない。

［解］7　随意契約方式により工事を発注する場合の共通仮設費，現場管理費，設計技術費及び一般管理費等の調整　を、次のとおり読み替える。

建設工事積算基準 第Ｉ編 第４章によるものとする。

# 第２０章　機械設備点検・整備業務

## [1] 適用基準

**① 一般共通 ～ ⑥ 消融雪設備については、**

**機械設備工事積算基準 第3編 機械設備点検･整備積算基準**

**第1章 一般共通 ～ 第6章 消融雪設備 による。**

## [2] 運用基準

**な し**

## [3] 独自基準

### ① 一般共通 ４ 点検･整備費の積算

４－１点検・整備原価

（３）直接労務費３）を、次のとおり読み替える。

点検整備工の賃金は、建設工事積算基準（島根県農林水産部・土木部）第 15 編単価を適用する。

（５）共通仮設費５）派遣費（ロ）を、次のとおり読み替える。

旅費、日当、宿泊費は島根県の「職員の旅費に関する条例」及び「同条例施行規則」に準じて積算するものとする。

（５）共通仮設費　６）宿泊費を、次のとおり読み替える。

宿泊費については，共通仮設費率に含まれていないので，現地での作業開始日から終了日までの作業期間における宿泊費を必要に応じて積上げるものとする。この場合の費用算定は，島根県の「職員の旅費に関する条例」及び「同条例施行規則」に準じて積算するものとする。ただし宿泊費は直接労務費中の点検整備工にのみ計上し，公共工事設計労務単価を適用する普通作業員等は，現地採用とし，計上しないものとする。

なお，宿泊費は現場管理費及び一般管理費等の算定の対象とする。

４－２一般管理費等

（令和２年３月３１日まで適用）

国土交通省機械設備工事積算基準／第３編 機械設備点検・整備積算基準／第１章 一般共通／4 点検・整備費の積算／4-2 一般管理費等

（令和２年４月１日以降適用）

表－1･6　標準一般管理費等率（前払金のない場合）

| 対　象　額 | 標準一般管理費等率 |
|---|---|
| ５０万円以下 | ２５．５５％ |
| ５０万円を超えるもの | Ｇ＝－０．７４０２Ｌｏｇ（Ｃ）＋２９．７６<br>ただし、Ｇ：標準一般管理費等率（％）<br>Ｃ：対象額（円） |

（注）Ｇの値は、小数点以下第３位を四捨五入して第２位止めとする。

# 第２１章　機械設備設計業務委託業務

## [1] 適用基準

① 一般共通 ～ ⑨ 遠方監視操作制御設備については、

機械設備工事積算基準 第4編 機械設備設計業務委託積算基準

第1章 一般共通 ～ 第9章 遠方監視操作制御設備による。

## [2] 運用基準

な し

## [3] 独自基準

### ① 一般共通 ４ 業務委託料の積算

４－１建設コンサルタントに委託する場合

（２）各種構成要素の算定　２）直接経費を、次のとおり読み替える。

直接経費は、３－１（２）の各項目について必要額を積算するものとし、旅費交通費については、業務委託積算基準第１編第２章１－３旅費交通費により積算するものとする。

３－１（２）の各項目以外の必要額については、その他原価として計上する。

# 第１０編　下水道

## ［1］ 適用基準

**下水道用設計標準歩掛表　第1巻管路、第2巻ポンプ場・処理場　による。**

## ［2］ 運用基準

**な し**

## ［3］ 独自基準

### ① 総則

下水道用設計標準歩掛表 第１巻管路及び第２巻ポンプ場・処理場施設（土木）編を適用する場合の総則は、「建設工事積算基準第Ⅰ編総則」によるものとする。

下水道用設計標準歩掛表 第２巻ポンプ場・処理場施設（機械設備）編、（電気設備）編、（建築・建築設備）編を適用する場合の総則は、下水道用設計標準歩掛表 第２巻ポンプ場・処理場施設各編によるものとする。

### ② 一般管理費等

（令和２年４月３０日まで適用）

下水道用設計標準歩掛表 第２巻 ポンプ場・処理場編（機械設備）／Ⅱ 下水道事業における機械設備請負工事工事費積算基準の運用／２．一般管理費等／（２）一般管理費等率／①標準一般管理費等率

（令和２年５月１日以降適用）

① 標準一般管理費等率は，（式－９）による。

Ｙ＝－2.9648LogＸ＋46.862……（式－９）

Ｙ：標準一般管理費等率〔％〕

（算出した値は，小数点以下３位を四捨五入し，２位止めとする。）

Ｘ：工事原価〔円〕

ただし，上下限の率は次による。

Ｘ≦ 5,000,000〔円〕はＹ＝27.00〔％〕

Ｘ＞3,000,000,000〔円〕はＹ＝18.76〔％〕

令和元年度建設工事積算基準

# 第１１編　港湾・漁港漁場整備

第１１－１編　港湾----------11-1
第１１－２編　漁港漁場整備----------11-3
第１１－３編　港湾・漁港漁場整備共通----------11-5

令和元年度建設工事積算基準

# 第１１－１編　港湾

## ［1］ 適用する基準

港湾土木請負工事積算基準 による。

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

### 第1部 港湾土木請負工事積算基準

### 第2章 工事費の積算

#### 1節 直接工事費

２．　一般事項

２－１　労務費

労務費については、以下による。

・建設工事積算基準／第Ｉ編／第２章／①直接工事費／２労務費

２－２　材料費

２－２－１　材料単価

材料単価については、以下による。

・建設工事積算基準／第Ｉ編／第２章／①直接工事費／１材料費

補足資料－１　直接工事費

５．　賃料の取扱い

１）賃料の端数処理、更新等については、以下によることを原則とする。

（１）賃料

賃料については、以下による。

・建設工事積算基準／第Ｉ編／第２章／①直接工事費／１材料費

#### 2節 間接工事費

２．共通仮設費

２－３　運搬費

運搬費については、以下による。

・建設工事積算基準／第Ｉ編／第２章／②間接工事費／２共通仮設費／２－２運搬費

３．　現場管理費

３－１　積算方法等

３－１－１　積算方法

（令和２年４月３０日まで適用）

・建設工事積算基準／第Ⅰ編／第２章／②間接工事費／３現場管理費／3-1-1 積算方法／表－③

（令和２年５月１日以降適用）

表－③　現場管理費率

| 対象額 / 適用区分等 / 工種区分 | | 700 万円以下 | 700 万円を超え 20 億円以下 | | 20 億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 下記の率とする | 算定式により算出された率とする。ただし、定数値は下記による | | 下記の率とする |
| | | | a | b | |
| 港湾工事 | 浚 渫 工 事 | 23.71 % | 99.2 | -0.0908 | 14.19 % |
| | 構造物工事 | 24.36 % | 46.7 | -0.0413 | 19.28 % |

| 対象額 / 適用区分等 / 工種区分 | 700 万円以下 | 700 万円を超え 10 億円以下 | | 10 億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする | 算定式により算出された率とする。ただし、定数値は下記による | | 下記の率とする |
| | | a | b | |
| 海 岸 工 事 | 27.79 % | 113.9 | -0.0895 | 17.82 % |

３－１－２　現場管理費率の補正

１）施工時期、工事期間等による補正については、適用しない。

# 第3章 直接工事費の施工歩掛

## 4節 本体工

４．１　ケーソン式

３．　ケーソン進水据付工

３－８　回航・えい航

３－８－３　ケーソン回航

３－８－３－２　回航費の積算

３）運転費の算出

（４）乗船手当

乗船手当は、下表のとおりとする。

| 職　種 | 乗船手当 | 摘　　要 |
|---|---|---|
| 普通船員 | 1,918 円 | 島根県職員の旅費に関する条例施行規則第１０条(航海日当）に準じる。<br>金額は消費税を含まない金額である。 |
| 船団長<br>高級船員 | 2,154 円 | |

# 第4章 市場単価

１．　市場単価の調査方法および決定方法

１－３　適用にあたっての主な留意事項

離島についても、市場単価を適用する。

１－４　市場単価の公表

市場単価の公表については、以下による

・建設工事積算基準／第Ｉ編／第２章／①直接工事費／１材料費

# 第5章 間接工事費の施工歩掛

## 1節 回航･えい航費

２．　回航

２－３　回航の積算

２－３－２　運転費の算出

（６）乗船手当

乗船手当は、下表のとおりとする。

| 職　種 | 乗船手当 | 摘　　要 |
|---|---|---|
| 普通船員 | 1,918 円 | 島根県職員の旅費に関する条例施行規則第１０条(航海日当）に準じる。<br>金額は消費税を含まない金額である。 |
| 船団長<br>高級船員 | 2,154 円 | |

２－３－６　旅費等の算出

（２）旅費等の算出方法

旅費は、「業務委託積算基準／総則／第２章／第１節／１－３旅費交通費」を参考に適切に計上する。

## 2節 運搬費

運搬費については、以下による。

・建設工事積算基準／第Ｉ編／第２章／②間接工事費／２共通仮設費／２－２運搬費

# 第１１－２編　漁港漁場整備

## ［1］ 適用基準

漁港漁場関係工事積算基準 による。

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

### 第1部 漁港漁場関係事業請負工事費積算基準

### 第2章 工事費の積算

#### 1節 直接工事費

２．　一般事項

２－１　労務費

労務費については、以下による。

・建設工事積算基準／第Ｉ編／第２章／①直接工事費／２労務費

２－２　材料費

２－２－１　材料単価

材料単価については、以下による。

・建設工事積算基準／第Ｉ編／第２章／①直接工事費／１材料費

補足資料－１　直接工事費

５．　市場単価・賃料の取扱い

１）市場単価・賃料の端数処理、更新等については、以下によることを原則とする。

（１）市場単価

市場単価については、以下による

・建設工事積算基準／第Ｉ編／第２章／①直接工事費／１材料費

（２）賃料

賃料については、以下による。

・建設工事積算基準／第Ｉ編／第２章／①直接工事費／１材料費

#### 2節 間接工事費

２．　共通仮設費

２－３　運搬費

運搬費については、以下による。

・建設工事積算基準／第Ｉ編／第２章／②間接工事費／２共通仮設費／２－２運搬費

３．　現場管理費

３－１　積算方法等

３－１－１　積算方法

（令和２年４月３０日まで適用）

・建設工事積算基準／第Ⅰ編／第２章／②間接工事費／３現場管理費／3-1-1 積算方法／表－③

（令和２年５月１日以降適用）

表－③　現場管理費率

| 対象額 / 適用区分等 / 工種区分 | | 700 万円以下 | 700 万円を超え 20 億円以下 | | 20 億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 下記の率とする | 算定式により算出された率とする。ただし、定数値は下記による | | 下記の率とする |
| | | | a | b | |
| 漁港漁場関係工事 | 浚 渫 工 事 | 23.71 % | 99.2 | -0.0908 | 14.19 % |
| | 構造物工事 | 24.36 % | 46.7 | -0.0413 | 19.28 % |

| 対象額 / 適用区分等 / 工種区分 | 700 万円以下 | 700 万円を超え 10 億円以下 | | 10 億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする | 算定式により算出された率とする。ただし、定数値は下記による | | 下記の率とする |
| | | a | b | |
| 海 岸 工 事 | 27.79 % | 113.9 | -0.0895 | 17.82 % |

３－１－２　現場管理費率の補正

１）施工時期、工事期間等による補正については、適用しない

# 第3章 直接工事費の施工歩掛

## 4節 本体工

４．１　ケーソン式

３．　ケーソン進水据付工

３－８　回航・えい航

３－８－３　ケーソン回航

３－８－３－２　回航費の積算

３）運転費の算出

（４）乗船手当

乗船手当は、下表のとおりとする。

| 職　種 | 乗船手当 | 摘　　要 |
|---|---|---|
| 普通船員 | 1,918 円 | 職員の旅費に関する条例施行規則第１０条（航海日当）に準じる。<br>金額は消費税を含まない金額である。 |
| 船団長<br>高級船員 | 2,154 円 | |

# 第4章 市場単価

１．　市場単価の調査方法および決定方法

１－３　適用にあたっての主な留意事項

離島についても、市場単価を適用する。

１－４　市場単価の公表

市場単価の公表については、以下による。

・建設工事積算基準／第Ⅰ編／第２章／①直接工事費／１材料費

# 第5章 間接工事費の施工歩掛

## 1節 回航･えい航費

２．　回航

２－３　回航費の積算

２－３－２　運転費の算出

（６）乗船手当

乗船手当は、下表のとおりとする。

| 職　種 | 乗船手当 | 摘　　要 |
|---|---|---|
| 普通船員 | 1,918 円 | 職員の旅費に関する条例施行規則第１０条（航海日当）に準じる。<br>金額は消費税を含まない金額である。 |
| 船団長<br>高級船員 | 2,154 円 | |

２－３－６　旅費等の算出

（２）旅費等の算出方法

旅費は、「業務委託積算基準／総則／第２章／第１節／１－３旅費交通費」を参考に適切に計上する。

## 2節 運搬費

運搬費については、以下による。

・建設工事積算基準／第Ⅰ編／第２章／②間接工事費／２共通仮設費／２－２運搬費

# 第１１－３編　港湾・漁港漁場整備共通

## [1] 適用基準

なし

## [2] 運用基準

なし

## [3] 独自基準

### 第1章 港湾･漁港漁場関係請負工事積算基準を準拠するうえでの留意事項

**１．　共通仮設費・現場管理費率の施工地域、工事場所による補正**

施工地域の区分は以下のとおりとして補正値を求めるものとし、積算システムの「市街地補正」を入力する際は留意のこと。

また、一般交通等の影響を受ける場合とは、次のとおり。

・工事場所において、船舶交通・一般交通の影響を受ける場合
・工事場所において、地下埋設物件の影響を受ける場合
・工事場所において、50m 以内に人家等が連なっている場合

１）港湾

重要港湾、地方港湾（１）：浜田、西郷、三隅、安来、益田
地方港湾（２）：西郷港を除く離島港湾
地方港湾（３）：上記以外の港湾

| 施工地域・工事場所区分 | | 積算ｼｽﾃﾑ入力ｺｰﾄﾞ |
|---|---|---|
| 重要港湾・地方港湾（１） | | 03　地方部（影響有） |
| 地方港湾（２） | | 02　離島 |
| 地方港湾（３） | 工事場所が一般交通等の影響を受ける場合 | 03　地方部（影響有） |
| | 工事場所が一般交通等の影響を受けない場合 | 04　地方部（影響無） |

２）漁港漁場

市街地に係る漁港漁場：浜田漁港（特三）、西郷漁港（第３種）
離島に係る漁港漁場：西郷漁港を除く離島漁港
その他の漁港漁場：上記以外の漁港

| 施工地域・工事場所区分 | | 積算ｼｽﾃﾑ入力ｺｰﾄﾞ |
|---|---|---|
| 市街地に係る漁港漁場 | | 03　地方部（影響有） |
| 離島に係る漁港漁場 | | 02　離島 |
| その他の漁港漁場 | 工事場所が一般交通等の影響を受ける場合 | 03　地方部（影響有） |
| | 工事場所が一般交通等の影響を受けない場合 | 04　地方部（影響無） |

## ２．　異形ブロック製作におけるベッド賃料の計上について

（港湾：第１部港湾土木請負工事積算基準 P3-8-(2)より）
（漁港：漁港漁場関係工事積算基準 3-8-(2)より）
テトラポッド 32ｔ型以上の製作に当たっては、鋼製ベッド賃料を製作個数分計上する。なお、他のブロックについても必要性を検討のうえ計上できる。

（補足）
他のブロックとは、テトラポッド 32ｔ型未満を含み、メーカーが製作した専用のベッドを有するブロックとし、実際に使用された場合に限り計上する。

## ３．　捨石・被覆石の投入渡し単価が設定されていない場合の取扱いについて

投入渡し単価とすることを基本とし、以下による
・建設工事積算基準／第Ｉ編／第２章／①直接工事費／１材料費

## ４．海上運搬据付等の往復平均えい航距離が１５ｋｍを超える場合について

えい航ルート及び距離を示したうえで見積りによりえい航速度を設定する。

## ５．ブロック運搬据付・撤去工に伴う主作業船舶の回航・えい航費算定について

下表に記載されている工種については、ブロック質量に対する標準的な海上クレーンによらず、積込、据付（撤去）時に必要な吊能力を勘案し適切な主作業船舶の規格を選定すること。

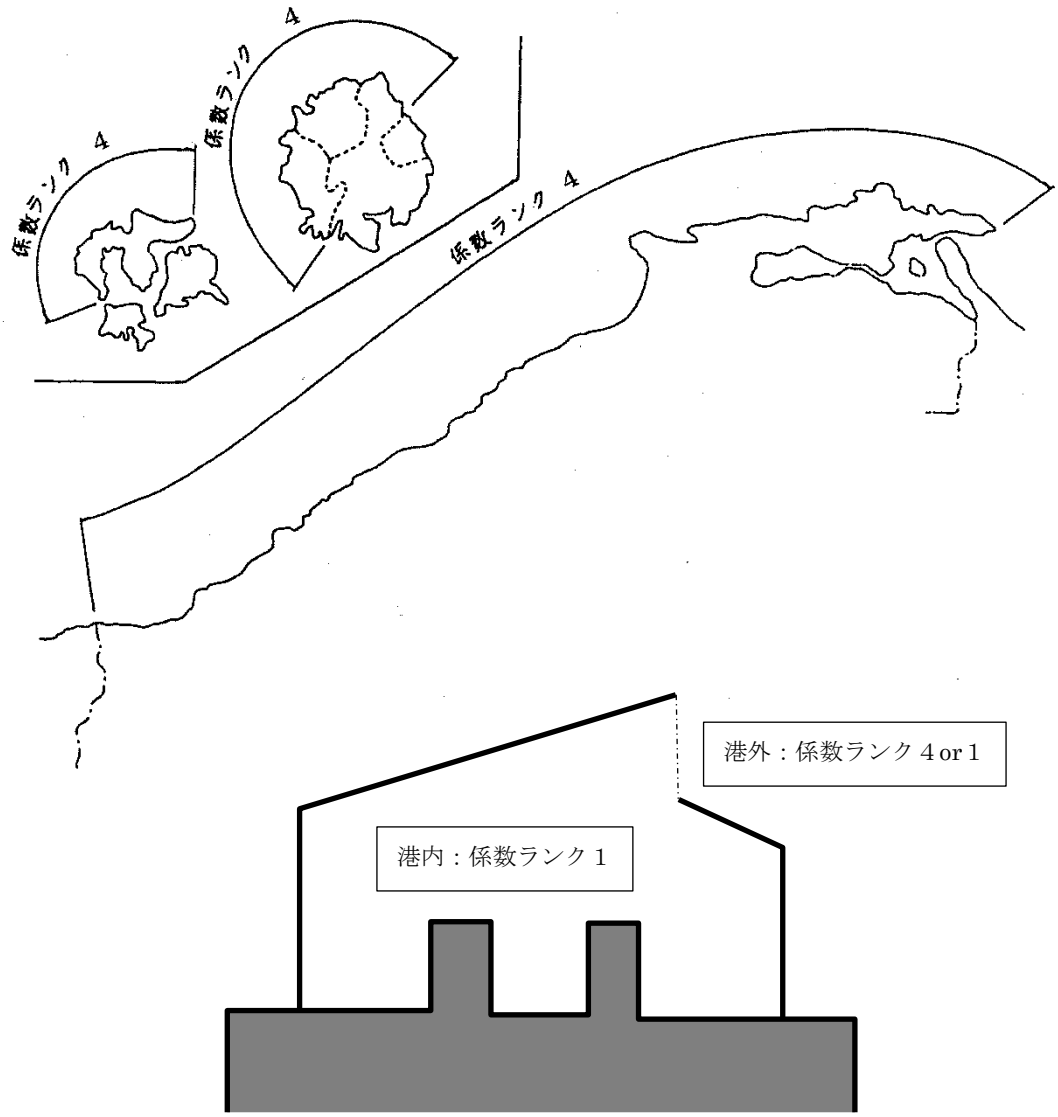
| 工　　種 | 第１部　港湾土木請負工事積算基準<br>漁港漁場関係工事積算基準 |
|---|---|
| ４節本体工(ブロック式) | |
| ブロック転置 | Ｐ３－４．２－１６ |
| ブロック据付 | Ｐ３－４．２－１８ |
| ブロック運搬据付(海上一連方式) | Ｐ３－４．２－２２ |
| ブロック運搬据付(陸海一貫方式) | Ｐ３－４．２－２４ |
| ５節被覆・根固工 | |
| 異形ブロック据付(１スイング) | Ｐ３－５－１５ |
| 異形ブロック運搬据付(海上一連方式) | Ｐ３－５－１７ |
| 異形ブロック運搬据付(陸海一貫方式) | Ｐ３－５－１８ |
| ブロック転置 | Ｐ３－５－３１ |
| ブロック据付(１スイング) | Ｐ３－５－３２ |
| ブロック据付(海上一連方式) | Ｐ３－５－３５ |
| ブロック据付(陸海一貫方式) | Ｐ３－５－３６ |
| ８節消波工 | |
| 異形ブロック転置 | Ｐ３－８－１０ |
| 異形ブロック据付(１スイング) | Ｐ３－８－１１ |
| 異形ブロック運搬据付(海上一連方式) | Ｐ３－８－１５ |
| 異形ブロック運搬据付(陸海一貫方式) | Ｐ３－８－１７ |
| １５節構造物撤去工（港湾）<br>１７節構造物撤去工（漁港） | |
| ブロック撤去 | Ｐ３－１５－１０（港湾）<br>Ｐ３－１７－１０（漁港） |
| ブロック撤去運搬(海上一連方式) | Ｐ３－１５－１２（港湾）<br>Ｐ３－１７－１２（漁港） |

## ６．　共通仮設費の率計算による部分について

第２章工事費の積算／２節間接工事費／２．共通仮設費／２－１－２積算方法／１）率計算による部分／（１）率計算による額の算定については、補足資料－１間接工事費も参照すること。

## ７．県内各港湾・漁港の供用係数

| 係数ランク | 船舶供用係数（α） | 適用する港湾・漁港 |
|---|---|---|
| 1 | 1.65 | 下記以外の各港湾・漁港<br>および、県内全港湾・漁港の港内 |
| 4 | 2.25 | （本土）山口県境～松江市美保関町地蔵崎までの日本海側の各港湾・漁港<br>（隠岐）（旧）西郷町（（旧）五箇村境～（旧）布施村境）、（旧）都万村、（旧）五箇村の各港湾・漁港および西ノ島町の国賀港、三度漁港 |



## 8．コンクリート配合条件及び設計基準強度参考表

| 海水の作用 | 種類 | 耐久性 | 対象構造物 | 設計基準強度 (N/㎟) | 配合条件 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 最大水セメント比 | | スランプ (cm) | 粗骨材の最大寸法 (mm) | 許容塩化物量 (kg/m³) (Cl⁻重量) |
| | | | | | 凍結融解がしばしば繰り返される地域 | 氷点下の気温になることがまれな地域 | | | |
| 海水の作用を受ける | 鉄筋コンクリート | 耐久性の必要度大 | ケーソン<br>ウェル<br>セルラーブロック<br>L型ブロック | ３０ | ５０ | ５０ | １２ | 1)<br>２０，<br>２５，<br>４０ | 2)<br>０．３０<br>以下 |
| | | | 桟橋の橋柱<br>直立消波ブロック | ２４ | ５５ | ５５ | | | |
| | | | 桟橋上部工 | 7)<br>(－)<br>２４ | 7)<br>(－)<br>５５ | 7)<br>(－)<br>５５ | | 1)<br>20,25,40<br>7)<br>(－) | |
| | | | 係船岸上部工、胸壁<br>渡橋、防波堤上部工 | ２４ | ６０ | ６５ | | 1)<br>２０，<br>２５，<br>４０ | |
| | | | 控杭上部工、控壁 | | | ６０ | | | |
| | | 耐久性の必要度小 | | ２１ | － | － | | | |
| | 無筋コンクリート | 耐久性の必要度大 | 係船岸上部工<br>胸壁、水叩き | １８ | ６０ | ６５ | 3)<br>８，<br>１２ | ４０ | － |
| | | | 本体ブロック | | ６５ | | | | |
| | | | 防波堤上部工<br>ケーソン蓋　4) | | | | | | |
| | | | 根固ブロック | | | | | | |
| | | | 袋詰コンクリート | － | | | | | |
| | | | 5)<br>異形ブロック<br>(消波、被覆) | １８<br>(35t型<br>未満) | | | | | |
| | | | | ２１<br>(35t～<br>50t) | | | | | |
| | | 耐久性の必要度小 | | １８ | － | － | | | |
| 海水の作用を受けない | 鉄筋コンクリート | 耐久性の必要度大 | 係船柱基礎(杭式) | ２４ | ６０ | ６５ | １２ | 1)<br>２０，<br>２５，<br>４０ | 2)<br>０．３０<br>以下 |
| | | 耐久性の必要度小 | 本体ブロック | １８ | － | － | | | |
| | 無筋コンクリート | 耐久性の必要度大 | エプロン舗装 | ４．５<br>(曲げ) | － | － | ２．５ | 6)<br>４０ | － |
| | | | 係船柱基礎(重力式) | １８ | ６０ | ６５ | ８ | ４０ | |
| | | 耐久性の必要度小 | 中詰コンクリート<br>中詰ブロック<br>捨てコンクリート | | － | － | | 1)<br>２０，<br>２５，<br>４０ | |

注)　上表は標準的な配合条件を示したものであり、構造物の耐久性を考慮して定めること。

1)「粗骨材の最大寸法」は砕石を使用する場合は20㎜、砂利を使用する場合は25㎜とする。
なお、粗骨材は鉄筋の間隔及び部材厚さに支障のない限り、できるだけ大きいものを用いるものとする。

2)仮設構造物のように、長期の耐久性を期待しなくてもよい場合は除く。

3)環境条件、施工性等を考慮して選択できるものとする。

4)ケーソン蓋は、プレキャスト蓋も含む。

5)呼び重量が50tを超える異形ブロックについては、適宜必要強度を検討する。

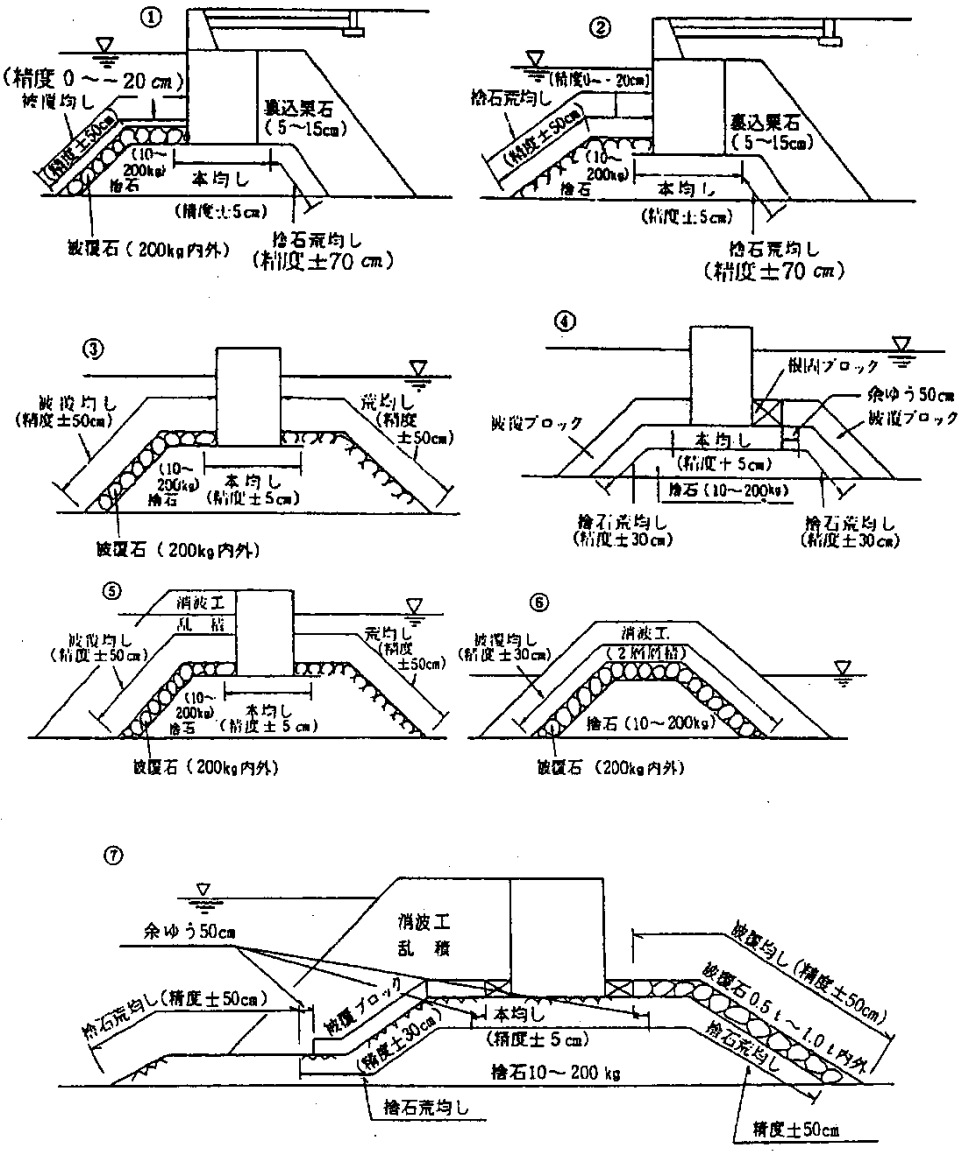
6)舗装厚が10cmの場合は25㎜(砕石の場合20㎜)とする。

7)塩害劣化による著しい性能低下の恐れがある場合には、耐久性(性能の経時変化)に関する検討を行い、施設の要求性能を達成するように配合条件を定めること。

8)漁港漁場工事については、「漁港関係事業設計要領」を適用する。

9)上表は、海岸工事に適用しない。

９．均しの区分、余裕幅




(注) 1．捨石のみを暫定投入する場合は、精度±70cmを設計書に表示し無価とする。

2．異形ブロックを層積する場合被覆均し精度は±30cmとする。

3．被覆石（0.5ｔ内外、１ｔ内外）を使用する場合は荒均し精度±50cmとする。

4．捨石本均しの余裕幅

| 区　　分 | 余裕幅(m) | |
|---|---|---|
| | 片　側 | 両　側 |
| ケ　ー　ソ　ン | 1.0 | 2.0 |
| セルラー・し形・方塊 | 0.5 | 1.0 |
| 場　所　打　ち | 0.5 | 1.0 |

# 第2章 回航距離

1．回航距離は以下を標準とする。なお、作業船舶の基地港は第３章基地港別最大作業船の表－１を原則とする。

（1）港湾

| 基地港 | 回航港 | 片道距離（浬） |
|---|---|---|
| 下関港 | 益田港 | 83 |
| | 浜田港 | 100 |
| | 江津港 | 114 |
| | 温泉津港 | 120 |
| | 宅野港 | 125 |
| | 久手港 | 130 |
| | 田儀港 | 135 |
| | 河下港 | 143 |
| | 七類港 | 167 |
| | 松江港 | 187 |
| | 西郷港 | 212 |
| 益田港 | 遠田港 | 2 |
| | 松原港 | 8 |
| 浜田港 | 松原港 | 9 |
| | 江津港 | 14 |
| 河下港 | | |
| 田儀港 | 小田東港 | 2 |
| | 二俣港 | 9 |
| | 中山港 | 9 |
| 境港 | 江島港 | 1 |
| | 遅江港 | 4 |
| | 波入港 | 5 |
| | 松江港 | 6 |
| | 安来港 | 6 |
| | 才港 | 11 |
| | 軽尾港 | 11 |
| | 諸喰港 | 13 |
| | 温泉津港 | 61 |
| 加賀漁港 | 佐波港 | 3 |
| | 笠浦港 | 7 |
| | 千酌港 | 8 |
| 仙崎港（山口県） | 浜田港 | 55 |

| 基地港 | 回航港 | 片道距離（浬） |
|---|---|---|
| 加賀漁港 | 笹子港 | 11 |
| | 七類港 | 13 |
| 恵曇漁港 | 秋鹿北港 | 2 |
| 五十猛漁港 | 小田東港 | 13 |
| | 魚津港 | 3 |
| | 宅野港 | 2 |
| | 網屋港 | 4 |
| | 温泉津港 | 8 |
| | 江津港 | 14 |
| 久手港 | | |
| 美田港 | 波止港 | 2 |
| | 古海港 | 4 |
| | 来居港 | 5 |
| 諏訪港 | 保々見港 | 6 |
| | 知々井港 | 8 |
| | 御波港 | 9 |
| 別府港 | 宇賀港 | 1 |
| | 物井港 | 0 |
| | 日之津港 | 2 |
| | 須賀港 | 3 |
| | 堤港 | 3 |
| | 姫の浦港 | 9 |
| 西郷港 | 卯敷港 | 9 |
| | 飯美港 | 11 |
| | 西村港 | 13 |
| | 伊後港 | 16 |
| | 代港 | 19 |
| | 重栖港 | 18 |
| | 長尾田港 | 16 |
| | 大津久港 | 11 |

（2）漁港

作業船回航距離一覧表（その１）

| 基地港 | 回航港 | 片道距離（浬） |
|---|---|---|
| 境港 | 美保関 | 4 |
| | 雲津 | 8 |
| 加賀 | 片江 | 9 |
| | 稲積 | 8 |
| | 笠浦 | 8 |
| | 野井 | 7 |
| | 瀬崎 | 6 |
| | 沖泊 | 6 |
| | 多古 | 4 |
| | 野波 | 4 |
| | 大芦 | 2 |
| | 御津 | 3 |
| 恵曇 | 恵曇（片句） | 3 |
| | 恵曇（手結） | 1 |
| | 魚瀬 | 2 |
| 小伊津 | 地合 | 2 |
| | 小伊津（坂浦） | 1 |
| | 小伊津（三浦） | 1 |
| | 唯浦 | 2 |
| 十六島（河下） | 塩津 | 5 |
| | 釜浦 | 4 |
| | 猪目 | 2 |
| | 鵜峠 | 2 |
| | 鷺浦 | 4 |
| | 宇竜 | 6 |
| | 宇竜（日御碕） | 7 |
| | 大社 | 10 |
| | 湖陵 | 13 |
| | 小田 | 16 |
| | 波根東 | 21 |

| 基地港 | 回航港 | 片道距離（浬） |
|---|---|---|
| 十六島（河下） | 柳瀬 | 21 |
| | 鳥井 | 23 |
| | 和江 | 23 |
| | 五十猛 | 26 |
| 浜田 | 仁万 | 26 |
| | 友 | 23 |
| | 湯里 | 22 |
| | 日祖 | 22 |
| | 温泉津 | 21 |
| | 湯戸 | 20 |
| | 今浦 | 19 |
| | 黒松 | 18 |
| | 浅利 | 16 |
| | 和木 | 12 |
| | 波子 | 9 |
| | 唐鐘 | 7 |
| | 津摩 | 5 |
| | 折居 | 6 |
| | 今浦 | 8 |
| | 福浦 | 9 |
| | 古湊 | 10 |
| | 須津 | 11 |
| | 土田 | 13 |
| | 大浜 | 14 |
| | 木部 | 15 |
| | 津田 | 15 |
| | 小浜 | 22 |
| | 飯浦 | 24 |

作業船回航距離一覧表（その１）

| 基地港 | 回航港 | 片道距離（浬） |
|---|---|---|
| 西郷 | 今津 | 5 |
| | 加茂 | 6 |
| | 蛸木 | 7 |
| | 津戸 | 8 |
| | 那久 | 12 |
| | 久見 | 20 |
| | 中村 | 13 |
| | 布施 | 9 |
| | 都万 | 11 |
| | 油井 | 15 |
| | 大久 | 6 |
| | 犬来 | 4 |
| | 箕浦 | 5 |
| 浦郷（美田） | 崎 | 8 |
| | 珍崎 | 1 |
| | 菱浦 | 8 |
| | 多井 | 9 |
| | 豊田 | 13 |
| | 宇受賀 | 11 |
| | 知夫 | 10 |
| | 三度 | 7 |
| 諏訪港 | 菱浦 | 2 |
| | 宇受賀 | 3 |
| | 豊田 | 5 |
| | 高石 | 6 |

| 基地港 | 回航港 | 片道距離（浬） |
|---|---|---|
| 五十猛 | 波根東 | 7 |
| | 柳瀬 | 6 |
| | 鳥井 | 4 |
| | 和江 | 3 |
| | 仁万 | 2 |
| | 友 | 5 |
| | 湯里 | 5 |
| | 日祖 | 6 |
| | 温泉津 | 7 |
| | 湯戸 | 8 |
| | 今浦 | 9 |
| | 黒松 | 10 |
| | 浅利 | 12 |

作業船回航距離一覧表（その２）

| 基地港 | 回航港 | 片道距離（浬） |
|---|---|---|
| 境港 | 加賀 | 22 |
| | 恵曇 | 27 |
| 浜田 | 恵曇 | 62 |
| | 仁万 | 26 |
| 恵曇 | 地合 | 4 |
| | 小伊津 | 7 |
| 十六島 | 地合 | 12 |
| | 小伊津 | 9 |
| 西郷 | 崎 | 18 |
| | 多井 | 17 |
| | 豊田 | 15 |
| | 宇受賀 | 16 |
| | 菱浦 | 18 |
| | 浦郷 | 25 |
| | 珍崎 | 24 |
| | 三度 | 28 |
| | 知夫 | 23 |

作業船回航一覧表（その３）

| 基地港 | 回航港 | 片道距離（浬） |
|---|---|---|
| 田儀港 | 大社 | 7 |
| | 湖陵 | 4 |
| | 小田 | 1 |
| | 波根東 | 3 |
| | 柳瀬 | 4 |
| 久手港 | 波根東 | 2 |
| | 柳瀬 | 1 |
| | 鳥井 | 1 |
| | 和江 | 2 |
| 益田港 | 福浦 | 8 |
| | 古湊 | 7 |
| | 須津 | 6 |
| | 土田 | 4 |
| | 大浜 | 3 |
| | 木部 | 2 |
| | 津田 | 2 |
| | 小浜 | 5 |
| | 飯浦 | 7 |

# 第3章 基地港別最大作業船

表－1 基地港別最大作業船一覧

| 作業船 / 基地港 | 普通地盤用グラブ浚渫船 | 引船 | クレーン付台船 | 旋回式起重機船 | 土運船 | 台船 | ケーソン製作用作業船 | コンクリートミキサー船 | ﾊﾞｯｸﾎｳ浚渫船 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | $m^3$ | PS型 | t吊 | t吊 | $m^3$ | t | | $m^3$ | $m^3$ |
| 境港 | 5.5 | 1,600 | 88 | 120 | － | 800 | － | － | 2.5 |
| 安来 | 5.0 | 1100 | － | 81 | ［140］×2<br>［500］ | 900 | － | － | 2.0 |
| 加賀 | (5.0) | 720 | 18 | 120 | － | － | － | － | － |
| 恵曇 | 3.0 | 280 | － | － | － | － | － | － | － |
| 河下 | (5.0) | 550 | － | 132 | － | － | － | － | － |
| 田儀 | (2.5) | 1,000 | － | 70 | － | － | － | － | － |
| 浜田 | 1.5 | 1,000 | 55 | ［350］ | － | 200 | ［DD3500］<br>［DD2500］ | － | 1.2 |
| 益田 | (5.0) | 1,600 | － | 150 | － | 500 | － | － | 2.0 |
| 西郷 | (5.0) | 1,000 | － | 120 | － | 1,200 | ［FD3200］ | ［1.0］ | 1.2 |
| 諏訪 | － | 1,000 | － | 103 | － | － | － | － | － |
| 美田 | 2.5*7 | 900*7 | － | 155*7 | － | 200*7 | － | － | － |
| 別府 | 1.5 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| 宍道湖内 | ［1.2］ | ［350］ | ［35］ | － | － | － | － | － | － |

1. この表によりがたい作業船は下関港を基地港とできる。
2. グラブ浚渫船の( )書きについては、在港する旋回式起重機船のうち、グラブ装着可能な機能を有した兼用船であって、装着可能なグラブの規格に応じたグラブ浚渫船が在港するとみなしたものである。
3. ガット船について、3.0m3・850m3積までは、回航・えい航費を計上しないものとする。
4. [ ]書きにより記載してある規格の船舶については、非汎用船であり、稼働状況を確認の上選定すること。
5. 自航揚錨船については、各基地港に全機種在港している。
6. 県内回航・えい航の場合、非航旋回式起重機船、非航固定式起重機船、クレーン付台船は同一機種とみなし、必要最大規格を計上する。大規模工事については別途考慮する。
7. 美田港の船舶については、グラブ浚渫船、引船、起重機船は島前・島後、台船は島前でのみ使用可能

# 第4章　就業時間別の船員供用係数

（令和２年２月２９日まで適用）

港湾請負工事積算基準／単価表／２．供用日数／２－１作業船および付属品等

漁港漁場関係工事積算基準／単価表／２．供用日数／２－１作業船および付属品等

（令和２年３月１日以降適用）

## 別表－４　就業時間別の船員供用係数

船舶供用係数（α）と就業時間別船員供用係数（β）（１ワッチ制）

| 係数ランク | 船舶供用係数（α） | 就業時間別の船員供用係数（β） | | | | | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 就業時間　8H | | 就業時間　9H | | 就業時間　10H | | 就業時間　11H | | |
| | | [超勤時間　0H] | | [超勤時間　1H] | | [超勤時間　2H] | | [超勤時間　3H] | | |
| | | [深夜時間　0H] | | [深夜時間　0H] | | [深夜時間　0H] | | [深夜時間　0H] | | |
| | | 機長・機関長 | 普通船員 | 機長・機関長 | 普通船員 | 機長・機関長 | 普通船員 | 機長・機関長 | 普通船員 | |
| 1 | 1.65 | 1.20 | 1.20 | 1.31 | 1.32 | 1.43 | 1.43 | 1.54 | 1.55 | |
| 2 | 1.80 | 1.30 | 1.30 | 1.41 | 1.42 | 1.53 | 1.53 | 1.64 | 1.65 | |
| 3 | 2.05 | 1.45 | 1.45 | 1.56 | 1.57 | 1.68 | 1.68 | 1.79 | 1.80 | |
| 4 | 2.25 | 1.60 | 1.60 | 1.71 | 1.72 | 1.83 | 1.83 | 1.94 | 1.95 | |
| 5 | 2.45 | 1.70 | 1.70 | 1.81 | 1.82 | 1.93 | 1.93 | 2.04 | 2.05 | |
| 6 | 2.65 | 1.80 | 1.80 | 1.91 | 1.92 | 2.03 | 2.03 | 2.14 | 2.15 | |
| 7 | 2.90 | 1.95 | 1.95 | 2.06 | 2.07 | 2.18 | 2.18 | 2.29 | 2.30 | |
| 8 | 3.20 | 2.15 | 2.15 | 2.26 | 2.27 | 2.38 | 2.38 | 2.49 | 2.50 | |
| 9 | 3.70 | 2.40 | 2.40 | 2.51 | 2.52 | 2.63 | 2.63 | 2.74 | 2.75 | |

船舶供用係数（α）と就業時間別船員供用係数（β）（２ワッチ制）

| 係数ランク | 船舶供用係数（α） | 就業時間別の船員供用係数（β） | | | | | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 就業時間　16H | | 就業時間　18H | | 就業時間　20H | | 就業時間　22H | | |
| | | [超勤時間　0H] | | [超勤時間　2H] | | [超勤時間　4H] | | [超勤時間　6H] | | |
| | | [深夜時間　1H] | | [深夜時間　3H] | | [深夜時間　4H] | | [深夜時間　6H] | | |
| | | 機長・機関長 | 普通船員 | 機長・機関長 | 普通船員 | 機長・機関長 | 普通船員 | 機長・機関長 | 普通船員 | |
| 1 | 1.65 | 1.21 | 1.21 | 1.35 | 1.35 | 1.47 | 1.48 | 1.61 | 1.62 | |
| 2 | 1.80 | 1.31 | 1.31 | 1.45 | 1.45 | 1.57 | 1.58 | 1.71 | 1.72 | |
| 3 | 2.05 | 1.46 | 1.46 | 1.60 | 1.60 | 1.72 | 1.73 | 1.86 | 1.87 | |
| 4 | 2.25 | 1.61 | 1.61 | 1.75 | 1.75 | 1.87 | 1.88 | 2.01 | 2.02 | |
| 5 | 2.45 | 1.71 | 1.71 | 1.85 | 1.85 | 1.97 | 1.98 | 2.11 | 2.12 | |
| 6 | 2.65 | 1.81 | 1.81 | 1.95 | 1.95 | 2.07 | 2.08 | 2.21 | 2.22 | |
| 7 | 2.90 | 1.96 | 1.96 | 2.10 | 2.10 | 2.22 | 2.23 | 2.36 | 2.37 | |
| 8 | 3.20 | 2.16 | 2.16 | 2.30 | 2.30 | 2.42 | 2.43 | 2.56 | 2.57 | |
| 9 | 3.70 | 2.41 | 2.41 | 2.55 | 2.55 | 2.67 | 2.68 | 2.81 | 2.82 | |

注）1. **別表－４**における就業時間別船員供用係数（β）は、就業時間8H[超勤時間0H 深夜時間0H]の場合を除き、**令和２年3月から適用の割増対象賃金比**をもとに算出された就業時間別船員供用係数（β）である。したがって、割増対象賃金比に変更があった場合は、下記**「就業時間別船員供用係数（β）の算出式」**をもとに別途算出するものとする。
2. 就業時間と超勤時間および深夜時間の関係が**別表－４**によらない場合についても、同様に、下記**「就業時間別船員供用係数（β）の算出式」**をもとに別途算出するものとする。
3. 上記船員以外にも潜水士等も対象とする。

**就業時間別船員供用係数（β）の算定式**

$$\beta = \beta_0 + \frac{1}{8} \times \text{割増対象賃金比} \times (1.25 \times \text{超勤時間数} + 0.25 \times \text{深夜時間数}) \div \text{ワッチ数}$$

（小数３位四捨五入）

$\beta$　：時間外手当および深夜手当を考慮した船員供用係数

$\beta_0$：就業８時間の場合の船員供用係数

割増対象賃金比：労務単価に占める割増賃金の対象となる賃金の比率をいう。
ただし、２ワッチにおける超過勤務時間数および深夜労働時間数は、２ワッチの合計の時間数とする。

# 第１２編　空　港

## ［1］ 適用基準

空港請負工事積算基準　第1部　空港土木請負工事積算基準　による。

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

### 第１部　空港土木請負工事積算基準

### 第１編　総則

### 第２章　工事費の積算

①直接工事費

2.　労務費

労務費については、以下による。

・建設工事積算基準／第Ⅰ編／第2章／①直接工事費／2　労務費

3.　材料費

材料費については、以下による。

・建設工事積算基準／第Ⅰ編／第2章／①直接工事費／1　材料費

**②間接工事費**

2. 現場管理費

2－5. 現場管理費の計算

（令和2年4月30日まで適用）

・建設工事積算基準／第Ⅰ編／第2章／②間接工事費／2現場管理費／2-5 現場管理費の計算／別表第２

（令和２年５月１日以降適用）

別表第2 現場管理費率

第１表

| 対象額 / 適用区分 / 工種区分 | 500 万円以下 | 500 万円を超え 50 億円以下 | | 50 億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする | (2)の算定式により算出される率とする。ただし、変数値は、下記による。 | | 下記の率とする |
| | | a | b | |
| 空港用地造成工事 | 34.73 | 136.0 | -0.0885 | 18.84 |

第２表

| 対象額 / 適用区分 / 工種区分 | 500 万円以下 | 500 万円を超え 20 億円以下 | | 20 億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする | (2)の算定式により算出される率とする。ただし、変数値は、下記による。 | | 下記の率とする |
| | | a | b | |
| 空港舗装工事 | 29.38 | 193.2 | -0.1221 | 14.14 |

第３表

| 対象額 / 適用区分 / 工種区分 | 500 万円以下 | 500 万円を超え 2 億円以下 | | 2 億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする | (2)の算定式により算出される率とする。ただし、変数値は、下記による。 | | 下記の率とする |
| | | a | b | |
| 空港維持工事 | 60.58 | 521.8 | -0.1396 | 36.20 |

# 第９章　設計変更

設計変更については、以下による。

・建設工事積算基準／第Ⅰ編／第13 章　設計変更

# 第３編　空港

# 第４章　空港維持・修繕

**⑧除雪工**

除雪工については適用しない。

# 第13編 農業農村整備

第 1 章　総則----------13- 1
第 2 章　土工----------13-25
第 3 章　共通工----------13-27
第 4 章　コンクリート工----------13-31
第 5 章　基礎工----------13-33
第 6 章　フリューム類据付工----------13-35
第 7 章　河川・水路工----------13-43
第 8 章　管水路工----------13-45
第 9 章　道路工----------13-49
第10章　ほ場整備工----------13-51
第11章　農地造成工 ----------13-61
第12章　コンクリート補修工----------13-63
第13章　復旧工----------13-65
第14章　仮設工----------13-67
第15章　共通仮設----------13-69
第16章　施設機械及び電気通信設備----------13-71

令和元年度建設工事積算基準

# 第13編 農業農村整備

第 1 章　総則----------13- 1
第 2 章　土工----------13-25
第 3 章　共通工----------13-27
第 4 章　コンクリート工----------13-31
第 5 章　基礎工----------13-33
第 6 章　フリューム類据付工----------13-35
第 7 章　河川・水路工----------13-43
第 8 章　管水路工----------13-45
第 9 章　道路工----------13-49
第10章　ほ場整備工----------13-51
第11章　農地造成工 ----------13-61
第12章　コンクリート補修工----------13-63
第13章　復旧工----------13-65
第14章　仮設工----------13-67
第15章　共通仮設----------13-69
第16章　施設機械及び電気通信設備----------13-71

令和元年度建設工事積算基準

# 第１章　総　則

## ［1］ 適用基準

な し

（土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事の価格積算要綱、土地改良事業等請負工事積算基準及び

土地改良事業等請負工事共通仮設費算定基準は適用しない。）

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

### ① 総則

**1. 適用範囲**

本編は、農業農村整備事業の公共工事を請負施工に付する場合における工事費の積算に適用する。

なお、工事費の積算にあたっては、原則として「建設工事積算基準第Ｉ編第１章総則」の規定を適用するものとするが、これによりがたい規定及び農業農村整備事業独自の運用等については、本編に規定する。

また、農業農村整備事業請負工事の工事価格算定については、本編の標準歩掛及び積算参考歩掛を適用するものとするが、本編に定めの無い場合は、「建設工事積算基準」各編等適切な歩掛を適用するものとする。

**2. 工種区分**

工種区分は工事内容により適切に選定するものとし、別表１のとおりとする。ただし、２種以上の工種内容からなる工事については、それぞれの工種区分により算出した、直接工事費・事業損失防止施設費の合計額が最も大きい工種を適用する。

**3. 請負工事の工事費構成**

「建設工事積算基準第Ｉ編第１章総則②請負工事の工事費構成」による。

## ② 工事費の積算

1．直接工事費の積算

直接工事費の積算は「建設工事積算基準第Ⅰ編総則第2章工事費の積算①直接工事費」による。

2．間接工事費の積算

間接工事費は、共通仮設費と現場管理費に区分する。

1）共通仮設費

1）－1　共通仮設費の構成

(1) 事業損失防止施設費

ア　工事施工に起因する騒音、振動、地盤沈下、地下水の断絶等に起因する事業損失を未然に防止するための仮施設の設置、撤去及び当該施設の維持管理に要する費用。

イ　事業損失を未然に防止するために必要な調査等に要する費用。

(2) 運搬費

機械器具等を、その所在する場所又は所在が推定される場所から工事現場内への搬入・搬出(組立・解体を含む。)に要する費用と、機械器具等の工事現場内での小運搬に要する費用とする。

(3) 準備費

ア　準備及び跡片付けに要する費用

イ　調査、測量、丁張等に要する費用

ウ　伐開、除根、除草、整地等に要する費用

(4) 安全費

ア　安全施設に要する費用

イ　安全管理に要する費用

ウ　ア及びイに掲げるもののほか、工事施工上必要な安全対策等に要する費用

(5) 役務費

ア　材料置場等の土地借上げに要する費用

イ　電力、用水等の基本料金

(6) 技術管理費

ア　品質管理のための試験等に要する費用

イ　出来形管理のための測量、写真管理等に要する費用

ウ　工程管理のための資料の作成に要する費用

(7) 営繕費

ア　現場事務所、労務者宿舎、倉庫等の営繕に要する費用

イ　アに係る土地・建物の借上げ費用

ウ　労務者の輸送に要する費用

1）－2　事業損失防止施設費の積算方法

現場条件を的確に把握し必要額を適正に積み上げるものとする。

1）－3　運搬費、準備費、安全費、役務費、技術管理費及び営繕費の積算方法

これら当該費用は別表1の工種区分に基づき、所定の率計算による費用に積み上げ計算による費用を加算して行うものとする。

1　率計算による算定

率計算による算定方法は、別表3に定める各工種の共通仮設費率を用い、次式により算定する。

なお、率の対象項目は別表2に示すとおりである。

当該費用＝対象金額×（共通仮設費率×補正係数）

対象金額＝直接工事費＋事業損失防止施設費＋支給品費＋官貸額＋準備費に含まれる処分費

(1) 下記に掲げる費用は対象金額に含めない。

ア　桁等購入費（簡易組立式橋梁、プレキャストPC桁、プレキャストPC床版、ポンプ、グレーチング床版、合成床版製品費、大型遊具（設計製作品）、光ケーブルの購入費）

イ　上記 ア を支給する場合の支給品費

ウ　鋼桁等の工場製作に係る費用のうちの工場原価

エ．工場製作関係工種のうち材料費（製作費含む）として積算する項目の費用。

「建設工事積算基準第Ⅰ編第２章工事費の積算②間接工事費２．共通仮設費」の別表を参照。

なお、エの費用は現場管理費についても率計算の対象額に含めない。

(2) 対象金額の算式中に記述の支給品費及び官貸額は「直接工事費＋事業損失防止施設費」に含まれるものに限るものとする。

間接工事費等の項目別対象表

| 間接工事費等 | | 共通仮設費 | 現場管理費 | 一般管理費等 |
|---|---|---|---|---|
| 項目 ＼ 対象額 | | 対象額 | 直接工事費+共通仮設費+支給品費+官貸額=純工事費 | 純工事費+現場管理費=工事原価 |
| 桁等購入費 | | × | ○ | ○ |
| 処分費等 | | 3.その他 2)処分費等の取扱いを参照 | | |
| 支給品費等 | 桁等購入費 | × | ○ | × |
| | 一般材料費 | ○ | ○ | × |
| | 別途製作の製作費 | × | × | × |
| | 電力 | ○ | ○ | × |
| 鋼橋等工場原価 | | × | × | ○ |
| 官貸額 | | ○ | ○ | × |
| 現場発生品 | | × | × | × |
| 価格調整 | 鋼橋 | × | × | ○ |
| | コンクリート橋 | ○ | ○ | ○ |

○は対象とする　×は対象としない

現場発生品とは、同一現場で発生した資材を物品管理法で規定する処理を行わず再使用する場合をいう。

2　共通仮設費率の補正

1) 施工地域を考慮した共通仮設費率の補正は、別表３の共通仮設費率に別表４の補正係数を乗じるものとする。

ただし、フィルダム及びコンクリートダム工事には適用しない。

なお、補正係数を乗じる場合は、共通仮設費率の端数処理後に係数を乗じて、小数点以下第３位を四捨五入して２位止めとする。

2) 災害の発生等により、本基準において想定している状況と実態が乖離している場合などについては、別表４に示す補正係数の他、必要に応じて実態等を踏まえた補正係数を設定することができるものとする。

3　積み上げ計算による算定

積み上げ計算による算定方法は、別表2に定める項目について現場条件を的確に把握し、必要額を適正に積み上げるものとする。

なお、運搬費の算定は「建設工事積算基準第Ⅰ編第2章工事費の積算②間接工事費2-2運搬費」による。

別表１　工種区分

| 工種区分 | 工　種　内　容 |
|---|---|
| ほ 場 整 備 工 事 | 農地の区画整理(道路、用排水路施設を併せて行うもの及び暗渠排水工事、客土工事を単独で行うものを含む。)工事 |
| 農 用 地 造 成 工 事 | 農用地造成(道路用排水路施設を併せて行うものを含む。)工事 |
| 農　道　工　事 | 道路の新設・改修工事(舗装の新設及び修繕工事を含む。) |
| 水 路 ト ン ネ ル 工 事 | 新設・改修及びこれに附帯する構造物工事。なお、シールド工法又は作業員が内部で作業する推進工法による工事及びこれに類する工事を含む。 |
| 水　路　工　事 | 用水路及び用排水兼用水路の新設・改修工事{サイホン工事、排水路の三面張水路及び既製品水路(既製品の大型フリューム等)を含む。}でこれと同時に施工される附帯構造物工事 |
| 河川及び排水路工事 | 普通河川の改修及びこれに準ずる排水路の工事で掘削、築堤、護岸、根固め及びこれらに類するものを行う工事<br>柵渠、連節ブロック、張ブロック、鋼矢板、コンクリート矢板を用いた用水路・用排兼用水路及び土水路で排水路に類似する工事<br>ただし、河川高潮対策区間の河川工事については、「海岸工事」を適用する。 |
| 管　水　路　工　事 | 既製管及びこれに類する既製品(既製品のボックスカルバート等)を用いる水路工事。ただし、畑かん施設工事並びに推進工法(作業員が内部で作業する推進工法)及びこれに類する工事は除く。 |
| 畑 か ん 施 設 工 事 | 樹枝状・管網方式及びこれに類するパイプライン施設のパイプラインの布設及び附帯構造物工事 |
| 干　拓　工　事 | ポンプ浚渫船、グラブ浚渫船、バケット船等を用いて行う干拓工事及び埋立工事(陸地の用土を用いて行う干拓及び埋立工事は対象としない。) |
| 海　岸　工　事 | 海岸工事であって、次に掲げる工事<br>堤防工、突堤工、離岸堤工、消波根固工、海岸擁壁工、護岸工、樋門(管)工、河口浚渫、水(閘)門工、養浜工、堤防地盤処理工及びこれらに類する工事<br>河川高潮対策区間の河川工事であって、次に掲げる工事<br>築堤工、掘削工、浚渫工、護岸工、特殊堤工、根固工、水制工、水路工、河床高水敷整正工、堤防地盤処理工、河川構造物グラウト工、樋門(管)工、水(閘)門工、光ケーブル配管工、護岸工等の補修及びこれらに類する工事 |
| コンクリート補修工事 | コンクリートの補修工事であって、次に掲げる工事<br>表面保護工法、ひび割れ補修工法、断面修復工法、目地補修工法及びこれらに類する工事<br>ただし、管水路内工事及びダム等の補修を除く。 |
| そ の 他 土 木 工 事 (1) | コンクリート構造物を主体とする工事であって、次に掲げる工事<br>橋梁(下部)、樋門(管)、頭首工、用排水機場(下部、基礎)、水路橋(上部・下部)、貯水槽及びこれらに類する工事、電気通信設備工事<br>ただし、工種区分の橋梁保全工事に該当するものは除く。 |
| そ の 他 土 木 工 事 (2) | 他のいずれにも該当しない工事で、次に類するものを行う工事<br>沈砂池、地すべり防止工、ダム等の補修、工事用ボーリング・グラウト、ため池、法面工 |
| フ ィ ル ダ ム 工 事 | フィルタイプで本体を主体とする工事 |
| コンクリートダム工事 | コンクリートダム本体を主体とする工事(砂防ダムは対象としない。) |
| 河川・道路構造物工事 | １．コンクリート橋上部・PC 橋上部(プレキャストセグメントを除く工場既製桁の場合)工事、橋梁の床版工のみの工事<br>２．床版工（RC 構造及びプレキャスト PC 構造）<br>ただし、工種区分の橋梁保全工事に該当するものは除く。 |
| P　C　橋　工　事 | １．工事現場における PC 桁の製作(工場製作桁は除く)、架設及び製作架設に関する工事<br>２．プレキャストセグメント構造の PC 橋工事 |

| 工種区分 | 工　種　内　容 |
|---|---|
| 鋼橋架設工事 | 鋼橋等の運搬架設に関する工事にあって、次に掲げる工事<br>1.鋼橋架設工、鋼橋塗装工、鋼橋塗替工、橋梁検査路設置工、高欄設置工(鋼製・アルミ等)、スノーシェッド(鋼構造)、ロックシェッド(鋼構造)、道路付属物を除く鋼構造物塗替工(水門、樋門、樋管、排水機場等)、床版工（RC 構造及びプレキャスト PC 構造を除く）、橋梁下部工（鋼製）<br>2.簡易組立橋の塗装工事及びこれらに類する工事<br>3.鋼橋撤去工（鋼橋に伴う床版撤去含む）<br>ただし、工種区分の橋梁保全工事に該当するものは除く。 |
| 公園工事 | 公園及び緑地の造成整備に関する工事にあって、次に掲げる工事<br>敷地造成工、園路広場工、植樹工、除草工、芝付工、花壇工、日陰棚工、ベンチ工、池工、遊戯施設工、運動施設工、標識工及びこれらに類する工事 |
| トンネル工事 | トンネルに関する工事にあって、次に掲げる工事<br>1.トンネル工事<br>2.施工方法がシールド工法又は作業員が内部で作業する推進工法による工事<br>但し、本体工を完成後別件で照明設備、舗装、側溝等を発注する場合、又は供用開始後の照明設備、吹付け、舗装、修繕工事等は除く |
| 橋梁保全工事 | 橋梁（上部工、下部工）に関する全ての保全、補修、補強工事及び既設橋梁の橋梁付属物工の修繕工事（塗装、舗装打ち替え等は除く） |

別表２　共通仮設費率適用範囲（令和２年３月 31 日まで適用）

| 項　目 | 率　の　対　象　項　目 |
|---|---|
| 運搬費 | 1　建設機械器具の運搬等に要する費用<br>（1）質量 20t 未満の建設機械の搬入、搬出(組立・解体を含む)に要する費用<br>（2）器材等(型枠、支保材、足場材、仮囲い、敷鉄板(積上げ計上分を除く)、橋梁ベント、橋梁架設用タワー、橋梁用架設桁設備、排砂管、トレミー管等)の搬入、搬出並びに現場内小運搬に要する費用<br>（3）建設機械の自走による運搬に要する費用<br>（4）建設機械等の日々回送(分解・組立、輸送)に要する費用<br>（5）建設機械の現場内小運搬に要する費用 |
| 準備費 | 1　準備及び跡片付けに要する費用<br>（1）準備に要する費用<br>（2）現場の跡片付け、清掃、踏み荒らしに対する復旧等に要する費用<br>2　調査・測量、丁張等に要する費用<br>（1）工事施工に必要な測量及び丁張に要する費用<br>（2）縦、横断面図の照査等に要する費用<br>（3）用地幅杭等の仮移設等に要する費用<br>3　準備として行う以下に要する費用<br>（1）ブルドーザ、レーキドーザ、バックホウ等による雑木や小さな樹木、竹などを除去する伐開に要する費用（チェーンソー等による伐採作業を除く）<br>（2）除根、除草、整地、段切り（ため池及びダムの堤体部を除く）、すりつけ等に要する費用<br>なお、伐開、除根及び除草は、現場内の集積・積込み作業を含む。(農用地造成工事の伐開、除根、除草等に要する費用を除く)　また、伐開、伐採の定義については、「建設工事積算基準第Ｉ編第２章②間接工事費２共通仮設費２－３準備費（３）」による。 |
| 安全費 | 1　工事地域内全般の安全管理上の監視、あるいは連絡等に要する費用<br>2　不稼働日の保安要員等の費用<br>3　標示板、標識、保安燈、防護柵、バリケード、架空線等事故防止対策簡易ゲート等の安全施設類の設置・撤去、補修に要する費用及び使用期間中の損料<br>4　夜間作業を行う場合における照明に要する費用(大規模な照明施設を必要とする広範なダムエ事及びトンネル本体工事を除く)<br>5　河川、海岸工事における救命艇に要する費用<br>6　酸素欠乏症の予防に要する費用<br>7　粉塵作業の予防に要する費用<br>8　トンネル等における防火安全対策に要する費用<br>9　安全用品等に要する費用<br>10 安全委員会等に要する費用 |
| 役務費 | |
| 技術管理費 | 1　共通仕様書の品質管理基準に規定している試験区分「必須」「その他」の各種試験に要する費用<br>2　出来形管理のための測量、図面作成、写真管理に要する費用<br>3　工程管理のための資料の作成等に要する費用<br>4　工事完成図書類の作成及び電子納品等に要する費用<br>5　建設材料の品質記録保存に要する費用<br>6　コンクリート中の塩化物総量規制に伴う試験に要する費用<br>7　コンクリートのひび割れ調査及びテストハンマーによる強度推定調査に要する費用<br>8　ＰＣ上部工・アンカー工等の緊張管理、グラウト配合試験等に要する費用<br>9　塗装膜厚施工管理に要する費用<br>10 施工管理で使用するＯＡ機器の費用（情報共有システムに係る費用（登録料及び利用料）を含む）<br>11 建設発生土情報交換システム及び建設副産物情報交換システムの操作に要する費用 |
| 営繕費 | 1　現場事務所、労務者宿舎、倉庫等の営繕(設置・撤去、維持・補修)に要する費用<br>2　１に係る土地・建物の借上げに要する費用<br>3　労務者を日々当該現場に送迎輸送するために要する費用(海上輸送等での労務者の輸送に要する費用は除く)<br>4　火薬庫等及び特に必要とされる監督員詰所の営繕(設置・撤去、維持・補修、土地の借上げ)に要する費用(フィルダム及びコンクリートダム工事) |

| 率に別途加算できる項目 | 項目 |
|---|---|
| 1　建設機械器具の運搬等に要する費用<br>（1）質量 20t 以上の建設機械の貨物自動車等による搬入、搬出(組立・解体を含む)に要する費用<br>（2）器材のうち、スライディングセントルの搬入、搬出並びに現場内小運搬に要する費用<br>2　仮設材等(鋼矢板、H形鋼、覆工板、たて込み簡易土留、敷鉄板等)の運搬に要する費用<br>3　干拓工事、海岸工事に係る工事の施工に必要な船舶等の回航に要する費用<br>4　重建設機械の分解・組立及び輸送に関する費用<br>5　建設機械器具、仮設材及び重建設機械の輸送における自動車航送船使用料に要する費用（運搬中の本体賃料・損料を含む）<br>6　その他、工事施工上必要な建設機械器具の運搬等に要する費用 | 運搬費 |
| 1　伐開、除根、除草等に伴い発生する建設廃棄物等の工事現場外への搬出及び処理に要する費用<br>2　伐開、除根、除草等に要する費用(農用地造成工事)<br>3　チェーンソー等により樹木を伐採するための費用<br>4　照査等に特別な機器や作業が必要となる場合の費用<br>（1）コンクリート補修工事に係る設計図書の照査（補修範囲の確認等）に伴う高圧洗浄機等による洗浄作業に要する費用<br>（2）地下埋設物等を確認するための試掘に要する費用<br>5　その他、工事施工上必要な準備等に要する費用 | 準備費 |
| 1　特記仕様書、設計図書等により条件明示される費用<br>（1）鉄道、空港関係施設等に近接した工事現場における出入口等に配置する安全管理要員等に要する費用<br>2　干拓工事、海岸工事において、危険区域等で工事を施工する場合の水雷・傷害保険料<br>3　高圧作業の予防に要する費用<br>4　河川及び海岸の工事区域に隣接して航路がある場合の安全標識、警戒船運転に要する費用<br>5　ダム工事における岩石掘削時に必要な発破監視のための費用<br>6　その他、工事施工上必要な安全対策等に要する費用<br>7　粉塵作業の予防に要する費用のうち、呼吸用保護具等の費用及び飛散防止対策の費用 | 安全費 |
| 1　現場工作場、材料置場等の土地借上げに要する費用(営繕に係る用地は除く)<br>2　電力、用水等の基本料金<br>3　電力設備用工事負担金 | 役務費 |
| 1　特別な品質管理等に要する費用<br>（1）管水路における水圧試験及び漏水試験に要する費用<br>（2）土質試験（共通仕様書の品質管理基準に記載されている項目以外の試験）に要する費用<br>（3）コンクリート補修工事における品質管理試験（共通仕様書の品質管理基準に記載されている項目以外の試験）に要する費用<br>2　現場条件等により積上げを要する費用<br>（1）軟弱地盤等における計器の設置・撤去及び測定取りまとめに要する費用<br>（2）試験盛土等の工事に要する費用<br>（3）施工前に既設構造物の配筋状況の確認に用いる特別な機器（鉄筋探査器等）に要する費用<br>（4）コンクリート補修工事における事前試験に要する費用<br>3　歩掛調査及び諸経費動向調査に要する費用<br>4　共通仕様書の品質管理基準に記載されていない試験及び基準に規定する回数以上の試験を仕様書等で指示した場合に要する費用<br>5　ICT 建設機械に要する以下の費用<br>（1）保守点検<br>（2）システム初期費<br>（3）3 次元起工測量・3 次元設計データの作成費用<br>6　その他特に技術的判断に必要な資料の作成に要する費用 | 技術管理費 |
| 1　火薬庫等及び特に必要とされる監督員詰所の営繕(設置・撤去、維持、補修、土地の借上げ)に要する費用(フィルダム及びコンクリートダム工事を除く)<br>2　海上輸送等での労務者の輸送に要する費用<br>3　その他、工事施工上必要な営繕等に要する費用 | 営繕費 |

別表２　共通仮設費率適用範囲（令和２年４月１日以降適用）

| 項　目 | 率　の　対　象　項　目 |
|---|---|
| 運搬費 | 1　建設機械器具の運搬等に要する費用<br>（1）質量 20t 未満の建設機械の搬入、搬出(組立・解体を含む)に要する費用<br>（2）器材等(型枠、支保材、足場材、仮囲い、敷鉄板(積上げ計上分を除く)、橋梁ベント、橋梁架設用タワー、橋梁用架設桁設備、排砂管、トレミー管等)の搬入、搬出並びに現場内小運搬に要する費用<br>（3）建設機械の自走による運搬に要する費用<br>（4）建設機械等の日々回送(分解・組立、輸送)に要する費用<br>（5）建設機械の現場内小運搬に要する費用 |
| 準備費 | 1　準備及び跡片付けに要する費用<br>（1）準備に要する費用<br>（2）現場の跡片付け、清掃、踏み荒らしに対する復旧等に要する費用<br>2　調査・測量、丁張等に要する費用<br>（1）工事施工に必要な測量及び丁張に要する費用<br>（2）縦、横断面図の照査等に要する費用<br>（3）用地幅杭等の仮移設等に要する費用<br>3　準備として行う以下に要する費用<br>（1）ブルドーザ、レーキドーザ、バックホウ等による雑木や小さな樹木、竹などを除去する伐開に要する費用（チェーンソー等による伐採作業を除く）<br>（2）除根、除草、整地、段切り（ため池及びダムの堤体部を除く）、すりつけ等に要する費用<br>なお、伐開、除根及び除草は、現場内の集積・積込み作業を含む。（農用地造成工事の伐開、除根、除草等に要する費用を除く）　また、伐開、伐採の定義については、「建設工事積算基準第Ｉ編第２章②間接工事費２共通仮設費２－３準備費（３）」による。 |
| 安全費 | 1　工事地域内全般の安全管理上の監視、あるいは連絡等に要する費用<br>2　不稼働日の保安要員等の費用<br>3　標示板、標識、保安燈、防護柵、バリケード、架空線等事故防止対策簡易ゲート等の安全施設類の設置・撤去、補修に要する費用及び使用期間中の損料<br>4　夜間作業を行う場合における照明に要する費用(大規模な照明施設を必要とする広範なダムエ事及びトンネル本体工事を除く)<br>5　河川、海岸工事における救命艇に要する費用<br>6　酸素欠乏症の予防に要する費用<br>7　粉塵作業の予防に要する費用<br>8　トンネル等における防火安全対策に要する費用<br>9　安全用品等に要する費用<br>10 安全委員会等に要する費用 |
| 役務費 | |
| 技術管理費 | 1　共通仕様書の品質管理基準に規定している試験区分「必須」「その他」の各種試験に要する費用<br>2　出来形管理のための測量、図面作成、写真管理に要する費用<br>3　工程管理のための資料の作成等に要する費用<br>4　工事完成図書類の作成及び電子納品等に要する費用<br>5　建設材料の品質記録保存に要する費用<br>6　コンクリート中の塩化物総量規制に伴う試験に要する費用<br>7　コンクリートのひび割れ調査及びテストハンマーによる強度推定調査に要する費用<br>8　ＰＣ上部工・アンカー工等の緊張管理、グラウト配合試験等に要する費用<br>9　塗装膜厚施工管理に要する費用<br>10 施工管理で使用するＯＡ機器の費用（情報共有システムに係る費用（登録料及び利用料）を含む）<br>11 建設発生土情報交換システム及び建設副産物情報交換システムの操作に要する費用 |
| 営繕費 | 1　現場事務所、労務者宿舎、倉庫等の営繕(設置・撤去、維持・補修)に要する費用<br>2　１に係る土地・建物の借上げに要する費用<br>3　労務者を日々当該現場に送迎輸送するために要する費用(海上輸送等での労務者の輸送に要する費用は除く)<br>4　火薬庫等及び特に必要とされる監督員詰所の営繕(設置・撤去、維持・補修、土地の借上げ)に要する費用(フィルダム及びコンクリートダム工事) |

| 率に別途加算できる項目 | 項目 |
|---|---|
| 1　建設機械器具の運搬等に要する費用<br>（1）質量 20t 以上の建設機械の貨物自動車等による搬入、搬出(組立・解体を含む)に要する費用<br>（2）器材のうち、スライディングセントルの搬入、搬出並びに現場内小運搬に要する費用<br>2　仮設材等(鋼矢板、H形鋼、覆工板、たて込み簡易土留、敷鉄板等)の運搬に要する費用<br>3　干拓工事、海岸工事に係る工事の施工に必要な船舶等の回航に要する費用<br>4　重建設機械の分解・組立及び輸送に関する費用<br>5　建設機械器具、仮設材及び重建設機械の輸送における自動車航送船使用料に要する費用（運搬中の本体賃料・損料を含む）<br>6　その他、工事施工上必要な建設機械器具の運搬等に要する費用 | 運搬費 |
| 1　伐開、除根、除草等に伴い発生する建設廃棄物等の工事現場外への搬出及び処理に要する費用（率に別途加算する項目については「建設工事積算基準第Ⅰ編第２章②間接工事費２共通仮設費２－３準備費（２）積算方法伐採作業等の項目別対象表」による）<br>2　伐開、除根、除草等に要する費用(農用地造成工事)<br>3　チェーンソー等により樹木を伐採するための費用<br>4　照査等に特別な機器や作業が必要となる場合の費用<br>（1）コンクリート補修工事に係る設計図書の照査（補修範囲の確認等）に伴う高圧洗浄機等による洗浄作業に要する費用<br>（2）地下埋設物等を確認するための試掘に要する費用<br>5　その他、工事施工上必要な準備等に要する費用 | 準備費 |
| 1　特記仕様書、設計図書等により条件明示される費用<br>（1）鉄道、空港関係施設等に近接した工事現場における出入口等に配置する安全管理要員等に要する費用<br>2　干拓工事、海岸工事において、危険区域等で工事を施工する場合の水雷・傷害保険料<br>3　高圧作業の予防に要する費用<br>4　河川及び海岸の工事区域に隣接して航路がある場合の安全標識、警戒船運転に要する費用<br>5　ダム工事における岩石掘削時に必要な発破監視のための費用<br>6　その他、工事施工上必要な安全対策等に要する費用<br>7　粉塵作業の予防に要する費用のうち、呼吸用保護具等の費用及び飛散防止対策の費用 | 安全費 |
| 1　現場工作場、材料置場等の土地借上げに要する費用(営繕に係る用地は除く)<br>2　電力、用水等の基本料金<br>3　電力設備用工事負担金 | 役務費 |
| 1　特別な品質管理等に要する費用<br>（1）管水路における水圧試験及び漏水試験に要する費用<br>（2）土質試験（共通仕様書の品質管理基準に記載されている項目以外の試験）に要する費用<br>（3）コンクリート補修工事における品質管理試験（共通仕様書の品質管理基準に記載されている項目以外の試験）に要する費用<br>2　現場条件等により積上げを要する費用<br>（1）軟弱地盤等における計器の設置・撤去及び測定取りまとめに要する費用<br>（2）試験盛土等の工事に要する費用<br>（3）施工前に既設構造物の配筋状況の確認に用いる特別な機器（鉄筋探査器等）に要する費用<br>（4）コンクリート補修工事における事前試験に要する費用<br>3　歩掛調査及び諸経費動向調査に要する費用<br>4　共通仕様書の品質管理基準に記載されていない試験及び基準に規定する回数以上の試験を仕様書等で指示した場合に要する費用<br>5　ICT 建設機械に要する以下の費用<br>（1）保守点検<br>（2）システム初期費<br>（3）3 次元起工測量・3 次元設計データの作成費用<br>6　その他特に技術的判断に必要な資料の作成に要する費用 | 技術管理費 |
| 1　火薬庫等及び特に必要とされる監督員詰所の営繕(設置・撤去、維持、補修、土地の借上げ)に要する費用(フィルダム及びコンクリートダム工事を除く)<br>2　海上輸送等での労務者の輸送に要する費用<br>3　その他、工事施工上必要な営繕等に要する費用 | 営繕費 |

別表 3　共通仮設費率

1-（1）

| 対象金額 / 適用区分 / 工種区分 | 300 万円以下 | 300 万円を超え 10 億円以下 | | 10 億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする | 2 の算定式により算出された率とする。ただし、変数値は下記による。 | | 下記の率とする。 |
| | | a | b | |
| ほ場整備工事 | 13.28% | 117.0 | -0.1459 | 5.69% |
| 農用地造成工事 | 15.63% | 142.9 | -0.1484 | 6.60% |
| 農道工事 | 14.95% | 112.8 | -0.1355 | 6.80% |
| 水路トンネル工事 | 22.74% | 518.8 | -0.2097 | 6.73% |
| 水路工事 | 12.45% | 91.3 | -0.1336 | 5.73% |
| 河川及び排水路工事 | 13.22% | 104.0 | -0.1383 | 5.92% |
| 管水路工事 | 13.78% | 151.6 | -0.1608 | 5.41% |
| 畑かん施設工事 | 13.17% | 62.5 | -0.1044 | 7.18% |
| コンクリート補修工事 | 12.01% | 119.4 | -0.1540 | 4.91% |
| その他土木工事（1） | 18.70% | 349.9 | -0.1964 | 5.98% |
| その他土木工事（2） | 15.77% | 124.8 | -0.1387 | 7.05% |

1-（2）

| 対象金額 / 適用区分 / 工種区分 | 600 万円以下 | 600 万円を超え 10 億円以下 | | 10 億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする | 2 の算定式により算出された率とする。ただし、変数値は下記による。 | | 下記の率とする。 |
| | | a | b | |
| 海岸工事 | 13.08% | 407.9 | -0.2204 | 4.24% |
| 河川・道路構造物工事 | 20.77% | 1,228.3 | -0.2614 | 5.45% |
| 鋼橋架設工事 | 38.36% | 10,668.4 | -0.3606 | 6.06% |
| ＰＣ橋工事 | 27.04% | 1,636.8 | -0.2629 | 7.05% |
| 公園工事 | 10.80% | 48.0 | -0.0956 | 6.62% |

1-（3）

| 対象金額 / 適用区分 / 工種区分 | 600 万円以下 | 600 万円を超え 20 億円以下 | | 20 億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする | 2 の算定式により算出された率とする。ただし、変数値は下記による。 | | 下記の率とする。 |
| | | a | b | |
| 干拓工事 | 13.28% | 552.0 | -0.2388 | 3.32% |

1-（4）

| 対象金額 / 適用区分 / 工種区分 | 1,000 万円以下 | 1,000 万円を超え 20 億円以下 | | 20 億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする | 2 の算定式により算出された率とする。ただし、変数値は下記による。 | | 下記の率とする。 |
| | | a | b | |
| トンネル工事 | 28.71% | 4,164.9 | -0.3088 | 5.59% |

1-（5）

| 対象金額 / 適用区分 / 工種区分 | 3億円以下 | 3億円を超え50億円以下 | | 50億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする | 2の算定式により算出された率とする。ただし、変数値は下記による。 | | 下記の率とする。 |
| | | a | b | |
| フィルダム工事 | 7.57% | 43.7 | -0.0898 | 5.88% |
| コンクリートダム工事 | 12.29% | 105.2 | -0.1100 | 9.02% |

1-（6）

| 対象金額 / 適用区分 / 工種区分 | 600万円以下 | 600万円を超え3億円以下 | | 3億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする | 2の算定式により算出された率とする。ただし、変数値は下記による。 | | 下記の率とする。 |
| | | a | b | |
| 橋梁保全工事 | 27.32% | 7,050.2 | -0.3558 | 6.79% |

2. 算定式は次によるものとする。

$Y = a \cdot X^{b}$

ただし、Y：共通仮設費率(%)

X：対象金額(円)

a、b：変数値

(注)Yの値は小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。

別表４　共通仮設費率の補正

| 適用条件 | | | 補正係数 | 適用優先 |
|---|---|---|---|---|
| 施工地域区分 | 工種区分 | 対象 | | |
| 市街地（DID補正）（１） | 鋼橋架設工事<br>橋梁保全工事 | 市街地部が施工箇所に含まれる場合。 | 1.3 | 1 |
| 一般交通影響有り（１） | 全ての工種（※） | ２車線以上（片側１車線以上）かつ交通量（上下合計）が5,000台/日以上の車道において，車線変更を促す規制を行う場合。<br>ただし，常時全面通行止めの場合は対象外とする。 | 1.3 | 2 |
| 一般交通影響有り（２） | 全ての工種（※） | 一般交通影響有り（１）以外の車道において，車線変更を促す規制を伴う場合。（常時全面通行止めの場合を含む。） | 1.2 | 3 |
| 市街地（DID補正）（２） | 市街地（DID補正）（１）以外（※） | 市街地（DID補正）（１）で適用となる工種区分以外で，市街地部が施工箇所に含まれる場合。 | 1.2 | 4 |
| 離　島 | 全ての工種（※） | | 1.3 | 5 |

※フィルダム及びコンクリートダム工事は適用しない。

（注）１．市街地とは，施工地域が人口集中地区（ＤＩＤ地区）及びこれに準ずる地区をいう。

なお，ＤＩＤ地区とは，総務省統計局国勢調査による地域別人口密度が4,000人／km2以上でその全体が5,000人以上となっている地域をいう。（松江市、出雲市、益田市、浜田市、安来市の一部）

これに準ずる地区とは、総務省が規定する「準人口集中地区」をいう。

２．適用条件の複数に該当する場合は，適用優先順に従い決定するものとする。

その他〔細部運用〕

①補正値は、現場条件の変更により設計変更ができる。

2）現場管理費

2)－1　現場管理費の構成

(1) 労務管理費

現場労務者に係る次の費用

（ア）募集及び解散に要する費用(赴任旅費及び解散手当を含む。)

（イ）慰安、娯楽及び厚生に要する費用

（ウ）直接工事費及び共通仮設費に含まれない作業用具及び作業被服の費用

（エ）賃金以外の食事、通勤等に要する費用

（オ）労災保険法等による給付以外に災害時に事業主が負担する費用

(2) 安全訓練等費

現場労務者の安全・衛生に要する費用、研修訓練等に要する費用

(3) 従業員給料手当

現場従業員の給料、諸手当(危険手当、通勤手当、火薬手当等)及び賞与等の費用。ただし、本店及び支店で経理される派遣会社役員等の報酬・運転者、世話役等で純工事費に含まれる現場従業員の給料等は除く。

(4) 退職金

現場従業員に係る退職金及び退職給与引当金繰入額

(5) 法定福利費

現場従業員及び現場労務者に関する労災保険料、雇用保険料、健康保険料及び厚生年金保険料の法定の事業主負担額並びに建設業退職金共済制度に基づく事業主負担額

(6) 福利厚生費

現場従業員に係る慰安娯楽、貸与被服、医療、慶弔見舞等福利厚生、文化活動等に要する費用

(7) 事務用品費

事務用消耗品、新聞、参考図書等の購入費

(8) 通信交通費

通信費、交通費及び旅費

(9) 動力用水光熱費

事務所及び宿舎等で使用される電力、水道、ガス等の費用(基本料金を含む。)

(10) 交際費

現場への来客等の応対に要する費用

(11) 補償費

工事施工に伴って通常発生する物件等の毀損の補修費及び騒音、振動、濁水、交通騒音等による事業損失に係る補償費。ただし、臨時にして巨額なものは除く。

(12) 租税公課

固定資産税、自動車税、軽自動車税等の租税公課。ただし、機械経費の機械器具等損料に計上された租税公課は除く。

(13) 保険料

自動車保険(機械器具等損料に計上された保険料を除く。)、工事保険、組立保険、法定外の労災保険、火災保険その他の損害保険の保険料

(14) 外注経費

工事を専門業者等に外注する場合に必要となる経費

(15) 工事登録等費

工事実績の登録等に要する費用

(16) 公共事業労務費調査に要する費用

(17) 雑費

(1) から (16) までに属さない諸費

2)－2　現場管理費の積算方法

現場管理費は 1) 共通仮設費、別表 1 の工種区分に従い、別表５により求めた現場管理費率で次式により算定する。

現場管理費＝対象金額×（現場管理費率×補正係数）

対象金額＝純工事費（直接工事費＋共通仮設費）＋支給品費＋官貸額

2)－3　現場管理費率の補正

1) 施工地域、施工場所を考慮した現場管理費率の補正については、別表６の補正係数を乗じるものとする。ただし、フィルダム及びコンクリートダム工事には適用しない。

なお、補正係数を乗じる場合は、現場管理費率の端数処理後に係数を乗じて、小数点以下第３位を四捨五入して２位止めとする。

2) 災害の発生等により、本基準において想定している状況と実態が乖離している場合などについては、別表６に示す補正係数の他、必要に応じて実態等を踏まえた補正係数を設定することができるものとする。

別表５　現場管理費率

(1) -a

| 対象金額 / 適用区分 / 工種区分 | 300 万円以下 | 300 万円を超え 10 億円以下 | | 10 億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする。 | (2)の算定式により算出された率とする。ただし、変数値は下記による。 | | 下記の率とする。 |
| | | a | b | |
| ほ場整備工事 | 42.43% | 241.5 | -0.1166 | 21.55% |
| 農用地造成工事 | 31.74% | 56.2 | -0.0383 | 25.41% |
| 農道工事 | 34.70% | 94.1 | -0.0669 | 23.52% |
| 水路トンネル工事 | 34.15% | 78.5 | -0.0558 | 24.70% |
| 水路工事 | 44.83% | 576.1 | -0.1712 | 16.58% |
| 河川及び排水路工事 | 32.10% | 112.2 | -0.0839 | 19.72% |
| 管水路工事 | 28.97% | 84.4 | -0.0717 | 19.10% |
| 畑かん施設工事 | 34.02% | 168.3 | -0.1072 | 18.25% |
| コンクリート補修工事 | 37.11% | 192.0 | -0.1102 | 19.57% |
| その他土木工事（１） | 39.63% | 216.0 | -0.1137 | 20.47% |
| その他土木工事（２） | 35.83% | 105.0 | -0.0721 | 23.57% |

(1) -b

| 対象金額 / 適用区分 / 工種区分 | 700 万円以下 | 700 万円を超え 10 億円以下 | | 10 億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする。 | (2)の算定式により算出された率とする。ただし、変数値は下記による。 | | 下記の率とする。 |
| | | a | b | |
| 海岸工事 | 27.72% | 113.6 | -0.0895 | 17.78% |
| 河川・道路構造物工事 | 42.50% | 457.7 | -0.1508 | 20.11% |
| 鋼橋架設工事 | 48.12% | 302.3 | -0.1166 | 26.98% |
| ＰＣ橋工事 | 30.73% | 120.5 | -0.0867 | 19.98% |
| 公園工事 | 42.43% | 385.5 | -0.1400 | 21.18% |

(1) -c

| 対象金額 / 適用区分 / 工種区分 | 700 万円以下 | 700 万円を超え 20 億円以下 | | 20 億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする。 | (2)の算定式により算出された率とする。ただし、変数値は下記による。 | | 下記の率とする。 |
| | | a | b | |
| 干拓工事 | 24.97% | 141.8 | -0.1102 | 13.39% |

(1) -d

| 対象金額 / 適用区分 / 工種区分 | 1,000 万円以下 | 1,000 万円を超え 20 億円以下 | | 20 億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする。 | (2)の算定式により算出された率とする。ただし、変数値は下記による。 | | 下記の率とする。 |
| | | a | b | |
| トンネル工事 | 44.93% | 219.8 | -0.0985 | 26.66% |

(1) -e

| 対象金額 / 適用区分 / 工種区分 | 3億円以下 | 3億円を超え50億円以下 | | 50億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする。 | (2)の算定式により算出された率とする。ただし、変数値は下記による。 | | 下記の率とする。 |
| | | a | b | |
| フィルダム工事 | 33.52% | 184.6 | -0.0874 | 26.21% |
| コンクリートダム工事 | 22.90% | 332.0 | -0.1370 | 15.57% |

(1) -f

| 対象金額 / 適用区分 / 工種区分 | 700万円以下 | 700万円を超え3億円以下 | | 3億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする。 | (2)の算定式により算出された率とする。ただし、変数値は下記による。 | | 下記の率とする。 |
| | | A | b | |
| 橋梁保全工事 | 64.94% | 1,622.9 | -0.2042 | 30.15% |

(2)算定式は次によるものとする。

$Y = a \cdot X^{b}$

Y：現場管理費率(%)　　X：対象金額(単位:円)

a、b：変数値

(注)Yの値は小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする

別表６　現場管理費率の補正

| 適用条件 | | | 補正係数 | 適用優先 |
|---|---|---|---|---|
| 施工地域区分 | 工種区分 | 対象 | | |
| 市街地（DID補正）（１） | 鋼橋架設工事<br>橋梁保全工事 | 市街地部が施工箇所に含まれる場合。 | 1.1 | 1 |
| 一般交通影響有り（１） | 全ての工種（※） | ２車線以上（片側１車線以上）かつ交通量（上下合計）が5,000台/日以上の車道において，車線変更を促す規制を行う場合。<br>ただし，常時全面通行止めの場合は対象外とする。 | 1.1 | 2 |
| 一般交通影響有り（２） | 全ての工種（※） | 一般交通影響有り（１）以外の車道において，車線変更を促す規制を伴う場合。（常時全面通行止めの場合を含む。） | 1.1 | 3 |
| 市街地（DID補正）（２） | 市街地（DID補正）（１）以外（※） | 市街地（DID補正）（１）で適用となる工種区分以外で，市街地部が施工箇所に含まれる場合。 | 1.1 | 4 |
| 離　島 | 全ての工種（※） | | 1.0 | 5 |

※フィルダム及びコンクリートダム工事は適用しない。

（注）１．市街地とは，施工地域が人口集中地区（ＤＩＤ地区）及びこれに準ずる地区をいう。
なお，ＤＩＤ地区とは，総務省統計局国勢調査による地域別人口密度が4,000人／km2以上でその全体が5,000人以上となっている地域をいう。（松江市、出雲市、益田市、浜田市、安来市の一部）
これに準ずる地区とは、総務省が規定する「準人口集中地区」をいう。

２．適用条件の複数に該当する場合は，適用優先によるが，共通仮設費で決定した施工地域区分と同じものを適用すること。

その他〔細部運用〕

①補正値は、現場条件の変更により設計変更ができる

3. その他

1）支給品費及び官貸額の内容及び算定

1）-1　支給品費

（1）支給品費とは、無償で支給する材料を時価で換算した費用である。

（2）支給品には支給電力を含むものとする。

（注）「時価」とは一般資材においては、設計時の類似価格（取得価格）とするが、鋼矢板及びH形鋼等を無償で支給する場合は、設計時の類似価格の 90%若しくは中古品相当額を言う。

1）-2　官貸額

官貸額とは、無償で貸与する機械等の償却費等相当額で次式により算定する。

官貸額＝(無償で貸与する機械等と同機種・同型式の機械損料)－(無償で貸与する機械等の機械損料)

なお、上記の各機械損料は、「⑮請負工事機械経費積算要領」による。

2）処分費等の取扱い

処分費等とは下記のものとし、処分費等を含む工事の積算は、当該処分費等を直接工事費に計上し、間接工事費等の積算は、次表のとおりとする。

（1）処分費(再資源化施設の受入費を含む)

（2）有料道路利用料

（3）建設発生土を有料処分地で処分する場合の費用

| 区　　分 | 処分費等が共通仮設費対象金額の 3%以下でかつ処分費等が 3 千万円以下の場合 | 処分費等が共通仮設費対象金額の 3%を超える場合、または処分費等が 3 千万円を超える場合 |
|---|---|---|
| 共通仮設費<br>現場管理費<br>一般管理費等 | 処分費等は全額を率の対象とする。 | 処分費等は共通仮設費対象金額の 3%の金額を率計算の対象とし、3%を超える金額は、率計算の対象としない。ただし、対象となる金額は、3 千万円を上限とする。 |

（注）1. 表中の処分費等は準備費に含まれる処分費を含む。

2. 準備費に含まれる処分費は、伐開、除根等に伴うものである。

3. 処分費を計上する場合は、「建設工事積算基準第 I 編第 2 章工事費の積算②間接工事費 2 共通仮設費 2-3 準備費」による。

4. これにより難い場合は、別途考慮する。

なお、産業廃棄物減量税の取扱いについては、平成 18 年 9 月 13 日付技第 290 号による。

## ③ 一般管理費等及び消費税等相当額

「建設工事積算基準第Ⅰ編第3章一般管理費等及び消費税等相当額」による。

## ④ 随意契約方式により工事を発注する場合の間接工事費等の調整について

「建設工事積算基準第Ⅰ編第4章随意契約方式により工事を発注する場合の間接工事費等の調整について」による。

## ⑤ 数値基準等

「建設工事積算基準第Ⅰ編第5章数値基準等」によるものとし、これに記載の無いものについては農林水産省制定「土地改良工事数量算出要領(案)」による。

## ⑥ 建設機械運転労務等

1. 建設機械運転労務
「建設工事積算基準第Ⅰ編第6章建設機械運転労務等①建設機械運転労務」による。

2. 原動機燃料消費量
「建設工事積算基準第Ⅰ編第6章建設機械運転労務等②原動機燃料消費量」による。

3. 機械運転単価表
「建設工事積算基準第Ⅰ編第6章建設機械運転労務等③機械運転単価表」によるほか、下表による。

機－農1　運転1時間当り単価表

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数　量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 運転手(一般) | | 人 | | |
| 燃料費 | | ℓ | | |
| 機械損料 1(　) | | h | 1 | |
| 機械損料 2(　) | | 〃 | 1 | |
| 計 | | | | |

(注)機械損料の(　)内には、機械名を記入する。

機－農2　運転1日当り単価表

| 施工単価コード | SSMN9302 |
|---|---|

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数　量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 運転手(特殊) | | 人 | 1 | |
| 燃料費 | | ℓ | | |
| 機械損料 | | 日 | 1 | |
| 計 | | | | |

4. 一般事項

「建設工事積算基準第Ⅰ編第 6 章建設機械運転労務等④一般事項」による。

ただし、表－2 運転労務適用職種一覧に下表を追加する。

| 機　　種 | 規　　格 | 運転手 | | 特殊作業員 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 特殊 | 一般 | | |
| 除礫機械（自走式） | 機械質量 3.0t 未満 | － | － | ○ | |
| | 機械質量 3.0t 以上 | ○ | － | － | |
| トレンチャ | 機械質量 3.0t 未満 | － | － | ○ | |
| | 機械質量 3.0t 以上 | ○ | － | － | |

## ⑦ 土木請負工事の特許使用料の積算

「建設工事積算基準第Ⅰ編第 7 章土木請負工事の特許使用料の積算」による。

## ⑧ 時間的制約を受ける公共土木工事の積算

「建設工事積算基準第Ⅰ編第 8 章時間的制約を受ける公共土木工事の積算」による。

## ⑨ 土木請負工事における現場環境改善費の積算

現場環境改善費の積算は行わない。

## ⑩ 工事の一時中止に伴う増加費用等の積算

「土地改良工事積算基準（土木工事）工事の一時中止に伴う増加費用等の取扱いについて」による。

ただし、

工事請負契約書第 20 条第 3 項

以下のとおり読み替える。

建設工事請負契約書

## ⑪ 施工箇所が点在する工事の積算

「建設工事積算基準第Ⅰ編第 11 章施工箇所が点在する工事の積算」による。

## ⑫ 1 日未満で完了する作業の積算

「建設工事積算基準第Ⅰ編第 12 章 1 日未満で完了する作業の積算」による。

## ⑬ 設計変更

「建設工事積算基準第Ⅰ編第 13 章設計変更」による。

## ⑭ その他

「建設工事積算基準第Ⅰ編第 14 章その他」による。

## ⑮ 請負工事機械経費積算要領

「建設工事積算基準第Ⅰ編第 15 章請負工事機械経費積算要領」による。

①請負工事機械経費積算要領について

1-5 建設機械等損料表に記載のない機械経費については(表－1)による。

②建設用仮設材損料算定基準について

2-3「仮設材（仮排水路）損料率の取扱いについて」は以下のとおりとする。

仮設材の損耗率

| 仮設名 | 仮設材名 | 設置期間別１現場当たり損耗率(%) | | | | | | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | １ヶ月未満 | ３ヶ月未満 | ６ヶ月未満 | １年未満 | ２年未満 | ３年未満 | |
| 土留<br>仮締切<br>仮橋<br>足場<br>支保<br>防護柵等 | 木材 | 15 | 25 | 40 | 50 | 75 | 100 | A 条件 |
| | 〃 | 50 | 65 | 80 | 100 | 100 | 100 | B 条件 |
| | 鋼材 | 10 | 10 | 20 | 30 | 50 | 70 | |
| 給排水<br>仮廻し水路等 | 合成樹脂管・ホース | 30 | 45 | 55 | 65 | 75 | 85 | |
| | 鋼管・ガス管 | 10 | 10 | 20 | 30 | － | － | |
| | 鋼製コルゲートパイプ | 30 | 45 | 55 | 65 | 75 | 85 | |
| | コンクリート管 | 50 | | | | | | |
| 保安施設等 | シート | 30 | | | | | | |
| | ロープ | 20 | | | | | | |

備考　1. 摘要欄の A 条件、B 条件の判定は次による。

A 条件：足場、支保、防護柵(岩砕の飛散を受けない)等、通常の条件で使用する場合。

B 条件：土留、仮締切、仮橋、防護柵(岩砕の飛散を受ける)等、過酷な条件で使用する場合。

2. 木材で再使用不可能な場合、又は長さ 2m 未満の木材を使用する場合は、全損扱いでよい。

3. 土留等の仮設におけるボルト、カスガイ、釘、鉄線等は全損扱いでよい。

4. タイロッドは 1 工事全損としスクラップ控除とする。

5. 合成樹脂管・ホースは、硬質ポリ塩化ビニル管・塩化ビニルホース・高密度ポリエチレン管を対象とする。

6. 上表は「土地改良工事積算基準（機械経費)」土地改良事業等請負工事仮設材経費算定基準に示す資材以外に適用する。

⑤建設用仮設材賃料積算基準について

たて込み簡易土留機材を下記のとおり追加する。

○使用回数・・・・たて込みから引抜きまでを 1 回として算定する。

○賃料の積算方法

たて込み簡易土留機材の賃料=(市場価格×供用日数+1 現場当たり修理費及び損耗費)×使用数量

○修理費及び損耗費

たて込み簡易土留機材修理費及び損耗費表

| 区　分 | １現場当たり修理費及び損耗費 | |
|---|---|---|
| | 掘削幅 3m未満 | 掘削幅 3m以上４．７ｍ未満 |
| | (円/㎡) | (円/㎡) |
| たて込み簡易土留機材 | | |
| (1 セット 30m) | | |
| 深さ 1.5m 以上 3.5m 以下 | 280 | 430 |
| 深さ 3.5m 超え 6.0m 以下 | 360 | 510 |
| (1 セット 15m) | | |
| 深さ 1.5m 以上 3.5m 以下 | 400 | － |

備考　1. 修理費及び損耗費は、整備費、ケレン・穴埋め・曲がり直し等の修理費、切梁破損、たて込み等による損耗費を含む。
2. 機材１組の長さは 2～3m を標準とする。
3. 深さの規格は、最大掘削を適用する。
4. 本表にないものは別途考慮する。

（表－１）

| 分類コード 機械名称 | 諸元 | 規格 機関出力 kW (PS) | 規格 機械質量 (t) | (1) 基礎価格 (千円) | (2) 標準使用年数 (年) | 年間標準 (3) 運転時間 (時間) | 年間標準 (4) 運転日数 (日) | 年間標準 (5) 供用日数 (日) | (6) 維持修理費率 (%) | (7) 年間管理費率 (%) | 残存率 (%) | 運転1時間当たり (8) 損料率 (×10⁻⁶) | 運転1時間当たり (9) 損料 (円) | 供用1日当たり (10) 損料率 (×10⁻⁶) | 供用1日当たり (11) 損料 (円) | 換算値 運転1時間当たり (12) 損料率 (×10⁻⁶) | 換算値 運転1時間当たり (13) 損料 (円) | 換算値 供用1日当たり (14) 損料率 (×10⁻⁶) | 換算値 供用1日当たり (15) 損料 (円) | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 36 農用地整備用機械 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3611 農用トラクタ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0012［乗用・ホイール型］ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 015-001 | 四輪駆動 11kW級(15ps) | 11 (15) | 0.9 | 1,640 | 12 | 270 | 55 | 90 | 35 | 7 | 10 | 247 | 405 | 1,194 | 1,960 | 645 | 1,060 | 1,935 | 3,170 | |
| 030-001 | 四輪駆動 22kW級(30ps) | 22 (30) | 1.5 | 3,170 | 12 | 270 | 55 | 90 | 35 | 7 | 10 | 247 | 783 | 1,194 | 3,780 | 645 | 2,040 | 1,935 | 6,130 | |
| 060-001 | 四輪駆動 30～44kW級(40～60ps) | 44 (60) | 2.0 | 3,940 | 12 | 270 | 55 | 90 | 35 | 7 | 10 | 247 | 973 | 1,194 | 4,700 | 645 | 2,540 | 1,935 | 7,620 | |
| 080-001 | 四輪駆動 52～59kW級(70～80ps) | 59 (80) | 2.9 | 7,970 | 12 | 270 | 55 | 90 | 35 | 7 | 10 | 247 | 1,970 | 1,194 | 9,520 | 645 | 5,140 | 1,935 | 15,400 | |
| 120-001 | 四輪駆動 67～88kW級(90～120ps) | 88(120) | 3.5 | 8,760 | 12 | 270 | 55 | 90 | 35 | 7 | 10 | 247 | 2,160 | 1,194 | 10,500 | 645 | 5,650 | 1,935 | 17,000 | |
| 0022［乗用・クローラ型］ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 060-001 | 30～44kW級(40～60ps) | 44 (60) | 3.1 | 4,340 | 9 | 395 | 65 | 115 | 55 | 7 | 10 | 281 | 1,220 | 1,043 | 4,530 | 585 | 2,540 | 2,010 | 8,720 | PTO 三点指示器含む。 |
| 080-001 | 52～59kW級(70～80ps) | 59 (80) | 3.9 | 6,170 | 9 | 395 | 65 | 115 | 55 | 7 | 10 | 281 | 1,730 | 1,043 | 6,440 | 585 | 3,610 | 2,010 | 12,400 | |
| 120-001 | 67～88kW級(90～120ps) | 88(120) | 4.6 | 9,280 | 9 | 395 | 65 | 115 | 55 | 7 | 10 | 281 | 2,610 | 1,043 | 9,680 | 585 | 5,430 | 2,010 | 18,700 | |
| 耕起用機械 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3631 ブラッシュブレーカー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0006[直装式] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 221－001 | 20～22インチ×1連 | － | 0.6 | 726 | 9 | － | 45 | 90 | 85 | 6 | 10 | (日)3,210 | (日)2,330 | 1,222 | 887 | (日)5,654 | (日)4,100 | 2,827 | 2,050 | 維持修理に刃板の費用を含む。 |
| 022－001 | 20～22インチ×2連 | － | 0.8 | 1,220 | 9 | － | 45 | 90 | 85 | 6 | 10 | (日)3,210 | (日)3,920 | 1,222 | 1,490 | (日)5,654 | (日)6,900 | 2,827 | 3,450 | |
| 0016[けん引式] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 221－001 | 20～22インチ×1連 | － | 1.0 | 1,670 | 9 | － | 45 | 90 | 85 | 6 | 10 | (日)3,210 | (日)5,360 | 1,222 | 2,040 | (日)5,654 | (日)9,440 | 2,827 | 4,720 | 維持修理に刃板の費用を含む。 |
| 3632 ブラウイングハロー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0016[けん引式オフセット] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 028－001 | オフセット28インチ×20枚 | － | 3.0 | 3,780 | 10 | － | 40 | 65 | 25 | 6 | 10 | (日)1,750 | (日)6,620 | 1,615 | 6,100 | (日)4,375 | (日)16,500 | 2,692 | 10,200 | 維持修理に刃板の費用を含む。 |
| 032－001 | オフセット32インチ×16枚 | － | 3.3 | 4,920 | 10 | － | 40 | 65 | 25 | 6 | 10 | (日)1,750 | (日)8,610 | 1,615 | 7,950 | (日)4,375 | (日)21,500 | 2,692 | 13,200 | |
| 3641 ディスクハロー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0006[直装式] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 018－001 | オフセット18インチ×28枚 | － | 0.5 | 550 | 9 | － | 40 | 105 | 70 | 6 | 10 | (日)3,194 | (日)1,760 | 1,048 | 576 | (日)5,944 | (日)3,270 | 2,265 | 1,250 | |
| 020－001 | オフセット20インチ×28枚 | － | 0.8 | 690 | 9 | － | 40 | 105 | 70 | 6 | 10 | (日)3,194 | (日)2,200 | 1,048 | 723 | (日)5,944 | (日)4,100 | 2,265 | 1,560 | |
| 022－001 | オフセット22インチ×28枚 | － | 0.9 | 780 | 9 | － | 40 | 105 | 70 | 6 | 10 | (日)3,194 | (日)2,490 | 1,048 | 817 | (日)5,944 | (日)4,640 | 2,265 | 1,770 | |
| 0016[けん引式] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 020－001 | オフセット20インチ×32枚 | － | 1.5 | 1,180 | 9 | － | 40 | 105 | 70 | 6 | 10 | (日)3,194 | (日)3,770 | 1,048 | 1,240 | (日)5,944 | (日)7,010 | 2,265 | 2,670 | |
| 022－001 | オフセット22インチ×24枚 | － | 1.5 | 1,510 | 9 | － | 40 | 105 | 70 | 6 | 10 | (日)3,194 | (日)4,820 | 1,048 | 1,580 | (日)5,944 | (日)8,980 | 2,265 | 3,420 | |
| 024－001 | オフセット24インチ×24枚 | － | 1.8 | 1,900 | 9 | － | 40 | 105 | 70 | 6 | 10 | (日)3,194 | (日)6,070 | 1,048 | 1,990 | (日)5,944 | (日)11,300 | 2,265 | 4,300 | |
| 3642 ロータリティラー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0006［直装式］ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 018-001 | 作業幅1.6～1.8m級 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 020-001 | 作業幅1.9～2.0m級 | － | 0.3 | 604 | 10 | － | 45 | 70 | 100 | 5 | 10 | (日)3,222 | (日)1,950 | 1,357 | 820 | (日)5,333 | (日)3,220 | 3,429 | 2,070 | 維持修理に刃板の費用を含む。 |
| 024-001 | 作業幅2.1～2.4m級 | － | 0.5 | 882 | 10 | － | 45 | 70 | 100 | 5 | 10 | (日)3,222 | (日)2,840 | 1,357 | 1,200 | (日)5,333 | (日)4,700 | 3,429 | 3,020 | |
| | | － | 0.6 | 1,110 | 10 | － | 45 | 70 | 100 | 5 | 10 | (日)3,222 | (日)3,580 | 1,357 | 1,510 | (日)5,333 | (日)5,920 | 3,429 | 3,810 | |
| 3643 ケンブリッジローラ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0016[けん引式] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 024－001 | 作業幅2.4m級 | － | 1.2 | 673 | 9 | － | 35 | 105 | 55 | 5 | 10 | (日)3,175 | (日)2,140 | 952 | 641 | (日)6,032 | (日)4,060 | 2,011 | 1,350 | |
| 027－001 | 作業幅2.7m級 | － | 2.0 | 958 | 9 | － | 35 | 105 | 55 | 5 | 10 | (日)3,175 | (日)3,040 | 952 | 912 | (日)6,032 | (日)5,780 | 2,011 | 1,930 | |

| 分類コード 機械名称 | 規格 諸元 | 機関出力 kW (PS) | 機械質量 (t) | (1) 基礎価格 (千円) | (2) 標準使用年数 (年) | 年間標準 (3) 運転時間 (時間) | (4) 運転日数 (日) | (5) 供用日数 (日) | (6) 維持修理費率 (%) | (7) 年間管理費率 (%) | 残存率 (%) | 運転1時間当たり (8) 損料率 (×10⁻⁶) | (9) 損料 (円) | 供用1日当たり (10) 損料率 (×10⁻⁶) | (11) 損料 (円) | 換算値 運転1時間当たり (12) 損料率 (×10⁻⁶) | (13) 損料 (円) | 換算値 供用1日当たり (14) 損料率 (×10⁻⁶) | (15) 損料 (円) | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3644 ボトムプラウ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0011[直装式] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 020－001 | 20インチ×3連 | － | 2.1 | 5,260 | 6 | 150 | 35 | 100 | 30 | 9 | 10 | 833 | 4,380 | 1,650 | 8,680 | 1,933 | 10,200 | 2,900 | 15,300 | |
| 024－001 | 24インチ×2連 | － | 1.6 | 2,960 | 6 | 150 | 35 | 100 | 30 | 9 | 10 | 833 | 2,470 | 1,650 | 4,880 | 1,933 | 5,720 | 2,900 | 8,580 | |
| 030－001 | 30インチ×1連 二段耕プラウ | － | 2.1 | 4,750 | 6 | 150 | 35 | 100 | 30 | 9 | 10 | 833 | 3,960 | 1,650 | 7,840 | 1,933 | 9,180 | 2,900 | 13,800 | |
| 0012[直装式・レーザープラウ] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 016－001 | 16インチ×5連 | － | 1.9 | 5,400 | 6 | 150 | 35 | 100 | 30 | 9 | 10 | 833 | 4,500 | 1,650 | 8,910 | 1,933 | 10,400 | 2,900 | 15,700 | レーザー機材（レーザー発光器・受光器、発光器三脚、ディスプレイ、ケーブル等）を含む。 |
| 022－001 | 22インチ×3連 | － | 1.6 | 5,050 | 6 | 150 | 35 | 100 | 30 | 9 | 10 | 833 | 4,210 | 1,650 | 8,330 | 1,933 | 9,760 | 2,900 | 14,600 | |
| 030－001 | 30インチ×1連 二段耕プラウ | － | 2.5 | 6,420 | 6 | 150 | 35 | 100 | 30 | 9 | 10 | 833 | 5,350 | 1,650 | 10,600 | 1,933 | 12,400 | 2,900 | 18,600 | |
| 整地用機械 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3645 レーザーレベラ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0011[直装式] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 050－001 | 整地幅 5m級 | － | 1.2 | 4,760 | 6 | 210 | 40 | 85 | 30 | 9 | 10 | 595 | 2,830 | 1,941 | 9,240 | 1,381 | 6,570 | 3,412 | 16,200 | レーザー機材（レーザー発光器・受光器、発光器三脚、ディスプレイ、ケーブル等）を含む。 |
| 060－001 | 整地幅 6m級 | － | 2.1 | 5,250 | 6 | 210 | 40 | 85 | 30 | 9 | 10 | 595 | 3,120 | 1,941 | 10,200 | 1,381 | 7,250 | 3,412 | 17,900 | |
| 0012[けん引式] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 032－001 | 整地幅 3.2m級 | － | 0.7 | 2,930 | 6 | 210 | 40 | 85 | 30 | 9 | 10 | 595 | 1,740 | 1,941 | 5,690 | 1,381 | 4,050 | 3,412 | 10,000 | レーザー機材（レーザー発光器・受光器、発光器三脚、ディスプレイ、ケーブル等）を含む。 |
| 041－001 | 整地幅 4.1m級 | － | 0.9 | 3,460 | 6 | 210 | 40 | 85 | 30 | 9 | 10 | 595 | 2,060 | 1,941 | 6,720 | 1,381 | 4,780 | 3,412 | 11,800 | |
| 土壌改良用機械 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3651 ライムソワー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0006[直装式] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 450－001 | 容量450ℓ 作業幅3.0m級 | － | 0.2 | 402 | 9 | － | 40 | 105 | 55 | 5 | 10 | (日)2,778 | (日)1,120 | 952 | 383 | (日)5,278 | (日)2,120 | 2,011 | 808 | |
| 0016[けん引式] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 410－001 | 容量410ℓ 作業幅2.7m級 | － | 0.3 | 281 | 9 | － | 40 | 105 | 55 | 5 | 10 | (日)2,778 | (日)781 | 952 | 268 | (日)5,278 | (日)1,480 | 2,011 | 565 | |
| 800－001 | 容量800ℓ 作業幅3.0m級 | － | 0.4 | 875 | 9 | － | 40 | 105 | 55 | 5 | 10 | (日)2,778 | (日)2,430 | 952 | 833 | (日)5,278 | (日)4,620 | 2,011 | 1,760 | |
| 3652 マニュアスプレッダ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0011[自走式] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 015－001 | 積載質量1.5ｔ級 | 10(14) | 1.8 | 3,020 | 9 | － | 30 | 95 | 65 | 5 | 10 | (日)4,074 | (日)12,300 | 1,053 | 3,180 | (日)7,407 | (日)22,400 | 2,339 | 7,060 | |
| 0016[けん引式] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 010－001 | 積載質量1ｔ級 | － | 0.9 | 730 | 9 | － | 30 | 95 | 65 | 5 | 10 | (日)4,074 | (日)2,970 | 1,053 | 769 | (日)7,407 | (日)5,410 | 2,339 | 1,710 | |
| 020－001 | 積載質量2ｔ級 | － | 1.0 | 1,240 | 9 | － | 30 | 95 | 65 | 5 | 10 | (日)4,074 | (日)5,050 | 1,053 | 1,310 | (日)7,407 | (日)9,180 | 2,339 | 2,900 | |
| 030－001 | 積載質量3ｔ級 | － | 1.2 | 1,600 | 9 | － | 30 | 95 | 65 | 5 | 10 | (日)4,074 | (日)6,520 | 1,053 | 1,680 | (日)7,407 | (日)11,900 | 2,339 | 3,740 | |
| 施肥播種用機械 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3661 ブロードキャスター | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0006[直装式] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 040-001 | 容量150～400ℓ | － | 0.2 | 189 | 9 | － | 25 | 90 | 100 | 5 | 10 | (日)6,444 | (日)1,220 | 1,111 | 210 | (日)10,444 | (日)1,970 | 2,901 | 548 | |
| 050-001 | 容量400～500ℓ | － | 0.2 | 241 | 9 | － | 25 | 90 | 100 | 5 | 10 | (日)6,444 | (日)1,550 | 1,111 | 268 | (日)10,444 | (日)2,520 | 2,901 | 699 | |
| 060-001 | 容量600ℓ | － | 0.2 | 451 | 9 | － | 25 | 90 | 100 | 5 | 10 | (日)6,444 | (日)2,910 | 1,111 | 501 | (日)10,444 | (日)4,710 | 2,901 | 1310 | |

| 分類コード 機械名称 | 規格 諸元 | 機関出力 kW (PS) | 機械質量 (t) | (1) 基礎価格 (千円) | (2) 標準使用年数 (年) | 年間標準 (3) 運転時間 (時間) | (4) 運転日数 (日) | (5) 供用日数 (日) | (6) 維持修理費率 (%) | (7) 年間管理費率 (%) | 残存率 (%) | 運転1時間当たり (8) 損料率 (×10⁻⁶) | 運転1時間当たり (9) 損料 (円) | 供用1日当たり (10) 損料率 (×10⁻⁶) | 供用1日当たり (11) 損料 (円) | 換算値 運転1時間当たり (12) 損料率 (×10⁻⁶) | 換算値 運転1時間当たり (13) 損料 (円) | 換算値 供用1日当たり (14) 損料率 (×10⁻⁶) | 換算値 供用1日当たり (15) 損料 (円) | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土層改良用機械 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3683 バンブレーカ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0006[直装式] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 030－001 | 3本爪 作業幅2.7m | － | 1.6 | 2,930 | 8 | － | 25 | 45 | 70 | 6 | 10 | (日) 5,750 | (日)16,800 | 2,583 | 7,570 | (日)10,400 | (日)30,500 | 5,778 | 16,900 | |
| 3684 サブソイラ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0006[直装式] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 001－001 | 1本爪 | － | 0.1 | 207 | 8 | － | 25 | 45 | 70 | 6 | 10 | (日) 5,750 | (日)1,190 | 2,583 | 535 | (日)10,400 | (日)2,150 | 5,778 | 1,200 | 維持修理に刃板の費用を含む。 |
| 002－001 | 2本爪 | － | 0.3 | 350 | 8 | － | 25 | 45 | 70 | 6 | 10 | (日) 5,750 | (日)2,010 | 2,583 | 904 | (日)10,400 | (日)3,640 | 5,778 | 2,020 | |
| 003－001 | 3本爪 | － | 0.3 | 346 | 8 | － | 25 | 45 | 70 | 6 | 10 | (日) 5,750 | (日)1,990 | 2,583 | 894 | (日)10,400 | (日)3,600 | 5,778 | 2,000 | |
| 3685 除礫用機械 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0021[クローラ型・油圧回転バケット付] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 001－001 | 0.4㎥ | － | － | 11,300 | 5 | 340 | 50 | 100 | 10 | 7 | 10 | 324 | 3,660 | 1,600 | 18,100 | 794 | 8,970 | 2,700 | 30,500 | |
| 暗渠用機械 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3691 トレンチャ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0011[自走式・普通型] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 180－001 | クローラ13kW(18ps)最大掘削深0.9m | 13(18) | 1.4 | 1,110 | 11 | 350 | 60 | 85 | 100 | 9 | 10 | 377 | 418 | 1,540 | 1,710 | 751 | 834 | 3,091 | 3,430 | |
| 481－001 | クローラ35kW(48ps)最大掘削深1.3m | 35(48) | 3.0 | 8,410 | 11 | 350 | 60 | 85 | 100 | 9 | 10 | 377 | 3,170 | 1,540 | 13,000 | 751 | 6,320 | 3,091 | 26,000 | |
| 482－001 | クローラ35kW(48ps)最大掘削深1.3m 自動埋設 | 35(48) | 3.0 | 8,650 | 11 | 350 | 60 | 85 | 100 | 9 | 10 | 377 | 3,260 | 1,540 | 13,300 | 751 | 6,500 | 3,091 | 26,700 | |
| 540－001 | クローラ40kW(54ps)最大掘削深1.4m | 40(54) | 3.6 | 8,760 | 11 | 350 | 60 | 85 | 100 | 9 | 10 | 377 | 3,300 | 1,540 | 13,500 | 751 | 6,580 | 3,091 | 27,100 | |
| 620－001 | クローラ46kW(62ps)最大掘削深1.5m | 46(63) | 3.8 | 9,500 | 11 | 350 | 60 | 85 | 100 | 9 | 10 | 377 | 3,580 | 1,540 | 14,600 | 751 | 7,130 | 3,091 | 29,400 | |
| 0031[自走式・超湿地型] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 500－001 | クローラ37kW(50ps)掘削深1.5m 自動埋設 | 37(50) | 5.5 | 9,810 | 11 | 350 | 60 | 85 | 100 | 9 | 10 | 377 | 3,700 | 1,540 | 15,100 | 751 | 7,370 | 3,091 | 30,300 | |
| 3692 籾殻埋設機 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0011[直装式] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| タンク容量3.8㎥ | | － | 0.9 | 1,600 | 8 | 410 | 60 | 80 | 55 | 6 | 10 | 305 | 488 | 1,453 | 2,320 | 588 | 941 | 3,016 | 4,830 | |
| 0012[直装式・暗渠管同時埋設型] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| タンク容量3㎥ | | － | 2.6 | 7,420 | 8 | 410 | 60 | 80 | 55 | 6 | 10 | 305 | 2,260 | 1,453 | 10,800 | 588 | 4,360 | 3,016 | 22,400 | |
| 造成用機械 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3693 レーキドーザ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0011 [普通] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 060－001 | 6t | 52(71) | 6.6 | 6,630 | 9 | 505 | 65 | 125 | 45 | 9 | 10 | 198 | 1,310 | 1,120 | 7,430 | 475 | 3,150 | 1,920 | 12,700 | |
| 110－001 | 11t | 76(103) | 12.3 | 11,900 | 9 | 505 | 65 | 125 | 45 | 9 | 10 | 198 | 2,360 | 1,120 | 13,300 | 475 | 5,650 | 1,920 | 22,800 | |
| 150－001 | 15t | 107(145) | 16.1 | 15,700 | 9 | 505 | 65 | 125 | 45 | 9 | 10 | 198 | 3,110 | 1,120 | 17,600 | 475 | 7,460 | 1,920 | 30,100 | |
| 210－001 | 21t | 155(211) | 23.9 | 25,700 | 9 | 505 | 65 | 125 | 45 | 9 | 10 | 198 | 5,090 | 1,120 | 28,800 | 475 | 12,200 | 1,920 | 49,300 | |
| 320－001 | 32t | 204(277) | 32.9 | 36,300 | 9 | 505 | 65 | 125 | 45 | 9 | 10 | 198 | 7,190 | 1,120 | 40,700 | 475 | 17,200 | 1,920 | 69,700 | |
| 0021 [湿地] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 130－001 | 13t | 93(126) | 14.7 | 14,500 | 9 | 505 | 65 | 125 | 45 | 9 | 10 | 198 | 2,870 | 1,120 | 16,200 | 475 | 6,890 | 1,920 | 27,800 | |
| 160－001 | 16t | 104(141) | 17.1 | 17,000 | 9 | 505 | 65 | 125 | 45 | 9 | 10 | 198 | 3,370 | 1,120 | 19,000 | 475 | 8,080 | 1,920 | 32,600 | |

| 分類コード<br>機械名称 | 規格<br>諸元 | 規格<br>機関出力<br>kW (PS) | 規格<br>機械質量<br>(t) | (1)<br>基礎価格<br>(千円) | (2)<br>標準使用年数<br>(年) | 年間標準<br>(3)<br>運転時間<br>(時間) | 年間標準<br>(4)<br>運転日数<br>(日) | 年間標準<br>(5)<br>供用日数<br>(日) | (6)<br>維持修理費率<br>(%) | (7)<br>年間管理費率<br>(%) | 残存率<br>(%) | 運転1時間当たり<br>(8)<br>損料率<br>(×10⁻⁶) | 運転1時間当たり<br>(9)<br>損料<br>(円) | 供用1日当たり<br>(10)<br>損料率<br>(×10⁻⁶) | 供用1日当たり<br>(11)<br>損料<br>(円) | 換算値<br>運転1時間当たり<br>(12)<br>損料率<br>(×10⁻⁶) | 換算値<br>運転1時間当たり<br>(13)<br>損料<br>(円) | 換算値<br>供用1日当たり<br>(14)<br>損料率<br>(×10⁻⁶) | 換算値<br>供用1日当たり<br>(15)<br>損料<br>(円) | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **3694 建設用トラクタ** | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| **0011[普通]** | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 030-001 | 3t | 29(39) | 3.2 | 4,060 | 13 | 495 | 70 | 135 | 50 | 9 | 10 | 148 | 601 | 923 | 3,750 | 399 | 1,620 | 1,464 | 5,940 | |
| 060-001 | 6t | 52(71) | 5.3 | 5,780 | 13 | 495 | 70 | 135 | 50 | 9 | 10 | 148 | 855 | 923 | 5,330 | 399 | 2,310 | 1,464 | 8,460 | |
| 090-001 | 9t | 67(91) | 8.8 | 9,260 | 13 | 495 | 70 | 135 | 50 | 9 | 10 | 148 | 1,370 | 923 | 8,550 | 399 | 3,690 | 1,464 | 13,600 | |
| 110-001 | 11t | 76(103) | 8.9 | 10,400 | 13 | 495 | 70 | 135 | 50 | 9 | 10 | 148 | 1,540 | 923 | 9,600 | 399 | 4,150 | 1,464 | 15,200 | |
| 150-001 | 15t | 107(145) | 13.0 | 13,800 | 13 | 495 | 70 | 135 | 50 | 9 | 10 | 148 | 2,040 | 923 | 12,700 | 399 | 5,510 | 1,464 | 20,200 | |
| 210-001 | 21t | 155(211) | 18.8 | 22,500 | 13 | 495 | 70 | 135 | 50 | 9 | 10 | 148 | 3,330 | 923 | 20,800 | 399 | 8,980 | 1,464 | 32,900 | |
| 320-001 | 32t | 204(277) | 26.4 | 32,200 | 13 | 495 | 70 | 135 | 50 | 9 | 10 | 148 | 4,770 | 923 | 29,700 | 399 | 12,800 | 1,464 | 47,100 | |
| **0021 [単体・湿地]** | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 070-001 | 7t | 52(71) | 5.5 | 6,430 | 13 | 495 | 70 | 135 | 50 | 9 | 10 | 148 | 952 | 923 | 5,930 | 399 | 2,570 | 1,464 | 9,410 | |
| 100-001 | 10t | 70(95) | 10.3 | 9,550 | 13 | 495 | 70 | 135 | 50 | 9 | 10 | 148 | 1,410 | 923 | 8,810 | 399 | 3,810 | 1,464 | 14,000 | |
| 130-001 | 13t | 93(126) | 13.3 | 13,000 | 13 | 495 | 70 | 135 | 50 | 9 | 10 | 148 | 1,920 | 923 | 12,000 | 399 | 5,190 | 1,464 | 19,000 | |
| 160-001 | 16t | 104(141) | 14.8 | 14,400 | 13 | 495 | 70 | 135 | 50 | 9 | 10 | 148 | 2,130 | 923 | 13,300 | 399 | 5,750 | 1,464 | 21,100 | |

| 分類コード | 諸元 | 規格 機関出力 kW | 規格 機械質量 (t) | (1) 基礎価格 (千円) | (2) 標準使用年数 (年) | 年間標準 (3) 運転時間 (時間) | 年間標準 (4) 運転日数 (日) | 年間標準 (5) 供用日数 (日) | (6) 維持修理費率 (%) | (7) 年間管理費率 (%) | 残存率 (%) | 運転1時間当たり (8) 損料率 (×10⁻⁶) | 運転1時間当たり (9) 損料 (円) | 供用1日当たり (10) 損料率 (×10⁻⁶) | 供用1日当たり (11) 損料 (円) | 参考 運転1時間当たり換算値 (12) 損料率 (×10⁻⁶) | 参考 運転1時間当たり換算値 (13) 損料 (円) | 参考 供用1日当たり換算値 (14) 損料率 (×10⁻⁶) | 参考 供用1日当たり換算値 (15) 損料 (円) | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 【ブルドーザ及びスクレーパ】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ブルドーザ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ［超湿地］ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 13t 級 | 96 | 14.5 | 12,500 | 12.5 | 400 | 80 | 140 | 25 | 10 | 11 | 139 | 1,740 | 969 | 12,100 | 478 | 5,980 | 1,366 | 17,100 | |
| 【ウインチ類】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ウインチ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ［複胴開放式・ディーゼル］ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 巻上能力 1.80t | 48.5 | 1.6 | 2,180 | 14.0 | － | 100 | 160 | 120 | 8 | 7 | （日）1,189 | （日）2,590 | 708 | 1,540 | （日）2,321 | （日）5,060 | 1,451 | 3,160 | |
| | 巻上能力 2.80t | 48.5 | 2.2 | 2,880 | 14.0 | － | 100 | 160 | 120 | 8 | 7 | （日）1,189 | （日）3,420 | 708 | 2,040 | （日）2,321 | （日）6,680 | 1,451 | 4,180 | |
| | 巻上能力 4.20t | 108 | 3.1 | 3,570 | 14.0 | － | 100 | 160 | 120 | 8 | 7 | （日）1,189 | （日）4,240 | 708 | 2,530 | （日）2,321 | （日）8,290 | 1,451 | 5,180 | |
| 【その他機器】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 高圧洗浄機［工事用・エンジン駆動］］ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 吐出量35～70L/min、圧力30MPa | 18 | 1.0 | 3,420 | 11.0 | － | 110 | 150 | 125 | 8 | 7 | （日）1,417 | （日）4,850 | 815 | 2,790 | （日）2,529 | （日）8,650 | 1,855 | 6,340 | |
| | 吐出量35～70L/min、圧力50MPa | 37 | 1.0 | 6,370 | 11.0 | － | 110 | 150 | 125 | 8 | 7 | （日）1,417 | （日）9,030 | 815 | 5,190 | （日）2,529 | （日）16,100 | 1,855 | 11,800 | ノズル、高圧ホース、エンジンを含む |
| | 吐出量35～70L/min、圧力80MPa | 91 | 4.1 | 16,600 | 11.0 | － | 110 | 150 | 125 | 8 | 7 | （日）1,417 | （日）23,500 | 815 | 13,500 | （日）2,529 | （日）42,000 | 1,855 | 30,800 | |
| | 吐出量35～70L/min、圧力100MPa | 141 | 3.9 | 21,000 | 11.0 | － | 110 | 150 | 125 | 8 | 7 | （日）1,417 | （日）29,800 | 815 | 17,100 | （日）2,529 | （日）53,100 | 1,855 | 39,000 | |

## ⑯積算上の統一事項等

「建設工事積算基準第Ⅰ編第 16 章積算上の統一事項等」による。

# 第２章　土工

## ［1］ 適用基準

① 人力土工（盛土・埋戻）　[SV016]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３　1. 土工　／　④盛土・埋戻　による。

② 不整地運搬　[SV015]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３　1. 土工　／　⑤不整地運搬　による。

③ 人力荒仕上げ　[SV020]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３　1. 土工　／　⑥人力荒仕上げ　による。

④ 管水路基礎岩盤整形工（基面）

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３　1. 土工　／　⑦管水路基礎岩盤整形工（基面）　による。

⑤ ダンプトラック運搬（標準以外）　[SV010]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第２　1. 土工　／　②ダンプトラック運搬（標準以外）　による。

⑥ 管水路基礎岩盤整形工(法面)

土地改良工事積算基準(土木工事)

土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛(平成 31 年 10 月 1 日から適用)

第2 1. 土工 ／ ③管水路基礎岩盤整形工(法面) による。

[2] 運用基準

な し

[3] 独自基準

な し

# 第３章　共通工

## [1] 適用基準

### ① ネットフェンス工（本体）・（扉）　[SV055] [SV060]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３　２. 共通工　／　①ネットフェンス工　による。

### ② 機械（不整地運搬車）小運搬　[SV070]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３　２. 共通工　／　⑥機械（不整地運搬車）小運搬　による。

### ③石積類とりこわし（機械）

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第２　２. 共通工　／　⑥石積類とりこわし　による。

ただし、３．人力とりこわし及び５．単価表（１）人力とりこわし１０㎡当り単価表については適用しない。

### ④ 柵工　[SV065]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第２　２. 共通工　／　⑧柵工　による。

### ⑤ ガス切断・開先加工

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第２　２. 共通工　／　⑨ガス切断・開先加工　による。

⑥ 溶接（電気）

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第2 2. 共通工 ／ ⑩溶接（電気） による。

⑦ ネットフェンス撤去工

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第2 2. 共通工 ／ ⑪ネットフェンス撤去工 による。

［2］ 運用基準

な し

［3］ 独自基準

1. ③ 石積類とりこわし（機械）

1．適用範囲

以下のとおり読み替える。

本歩掛は、石積類（石積及びコンクリートブロック（空積））を機械でとりこわす場合に適用する。

なお、人力とりこわしは、「建設工事積算基準第Ⅱ編第２章共通工⑭構造物とりこわし工」を適用する。

控長は下記のとおりとする。

機械とりこわし：練積：25ｃｍ以上 60ｃｍ未満、空積：20cm 以上 60cm 未満

以下を削除する。

人力とりこわし：練積：35cm 以上 45cm 未満、空積 90cm 未満

## 2.④ 柵工

### ３．施工歩掛

３－１　柵工１００ｍ当り施工量

表３．１　柵工１００ｍ当り施工量

名称「松杭丸太」

以下のとおり読み替える。

「切丸太（間伐材）」

### ４．単価表

（１）柵工１００ｍ当り単価表

名称「松杭丸太」

以下のとおり読み替える。

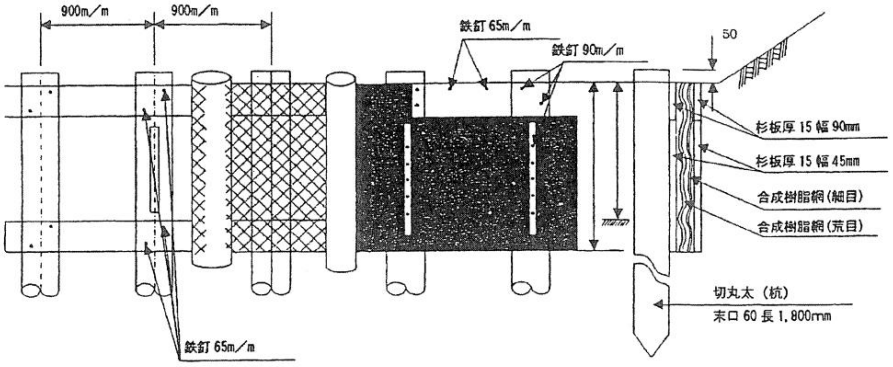
「切丸太（間伐材）」

### ５．下記を追記する。

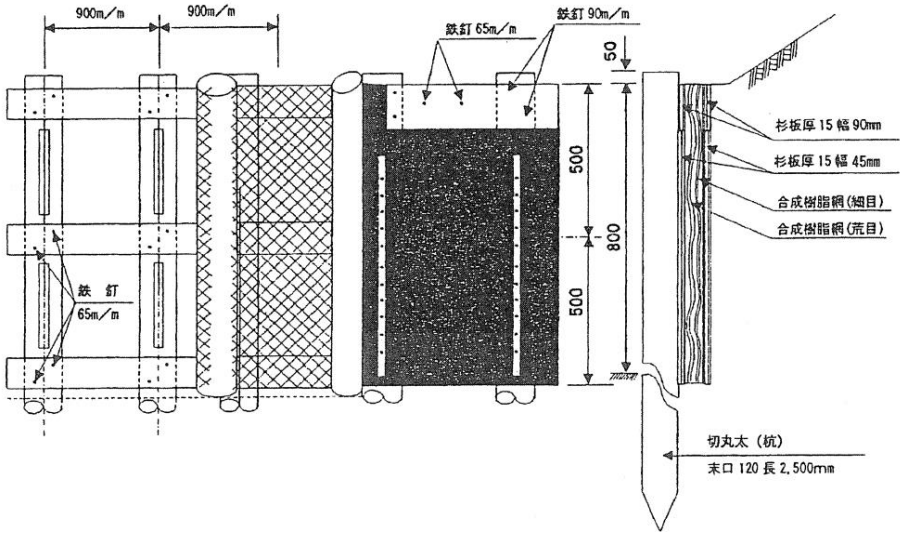
5. 参考図

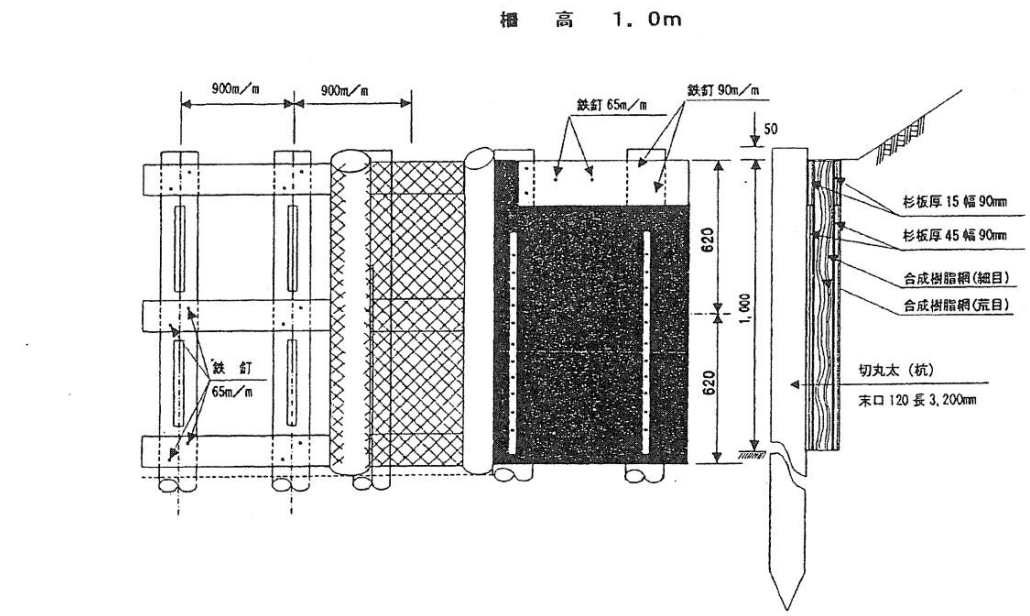
ネット柵工

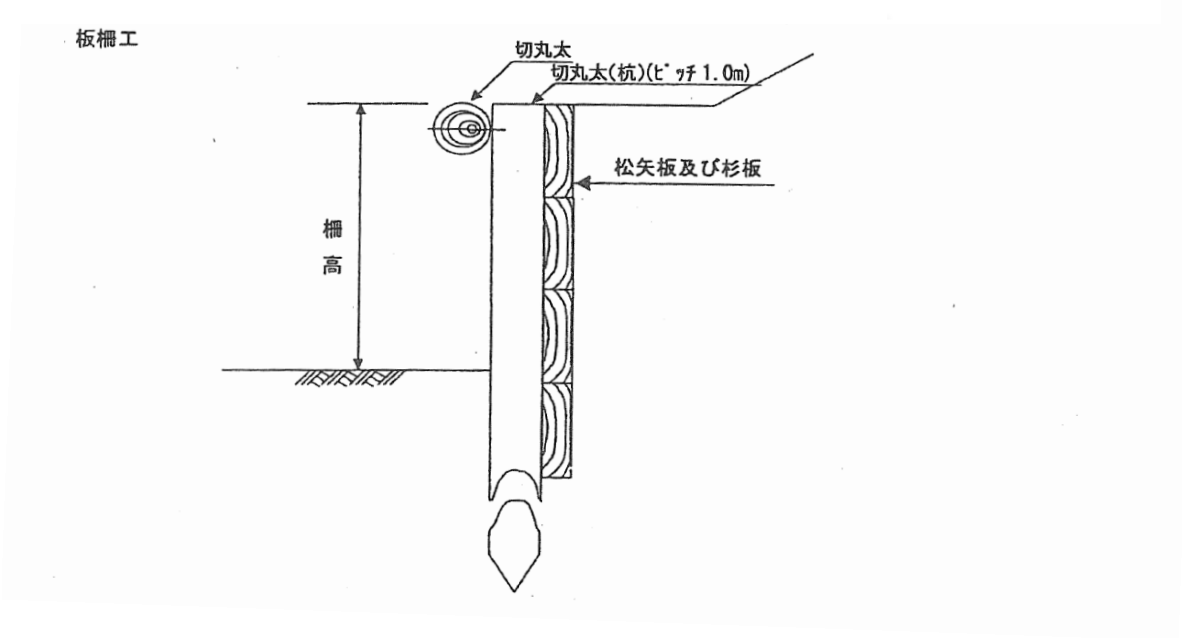
柵　高　0．5m




柵　高　0．8m






## 3.⑤ ガス切断・開先加工

**2．施工歩掛　～　3．単価表**

「雑品費」

以下のとおり読み替える。

「諸雑費」

## 4.⑦ ネットフェンス撤去工

**4．参考図**

以下のとおり読み替える。

本歩掛の参考図は、「第 3 章共通工①ネットフェンス工 4．参考図」を参照とする。

# 第４章　コンクリート工

## ［1］ 適用基準

### ① ダウエルバー取付 [SV210]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第3　3. コンクリートエ　／　①ダウエルバー取付　による。

### ② コンクリート打設足場工

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第3　3. コンクリートエ　／　②コンクリート打設足場工　による。

### ③ モルタルエ

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第2　3. コンクリートエ　／　①モルタルエ　による。

### ④ コンクリートはつり（人力）

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第2　3. コンクリートエ　／　②コンクリートはつり（人力）　による。

### ⑤ 収縮継目ペイント塗装 [SV205]

土地改良工事積算基準（土木工事）

施工パッケージ型積算基準（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

3. コンクリートエ　／　④コンクリート継目工　による。

ただし、目地板設置及び止水板設置については、「建設工事積算基準第Ⅱ編第 2 章共通工⑱目地・止水板設置工」による。

## ［2］ 運用基準

なし

## ［3］ 独自基準

### 1. 生コンクリートの設計基準強度及びセメントの使用区分

土地改良事業計画設計基準等によって設計されたコンクリート構造物で、設計基準強度 21N／mm²を使用する場合は以下のとおりとする。

| 設計基準強度（N／mm²） | 許容応力度（N／mm²） | 呼び強度 | | 最大寸法粗骨材（mm） | スランプ（cm） | 水セメント比（%以下） | セメント量単位（kg 以上） | 空気量（%） | セメントの種類 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 標準品 | 特注品 | | | | | | |
| 21 | $\frac{21}{3}$ | 21 | － | 20 | 12 | 55 | － | 4.5±1.5 | 高炉B |

注：粗骨材の最大寸法は、上表のほか、部材寸法や鉄筋のあきを考慮し選定すること。

### 2.① ダウエルバー取付

**3.施工歩掛**

表 3.1　ダウエルバー取付歩掛（10 本当り）

異形棒鋼

以下のとおり読み替える。

D16（SD295）、D19（SD345）、D25（SD345）

# 第５章　基礎工

## [1] 適用基準

### ①　木杭打込み(機械)　[SV155]

土地改良工事積算基準(土木工事)

土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛(平成 31 年 10 月 1 日から適用)

第2　4. 基礎工　／　②木杭打込み(機械) による。

## [2] 運用基準

な し

## [3] 独自基準

### 1. ①　木杭打込み(機械)

５．単価表

（１）木杭打込み（バックホウ）１００本当り単価表

規格　「松杭丸太」

以下のとおり読み替える。

「切丸太（間伐材）杭木用」

５．単価表

（１）木杭打込み（バックホウ）１００本当り単価表

（注）２．

以下のとおり読み替える。

２．木杭は切丸太（間伐材）とし、加工済み（先端加工等）を標準とする。

# 第６章　フリューム類据付工

## ［1］ 適用基準

① 鉄筋コンクリート柵渠人力据付

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３　５. フリューム類据付工　／　②鉄筋コンクリート柵渠人力据付　による。

② 鉄筋コンクリート柵渠機械据付

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３　５. フリューム類据付工　／　③鉄筋コンクリート柵渠機械据付　による。

③ 鉄筋コンクリート大型水路機械据付

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３　５. フリューム類据付工　／　④鉄筋コンクリート大型水路機械据付　による。

④ 水路用鉄筋コンクリートL形ブロック機械据付

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３　５. フリューム類据付工　／　⑥水路用鉄筋コンクリートL形ブロック機械据付

による。

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

### 1.④ 水路用鉄筋コンクリートL形ブロック機械据付

**7．単価表**

以下を追記する。

（参考）

各据付機械の製品質量毎の最大作業半径は、次表を参考にされたい。

| 製品質量<br>(Kg) | 機械名 | 規格 | 最大作業半径<br>(m) |
|---|---|---|---|
| 1,500 以下 | バックホウ<br>（クレーン機能付） | 排出ガス対策型（第 2 次基準値）<br>クローラ型<br>山積 0.80 ㎥（平積 0.60 ㎥）2.9ｔ吊 | 8.5 |
| 4,000 以下 | ラフテレーンクレーン | 排出ガス対策型（第 2 次基準値）<br>油圧伸縮ジブ 25t 吊 | 13.0 |
| 3,400 以下 | | | 14.0 |
| 2,900 以下 | | | 16.0 |
| 2,550 以下 | | | 17.0 |
| 2,150 以下 | | | 18.0 |
| 1,900 以下 | | | 19.0 |
| 1,600 以下 | | | 20.0 |

（注）製品重量は、各機械規格の最大作業半径における定格荷重を示しているものではない。

## 2.⑤ 二次製品用阻水壁 [SV071]

### 1．適用範囲

本歩掛は、農業農村整備事業における二次製品用阻水壁に使用する。

### 2．施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

基面整正 → 型枠組立 → コンクリート打設 → 養生 → 型枠解体

（注）本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

### 3．数量

表３．１

| 形式区分 | コンクリート 18－8－40（m³） | 型枠（m²） |
|---|---|---|
| 1 型 | 0.238 | 2.01 |
| 2 型 | 0.248 | 2.07 |
| 3 型 | 0.298 | 2.46 |
| 4 型 | 0.460 | 3.02 |
| 5 型 | 0.534 | 3.47 |
| 6 型 | 0.543 | 3.51 |
| 7 型 | 0.632 | 4.04 |
| 8 型 | 0.723 | 4.49 |
| 9 型 | 0.738 | 4.73 |
| 10 型 | 0.835 | 5.37 |

（注）養生数量は、コンクリート数量と同量とする。

### 4．二次製品用阻水壁　寸法表

表４．１　寸法表　（単位：mm）

| 呼称区分 | B | T | H | 二次製品規格 |
|---|---|---|---|---|
| 1 型 | 1200 | 300 | 700 | UF150、200、BF200、排水溝 150×150 |
| 2〃 | 1300 | 〃 | 〃 | UF250、300、BF250、300、排水溝 200×200、250×250 |
| 3〃 | 1400 | 〃 | 800 | UF350、400、BF350、400、ｺﾙｹﾞｰﾄ 400、排水溝 300×300 |
| 4〃 | 1500 | 400 | 900 | UF450,500,BF450,500,ｺﾙｹﾞｰﾄ 500,排水溝 350×350,400×400 |
| 5〃 | 1600 | 〃 | 1000 | UF560、BF550、600、ｺﾙｹﾞｰﾄ 600、排水溝 450×450 |
| 6〃 | 1700 | 〃 | 〃 | UF600,BF650,ｺﾙｹﾞｰﾄ 700,排水溝 400×600,500×500,600×500 |
| 7〃 | 1800 | 〃 | 1100 | ｺﾙｹﾞｰﾄ 800,排水溝 500×600,600×600 |
| 8〃 | 2000 | 〃 | 〃 | ｺﾙｹﾞｰﾄ 1000 |
| 9〃 | 2100 | 〃 | 1300 | 排水溝 800×800 |
| 10〃 | 2300 | 〃 | 1500 | 排水溝 1000×1000 |

### 5．単価表

二次製品用阻水壁１箇所当り単価表

| 施工単価コード | SV071 |
|---|---|

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数　量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 生コンクリート打設 | 18－8－40 | m³ | 表 3.1 | |
| 型枠工 | | m² | 表 3.1 | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（注）１．生コンクリート打設は、「建設工事積算基準第Ⅱ編第４章コンクリート工①コンクリート工」による。

２．型枠工は、「建設工事積算基準第Ⅱ編第４章コンクリート工②型枠工」による。

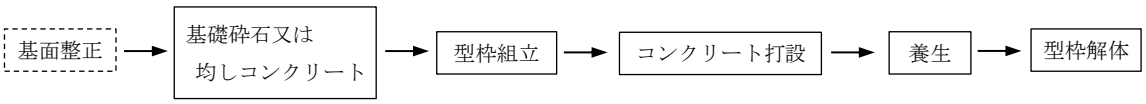
## 3.⑥ ボックス [SV073]

### 1．適用範囲

本歩掛は、農業農村整備事業におけるボックスに使用する。

### 2．施工概要

施工フローは、下記を標準とする。




（注１）本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

（注２）基面整正が必要な場合は、別途計上する。

### 3．数量

ボックスの数量は表３．１のとおりとする。

### 4．ボックス　寸法表

ボックスの寸法表は表４．１のとおりとする。

### 5．単価表

| 施工単価コード | SV073 |
|---|---|

ボックス１箇所当り単価表

| 名　　称 | 規　　格 | 単位 | 数　　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎砕石 | | ㎡ | 表 3.1 | |
| 均しコンクリート | 18－8－40 | ㎥ | 表 3.1 | |
| 均しコンクリート型枠 | | ㎡ | 表 3.1 | |
| 生コンクリート打設 | 18－8－40 | ㎥ | 表 3.1 | |
| 型枠工 | | ㎡ | 表 3.1 | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（注）１．基礎砕石は、「建設工事積算基準第Ⅱ編第２章共通工②基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工」による。

２．均しコンクリート、生コンクリート打設は、「建設工事積算基準第Ⅱ編第４章コンクリート工①コンクリート工」による。

３．均しコン型枠、型枠工は、「建設工事積算基準第Ⅱ編第４章コンクリート工②型枠工」による。

表３．１　躯体数量　　（１箇所当たり）

| 呼称区分 | 躯体コンクリート　(㎥) | 躯体型枠 (㎡) | 砕石基礎 (㎡) | 均しコンクリート基礎　(㎥) | 均しコン型枠 (㎡) |
|---|---|---|---|---|---|
| W5×5－D5型 | 0.277 | 3.19 | 1.0 | 0.050 | 0.20 |
| 〃　D6〃 | 0.316 | 3.71 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 〃　D8〃 | 0.394 | 4.75 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 〃　D10〃 | 0.472 | 5.79 | 〃 | 〃 | 〃 |
| W6×6－D6型 | 0.358 | 4.05 | 1.2 | 0.061 | 0.22 |
| 〃　D8〃 | 0.448 | 5.25 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 〃　D10〃 | 0.538 | 6.45 | 〃 | 〃 | 〃 |
| W8×8－D6型 | 0.460 | 4.85 | 1.7 | 0.085 | 0.26 |
| 〃　D8〃 | 0.574 | 6.37 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 〃　D10〃 | 0.688 | 7.89 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 〃　D12〃 | 1.090 | 9.95 | 2.0 | 0.098 | 0.28 |
| 〃　D14〃 | 1.250 | 11.55 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 〃　D16〃 | 1.410 | 13.15 | 〃 | 〃 | 〃 |
| W10×10－D8型 | 0.702 | 7.36 | 2.3 | 0.113 | 0.30 |
| 〃　D10〃 | 0.840 | 9.20 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 〃　D12〃 | 1.308 | 11.58 | 2.6 | 0.128 | 0.32 |
| 〃　D14〃 | 1.500 | 13.50 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 〃　D16〃 | 1.692 | 15.42 | 〃 | 〃 | 〃 |
| W12×12－D10型 | 1.044 | 11.04 | 2.9 | 0.145 | 0.34 |
| 〃　D12〃 | 1.590 | 13.74 | 3.2 | 0.162 | 0.36 |
| 〃　D14〃 | 1.814 | 15.98 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 〃　D16〃 | 2.038 | 18.22 | 〃 | 〃 | 〃 |
| W5×6－D10型 | 0.482 | 5.84 | 1.1 | 0.055 | 0.21 |
| W5×8－D12型 | 0.918 | 8.58 | 1.5 | 0.077 | 0.25 |
| W5×11－D15型 | 1.343 | 12.60 | 1.9 | 0.094 | 0.28 |

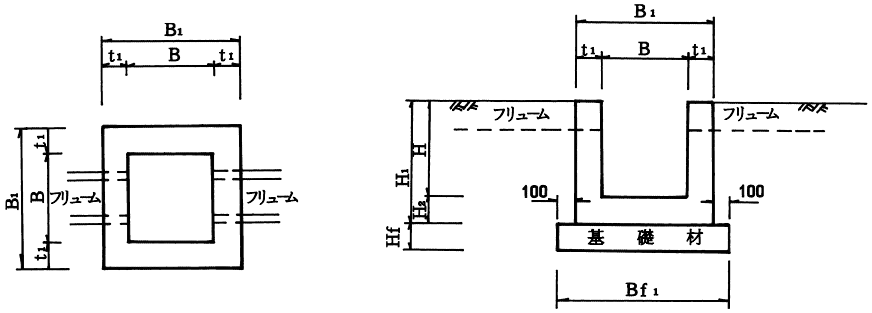
（注）養生数量は、躯体コンクリート数量と同量とする。

表４．１　寸法表　　（単位：㎜）

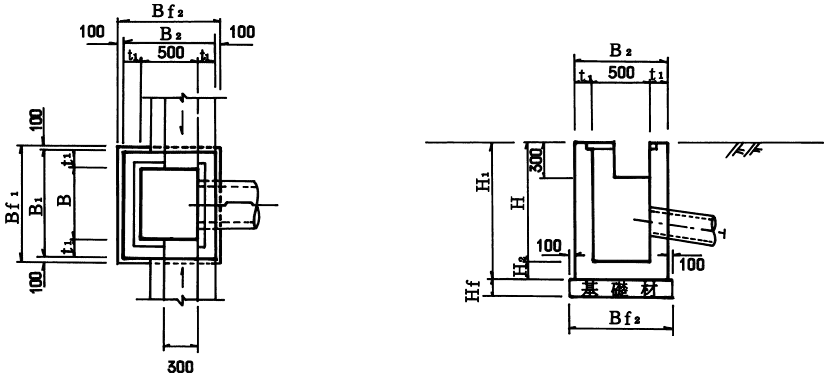
| 種別 | 呼称区分 | B | B1 | t１ | H | 砕石基礎 | | 均しコンクリート基礎 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | Ｈｆ | $H_3$ | Ｈｆ | $H_3$ |
| 一般用 | W5×5－D5 型 | 500 | 800 | 150 | 500 | 150 | 800 | 50 | 700 |
| | 〃　D6〃 | | | | 600 | 〃 | 900 | 〃 | 800 |
| | 〃　D8〃 | | | | 800 | 〃 | 1,100 | 〃 | 1,000 |
| | 〃　D10〃 | | | | 1,000 | 〃 | 1,300 | 〃 | 1,200 |
| | W6×6－D6 型 | 600 | 900 | 150 | 600 | 〃 | 900 | 〃 | 800 |
| | 〃　D8〃 | | | | 800 | 〃 | 1,100 | 〃 | 1,000 |
| | 〃　D10〃 | | | | 1,000 | 〃 | 1,300 | 〃 | 1,200 |
| | W8×8－D6 型 | 800 | 1,100 | 150 | 600 | 〃 | 900 | 〃 | 800 |
| | 〃　D8〃 | | | | 800 | 〃 | 1,100 | 〃 | 1,000 |
| | 〃　D10〃 | | | | 1,000 | 〃 | 1,300 | 〃 | 1,200 |
| | 〃　D12〃 | | 1,200 | 200 | 1,200 | 〃 | 1,500 | 〃 | 1,400 |
| | 〃　D14〃 | | | | 1,400 | 〃 | 1,700 | 〃 | 1,600 |
| | 〃　D16〃 | | | | 1,600 | 〃 | 1,900 | 〃 | 1,800 |
| | W10×10－D8 型 | 1,000 | 1,300 | 150 | 800 | 〃 | 1,100 | 〃 | 1,000 |
| | 〃　D10〃 | | | | 1,000 | 〃 | 1,300 | 〃 | 1,200 |
| | 〃　D12〃 | | 1,400 | 200 | 1,200 | 〃 | 1,500 | 〃 | 1,400 |
| | 〃　D14〃 | | | | 1,400 | 〃 | 1,700 | 〃 | 1,600 |
| | 〃　D16〃 | | | | 1,600 | 〃 | 1,900 | 〃 | 1,800 |
| | W12×12－D10 型 | 1,200 | 1,500 | 150 | 1,000 | 〃 | 1,300 | 〃 | 1,200 |
| | 〃　D12〃 | | 1,600 | 200 | 1,200 | 〃 | 1,500 | 〃 | 1,400 |
| | 〃　D14〃 | | | | 1,400 | 〃 | 1,700 | 〃 | 1,600 |
| | 〃　D16〃 | | | | 1,600 | 〃 | 1,900 | 〃 | 1,800 |
| 側溝用 | W5×6－D10 型 | 600 | 900 | 150 | 1,000 | 〃 | 1,300 | 〃 | 1,200 |
| | W5×8－D12 型 | 800 | 1,200 | 200 | 1,200 | 〃 | 1,500 | 〃 | 1,400 |
| | W5×11－D15 型 | 1,100 | 1,500 | | 1,500 | 〃 | 1,800 | 〃 | 1,700 |

**標準図**

一　般　用




側　溝　用



## 4.⑦ ボックス蓋 [SV600]

### 1．適用範囲

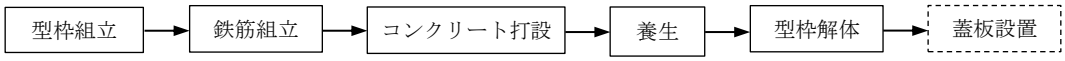
本歩掛は、農業農村整備事業におけるボックス蓋に使用する。

設置歩掛は含まないので、蓋板１枚当たりの質量が 170kg 以下の場合は「建設工事積算基準第Ⅵ編第１章土木工事標準単価」の排水構造物工、170kg を超える場合は「第 10 章ほ場整備⑫コンクリート等床版機械設置」により設置費を別途計上すること。

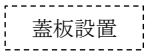
### 2．施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

1）コンクリートの場合




2）グレーチング蓋、鋼版蓋の場合




※本歩掛は材料費のみ

### 3．数量

ボックス蓋の施工歩掛は表４．１のとおりとする。

### 4．単価表

| 施工単価コード | SV600 |
|---|---|

表４．１　ボックス蓋１箇所当たり単価表

| 名　　称 | 規　　格 | 単位 | 数　　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 蓋コンクリート | 21－8－20 | $m^3$ | 表 4.2～4.4 | |
| 鉄筋工 | | t | 表 4-2～4.4 | |
| 型枠工 | | $m^2$ | 表 4-2～4.4 | |
| 蓋板 | 各種 | 枚・組 | 1 | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（注）１．蓋コンクリートは、「建設工事積算基準第Ⅱ編第４章コンクリート工①コンクリート工」による。

２．鉄筋工は、「建設工事積算基準第Ⅵ編第２章市場単価①鉄筋工」による。

３．型枠工は、「建設工事積算基準第Ⅱ編第４章コンクリート工②型枠工」による。

表４．２　500 kg／㎡の群集荷重のコンクリート蓋　（１箇所当たり）

| 呼称区分 | ボックスの深さ区分 | 蓋コンクリート（㎥） | 異形鉄筋（D10）（ｔ） | 蓋型枠（㎡） | 蓋枚数（枚） | 質量（ｔ／枚） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| W5×5 型 | ― | 0.038 | 0.005 | 0.93 | 2 | 0.048 |
| W6×6〃 | ― | 0.049 | 0.005 | 1.13 | 2 | 0.061 |
| W8×8〃 | 1m以下 | 0.073 | 0.008 | 1.61 | 2 | 0.091 |
| | 1m超 | 0.086 | 0.009 | 2.02 | 3 | 0.072 |
| W10×10〃 | 1m以下 | 0.117 | 0.010 | 2.41 | 3 | 0.098 |
| | 1m超 | 0.138 | 0.011 | 2.76 | 3 | 0.115 |
| W12×12〃 | 1m以下 | 0.158 | 0.014 | 3.30 | 4 | 0.099 |
| | 1m超 | 0.179 | 0.015 | 3.68 | 4 | 0.112 |
| W5×6〃 | ― | 0.043 | 0.005 | 1.02 | 2 | 0.054 |
| W5×8〃 | ― | 0.065 | 0.007 | 1.55 | 3 | 0.054 |
| W5×11〃 | ― | 0.081 | 0.008 | 1.85 | 3 | 0.068 |

（注）養生数量は、コンクリート数量と同量とする。

表４．３　グレーチング蓋　（１箇所当たり）

| 呼称区分 | 蓋枚数（枚） | 500 kg／㎡の群集荷重 | 10t 荷重 | 14t 荷重 |
|---|---|---|---|---|
| | | 1 枚又は（1 組）当たり質量（t） | 1 枚又は（1 組）当たり質量（t） | 1 枚又は（1 組）当たり質量（t） |
| W5×5 型 | 1 | 0.014 | 0.030 | 0.030 |
| W6×6〃 | 1 | 0.018 | 0.043 | 0.043 |
| W8×8〃 | 1 | 0.035 | 0.089 | 0.089 |
| W10×10〃 | 2 | 0.025<br>(0.049) | 0.075<br>(0.149) | 0.075<br>(0.149) |
| W12×12〃 | 2 | 0.037<br>(0.074) | 0.139<br>(0.278) | 0.139<br>(0.278) |
| W5×6〃 | 1 | 0.016 | 0.036 | 0.036 |
| W5×8〃 | 1 | 0.022 | 0.048 | 0.048 |
| W5×11〃 | 1 | 0.029 | 0.063 | 0.063 |

（注）（　）内は１組（２枚）当たりの質量である。

表４．４　鋼板蓋　（１箇所当たり）

| 呼称区分 | 500 kg／㎡の群集荷重 | |
|---|---|---|
| | 1 枚又は（1 組）当たり質量（t） | 蓋枚数（枚） |
| W5×5 型 | 0.012 | 1 |
| W6×6〃 | 0.015 | 1 |
| W8×8〃 | 0.032 | 1 |
| W10×10〃 | 0.034<br>(0.069) | 2 |
| W12×12〃 | 0.067<br>(0.133) | 2 |
| W5×6〃 | 0.013 | 1 |
| W5×8〃 | 0.022 | 1 |
| W5×11〃 | 0.029 | 1 |

（注）（　）内は１組（２枚）当たりの質量である。

# 第７章　河川・水路工

## ［1］ 適用基準

### ① ウィープホール取付 [SV230]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３　６. 河川・水路工　／　①ウィープホール取付　による。

### ② サイド・アンダードレーンエ [SV232]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３　６. 河川・水路工　／　②サイド・アンダードレーンエ　による。

### ③ ブロックマット設置工 [SV234]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３　６. 河川・水路工　／　③ブロックマット設置工　による。

### ④ 合成ゴムシート布設工

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第２　５. 河川・水路工　／　②合成ゴムシート布設工　による。

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

な し

# 第８章　管水路工

## ［1］ 適用基準

① パイプライン基礎 [SV255]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３　7. 管水路工　／　①管水路基礎　による。

② 硬質ポリ塩化ビニル管人力布設 [SV260]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３　7. 管水路工　／　②硬質ポリ塩化ビニル管人力布設　による。

③ 硬質ポリ塩化ビニル管機械布設 [SV265]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３　7. 管水路工　／　③硬質ポリ塩化ビニル管機械布設　による。

④ 強化プラスチック複合管機械布設

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３　7. 管水路工　／　④強化プラスチック複合管機械布設　による。

⑤ ダクタイル鋳鉄管機械布設

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３　7. 管水路工　／　⑤ダクタイル鋳鉄管機械布設　による。

⑥ 鋼管機械布設

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３ 7. 管水路工 ／ ⑥鋼管機械布設 による。

⑦ 鋳鉄管切断

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３ 7. 管水路工 ／ ⑧鋳鉄管切断 による。

⑧ FRPM管切断

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３ 7. 管水路工 ／ ⑨FRPM管切断 による。

⑨ 制水弁据付工（人力） [SV270]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３ 7. 管水路工 ／ ⑩制水弁据付工（人力） による。

⑩ 制水弁据付工（機械） [SV275]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３ 7. 管水路工 ／ ⑪制水弁据付工（機械） による。

⑪ 空気弁据付工（人力） [SV280]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３ 7. 管水路工 ／ ⑫空気弁据付工（人力） による。

⑫ 小バルブ類取付工（人力）

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３ 7. 管水路工 ／ ⑬小バルブ類取付工（人力） による。

⑬ ダクタイル鋳鉄管人力布設

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第２ 6. 管水路工 ／ ①ダクタイル鋳鉄管人力布設 による。

⑭ 炭素鋼鋼管人力布設

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第２ 6. 管水路工 ／ ②炭素鋼鋼管人力布設 による。

⑮ 強化プラスチック複合管機械布設（たて込み簡易土留）

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第２ 6. 管水路工 ／ ③強化プラスチック複合管機械布設（たて込み簡易土留）

による。

⑯ ダクタイル鋳鉄管機械布設（たて込み簡易土留）

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第２ 6. 管水路工 ／ ④ダクタイル鋳鉄管機械布設（たて込み簡易土留） による。

⑰ 鋼管機械布設（小口径）

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第２ 6. 管水路工 ／ ⑤鋼管機械布設（小口径） による。

⑱ 高密度ポリエチレン管機械布設 [SV290]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第2 6. 管水路工 ／ ⑥高密度ポリエチレン管機械布設 による。

⑲ 管水路浅埋設工（ジオグリッド）

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第2 6. 管水路工 ／ ⑦管水路浅埋設工（ジオグリッド） による。

［2］ 運用基準

な し

［3］ 独自基準

な し

# 第９章　道路工

## ［1］ 適用基準

### ① 砂利舗装工 [SV305]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３ ８. 道路工 ／ ③砂利舗装工 による。

### ② ガードレール設置・撤去（橋梁建込）

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第２ ７. 道路工 ／ ④ガードレール設置・撤去（橋梁建込） による。

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

### １. ① 砂利舗装工

６．単価表

（３）機械運転単価表

適用単価表　機－30

以下のとおり読み替える。

機－農２

# 第１０章　ほ場整備工

## [1] 適用基準

① ほ場整備工（表土扱い）、（基盤造成・畦畔築立）　[SV355][SV360]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３ ９. ほ場整備工 ／ ①ほ場整備整地工 による。

② 水田整地工（ブルドーザ）　[SV365]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３ ９. ほ場整備工 ／ ②基盤整地及び簡易整備 による。

③ 暗渠排水工（掘削工:トレンチャ）、（掘削工：バックホウ）、（排水管・被覆材）、（埋戻工：バックホウ）、（小運搬：人力・機械）　[SV375][SV380][SV385][SV386][SV387]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３ ９. ほ場整備工 ／ ③暗渠排水工 による。

④ 自動埋設暗渠工

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第３ ９. ほ場整備工 ／ ④自動埋設暗渠工 による。

⑤ 雑物除去（水田ほ場整備工）　[SV370]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第２ ８. ほ場整備工 ／ ①雑物除去（水田ほ場整備工） による。

⑥ 畦畔ブロック（人力）

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第2　8. ほ場整備工　／　②畦畔ブロック（人力）　による。

⑦　弾丸暗渠工

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第2　8. ほ場整備工　／　③弾丸暗渠工　による。

⑧　ほ場整備整地工（表土扱い）、（基盤造成・畦畔築立）ICT 施工　　[SV700][SV705]

情報化施工技術の活用ガイドライン

別紙-9　①ほ場整備整地工【情報化施工】[参考歩掛]　による。

⑨　水田整地工（ブルドーザ）ICT 施工　　[SV710]

情報化施工技術の活用ガイドライン

別紙-9　②基盤整地及び簡易整備【情報化施工】[参考歩掛]　による。

## [2]　運用基準

な し

## [3]　独自基準

### 1. ②　水田整地工（ブルドーザ）

1．適用範囲

以下のとおり読み替える。

本歩掛は、ほ場整備工事のうち、「第 10 章ほ場整備工①ほ場整備工（表土扱い）、（基盤造成・畦畔築立）」を適用しない、現況地形の平均勾配が 1/10 を超える急傾斜地及び極端に扱い土量の少ない平坦地の場合に適用する。

１－１　基盤造成

急傾斜地における基盤造成は、「建設工事積算基準第Ⅱ編第１章土工②土工」を別途計上する。

### 2. ③　暗渠排水工

以下のとおり追記する。

２．施工概要

（注）４．管材のロス率は暗渠排水管（定尺管・ロール管）については 1%、土管・陶管は計上しない。

## 3.⑤ 雑物除去(水田ほ場整備工)

### 2．施工歩掛

表２．１　雑物除去（水田ほ場整備工）

（注）

以下のとおり読み替える。

（注）雑物量の判定において、「第 10 章ほ場整備工①ほ場整備工（表土扱い)、(基盤造成・畦畔築立)、②水田整地工（ブルドーザ)」と合わせて、本歩掛を使用した時は、次式により求めた雑物量を対象にする。

対象雑物量（㎥／ha）＝全雑物量（㎥／ha）－5（㎥／ha）

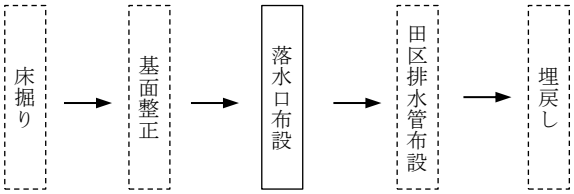
## 4.⑩ 落水口 [SV400]

### 1．適用範囲

本歩掛はコンクリート二次製品の落水口に使用する。

### 2．施工概要

施工フローは、下記を標準とする。




（注）本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

### 3．施工歩掛

布設歩掛は「建設工事積算基準第Ⅱ編第２章共通工⑩排水構造物」プレキャスト集水枡（製品質量 50 kg /基以上 80 kg/基以下）によるものとする。

### 4．単価表

| 施工単価コード | SV400 |
|---|---|

落水口 100 箇所当り単価表

| 名　　称 | 規　　格 | 単位 | 数　　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 落水口 | | 個 | 100 | |
| 布設 | 50 kg/基以上 80 kg/基以下 | 基 | 100 | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

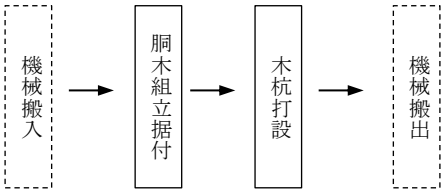
## 5. ⑪ 止杭一本胴木 [SV405]

### 1．適用範囲

本歩掛は、止杭一本胴木に使用する。

### 2．施工概要

施工フローは、下記を標準とする。




（注）本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

### 3．施工歩掛

3－1　胴木組立据付

表3．1　胴木組立据付歩掛（10m当たり）

| 名　称 | 単　位 | 数　量 |
|---|---|---|
| 世　話　役 | 人 | 0.03 |
| 普通作業員 | 人 | 0.17 |

3－2　木杭打設

木杭打設歩掛は「第5章基礎工①木杭打込み（機械）」を参照する。

注）1．据付材料の移動手間を含む。

2．木杭は杭径区分：9㎝で、皮けずりなしである。

### 4．単価表

| 施工単価コード | SV405 |
|---|---|

止杭一本胴木10m当たり単価表

| 名　　称 | 規　　格 | 単位 | 数　　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 木杭打設 | φ9㎝ | 本 | 10.0 | |
| 胴木 | 切丸太（間伐材）<br>φ12㎝×4.0m | $m^3$ | 0.118 | |
| ボルト | φ12×150㎜ | 本 | 2.6 | |
| かすがい | φ9×30×120㎜ | 〃 | 10.0 | |
| 据付 | 胴木組立据付 | 人 | 表3.1 | |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

## 6.⑫ コンクリート等床版機械設置 [SV080]

### 1．適用範囲

本歩掛は、コンクリート等床版を機械で設置する作業に使用する。

### 2．機種の選定

表２．１　標準据付機械の機種及び規格

| 1個当り質量（kg／個） | バックホウ（クレーン機能付） | ラフテレーンクレーン |
|---|---|---|
| 170超え　1,500以下 | 排出ガス対策型（第2次基準値）<br>クローラ型<br>山積0.8㎥（平積0.6㎥）2.9t吊 | ― |
| 1,500超え4,000以下 | ― | 排出ガス対策型（第2次基準値）<br>油圧伸縮ジブ型25t吊 |

（注）１．現場条件等により上表により難い場合は、現場条件等に適合した機種・規格を計上する。
２．バックホウ（クレーン機能付）及びラフテレーンクレーンは、賃料とする。
３．バックホウ（クレーン機能付）は「クレーン等安全規則」、「移動式クレーン構造規格」に準拠した機械である。

### 3．施工歩掛

コンクリート等床版機械設置の施工歩掛は次表を標準とする。

表３．１　１日当たり標準設置量及び労務配置

| コンクリート等床版<br>1枚当たり質量（kg） | 1日当たり<br>標準設置量（枚／日） | 労務配置（人／日） | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 世話役 | 特殊作業員 | 普通作業員 |
| 170超え　450以下 | 30 | 1.0 | 1.0 | 2.0 |
| 450超え　800以下 | 28 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 800超え　1100以下 | 26 | 〃 | 〃 | 2.5 |
| 1100超え　1500以下 | 24 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 1500超え　1900以下 | 22 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 1900超え　2200以下 | 21 | 〃 | 〃 | 3.0 |
| 2200超え　2600以下 | 19 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 2600超え　3000以下 | 17 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 3000超え　3400以下 | 16 | 〃 | 〃 | 3.5 |
| 3400超え　3800以下 | 15 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 3800超え　4000以下 | 14 | 〃 | 〃 | 〃 |

（注）１．据付に伴う材料の移動手間含む

**4.単価表**

| 施工単価コード | SV080 |
|---|---|

（1）コンクリート等床版機械設置1枚当たり据付単価

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数　量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 世　話　役 | | 人 | 労務数×1／D | 表3.1 |
| 特　殊　作　業　員 | | 〃 | 〃 | 〃 |
| 普　通　作　業　員 | | 〃 | 〃 | 〃 |
| バックホウ<br>（クレーン機能付） | 排出ガス対策型（第2次基準値）<br>クローラ型<br>山積0.8㎥（平積0.6㎥）2.9t吊 | 日 | 1／D | 〃 |
| ラフテレーンクレーン | 排出ガス対策型（第2次基準値）<br>油圧伸縮ジブ型25t吊 | 〃 | 1／D | 〃 |
| 諸　雑　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（注）D：1日当り標準施工量

（2）機械運転単価表

| 名　称 | 規　格 | 適用単価表 | 指　定　事　項 |
|---|---|---|---|
| バックホウ<br>（クレーン機能付） | 排出ガス対策型（第2次基準値）<br>クローラ型<br>山積0.8㎥（平積0.6㎥）2.9t吊 | 機―28 | 運転労務数量→1.0<br>燃料消費量→107<br>機械賃料数量→1.35 |

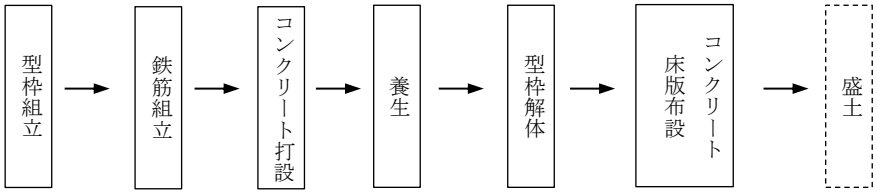
## 7.⑬ 床版進入路 [SV395]

### 1．適用範囲

本歩掛は、床版進入路（T＝1.2t）の機械設置に使用する。

### 2．施工概要

施工フローは、下記を標準とする。




（注）本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

### 3．施工歩掛

表３．１　土被りなし（10 枚当り）

| 形式区分 | 土被りなし | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | コンクリート 21－8－20 （$m^3$） | 異形鉄筋 D13 （t） | 異形鉄筋 D16 （t） | 型枠（$m^2$） | 養生（$m^3$） |
| 1 型 | 2.0 | 0.270 | — | 26.0 | 2.0 |
| 2 型 | 2.8 | 0.337 | — | 32.7 | 2.8 |
| 3 型 | 3.6 | 0.405 | — | 39.6 | 3.6 |
| 4 型 | 4.6 | 0.473 | — | 46.7 | 4.6 |
| 5 型 | 5.2 | 0.540 | — | 53.0 | 5.2 |
| 6 型 | 6.8 | 0.608 | — | 61.5 | 6.8 |
| 7 型 | 8.5 | 0.184 | 0.761 | 70.4 | 8.5 |
| 8 型 | 9.9 | 0.201 | 0.839 | 78.4 | 9.9 |

表３．２　土被り 0.5m（10 枚当り）

| 形式区分 | 土被り厚 0.5m | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | コンクリート 21－8－20 （$m^3$） | 異形鉄筋 D13 （t） | 異形鉄筋 D16 （t） | 異形鉄筋 D19 （t） | 型枠（$m^2$） | 養生（$m^3$） |
| 1 型 | 2.2 | 0.270 | — | — | 26.6 | 2.2 |
| 2 型 | 3.3 | 0.337 | — | — | 34.1 | 3.3 |
| 3 型 | 4.5 | 0.405 | — | — | 42.0 | 4.5 |
| 4 型 | 6.3 | 0.131 | 0.527 | — | 51.2 | 6.3 |
| 5 型 | 7.6 | 0.149 | 0.605 | — | 59.0 | 7.6 |
| 6 型 | 9.5 | 0.166 | 0.683 | — | 68.1 | 9.5 |
| 7 型 | 11.5 | 0.184 | — | 1.098 | 77.6 | 11.5 |
| 8 型 | 13.8 | 0.201 | — | 1.211 | 87.5 | 13.8 |

（注）１．コンクリート床版は、施工区分は小構造物で、高炉セメントを使用し、規格 21N／mm2－SL8 ㎝－Gmax20mm、W／C55%以下としているため、これによらない場合は別途検討すること。

２．コンクリート床版の鉄筋工は、D16 以下は異形棒鋼（SD295A）を、D19 以上は異形棒鋼（SD345）を標準とし、一般構造物とする。

また、鉄筋工の施工規模は 10ｔ未満としているため、これによらない場合は別途検討すること。

3．コンクリート床版の型枠は小型構造物としているため、これによらない場合は別途検討すること。

4．コンクリート床版の設計荷重は、Ｔ＝1.2ｔあり、これによらない場合は別途検討すること。

## 4．コンクリート床版質量

表 4.1　コンクリート床版質量

| 形式区分 | 土被りなし | 土被り厚 0.5m |
|---|---|---|
| | 1 枚当たり質量（kg） | 1 枚当たり質量（kg） |
| 1 型 | 500 | 550 |
| 2 型 | 688 | 813 |
| 3 型 | 900 | 1,125 |
| 4 型 | 1,138 | 1,575 |
| 5 型 | 1,300 | 1,900 |
| 6 型 | 1,688 | 2,363 |
| 7 型 | 2,125 | 2,875 |
| 8 型 | 2,475 | 3,438 |

## 5．単価表

| 施工単価コード | SV395 |
|---|---|

床版進入路 10 枚当り単価表

| 名　称 | 規　格 | 単位 | 数　量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 生コンクリート打設 | 21－8－20 | $m^3$ | 表 3.1、表 3.2 | |
| 型枠 | | $m^2$ | 〃 | |
| 鉄筋 | | t | 〃 | |
| 床版布設 | | 枚 | 10 | (SV080) |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（注）1．生コンクリート打設は、「建設工事積算基準第Ⅱ編第４章コンクリート工①コンクリート工」による。

2．型枠工は、「建設工事積算基準第Ⅱ編第４章コンクリート工②型枠工」による。

3．鉄筋工は、「建設工事積算基準第Ⅵ編第２章市場単価①鉄筋工」による。

4．コンクリート床版布設は、「第 10 章⑫コンクリート等床版機械設置」による。

# 第１１章　農用地造成工

## ［1］ 適用基準

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第3　10. 農地造成工　／　①人力刈払～⑮畑面植生　及び

土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第2　9. 農地造成工　／　①農地造成工（スクレープドーザ掘削）～⑦ブルドーザ畑面整地工　による。

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

### ④ リッパドーザ岩掘削

４．集土作業

以下のとおり読み替える。

リッピングした岩をダンプトラック等に、積込むための集土作業歩掛は「建設工事積算基準第Ⅱ編第１章土工②土工」を適用し、別途計上する。

# 第１２章　コンクリート補修工

## ［1］ 適用基準

①ひび割れ補修工　[SV430]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第3　13. コンクリート補修工　／　①ひび割れ補修工　による。

②開水路目地補修工（成型ゴム挿入工）

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第3　13. コンクリート補修工　／　②開水路目地補修工（成型ゴム挿入工）　による。

③開水路目地補修工（充填工）

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第3　13. コンクリート補修工　／　③開水路目地補修工（充填工）　による。

④既設水路断面修復・表面被覆工　[SV445][SV446][SV447]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第3　13. コンクリート補修工　／　④既設水路断面修復・表面被覆工　による。

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

な し

# 第１３章　復旧工

## ［1］ 適用基準

①畦畔復旧工 [SV450]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第3　14. 復旧工　／　①畦畔復旧工　による。

②耕地表土掘削・埋戻（機械） [SV455]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第3　14. 復旧工　／　②耕地表土掘削・埋戻（機械）　による。

③耕地復旧（耕起）

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第3　14. 復旧工　／　③耕地復旧（耕起）　による。

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

な し

# 第１４章　仮設工

## ［1］ 適用基準

### ① 水替工（小口径）

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第3　15. 仮設工　／　③水替工（小口径）　による。

### ② 釜場設置撤去工

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第3　15. 仮設工　／　⑤釜場設置撤去工　による。

### ③ たて込み簡易土留工

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第3　15. 仮設工　／　⑧たて込み簡易土留　による。

### ④ 土工用マット（シート類）敷設・撤去　[SV550]

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第3　15. 仮設工　／　⑪土工用マット敷設　による。

### ⑤ 道路補修

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第3　15. 仮設工　／　⑭道路補修　による。

### ⑥ 索道

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第2　12. 仮設工　／　②索道　による。

⑦　地盤改良工（仮設道路基礎）

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事の積算参考歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第2　12. 仮設工　／　⑦地盤改良工（仮設道路基礎）　による。

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

### 1. ①　水替工（小口径）

**3．排水方法の選定**

3－2　ポンプの機種、使用台数及び発動発電機の選定

表3．1　（注）4．

以下のとおり読み替える。

（注）排水量が 30 ㎥／h 未満であっても揚程が 10m を超えて 15m 以下となる場合については、「建設工事積算基準第Ⅱ編第５章仮設工⑧締切排水工」を適用する。

### 2. ③　たて込み簡易土留工

**4．施工歩掛**

4－1　掘削・たて込み作業

（注）1．

以下のとおり読み替える。

（注）1．Tはバックホウ（クレーン機能付）の１日当り運転時間（時間／日）であり、「建設工事積算基準第Ⅰ編総則第 15 章請負工事機械経費積算要領」による。

4－2　引抜作業

（注）1．

以下のとおり読み替える。

（注）1．Tはバックホウ（クレーン機能付）の１日当り運転時間（時間／日）であり、「建設工事積算基準第Ⅰ編総則第 15 章請負工事機械経費積算要領」による。

# 第１５章　共通仮設

## ［1］ 適用基準

① パイプライン継目試験

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第3　16. 共通仮設　／　②パイプライン継目試験　による。

② 現場溶接部X線検査（鋼管類）

土地改良工事積算基準（土木工事）

土地改良事業等請負工事標準歩掛（平成 31 年 10 月 1 日から適用）

第3　16. 共通仮設　／　③現場溶接部X線検査（鋼管類）　による。

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

な し

# 第１６章　施設機械及び電気通信設備

## ［1］ 適用基準

### ① 施設機械及び電気通信設備

#### 土地改良工事積算基準（施設機械）

１．適用

農業農村整備事業における施設機械及び電気通信設備の工事費の積算にあたっては、この基準を適用する。

なお、この基準に記載のない歩掛等については、「建設工事積算基準第Ⅶ編～第Ⅸ編」等による。

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

な し

# 第１４編　森林整備

第１章　総則----------14- 1
第２章　土工----------14-17
第３章　運搬工----------14-21
第４章　コンクリート工----------14-25
第５章　共通工（１）溝渠工・法面工等----------14-27
第６章　共通工（２）土留工・擁壁工等----------14-33
第７章　基礎工----------14-37
第８章　木材利用工----------14-39
第９章　仮設工----------14-47
第10章　市場単価----------14-51
第11章　土木工事標準単価----------14-53
第12章　山地治山土工----------14-55
第13章　治山ダム工----------14-57
第14章　山腹工----------14-61
第15章　地すべり防止工----------14-63
第16章　森林整備----------14-65
第17章　海岸林造成----------14-75
第18章　舗装工----------14-77
第19章　道路付属施設----------14-79
第20章　橋梁工----------14-83
第21章　道路維持修繕----------14-85

令和元年度建設工事積算基準

# 第１章　総則

## ［1］ 適用基準

### な し

### （治山林道必携　積算･施工編　森林整備保全事業設計積算要領は適用しない）

## ［2］ 運用基準

### な し

## ［3］ 独自基準

### ① 総則

1．適用範囲等

本編は、森林整備保全事業の公共工事を請負施工に付する場合における工事費の積算に適用する。
なお、工事費の積算にあたっては、原則として「建設工事積算基準第Ｉ編第 1 章総則」の規定を適用するものとするが、これによりがたい規定及び森林整備保全事業独自の運用等については、本編に規定する。
また、森林整備保全事業請負工事の工事価格算定については、本編の標準歩掛及び積算参考歩掛を適用するものとするが、本編に定めの無い場合は、「建設工事積算基準」各編等適切な歩掛を適用するものとする。

2．請負工事の工事費構成

「建設工事積算基準第Ｉ編第1章②請負工事の工事費構成」による。

### ② 工事費の積算

「建設工事積算基準第Ｉ編第2章工事費の積算」による。
ただし、同章規定の適用にあたり下記に定める事項については、内容を補足又は替えて適用する。

1．労務費（直接工事費）

「建設工事積算基準第Ｉ編第2章①直接工事費3労務費」の規定の他、山林砂防工の適用について下記の規定による。

〈山林砂防工の適用〉

治山事業のうち工事等の施工箇所が次の（1）の各号のいずれかひとつに該当し、かつ、次の（2）の各号のいずれにも該当しない工事等は、「普通作業員」を「山林砂防工」に替えて適用する。

（1）山林砂防工を適用する箇所

イ　勾配がおおむね30％以上の箇所
ロ　運搬距離がおおむね100m以上のケーブルクレーンを架設する箇所
ハ　コンクリート現場練りの箇所
ニ　山泊を要する箇所
ホ　イ～ニに準じる箇所

（2）山林砂防工を適用しない工事等

イ　林道工事と同種と見なされる工事
ロ　造林作業と同種と見なされる作業

（注）具体的な適用については、「森林整備保全事業設計積算要領等の細部取扱いについて」（平成11年7月1日付け11－13林野庁指導部長通知）によるが、山林砂防工を適用する場合は、事業課と協議を行うこと。

(3)「山林砂防工を適用しない工事等」の主な事例は次のとおり。

イ　林道工事と同種工事と見なされる工事

(ア) 管理車道の開設工事

(イ) 保安林管理道整備事業のうちの車道の開設・改良の工事

ロ　造林作業と同種と見なされる作業

(ア) 山腹工事及びなだれ防止林造成工事以外の工事において行う植栽、客土及び苗木運搬の作業

(イ) 下刈、雪起こし、除伐、本数調整伐、枝落とし、施肥等の保育及び仮植の作業

(ウ) 砂地造林、砂草植栽、埋わら、静砂垣・防風垣等の築設の作業

(エ) 支柱工、人力地拵(伐開、片付)、立木整理の作業

(オ) 管理歩道の開設に係る作業

ハ　上記イ及びロ)に準じる工事等

作業場所が平坦である作業であって、次のいずれかに該当する作業とする。

(ア) コンクリート根周ブロックの製作、運搬及び据付の作業

(イ) ボーリング工、集水井工、アンカー工、杭打工等の作業ヤード、作業構台等を設ける場合のある工種において作業ヤード、作業構台等を設け、その上で行う場合の作業

ただし、勾配がおおむね30%以上の箇所において行う鉄筋挿入工その他これに類する工種であって、作業箇所毎の人力による組立て・解体等を伴う作業を行う場合を除く。

(ウ) 土工機械の解体・組立に関する作業

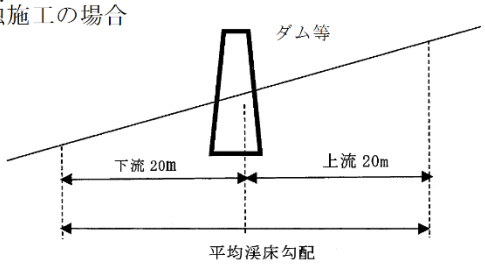
(エ) 道路、宅地等の平坦部(着工後に平坦となる床掘部、作業道等を除く。)に近接する工事箇所において、当該平坦部において行う作業及びトラッククレーン又はラフテレーンクレーン(以下「トラッククレーン等」という。)が使用可能な区域内において行う作業。

ただし、トラッククレーン等の規格は、道路、宅地等に設置可能であり、かつ、設計積算に用いる機種とする。

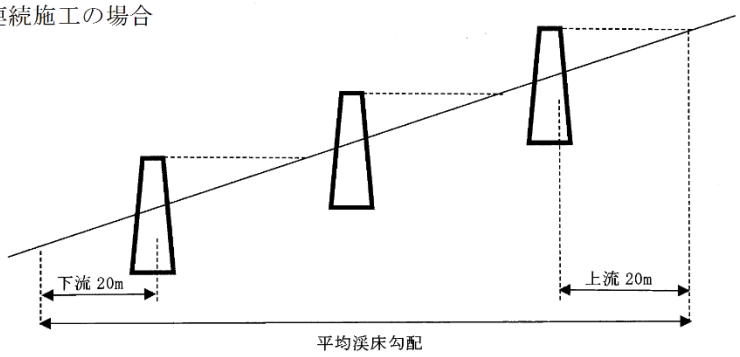
(4) 山林砂防工適用の判断とする勾配の測定範囲は、下記のとおりとする。

1　渓間工

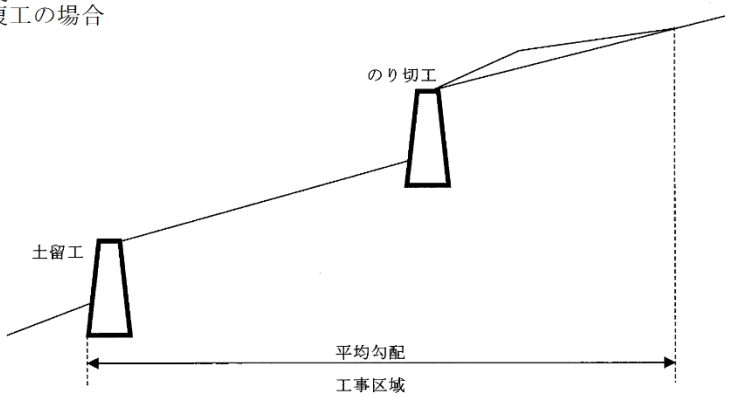
①　単独施工の場合



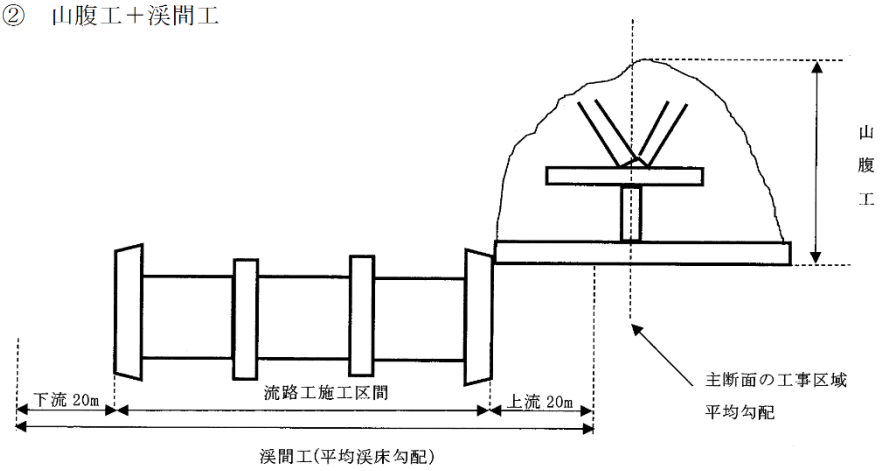
② 連続施工の場合




2 山腹工
① 山腹工の場合




② 山腹工＋渓間工



2. 共通仮設費(間接工事費)

「建設工事積算基準第Ⅰ編第2章②2共通仮設費」の規定のうち、工種区分、共通仮設費の算定について下記のとおり適用する。

2－1 工種区分

「建設工事積算基準第Ⅰ編第2章②2(1)工種区分」の「表－1工種区分」は「別表①(工種区分の工事内容)に替え適用する。

2－2 共通仮設費の算定

(1)率計算による部分

「建設工事積算基準第Ⅰ編第2章②2(2)1)率計算による部分」の対象を含めない費用は、同規定のa～dに加え、下記の費用とする。

ア 鋼製ダム(バットレス、スリット)

イ ヘリコプターの飛行経費

(2)間接工事費等の項目別対象表

「建設工事積算基準第Ⅰ編第2章②2(2)5)間接工事費等の項目別対象表」に下記の項目を加える。

間接工事費等の項目別対象表(追加分)

| 間接工事費等 | 共通仮設費 | 現場管理費 | 一般管理費等 |
|---|---|---|---|
| 対象額<br>項目 | 対象額 | 直接工事費＋共通仮設費＝純工事費 | 純工事費＋現場管理費＝工事原価 |
| ヘリコプター飛行経費 | × | × | × |

3. 共通仮設費の率分

(令和2年3月31日まで適用)

「建設工事積算基準第Ⅰ編第2章②2 2－1共通仮設費の率分」の「別表第1」は「別表②(共通仮設費率)」に替え適用する。

(令和2年4月1日以降適用)

「建設工事積算基準第Ⅰ編第2章②2 2－1共通仮設費の率分」の「別表第1」は「別表②(共通仮設費率)」に、「表－2地域補正の適用」は「別表③地域補正(共通仮設費)の適用」に、「図－1地域補正の適用フロー」は「図①地域補正(共通仮設費)の適用フロー」に替え適用する。

4. 現場管理費(間接工事費)

(令和2年3月31日まで適用)

「建設工事積算基準第Ⅰ編第2章②3現場管理費」の規定のうち、「(2)現場管理費の算定」の「別表第2」は「別表④(工種別現場管理費率標準値表)」に替え適用する。

(令和2年4月1日以降適用)

「建設工事積算基準第Ⅰ編第2章②3現場管理費」の規定のうち、「(2)現場管理費の算定」の「別表第2」は「別表④(工種別現場管理費率標準値表)」に、「表－3地域補正の適用」は「別表⑤地域補正(現場管理費)の適用」に、「図－1現場管理費補正のフロー」は「図②地域補正(現場管理費)の適用フロー」に替え適用する。

別表①（工種区分の工種内容）

| 工種区分 | | 工種内容 |
|---|---|---|
| 一般業者 | 河川工事 | 河川工事(河川高潮対策区間の工事を除く。)にあって、次に掲げる工事<br>築堤工、掘削工、浚渫工、護岸工、特殊堤工、根固工、水制工、水路工及びこれらに類する工事 |
| | 河川・道路構造物工事 | 河川における構造物工事及び道路における構造物にあって、次に掲げる工事<br>1. 樋門(管)工、水(閘)門工、サイフォン工、床止(固)工、堰、揚排水機場、落石防止覆工、防雪覆工、防音(吸音)壁工、コンクリート橋、簡易組立橋、PC橋(プレキャストセグメントを除く工場既製桁の場合)等の工事及びこれらの下部・基礎のみの工事<br>2. 橋梁下部工（RC構造）、床版工（RC構造及びプレキャストPC構造）のみの工事<br>3. ゴムの伸縮継手、落橋防止工（RC構造）、コンクリート橋の支承、高欄設置工（コンクリート等）、旧橋撤去工（コンクリート橋上下部）、トンネル内装工（新設トンネル）<br>4. 1から3に類する工事<br>ただし、工種区分の橋梁保全工事に該当するもの及び門扉等の工場製作及び揚排水機場の上屋は除く。 |
| | 治山・地すべり防止工事 | 治山及び地すべり防止工事にあって、次に掲げる工事<br>1. 治山ダム工、護岸工、水制工、流路工<br>2. 土留工、水路工、法切工、山腹緑化工、法枠工、落石防止工<br>3. 集水井工、排水トンネル工、アンカー工、杭打工、排土工、暗きょ工<br>4. 1、2及び3に類する工事 |
| | 海岸工事 | 海岸工事にあって、次に掲げる工事<br>防潮工、消波工、砂丘造成における盛土工及びこれに類する工事 |
| | 森林整備A | 森林整備に係る工事にあって、次に掲げる工事<br>地拵え、植栽、受光伐、除伐、本数調整伐及び保育に関する工事及びこれに類する工事で以下の①～④に該当する工事<br>① 土木的工事と併せて行う森林整備に係る工事で、当該工事の対象額のうち土木的工事の費用の割合が20%以上の場合<br>② 樹高1. 5m以上の苗木の植栽費が50%以上の場合<br>③ 航空実播工<br>④ 種子吹付工 |
| | 森林整備B | 森林整備A以外の森林整備 |
| | 道路工事 | 道路工事にあって、次に掲げる工事<br>土工、擁壁工、函渠工、側溝工、山止工、法面工及びこれに類する工事 |
| | 鋼橋架設工事 | 鋼橋等の運搬架設に関する工事であって、次に掲げる工事<br>1. 鋼橋架設工、鋼橋塗装工、鋼橋塗替工、鋼橋桁連結工、橋梁検査路設置工、高欄設置工（鋼製・アルミ等）、橋梁補修工（鋼板接着・増桁）、ｽﾉｰｼｪｯﾄﾞ（鋼構造）ﾛｯｸｼｪｯﾄﾞ（鋼構造）、道路付属物を除く鋼構造物塗替工（水門、樋門、樋管、排水機場等）、床版工（RC構造及びプレキャストPC構造を除く。）、橋梁下部工（鋼製）<br>2. 簡易組立橋の塗装工事及びこれらに類する工事<br>3. 鋼橋撤去工（鋼橋に伴う床版撤去含む。）<br>ただし、工種区分の橋梁保全工事に該当するものは除く。 |

| 工種区分 | | 工種内容 |
|---|---|---|
| 一般業者 | PC橋工事 | PC橋に関する工事にあって、次に揚げる工事<br>1. 工事現場におけるPC橋の製作(工場製作桁は除く)架設及び製作架設に関する工事<br>2. プレキャストセグメント構造のPC橋工事 |
| | 橋梁保全工事 | 橋梁(上部工、下部工)に関するすべての保全、補修、補強工事及び既設橋梁の橋梁付属物工の修繕工事(塗装、舗装打ち替え等は除く) |
| | 舗装工事 | 舗装の新設、修繕工事にあって、次に掲げる工事<br>セメントコンクリート舗装工、アスファルト舗装工、セメント安定処理工、アスファルト安定処理工、砕石路盤工及びこれに類する工事<br>ただし、小規模(パッチング等)な工事で施工箇所が点在する工事は除く |
| | トンネル工事 | トンネルに関する工事にあって、次に掲げる工事<br>1. トンネル工事<br>2. 施工方法がシールド工法又は作業員が内部で作業する推進工法による工事<br>ただし、本体工を完成後別件で照明設備、舗装、側溝等を発注する場合、又は供用開始後の照明設備、吹付け、舗装、修繕工事等は除く |
| | 道路維持工事 | 道路にあって、次に掲げる工事<br>1. 管理を目的とした維持的工事<br>2. 道路附属物塗替工、防雪柵設置撤去工※1、トンネル漏水防止工、トンネル内装工(併用トンネル)、路面切削工、路面工、法面工等の維持・補修※2に関する工事<br>3. 道路標識※1、道路情報施設、電気通信設備、防護柵※1、樹木等、区画線等の設置<br>4. 除草、除雪、清掃及び植栽等の緑地管理に関する作業<br>5. 1から4までに類する工事<br>※1:局部的新設、復旧・更新を主とする場合に適用<br>※2:法面工の補修については局部的な場合に適用 |
| | 公園工事 | 公園緑地及び林業施設用地等の造成工事に関する工事にあって、次に掲げる工事<br>敷地造成工、園路広場工、植樹工、芝付工、花壇工、日陰柵工、ベンチ工、池工、遊戯施設工、運動施設工、法面工、敷地内舗装工、調整池工、排水工(敷地造成と併せて行うもの)、柵工及びこれらに類する工事 |
| 森林組合等 | 治山・地すべり防止工事 | 一般業者の治山・地すべり防止工事の工種内容と同じ |
| | 海岸工事 | 一般業者の海岸工事の工種内容と同じ |
| | 森林整備A | 一般業者の森林整備Aの工種内容と同じ |
| | 森林整備B | 一般業者の森林整備Bの工種内容と同じ |
| | 道路工事 | 一般業者の道路工事の工種内容と同じ |

(備考)1. 保安林管理道等に関する工事は林道関係事業に準ずるものとする。

2. 治山関係事業のうち、防潮工、砂丘造成における盛土工及びこれらに類する工事を主とする工事は海岸工事に準じ、防風工、植栽工等を主体とするものについては森林整備に準ずるものとする。

別表②（共通仮設費率）

| 対象額 / 適用区分 / 工種区分 | | 600 万円以下 | 600 万円を超え 10 億円以下 | | 10 億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 下記の率とする。（%） | 算定式より算出された率とする。ただし、変数値は下記による。 | | 下記の率とする。（%） |
| | | | A | b | |
| 河　川　工　事 | | 12.53 | 238.6 | −0.1888 | 4.77 |
| 河川・道路構造物工事 | | 20.77 | 1,228.3 | −0.2614 | 5.45 |
| 治山・地すべり防止工事 | | 15.19 | 624.5 | −0.2381 | 4.49 |
| 海　岸　工　事 | | 13.08 | 407.9 | −0.2204 | 4.24 |
| 森林整備 | A | 10.80 | 48.0 | −0.0956 | 6.62 |
| | B | 5.40 | 24.0 | −0.0956 | − |
| 道　路　工　事 | | 12.78 | 57.0 | −0.0958 | 7.83 |
| 鋼橋架設工事 | | 38.36 | 10,668.4 | −0.3606 | 6.06 |
| ＰＣ橋　工　事 | | 27.04 | 1,636.8 | −0.2629 | 7.05 |
| 舗　装　工　事 | | 17.09 | 435.1 | −0.2074 | 5.92 |
| 公　園　工　事 | | 10.80 | 48.0 | −0.0956 | 6.62 |

| 対象額 / 適用区分 / 工種区分 | 600 万円以下 | 600 万円を超え 3 億円以下 | | 3 億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする。（%） | 算定式より算出された率とする。ただし、変数値は下記による。 | | 下記の率とする。（%） |
| | | A | b | |
| 橋梁保全工事 | 27.32 | 7,050.2 | −0.3558 | 6.79 |

| 対象額 / 適用区分 / 工種区分 | 200 万円以下 | 200 万円を超え 1 億円以下 | | 1 億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする。（%） | 算定式より算出された率とする。ただし、変数値は下記による。 | | 下記の率とする。（%） |
| | | A | b | |
| 道路維持工事 | 23.94 | 4,118.1 | −0.3548 | 5.97 |

| 対象額 / 適用区分 / 工種区分 | 1,000 万円以下 | 1,000 万円を超え 20 億円以下 | | 20 億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする。（%） | 算定式より算出された率とする。ただし、変数値は下記による。 | | 下記の率とする。（%） |
| | | A | b | |
| トンネル工事 | 28.71 | 4,164.9 | −0.3088 | 5.59 |

備考　森林整備のAとBの区分は次のとおりとする。

1. Aの区分

（1）土木的工事と併せて行う森林整備に係る工事で、当該工事の対象額のうち土木的工事の費用の割合が20%以上の場合

（2）樹高1．5m以上の苗木の植栽費が50%以上の場所

（3）航空実播工

（4）種子吹付工

2. Bの区分

上記(1)から(4)まで以外の森林整備

別表③ 地域補正(共通仮設費)の適用(令和2年4月1日～4月30日まで適用)

| 適用条件 | | | 補正係数 | 適用優先 |
|---|---|---|---|---|
| 施工地域区分 | 工種区分 | 対象 | | |
| 市街地(DID 補正)(1) | 鋼橋架設工事 | 市街地部が施工箇所に含まれる場合。 | 1.3 | 1 |
| | 道路維持工事 | | | |
| | 舗装工事 | | | |
| | 橋梁保全工事 | | | |
| 一般交通影響有り(1) | 全ての工種 | 2車線以上(片側1車線以上)かつ交通量(上下合計)が5,000 台/日以上の車道において，車線変更を促す規制を行う場合。ただし，常時全面通行止めの場合は対象外とする。 | 1.3 | 2 |
| 一般交通影響有り(2) | 全ての工種 | 一般交通影響有り(1)以外の車道において，車線変更を促す規制を伴う場合。(常時全面通行止めの場合を含む。) | 1.2 | 3 |
| 市街地(DID 補正)(2) | 市街地(DID 補正)(1)以外 | 市街地(DID 補正)(1)で適用となる工種区分以外で，市街地部が施工箇所に含まれる場合。 | 1.2 | 4 |
| 離　島 | 全ての工種 | | 1.3 | 5 |

(注) 1. 市街地とは，施工地域が人口集中地区(DID地区)及びこれに準ずる地区をいう。

なお，DID地区とは，総務省統計局国勢調査による地域別人口密度が4，000人／km2以上でその全体が5，000人以上となっている地域をいう。(松江市，出雲市，益田市，浜田市，安来市の一部)

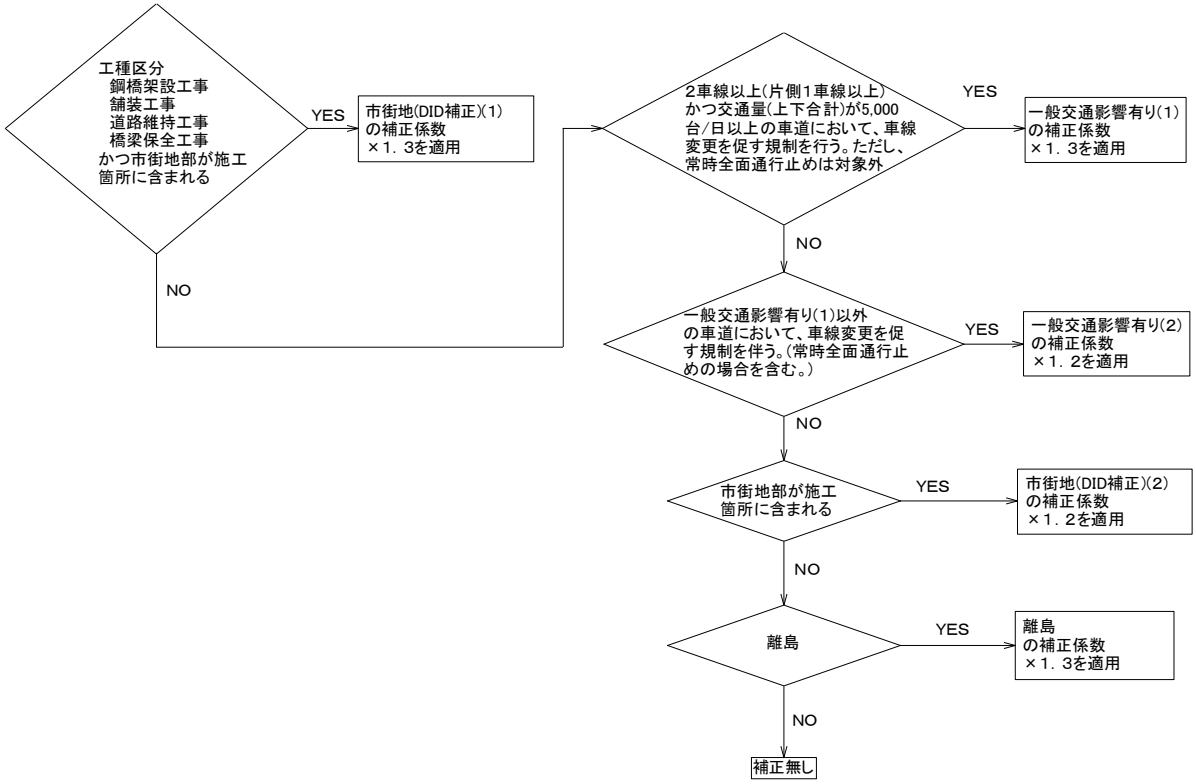
これに準ずる地区とは，総務省が規定する「準人口集中地区」をいう。

2. 適用条件の複数に該当する場合は，適用優先順に従い決定するものとする。

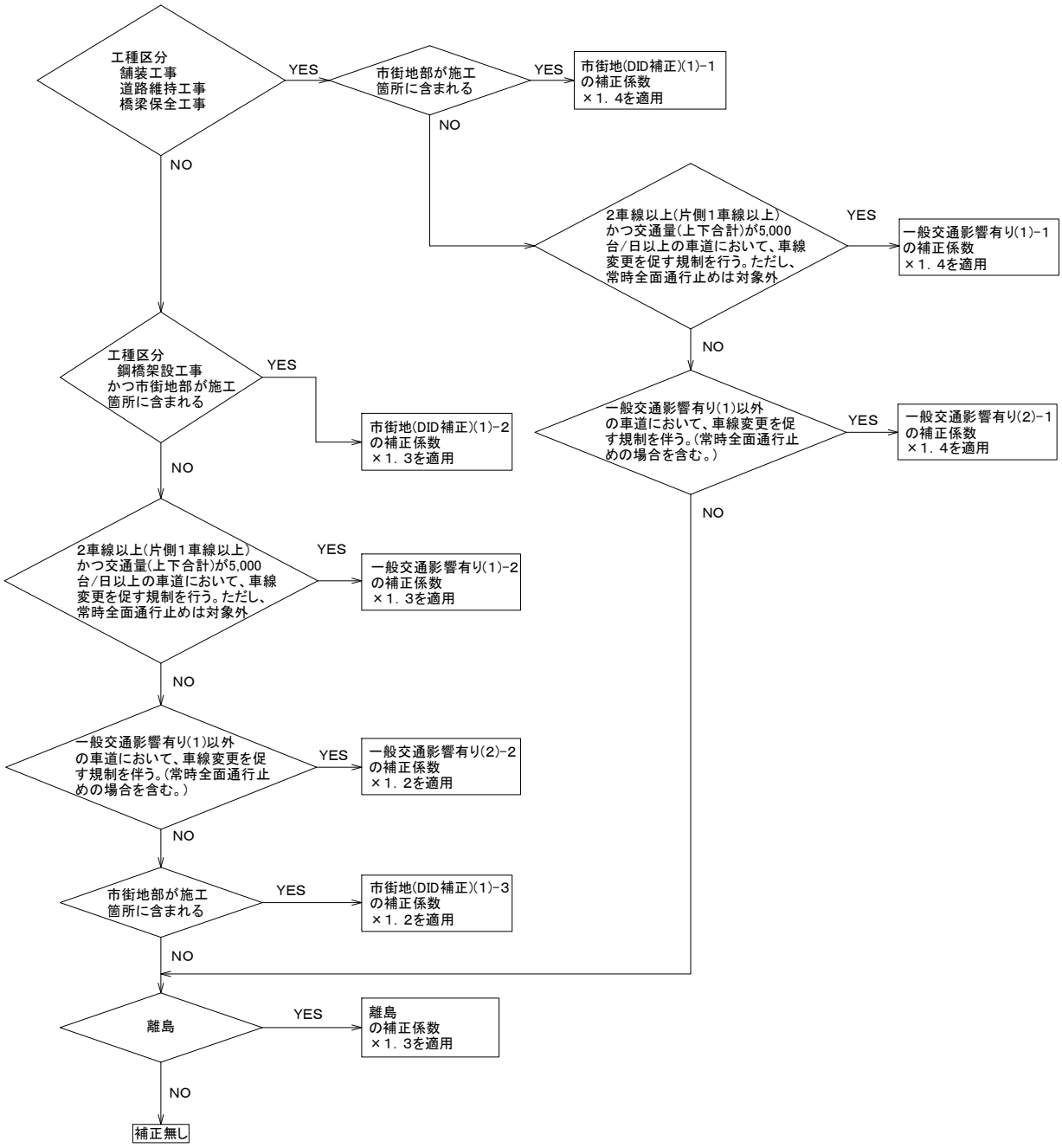
別表③ 地域補正(共通仮設費)の適用(令和2年5月1日以降適用)

| 適用条件 | | | 補正係数 | 適用優先 |
|---|---|---|---|---|
| 施工地域区分 | 工種区分 | 対象 | | |
| 市街地(DID 補正)<br>(1)－1 | 道路維持工事<br>舗装工事<br>橋梁保全工事 | 市街地部が施工箇所に含まれる場合。 | 1.4 | 1 |
| 一般交通影響有り<br>(1)－1 | 道路維持工事<br>舗装工事<br>橋梁保全工事 | 2車線以上(片側1車線以上)かつ交通量(上下合計)が5,000 台/日以上の車道において，車線変更を促す規制を行う場合。ただし，常時全面通行止めの場合は対象外とする。 | | |
| 一般交通影響有り<br>(2)－1 | 道路維持工事<br>舗装工事<br>橋梁保全工事 | 一般交通影響有り(1)以外の車道において，車線変更を促す規制を伴う場合。(常時全面通行止めの場合を含む。) | | |
| 市街地(DID 補正)<br>(1)－2 | 鋼橋架設工事 | 市街地部が施工箇所に含まれる場合。 | 1.3 | 2 |
| 一般交通影響有り<br>(1)－2 | 道路維持工事、舗装工事、橋梁保全工事以外の工種 | 2車線以上(片側1車線以上)かつ交通量(上下合計)が5,000 台/日以上の車道において，車線変更を促す規制を行う場合。ただし，常時全面通行止めの場合は対象外とする。 | 1.3 | 3 |
| 一般交通影響有り<br>(2)－2 | 道路維持工事、舗装工事、橋梁保全工事以外の工種 | 一般交通影響有り(1)以外の車道において，車線変更を促す規制を伴う場合。(常時全面通行止めの場合を含む。) | 1.2 | 4 |
| 市街地(DID 補正)<br>(1)－3 | 鋼橋架設工事、道路維持工事、舗装工事、橋梁保全工事以外の工種 | 市街地部が施工箇所に含まれる場合。 | 1.2 | 5 |
| 離　島 | 全ての工種 | | 1.3 | 6 |

(注) 1. 市街地とは，施工地域が人口集中地区(DID地区)及びこれに準ずる地区をいう。
なお，DID地区とは，総務省統計局国勢調査による地域別人口密度が4，000人／km2以上でその全体が5，000人以上となっている地域をいう。(松江市，出雲市，益田市，浜田市，安来市の一部)
これに準ずる地区とは，総務省が規定する「準人口集中地区」をいう。
2. 適用条件の複数に該当する場合は，適用優先順に従い決定するものとする。




図①　地域補正（共通仮設費）の適用フロー（令和2年4月1日～4月30日まで適用）




図① 地域補正（共通仮設費）の適用フロー（令和２年５月１日以降適用）

別表④（工種別現場管理費率標準値表）（令和2年4月30日まで適用）

| 純工事費 / 適用区分 / 工種区分 | 700 万円以下 | 700 万円を超え 10 億円以下 | | 10 億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする。(%) | 算定式より算出された率とする。ただし、変数値は下記による。 | | 下記の率とする。(%) |
| | | A | b | |
| 河　川　工　事 | 43.20 | 1,270.0 | −0.2145 | 14.90 |
| 河川・道路構造物工事 | 42.50 | 457.7 | −0.1508 | 20.11 |
| 治山・地すべり防止工事 | 45.49 | 1,362.7 | −0.2157 | 15.60 |
| 海　岸　工　事 | 27.72 | 113.6 | −0.0895 | 17.78 |
| 森 林 整 備 | 42.43 | 385.5 | −0.1400 | 21.18 |
| 道　路　工　事 | 33.65 | 86.9 | −0.0602 | 24.96 |
| 鋼 橋 架 設 工 事 | 48.12 | 302.3 | −0.1166 | 26.98 |
| Ｐ Ｃ 橋 工 事 | 30.73 | 120.5 | −0.0867 | 19.98 |
| 舗　装　工　事 | 40.32 | 667.7 | −0.1781 | 16.66 |
| 公　園　工　事 | 42.43 | 385.5 | −0.1400 | 21.18 |

| 純工事費 / 適用区分 / 工種区分 | 700 万円以下 | 700 万円を超え3億円以下 | | 3億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする。(%) | 算定式より算出された率とする。ただし、変数値は下記による。 | | 下記の率とする。(%) |
| | | A | b | |
| 橋 梁 保 全 工 事 | 64.94 | 1,622.9 | −0.2042 | 30.15 |

| 純工事費 / 適用区分 / 工種区分 | 200 万円以下 | 200 万円を超え 1 億円以下 | | 1 億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする。(%) | 算定式より算出された率とする。ただし、変数値は下記による。 | | 下記の率とする。(%) |
| | | A | b | |
| 道 路 維 持 工 事 | 59.78 | 628.9 | −0.1622 | 31.69 |

| 純工事費 / 適用区分 / 工種区分 | 1,000 万円以下 | 1,000 万円を超え 20 億円以下 | | 20 億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする。(%) | 算定式より算出された率とする。ただし、変数値は下記による。 | | 下記の率とする。(%) |
| | | A | b | |
| トンネル工事 | 44.93 | 219.8 | −0.0985 | 26.66 |

（備考）1. 基礎地盤から堤頂までの高さが20m以上の治山ダムは、治山・地すべり防止工事に2%加算するものとする。

2. 保安林管理道等に関する工事は林道関係事業に準ずるものとする。

別表④（工種別現場管理費率標準値表）（令和2年5月1日以降適用）

| 純工事費 / 適用区分 / 工種区分 | 700 万円以下 | 700 万円を超え 10 億円以下 | | 10 億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする。(%) | 算定式より算出された率とする。ただし、変数値は下記による。 | | 下記の率とする。(%) |
| | | A | b | |
| 河　川　工　事 | 43.43 | 1,276.7 | −0.2145 | 14.98 |
| 河川・道路構造物工事 | 42.54 | 458.2 | −0.1508 | 20.13 |
| 治山・地すべり防止工事 | 45.75 | 1,370.6 | −0.2157 | 15.69 |
| 海　岸　工　事 | 27.79 | 113.9 | −0.0895 | 17.82 |
| 森 林 整 備 | 42.63 | 387.3 | −0.1400 | 21.28 |
| 道　路　工　事 | 33.69 | 87.0 | −0.0602 | 24.99 |
| 鋼 橋 架 設 工 事 | 48.24 | 303.1 | −0.1166 | 27.05 |
| Ｐ Ｃ 橋 工 事 | 30.78 | 120.9 | −0.0868 | 20.01 |
| 舗　装　工　事 | 40.38 | 668.7 | −0.1781 | 16.69 |
| 公　園　工　事 | 42.63 | 387.3 | −0.1400 | 21.28 |

| 純工事費 / 適用区分 / 工種区分 | 700 万円以下 | 700 万円を超え3億円以下 | | 3億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする。(%) | 算定式より算出された率とする。ただし、変数値は下記による。 | | 下記の率とする。(%) |
| | | A | b | |
| 橋 梁 保 全 工 事 | 64.97 | 1,623.7 | −0.2042 | 30.16 |

| 純工事費 / 適用区分 / 工種区分 | 200 万円以下 | 200 万円を超え 1 億円以下 | | 1 億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする。(%) | 算定式より算出された率とする。ただし、変数値は下記による。 | | 下記の率とする。(%) |
| | | A | b | |
| 道 路 維 持 工 事 | 60.00 | 631.2 | −0.1622 | 31.81 |

| 純工事費 / 適用区分 / 工種区分 | 1,000 万円以下 | 1,000 万円を超え 20 億円以下 | | 20 億円を超えるもの |
|---|---|---|---|---|
| | 下記の率とする。(%) | 算定式より算出された率とする。ただし、変数値は下記による。 | | 下記の率とする。(%) |
| | | A | b | |
| トンネル工事 | 44.97 | 220.0 | −0.0985 | 26.69 |

（備考）1. 基礎地盤から堤頂までの高さが20m以上の治山ダムは、治山・地すべり防止工事に2%加算するものとする。

2. 保安林管理道等に関する工事は林道関係事業に準ずるものとする。

別表⑤ 地域補正(現場管理費)の適用(令和2年4月 1 日～4月30日まで適用)

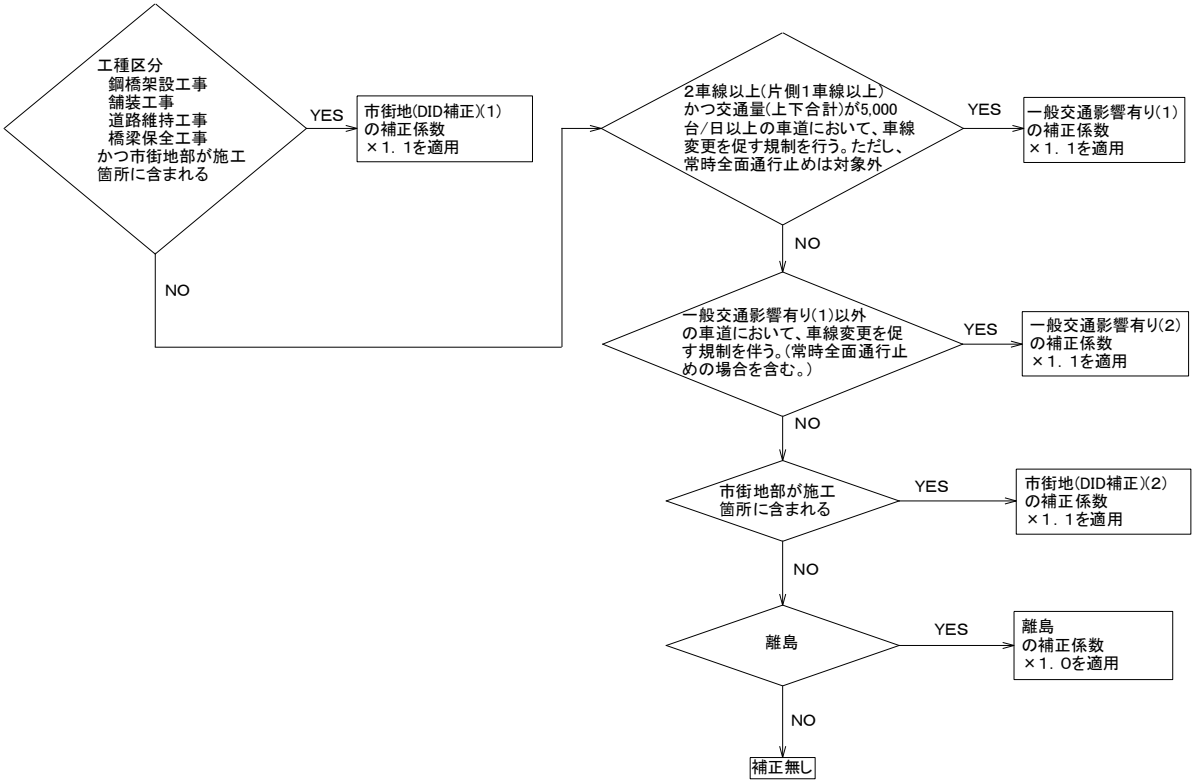
| 適用条件 | | | 補正係数 | 適用優先 |
|---|---|---|---|---|
| 施工地域区分 | 工種区分 | 対象 | | |
| 市街地(DID 補正)(1) | 鋼橋架設工事 | 市街地部が施工箇所に含まれる場合。 | 1.1 | 1 |
| | 道路維持工事 | | | |
| | 舗装工事 | | | |
| | 橋梁保全工事 | | | |
| 一般交通影響有り(1) | 全ての工種 | 2車線以上(片側1車線以上)かつ交通量(上下合計)が 5,000 台/日以上の車道において，車線変更を促す規制を行う場合。ただし，常時全面通行止めの場合は対象外とする。 | 1.1 | 2 |
| 一般交通影響有り(2) | 全ての工種 | 一般交通影響有り(1)以外の車道において，車線変更を促す規制を伴う場合。(常時全面通行止めの場合を含む。) | 1.1 | 3 |
| 市街地(DID 補正)(2) | 市街地(DID 補正)(1)以外 | 市街地(DID 補正)(1)で適用となる工種区分以外で，市街地部が施工箇所に含まれる場合。 | 1.1 | 4 |
| 離　島 | 全ての工種 | | 1.0 | 5 |

(注) 1. 市街地とは，施工地域が人口集中地区(DID地区)及びこれに準ずる地区をいう。
なお，DID地区とは，総務省統計局国勢調査による地域別人口密度が 4，000 人／km2 以上でその全体が 5，000 人以上となっている地域をいう。(松江市，出雲市，益田市，浜田市，安来市の一部)
これに準ずる地区とは，総務省が規定する「準人口集中地区」をいう。
2. 適用条件の複数に該当する場合は，適用優先によるが，共通仮設費で決定した施工地域区分と同じものを適用すること。

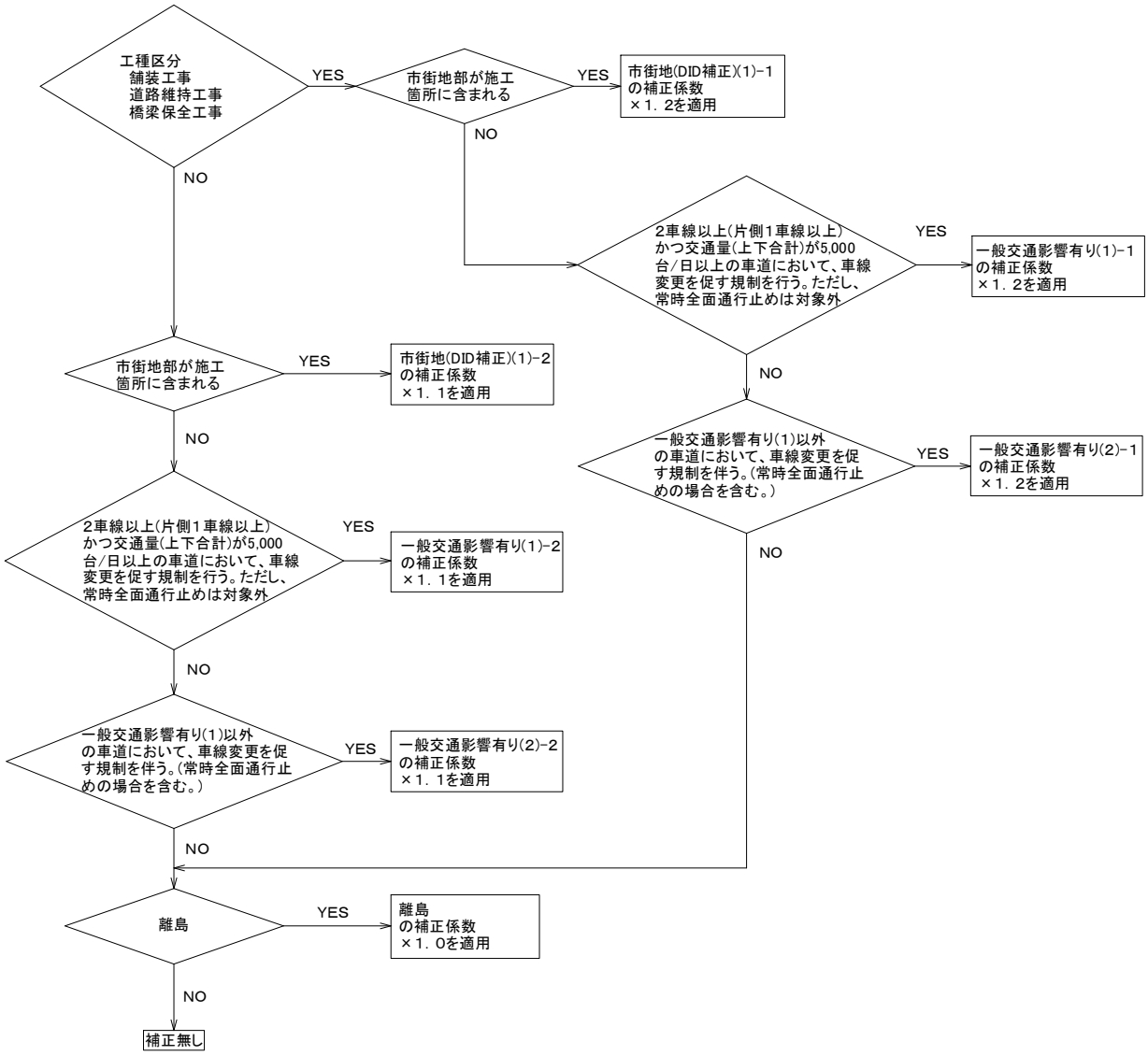
別表⑤ 地域補正(現場管理費)の適用(令和2年5月1日以降適用)

| 適用条件 | | | 補正係数 | 適用優先 |
|---|---|---|---|---|
| 施工地域区分 | 工種区分 | 対象 | | |
| 市街地(DID 補正)<br>(1)－1 | 道路維持工事<br>舗装工事<br>橋梁保全工事 | 市街地部が施工箇所に含まれる場合。 | 1.2 | 1 |
| 一般交通影響有り<br>(1)－1 | 道路維持工事<br>舗装工事<br>橋梁保全工事 | 2車線以上(片側1車線以上)かつ交通量(上下合計)が 5,000 台/日以上の車道において，車線変更を促す規制を行う場合。ただし，常時全面通行止めの場合は対象外とする。 | | |
| 一般交通影響有り<br>(2)－1 | 道路維持工事<br>舗装工事<br>橋梁保全工事 | 一般交通影響有り(1)以外の車道において，車線変更を促す規制を伴う場合。(常時全面通行止めの場合を含む。) | | |
| 市街地(DID 補正)<br>(1)－2 | 道路維持工事、舗装工事、橋梁保全工事以外の工種 | 市街地部が施工箇所に含まれる場合。 | 1.1 | 2 |
| 一般交通影響有り<br>(1)－2 | 道路維持工事、舗装工事、橋梁保全工事以外の工種 | 2車線以上(片側1車線以上)かつ交通量(上下合計)が 5,000 台/日以上の車道において，車線変更を促す規制を行う場合。ただし，常時全面通行止めの場合は対象外とする。 | 1.1 | 3 |
| 一般交通影響有り<br>(2)－2 | 道路維持工事、舗装工事、橋梁保全工事以外の工種 | 一般交通影響有り(1)以外の車道において，車線変更を促す規制を伴う場合。(常時全面通行止めの場合を含む。) | 1.1 | 4 |
| 離　島 | 全ての工種 | | 1.0 | 5 |

(注) 1. 市街地とは，施工地域が人口集中地区(DID地区)及びこれに準ずる地区をいう。
なお，DID地区とは，総務省統計局国勢調査による地域別人口密度が 4，000 人／km2 以上でその全体が 5，000 人以上となっている地域をいう。(松江市，出雲市，益田市，浜田市，安来市の一部)
これに準ずる地区とは，総務省が規定する「準人口集中地区」をいう。
2. 適用条件の複数に該当する場合は，適用優先によるが，共通仮設費で決定した施工地域区分と同じものを適用すること。




図② 地域補正(現場管理費)の適用フロー(令和2年4月1日～4月30日まで適用)




図② 地域補正(現場管理費)の適用フロー(令和2年5月1日以降適用)

## ③ 一般管理費等及び消費税等相当額

「建設工事積算基準第Ⅰ編第3章　一般管理費等及び消費税等相当額」による。
ただし、「建設工事積算基準第Ⅰ編第3章①3一般管理費等の算定」については、下記事項を加え適用する。

1. 一般管理費等の算定
森林組合等と随意契約を締結する場合の一般管理費等率は、算定式で定めた一般管理費等の率から5%を減じた率以内とする。

## ④ 随意契約方式により工事を発注する場合の間接工事費等の調整

「建設工事積算基準第Ⅰ編第4章随意契約方式により工事を発注する場合の間接工事費等の調整」による。

## ⑤ 数値基準

治山関係事業及び林道関係事業に係る設計書の表示単位及び数位は原則として次のとおりとする。

（1）　単位及び表示単位は、別表④（主要項目の数値基準等）に示すとおりとする。
（2）　数量の計算は、１数式ごとに別表④に定める指定小数位以下１位まで求め、これを四捨五入し、指定小数位止めとする。
（3）　別表④に定めのない工種の数値基準については「建設工事積算基準第Ⅰ編第５章①数値基準によるものとする。
（4）　設計計上数量は、別表（主要項目の数値基準等）に定める表示単位を標準とする。
（5）　単位及び表示単位の適用は各細別毎を原則とし、工種・種別は１式を原則とする。
（6）　契約数量は設計計上数量とする。但し工事目的物以外で、指定仮設等数量明示が必要な種目以外は１式計上する。

別表④（主要項目の数値基準等）

| 工種種別 | 細別 | 単位 | 表示単位 | 集計単位 | 計算因子<br>高さ、幅、延長等 |
|---|---|---|---|---|---|
| 土工 | 切土 | $m^3$ | 単位止 | 小数第1位止 | 小数第1位止 |
| | 盛土 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| | 床堀 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| ダム工、土留工、<br>擁壁工 | コンクリート | $m^3$ | 小数第1位止 | 小数第2位止 | 小数第2位止 |
| | ブロック | $m^2$ | 〃 | 〃 | 〃 |
| | 石積 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| | 張石 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| | 鋼製枠 | t | 小数第2位止 | 〃 | 小数第3位止 |
| | L 型プレキャスト | m | 単位止 | 小数第1位止 | 小数第1位止 |
| | フトンカゴ | 〃 | 小数第1位止 | 〃 | 〃 |
| | 蛇カゴ | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| | 鉄筋質量 | t | 小数第2位止 | 小数第2位止 | 小数第3位止 |
| | エキスパンドメタル擁壁 | $m^2$ | 小数第1位止 | 小数第1位止 | 小数第1位止 |
| 路盤工 | 上置、下置路盤工 | $m^3$ | 小数第1位止 | 小数第2位止 | 小数第2位止 |
| 舗装工 | アスファルト・コンクリート | $m^2$ | 小数第1位止 | 小数第2位止 | 小数第2位止 |
| 緑化工、<br>法面保護工等 | 植生基材吹付工 | $m^2$ | 小数第1位止 | 小数第1位止 | 小数第1位止 |
| | 種子吹付工 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| | モルタル吹付工 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| | 法枠工 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| | 筋芝 | m | 〃 | 〃 | 〃 |
| | 張芝 | $m^2$ | 〃 | 〃 | 〃 |
| | 筋工 | m | 〃 | 〃 | 〃 |
| | 編柵工 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 防護施設工<br>落石防止工 | 駒止 | 箇所 | 単位止 | 単位止 | 単位止 |
| | 自動車用防護柵 | m | 小数第1位止 | 小数第1位止 | 小数第1位止 |
| | 落石防護柵 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| | 落石防止壁（鋼製） | t | 小数第2位止 | 小数第2位止 | 小数第3位止 |
| | 落石防止柵（鋼製） | m | 〃 | 〃 | 〃 |
| | 落石防止網 | $m^2$ | 単位止 | 小数第1位止 | 小数第1位止 |
| 標識工 | カーブミラー・標識 | 本 | 単位止 | 単位止 | 単位止 |
| 橋梁工 | 桁 | 本 | 単位止 | 小数第1位止 | 小数第1位止 |
| | 床板 | $m^3$ | 小数第1位止 | 小数第2位止 | 小数第2位止 |
| | 高欄 | m | 〃 | 小数第1位止 | 小数第1位止 |
| | 橋台 | $m^3$ | 〃 | 小数第2位止 | 小数第2位止 |
| | 橋脚 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 排水施設工等 | 暗きょ工 | m | 小数第1位止 | 小数第2位止 | 小数第2位止 |
| | コンクリート側溝 | 〃 | 〃 | 小数第1位止 | 小数第1位止 |
| | 横断溝 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| | 地下排水 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| | 法面排水 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| | 集水桝 | 箇所 | 単位止 | 単位止 | 単位止 |

| 工種種別 | 細別 | 単位 | 表示単位 | 集計単位 | 計算因子<br>高さ、幅、延長等 |
|---|---|---|---|---|---|
| アンカー工 | 削孔 | ㎥ | 小数第1位止 | 小数第1位止 | 小数第1位止 |
| | アンカー材 | m | 小数第2位止 | 小数第2位止 | 小数第2位止 |
| | グラウト材 | ㎥ | 小数第1位止 | 〃 | 〃 |
| 杭打工 | 掘削 | ㎥ | 小数第1位止 | 小数第1位止 | 小数第1位止 |
| | 杭材 | 本 | 単位止 | 単位止 | 単位止 |
| | グラウト材 | ㎥ | 小数第1位止 | 小数第2位止 | 小数第2位止 |
| 集水井工 | 掘削 | ㎥ | 小数第1位止 | 小数第1位止 | 小数第1位止 |
| | ライナープレート | m | 〃 | 〃 | 〃 |
| | 集水ボーリング | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 伐開、除根 | | ㎡ | 単位止 | 単位止 | 単位止 |
| 下刈、除伐、<br>本数調整伐 | | ha | 小数第2位止 | 小数第2位止 | 小数第2位止 |
| 木材 | | 本 | 単位止 | 小数第1位止 | 小数第1位止 |
| | | ㎥ | 小数第2位止 | 小数第2位止 | 小数第2位止 |
| 仮設工 | 型枠工 | ㎡ | 小数第1位止 | 小数第2位止 | 小数第2位止 |
| | 支保工 | 空㎥ | 単位止 | 小数第1位止 | 小数第1位止 |
| | 足場工 | 掛㎡ | 〃 | 〃 | 〃 |
| | 足場工<br>(キャットウォーク) | m | 〃 | 〃 | 〃 |
| | 土のう締切工 | ㎡ | 〃 | 〃 | 〃 |

備考

(1)端数はすべて四捨五入とする。

(2)平均断面、平均法長等は、数量集計単位より1位程度下位をもって計算することを標準とする。

(3)鋼材関係の表示単位は、1t 以上は小数第3位四捨五入2位止、1t 未満は小数第4位　四捨五入3位止とする。

## ⑥　建設機械運転労務等

「建設工事積算基準第Ⅰ編第６章建設機械運転労務等」による。

## ⑦　工事の特許使用料の積算

「建設工事積算基準第Ⅰ編第7章土木請負工事の特許使用料の積算」による。

## ⑧　時間的制約を受ける工事の積算

「建設工事積算基準第Ⅰ編第8章時間的制約を受ける公共土木工事の積算」による。

## ⑨　工事における現場環境改善費の積算

「建設工事積算基準第Ⅰ編第９章土木請負工事における現場環境改善費の積算」による。

## ⑩　工事の一時中止に伴う増加費用等の積算

「建設工事積算基準第Ⅰ編第10章工事の一時中止に伴う増加費用等の積算」による。
なお①2－2(2)1)中止に伴い増加する現場経費率の「各工種毎に決まる係数」 別表－1は下表を適用する。

| 工種区分 | 係数A | | | 係数B | 係数a | 係数b |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 地方部（一般交通等の影響なし） | 地方部（一般交通等影響有）<br>山間僻地離島 | 市街地<br>（ＤＩＤ地区・準ずる地区） | | | |
| 海岸工事 | 105.5 | 111.4 | 115.2 | −0.1120 | 1.6285 | 0.2498 |
| 道路改良工事 | 339.5 | 358.7 | 370.9 | −0.1935 | 0.4461 | 0.3348 |
| 鋼橋架設工事 | 550.3 | 581.5 | 601.3 | −0.2612 | 0.0717 | 0.4607 |
| ＰＣ橋工事 | 476.3 | 503.2 | 520.4 | −0.2330 | 0.8742 | 0.3058 |
| 舗装工事 | 453.4 | 479.0 | 495.4 | −0.2108 | 0.0761 | 0.4226 |
| トンネル工事 | 293.8 | 310.3 | 321.0 | −0.1718 | 0.0973 | 0.4252 |
| 治山・地すべり等工事 | 151.0 | 159.5 | 164.9 | −0.1379 | 0.4267 | 0.3357 |
| 道路維持工事 | 96.0 | 101.4 | 104.9 | −0.0926 | 0.1699 | 0.3933 |

備考１　森林整備については、別途見積を行うこと。

## ⑪　施工箇所が点在する工事の積算

「建設工事積算基準第Ⅰ編第１１章施工箇所が点在する工事の積算」による。

## ⑫　１日未満で完了する作業の積算

「建設工事積算基準第Ⅰ編第１２章１日未満で完了する作業の積算」による。

## ⑬　設計変更

「建設工事積算基準第Ⅰ編第１３章設計変更」による。

## ⑭ その他

（令和2年3月31日まで適用）

「建設工事積算基準第Ⅰ編第14章の規定」による。

ただし、「建設工事積算基準第Ⅰ編第14章③3－1工期日数の算定」については、下記に替える。

工期算定基準の改訂について

［森 発 第 92 号
平成 8 年 4 月 1 日
森 林 整 備 課 長］

1 完成日の決定

（Ⅰ）施工日数の算定

施工日数の算定式（施工日数の 1 日未満は切上げとする。）

◎治山事業(山間部)・林道事業……128.6logP－210.7

◎治山事業(海岸等平地部)……116.8logP－220.3

P:対象額（単位:万円）＝直接工事費＋仮設費＋事業損失防止施設費

（注）1. この算定式は、平成 8 年度事業より適用する。

2. この算定式は、対象額 100 万円以上 1 億円以下の事業に適用する。

3. この算定式は、治山・林道工事の現場の地形的・地質的特殊性及び施工性を考慮し決定している。

4. 施工日数には、準備期間・日曜日・祝日（夏季休暇及び年末年始休暇を含む）・土曜日（4週8休分）・降雨による不稼働日を含む。

5. この施工日数は、工事内容、施工時期及び施工場所等を考慮して適宜増減することができる。

（Ⅱ）参考

| 対象額（万円） | 標準施工日数 | |
|---|---|---|
| | 治山（山間部）・林道 | 治山（平地部） |
| 500 | 137 日 | 95 日 |
| 1,000 | 176 | 131 |
| 2,000 | 214 | 166 |
| 3,000 | 237 | 186 |
| 4,000 | 253 | 201 |
| 5,000 | 265 | 212 |
| 6,000 | 276 | 221 |
| 7,000 | 284 | 229 |
| 8,000 | 292 | 236 |
| 9,000 | 298 | 242 |
| 10,000 | 304 | 247 |

（Ⅲ）完成日の決定

完成日は入札日の翌日から当該工事の施工日数に 7 日を加えた日とする。

なお、契約保証を必要としない契約の場合は 7 日を加えない。

（令和2年4月 1 日以降適用）

「建設工事積算基準第Ⅰ編第14章の規定」による。

ただし、「建設工事積算基準第Ⅰ編第14章③3－1工期日数の算定」の「別表1」及び「別表2」については、下記に替える。

別表１　準備・後片付け期間

| 工種区分 | 準備期間 | | 後片付け期間 | |
|---|---|---|---|---|
| | 日数 | 備考 | 日数 | 備考 |
| 河川工事 | ４０日 | | ２０日 | |
| 河川・道路構造物工事 | ４０日 | プレテン桁を含む | ２０日 | |
| 治山・地すべり工事 | ３０日 | | ２０日 | |
| 海岸工事 | ４０日 | | ２０日 | |
| 森林整備Ａ・Ｂ | ３０日 | | ２０日 | |
| 道路工事 | ４０日 | | ２０日 | |
| 鋼橋架設工事 | ９０日 | 照査、材料手間期間を含む | ２０日 | |
| ＰＣ橋工事 | ７０日 | 支承製作を含む | ２０日 | |
| 舗装工事 | ５０日 | | ２０日 | |
| 橋梁保全工事 | ６０日 | | ２０日 | |
| 道路維持工事 | ５０日 | 通年維持工事は除く | ２０日 | 通年維持工事は除く |
| トンネル工事 | ８０日 | トンネル仮設備（プラント等）設置期間は含まない | ２０日 | |

別表２

| 工種 | A | b |
|---|---|---|
| 河川工事 | 6.5 | 0.1981 |
| 河川・道路構造物工事 | 1.0 | 0.3102 |
| 治山・地すべり工事 | 4.6 | 0.2263 |
| 海岸工事 | 0.6 | 0.3265 |
| 道路工事 | 2.2 | 0.2637 |
| 鋼橋架設工事 | 4.5 | 0.2373 |
| ＰＣ橋工事 | 0.9 | 0.3154 |
| 舗装工事 | 9.9 | 0.1753 |
| 道路維持工事 | 19.9 | 0.1422 |

## ⑮　請負工事機械経費積算要領

「建設工事積算基準第Ｉ編第１５章請負工事機械経費積算要領」の規定による。

## ⑯　積算上の統一事項

「建設工事積算基準第Ｉ編第１６章積算上の統一事項等」による。

ただし、「建設工事積算基準第Ｉ編第１６章①積算算上の統一事項」については、下記のとおり適用する。

**①積算上の統一事項**

「建設工事積算基準第Ｉ編第１６章①積算上の統一事項の規定」を下記のとおり適用する。

なお、適用しない事項であっても必要に応じて参考とし、森林整備事業関係技術資料等と併せて適切な積算を行うものとする。

［適用する事項］

１－１　生コンクリート使用の取扱いについて
１－２　コンクリートの適用区分
１－３　足場工
１－４　鋼矢板、仮橋、防護柵等仮設物件を撤去しないで次の工事に継続使用する場合の取扱い
１－７　アスファルト混合物使用の取扱いについて

［適用しない事項］
１－５　仮設道路について
１－６　用地境界柱の設置区分

## ⑰　「森林整備保全事業標準歩掛」に記載がない施工パッケージ型積算方式の適用について

次の工種は作業条件等に留意し適用するものとする。

・プレキャストコンクリート板設置工
・平石張工
・現場打擁壁工（1）　・現場打擁壁工（2）
・プレキャスト擁壁工
・ジオテキスタイル工
・排水構造物工　現場打ち水路（本体）　・排水構造物工　現場打ち集水・街路桝（本体）
・軟弱地盤処理工（サンドマット工）　・軟弱地盤工（紛体噴射攪拌工（ＤＪＭ工法））
・構造物とりこわし工（石積取壊し（人力）コンクリートはつり）
・発泡スチロールを用いた超軽量盛土工
・現場取卸工
・函渠工（1）　・函渠工（2）
・殻運搬
・型枠工（省力化構造）
・消波根固めブロック工（ブロック除去工）（0.25ｔ以上 35.5ｔ以下）
・捨石工
・護岸基礎ブロック工
・かごマット工
・袋詰玉石工
・笠コンクリートブロック据付工
・踏掛版
・立入防止柵工
・落下物等防止柵設置工
・トンネル内装板設置工
・スノーポール設置・撤去工
・舗装版切断工
・橋梁補修工（支承取替工）
・落橋防止装置工
・路面清掃工（人力清掃工）
・側溝清掃工（人力清掃工）
・集水桝清掃工（人力清掃工）
・橋梁排水管設置工
・現場発生品及び支給品運搬工

# 第２章　土工

## [1] 適用基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第1編　共通工　第1　土工

１－２　伐開･除根等

１－７　ホイールローダ掘削積込

## [2] 運用基準

な し

## [3] 独自基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第1編　共通工　第1　土工

### １－１　土質分類

以下に読み替える。

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第１章①土量変化率等」を適用する。

### １－２　伐開･除根等

#### １－２－１　伐開･除根　(2)草刈機伐開歩掛

以下を追記する。

（２）－１伐開工（草刈機）単価表　　１００㎡当たり

| 名　称 | 規　格 | 単　位 | 数　量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 特殊作業員 | | 人 | | (2)－3 草刈機伐開歩掛 |
| 草刈機運転 | | 日 | | 〃 |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（２）－２機械運転単価表

| 機械名 | 規　格 | 適用単価表 | 指定事項 |
|---|---|---|---|
| 草刈機 | 肩掛式カッター径 255 ㎜ | 機－12 | |

（２）－３　草刈機伐開歩掛

| 名　称 | 規　格 | 単　位 | １種 | ２種 |
|---|---|---|---|---|
| 草刈機運転 | 肩掛式カッター径 255 ㎜ | 日 | 0.14 | 0.32 |
| 特殊作業員 | | 人 | 0.14 | 0.32 |

## １－２－１ 伐開･除根等 (3)チェンソー伐開歩掛

以下を読み替える。

（３）－１伐開工（チェンソー）単価表

１０００㎡当たり

| 名　　称 | 規　　格 | 単　位 | 数　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 世　　話　　役 | | 人 | 0.1 | |
| 普　通　作　業　員 | | 〃 | 4.0 | |
| チ ェ ン ソ ー 運 転 | 鋸長 500 ㎜ | 日 | 1.0 | |
| 諸　　雑　　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

以下を追記する。

（3）－２　機械運転単価表

| 機　械　名 | 規　　格 | 適用単価表 | 指定事項 |
|---|---|---|---|
| チ　ェ　ン　ソ　ー | 鋸長 500 ㎜ | 下記 | 運転労務数量→1.0<br>燃料消費量（混合油）→3.6<br>燃料消費量（チェーンオイル）<br>→0.1　　損料数量→1.0 |

（３）－３　チェンソー運転１日当り単価表

| 名　　称 | 規　　格 | 単　位 | 数　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 特　殊　作　業　員 | | 人 | | (3)-2 機械運転単価表 |
| 混　　合　　油 | 25：1 | ℓ | | 〃 |
| チ ェ ー ン オ イ ル | | 〃 | | 〃 |
| チ ェ ン ソ ー 損 料 | | 日 | | 〃 |
| 諸　　雑　　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

## １－３ 機械土工（土砂）

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第１章土工②土工及び③作業土工③－１床掘工」による。

## １－４ 埋戻工

「建設工事積算基準第Ⅱ編第１章土工③作業土工③－２埋戻工」による。

## １－５ 機械土工（岩石）

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第１章土工②土工及び③作業土工③－１床掘工」による。

## １－６ 転石破砕工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第１章土工②土工」による。

## １－８ 盛土

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第１章土工②土工」による。

## １－９－１　盛土（ブルドーザ敷均し）（狭幅）

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第１章土工②土工」による。

## １－９－２　振動ローラ締固め（狭幅）

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第１章土工②土工」による。

## １－10　機械法面整形

### １－10－１　切土法面整形歩掛

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第２章共通工①法面工①－１法面整形工」による。

### １－10－２　盛土法面整形歩掛（削取り整形）

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第２章共通工①法面工①－１法面整形工」による。

### １－10－３　機械による築立（土羽）整形歩掛

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第２章共通工①法面工①－１法面整形工」による。

## １－11　人力法面整形

### １－11－１　人力による切土整形歩掛

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第２章共通工①法面工①－１法面整形工」による。

### １－11－２　人力による築立（土羽）整形歩掛

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第２章共通工①法面工①－１法面整形工」による。

## １－12　コンクリート構造物とりこわし工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第1章土木工事標準単価④構造物とりこわし工」による。

## １－13　（参考歩掛）骨材再生工（自走式）

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第２章共通工㉓骨材再生工（自走式）」による。

# 第３章　運搬工

## ［1］ 適用基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第1編　共通工　第2　運搬工

２－１　テーラー運搬歩掛　～　２－６　ケーブルクレーン運搬

２－８　貨物自動車運搬　　２－８－２　貨物自動車標準積載量

２－９　ヘリコプターによる資材運搬

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第1編　共通工　第2　運搬工

２－２　不整地運搬車運搬

### ２－２－１　小型不整地運搬車運搬

（１）小型不整地運搬車運搬

３）１サイクルの所要時間　ア　積込み時間（ｔ１）　備考

以下を追記する。

備考２．コンクリートを生コン車から直接積込む場合は 0.73 分とする。

備考３．バックホウによる積込みは次式による。

$$\text{１分当りの土工量}(Q_2) = \frac{60 \times q_2 \times E_2}{Cm_2} \quad (m^3/\text{分})$$

$$\text{１サイクル当りの積み込み時間}(t_1) = \frac{\text{1分}}{Q_2} \times \text{１サイクル当たりの運搬量}(q)$$

$$Q_2 = \frac{Cm_2 \times q}{60 \times q_2 \times E_2}$$

Cm2：バックホウのサイクルタイム（180° 旋回,35sec）

ｑ2：バックホウのバケット容量（表１）

E2：バックホウの作業効率（表２）

表１　バックホウのバケット容量（ｑ2）

| 規格 | バックホウ 山積0.8㎥ (平積0.6㎥) | バックホウ 山積0.45㎥ (平積0.35㎥) | バックホウ 山積0.28㎥ (平積0.2㎥) | バックホウ 山積0.13㎥ (平積0.1㎥) |
|---|---|---|---|---|
| バケット容量 | 0.59㎥ | 0.34㎥ | 0.20㎥ | 0.10㎥ |

表２　バックホウの作業効率（E2）

| 現場条件 / 土質名 | 山地治山工（B） | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 地山の掘削積込み | | | ルーズな状態の土砂積込み | | |
| | 良好 | 普通 | 不良 | 良好 | 普通 | 不良 |
| 粘　性　土 | 0.55 | 0.40 | 0.30 | 0.60 | 0.45 | 0.35 |
| 砂・砂質土 | 0.65 | 0.50 | 0.35 | 0.70 | 0.55 | 0.40 |
| 礫　質　土 | 0.55 | 0.40 | 0.30 | 0.60 | 0.45 | 0.35 |
| 購入砂（洗砂） | — | — | — | 0.70 | 0.55 | 0.40 |
| 砂利・栗石・玉石 | — | — | — | 0.60 | 0.45 | 0.35 |

（２）小型不整地運搬車運搬運転単価表

以下に読み替える。

（２）－１　運搬工（小型不整地運搬車）１㎥、１ｔ当り単価表

| 名　　称 | 規　　格 | 単　位 | 数　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 小型不整地運搬車運転 | | 時間 | 1 | |
| １㎥、ｔ当り | | ㎥又はｔ | | 計／Q |
| 諸　　雑　　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（２）－２　不整地運搬車運転１時間当り単価表

| 名　　称 | 規　　格 | 単　位 | 数　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 特　殊　運　転　手 | | 人 | | (2)-3機械運転単価表 |
| 燃　　料　　費 | | ℓ | | 〃 |
| 不整地運搬車賃料 | | 供用日 | | 〃 |
| 諸　　雑　　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（注）小型不整地運搬車の運転日当りの標準運転時間（T）は6.9ｈ／日とする。

（２）－３　機械運転単価表

| 機　械　名 | 規　　格 | 適用単価表 | 指　定　事　項 |
|---|---|---|---|
| 不 整 地 運 搬 車 | 油圧ダンプ式クローラ型 2.0ｔ積 | 上記 | 運転労務数量→0.14<br>燃料消費量→2.3<br>賃料数量→0.25 |

## 2－2－2 不整地運搬車運搬

（4）不整地運搬車運搬単価表

以下に読み替える。

（4）不整地運搬車運転1時間当り単価表

| 名　　称 | 規　　格 | 単　位 | 数　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 特殊運転手 | | 人 | | (4)-2 機械運転単価表 |
| 燃　料　費 | | ℓ | | 〃 |
| 不整地運搬車賃料 | | 供用日 | | 〃 |
| 諸　雑　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（注）不整地運搬車の運転日当りの標準運転時間（T）は6.9h／日とする。

以下に追記する。

（4）－1　運搬工（不整地運搬車）1㎥当り単価表

| 名　　称 | 規　　格 | 単　位 | 数　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 不整地運搬車運転 | | 時間 | 1 | |
| 1　㎥　当　り | | ㎥ | | 計／1時間当たりの運搬量 |
| 諸　雑　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（4）－2　機械運転単価表

| 機　械　名 | 規　　格 | 適用単価表 | 指　定　事　項 |
|---|---|---|---|
| 不整地運搬車 | 油圧ダンプ式クローラ型<br>4t積、6t積 | 上記 | 運転労務数量→0.14<br>燃料消費量→11(4t),13(6t)<br>賃料数量→0.25 |

## 2－4 モノレール運搬

（3）モノレール架設・撤去歩掛　4）足場撤去・設置

以下に読み替える。

現地の状況に応じて必要な費用を計上する。

（5）単価表

以下を読み替える。

1）　モノレール架設撤去費100m当り単価表

| 名　　称 | 規　　格 | 単　位 | 数　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 世　話　役 | | 人 | | 5)モノレール架設・撤去歩掛 |
| 特殊作業員 | | 〃 | | 〃 |
| 普通作業員 | | 〃 | | 〃 |
| 諸　雑　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

2）モノレール運転単価表

| 機　械　名 | 規　　格 | 適用単価表 | 指　定　事　項 |
|---|---|---|---|
| モノレール運転 | | 下記 | 3)モノレール運転1日当り単価表 |

以下を追記する。

3） モノレール運転１日当り単価表

| 名　　称 | 規　　格 | 単　位 | 数　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 軽　　油 | | ℓ | 13.0 | |
| 普通作業員 | | 人 | | 6)積込み・積卸し歩掛 |
| 諸　雑　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

（注）1．モノレールの運転日当り運転時間は６時間とする。

2．モノレール（牽引能力 1,000 ㎏未満、傾斜 45°）の出力は 8.5 PS とする。

3．軽油量は PS×0.253（ℓ／PS）×6ｈ。

4）モノレール賃料１式当り単価表

| 名　　称 | 規　　格 | 単　位 | 数　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| モノレール賃料 | 牽引能力 1,000 ㎏未満<br>（45°） | 日 | 1.0 | |
| 台 車 賃 料 | バケット台車／普通台車 | 〃 | 1.0 | |
| レール賃料 | | m／日 | | 付属品を含む |
| 諸　雑　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

5）モノレール架設・撤去歩掛　　100m当り

| 傾斜区分<br>施工区分・労務名称 | | 単位 | 30 度未満 | 30 度以上 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 架設 | 世話役 | 人 | 2.00 | 2.40 | |
| | 特殊作業員 | 〃 | 2.00 | 2.40 | |
| | 普通作業員 | 〃 | 6.00 | 7.20 | |
| 撤去 | 世話役 | 〃 | 1.00 | 1.20 | |
| | 特殊作業員 | 〃 | 1.00 | 1.20 | |
| | 普通作業員 | 〃 | 3.00 | 3.60 | |

6）積込み・荷卸し歩掛

| 職　　種 | 単位 | コンクリート | 土砂・石材等 | ブロック・諸資材等 |
|---|---|---|---|---|
| 普通作業員 | 人 | 2.0 | 2.0 | 2.0 |

## ２－７ ダンプトラック運搬

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第１章土工②土工」による。

## ２－８ 貨物自動車運搬

### ２－８－１ 貨物自動車の運賃料金

「建設工事積算基準第Ⅰ編総則第２章工事費の積算②間接工事費２－２運搬費」による。

# 第４章　コンクリート工

## ［1］ 適用基準

な し

（治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛　第1編　共通工　第3　コンクリート工は適用しない。）

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第1編　共通工　第3　コンクリート工

### ３－１　コンクリート工

#### ３－１－１　適用範囲

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第４章コンクリート工①コンクリート工」による。

#### ３－１－２　コンクリート打設工法の選定

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第４章コンクリート工①コンクリート工」による。

#### ３－１－３　材料の使用量

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第４章コンクリート工①コンクリート工」による。

#### ３－１－４　無筋･鉄筋構造物コンクリートポンプ車打設

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第４章コンクリート工①コンクリート工」による。

#### ３－１－５　養生工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第４章コンクリート工①コンクリート工」による。

#### ３－１－６　養生工（特殊養生）

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第４章コンクリート工①コンクリート工」による。

#### ３－１－７　鉄筋工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価①鉄筋工」による。

#### ３－１－８　型枠工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第４章コンクリート工②型枠工」による。

## ３－１－９ 足場･支保工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第５章仮設工⑦足場支保工」による。

## ３－２ 鉄筋工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価①鉄筋工」による。

## ３－３ 張りコンクリート

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第４章コンクリート工④張りコンクリート工」による。

## ３－４ 構造物補修工

### ３－４－１ 構造物補修工(ひび割れ補修工(充てん工法))

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第２章共通工⑨構造物補修工⑨-１構造物補修工（ひび割れ補修工(充てん工法))」による。

### ３－４－２ 構造物補修工(ひび割れ補修工(低圧注入工法))

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第２章共通工⑨構造物補修工⑨-２構造物補修工（ひび割れ補修工(低圧注入工法))」による。

## ３－５ 構造物補修工(断面修復工(左官工法))

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第２章共通工⑨構造物補修工⑨-３構造物補修工（断面修復工（左官工法))」による。

## ３－６ ヒノキ合板型枠

１．適用基準

県産ヒノキ材で製作されたコンクリート用型枠合板で、治山・林道事業におけるコンクリート施工に適用する。

２．施工歩掛

１）県産ヒノキ合板型枠

表１ヒノキ合板型枠　　(100 ㎡当たり)

| 名　　称 | 一般型枠 | | 治山ダム型枠 |
|---|---|---|---|
| | 無筋・鉄筋 | 小型構造物 | |
| 世　話　役 | 3.1 | 3.5 | 2.9 |
| 型　枠　工 | 15.7 | 13.5 | 15.7 |
| 普通作業員 | 10.0 | 11.1 | 13.6 |
| 諸雑費率 | 23.0 | 15.0 | 40.0 |

（注）１．諸雑費は型枠材、型枠用金物、組立支持材、剥離剤及び電気ドリル、電動ノコギリ、電力、仮設材の持上（下）げ機械運転に要する費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じて得た金額を上限として計上する。

２．すりつけに使用する混合物は、型枠用合板１枚当たりの使用回数は、２．３回としている。

２）ヒノキ合板型枠単価表

| 名　　称 | 単位 | 数　　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|
| [加算額]ヒノキ合板型枠損料 | ㎡ | 100 | 県産ヒノキ材使用、ｔ＝12㎜ |
| 世　話　役 | 人 | | 表１ |
| 型　枠　工 | 人 | | 表１ |
| 普通作業員 | 人 | | 表１ |
| 諸雑費率 | % | | 表１ |

# 第５章　共通工（１）溝渠工・法面工等

［1］ 適用基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第1編　共通工　第4　共通工(1)(溝渠工･法面工等)

４－１　法面工

４－１－４　簡易法枠工　～　４－１－５　簡易法枠工(円形ゴム製型枠式)

４－２　モルタル･コンクリート吹付工

４－２－４　特殊配合モルタル吹付工A　～　４－２－６　特殊配合モルタル吹付工C

４－７　斜面安定工

４－７－２　鉄筋挿入工(自穿孔)　～　４－７－３　頭部連結併用工

［2］ 適用基準

な し

［3］ 独自基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第1編　共通工　第4　共通工(1)(溝渠工･法面工等)

４－１　法面工

４－１－２　プレキャスト法枠工

「建設工事積算基準第Ⅱ編第２章共通工①法面工①－４コンクリート法枠工」による。

４－１－３　現場打法枠工

「建設工事積算基準第Ⅱ編第２章共通工①法面工①－４コンクリート法枠工」による。

## 4－1－4 簡易法枠工

（4）施工歩掛

以下を追記する。

1）法面清掃工及び2）ラス張工は「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価④－２吹付枠工」による。

（6） 材料使用量

以下を追記する。

（6）－1　　鉄筋等の材料

表１　鉄筋等材料　　（100 ㎡当たり）

| 名称 | | 規格 | 単位 | 数 量 |
|---|---|---|---|---|
| H=100 | 鉄筋 | D10 | t | 0.109 |
| | 組立枠 | W=290mm H=90mm L=400mm | 個 | 125 |
| H=150 | 鉄筋 | D10 | t | 0.189 |
| | 組立枠 | W=340mm H=140mm L=400mm | 個 | 94 |
| H=200 | 鉄筋 | D10 | t | 0.283 |
| | 組立枠 | W=340mm H=190mm L=400mm | 個 | 94 |

（注）鉄筋の使用量は補正後の数量である。

枠用鉄筋使用量＝設計量×（1＋K）

K：ロス率（＋0.17）（重ね継手、凹凸部）

H=100 の場合　0.09315ｔ×1.17≒0.109ｔ

H=150 の場合　0.16141ｔ×1.17≒0.189ｔ

H=200 の場合　0.24212ｔ×1.17≒0.283ｔ

（6）－2　　枠用主アンカーは次表の規格を標準とする。

表２　枠用主アンカー規格

| 名称 | 規　格 | 100 本当たり鉄筋重量 |
|---|---|---|
| H=100 | φ16 L=400㎜ | ― |
| H=150 | D16 L=750㎜ | 0.117ｔ |
| H=200 | D16 L=750㎜ | 0.117ｔ |

(注)H=150、H=200 タイプは鉄筋重量により計上し、数量は次のとおりとする。

100 本当たり鉄筋重量(t)＝鉄筋m当たり重量(kg)×アンカー長(m)×100 本÷1,000 kg

＝1.56 kg×0.75m×100 本÷1,000 kg＝0.117ｔ

（6）－3　シート材料は次表のとおりとする。

表３　枠シート設置材料　　（100 ㎡当たり）

| 名称 | 枚数 | | 面積 | |
|---|---|---|---|---|
| | 単位 | 数量 | 単位 | 数量 |
| H=100 | 枚 | 56.3 | ㎡ | 56.3 |
| H=150 | 枚 | 42.3 | ㎡ | 55.9 |
| H=200 | 枚 | 42.3 | ㎡ | 55.9 |

（6）－4 枠内吹付工は「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価④－１法面工」による。

（7） 単価表 4）

以下に読み替える。アンカー設置工（簡易法枠工用）100 本当たり単価表

2）アンカー設置工（簡易法枠工用）100 本当たり単価表

| 名　　称 | 規　　格 | 単　位 | 数　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 世　　話　　役 | | 人 | | 3)アンカー設置工歩掛 |
| 法　　面　　工 | | 人 | | 〃 |
| 普 通 作 業 員 | | 人 | | 〃 |
| ア ン カ ー ピ ン | φ16 L=400mm | 本 | 100 | (6)-2 表２ |
| 鉄　　筋 | D16 | t | | (6)-1 表１ |
| 諸　　雑　　率 | | % | 4 | |
| 諸　　雑　　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

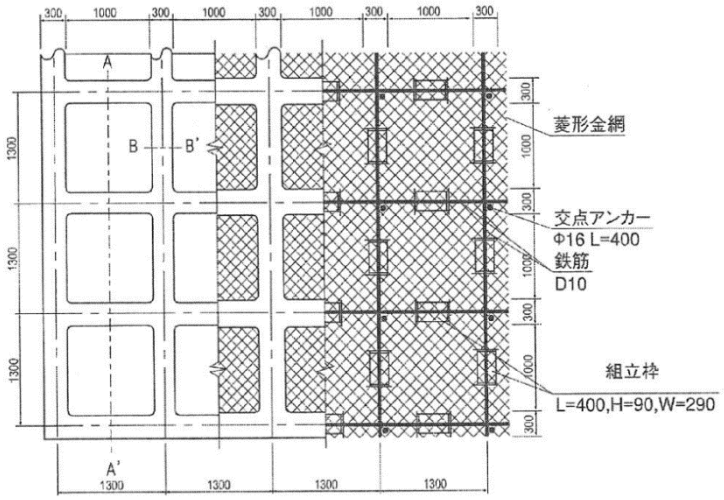
以下を追記する。

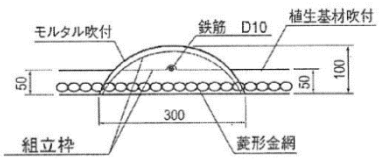
3）アンカー設置工歩掛

| 名　　称 | 単　位 | 土　　質 | |
|---|---|---|---|
| | | 砂質土、礫混り土<br>玉石混り土 | 軟岩、硬岩 |
| 世　　話　　役 | 人 | 0.5 | 0.9 |
| 法　　面　　工 | 〃 | 1.9 | 3.6 |
| 普 通 作 業 員 | 〃 | 1.0 | 1.8 |

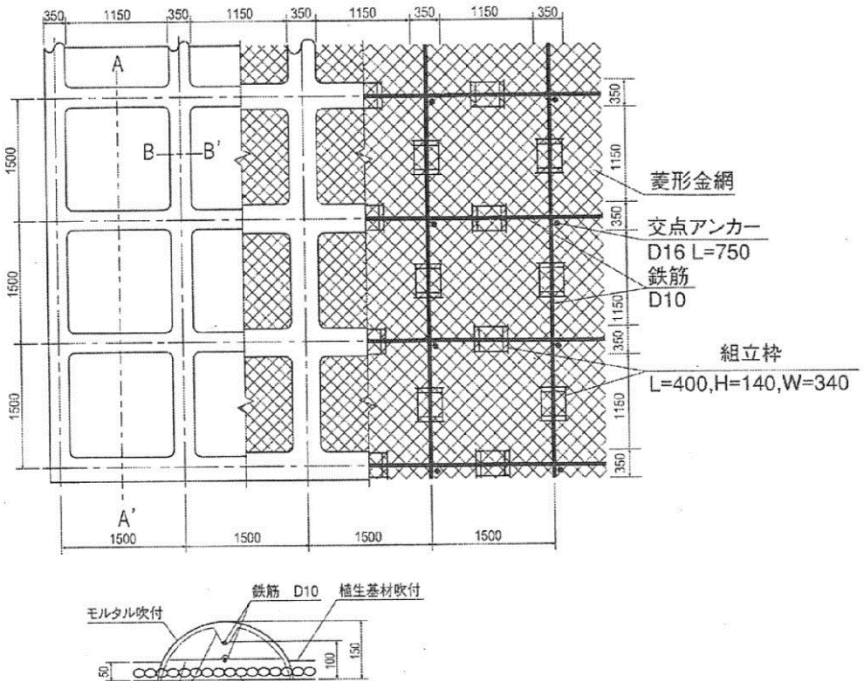
（参考）

施工標準図(H=100)

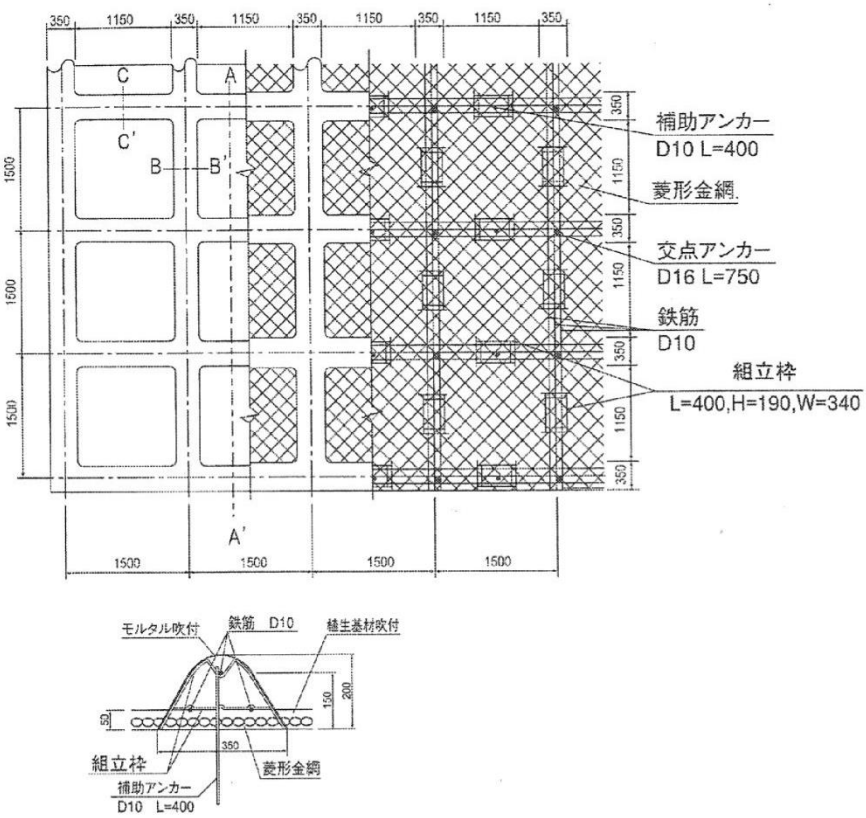


施工標準図(H=150)




施工標準図(H=200)




## 4－1－6 現場吹付法枠工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価④法面工④－２吹付枠工」による。

## ４－２ モルタル・コンクリート吹付工

### ４－２－２ モルタル吹付工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価④法面工④－１法面工」が適用できない場合適用する。

### ４－２－３ コンクリート吹付工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価④法面工④－１法面工」が適用できない場合適用する。

### ４－２－４ 特殊配合モルタル吹付工Ａ

（４）施工歩掛

以下を追記する。

備考　７　種子肥料付きでない植物繊維マットを使用する場合は、別途種子吹付を実施することとし、本歩掛より法面工０．１人、普通作業員０．１人を減じた数量を計上する。

（６）単価表

２）種子吹付１００㎡当たり単価表

以下に読み替える。

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価④法面工④－１法面工」による。

## ４－３ 植生基材吹付工

### ４－３－１ 植生基材吹付工・特殊植生基材吹付工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価④法面工④－１法面工」が適用できない場合適用する。

### ４－３－２ 客土吹付工・特殊植生基材客土吹付工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価④法面工④－１法面工」が適用できない場合適用する。

### ４－３－３ 客土吹付特殊工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価④法面工④－１法面工」が適用できない場合適用する。

## ４－４ 種子吹付工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価④法面工④－１法面工」が適用できない場合適用する。

## ４－５ 植生ネット工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価④法面工④－１法面工」が適用できない場合適用する。

## ４－６ 植生工

### ４－６－１ 種子帯及び筋芝工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価④法面工④－１法面工」が適用できない場合、適用する。

### ４－６－２ 張芝工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価④法面工④－１法面工」が適用できない場合、適用する。

### ４－６－３ 耳芝工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価④法面工④－１法面工」が適用できない場合、適用する。

### ４－６－４ （参考歩掛）人工張芝工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第２章共通工①法面工①－８人工張芝工」による。

## ４－７ 斜面安定工

### ４－７－１ 鉄筋挿入工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価⑭鉄筋挿入工（ロックボルト工）」が適用できない場合、適用する。

# 第６章　共通工（２）土留工・擁壁工等

## ［1］ 適用基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第1編　共通工　第5　共通工(2)(土留工･擁壁工等)

５－１　石材及び骨材の分類(参考)　～　５－３　骨材等採取及び洗浄歩掛

５－５　基礎･裏込工

５－５－３　基礎･裏込･中詰(砕石･栗石)工(人力施工)

５－６　鉄筋コンクリート片法枠工歩掛　～　５－８　鋼製落石防止柵･壁組立て歩掛

５－９　落石防柵工

５－９－３　鋼製落石防止柵(直立式)　～　５－９－５　高エネルギー吸収柵工

５－10　井桁ブロック土留工歩掛　～　５－11　エキスパンドメタル擁壁工

５－12　コンクリート板土留工　～　５－14　(参考歩掛)簡易鋼製擁壁工

５－16　かご枠工　～　５－17　大型ふとんかご工

## ［2］ 適用基準

な し

## ［3］ 独自基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第1編　共通工　第5　共通工(2)(土留工･擁壁工等)

５－４　巨石積(張)工

「建設工事積算基準第Ⅲ編河川第２章河川維持工⑨多自然護岸工⑨－１巨石積（張）工」による。

５－５　基礎･裏込工

５－５－１　基礎･裏込砕石工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第２章共通工②基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工」による。

## ５－５－２ 基礎･裏込栗石工（機械施工）

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第２章共通工②基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工」による。

## ５－７ 鋼製枠工

以下を追記する。

（３）施工歩掛　２）詰石

備考　２　詰石種別は割栗石、割詰石を標準とし、詰石量は下記による。

表　鋼製枠工詰石量（㎥）　（1 ㎥当り）

| 鋼製枠種別 | H 型タイプ | L 型タイプ | 片法型 | 鋼製土留枠 H＝1.5m | 鋼製土留枠 H＝2.0m |
|---|---|---|---|---|---|
| 詰石量 | 1.00 | 0.95 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |

## ５－８ 鋼製落石防止柵･壁組立て歩掛

以下を追記する。

１．適用範囲

本資料は、鋼製落石防止柵・壁工（ラムダ型、山腹ラムダ型）の組立てに適用する。

２．単価表

鋼製落石防止柵・壁工１ｔ当り単価表

| 名　　称 | 規　　格 | 単　位 | 数　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 落石防止柵 | | t | 1 | |
| 世　　話　　役 | | 人 | | 3.鋼製落石防止柵・壁組立て歩掛 |
| 普　通　作　業　員 | | 〃 | | 〃 |
| ラフテレーンクレーン賃料 | 油圧伸縮ジブ型 16ｔ吊 | 日 | 0.1 | |
| 諸　　雑　　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

３．鋼製落石防止柵・壁組立て歩掛

| 作業区分 | 人力施工 | 機械施工 | 単　位 |
|---|---|---|---|
| 世　　話　　役 | 0.4 | 0.3 | 人 |
| 普　通　作　業　員 | 3.6 | 2.2 | 人 |

## ５－９ 落石防護柵工

### ５－９－１ 落石防護柵（ストーンガード）設置工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価③防護柵設置工③－４防護柵設置工（落石防護柵）」が採用できない場合に適用する。

### ５－９－２ 落石防止網（ロックネット）設置工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価③防護柵設置工③－５防護柵設置工（落石防止網）」が採用できない場合に適用する。

## ５－９－４ 固定工(ロープ伏工)

以下を追記する。

（３）施工歩掛　５）アンカー、ロープ、クリップ等の使用量

ロープの使用量は次式によるものとする。

使用量＝設置量×（１＋Ｋ）　　Ｋ：ロス率　（０．０５：斜面起伏による割増及び切断ロス）

## ５－９－５ 高エネルギー吸収柵工

以下を読み替える。

（３）施工歩掛　１）アンカー工　ア　削孔工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第２章共通工⑬アンカー工（ロータリーパーカッション式)」による。この場合の使用機械はスキッドタイプとし、ドリルパイプ外径は９０㎜、削孔方式は、二重管削孔でエアー削孔を標準とする。

（３）施工歩掛　１）アンカー工　イ　アンカー鋼材組立・加工・挿入工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第２章共通工⑬アンカー工（ロータリーパーカッション式)」による。この場合の腐食防護の方法は簡易防食を標準とする。

（３）施工歩掛　１）アンカー工　ウ　グラウト注入打設工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第２章共通工⑬アンカー工（ロータリーパーカッション式)」による。

（３）施工歩掛　１）アンカー工　エ　ボーリングマシン移設工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第２章共通工⑬アンカー工（ロータリーパーカッション式)」による。

## ５－15 かご工(B)

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第２章共通工⑳かご工」による。

## ５－18 (参考歩掛)石積(張)工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第２章共通工④石積（張）工④－１石積（張）工」による。

## ５－19 (参考歩掛)目地･止水板設置工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第２章共通工⑱目地・止水板設置工」による

# 第７章　基礎工

## ［1］ 適用基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第1編　共通工　第6　基礎工

6－1　杭打工

6－1－2　人力杭打歩掛　～　6－1－4　モンケン杭打

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第1編共通工　第6　基礎工

6－1　杭打工

### 6－1－5　鋼管･既製コンクリート杭打工（パイルハンマ工）

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第３章基礎工①鋼管・既製コンクリート杭打工①-１パイルハンマ工」による。

### 6－1－6　鋼管･既製コンクリート杭打工（中堀工）

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第３章基礎工①鋼管・既製コンクリート杭打工①-２中堀工」による。

### 6－1－7　（参考歩掛）木杭打工（大型ブレーカ）

「建設工事積算基準第Ⅲ編河川第２章河川維持工⑨多自然護岸工⑨－２木杭打工」による。

### 6－2　鋼管ソイルセメント杭工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第３章基礎工①鋼管・既製コンクリート杭打工①-３鋼管ソイルセメント杭工」による。

### 6－3　回転杭工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第３章基礎工①鋼管・既製コンクリート杭打工①-４回転杭工」による。

# 第８章　木材利用工

## ［1］ 適用基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第1編　共通工　第7　木材利用工

7－1　土留工･擁壁工　～　7－14木材チップ化

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第1編　共通工　第7　木材利用工

7－1　土留工･擁壁工

### 7－1－1　丸太積土留工(A)

以下を追記する。

適用範囲

・山腹斜面等に丸太積土留を施工し、法面の安定を図る工法に適用する。

以下を読み替える。

材料の形状寸法

・杭木、横木、控木の末口径は１１㎝程度とする。

### 7－1－2　丸太積土留工(B)

以下を追記する。

適用範囲

・山腹斜面等に丸太積土留を施工し、法面の安定を図る工法に適用する。

以下を読み替える。

材料の形状寸法

・杭木、横木、控木の末口径は１１㎝程度とする。

## 7－1－3 木製ブロック積工

以下を追記する。

適用範囲

・山腹斜面に木製のブロックを積み、斜面の安定を図る工法に適用する。

以下を読み替える。

木製ブロック積工歩掛表

備考　1

表１　木製ブロック（0.75×0.3m）材料表　（１０㎡当り）

| 段　　数 | 2段 | 3段 | 4段 | 5段 | 6段 |
|---|---|---|---|---|---|
| 木製ブロック個数（個） | 33 | 36 | 38 | 39 | 40 |

(注) １．上記木製ブロック使用個数は、天端・基礎丸太を考慮し、算出したものである。
２．天端丸太、基礎丸太材料は加工径１０㎝とし必要量を計上する。

以下を追記する。

備考　5　施工単位を島根県では１０㎡当たりとし、下表のとおりとする。

表２　木製ブロック積施工歩掛　（１０㎡当り）

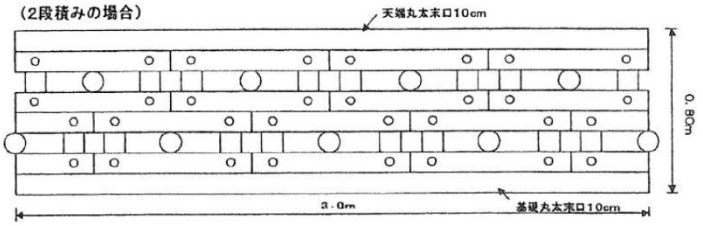
| 名　　称 | 形　状　寸　法 | 単位 | 数　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 世　話　役 | | 人 | 0.4 | |
| 普 通 作 業 員 | | 〃 | 3.0 | |
| 諸　雑　費　率 | | % | 2 | |

参考　施工標準図

以下を追記する。

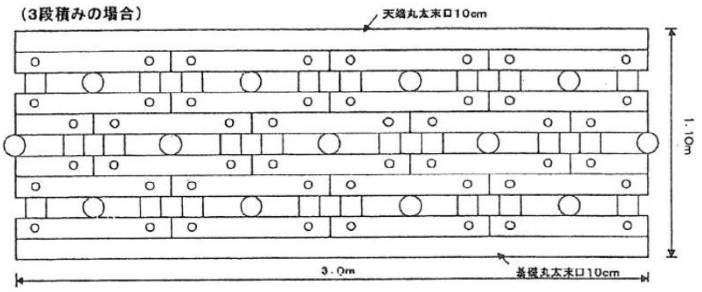
**木製ブロック数量算出表(参考)**

(2段積みの場合)



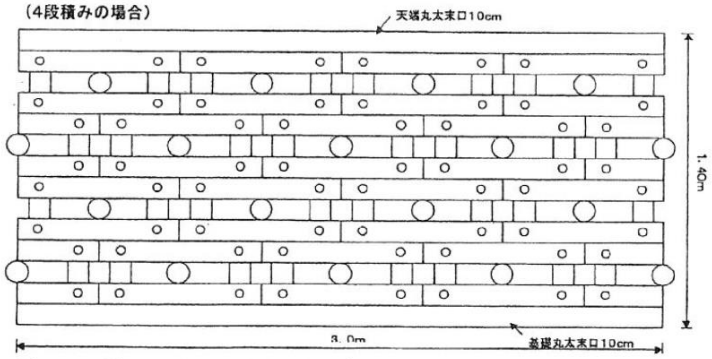

面　　積　：　0.8m × 3.0m = 2.4 ㎡
木製ブロック数　：　8.0 個
㎡当り個数　：　8.0個／2.4㎡　= 3.3個／㎡
(天端＋基礎)丸太延長　：　10㎡/0.8m = 12.5m

(3段積みの場合)




面　　積　：　1.1m × 3.0m = 3.3 ㎡
木製ブロック数　：　12.0 個
㎡当り個数　：　12.0個／3.3㎡　= 3.6個／㎡
(天端＋基礎)丸太延長　：　10㎡/1.1m = 9.1m

（4段積みの場合）



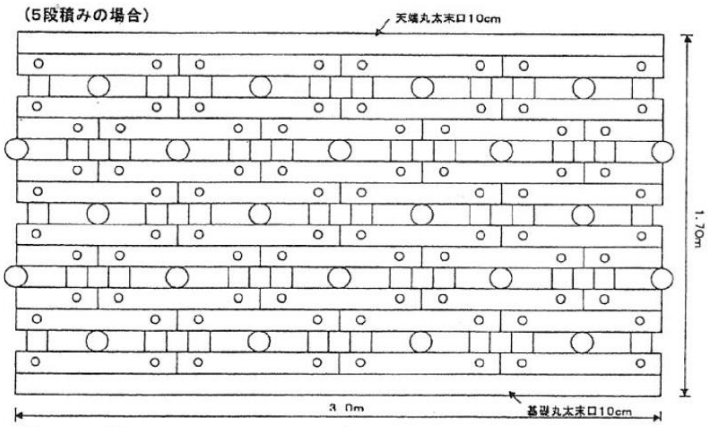

面　　積　：　1.4m　×　3.0m　＝　4.2 ㎡

木製ブロック数　：　16.0　個

㎡当り個数　　：　16.0個／4.2 ㎡　＝　3.8個／㎡

（天端＋基礎）丸太延長　：　10㎡/1.4m = 7.1m

（5段積みの場合）



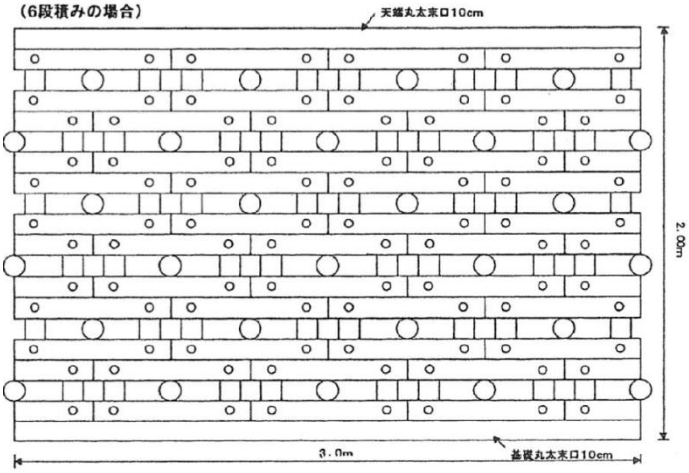

面　　積　：　1.7m　×　3.0m　＝　5.1 ㎡

木製ブロック数　：　20.0　個

㎡当り個数　　：　20.0個／5.1㎡　＝　3.9個／㎡

（天端＋基礎）丸太延長　：　10㎡/1.7m = 5.9m

（6段積みの場合）




面　　積　：　2.0m　×　3.0m　＝　6.0 ㎡

木製ブロック数　：　24.0　個

㎡当り個数　　：　24.0個／6.0 ㎡　＝　4.0個／㎡

（天端＋基礎）丸太延長　：　10㎡/2.0m = 5.0m

# 7－3 柵工

## 7－3－9 木柵工

以下を読替える。

適用範囲

・山腹斜面に木柵を施工し、斜面の安定を図る工法に適用する。

・なお別途階段切付（０．３m幅）を計上する。

材料の形状寸法

・杭木の末口径は１１㎝程度とする。

・背丸太の末口径は９㎝程度とする。

・これにより柵工（木柵）の材料は下表のとおりとする。

表１　柵工（木柵）材料表　（10m当り）

| 名　称 | 形 状 寸 法 | 単位 | 数 量 | 摘 要 |
|---|---|---|---|---|
| 杭　木 | 末口径 11 ㎝程度　L＝1.5m | 本 | 13.0 | |
| 背 丸 太 | 末口径 9 ㎝程度　L＝3.0m | 〃 | 15.0 | |
| 鉄　線 | ＃12～＃18 | kg | 3.0 | |

３）植栽帯工施工

木柵に植栽帯を施工する場合は下表のとおりとする。

表２　植栽帯工施工歩掛　（10m当り）

| 名　称 | 形 状 寸 法 | 単位 | 数 量 | 摘 要 |
|---|---|---|---|---|
| 普通作業員 | | 人 | 0.03 | |
| 諸雑費率 | | % | 5 | |

（注）１．諸雑費は、労務費の合計額に上表の率を乗じて得た金額を上限として計上する。

表３　植栽帯工材料　（10m当り）

| 名　称 | 形 状 寸 法 | 単位 | 数 量 | 摘 要 |
|---|---|---|---|---|
| 植 栽 帯 | 0.1×0.5m（中高木配合） | 枚 | 10.0 | |
| 止 め 釘 | φ5、L＝150 ㎜ | 本 | 30 | |

（注）１．諸雑費は、労務費の合計額に上表の率を乗じて得た金額を上限として計上する。

柵工（木柵）10m当り単価表

| 名　称 | 規格 | 単　位 | 数　量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 普通作業員 | | 人 | 0.40 | 組立、緊結、仕上げ |
| 〃 | | 〃 | 0.78 | 杭打ち |
| 杭　木 | 末口径 11 ㎝程度　L＝1.5m | 本 | 13 | 表１ |
| 背 丸 太 | 末口径 9 ㎝程度　L＝3.0m | 〃 | 15 | 〃 |
| 鉄　線 | ＃12～＃18 | kg | 3.0 | 〃 |
| 階段切付 | | m | 10 | |
| 普通作業員 | | 人 | 0.03 | 表２植栽帯施工の場合計上 |
| 植 栽 帯 | 0.1×0.5m（中高木配合） | 枚 | 10.0 | 表３植栽帯施工の場合計上 |
| 止 め 釘 | φ5、L＝150 ㎜ | 本 | 30 | 〃 |
| 諸雑費率 | | 式 | 1 | 表２植栽帯施工の場合、労務費の５％を計上 |
| 計 | | | | |

## ７－４ 筋工

### ７－４－１ 丸太筋工

以下を追記する。

適用範囲

・山腹斜面に木柵を施工し、斜面の安定を図る工法に適用する。

・備考５　必要に応じ階段切付は施工するものとする。この場合階段切付は０．３ｍ幅とし別途計上する。

以下を読み替える。

材料の形状寸法

・横木、止め杭の末口径は１１㎝程度とする。

## ７－６ 静砂工･堆砂工

### ７－６－１ 静砂垣･堆砂垣工

以下を読み替える。

材料の形状寸法の読み替え

・杭木の末口径は１１㎝程度とする。

・押竹の長さは４．５ｍとする。

## ７－７ 路面･路盤工

### ７－７－１ 木製路面排水工

以下を追記する。

適用範囲

・間伐材を利用した簡易横断工の施工に適用する。

・木製路面排水工の材料は下表のとおりとする。

表２木製路面排水工材料　　（10ｍ当り）

| 名　　称 | 単位 | 数　量 |
|---|---|---|
| 200 型 | 組 | 5.0 |
| 300 型 | 〃 | 3.3 |
| 400 型 | 〃 | 2.5 |

## ７－15 その他の木製構造物

その他の木製構造物については「平成３０年版　森林土木木製構造物施工マニュアル」（一社）日本治山治水協会・日本林道協会発刊を参考とする。

## ７－１６ 木材使用量工種別一覧（仮設工事含む）

本資料は各工種別の概算木材使用量を掲載している。各工種は代表的な条件で計算されているため現場で使用する材料の違いなどにより実際の使用量と差が出る可能性があるので留意すること。

単位：㎥

| 工種 | | 柵高 | 施工量当たり | 原木換算数量 | 施工単価コード | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 法留柵工 | | H＝1.0m | ㎥／m | 0.056 | ＳＳＭＮ 8450 | |
| 土工用仮設防護柵工 | | H＝1.5m | ㎥／m | 0.084 | ＳＳＭＮ 8466 | |
| 土工用防護柵Ａ型 | | H＝10.0m | ㎥／m | 0.045 | ＳＳＭＮ 8451 | |
| 土工用防護柵Ｂ型 | | H＝10.0m | ㎥／m | 0.008 | ＳＳＭＮ 8456 | |
| 仮設防護柵（急傾斜） | 1型 | H＝1.5m | ㎥／m | 0.147 | ＳＳＭＮ 2060 | |
| | 2型 | H＝3.0m | ㎥／m | 0.245 | 〃 | |
| | 3型 | H＝3.0m | ㎥／m | 0.158 | 〃 | |
| | 4型 | H＝4.0m | ㎥／m | 木材無し | 〃 | |
| | 5型 | H＝4.0m | ㎥／m | 0.312 | 〃 | |
| | 6型 | H＝4.0m | ㎥／m | 0.180 | 〃 | |
| | 7型 | H＝4.0m | ㎥／m | 0.216 | 〃 | |
| | 8型 | H＝4.0m | ㎥／m | 木材無し | 〃 | |
| | 9型 | H＝5.0m | ㎥／m | 0.396 | 〃 | |
| | 10型 | H＝5.0m | ㎥／m | 0.251 | 〃 | |
| | 11型 | H＝5.0m | ㎥／m | 0.270 | 〃 | |
| | 12型 | H＝5.0m | ㎥／m | 木材無し | 〃 | |
| ネット柵工 | | H＝0.5m | ㎥／m | 0.007 | ＳＶ065 | |
| | | H＝0.8m | ㎥／m | 0.040 | 〃 | |
| | | H＝1.0m | ㎥／m | 0.051 | 〃 | |
| 竹柵工 | | H＝0.5m | ㎥／m | 0.011 | 〃 | |
| | | H＝1.0m | ㎥／m | 0.067 | 〃 | |
| 板柵工 | | H＝0.8m | ㎥／m | 0.037 | ― | |
| | | H＝1.0m | ㎥／m | 0.048 | ― | |
| | | H＝1.2m | ㎥／m | 0.083 | ― | |
| 止杭一本胴木 | 2型 | | ㎥／m | 0.031 | ＳＶ405 | |
| | 3型 | | ㎥／m | 0.039 | 〃 | |
| | 4型 | | ㎥／m | 0.047 | 〃 | |
| 丸太筋工（2本筋工） | | H＝0.3m | ㎥／m | 0.035 | ＳＸ221 | |
| 丸太筋工（3本筋工） | | H＝0.4m | ㎥／m | 0.047 | 〃 | |
| 柵工（木柵） | | H＝0.45m | ㎥／m | 0.052 | ＳＸ223 | |
| 木製ブロック積（控長0.75mの場合） | 2段積 | | ㎥／㎡ | 0.194 | ＳＸ227 | |
| | 3段積 | | ㎥／㎡ | 0.198 | 〃 | |
| | 4段積 | | ㎥／㎡ | 0.202 | 〃 | |
| | 5段積 | | ㎥／㎡ | 0.203 | 〃 | |
| | 6段積 | | ㎥／㎡ | 0.205 | 〃 | |
| 丸太積土留工（Ａ） | | | ㎥／㎡ | 0.166 | ＳＸ228 | |
| 丸太積土留工（Ｂ） | | | ㎥／㎡ | 0.218 | ＳＸ229 | |
| 木柵工 | | H＝0.45m | ㎥／m | 0.046 | ＳＸ029 | |
| 間伐パネル | | H＝1.5m | ㎥／m | 0.225 | ＳＸ031 | |
| 木製路面排水工 | | | ㎥／m | 0.018 | ＳＸ101 | |
| 静砂垣・堆砂垣工 | | H＝1.0m | ㎥／m | 0.011 | ＳＸ601 | |
| 丸太防風柵工（末口7.5㎝の場合） | | H＝2.0m | ㎥／m | 0.197 | ＳＸ604 | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 丸太残存型枠（末口 11 ㎝の場合） | | | ㎥／㎡ | 0.110 | ＳＸ050 | |
| 残存型枠（パネル式） | | | ㎥／㎡ | 0.082 | ＳＸ051 | |
| 丸太階段工 | 横木長 0.9m | | ㎥／基 | 0.053 | ＳＸ235 | |
| （杭木末口 9 ㎝、横木末口 12 ㎝ | 横木長 1.2m | | ㎥／基 | 0.066 | 〃 | |
| の場合） | 横木長 1.5m | | ㎥／基 | 0.079 | 〃 | |
| Ｌ型木製土留工 | 1－2 タイプ | Ｈ＝1.0m | ㎥／m | 0.227 | ― | |
| | 1.5－2 タイプ | Ｈ＝1.5m | ㎥／m | 0.393 | ― | |
| | 2－2 タイプ | Ｈ＝2.0m | ㎥／m | 0.624 | ― | |
| 木製井桁積工 | | | ㎥／㎡ | 0.216 | ― | |
| 丸太法枠工（Ａ）（末口 7 ㎝の場合） | | | ㎥／㎡ | 0.012 | ― | |
| 丸太法枠工（Ｂ）（末口 7 ㎝の場合） | | | ㎥／㎡ | 0.015 | ― | |
| 木柵工（Ａ） | | Ｈ＝1.0m | ㎥／m | 0.132 | ― | |
| 木柵工（Ｂ） | | Ｈ＝1.0m | ㎥／m | 0.092 | ― | |
| 木柵工（Ｃ） | | Ｈ＝1.0m | ㎥／m | 0.126 | ― | |
| 木柵工（Ｄ） | | Ｈ＝1.0m | ㎥／m | 0.086 | ― | |
| 木柵工（Ｅ） | | Ｈ＝0.5m | ㎥／m | 0.070 | ― | |
| 帯梢編柵工 | | Ｈ＝0.6m | ㎥／m | 0.018 | ― | |
| ネット柵工（金網柵工） | | Ｈ＝0.6m | ㎥／m | 0.022 | ― | |
| 編柵工 | | Ｈ＝0.5m | ㎥／m | 0.016 | ― | |
| パネル柵工 | 0.5 タイプ | Ｈ＝0.5m | ㎥／枚 | 0.110 | ― | |
| | 0.8 タイプ | Ｈ＝0.8m | ㎥／枚 | 0.157 | ― | |
| 木製筋工（Ａ） | | | ㎥／m | 0.034 | ― | |
| 木製筋工（Ｂ） | | | ㎥／m | 0.050 | ― | |
| 木製溝渠呑口保護工 | | | ㎥／箇所 | 0.400 | ― | |
| 木製溝渠吐口保護工 | | | ㎥／箇所 | 0.420 | ― | |
| 木製工事用看板枠工 | | | ㎥／基 | 0.093 | ― | |
| ヒノキ合板型枠 | | | ㎥／㎡ | 0.019 | SX052 | 県産材 |

参考〉

| 植生基材吹付工 | 吹付厚 | 施行面積当たり | チップ量 | 原木換算 |
|---|---|---|---|---|
| チップ吹付工　　：生チップ | 3 ㎝ | ㎥／100 ㎡ | 5.85 | 2.05 |
| （植物誘導吹付工） | 4 ㎝ | ㎥／100 ㎡ | 7.80 | 2.73 |
| （ＳＥＧサンソイル工法）等 | 5 ㎝ | ㎥／100 ㎡ | 9.75 | 3.41 |
| | 6 ㎝ | ㎥／100 ㎡ | 11.70 | 4.10 |
| | 7 ㎝ | ㎥／100 ㎡ | 13.65 | 4.78 |
| | 8 ㎝ | ㎥／100 ㎡ | 15.60 | 5.46 |
| | 9 ㎝ | ㎥／100 ㎡ | 17.55 | 6.14 |
| | 10 ㎝ | ㎥／100 ㎡ | 19.50 | 6.83 |
| ※注 1）根株、枝条が主な材料　→　算出方法＝厚さ×100 ㎡×1.5（圧密率）×1.5（ロス率） | | | | |
| 厚層基材吹付工　　：基盤材 | 3 ㎝ | ㎥／100 ㎡ | 9.01 | 3.15 |
| （ＳＥＧ工法：チップ堆肥化植生工法）等 | 5 ㎝ | ㎥／100 ㎡ | 15.02 | 5.26 |
| | 7 ㎝ | ㎥／100 ㎡ | 21.02 | 7.36 |
| | | | | |
| ※注 2）根株、枝条が主な材料　→　算出方法＝厚さ×100 ㎡×2.0（圧密率）×1.3（ロス率）×1.1（養生時減<br>少分）×1.05（堆肥作成時減少分） | | | | |

◆チップの利用量換算表

1 ㎥のチップ　→　約 0.35 ㎥の木材

1 ㎥の木材　→　約 2.8 ㎥のチップ

# 第９章　仮設工

## ［1］ 適用基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第1編　共通工　第8　仮設工

８－２　土のう締切工　～　８－３　土俵･石俵拵え及び積立

８－４　水替工　８－４－２　水替工（小口径）

８－６　キャットウォーク

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第1編　共通工　第8　仮設工

### ８－１　仮設工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第５章仮設工①仮設工」による。

### ８－４　水替工

#### ８－４－１　水替工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第５章仮設工⑧締切排水工」による。

### ８－５　足場工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第５章仮設工⑦足場支保工⑦－１足場工」による。

### ８－７　支保工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第５章仮設工⑦足場支保工⑦－２支保工」による。

## ８－８　仮囲い設置・撤去工

### ８－８－１　仮囲い設置・撤去工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第５章仮設工⑬仮囲い設置撤去工⑬－1 仮囲い設置撤去工」による。

### ８－８－２　雪寒仮囲い設置

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第５章仮設工⑬仮囲い設置撤去工⑬－２雪寒仮囲い工」による。

## ８－９　大型土のう工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第５章仮設工⑩土のう工⑩－２大型土のう工」による。

## ８－10　敷鉄板敷設・撤去工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第５章仮設工⑯敷鉄板設置・撤去工」による。

## ８－11　鋼矢板（H形鋼）工（バイブロハンマ工・油圧圧入引抜工）

### ８－11－１　バイブロハンマ工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第５章仮設工②鋼矢板（H形鋼）工②－１バイブロハンマ工」による。

### ８－11－２　バイブロハンマ工（軽量鋼矢板打込引抜工）

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第５章仮設工②鋼矢板（H形鋼）工②－２バイブロハンマ工（軽量鋼矢板打込引抜工）」による。

### ８－11－３　油圧圧入引抜工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第５章仮設工②鋼矢板（H形鋼）工②－３油圧圧入引抜工」による。

### ８－11－４　ディーゼルハンマによる打込み

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第５章仮設工②鋼矢板（H形鋼）工②－４ディーゼルハンマ・プレボーリング」による。

## ８－12　鋼矢板工（アースオーガ併用圧入工）

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第５章仮設工③矢板工（アースオーガ併用圧入工）」による。

## ８－13　鋼矢板（H形鋼）工（クレーン引抜工）

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第５章仮設工④鋼矢板（H形鋼）工（クレーン引抜工）」による。

## ８－14　仮設材設置撤去工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第５章仮設工⑥仮設材設置撤去工」による。

## ８－15　仮橋･仮桟橋工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第５章仮設工⑪仮橋・仮桟橋工」による。

## ８－16　切土及び発破防護柵工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第５章仮設工⑭仮設防護柵工」による。

## ８－17　掘削（発破）防護柵工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第５章仮設工⑭仮設防護柵工」による。

## ８－18　法面工（仮設用モルタル吹付工）

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第５章仮設工⑳法面工（仮設用モルタル吹付工）」による。

# 第 10 章　市場単価

## ［1］ 適用基準

な し

（治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛　第3編　共通工

第9　市場単価は適用しない。）

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第1編　共通工　第9　市場単価

### 9－1　鉄筋工（太径鉄筋含む。）

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価①鉄筋工①－１鉄筋工（太径鉄筋含む）」による。

### 9－2　鉄筋工（ガス圧接）

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価①鉄筋工①－２鉄筋工（ガス圧接工）」による。

### 9－3　防護柵設置工（ガードレール）

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価③防護柵設置工③－１防護柵設置工（ガードレール）」による。

### 9－4　防護柵設置工（横断･転落防止柵）

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価③防護柵設置工③－３防護柵設置工（横断・転落防止柵）」による。

### 9－5　防護柵設置工（落石防止柵）

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価③防護柵設置工③－４防護柵設置工（落石防護柵）」による。

## ９－６ 防護柵設置工（落石防止網）

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価③防護柵設置工③－５防護柵設置工（落石防止網）」による。

## ９－７ 防護柵設置工（ガードパイプ）

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価③防護柵設置工③－２防護柵設置工（ガードパイプ）」による。

## ９－８ 道路標識設置工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価⑧道路標識設置工」による。

## ９－９ 道路付属物設置工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価⑨道路付属物設置工」による。

## ９－10 法面工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価④法面工④－１法面工」による。

## ９－11 吹付枠工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価④法面工④－２吹付枠工」による。

## ９－12 軟弱地盤処理工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価⑪軟弱地盤処理工」による。

## ９－13 鉄筋挿入工（ロックボルト工）

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価⑭鉄筋挿入工（ロックボルト工）」による。

# 第 11 章　土木工事標準単価

## ［1］ 適用基準

な し

（治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛　第3編　共通工

第10　土木工事標準単価は適用しない。）

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第1編　共通工　第10　土木工事標準単価

### 10－1　区画線工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第１章土木工事標準単価①区画線工」による。

### 10－2　排水構造物工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第１章土木工事標準単価⑥排水構造物工」による。

### 10－3　コンクリートブロック積工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第１章土木工事標準単価⑤コンクリートブロック積工」による。

### 10－4　構造物とりこわし工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第１章土木工事標準単価④構造物とりこわし工」による。

# 第 12 章　山地治山土工

## ［1］ 適用基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第2編　治山　第1　山地治山土工

１－２　岩石工

１－２－２　山地治山岩石工（1）岩石掘削（機械）歩掛

１－２－２　山地治山岩石工（2）単価表　①岩石掘削（機械）10m$^3$当たり単価表

１－２－２　山地治山岩石工（3）機械運転単価表

１－３　掘削面整形

１－４　岩盤清掃歩掛

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第2編　治山　第1　山地治山土工

１－１　機械土工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第１章土工①土量変化率等及び②土工、③作業土工③－１床掘工」による。

１－２　岩石工

１－２－１　掘削工法の選定

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第１章土工①土量変化率等及び②土工、③作業土工③－１床掘工」による。

## １－２－２ 山地治山土工（1）岩石掘削（機械）歩掛

以下を追記する。

適用基準

・岩盤部において大型ブレーカにより掘削する工法に適用する。

## １－２－２　（参考）１　山地治山岩石工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第１章土工①土量変化率等及び②土工、③作業土工③－１床掘工」による。

# 第 13 章　治山ダム工

## ［1］ 適用基準

治山林道必携　積算・施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第2編　治山　第2　治山ダム工

２－１　コンクリート工

２－１－１　適用範囲　～　２－１－３　投入打設工法の選定

２－１－６　クレーン車類投入打設歩掛

２－１－８　型枠工

２－２　打継面処理（チッピング）歩掛

２－３　打継面清掃歩掛

２－５　土工機械解体・組立

２－６　鋼製ダム工歩掛

２－８　（参考歩掛）現場混合コンクリート

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

治山林道必携　積算・施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第2編　治山　第2　治山ダム工

２－１　コンクリート工

２－１－１　適用範囲

以下を読み替える。

適用範囲

１）治山ダム工（本ダム、副ダム、垂直壁、水叩、側壁、間詰）の施工に適用する。

２）標準強度

構造物の種別による標準強度は下表のとおりとする。

表１　コンクリート標準強度

| 構造物の種類 | 呼び強度<br>(N／㎟) | 粗骨材最大寸法<br>(㎜) | スランプ<br>(㎝) |
|---|---|---|---|
| 治山ダム（水密性必要なし） | 18 | 40 | 8 |
| 治山ダム（水密性必要あり） | 18 | 40 | 5 |
| 単純な鉄筋を有する半重力式治山ダム等 | 18 | 40 | 8 |

## ２－１－３　投入打設工法の選定

選定表を以下の表に読み替える。

表１　コンクリート打設工法の選定

| 打　設　条　件 | 打設工法 |
|---|---|
| 人力打設の条件以外とポンプ車打設が適している場合 | コンクリートポンプ車打設 |
| 日打設量が 50 ㎥以下等で、クレーン車による打設が適している場合 | クレーン車打設 |
| 日打設量が 30 ㎥以下等で、トラックミキサ車等からホッパ・シュート類による直打ち又は人力運搬車・ケーブルクレーン等による運搬手段を用いて、コンクリートを打設することが適している場合<br>直打ちの範囲は、打設地上高が 2m以下で、水平打設距離が 10m以下の場合とする | 人力打設 |

（注）1. この表により難い場合は現地条件に適した工法を選定することができる。

## ２－１－４　人力投入打設歩掛

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第４章コンクリート工①コンクリート工」による。

## ２－１－５　コンクリートポンプ車打設歩掛

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第４章コンクリート工①コンクリート工」による。

## ２－１－７　コンクリート養生

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第４章コンクリート工①コンクリート工」による。

## ２－１－８　型枠工

（１）治山ダム型枠工

以下を読み替える

１）適用範囲

「建設工事積算基準第１４編森林整備第４章コンクリート工３－６ヒノキ合板型枠」を適用する。

なおヒノキ合板型枠によりがたい場合は、当歩掛を適用する。

## ２－４　止水板設置（塩化ビニール樹脂止水板）歩掛

「建設工事積算基準第Ⅲ編河川第３章砂防工②コンクリート工②－１コンクリート工」による。

## ２－７ （参考歩掛）挿し筋による水平打継面処理工

以下を読み替える。

（３）施工歩掛　１）鉄筋加工

鉄筋加工については「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価①鉄筋工」による。

## ２－９ 残存型枠工（プレキャスト）

「建設工事積算基準第Ⅲ編河川第３章砂防工②コンクリート工②－４残存型枠工」による。

## ２－10 ソイルセメント工

「建設工事積算基準第Ⅲ編河川第３章砂防工⑩砂防ソイルセメント工」による。

# 第 14 章　山腹工

## ［1］ 適用基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第2編　治山　第3　山腹工

3－3　積苗工　～　3－13　材料採取

3－15　山腹水路工（練石、植生、張芝）

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第2編　治山　第3　山腹工

### 3－1　のり切工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第１章土工①土量変化率等及び②土工」による。

### 3－2　かご工（A）

「建設工事積算基準第Ⅲ編河川第４章地すべり防止工①地すべり防止工①－５地すべり防止工（ふとんかご）及び①－６地すべり防止工（じゃかご）」による。

### 3－14　山腹水路工

「建設工事積算基準第Ⅲ編河川第４章地すべり防止工①地すべり防止工①－４地すべり防止工（山腹水路工）」による。

### 3－16　（参考歩掛）コンクリートブロック積工（治山）

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第１章土木工事標準単価⑤コンクリートブロック積工」が適用できない場合に適用する。

# 第 15 章　地すべり防止工

## ［1］ 適用基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第2編　治山　第4　地すべり防止工

４－２　中口径ボーリング

４－５　アンカー工

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第2編　治山　第4　地すべり防止工

### ４－１　小口径ボーリング

「建設工事積算基準第Ⅲ編第４章地すべり防止工①地すべり防止工①－３地すべり防止工（集排水ボーリング工)」が適用できない場合に適用する。

### ４－３　大口径ボーリング

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第３章基礎工②場所打杭工②－４大口径ボーリングマシン工」による。

### ４－４　集水井工

#### ４－４－１　集水井工（ライナープレート土留工法）

「建設工事積算基準第Ⅲ編河川第４章地すべり防止工①地すべり防止工①－１集水井工（ライナープレート土留工法)」による。

#### ４－４－２　集水井工（プレキャスト土留工法）

「建設工事積算基準第Ⅲ編河川第４章地すべり防止工①地すべり防止工①－２集水井工（プレキャスト土留工法)」による。

## ４－５ アンカー工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第２章共通工⑬アンカー工（ロータリーパーカッション式）」が使用できない場合に適用する。

## ４－６ 集排水ボーリング孔洗浄工

「建設工事積算基準第Ⅲ編河川第４章地すべり防止工①地すべり防止工①－７集排水ボーリング孔洗浄工」による。

## ４－７ （参考歩掛）ダウンザホールハンマ工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第３章基礎工②場所打杭工②－５ダウンザホールハンマ工」による。

# 第 16 章　森林整備

## ［1］ 適用基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第2編　治山　第5　森林整備

５－1森林整備

５－1－1　植栽(A) ～ ５－1－4　地拵え等(2)立木整理工歩掛

５－1－5　客土歩掛 ～ ５－1－9　下刈歩掛(全刈り(1回刈り及び2回刈))

５－1－11 (参考歩掛)本数調整伐

５－1－12 (参考歩掛)獣害対策

５－4 (参考歩掛)なだれ予防柵設置工

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第2編　治山　第5　森林整備

５－1　森林整備

５－1－1　植栽(A)

以下を読み替える。

（2）植穴掘付歩掛及び（3）植付歩掛

山林砂防工を普通作業員とする。

５－1－3　植栽(C)

以下を追記する。

（2）施工歩掛

備考　6　幹巻、小運搬、客土、施肥の職種は普通作業員である。

## ５－１－４ 地拵え等

以下を追記する。

（１）人力地拵え歩掛

備考　４　人力地拵え歩掛表は１００㎡当たりを１ha 当たりに換算する。

## ５－１－５ 客土歩掛

以下を追記する。

備考　１　植栽における客土作業に適用する。

備考　２　山林砂防工を普通作業員とする。

## ５－１－６ 仮植歩掛

以下を追記する。

備考　１　植栽における苗木仮植作業に適用する。

備考　２　仮植歩掛表は１０００本当たりを１００本当たりに換算する。

## ５－１－７ 施肥歩掛

以下を追記する。

備考　３　植栽における施肥作業に適用する。

備考　４　施肥歩掛表は１０００本当たりを１００本当たりに換算する。

## ５－１－８ 苗木運搬歩掛

以下を読み替える。

備考　５　山林砂防工を普通作業員とする。

## ５－２ 支柱工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価⑩公園植栽工」による。

## ５－３ 管理歩道作設工

「建設工事積算基準第Ⅱ編共通工第１章土工」による。

## ５－４ （参考歩掛）なだれ予防柵設置工

以下を読み替える。

山林砂防工は普通作業員とする。

## ５－５ 苗木植栽工

１．適用範囲

本歩掛は治山事業における植栽工の施工に適用する。下記の施工歩掛を組み合わせている。

５－１－１植栽（A）、５－１－２植栽（B）、５－１－６仮植歩掛、５－１－７施肥歩掛、苗木、肥料

**２．苗木植栽工 100 本当り単価表**

| 名　　称 | 規　　格 | 単　位 | 数　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 植栽樹種 | | 本 | １００ | |
| 植栽（A）：植穴掘付 | | 100 本 | 1 | ５－１－１ |
| 植栽（A）：植付 | | 100 本 | 1 | ５－１－１ |
| 植栽（B）植穴掘付：掘付 | | 100 本 | 1 | ５－１－２ |
| 苗木仮植 | | 100 本 | 1 | ５－１－６ |
| 施肥 | | 100 本 | 1 | ５－１－７ |
| 肥料 | | kg | 5 | |
| 諸　　雑　　費 | | 式 | 1 | |

## ５－６ 地拵（全刈、棚積）

１．適用範囲

本資料は、森林整備における地拵（全刈、棚積）作業に適用する。

２．施工歩掛

１）地拵（全刈、棚積）（草刈機使用）歩掛　（1ha 当り）

| 区分／名称 | 単位 | 雑木多、植生密、ツル繁茂 | 雑木やや多、植生中、ツルやや繁茂 | 雑木少、植生疎、ツル少 | かん木、雑草多、ツル繁茂 | かん木、雑草やや多、ツルやや繁茂 | かん木、雑草少、ツル少 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 草刈機運転 | 日 | 15.0 | 13.0 | 11.0 | 9.0 | 7.0 | 5.0 | （肩掛式） |
| 特殊作業員 | 人 | 15.0 | 13.0 | 11.0 | 9.0 | 7.0 | 5.0 | |
| 普通作業員 | 〃 | 14.0 | 12.0 | 10.0 | 8.25 | 6.5 | 5.0 | |

（注）１．上表は草刈機使用の場合であり、手刈り作業を伴う場合は次式により歩掛を減じ、下表の労務を追加する。

草刈機使用歩掛×（1－手刈り割合）……式 1

２）　地拵（全刈、棚積）（手刈り）歩掛（1ha 当り）

| 区分／名称 | 単位 | 雑木多、植生密、ツル繁茂 | 雑木やや多、植生中、ツルやや繁茂 | 雑木少、植生疎、ツル少 | かん木、雑草多、ツル繁茂 | かん木、雑草やや多、ツルやや繁茂 | かん木、雑草少、ツル少 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 普通作業員 | 人 | 45.0 | 40.0 | 32.0 | 27.0 | 20.0 | 15.0 | |

（注）1．上記歩掛は次式により補正し計上する。

手刈り歩掛×手刈り割合……式 2

3．単価表

1） 地拵（全刈、棚積）1ha 当り単価表

| 名　　称 | 規　　格 | 単　位 | 数　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 草 刈 機 運 転 | | 日 | | 式 1 |
| 特 殊 作 業 員 | | 人 | | 〃 |
| 普 通 作 業 員 | | 〃 | | 式 1、式 2 |
| 諸　　雑　　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

2）機械運転単価表

| 機械名 | 規格 | 適用単価表 | 指定事項 |
|---|---|---|---|
| 草刈機 | 肩掛式カッター径 255 ㎜ | 機―12 | 燃料消費量→1.5 |

## 5－7 苗木植付･補植

1．適用範囲

本資料は、森林整備における苗木の植付及び補植をする作業に適用する。

2．施工歩掛

1）苗木植付・補植歩掛　（人／100 本当り）

| 植栽区分 ＼ 林況区分 | 苗木植付 | | 苗木補植 | | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| | スギ、ヒノキ、マツ | 肥料木 | スギ、ヒノキ、マツ | 肥料木 | |
| 難（石礫多く、雑草木根多、急傾斜） | 0.49 | 0.40 | 0.74 | 0.60 | |
| 中（難と易の中間） | 0.41 | 0.33 | 0.62 | 0.50 | |
| 易（石礫少く、雑草木根少、緩傾斜） | 0.33 | 0.26 | 0.50 | 0.40 | |

（注）1．作業職種は普通作業員とする。

2．本歩掛は苗木の植付する場合と苗木の補植をする場合の歩掛である。

3．苗木の仮植が必要な場合は別途計上すること。

4．苗木の小運搬が必要な場合は別途計上すること。

（参考）苗木樹種

表 1　針葉樹苗木

| 種類 | スギ（さし木 2 年生） | スギ（実生 2 年生） | ヒノキ（2 年生） | アカマツ（抵抗性）（2 年生） | クロマツ（抵抗性）（2 年生） |
|---|---|---|---|---|---|

表 2　広葉樹苗木

| 種類 | ヤシャブシ（L=30 ㎝） |
|---|---|

3．単価表

1） 苗木植付・補植 100 本当り単価表

| 名　　称 | 規　　格 | 単　位 | 数　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 普　通　作　業　員 | | 人 | | 1)苗木植付・補植歩掛 |
| 苗　　木 | | 本 | 100 | 表１、表２ |
| 諸　　雑　　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

## ５－８ 施肥

1．適用範囲

本資料は、森林整備における施肥作業に適用する。

2．施工歩掛

1）施肥歩掛（1ha 当り）

| 植栽本数区分 / 施肥量区分 | 単位 | 1,000 本植／ha | 2,000 本植／ha | 3,000 本植／ha | 4,000 本植／ha |
|---|---|---|---|---|---|
| 25ｇ／本 | 人 | 0.63 | 1.25 | 1.88 | 2.50 |
| 35ｇ／本 | 〃 | 0.88 | 1.75 | 2.63 | 3.50 |
| 50ｇ／本 | 〃 | 1.25 | 2.50 | 3.75 | 5.00 |

（注）1．作業職種は普通作業員とする。

2．肥料の小運搬が必要な場合は別途計上すること。

2）肥料（20－10－10）数量（1ha 当り）

| 植栽本数区分 / 施肥量区分 | 単位 | 1,000 本植／ha | 2,000 本植／ha | 3,000 本植／ha | 4,000 本植／ha |
|---|---|---|---|---|---|
| 25ｇ／本 | kg | 25 | 50 | 75 | 100 |
| 35ｇ／本 | 〃 | 35 | 70 | 105 | 140 |
| 50ｇ／本 | 〃 | 50 | 100 | 150 | 200 |

3．単価表

1） 施肥 1ha 当り単価表

| 名　　称 | 規　　格 | 単　位 | 数　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 普　通　作　業　員 | | 人 | | 1)施肥歩掛 |
| 肥　　料 | 20－10－10 | kg | | 2)肥料(20-10-20)数量 |
| 諸　　雑　　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

## ５－９ くず枯殺

1．適用範囲

本資料は、森林整備におけるくず枯殺作業に適用する。

2．施工歩掛

1）くず枯殺歩掛　（1ha 当り）

| 区分／名称 | 単位 | ザイトロン | ザイトロン フレノック | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 普　通　作　業　員 | 人 | 6.7 | 5.6 | |

（注）1．地形の傾斜等により上表歩掛を次式により補正する。

（基準歩掛）×　割増率（式２）・・・・・式１

割増率　＝　1.00　＋　a　＋　b・・・・・式２

a：最寄りの自動車道から施業地の中心までの距離による割増 100m増すごとに、2%増

b：施業地の傾斜による補正係数（表２）

表２　傾斜補正係数

| 区　分／名称 | 緩（20°以下） | 中緩（20°～25°） | 中（25°～30°） | 中急（30°～35°） | 急（35°以上） | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 補　正　係　数 | －0.10 | －0.05 | 0 | 0.05 | 0.10 | |

表３　薬剤材料表　（1ha 当り）

| 薬剤名称／数量 | 単位 | ザイトロン | ザイトロン フレノック | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 薬　　剤　　量 | kg | 120.0 | 90.0 | |

3．単価表

1)くず枯殺 1ha 当り単価表

| 名　　称 | 規　　格 | 単　位 | 数　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 普　通　作　業　員 | | 人 | | 式1、式2 |
| 薬　　剤 | | kg | | 表３ |
| 諸　　雑　　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

## 5－10 除伐

1．適用範囲

本資料は、植栽木の健全な成長を促進するために不用木を除去する作業に適用する。

2．施工歩掛

1）除伐歩掛

除伐歩掛（1ha 当り）　＝　標準工程（表１）　×　所要時間補正係数（表２）

×　傾斜補正係数（表３）・・・・・式－１

（注）1．作業職種は普通作業員とする。

2．対象令級の標準的目安はⅢ令級以上とする。

表１　標準工程　（人／ha 当り）

| 林分密度 ／ 最終保育後の年数 | 疎 | 中 | 密 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 8　年　以　上 | 13 | 16 | 19 | |
| 4　～　7　年 | 11 | 14 | 17 | |
| 3　年　以　内 | 10 | 12 | 14 | |

疎：歩行にそれ程障害を与えず、伐倒準備は手だけですむ程度。

中：歩行の障害が比較的大きく、伐倒準備は手だけでは困難と感ずる程度。

密：ササ、灌木等が密生し、歩行の障害が大きく、伐倒準備は腰鋸、ナタ等を必要とする状態。

表２　所要時間補正係数

| 片道所要時間 | 0～20 分 | 21～40 分 | 41～60 分 | 61 分以上 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 補正係数 | 1.00 | 1.03 | 1.07 | 1.12 | |

（注）1. 道路からの徒歩区間に要する時間である。

表３　傾斜補正係数

| 傾　斜　角 | 0～15 度 | 16～30 度 | 31 度以上 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 補　正　係　数 | 0.9 | 1.0 | 1.1 | |

３．単価表

1)除伐 1ha 当り単価表

| 名　　称 | 規　　格 | 単　位 | 数　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 普通作業員 | | 人 | | 式－1 |
| 諸　雑　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

## ５－11　つる切り

１．適用範囲

本資料は、植栽木の成長を阻害するつる類を除去する作業に適用する。

２．施工歩掛

1）つる切り歩掛

つる切り歩掛（1ha 当り）　＝　標準工程（表１）　×　所要時間補正係数（表２）

×　傾斜補正係数（表３）・・・・・式－１

（注）1. 作業職種は普通作業員とする。

2. 対象令級の標準的目安はⅡ令級以上とする。

表１　標準工程　（人／ha 当り）

| つる切り ／ 林令 | 疎 | 中 | 密 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 13　年　以　上 | 6 | 7 | 8 | |
| 9　～　12　年 | 5 | 6 | 7 | |
| 8　年　以　下 | 4 | 5 | 6 | |

疎：つるの巻きつきが造林木の 30%以下

中：　〃　31%～70%以下

密：　〃　71%以上

表２　所要時間補正係数

| 片道所要時間 | 0～20分 | 21～40分 | 41～60分 | 61分以上 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 補正係数 | 1.00 | 1.03 | 1.07 | 1.12 | |

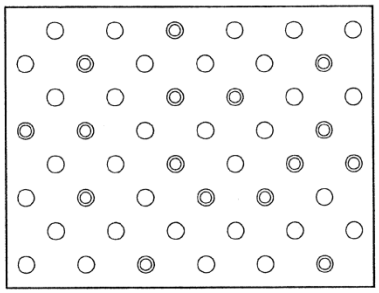
（注）1．道路からの徒歩区間に要する時間である。

表３　傾斜補正係数

| 傾斜角 | 0～15度 | 16～30度 | 31度以上 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 補正係数 | 0.9 | 1.0 | 1.1 | |

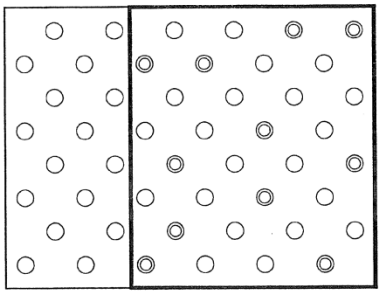
つる切りを実施する区域は下図を参考に決定すること。

（例１）



全体を区域とし、疎密を決定する。

（例２）



太線部分を区域とし疎密を決定する。

○：つるが巻きつかない造林木
◎：つるが巻きついた造林木

３．単価表

1)つる切り 1ha 当り単価表

| 名　称 | 規　格 | 単　位 | 数　量 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 普通作業員 | | 人 | | 式－１ |
| 諸雑費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

## ５－12　枝落し

１．適用範囲

本資料は、保安林機能を強化するために枯枝葉等を除去する作業に適用する。（経済性を高めることを目的としたものを除く）

２．施工歩掛

1）枝落し歩掛

枝落し歩掛（1ha 当り）　＝　標準工程（表１）　×　所要時間補正係数（表２）
×　傾斜補正係数（表３）・・・・・式－１

（注）1．作業職種は普通作業員とする。
2．対象令級の標準的目安はⅢ令級以上とする。

表１　標準工程　（人／ha 当り）

| 枝落し高（地上からの高さ） | 普通作業員 | 摘　　要 |
|---|---|---|
| 3.0m以下 | 13 人 | 1 回目 |
| 3.0mを超え～4.5m以下 | 14 人 | 2 回目 |

表２　所要時間補正係数

| 片 道 所 要 時 間 | 0～20 分 | 21～40 分 | 41～60 分 | 61 分以上 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 補正係数 | 1.00 | 1.03 | 1.07 | 1.12 | |

（注）1．道路からの徒歩区間に要する時間である。

表３　傾斜補正係数

| 傾　　斜　　角 | 0～15 度 | 16～30 度 | 31 度以上 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 補　正　係　数 | 0.9 | 1.0 | 1.1 | |

３．単価表

1)枝落し 1ha 当り単価表

| 名　　称 | 規　　格 | 単　位 | 数　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 普　通　作　業　員 | | 人 | | 式－１ |
| 諸　　雑　　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

## ５－13　雪おこし

１．適用範囲

本資料は、雪圧による倒伏木の倒木起し作業に適用する。

２．施工歩掛

1）雪おこし歩掛

雪おこし歩掛（100 本当り）　＝　標準工程（表１）　×　所要時間補正係数（表２）

×　傾斜補正係数（表３）・・・・・式－１

（注）1．作業職種は普通作業員とする。

2．対象令級の標準的目安はⅡ令級以上とする。

表１　標準工程　（100 本当り）

| 樹　　高 | 単　位 | 普通作業員 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|
| 2m以下 | 人 | 0.35 | |
| 2mを超え 3m以下 | 〃 | 0.44 | |
| 3mを超え 4m以下 | 〃 | 0.52 | |
| 4mを超え 5m以下 | 〃 | 0.60 | |

表２　所要時間補正係数

| 片 道 所 要 時 間 | 0～20 分 | 21～40 分 | 41～60 分 | 61 分以上 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 補 正 係 数 | 1.00 | 1.03 | 1.07 | 1.12 | |

（注）1．道路からの徒歩区間に要する時間である。

表３　傾斜補正係数

| 傾　　斜　　角 | 0～15 度 | 16～30 度 | 31 度以上 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 補　正　係　数 | 0.9 | 1.0 | 1.1 | |

2）雪おこし材料

表４　雪おこし材料（山林麻縄）

| 樹　　高 | 縄　　規　　格 | 単　位 | 1 本当り縄長 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 2m以下 | 72 番 2 本より 490m／巻 | m | 3.0 | |
| 2mを超え 3m以下 | 140 番 2 本より 250m／巻 | 〃 | 3.5 | |
| 3mを超え 4m以下 | 72 番 4 本より 250m／巻 | 〃 | 3.5 | |
| 4mを超え 5m以下 | 72 番 6 本より 160m／巻 | 〃 | 4.0 | |

３．単価表

1)雪おこし 100 本当り単価表

| 名　　称 | 規　　格 | 単　位 | 数　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 普　通　作　業　員 | | 人 | | 式－1 |
| 山　林　麻　縄 | | 100m | | 表４ |
| 諸　　雑　　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

# 第 17 章　海岸林造成

## ［1］ 適用基準

治山林道必携　積算･施工編　4森林整備保全事業標準歩掛

第2編　治山　第6　海岸林造成

６－１ （参考歩掛）生育基盤盛土工

６－２ 海岸植栽

６－３ （参考歩掛）下刈

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

治山林道必携　積算･施工編　4森林整備保全事業標準歩掛

第2編　治山　第6　海岸林造成

６－２ 海岸植栽 （1）砂地造林歩掛

以下を追記する。

１．適用範囲

・治山事業における海岸防災林、防災林造成に適用する。

以下を読み替える。

２．歩掛

歩掛表は１００本当たりを１０，０００本当たりとし単位は ha を標準とする。

備考　２　客土、施肥歩掛については５－１－５客土歩掛、５－１－７施肥歩掛を準用する。
施肥材料は下記を標準とする。

表１　施肥材料　（1 本当り）

| 名　　称 | 規　　格 | 数量 | 単位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 固　形　肥　料 | 20－10－10 | 100 | g | (1,000 kg／ha) |
| わ　　ら | | 300 | 〃 | (3ｔ／ha) |

備考　３　苗木種類　植栽本数については以下のとおりとする。

表２　苗木種類

| 一般苗木 | 肥料木 |
|---|---|
| クロマツ（抵抗性） | ヤシャブシ　L=30 ㎝ |

表３　植栽本数　（1ha 当り）

| 肥料木割合 | 50% | 40% | 30% | 20% | 10% | 0% |
|---|---|---|---|---|---|---|
| クロマツ本数（本） | 5,000 | 6,000 | 7,000 | 8,000 | 9,000 | 10,000 |
| 肥料木本数（本） | 5,000 | 4,000 | 3,000 | 2,000 | 1,000 | 0 |

表４　苗木体積換算（参考）

| 肥料木割合 | 50% | 40% | 30% | 20% | 10% | 0% |
|---|---|---|---|---|---|---|
| クロマツ本数（本） | 1.39 | 1.67 | 1.94 | 2.22 | 2.50 | 2.78 |
| 肥料木本数（本） | 0.79 | 0.63 | 0.48 | 0.32 | 0.16 | 0 |

３．単価表

1)　植栽工（砂地造成）1.0ha 当り単価表

| 名　　称 | 規　　格 | 単　位 | 数　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 苗木（ク　ロ　マツ） | 抵抗性 | 本 | | 表２、表３ |
| 苗木（ヤシャブシ） | | 〃 | | 〃 |
| 普　通　作　業　員 | | 人 | 47.0 | （植穴堀付） |
| 〃 | | 〃 | 17.0 | （植付） |
| | | | | |
| 諸　　雑　　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

# 第 18 章　舗装工

［1］ 適用基準

治山林道必携　積算・施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第3編　林道　第1　舗装工

１－１　砂利路盤工（人力）　～　１－２　砂利路盤工（機械）

１－３　コンクリート路面工

１－４　（参考歩掛）セメント安定処理工

［2］ 運用基準

な し

［3］ 独自基準

な し

# 第 19 章　道路付属施設

## ［1］ 適用基準

なし

（治山林道必携　積算・施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛第3編　林道

第2　道路附属施設は適用しない。）

## ［2］ 運用基準

なし

## ［3］ 独自基準

治山林道必携　積算・施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第3編　林道　第2　道路付属施設

### 2－1　道路付属施設工

#### 2－1－2　ガードケーブル設置工

「建設工事積算基準第Ⅳ編道路第 2 章付属施設①防護柵設置工①－1 ガードケーブル設置工」による。

#### 2－1－3　ガードレール設置工歩掛

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第 2 章市場単価③防護柵設置工③－1 防護柵設置工（ガードレール）」が適用できない場合に適用する。

#### 2－1－4　標識設置工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第 2 章市場単価⑧道路標識設置工」が適用できない場合に適用する。

#### 2－1－5　片持式（ｵｰﾊﾞｰﾊﾝｸﾞ式）[F 型、逆 L 型、T 型、ﾃｰﾊﾟｰﾎﾞｰﾙ型]の設置

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第 2 章市場単価⑧道路標識設置工」が適用できない場合に適用する。

#### 2－1－6　視線誘導標

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第 2 章市場単価⑨道路付属物設置工」が適用できない場合に適用する。

## 2－1－7 境界杭設置(撤去)歩掛

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第２章市場単価⑨道路付属物設置工」が適用出来ない場合に適用する。

## 2－1－8 距離標設置(撤去)歩掛

「建設工事積算基準第Ⅳ編道路第２章付属施設⑨道路付属物設置工」による。

## 2－1－9 区画線工

「建設工事積算基準第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価等第１章土木工事標準単価①区画線工」が適用出来ない場合に適用する。

## 2－1－10 ガードレール基礎工(コンクリート擁壁)

１．適用範囲

本資料は、コンクリート擁壁におけるガードレール基礎に適用する。

２．材料使用数量

表１　材料使用量の補正係数　　(10m当たり)

| 名称 | 単位 | 数量 |
|---|---|---|
| 補強鉄筋 | t | 0.015 |
| 型枠用丸型紙管 | 本 | 0.5 |

備考　１．コンクリート量及び型枠量については本体に含む。
ただしガードレール基礎部分のコンクリート量
(10m当たり 0.0628 ㎥) を本体設計数量より控除し積算すること。
２.充填材（ブロンアスファルト、砂）については、市場単価（ガードレール設置工）に含まれているため計上しない。

３．単価表

1) ガードレール基礎工（コンクリート擁壁）10m当たり単価表

| 名　　称 | 規格 | 単　位 | 数　　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 補　強　鉄　筋 | | t | | 表１ |
| 型枠用丸型紙管 | | 本 | | 〃 |
| 諸　　雑　　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

## 2－1－11 ガードレール基礎工(ブロック積み擁壁)

１．適用範囲

本資料は、ブロック積擁壁おけるガードレール基礎に適用する。

２．材料使用数量

表１材料使用量の補正係数　　(10m当たり)

| 法勾配 | 0.30 | 0.35 | 0.40 | 0.50 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 生コンクリート（㎥） | 2.32 | 2.39 | 2.45 | 2.57 | 18－8－40 |
| 型枠（㎡） | 10.22 | 10.30 | 10.39 | 10.59 | 小型構造物 |
| 目地材（㎡）参考 | 0.24 | 0.24 | 0.25 | 0.26 | |
| 補強鉄筋（ｔ） | 0.015 | | | | |
| 型枠用丸型紙管（本） | 0.5 | | | | |

備考

１.目地材については、必要に応じて別途計上する。

２.充填材（ブロンアスファルト、砂）については、市場単価（ガードレール設置工）に含まれているため計上しない。

3．単価表

1）ガードレール基礎工（ブロック積擁壁）10m当たり単価表

| 名　　称 | 規格 | 単　位 | 数　　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 生コンクリート打設 | 小型構造物 18－8－40 | ㎥ | | 表１ |
| 型　　枠 | 小型構造物 | ㎡ | | 〃 |
| 補 強 鉄 筋 | | t | | 〃 |
| 型枠用丸型紙管 | | 本 | | 〃 |
| 目　地　材 | 必要に応じて | ㎡ | | 必要に応じて |
| 諸　雑　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

## 2－1－12 木柵工（林道）

1．適用範囲

本資料は、道路工の盛土尻に設置する木柵に適用する。

2．施工歩掛

1）木柵工施工歩掛　　（10m当り）

| 名　　称 | 形 状 寸 法 | 単位 | 数　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 普 通 作 業 員 | | 人 | 0.40 | 組立て、緊結、仕上げ |
| 〃 | | 〃 | 0.60 | 杭打ち 0.06 人／本×10 本 |

2）木柵工材料　　（10m当り）

| 名　　称 | 形 状 寸 法 | 単位 | 数　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 杭　　木 | 末口径 11 ㎝程度　Ｌ＝1.5ｍ | 本 | 10.0 | |
| 背　丸　太 | 末口径 9 ㎝程度　Ｌ＝3.0ｍ | 〃 | 15.0 | |
| 鉄　　線 | ＃12～＃18 | kg | 2.3 | |

3．単価表

1）木柵工 10m当り単価表

| 名　　称 | 規格 | 単　位 | 数　　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 普通作業員 | | 人 | | １）木柵工施工歩掛 |
| 杭　　木 | 末口径 11 ㎝程度　Ｌ＝1.5m | 本 | 10 | ２）木柵工材料 |
| 背　丸　太 | 末口径 9 ㎝程度　Ｌ＝3.0m | 〃 | 15 | 〃 |
| 鉄　　線 | ＃12～＃18 | kg | 2.3 | 〃 |
| 諸　雑　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

## 2－1－13 間伐パネル設置工（切土法面）

1．適用範囲

本資料は、切土法面に設置する間伐パネル（500×1,500×100）の施工に適用する。

2．施工歩掛

本歩掛は間伐パネルの据え付け、調整、アンカーピン打込みの各作業からなるものとする。

1）間伐パネル設置工歩掛　　（２０枚当り）

| 名　　称 | 単　位 | 数　　量 | |
|---|---|---|---|
| | | 直線部 | 曲線部 |
| 普 通 作 業 員 | 人 | 0.42 | 0.51 |

（注）１．本歩掛には小運搬（20m程度）を含む。

２．曲線部は設置箇所での曲線半径がＲ＝20m未満の箇所に適用する。

2）間伐パネル設置工材料　　（20 枚当り）

| 名　　称 | 規　　格 | 単　位 | 数　量 |
|---|---|---|---|
| 間伐パネル | 500×1,500×100 | 枚 | 20 |
| アンカーピン | φ16×400 ㎜ | 本 | 40 |

3．単価表

1）間伐パネル設置工 20 枚当り単価表

| 名　　称 | 規格 | 単　位 | 数　　量 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 普 通 作 業 員 | | 人 | | 1)間伐材パネル設置工歩掛 |
| 間 伐 パ ネ ル | 500×1,500×100 | 枚 | 20 | 2)間伐パネル設置工材料 |
| ア ン カ ー ピ ン | φ16×400 ㎜ | 本 | 40 | 〃 |
| 諸　雑　費 | | 式 | 1 | |
| 計 | | | | |

# 第 20 章　橋梁工

## ［1］ 適用基準

な し

（治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛第3編　林道

第3　橋梁工は適用しない。）

## ［2］ 運用基準

な し

## ［3］ 独自基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第3編　林道　第3　橋梁工

3－1　鋼橋製作工～3－6プレキャストセグメント主桁組立工

「建設工事積算基準第Ⅳ編道路第７章橋梁工」が適用できない場合に適用する。

# 第 21 章　道路維持修繕

## [1]適用基準

な し

（治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛第3編　林道

第4　道路維持修繕は適用しない。）

## [2]運用基準

な し

## [3]独自基準

治山林道必携　積算･施工編　上巻　4森林整備保全事業標準歩掛

第3編　林道　第4　道路維持修繕

4－1　切削オーバレイ工　～　4－7　欠損部補修工

「建設工事積算基準第Ⅳ編道路第３章道路維持修繕工」による。